設置の趣旨等を記載した書類

１．　設置の趣旨及び必要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

２．　学部・学科等の特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

３．　学部・学科等の名称及び学位の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

４．　教育課程の編成の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

５．　教育方法、履修指導方法及び卒業要件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

６．　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で
　　履修させる場合の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

７．　編入学定員を設定する場合の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

８．　通信教育を実施する場合の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

９．　取得可能な資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３

１０．入学者選抜の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３

１１．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・　５７

１２．研究の実施についての考え方、体制、取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・　６０

１３．施設、設備等の整備計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６２

１４．管理運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４

１５．自己点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６６

１６．情報の公表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６７

１７．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　・・・・・・・・・・・・・・　６９

１８．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　・・・・・・・・・・・・・・・　７２

１．設置の趣旨及び必要性

１）大学の沿革

本学は起業または企業内新企画を実現し、かつ、その事業を発展させるにふさわしい高い能力と識見と専門性を備えた事業創造実践家の育成を目指し、「事業創造大学院大学においては、わが国が直面する課題を広く認識するとともに来るべき時代の潮流を把握しつつ創造的な経済・産業活動に取り組む人材を育成します。」という理念の下、専門職大学院として 2006 年に設立された。

これまで、事業創造大学院大学においては、高度で専門的な職業能力をもった実務家の養成を目的とする専門職大学院として、理念を踏まえ人材を育成し、地域社会を中心に、真に活力あるわが国の経済発展に貢献してきた。

２）情報デザイン学部（通信教育課程）を設置する社会的背景、要請

昨今の経済・産業活動においては、IT とビジネスが密接に関連しており、IT や情報ツールの活用によって、ビジネス戦略をより効果的に実現することが可能となっている他、ビジネスの様々な場面において先端の IT を駆使した事業の高度化、最適化が図られている。

IT（Information Technology）とは、コンピュータやネットワーク技術を活用し、情報の処理、通信、管理を行う技術分野を指す。これらの技術を活用することで、新たな価値や効率的なサービスを創出することができる。

この情報技術については、2001 年に開設された IT 戦略本部が、同年 1 月に策定した e-Japan 戦略の中で、「情報技術の積極的活用による世界最先端の IT 国家」という目標を掲げており、第 1 期から 4 期までに様々な取り組みがなされている。そして、第 4 期（2018 年）においては、その目標が社会のデジタル化の進展を踏まえて「世界最先端の『デジタル国家』の創造」に改正され、現在は、この目標に向けて、経済産業省を中心にデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）への取り組みがなされている。【資料 1】「令和 3 年度版情報通信白書（第 1 部序章）〈抜粋〉」

DX は、2004 年にスウェーデンにあるウメオ大学の教授であったエリック・ストルターマン氏が発表した論文の中で「IT の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」と定義したことが、その始まりであるとされているが、現在はこの概念が、日常生活のみならず、経済・産業界やビジネスシーンにおいても広く浸透し、IT を活用した新たな価値創造に向けた取り組みが、「世界最先端の『デジタル国家』の創造」に向けた一つの柱となっている。

さらには、「世界最先端の『デジタル国家の創造』に向けて、内閣府より「Society 5.0」の実現が示され「フィジカル空間のセンサーからの膨大な情報がサイバー空間に集積されます。サイバー空間では、このビッグデータを人工知能（AI）が解析し、その解析結果がフィジカル空間の人間に様々な形でフィードバックされます。今までの情報社会では、人間が情報を解析することで価値が生まれてきました。Society 5.0 では、膨大なビッグ

データを人間の能力を超えた AI が解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることになります。」というイノベーションによる新たな価値が創造される社会が求められている。【資料 2】『内閣府の政策「Society 5.0 とは」』

このように、これからの日本社会において情報技術を活用して新たな価値創造ができる人材が求められている一方、情報技術に関連する人材育成に関しては、「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（報告書概要）〈経済産業省、2016 年（平成 28 年）6 月〉【資料 3】において、 IT 人材（IT 企業及びユーザー企業情報システム部門に所属する人材）は 2015 年で約 17 万人、その 15 年後である 2030 年には最大で約 79 万人が不足すると予測されており、人材の確保が急務となっている。また、2020 年に独立行政法人情報処理推進機構より発刊された「IT 人材白書 2020」【資料 4】においては、企業規模や業種を問わず、すべての企業においてデジタル化の推進は喫緊の課題であるとの報告がなされており、迅速かつ抜本的な対応が求められているとともに、この課題解決を企業独自の活動のみで行うことは困難であるとの報告がなされている。更には、経済産業省委託事業として 2019 年 3 月にみずほ情報総研より報告された「IT 人材需給に関する調査」において、AI（Artificial Intelligence：人工知能）やビッグデータを使いこなし、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材の確保が重要であるとの報告がなされている。【資料 5】「IT 人材需給に関する調査」

上記の通り、これから求められる IT 人材は、システムの運用や保守を行う従来型の人材ではなく、AI やビッグデータを使いこなし、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や課題解決、革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材である。また、昨今「Volatility：変動性」「Uncertainty：不確実性」「Complexity：複雑性」「Ambiguity：曖昧性」の頭文字をとった VUCA という言葉が様々な場面で用いられているように、これからの社会において、IT や AI などの技術革新のほか、政治不安やテロ、自然災害、コロナウイルスの流行等、様々な事象が起こり、ますます速いスピードで変化し、将来の予測が困難な状況となることを鑑みると、IT 人材はこれらのあらゆる要素が不確定・不確実化する社会において、常に変化に対応し、新しい課題解決や新しい付加価値の創造を担うことが求められている。

経済産業省では、このような社会的要請の中、ビジネスパーソン個人に向けた DX に関する学習指針や、DX を推進する企業が人材を確保・育成するうえでの指針をまとめた文書として「デジタルスキル標準」を策定し、ビジネスパーソン全体が DX に関する基礎的な知識やスキル・マインドを身につけるための指針である「DX リテラシー標準」と、DX を推進する人材の役割や修得すべきスキルなどを定義した「デジタルスキル標準 ver.1.1」【資料 6】を公表しており、この中で、新たな価値を生み出す基礎としてのマインド・スタンスとして「デザイン思考」を挙げている。この「デザイン思考」とは、変化するニー

ズを課題に落とし込み、そこから生まれたアイデアをもとにプロトタイプを作成し、顧客やユーザーにテストを行いながらブラッシュアップしていく思考のフレームワークであるが、この「デザイン思考」を通じた、新しい課題解決や新しい価値創造は、これからの情報技術者にとって必要不可欠なプロセス、スキルである。経済産業省より 2018 年（平成 30 年）9 月に公表された日本の将来の DX の必要性と課題と対応策がまとめられた「DX レポート」【資料 7 】においても、DX の実行が可能なベンダー企業に求められる人材像として「ユーザー起点でデザイン思考を活用し、UX（ユーザーエクスペリエンス）を設計し、要求としてまとめあげる人材」が挙げられていることからも「デザイン思考」が求められていることが認識できる。

更には、ビジネス活動においても、クラウド、ビッグデータ、AI、IoT を始めとする情報技術が用いられている。企業内における働き方改革や業務効率化、B to C ビジネスにおける顧客との接点の増加や顧客体験の提供に関する様々な試み、B to B ビジネスにおけるデジタルマーケティングの積極的な活用や営業活動のサポート等、情報技術は、ビジネス活動における新しい課題解決や新しい価値創造に必要不可欠な要素となっている。

3）情報デザイン学部（通信教育課程）を設置する意義

現在、新潟の地を含む地域社会においては、人口減少と高齢化が依然として深刻な課題となっており、この課題が地域経済を縮小させ、さらなる人口減少につながる悪循環に陥っている。本学はこれまで、このような課題を認識しながら、輩出する起業家、企業内起業家によって創出される新事業での雇用の拡大を通じ、新潟の地を中心とする地域社会の発展に貢献してきた。通信教育課程の情報デザイン学部の設置は、通信教育課程の特色である「時間的・空間的に制約のない学び」によって、地方に居ながら学べる教育機会の提供が可能であり、学びによって得る IT 知識・スキルを様々な課題解決や生産性向上、創造的な業務の取り組み等に活用することによって、地域社会を中心に、真に活力あるわが国経済の発展に貢献可能となる。

また、現在、東京 23 区内の大学定員規制の中、内閣府と文部科学省において検討され施行された理学・工学分野の情報系学部・学科に限定して定員増を可能にする命令の一部改正については、導入する大学の条件として地方での就職支援が条件にあるものの、今後施行された場合は、人材の地方からの流出に一定のリスクが生じる。このようなリスクに対して、通信教育課程の設置は、通信教育課程の優位性である時間や場所に制約されないことや、自分のペースで学習可能な利点を活かすことにより、経済的に東京 23 区内の大学に進学困難な地方在住者や地方在住社会人が、地方に居ながら学修が可能となり、人材の地方からの流出リスクの抑制に対して一定の効果をもたらすことが期待される。

更には、現在、新潟市が街づくりの一環として推進する『都心のまちづくり【「にいがた 2km」の覚醒】』【資料 8 】の取り組みと本学部の親和性は高く、新潟市の中心地に本学部を開設することに大きな意義があるものと捉えている。『都心のまちづくり【「にいがた

2km」の覚醒】』とは、新潟県外の IT 系企業を新潟市へ誘致し、新潟駅から 2 キロのエリアを再開発することで、新潟市街地を IT 系企業集積地として生まれ変わらせることを目的とした取り組みであるが、IT 系企業集積地の近隣に本学部が開設されることにより、地域経済の発展、教育の質向上、研究とイノベーションの促進に寄与し、新潟の地域社会に多くの利益をもたらすことが期待される。具体的には、本学部教員が IT 企業と密接に連携することで実務経験やプロジェクトの機会が創出されること、また、先進的な IT 企業の取り組みに迅速に対応し研究を推進する場として重要な役割を担うことが期待されること、その他本学部と IT 企業の協力による地域社会の課題解決等、地域社会発展への寄与が期待されることが挙げられる。

以上を踏まえ、新潟の地に工学分野の情報学を専門とする大学の通信教育課程を設置することに意義があると考える。

4）情報デザイン学部（通信教育課程）の必要性、設置の趣旨

前述の通り、現在の日本における高度デジタル・IT 人材の不足は顕著であり、その人材確保は急務となっている。特に地方における高度デジタル・IT 人材不足は今後、更なる拡がりが予想される。このような状況下の中、本学部と同じ高度デジタル・IT 人材の養成を目的とする他の通信教育課程の大学では、定員に対する大幅な在籍者の超過が生じている。通信教育課程による本学部の設置はこの受け皿となり、教育機会の拡大に寄与できる。これにより、地方における高度デジタル・IT 人材の供給に大きく貢献できると考えられ、通信教育課程大学設置の必要性は高い。【資料 9】「大学通信教育課程収容定員超過率」

また、大学教育の在り方については、大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について－2000 年（平成 12 年）11 月 22 日－」【資料 10】においては、インターネット等の情報通信技術の大学教育における活用の在り方について、「衛星通信やインターネット等の情報通信技術を大学教育において活用することは、教育内容を豊かにし、教育機会の提供方法を変え、大学教育への一層のアクセス拡大に資するものであり、新しい社会的価値観の健全な創出に重要な役割を果たすものである」としている。なかでも、同答申の中においては「高度な情報通信技術を大学教育において積極的に活用して、大学教育の内容や方法を高度化するとともに、国民に対し学習機会をより広く提供することにより人々の生涯学習ニーズに適切にこたえ、さらに、国境を越えて知的資源を発信することにより知的国際貢献を果たしていくことは、大学における教育研究活動を革新していく上で重要なことと考える」ということからも、通信教育課程大学設置の必要性は高い。

更には、経済産業省が企業経営者に求められる企業価値向上に向け実践すべき事柄をまとめた「デジタルガバナンス・コード 2.0」（経済産業省 2022 年 9 月 13 日改訂）【資料 11】においては、持続的な企業価値の向上を図っていくために必要な指針が明示されてお

り、この中で、今後、あらゆる要素がデジタル化され、グローバルな競争が激化していく時代の変化の中では、IT システムとビジネスを一体的に捉え、新たな価値創造に向けた戦略を描いていくことや、デジタルの力による効率化・省力化を目指した IT による既存ビジネスの改善にとどまらず、新たな収益につながる既存ビジネスの付加価値向上や新規デジタルビジネスの創出に振り向ける必要性があることが述べられていることから、大学における通信教育課程設置の必要性は高い。

このような本学を取り巻く社会情勢の変化や社会からの要請、そして、高度デジタル人材の地方からの流出リスクの抑制、地方における高度デジタル・IT 人材の確保の必要性等を踏まえて、学ぶロケーションや時間の制約がない環境における情報学分野での新しい価値を創造できる情報技術者の養成を目的とした、通信教育課程の情報デザイン学部を設置することが趣旨となる。

これを踏まえながら本学部においては、まずは社会人を主軸に受け入れていく計画であるが、この情報学分野の学修に対するニーズは、高校卒業者、社会人どちらであっても同様に存在し得るものと捉えている。したがって、段階的に高校卒業者の割合を増やしていくことで、上記の地域社会が抱える課題解決や地域社会の発展にさらに大きく貢献できると考えている。

なお、今回の事業創造大学院大学における情報デザイン学部の設置認可後は、大学名称を開志創造大学に変更することとしており、「高い志を開花させる」ことを通じて「創造的な経済・産業活動に取り組む人材を育成する」という教育理念を大学名称に込めた。

5）教育研究上の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

① 教育研究上の目的と研究対象とする学問分野

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）では、教育研究対象とする主たる学問分野を社会への応用を目指す工学分野における情報学とする。情報は、情報学の定義より「情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問」（大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 情報学分野 日本学術会議 2016）とする。

本学部における「デザイン」とは、情報技術を基盤とする現代社会の中で、人間や社会との関係を再構築し、仕組みやサービス、体験を具体的に構想・提案する創造的なプロセスである。

この考え方に基づき本学部では、「デザイン」を以下の三つの観点から位置づけている。

ア. 問題を発見し、解決の工程を設計する観点

デザインとは社会や生活に内在する課題を発見し、それに対して情報技術を活用しながら具体的な構造や運用の在り方を意図的に構築する行為である。

イ． 価値ある体験を構成する観点

デザインとは利用者の行動や認知そして感性に配慮し、その視点を踏まえたうえで新たな価値や意味ある体験を構築する試みである。

ウ． 多様な知見を統合し、複雑な課題に対応する観点

デザインとは多様な領域にわたる知見を結びつけ、複雑な問題に対して柔軟かつ総合的に対応する手法である。

このような「デザイン」の考えに基づき、「情報デザイン」は、情報を収集・分析・構造化し、情報技術を活用して、デザイン思考をはじめとする方法により、仕組みやサービス、体験を創出するための体系的な「デザイン」の実践を意味する。

② 養成する人材及び学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の相関

（養成する人材像）

本学部では、情報社会の基盤となる情報技術およびビジネスの知識とスキルを持ち、情報倫理および情報技術が社会に与える影響を理解し、また、「デザイン」による課題解決と価値創造を実践する力、他者と協働する力、自らの志に基づいて学び続ける姿勢を備え、変化の激しい社会で持続的に成長し貢献できる人材を養成する。

具体的には、データサイエンスや生成 AI などの情報技術の基礎的な知識と活用スキルを身につけ、情報技術を活用して、社会・組織・個人が直面する課題を多角的に捉え、課題解決や価値創造につなげることのできる実践課題対応型の情報活用人材（例：情報技術者、データアナリスト、技術リーダー、DX 推進担当者など)。また、情報技術を活用して、業務・サービス・コミュニケーションの改善・設計を行い、多様な視点を踏まえ、現場の課題を解決し、価値創造に貢献し、協調・リーダーシップを発揮できる応用設計志向型の情報活用人材。(例：サービス・デザイナー、ビジネスアーキテクト、UX デザイナー、業務改革担当者など)。このような人材の養成を目指す。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー)】

A 情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識･技能）

B 情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

C 情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

D 地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー)】

本学部では、上記 A～D の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、以下の通り、それぞれと紐づいた教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を策定する。

「(DP) A 情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能)」との関連

Ａ－１　情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する

Ａ－２　実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する

Ａ－３　情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する

「(DP) B 情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能)」との関連

Ｂ－１　ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する

Ｂ－２　情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する

「(DP) C 情報技術を活用し、課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現)」との関連

Ｃ－１　「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する

Ｃ－２　プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する

Ｃ－３　情報技術を多様な機会に応用するための知識・方法論を身につける科目を配置する

「(DP) D 地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性)」との関連

Ｄ－１　地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

Ｄ－２　自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー)】

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）では、人材養成の目的を達成するた

め、学生に学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として、「情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている」と「情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている」「情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている」を掲げ、この学位授与の方針を達成するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を設定した。

これらの方針を踏まえ、情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）における入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）は、「本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人」とし、学部教育を受けるために必要となる基礎的な学力として、「大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有している人」を受け入れることとする。

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている」を掲げていることと、本学でのオンラインでの学修に適応可能となる基本的な表現力を有している必要があることから「本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人」と「自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人」を受け入れることとする。

２．学部・学科等の特色

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）では、教育研究対象とする主たる学問分野を社会への応用を目指す工学分野における情報学とし、情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる人材を育成することを教育研究上の目的としている。

また、情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）では、養成する人材像を「情報技術を活用して、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている」として、具体的には、情報技術者、技術リーダー、マネージャーとして、「データサイエンスや生成 AI 等の情報技術を活用することによる問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって組織において協調・リーダーシップを発揮できる人材」や、サービス・デザイナー、ビジネスアーキテクトとして、「情報技術の知識とスキルを応用することによりビジネスの課題解決や価値創造ができる、多角的な視点をもって協調・リーダーシップを発揮できる人材」の養成を目指す。

このような人材は、IT 人材として我が国の IT 産業の産業競争力強化のほか、企業等における高度な IT 利活用、デジタルビジネスの進展等を担い、特に AI（Artificial Intelligence：人工知能）やビッグデータを使いこなし、第４次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、新しい付加価値の創出や課題の解決、革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材になることが期待される。

このことから、情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、情報学分野における教育・研究を通して、幅広い職業人養成の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。具体的な特色は以下の通りである。

1）実践的な教育課程の編成

情報の基本的な知識と情報技術を基礎力から応用力まで身につけることができるように「専門教育科目」において、情報・工学系科目を段階的・体系的に学修が可能となる教育課程を編成した。また、社会が求める人材が情報学とその周辺領域としての情報社会や経営に関する広い知識を備えた人材であることを踏まえ、身につけた情報の基本的な知識と情報技術をビジネスの課題に対して活用できるように、「専門教育科目」にビジネス系科目を配置し、情報活用の場となるビジネスに関する知識などが学修可能となる教育課程を編成する。

2）情報技術の中心となる DX 活用実践技術、データサイエンスや生成 AI に関する科目を主要授業科目として設定し、教育組織を編制

情報社会における課題解決能力養成のため、「DX プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「データサイエンス入門」や「生成 AI 活用」などを中心に主要授業科目を設定した。また、2023 年 5 月に AI 戦略会議において取りまとめられた「AI に関する暫定的な論点整理」において示された AI 利活用の課題を踏まえ、AI 利活用を通じて経済社会を前向きに変えるために必要な知識とスキルを学修する。このような AI 利活用に関する主要授業科目に対して、実践的な教育が可能な教育組織を編制する。

3）通信教育による優位性

通信教育は、ロケーションや時間の制約がない学修環境を構築することができる。通学の必要がなく、学修時間の設定も学生自身の都合やニーズに合わせて個別最適化できることが最大のメリットであり、多様な学生を受け入れ可能である。学生は通信教育の優位性である効率・利便を享受しながら、自律的に学修を計画、進行できる。

4）グループワークを取り入れた授業により創造力を養成

講義形式による授業に加えて講義により修得した知識を応用し展開するため演習形式の授業を配置する。この演習授業では、通信教育の特性を活かしたテキストディスカッションを中心としたグループ討議を多様な背景をもつ学生同士で行い、新たな視点や考え方の発見、意見交換等を通じて創造力を養成する。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）では、情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている人材を育成することを教育研究上の目的とする。

本学部・本学科の名称である「情報デザイン」とは、情報を活用して、デザイン思考を中心とした実践的手法を通じて課題を解決し、価値を創造する営みを意味する。

以下に、「情報」と「デザイン」について順に説明する。

まず、「情報」についてである。本学部では情報学について、「情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問」（大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 情報学分野 日本学術会議 2016）と捉えている。

次に、本学部における「デザイン」とは、情報技術を基盤とする現代社会の中で、人間や社会との関係を再構築し、仕組みやサービス、体験を具体的に構想・提案する創造的なプロセスである。この実践は、デザイン思考の考え方に基づいており、課題の発見、情報の整理、解決策の構想、試行と評価といったプロセスを通じて行われるものである。

現代社会は情報技術によって支えられており、また、近年では DX 推進への動きも活発化している。こうした社会においては、情報技術を活用し、人間や社会との関係を捉え直しながら、仕組みやサービス、体験を構想・提案する価値創造の実践が重要となる。以上を踏まえ、本学部における「情報デザイン」とは、情報を収集・分析・構造化し、情報技術を活用して、デザイン思考をはじめとする方法により、仕組みやサービス、体験を創出するための体系的な「デザイン」の実践を意味する。

本学部では、「情報」と「デザイン」をこのように考えており、ここから教育研究上の目的を「情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、情報社会における課題解決と価値創造ができる人材を育成すること」と設定した。このように「情報デザイン」の「情報」が、情報学の定義にも適合することから「学士（情報学）」とすることとした。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

１）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身につけるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のとおりとする。

「(DP) A 情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知

識・技能)」

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）A】
○A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する　→【基礎教育科目：学修基盤】【基礎教育科目：一般教養】【専門教育科目：情報・工学系】
○A-2: 実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する　→【基礎教育科目：学修基盤】【専門教育科目：情報・工学系】
○A-3: 情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する　→【基礎教育科目：一般教養】

「(DP) B 情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能)」

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）B】
○B-1: ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する　→【専門教育科目:ビジネス系】
○B-2: 情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する　→【専門教育科目：ビジネス系】

「(DP) C 情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現)」

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）C】
○C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する　→【基礎教育科目:一般教養】【専門教育科目:情報・工学系】【専門教育科目：ビジネス系】
○C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する　→【基礎教育科目：学修基盤】【専門教育科目：ビジネス系】【専門教育科目：演習系】
○C-3: 情報技術を多様な機会に応用するための知識・方法論を身につける科目を配置する　→【専門教育科目：情報・工学系】

「(DP) D 地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性)」

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）D】
○D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダー

シップを学ぶ科目を配置する　→【基礎教育科目：語学】【基礎教育科目：一般教養】【専門教育科目：ビジネス系】【専門教育科目：演習系】

○D-2: 自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する　→【基礎教育科目：学修基盤】

以上の学位授与の方針及び教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた教育課程（各授業科目）との主な関係については、教育課程を構成する授業科目の目標、内容、教育方法、評価方法を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための【資料 12】「ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表」や【資料 13】「教育課程構造図（カリキュラムマップ)、履修系統図」を示す。

なお、【資料 13】「教育課程構造図（カリキュラムマップ)、履修系統図」について、履修系統図（全体）は、履修の全体を示すものであり、煩雑さを防ぐため科目間の関係を矢印で表示していない履修系統の履修系統図（関係図①）は、情報科目以外の関連を矢印として示す図であり、関係図②は、主に情報科目系の関連する科目間の関係を矢印として表示している。

2）教育課程編成の基本的な考え方

「情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている人材を育成する」という学部の教育目的を達成するために必要な科目を開設する。

また、授業科目の開設にあたっては、経済産業省によって、デジタル時代の人材政策に関する検討会での議論を経て取りまとめられた「生成 AI 時代の DX 推進に必要な人材・スキルの考え方」に基づき策定された「デジタルスキル標準 ver.1.1」【資料 6】を踏まえて、本学部の教育目的を達成するために必要な科目を開設する。同資料においては、ビジネスパーソン一人ひとりが、よりよい職業生活を送るために必要な知識とスキル、マインド・スタンスが挙げられており、DX の背景、DX で活用されるデータ・技術、データ技術の利活用とともに、新たに価値を生み出す基礎としてのマインド・スタンスとして、顧客・ユーザーへの共感、常識に捉われない発想、反復的なアプローチ、変化への適応、コラボレーション、柔軟な意思決定、事実に基づく判断によるデザイン思考の重要性が取り上げられている。

以上を踏まえ、本学の教育課程の編成は、大分類として「基礎教育科目」と「専門教育科目」の 2 つからなる。

3）「基礎教育科目」編成の考え方

本学部の基礎教育科目の編成は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の中の主

に、地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）（DP-D）に重点を置き、次いで、情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）（DP-A）及び、情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）（DP-C）も基礎・基本を学修させるために考慮し、そのために必要な科目群によって構成する。これらの目標を達成するため、基礎教育科目は「学修基盤」、「一般教養」、「語学」の 3 つの領域から構成する。

これら 3 つの領域は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）が示す目指すべき人材像を支える基礎となると同時に、学生自身の個人的な成長と専門性の発展を促進する重要な役割を果たす。

これらの領域は、学生が社会に出て即戦力となるための基礎的なスキルと知識を提供すると同時に、将来的なキャリアパスにおいても重要な土台となることを目的とする。

以上のように、基礎教育科目の編成は、本学の教育理念とディプロマ・ポリシーに深く根ざしたものであり、学生が将来社会で成功するための強固な基盤を築くことを目的としている。

① 学修基盤

学修基盤では以下の 4 つのカリキュラム・ポリシーを受ける科目群を配置した。

A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する
A-2: 実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する
C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する
D-2: 自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する

（1）A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する

情報デザイン学部では、まず、情報デザインという分野の入り口として、基盤となる情報について学ぶ。また、日本語で論理的に書かれている情報を正確に読みこなすという基本的なスキルも必要とされる。そのための科目として、「情報入門」及び、「テクニカル・リーディング」を準備した。

(2)A-2: 実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する

2022 年 10 月の ChatGPT の登場により、現代社会では生成 AI を導入しようとす

る産業革命が進行中である。今までの IT の歴史の中でまさに大変革を我々は経験している。大学における学修においても生成 AI の影響なしには存在しえない。そのため、「生成 AI 活用」を一年生必修として位置付けた。

（3）C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する

本学部では、一連の演習系科目として、「DX プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（Digital Transformation）を用意している。様々なドメインを取り上げ、プロジェクトを計画し、遂行し、プロジェクト立案・遂行できる能力を身につけさせる。本学部は、フルオンライン学部であるという特性から、プロジェクトはテキストコミュニケーションが中心となる。そこでその準備科目として、双方向テキストベースのディスカッションのやり方の知識及び基本的なスキル、マナー等を修得・体験させる「PBL 入門」を用意した。

（4）D-2: 自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する

自らの内なる志に気づくためには、メタ認知が重要になる。そのために、自らの学びを俯瞰する力を身につける「ポートフォリオⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を置いた。

② 一般教養

一般教養においては、以下の４つのカリキュラム・ポリシーを受ける科目群を配置した。

A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する
A-3: 情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する
C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する
D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

（1）A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する

データリテラシー等の基盤となる数理的知識の修得を全学生に保証するため、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置した。また、入学者の学力的多様性に対応し、学修成果の確実な定着を図るため、リメディアル教材の提供や指導補助者による学修支援を一体的に実施するものとする。

情報技術の基礎的な知識として情報コンテンツの表現技術を学修する。例えば、人

物を３D 空間内で表現するための基礎知識として、「デジタル時代の人体表現技術」について学修する。また、ゲームなど最新の動向を知るための科目として、「デジタル時代のストーリー創りと絵コンテ技術」など、コンテンツ設計において必要なスキルを学修する。

(2) A-3: 情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する

情報ネットワーク社会では、個々人の情報に対する反応は思わぬ影響を起こすことがある。「インターネット社会論」では、そのようなネットワーク社会の特性について、学修する。

特に、情報化社会の中で、どのように情報倫理を護るかという課題は、基本的な情報リテラシーの一領域である。これについては、「情報リテラシー」、「情報化社会と情報倫理」の中で学修する。

ネットワーク社会では、個々人・グループ間の関連性・依存性が強く、デジタル化も加速度的に進んでいく特徴がある。情報技術の最前線について、いつも常に目配りできる感性を育成することも大事である。そのために、「DX 最前線」という科目を用意した。

(3) C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する

社会・組織・人間集団における課題解決を実施するためには、何が、社会・組織・人間集団に起こっているのかを、正しく把握することも重要である。

そのための手法として、人々の行動履歴の動画などに基づいた「フィールドワーク入門」や「エスノグラフィ」を学修する。

更に、人々がなぜそのような行動を起こしているのかを知るための基礎学問として「認知心理学」、および購買行動を分析する「消費者行動心理」を学修する。

これらの観察と分析を通じて、情報システムとして、どのようなデザインをおこなうべきかが決まってくる。観察力と洞察力をもって、システムのデザインを実施するために「UX デザイン」（User Experience Design）を学修する。

(4) D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

「社会学」、「国際変動論」、「科学哲学入門」などの科目により多様性理解の基本を学修する。また、歴史的な位置付けについて学ぶことで多様性の理解を促進する。そのための科目として、「美術・デザイン史」、「建築史入門」などを準備した。

さらに、「楽典と演奏入門」、「楽曲メディアコンテンツクリエイション」により、多様な価値観を創造的に捉えることのできる科目を用意した。

組織内での協業を円滑に進めるためには、フォロワーとしても、リーダーとしても、進行を観察し、議論の方向をまとめるスキルが必要となる。このように組織・グループにおける議論のコミュニケーションとリーダーシップについて学ぶ科目として、「ファシリテーション入門」を準備した。

③ 語学

語学においては、以下のカリキュラム・ポリシーを受ける科目群を配置した。

(1) D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

グローバル化する社会において不可欠な国際的なコミュニケーションスキルを強化する英語力を身につけることに重点を置く。英語リスニングでは、英語を必ずしも母国語とはしない人々の間で、国際会議やビジネスなどの場面で話される英語ヒアリング能力の向上を目指す。国・地域によって異なる様々な発音、言い回しに対応できる英語力の養成を意図している。そのための科目群として、「英語リスニングⅠ・Ⅱ」において、一年かけて、英語のリスニング力を育成する。「英語コミュニケーション」、「英語ビジネスコミュニケーション」においては、話す力を中心に学修する。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目との対応は【資料 12】「ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表」に示す。

以上の科目編成により、基礎教育科目は、学生が将来、社会の多様な領域で活躍するための重要なスキルを修得する機会を提供する。

4）「専門教育科目」編成の考え方

本学部の専門教育科目の編成は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の中の主に、情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）（DP－A)、情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）（DP－B)、情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）（DP－C)、および、地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）（DP－D）に重点を置き、そのために必要な情報・工学系、ビジネス系、演習系の 3 つの領域によって構成する。

これら 3 つの領域は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）が示す目指すべき人材像を踏まえた専門的な領域であり、学生自身が情報の知識や情報技術等の専門性を活用して、実践的な経験、挑戦的なプロジェクト、そして情報社会のビジネス等の課題

に対処するための発展的な能力の養成を目的とする。

① 情報・工学系

情報・工学系科目では、以下の 4 つのカリキュラム・ポリシーを受ける科目群を配置した。

A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する
A-2: 実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する
C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する
C-3:情報技術を多様な機会に応用するための知識･方法論を身につける科目を配置する

それぞれのカリキュラム・ポリシーを実現する具体的な科目例について以下に説明する。

（1）A-1: 情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する

情報技術では、ハードウェアの構成、ソフトウェアからオペレーティングシステム、ネットワークシステムに至る広範な科目群を準備した。

まず、ハードウェアでは、「物理学入門」、「電磁気学」、「電気回路」、「電子回路」、「デジタル回路」、「通信工学・情報理論」を学修する。

計算機の動きの仕組みについて、「コンピュータアーキテクチャⅠ・Ⅱ」でハードウェア的な構成を学び、「ソフトウェアアーキテクチャⅠ・Ⅱ」では、ソフトウェア構成を学修する。

プログラミングについては、「プログラミング基礎」から学修し、「データサイエンス入門・基礎」、「データエンジニアリング」により、データサイエンスに必要な基礎を学修する。

ソフトウェアを複数人で設計実装したり、オープンソースで公開したりする場合、読みやすく人に理解されやすいプログラムを書くことが基本的なマナーやスキルとして必要であり、そのための科目として「リーダブルコード」を配置した。

これら情報系ソフトウェア・ハードウェア科目の原理を理解するため、また、機械学習、生成 AI のメカニズム理解のため、「微分・積分Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数Ⅰ・Ⅱ」を配置した。これらの数学科目群は、ハードウェア系科目の基礎理解をも支える科目群でもある。

ソフトウェアの理論科目では、「データベース論」、「アルゴリズムとデータ構造」、「言語処理技術」、「自然言語処理入門」などソフトウェア技術の基礎的な理論科目を学修する。

データサイエンスの基本としては統計学の基礎の修得が必要であるが、これは「データサイエンスプログラミング」という科目において、統計理論と手法をプログラミングの一環として学ぶ構成を取っている。

更に、オペレーティングシステムとして、「Linux 入門」、「Linux 活用入門」を学修し、コンピュータネットワークについて学ぶ。

(2)A-2: 実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する

情報の分析と統合を行える能力を育成するための科目として、「データサイエンス発展」を学修する。

情報技術を多様な機会に応用するための方法論として、「Web デザイン」などを学修する。

時代が要請している DX 教育では、IT 教育・データサイエンス教育に加えて、ドメイン系の知識と融合した科目群の学修が求められている。DX の各ドメインと IT の接点として、「IoT デバイス入門」を準備しており、様々なドメインとの連携技術の基本を学修する。

さらに、昨今の日本国内外の動きとして、ハードウェア、特にデジタル LSI 設計のノウハウを持つ技術者が必要となってきたことから、「デジタル LSI 設計入門」、「半導体チップ製造概論」を配置した。

(3) C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する

実社会においては、DX (Digital Transformation)の推進が求められており、また、人が関わるサービスの設計・開発が実践できる人材も求められている。課題解決及び価値創造をするために、その問題の構成を理解し、明確化するための「デザイン思考」、「サービスデザイン」などの科目を配置している。

また、プロセスの理解のために、「ソフトウェア開発Ⅰ」、「ソフトウェア開発Ⅱ」など、ソフトウェア開発のプロセスを学修する科目を準備している。「システムズデザイン概論」では、宇宙開発などの大きなシステムのプロジェクトマネジメントを実施するために必要なスキルを学修する。「建築構法デザイン」では建築ドメインにおける課題解決や価値創造のプロセスについて学修する。

DX のドメインに関連する科目として、「ゲームプランとゲームシナリオのデザイン」といった科目を配置している。

(4) C-3: 情報技術を多様な機会に応用するための知識・方法論を身につける科目を配置する

対象とすべきドメインは多岐に渡り、全てをカバーしきれるものではないが、本学部として注目しているドメインの科目を幾つか配置している。例えば、「宇宙利用工学入門」、「衛星測位システム特論」、「量子情報理論入門」、「スマート農業入門」、「バイオインフォマティクス入門」、「金融工学入門」等を学修する。

② ビジネス系

ビジネス系科目は以下の５つのカリキュラム・ポリシーを受ける科目群を配置した。

B-1: ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する
B-2: 情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する
C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する
C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する
D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

それぞれのカリキュラム・ポリシーを実現する具体的な科目例について以下説明する。

(1) B-1: ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する

ビジネスの基本単位としての企業・組織の在り方を学修するために、「経営学基礎」を必修科目として配置した。将来の日本社会を見据え、大企業での勤務のみならず、アントレプレナーとして活躍する人材を想定し、アントレプレナーシップについて基本的なスキル・仕組みを学修する。

ビジネスの仕組みの基本はファイナンスに関する知識・スキルを得ることである。そのために、「会計・簿記」、「コーポレートファイナンス」、「ベンチャーファイナンス」の科目を配置した。ビジネス等への基礎的理解を支援する導入科目として、「ビジネスリテラシー」を配置した。

また、ビジネスのベースを与える知識・スキルとして重要な科目は、「マーケティング」である。現代のマーケティングではデジタルマーケティングが基本であり、その科目を準備した。ビジネスにおける品質に関しては、「品質管理」で学修する。

(2)B-2: 情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する

ビジネスにおける課題解決や価値創造のプロセスを理解し、実践するためには、ビジネス遂行時のデータ分析能力が大事なスキルとなる。そのために「ビジネスインテ

リジェンス入門・発展」の科目を配置した。

また、ビジネス上の国際競争力向上のため、知的財産に関して、「知的財産権概論」、「知的財産権実践」において学修する。

(3) C-1: 「デザイン」を通じて課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する

経産省のデジタルスキル標準において、ビジネスアーキテクトを育成することが述べられている。本学部において、ビジネスアーキテクトを育成するための科目として、「ビジネスアーキテクチャ入門・発展」を配置している。課題解決、価値創造に必要なスキルを身につけることを目標とした。

(4) C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する

プロジェクトを立案、遂行できる能力育成のために、「プロジェクトマネジメント入門・発展」を配置した。これらの科目によりプロジェクト管理の基本を学修する。

(5) D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

多様性の考え方について知るグローバルな人材を確保し、開発していくために必要な科目として「グローバル人材開発」を学修する。

また、本学部は日本全国から学生を集めることから、地域産業の育成を学ぶ「地域おこし論」を用意している。

ビジネスの 1 つの場面は、他者・他社を理解することであり、これは多様性を理解するための最初のステップとなる。このために、「交渉学概論」を用意した。

ビジネスにおいてリーダーシップを発揮することは、本学部が養成する学生像の 1 つである。そのために、「リーダーシップ入門」を学修する。

③ 演習系

演習系科目は以下の 2 つのカリキュラム・ポリシーを受ける科目群を配置した。

C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する
D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

(1) C-2: プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する

本学部は、「情報技術を活用して、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている」人材養成をねらいとする。課題解決や価値創造のプロセスは、学んだ知識・理論の活用を通じて理解され、また、実際に使えるものとして修得され

る。そのための科目として、「DX プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を設けた。これら科目では、オンライン同期型のディスカッションで適宜コミュニケーションを取りながらオンラインの双方向テキストディスカッションを中心としたグループワークを通じて、本学部で学んだ知識・スキルを活用するプロジェクトを立案、遂行する。特に「DX プロジェクトⅢ」を、本学部のすべての学びを集大成する科目として位置づけている。

(2) D-1: 地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する

演習系科目として配置した「DX プロジェクトⅠ～Ⅲ」では、現場のビジネスシーンを題材に、ビジネス現場(ドメイン)に情報デザインの知識・スキルを適用する PBL の中で、地域や多様な社会での協働に必要なスキルを使い、多様な価値観・協調・リーダーシップの力を養う。

5）特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

本学部の「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は配当年次 2～4 年の自由科目とし、希望する意欲のある学生が履修できる。各基幹教員の指導の下でプロジェクト参画や先端研究への取り組みなどを行い、学修レベルを更に高めるための機会とする。

特別研究は各基幹教員の下、意欲ある学生が特定のテーマについて深く探求する機会を提供する。特別研究では、参加学生が自らの研究テーマを追求することで、研究方法、批判的思考、問題解決能力を高めていく。

卒業論文の執筆を希望する学生は、卒業論文を書くことができる。教員の指導の下で研究テーマの選定、仮説の立案、データ収集と分析、結論の導出といった研究の基本的なステップを実践し、論理的な思考と明瞭なコミュニケーション能力をさらに鍛えることができる。

特別研究は選抜制とし、担当する基幹教員（教授が担当）の一人あたり、各学年 5 人程度とする。参加人数を 5 名程度とすることによって指導の質と指導時間量を担保する。また、教員毎に前期か後期のいずれかの時期で開講とし、担当する基幹教員の過度の負担とならないよう留意する。

特別研究の履修については、入学時に学生全員に、位置づけと選抜方法を説明する。選抜は、それまでの成績と志望動機によって行われ、複数回行うことを明示する。選抜は開講の前年度末に行う。選抜に漏れた学生へは、複数回応募する機会があることや選抜の結果について個別に説明する機会を設けるものとする。

6）10 月入学の学生に関する考え方

本学部では 4 月入学だけでなく、10 月にも若干名の学生を受け入れる。この 10 月入学

の学生は、原則として4月入学者の定員を補うものとして実施する。

本学部は1年を春学期（4月～）と秋学期（10月～）の2つに分けたセメスター制を採用するが、原則として春学期と秋学期で同じ授業科目を開講する。したがって、入学の時期に関係なく同じ履修順序で学修することが可能なため、教育課程の体系性が確保されている。また、教員負担を考慮のうえ指導補助者の配置を行う。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1）教育方法

情報デザイン学部 情報デザイン学科では全ての授業をメディア授業として実施する。このメディア授業はインターネット等による通信手段によりラーニングマネジメントシステム（以下 LMS）から非同期で配信されるオンデマンド方式の授業として、主に映像教材の視聴に基づいた授業を基本とする。この際に使用する LMS は、他大学にて使用実績がある既製品をベースに、学修効果を高めるために必要となる機能を追加したものとする。【資料 14】「LMS 機能一覧」

① 非同期メディア授業における双方向性の確保

本学部のメディア授業は原則として非同期で行う。非同期のメディア授業において必要な双方向性には、学生からの質問とそれに対する回答、ディスカッション、あらかじめ録画しておいた動画を用いたプレゼンテーション、チャットなどにより実現する。

学生からの質問については、LMS に搭載されている質問機能を用いて受け付けるが、質問を促進するために、授業回毎の質問と授業全体の質問という2種類の質問を用いる。授業回毎に質問を設置することで、授業内容に即した質問がしやすくなる。また、授業回毎に設置されているため、動画だけでなく質問内容を見返すことで復習がしやすくなる。授業全体の質問では、授業の進行方法に対する疑問などを質問することができ、全体の授業進行に役立てることができる。学生からの質問に対しては、授業担当教員及び指導補助者の見逃しを防ぐため、授業担当教員及び指導補助者の授業のトップページに、質問への書き込み数が見える機能がある。さらに、質問への投稿があった場合には、自動的に授業担当教員と指導補助者に通知する機能を設けている。これらの2つの方法により学生の質問に対して漏れなく対応できる。また、学生側の授業トップページに同様の仕組みがあり、返信についても自動的に通知する機能を設けている。

ディスカッションは、LMS の機能的にはいわゆる掲示板と同じであり、授業の課題テーマに即して授業担当教員が設けるディスカッションをさせるためのものである。授業ディスカッションでは、学生には発言や場合によっては返信が求められるため、設定された期間内に発言・返信がない場合に、授業担当教員、または、指導補助者がディスカッションへの投稿を漏れなく確認する。学生の質問に用いる質問の機能と同様である。なお、ディスカッションについては、意見をまとめるために時間がかかる場合で

も、互いの意思疎通を図るように、なるべく早い返信を促すものとする。

プレゼンテーションでは、非同期の動画プレゼンテーションを行う。ディスカッションとあわせて用いることにより、非同期双方向の授業を実現する。またそのとき、授業担当教員が定めたルーブリックをもとに学生同士がお互いの提出物に対して相互評価をさせるなどが可能である。

チャットは、個別あるいはグループにおけるやり取りを可能とする。チャットはいわゆる掲示板とは異なり、メンバー間のみでの閲覧が可能となる。個別あるいはグループでのチャットには、授業担当教員または指導補助者が必ず含まれ、問題のある発言を追跡できるようにしている。

LMS にこのような機能を設けることにより、映像教材等の学修、クイズや小テストなどによる確認だけに留まらず、学生と授業担当教員、学生同士の双方向のやりとりを確保する。

② グループワークの方法

グループワークについては、対面での経験はあっても、オンラインにおける経験が少ないと想定されるため、オンラインのグループワーク、プロジェクト学修を、段階的に修得させる仕組みを設けた。オンラインのテキストコミュニケーション、グループワーク、プロジェクト学修の基礎スキルを修得させるために科目を置いた（「PBL 入門」）。当該科目では、オンラインにおけるプロジェクト向けのディスカッションの知識等を修得させるだけでなく、その体験もさせる。具体的には、非同期の掲示板を用いたやり取りを体験させ、テキストコミュニケーションにおける情報提示の工夫や合意形成の進め方などを学ばせる。この科目を前提として、オンラインのより高度なグループワーク、プロジェクト学修を行う科目を置いた（「DX プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」）。これらの科目においては、あらかじめ決められた課題に向かって互いにコミュニケーションを取ることから始め、新しい課題を合意によって作り上げるように、段階的にプロジェクトを実施させていく。この際、当該科目授業回の初期と最終段階においてオンライン同期型ディスカッション・授業を併用し、プロジェクトの進行にあたっては、必要に応じて適宜、オンライン同期型ディスカッション・授業を併用し、対面に近い形での相互理解と協働を補完する。

このように、LMS に設けたオンライン同期型ディスカッション・授業とオンラインのテキストディスカッションを通じて、その時点までに修得した知識を用いて対象に働きかけ、何らかの結果を得ることのできる実践的な学修が可能となる。

また、掲示板への投稿状況や内容については、授業担当教員および指導補助者が随時モニタリングを行い、必要に応じて助言や介入を行う体制を整えている。これにより、通信制課程においても、計画的かつ双方向性のあるグループワークを実現する。

③ 学修の統合

非同期メディア授業に双方向性を組み込むことにより学修効果を高めるだけでなく、LMS とポートフォリオとを連携させることにより、さらに学修効果を高めていく。本学部においては、ポートフォリオの 2 大機能とされる、深い学びに資するワークプレース機能と、成果をエビデンスとともに発信するショーケース機能を活用してポートフォリオ学修を実現する。

テストを受験し、単位を取得するだけでなく、その過程で何が学べたのかを振り返ることによって学びは深化するとされる。そこで本学部では、各授業科目の内容を振り返らせる必修科目として「ポートフォリオⅠ～Ⅳ」を設ける。各授業科目で作成したレポートやプレゼンテーションなどの日々の学修成果をポートフォリオに蓄積させ、同科目群において内容を振り返らせることにより、さらに学修効果を高めることができる。また、ポートフォリオのショーケース作成を通じて、各科目の学びを統合し、学修成果をアピールする効果も期待できる。なお、学びの成果の蓄積については、科目だけに留まらず、関連する課外活動の成果も含むものとする。

ポートフォリオは、「ポートフォリオⅠ～Ⅳ」の授業担当教員と指導補助者が中心となり、各授業科目の授業担当教員の援助を適宜受けつつ、指導補助者も含め複数で指導、フォローを行っていく。なお、本学部では、学生 44 人に対して 1 名の指導補助者を配置する。

この他、ポートフォリオの評価に学部で共通のルーブリックを活用することによって、自己点検やピア・レビューも行うこととする。このような仕組みにより、多人数のポートフォリオの確認、指導、フォローを担保する。【資料 15】「ポートフォリオ機能一覧」

④ LMS と他システムとの連携

全ての授業をオンラインで行う本学部では、LMS だけでなく、教務システム、ポートフォリオなど、日常的に使用するシステム同士をつなげ、学生情報などに一元的なつながりを持たせる必要がある。しかし、既存の LMS システムは学修管理については詳細な機能をもっているものの、教務システムと連携する場合に、大きな追加開発が必要となる。そこで、教務システムとの連携を最適化するよう LMS をカスタマイズすることとした。

2）授業方法に適した学生数の設定

メディア授業は、非同期で映像等の教材を配信することから、履修人数に制限を設ける必要はない。しかしながら、上述したように「非同期メディア授業における双方向性の確保」のために、指導補助者を適切に配置し、LMS による双方向性について、教授する側の人員配置からも保証するため、学生 44 人に対して 1 名の指導補助者を配置す

る（開学時には 21 人、完成年度には 82 人を配置予定）。指導補助者は、在宅での勤務とし、各学期おおむね 240 時間の勤務とする計画である。

3）卒業要件

本学部に 4 年以上在籍し、所定の単位数以上を修得した者を教授会にて審議し、学長が卒業を認定する。

卒業要件は、必修科目 50 単位、選択科目 74 単位以上、計 124 単位を修得することとする。科目区分毎の要件は以下の通りとする。

○基礎教育科目

【学修基盤】必修科目 11 単位の修得

【一般教養】必修科目 4 単位及び、選択科目 20 単位の修得

【　語学　】必修科目 8 単位の修得

合計 43 単位（必修科目 23 単位、選択科目 20 単位）以上の修得

○専門教育科目

【情報・工学系】必修科目 13 単位及び、選択科目 25 単位以上の修得

【ビジネス系】必修科目 8 単位及び、選択科目 12 単位以上の修得

【演習系】必修科目 6 単位

【その他】専門教育科目の選択科目から 17 単位以上の修得

合計 81 単位（必修科目 27 単位、選択科目 54 単位）以上の修得

4）履修モデル

本学部では、受験生が入学を検討している段階から、本学部ホームページ等で履修モデルを提示し、在学中の学び方の理解や、自己の学び方の設計が可能となるように、積極的に訴求する。ディプロマ・ポリシーを踏まえ、履修モデルとして、以下の 4 つを設定する。また、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学修目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルとする。【資料 16】「履修モデル」

まず、「データサイエンスや生成 AI 等の情報技術を活用することによって問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって組織において協調・リーダーシップを発揮できる人材」を目指すモデルを設定し、卒業後の進路としては、ソフトウェア技術者、サービス技術開発者、データサイエンティスト、セキュリティスペシャリストを想定し、将来的には、プロジェクトリーダー、プロジェクトマネージャー、スタートアップから大企業まで幅広いステージで活躍することを想定する。

次に「情報技術の知識とスキルを応用することによりビジネスの課題解決や価値創

造ができ、多角的な視点をもって協調・リーダーシップを発揮できる人材」を目指すモデルを設定し、卒業後の進路としては、サービス・デザイナー、ビジネスアーキテクト、技術にも精通した研究・開発職、IT コンサルタント、将来的に企業のマーケティング担当（CMO）といった職種・企業にて活躍することを想定する。

３つ目としては、すでに大学・専門学校等で情報技術に関連しない分野を学修した経験があり、企業の情報技術を実践する部署等で勤務している既就業者を想定し、体系的な情報技術と、そのビジネスへの応用を学ばせることを通じて、「企業の情報技術部門やシステム部門等でのシステムの高度化や情報技術の活用による業務の高度化・効率化が図れる人材」を目指すモデルを設定する。卒業後も引き続き、在学時に勤務する企業にて活躍することや、ソフトウェア技術者、サービス技術開発者、データサイエンティスト、セキュリティスペシャリストを目指すことで、将来的には、プロジェクトリーダー、プロジェクトマネージャー、スタートアップから大企業まで幅広いステージで活躍することを想定する。

５）高校卒業者等に対する履修指導の強化・徹底

本学部の教育課程は、関心や志向に応じて段階的に接続できる体系として、教育課程を編成しているが、社会経験の乏しい人もしくは社会経験のない高校卒業者など（以下、「高校卒業者等」とする）には履修指導を強化・徹底する。高校卒業者等に対しては、特にビジネス等への基礎的理解を支援する導入科目として、以下の「経済学入門」と「ビジネスリテラシー」の履修を推奨し、ビジネスを段階的に学べるよう履修指導を徹底する。

□一般教養科目「経済学入門」（１年：選択）を高校卒業者等に対して履修を強く推奨する。特に、「ビジネスアーキテクチャ」領域では、「経済学入門」が前提的な役割を果たす。

□「ビジネスリテラシー」（２年：選択）を高校卒業者等に対して履修を強く推奨する。特に「コーポレートファイナンス」（３年：選択）や「ビジネスアーキテクチャ入門」（３年：選択）、「ビジネスインテリジェンス入門」（３年：選択）などは、「ビジネスリテラシー」が前提的な役割を果たす。

また、高校卒業者等には【資料３２】高校卒業者等への履修指導用資料（授業科目履修例）とカリキュラムマップを使用し、科目間の接続性と段階性を視覚的に明示し履修指導することで、高校卒業者等でも無理なく、かつ段階的に専門性に接続可能な教育課程とする。

6）履修科目の年間登録上限等

本学部では教育の質を担保し、学修の実質化を考慮して、年間の履修登録上限を 46 単位とし、単位のキャップ制度を導入する。また、GPA による成績管理を実施し、履修登録については、各学生の成績状況に鑑み、必要に応じて面談等を実施する。

7）セメスター制（2学期制）の導入

本学部では、1年の学修期間を春学期と秋学期の2つに分けた2学期制を導入する。開講科目は、原則、春学期と秋学期で同じ科目を開講する。入学時期が異なっても同じ履修順序にて学修可能になるとともに、学生が履修した科目で単位を取得できなかった場合でも次の期で再履修できるように配慮している。

8）成績評価基準の明示

シラバスにおいて、当該授業科目ごとに小テストやレポートの点数、ディスカッションなどの学修活動、期末テストや課題の点数などを総合して評価することを明示する。なお、評価値のひとつとして GPA を導入し、成績優秀者の表彰や成績不振者の指導に用いる。

9）学生指導体制

① 概要

学生への学修面での指導は、LMS を通じた教員・学生間の双方向のやり取りを基本として行う。内容の指導は授業担当教員が中心となって行うが、教員よりもより学生に近い立場で授業に関わる指導補助者を通じて質問を促し、質問しやすい学修コミュニティの醸成を図る。

アカデミック・アドバイザー制度を設け、各教員が担当して、アカデミック・アドバイジングにあたる。履修モデルに基づく目標設定、科目選択、学修方法の修得などは、授業科目ポートフォリオⅠ～Ⅳでも扱う。

技術面のサポートは主に技術担当の指導補助者が担当し、さらに、メンタル面でのサポートは、メンターを担う指導補助者が担当する。このような仕組みを設けることで、躓きを早い段階で見つけ出し、対応できる体制を整えるものとする。

② 学事暦と履修指導内容

本学部では、春学期と秋学期のセメスター制（2学期制）に基づき、授業科目を開講する。履修指導は、各学期前の履修登録期間を中心に、年間を通して学生対応していく。入学時には学生の学修目標にあわせた4年間の履修計画を年間スケジュールに落とし込むよう、初年次履修指導を行う。以後の各学期の履修登録期間には、学生の履修計画の進捗状況に照らして、履修計画修正の必要がある場合には、その修正の

指導を行う。

履修指導内容は、単なる履修登録上のサポートではなく、各学生の学修目標の達成・到達のために必要なアドバイスであり、アカデミック・アドバイジングを担当する教員は、以下の４つの項目について確認のうえ指導していく。また、その情報を関連する部署と共有し、学生の指導を卒業まで継続できるサポート体制を構築する。

a) 履修モデルの確認
b) 担当学生の過去の履修・学修履歴の把握（本学部入学以前の履修・学修状況の把握）
c) 担当学生の履修・学修計画の把握
d) 担当学生の入学後の履修・学修状況の把握（ポートフォリオの確認）

また、2 年次以降は主にポートフォリオを最大限に活用し自律的に学修進行させる想定であるが、実際の修得単位数が履修・学修計画を下回る場合や著しく成績が悪い学生については、指導補助者、教員、職員が連携して当該学生への対処、指導を行う。

③ 学生に対するアドバイス方法

学生に対するアドバイスは、a)システム（LMS）を通じたアドバイス、b)ビデオ会議システムによるアドバイス、c)対面での面談によるアドバイス、の３つとする。日常的なアドバイスは、a)を中心として、b)、c)は、必要に応じて実施する。

④ リメディアル教育のサポート体制

本学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）において、「大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有している人」としており、本学部の教育課程において重要となる基礎的な理数分野の知識については高等学校卒業程度としている。しかしながら、「数学」については、入学者選抜で確認、評価した書類審査における、調査書の記載内容と実際の基礎知識の保有状況に乖離があることも予想される。そのため、学生それぞれが本学部の教育課程を履修するために最低限必要な理数分野の基礎知識を確認するための基礎力診断テストを実施する。この基礎力診断テストは、合格発表後に実施する動画視聴形式のオリエンテーション後に行うこととし、基礎力診断テスト実施後、この基礎的な理数分野の基礎知識の再獲得が必要となる学生は、本学部にて準備する株式会社すららネットが提供するｅラーニング教育サービス「すらら」を活用することで、受講に向けて必要な知識を再獲得する。

⑤ メンタリング制度の体制

あらかじめ、メディア授業で学修を進めて行く上で想定されるメンタル面での困難を洗い出しておき、メンタルサポートを担う指導補助者が担当するものとする。ま

た、産業カウンセラーを 1 名配置し、学生の支援を行う。

⑥ 入学から卒業までの学生指導の仕組み

入学に際し、オンラインによるオリエンテーションを実施する。オリエンテーションは、履修ガイダンス動画の視聴によって実施し、履修のモデル、履修登録方法、LMS の使い方等を案内する。履修登録方法や LMS の使い方等、方法に関するものは、LMS の双方向機能を用いて実際に操作させながら実施するものとする。LMS の小テスト機能にはフィードバック機能が備えられており、正しい操作をフィードバックすることにより LMS の使い方ガイドとして使うことができる。また、ディスカッション機能によって、個別の質問に対応することができる。推奨する履修モデル等は複数作成し、学生がニーズに応じて選択できるようにし、あらかじめ、十分な支援を整える。これらに個別の支援を組み合わせることにより、学生全員に対して十分なサポートを行うことができる。

学期途中の科目学修については、各授業科目に設けたオンライン質問機能によって、授業担当教員と指導補助者がサポートを行う。また、学生からの問い合わせを受け付けるために、LMS に履修指導専用の窓口を設置する。各科目、履修指導専用窓口等、複数のチャネルによって、学生のニーズや困りごと・悩みを早い段階で把握することにより、学生全員に対して必要なサポートを行うことができる。

６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

「８．通信教育を実施する場合の具体的計画」の項目に包括して記載

７．編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学部では、目的意識をもって更なる学修環境を求める短期大学を卒業した者、専修学校の専門課程を修了した者、高等専門学校を卒業した者、高等学校専攻科修了者（修業年限が 2 年以上その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者）を対象とする 3 年次への編入学定員を設け、本学部の教育課程の一部を省いて途中から履修することにより学位を授与する。

この 3 年次への編入学定員は 200 名とし、収容定員は 1 年次入学の 800 名と合わせて 3,600 名とする。

3 年次への編入学における入学者選抜は、1 年次入学者選抜同様に一般選抜にて入学者を選抜することとし、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき選抜する。併せて編入学基準の審査のため、編入学希望者より既卒学校の成績証明書並びに当該科目のシラバスを提出させることとし、本学部入試委員会での既修得単位認定の審査を踏まえて合否を判定する。また、入学者に対しては、編入学生の既修得単位を本学部の教

育課程と照合し、単位認定する際に使用する読替表を作成する。【資料 17】「読み替えルール」

3年次への編入学生には1年次への新入生と同様にオンラインによるオリエンテーションを実施する。オリエンテーションでは、履修ガイダンス動画によって、履修モデル、履修登録方法、LMS の使い方等を案内し、スムーズに学修を進められる支援体制を構築する。

なお、編入学生については、多様な学生の入学が見込まれ、卒業の要件となる単位の区分や数が定まらないことから、固定化した履修モデルについては多数となるものの、その一例として、短期大学・専修学校などを卒業し、本学部の専門知識をある程度有している者、比較的高い専門性を有する職業に就いているがリカレント教育により知識と学術の深化や更新を希望する者、仕事の能力や専門性を磨いて、社会的に市場価値の高い経験を重ねる志向をもった者などを想定した編入学後の履修モデル【資料 18】「編入者履修モデル」を作成する。

８．通信教育を実施する場合の具体的計画

１）通信教育により十分な教育効果が得られる分野

情報デザイン学部情報デザイン学科では、教育研究対象とする主たる学問分野を社会への応用を目指す工学分野における情報学とし、情報学分野に関する知識・スキルを修得させ、情報技術を活用して、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている人材を育成することを教育研究上の目的としている。

対象とする分野における情報はコンピュータ・インターネット上で取り扱われ、コンピュータ・インターネットを通じた修得が一般的なものであり、非同期で LMS から配信されるオンデマンド方式の授業による通信教育においても十分な教育効果が期待できる。

効果ある教育として成立させるために、課題解決、価値創造などの高度な能力についても、LMS を通じた演習授業や教員・学生の双方向のやりとりによって保証するものとする。

２）教育・研究水準確保の方策

教育水準の確保の方策として学部の中に FD 委員会を設置し、授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を行う。FD 委員会は、学期末に授業アンケートを実施し、学生からのフィードバックを授業改善につなげる。また、学生のオンライン授業への参加状況をモニターし、学生の行動データも活かした授業づくりを実施していく。授業アンケートの結果や学生の行動データについては、FD 委員会で取りまとめ、全教員に還元し、さらに、授業改善を目的とする全教員が参加する意見交換会を実施する。

他にも、自己点検委員会を置き、年1回、学内自己評価を行う。また、大学基準協会の第三者委員会による評価を実施し、これらをもとに改善に取り組むことでPDCAサイクルを確立し、教育・研究水準確保を図る。【資料 19】「開志創造大学情報デザイン学部FD委員会規程」

また、大学内に教育デザイン研究所を設け、その中にインストラクショナルデザイナーを配置し、授業内容・改善を推進・確認する体制を作り、授業の質を保証する。

3）単位の計算方法と認定・成績評価の方法

各授業科目の単位数は、1単位を45時間の学修を必要とする内容で構成する。

メディア授業の1回の授業は、「15分程度の映像教材4本の視聴の後、30分程度の小テストの受験もしくは課題に対するレポートの提出、及び、ディスカッションによる意見交換（合わせて約2時間相当の学修）」を基本とする。映像教材の視聴とテスト受講、もしくはレポートによる学修に加え、学生間及び学生と指導補助者・授業担当教員間のディスカッション、提出課題のピア・レビュー等を受講期間中に行い、授業時間外の学修を担保する。

学生は、上記の1回授業を、1単位授業においては8回、2単位授業においては15回受講し、単位は、授業1回毎に設けた小テスト、ブロックテスト、期末テスト、もしくは、レポートに合格することによって認定する。テスト、レポート提出はLMS上で実施する。なお、授業科目の内容に応じて、小テスト、ブロックテスト、期末テストやレポートへの合格の他に、演習結果、プレゼンテーション、ディスカッション内容等を評価に加える場合がある。

評定の結果は、S、A、B、C、D、Eの6段階を用いる。評価の基準は、S（評価点90点～100点）、A（評価点80点～89点）、B（評価点70点～79点）、C（評価点60点～69点）、D（評価点40点～59点）、E（評価点39点以下）とし、S、A、B、Cを合格、D、Eを不合格とする。

① 授業の全体構成と各種テスト

単位認定の基礎となるテスト（小テスト、ブロックテスト、期末テスト）、あるいは、レポートについて説明する。

まず、授業科目の構成について説明する。学修到達目標と学修内容との整合性を図るため、授業にブロックを導入し、ブロック毎に学修到達目標を割り当てることを基本とする。具体的には、1単位科目では8回、2単位科目では15回で学修する内容は、基本的には2から5個のブロックに分けて学修を行う。例えば、15回授業を4つのブロックに分けた場合、第1回から第4回を1ブロック、第5回から第8回を2ブロック、第9回から第12回を3ブロック、第13回から第15回を4ブロックとするなどである。各ブロックは、設定した学修到達目標に対応した学修内容で構成さ

れており、学生は到達点を意識しながらの学修がしやすくなる。また、ブロックという単位を用いることにより、学生は、意味のまとまりで学修内容に区切りをつけることができ、復習がしやすくなるというメリットもある。

ブロック毎にその学修到達目標に対応したブロックテストを設ける。これにより、授業科目に設けられた複数個の学修到達目標とブロック毎の学修内容、各学修到達目標とそれに応じた評価の整合性を保証する。なお、授業内容に応じて、ブロックテストではなく、レポートを課す場合もある。

次に、テスト（小テスト、ブロックテスト、期末テスト）について説明する。

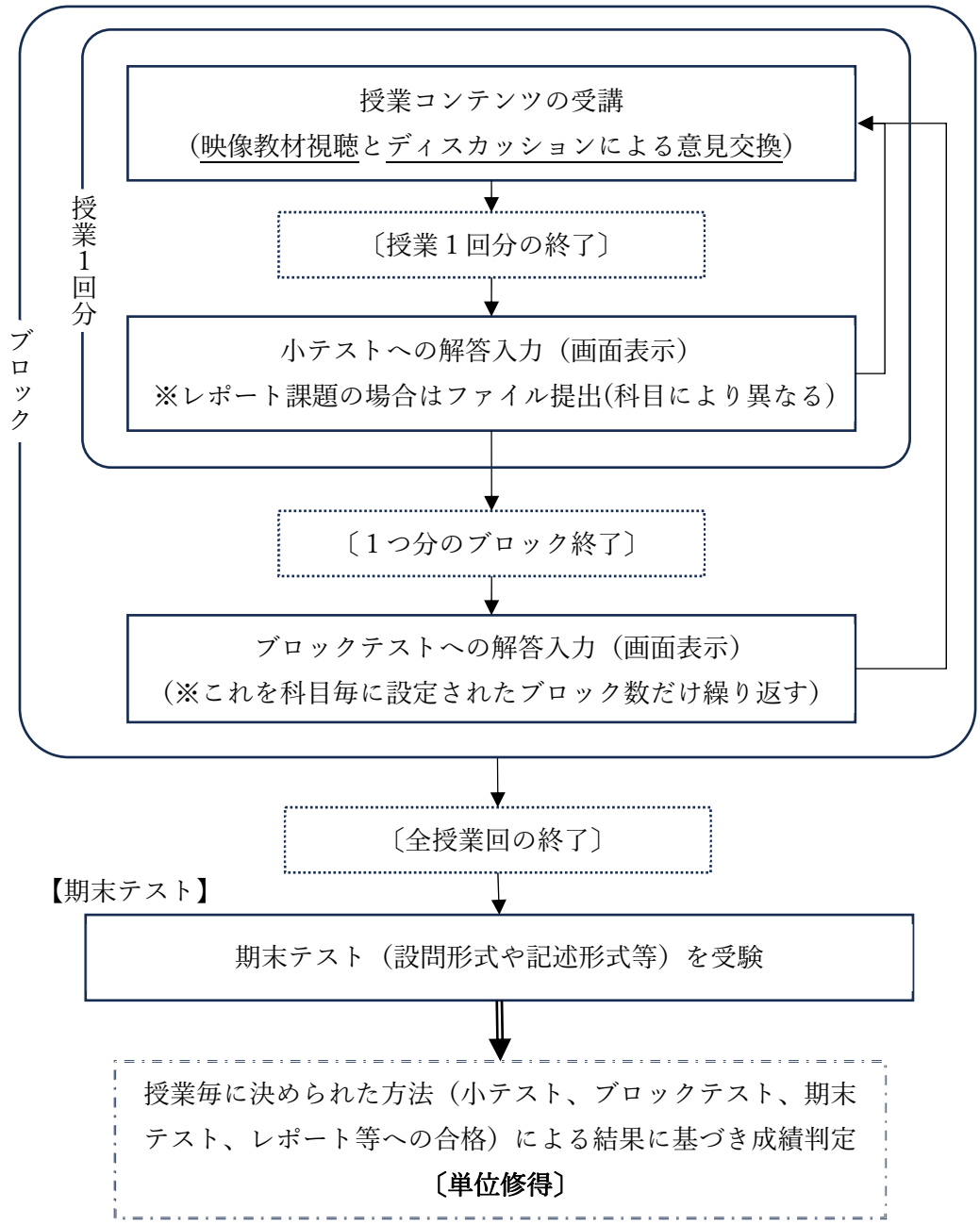
授業回 1 回毎には小テストを実施する。その範囲はその授業回の内容のみを対象とする。ブロックテストは、ブロック毎に実施し、その範囲はそのブロック全体を対象とする。全授業回学修の終了後には、期末テストを実施する。

ブロックテスト、期末テストは、時間制限のある自動採点を基本として実施する。選択形式、設問形式等とし、学生がテスト受験に必要な学修を終えてから原則 1 週間の範囲の中で、受験可能な日時を自由に設定して受験することができる。科目によっては、時間制限のある試験ではなく、レポート、演習結果、プレゼンテーションの提出など、それぞれの授業の学修成果を測るのに適した形式で、当該科目のシラバスに記載された方法で評価を行う。

② 単位修得までの基本的な流れ

授業回 1 回分を「15 分程度の映像教材 4 本の視聴の後、30 分程度の小テストの受験もしくは課題に対するレポートの提出、及び、ディスカッションによる意見交換（合わせて約 2 時間相当の学修）」とする単位修得までの基本的な流れは以下の通りである。

【授業】



なお、再履修は科目単位となる。ブロック単位で再履修するような仕組みはなく、すべてのブロックの再学修が必要となる。当該科目全体を学修しなおすことになるが、すでに理解できているブロックは復習となり、理解ができていないブロックは、その部分に十分な時間をかけて学修することができるなど、ブロックは、再履修においてもメリットのある仕組みとなっている。

③ 本人認証の仕組み

テスト時の本人確認は、LMS へのログイン時の暗証番号入力と、Web カメラによる顔認証の二重で行う。顔認証は、予め登録しておいた顔写真と、テスト受験時に用いている PC の Web カメラやスマートフォン・タブレット等のカメラを使用して撮影する顔写真とを照合することにより行う。このことにより、学生本人が受験することを担保する。

テスト受験にあたっては、受験開始時だけではなく、受験中継続して Web カメラをオンにすることを求める。LMS は、予告なしに Web カメラによる撮影を行う機能を備えており、これらによって不正受験の防止を担保している。

本人認証の体制とは、事前に登録した本人の顔画像と、テスト受験時の本人の顔との一致率を算出し、一致率が低い場合はアラートによる通知を出し、アラートを受けた場合は、人間が両方の画像を目視で確認し、テスト受験が有効であったかどうかを判定するものである。

また、テストに出題する問題は十分な数を用意し、1 回に複数個出題するものとし、それらをランダムに出題する。このことによって、各受験者が 全く同じ問題群を受験することがないようにし、受験時期が異なる受験に対応するものとする。なお、問題の作問にあたっては、難易度を揃え、ランダム出題に備えるものとする。

さらに、受験前には学生に、問題を漏らしてはいけない等の規程を提示し、チェックで同意を得る仕組みとし、受験の心得をその都度、能動的に確認するものとする。

4）メディア授業の実施体制

① メディア授業の概要

本学部のメディア授業はインターネット等による通信手段により LMS から非同期で配信するオンデマンド方式の授業として、主に映像教材の視聴に基づき実施する。学生は自ら用意するインターネット通信環境を利用し、PC やタブレット、スマートフォンで受講する。また、映像教材の視聴に差し支えないよう、PC・タブレット・スマートフォンが必要とするスペックとソフトウェアを明示する。授業受講時は、LMS へのログイン時の暗証番号のチェックで本人認証を行い、学生本人以外が受講できないシステムとする。

各授業科目においては、配信する授業コンテンツの受講を踏まえ、授業担当教員ならびに指導補助者が学生からの質問・相談への対応を行い、各種テストあるいは課題を実施する。また、適宜、当該授業を履修する学生同士のディスカッションやプレゼンテーションなどを実施する。なお、印刷教材による授業、スクーリングを含む面接授業は実施しない。

② 映像教材の作成

情報通信技術の発達により、スタジオなどの大規模な設備を使用せずに映像制作を行うことができるようになっていることから、本学部では、主に、PC のカメラを通して撮影した授業動画・プレゼンテーション動画をベースに映像教材を作成する。

授業の映像教材作成にあたっては、作成前に、インストラクショナルデザイナーが授業担当教員に授業構成や授業方法を確認する。授業担当教員は、授業教材を作成し、これが、映像教材のベースとなる。このベースを基に、映像教材を制作する。

科目名、開講年度・学期、授業担当教員などの授業科目基本情報は、教務システムと連携させて、LMS 上に登録する。

各授業科目には、科目オリエンテーションコンテンツを作成する。科目オリエンテーションコンテンツには、シラバスを再掲する他、小テストや試験などの開始日時、終了日時、学修の標準スケジュール、ディスカッションのテーマや投稿期間、回数、他の投稿に対する返信回数等のその授業科目の学修を進めて行く上で必要な情報をまとめて掲示する。また、授業担当教員からの簡単な挨拶動画も掲載する。

授業回 1 回分は「15 分程度の映像教材 4 本の視聴の後、30 分程度の小テストの受験、もしくは課題に対するレポートの提出、及び、ディスカッションによる意見交換（合わせて約 2 時間相当の学修)」を基本としており、授業コンテンツに用いる情報は、文字、音声、静止画、映像等を構成要素とし、授業内容により適宜使い分ける。

また、授業担当教員は授業教材の他、小テスト、ディスカッションや評価試験などのコンテンツを作成する。小テストなどの自動採点のテストについても、正誤の結果だけでなく解説を入れ、学生にフィードバックするものとする。

なお、小テスト、試験・課題などは、実施・受験期間（受験開始日時・受験終了日時）に幅を持たせる設定をし、その期間内での受験を可能とすることにより、学修時間帯が異なる学生に配慮する。また、制限時間、受験可能回数を設定できる仕様とし、授業内容に応じて適切な時間配分や提供方法を可能とする。

映像教材作成後、授業担当教員・インストラクショナルデザイナー・映像担当・LMS 担当等によるレビューを行い、映像教材の内容を確認する。

③ 授業の運営

授業運営は、授業担当教員と指導補助者で行う。

各授業科目の映像教材は、原則として 1 回ずつオープンするものとし、試験期間終了後に配信を終了する。LMS のディスカッションへの投稿・閲覧期間は、試験期間終了まで可能とし、映像教材とあわせて、学生の復習の機会を確保する。なお、投稿については、学生からの設問解答のような規範に沿わない投稿があれば、内容を編集または削除することを基本とし、学修における不正を防止するものとする。

1 回分の授業終了後に実施する小テストについては、原則として自動採点形式で実施する。自動採点ではない形式で行う場合は、授業担当教員または指導補助者が手

動で採点を行う。指導補助者が採点を行う場合は、事前に授業担当教員が作成したルーブリックをもとに採点させることで採点基準を担保する。

授業内容に関する質問は、各授業回に質問機能を設けることにより受け付け、授業担当教員及び指導補助者が対応を行う。授業担当教員及び指導補助者は、授業期間中は大学が定める休日を除く毎日授業の質問を閲覧することとする。また、質問は、LMS の機能により自動的に授業担当教員・指導補助者等に通知され、見過ごしを防ぐ仕組みを設ける。この他、授業担当教員はオフィスアワーを設定し、同期双方向の質問を可能とする。また、学生は授業担当教員に対して LMS を通じて直接メッセージをいつでも送信することができる。

授業では、学生同士のディスカッションを行うことも可能な体制をとる。ディスカッションは LMS のいわゆる掲示板で行い、非同期での意見交換が可能となる。ディスカッションには、投稿とコメント返信という機能があり、意見表明が可能となる。また、全員がディスカッションに参加しやすくなるよう、当該授業の履修者数に応じて適切な人数にグループ分けを行う。その上で、授業担当教員及び指導補助者は定期的にディスカッションを巡回し、適宜、指導を投稿し、また、意見交換を促す投稿を行う。またディスカッションのほかに、学生にプレゼンテーションをさせることも可能とする。プレゼンテーションに対しては、非同期で相互コメントを行う。

授業は、映像教材の視聴・小テストを基本とし、これに LMS でのディスカッションやプレゼンテーションを組み合わせる。これにより、メディア授業においても、知識を伝達するだけの一方的な授業ではなく、学生同士、学生と授業担当教員間の双方向のやり取りを実現する。学生は、同級生や授業担当教員などの他者からのフィードバックを受けることができ、物事を多面的に捉える力、論理的な意見展開、発信力などの向上が期待できる。また、授業担当教員は、これらの力の向上を後押しするため、授業内容に応じたディスカッションテーマなどを設けることとする。

④ 演習の具体的な実施方法

演習は「学習者が知識や技能を実際に適用しながら学ぶ活動」であり、メディア授業であっても、通学制の対面授業と変わることはなく、科目それぞれの学修目標・到達目標に応じた実施が求められる。本学部では、次のように想定している。

□演習の特色

1．プロセスと具体作業の重視

学生が課題やテーマに取り組む中では、学修成果だけに焦点を当てず、そのプロセスや、具体的な作業経験を積むことを重視する。これにより、知識や技能の適用支援につなげる。

演習課題は LMS を通じて提出するものとし、また、フィードバックも LMS を通じて行うものとする。LMS の機能を使用した即時フィードバックの課題や問い合わ

せと同等の 24 時間以内返答の課題を設ける。

2．学修成果の可視化

学生の成果物をプレゼンテーションやレポート形式で共有することにより成果を可視化する。学修成果の可視化はプロセス重視にもつながり、本学部の演習のねらいにも合致するものである。また、LMS を通じた学修成果へのフィードバックもできる限り可視化し教育効果を高めるものとする。

3．柔軟なコミュニケーション環境

本学部の学生には、社会人学生も含まれるため、学修の時間帯が同じ時間帯で行われないことが想定される。これに対しては、非同期テキストコミュニケーションが可能となる掲示板やチャットツールなどで実現する。

また、このような方法には、本学部で授業を担当する多国籍企業出身の実務家教員などの経験を生かしたものとなる。これら教員は、インドや中国など近隣諸国との時差を活用した共同開発やプロジェクトマネジメントの豊富な経験を持っており、本学の PBL を進めていく上においても、そのような知見が活かすことを想定している。

□具体的な演習事例

1．「DX プロジェクト I・II・III」

実務家教員等が提供する現実の課題に基づき、学生がグループで問題解決に取り組む。このように現実社会を映し出した教材に基づき、掲示板等で情報共有し、プロジェクトを進めていく。学修成果には、動画提供者（企業等）からのフィードバックを予定しており、より実践的な演習となる。

2．「サイバーセキュリティ演習」

サイバーセキュリティをテーマとした課題に取り組む演習では、仮想環境上で実践的なセキュリティのシナリオを作成し、授業内で学修成果をコンペティションのような演習を実施する。準備段階ではディスカッションやチャットを使用して課題を整理し、学修成果についてもディスカッション等を通じた互いのフィードバックをもとに学修効果を高めるようにする。

⑤ 成績や評価

授業開講期間は原則として下表の通りである。

学期	授業受講期間
春学期（前期）4 月～9 月	4 月～7 月の間（春学期授業受講可能）
秋学期（後期）10 月～3 月	10 月～1 月の間（秋学期授業受講可能）

授業受講期間の範囲内で、学生は当該科目ごと期末テストを受験する。期末テスト

は標準 60 分を想定し、複数選択形式、設問形式等、それぞれの授業の学修成果を測るのに適した形式で行うこととする。期末テストは、テスト受験に必要な学修の終了後、原則 1 週間の範囲の中で、受験可能な日時を自由に設定し、LMS を通じて受験する。また別に、レポート、ディスカッション等による評価も行う場合がある。

試験は、基本的に全ての授業科目において、所謂「持ち込み可」とすることを想定しているため、試験問題は、資料等を一瞥して容易に正解を導き出せるものとせず、受験者が授業コンテンツを学修し、講義内容を十分に理解した上でなければ解答できないような設問とする。

期末テスト実施時に生じた通信トラブルが LMS 提供業者・電力業者・通信業者に起因すると判明した場合は、追試験の受験対象と認定し、対象科目について改めて期間を設定して異なる出題内容で追試験を実施する。また、受験者側の通信環境や電源環境等についても、推奨する環境（PC・有線 LAN・利用電源等推奨環境）を事前に周知し、受験者側を原因とする通信トラブルが受験者の不利益となることを予め明示する。なお、突発的に発生したやむを得ない事由（自然災害や自身の病気や家族の不幸等）により受験が不可能であったと判断される場合も追試験の受験対象として認定し、対象科目について改めて期間を設定して異なる出題内容で追試験を実施する。

レポート、ディスカッション等、試験によらない評価を行う場合も通信トラブルへの影響が考えられる。そのため、提出期間を数日間設け、学生には締め切り間際の提出が通信トラブルの際にはリスクになることを周知する。

期末テストの結果や、成績評価の結果及び修得単位数については、学期ごとに一斉に配信し、学生は各々受講科目の単位修得の可否を確認する。その際、期末テストの解答（正誤、模範解答例など）に併せて、解説を付記する。結果に対する問合せがあった場合は 24 時間以内（土日祝日除く）に返答する。

5）メディア利用による指導の実施体制及び指導教員・指導補助者との連携

本学部でのメディア授業は、独自開発する LMS 機能を通じて実施することから、指導に関わる LMS の機能を説明した上で、それに沿って実施体制と授業担当教員・指導補助者との連携を説明する（LMS 機能の詳細は【資料 14】「LMS 機能一覧」を参照）。

① 指導体制に関わる LMS 機能一覧

□授業や教材の作成機能（授業作成担当者及び授業担当教員）

- 授業基本情報作成機能：科目名、開講年度、開始学期、授業担当教員などの情報を登録する機能
- 教材作成機能：授業の基本単位である、映像教材、テスト、ディスカッション、レポート、プレゼンテーション、単位認定試験等を作成する機能

- プレビュー機能：完成した授業を学生視点でプレビューする機能

□授業の運営に関わる機能（授業について：授業担当教員・指導補助者）
- 授業一覧機能：担当する授業を一覧表示する機能
- 授業進捗一覧機能：担当する授業の学生の進捗状況を一覧表示する機能
- お知らせ機能：授業に関するお知らせを行う機能
- 投稿閲覧･コメント機能:質問･ディスカッション等に投稿された内容を閲覧し、また、投稿内容にコメントする機能
- 通知機能：質問・ディスカッション等に投稿があったことを授業担当教員・指導補助者等に通知する機能
- チャット機能：学生に対して、個別または複数に配信する機能

□授業の運営に関わる機能（全体について：担当事務）
- お知らせ機能：履修登録や各種事務手続き等に関する連絡を行う機能
- 投稿閲覧･コメント機能:質問･ディスカッション等に投稿された内容を閲覧し、また、投稿内容にコメントする機能
- メッセージ機能:履修登録や各種事務手続き等に関する問い合わせに答える機能
- 学修進捗管理機能:学修進捗状況を自動でフォローしメールで通知する機能（授業担当教員及び指導補助者等にもメール通知で情報を共有）

□成績や評価に関連する機能（授業担当教員）
- 成績評価機能：学生の最終得点を確定する機能

なお、学生に対しては、LMS 操作方法は、入学オリエンテーション内で説明し、さらに、LMS 内にマニュアルを掲示する。基幹教員及び基幹教員以外の教員を対象とした説明も定期的に実施し、必要に応じて LMS 委託業者による補足説明を実施する。【資料 20】「LMS 操作マニュアル（教員用、学生用）」

② 指導の実施体制と指導教員と指導補助者の連携体制及び役割分担

映像教材視聴後に学生から提出されるレポート等に対する添削指導や、授業に関する各種質問については、当該授業科目の担当教員自身が行うことを原則とする。また、教員の負担軽減や学生の学修の利便性確保等の観点から、指導教員の指導・監修のもと、共同して指導にあたる指導補助者を配置する。

指導は原則としてすべてが LMS を通じて行われるため、教員には担当する科目に必要な LMS の権限を付与する。指導補助者に対して、指導補助業務に必要な LMS の権限を与える。その権限は、LMS の自動添削が不可能なレポート課題等の閲覧や

評価等を行うのに必要な権限、メッセージの閲覧、返信権限などであり、担当教員の指導のもと、添削補助・メディア授業補助にあたる。

指導補助者は授業担当教員の指示のもと添削及び授業担当教員からの指示に基づく評価基準による評価の他、学生からの質問に対応するとともに授業担当教員や事務局と連携し、対応内容はその都度、内容に応じて授業担当教員や事務局へ迅速に報告する。

以上のように、オンデマンド授業では掲示板を通じた質疑応答が主な指導手段であり、質問は LMS を通じて指導教員および指導補助者の双方に通知される。質問への回答は原則 24 時間以内、遅くとも 48 時間以内に行うこととしており、一次対応は指導補助者が中心となって行う。指導補助者による対応は、指導教員があらかじめ提示した方針や想定される内容に基づいて行うものとする。また、指導補助者で対応が困難な内容については、指導教員が対応する。このような役割分担により、迅速かつ質の担保された連携体制を構築している。

③ 指導補助者の採用要件と計画

指導補助者の採用にあたっては、修士の学位を取得している者又はこれに準ずる能力を有していることを選任基準としている。これらに加えて、汎用的技能、態度、志向性等の資質についての基準を明確に定め、これらの能力を備えている者を本学指導補助者に選任する。この選任基準についてはコミュニケーションスキル能力、論理的思考能力、問題解決能力、自己管理力・倫理観、情報リテラシー、数量的スキル能力の６項目を設定したうえで、各々能力判断レベルを３段階（A評価、B評価、C評価）で評価することとし、すべてB評価以上、かつ、そのうちA評価が３つ（含、コミュニケーションスキル能力A評価）以上の者を選任の基準とする。なお、この能力を確認する方法は、「開志創造大学指導補助者能力基準確認チェックシート」【資料21】によりこれを行う。

また、前述の基準を満たす指導補助者を採用するにあたっては、まずは、一般公募による方法により候補者を募ると共に、本学部基幹教員から指導補助者としての本学能力基準を満たし、指導補助者としての適性を有すると判断できる者を推薦させる（本学大学院生や、修了生、卒業生等の中から推薦）方法でも候補者を募る。該当の候補者については、当人の経歴（学歴、職歴、PC スキル等）とともに、本学部基幹教員が推薦する候補者については当該推薦教員からの推薦理由等の確認を踏まえて、学部長（学科長）が中心となって面接を行い、適性が認められた候補者は教授会審議事項に上程し、その議を経て、最終的に学長が採用を決定する。

さらに、募集については、本学大学院及び大学院を設置している他大学等に要請し、適切な指導能力を備える院生の推薦を受けたうえで、前述同様、教授会の議を経て学長が採用を決定する。

以上のような採用フローにより、まずは採用時における学生への指導補助者としての能力確認について、本学能力基準を基に採用手続きを行う。なお、本学部の指導補助者の指導方法については、インターネットを介して行われるメディア授業の指導補助であることから、指導補助者の自宅でも、インターネットを介して行うことが可能である。また、新潟市周辺の大学院生等のみならず、遠方在住者も指導補助業務が可能であることから、適性ある者を広く募ることが可能となる。

採用された指導補助者は、採用後、事前にメディア授業補助業務研修の受講を必須とする。指導業務はコメントの閲覧・返信を中心として行われるため、担当科目の指導ポイント、教員との連携方法、書き言葉による曖昧な文章が誤解を招いた事例やポジティブなフィードバック方法等、メディア授業に必要なスキルについての実践的な内容の研修を行うことにより質を担保するものとする。

また、指導補助者としての能力向上育成策として、授業開始後は、各授業担当教員と連絡を密に取り合い、学期毎に各指導補助者自身からの指導振り返りレポートの提出を義務づける。担当教員からは当該指導補助者に対する評価を提出させ、学部長または学科長がこれを確認し、指導補助者に対してフィードバックを行う。適性について疑義が生じる場合は、必要な対応を講じたうえで、改善しない場合は任を解くこととする。

さらに、年に 1 回、研修会（対面又はオンライン）を開催し、指導補助者としての能力向上に取り組むこととする。

なお、指導補助者は完成年度に 82 人配置することとし、開設時には 21 人の指導補助者を採用する。

指導補助者の確保については、初年度の指導補助者 21 人は、確保しやすい新潟県内を中心として確保することとしており、本学事業創造研究科在籍の大学院生、本法人運営大学の新潟医療福祉大学大学院在籍の大学院生を中心に募るとともに、新潟大学大学院自然科学研究科在籍の大学院生及び長岡技術科学大学大学院在籍の大学院生を対象に候補者を募る予定としている。初年度の採用計画は以下の通りとなる。

【指導補助者採用計画】（2025 年度）　　※在籍数は 2024 年 5 月 1 日現在

大学名	在籍者数	採用予定数
事業創造大学院大学事業創造研究科	208 人	2 人
新潟医療福祉大学大学院	202 人	5 人
長岡技術科学大学大学院	1,003 人	7 人
新潟大学大学院自然科学研究科	1,261 人	7 人

2 年目以降の採用に関しては、引き続き、新潟県内を中心に採用を行うものの、併せて一般公募による候補者の募集、また、本学部基幹教員からの推薦（本学基準を満

たし、指導補助者としての適性を有すると判断できる者の推薦)、全国の大学大学院からの候補者の募集等を通じて完成年度 82 人の指導補助者を確保することとしている。

④ 指導補助者採用計画の根拠となる考え方

「入学定員 800 人に対して指導補助者 21 名の配置」は、以下のような考え方に基づく設定である。

1 年次においては、必修科目を 20 科目（32 単位)、加えて選択科目を 4 科目（6 単位）履修する構成で、合計 38 単位を修得する設計となっている。必修科目は 1 科目あたり 800 人の履修、選択科目は履修者を 400 人と仮定すると、延べ受講者数は 17,600 人となる。指導補助者は年間 480 時間勤務するため、延べ受講者数に基づいて算出すると、1 人の学生に対して年間で約 0.573 時間（約 34 分）の支援が可能である。

ただし、実際の支援負担は科目の性質によって異なるため、講義科目を 1.0、演習科目を 1.5、PBL 型科目を 3.0 とした相対的な負担比に基づいて配分する。

1 年次について具体的に見ていく。必修科目のうち 1 科目は「PBL 入門」であり、課題解決型学習の導入を担う科目である（PBL 型科目)。また、演習型の必修科目が 2 科目（「英語リスニング Ⅰ・Ⅱ」）ある。残りの 21 科目（必修 17 科目、選択 4 科目）は主に講義科目として位置づけられる。

この科目構成に基づき、支援負担比を考慮して加重平均的に配分すると、講義科目の履修者 1 人あたりには約 26 分、演習科目には約 41 分、PBL 型科目には約 82 分の支援時間を確保する設計となっている。

2 年次についてだけをみると、38 単位（必修 6 科目 11 単位／選択 16 科目 27 単位）を標準とし、これら科目の内、「DX プロジェクト Ⅰ」(PBL 型科目）が 1 科目（必修)、演習が 1 科目（「英語コミュニケーション」必修)、講義が 31 科目として計算すると、講義科目の履修者 1 人あたりには約 39 分、演習科目には約 59 分、PBL 型科目には約 118 分となる。 3 年次にだけについてみると、定員は 1,000 人となるが、31 単位（必修 3 科目 6 単位／選択 13 科目 25 単位）を標準とし、これら科目の内、「DX プロジェクト Ⅱ」(PBL 型科目）が 1 科目（必修)、演習が 1 科目（「英語ビジネスコミュニケーション」必修)、講義が 14 科目として計算すると、講義科目の履修者 1 人あたりには約 59 分、演習科目には約 88 分、PBL 型科目には約 177 分となる。実際には、科目によって履修者数は異なり、また、2 年次、3 年次は指導補助者も増え、適切に配分する必要はあるが、このように、指導補助者の支援は科目特性に応じて適切に配分されており、学生の学修支援に支障が生じない体制を整えている。

掲示板での質疑応答については、初年度は投稿の集中や内容の重複を抑えるため、FAQ や投稿ガイドラインの整備を段階的に進める方針である。一部の科目において

は、補助者がテンプレートを用いて対応できる仕組みを段階的に導入する。

初年度は、入学定員 800 人に対して指導補助者を 21 名配置しており、以後毎年 20～21 名ずつ追加し、完成年度には計 82 名となる。ただし、学生の質問傾向や科目ごとの支援負担、PBL 型科目である「DX プロジェクトⅠ～Ⅲ」の導入に応じ、指導補助者の配置数は必要に応じて見直し、適宜増員も視野に入れて対応する方針である。

6）履修指導の時期、方法や体制

メディア授業は、春学期（4 月～9 月）及び秋学期（10 月～3 月）の学期中（開講期間中）に実施し、履修指導もこれに合わせて行う。

春学期（4 月～9 月）及び秋学期（10 月～3 月）の学期開始時期にはオリエンテーションを実施する。オリエンテーションでは、通信教育による学修の進め方やシラバスの読み方、履修方法、履修登録の手順について指導を行う。学修の進捗状況の把握、管理については、授業担当教員、指導補助者及び事務局において、学生一人ひとりの学修進捗の状況を管理、把握し、それに応じたサポートを行う。LMS 機能を通じて、LMS へのログイン状況、大学からの各種連絡の確認状況、授業の視聴状況、小テスト実施状況・点数、ディスカッション機能の投稿状況・内容、レポートの提出状況・内容、期末テスト実施状況・点数等の情報を元に、学修全体の進捗状況について、各々学生の状況を把握し、迅速かつ的確な対応を行うことを徹底する。

授業（メディア授業）受講（授業コンテンツ視聴等）の進捗状況に対するフォローを行う基準については、各科目各回の進捗の目安を予め設定し、これを入学時に学生に案内した上で、計画通り進捗していない学生に対して、指導・支援を行う。なお、このフォローを行う目安については、「開講日から 14 日間、一度も授業にログインしていない場合」、「開講日から 60 日後に該当科目の学修進捗率 50%未満である場合」、「閉講日の 30 日前に該当科目の学修進捗率 70%未満である場合」とし、これらに該当した場合、これらを目安に事務局、担当教員、指導補助者が確認し、フォローアップする。改善されない学生に対しては、事務局や指導補助者等が電話やオンラインチャットツール等により、直接連絡したうえで、進捗遅れの原因等事情を確認し、その原因解消に向けた助言や相談対応を行う。

7）学生からの質問及び学修相談への対応体制

① 入学時・履修登録時の相談対応体制

通信教育による学修の進め方やシラバスの読み方、履修方法、履修登録の手順については、履修ガイダンス動画の視聴による指導を行う。また、LMS の操作方法、例えば、小テスト受験の仕方、課題提出の仕方、お知らせの見方などや、LMS による学修の進め方については、動画視聴による指導だけでなく実際に LMS を操作させることによって学ばせるものとし、授業科目の学修へのスムーズな橋渡しを行う。加え

て、履修相談の窓口を設置し、LMS 上のメッセージ機能や電話等での相談も受け付ける。

② 授業に関する質問・相談対応体制

学生からの授業に関する質問・相談については、当該科目の担当教員及び指導補助者が主として対応を行う体制をとる。

学生からの授業に関する質問・相談は 2 種類の質問機能でサポートしていく。1 つめは授業回毎に置かれた質問機能で、学生は当該教材に関連する事柄を書き込むことで、授業内容に関して生じた疑問を取り逃すことなく質問できる。またこれは、担当教員及び指導補助者が質問内容について手戻りなく対応するための仕組みでもある。もう 1 つは、授業科目のトップ画面に置かれた質問機能で、学生は例えば、学修の進め方への質問や発展学修への問い合わせなど、その授業科目に関するどのような質問でも書き込むことができる。

質問を知らせる通知は、その都度、あるいは、1 日のうちの決められた時間にまとめて、LMS から担当教員及び指導補助者に送信があったことを知らせる仕様とする。また、原則、担当教員や指導補助者は、授業期間中は大学が定める休日を除く毎日授業の質問を閲覧することとする。これらによって学生からの質問等の見逃しを防ぐものとする。

質問等に関しては、原則として 24 時間以内、最長でも 48 時間以内（大学が定める休日を除く）に内容を仕分けし回答を行う。内容は指導補助者が仕分け回答を行うが、指導補助者が回答できない場合については、担当教員に相談し、担当教員が行うものとする。

この他、個別相談として、定期的なオフィスアワーを設定し、同期双方向の質問・相談の機会を設ける。また、学生は LMS から教員に対して直接メッセージをいつでも送信することができる。

③ 履修に関する質問・相談対応体制

学生のキャリア希望に対応した履修の仕方、学修の進め方などについては、学生が履修計画に基づいて生涯を通じたキャリアデザインを描けるように支援する体制をとる。具体的には、4 年間を通じて行われる授業科目「ポートフォリオⅠ（1 年次）」「ポートフォリオⅡ（2 年次）」「ポートフォリオⅢ（3 年次）」「ポートフォリオⅣ（4 年次）」で履修計画作成、点検、ならびにポートフォリオによる学修成果の蓄積とショーケースによる学修成果の活用を行う中で支援する。これらの授業科目を通じて、すべての学生が、入学から卒業まで、アカデミック・アドバイジングとキャリア支援の一貫した支援を受ける体制がある。

学生は、この授業科目の中で個別の相談ができる他、LMS 上に設けたアカデミッ

ク・アドバイジング専用の窓口を通じて個別の相談を行うことができる。また、Web会議システムによる相談の予約をすることもでき、同期型での相談も可能とする。就職に直結する支援については、適宜、担当部門に振り分ける。【１７．社会的・職業自立に関する指導等及び体制】

④ 通信技術・手続き等に関する相談対応体制

LMS や通信技術などに関する問い合わせや各種トラブル発生時に備え、LMS の管理運営等の役割を担う担当者を配置し、管理担当者が学生だけでなく、教職員からのシステムに関する各種問い合わせに対応する。また、必要に応じて事務局内で連携して対応する。

その他の事務的な手続き（各種事務手続き、各種証明書の発行、奨学金手続き、健康管理手続きなど）に関しては、事務の手続きの種類に応じて、自動または事務局にて対応する。必要に応じて電話等での対応も実施する。質問を受けてから回答までに要する時間は、原則 24 時間以内（大学が定める休日を除く）とし、最長でも 48 時間以内に適切な方法で回答を行う。また、問合せについては、LMS 上に FAQ として事前に掲示すると同時に、受け付けた質問は定期的に整理して FAQ に組み入れ学生の利便性と事務局の負担軽減を図る。

8）情報通信機器等の整備

本学部の学生がレポートやその他課題の提出を行うための LMS を整備する。本学部で使用する主な添削指導教材は電子データであり、学生は LMS にファイル（Word、PowerPoint、Excel、アプリケーションファイル、プログラムファイル、場合によっては短時間（3 分以内）の自撮り動画等）として提出し、指導教員がそれらを添削し、指導コメントを書き込むなどして学生に返信する運用となる。そのため、添削指導教材及び通信指導教材を学生に発送することはない。なお、推薦図書、参考図書等については学生に提示し、学生自らが必要に応じてこれらを調達する。

また、学生が在学期間中に提出するレポートや添削指導された成果物等については、保管場所として、ポートフォリオを整備する。これにより学生は、自らの学修成果をいつでも振り返り、活用することが可能となる。

また、本学部が導入する LMS の運用は、外部システム業者へ委託することから、LMS を全体的に管理する者を配置し、この委託業者とのやり取りを担うと共に、LMS を利用する学生及び教職員から出される操作上の質問にも対応し、より最適に利用できるシステムの構築に向けた委託業者への要請・折衝等を通じて日々の改善を図る。

なお、LMS の運用に際し、委託業者とは①情報・データの取り扱いに関する契約、②秘密保持契約、③SLA 契約を締結し、情報の取り扱いには厳に管理・対応していく。

9）教員の負担の程度

本学部の教育の特色は、LMS を通じて行うメディア授業である。通学課程での面接授業とは異なり、学生指導を含むすべての教育研究指導を LMS またはメール、オフィスアワーを利用したオンラインミーティングで行うが、教員の負担の程度は、従来型と同等となる。各教員が担当する単位数は、半期で 4 ～ 6 単位程度になる計画となっている。また、学生 44 人に対して 1 名の指導補助者を配置する（開学時には 21 人、完成年度には 82 人を配置予定)。【資料 22】「完成年度における教員の勤務モデル表」

10）入学者選抜の概要

① 基本的な考え方

入学資格は、学校教育法第 90 条の規定により、高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、若しくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

本学部における入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入れの方針を明確にするものとする。

② 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

・本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人
・本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人
・自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人
・大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有している人

③ 入学者選抜の方法

本学部の入学者選抜は、一般選抜にて入学者を選抜することとし、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき選抜する。

なお、外国語を母語とする外国人留学生の受け入れについては、入学資格を外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者とし、以下のとおりとする。本学部への入学を理由とした留学の在留資格は認められないことを周知し、その上で外国籍の方が入学を希望する場合については、日本人同様の一般選抜にて選考を行う。ただし、本学部ではすべての授業を日本語で行うため、受講に必要な日本語能力を十分に有し、以下のいずれかに該当することを出願資格として設ける。

1.日本語能力試験「Ｎ２（旧２級)」以上に合格した者
2.日本留学試験の「日本語」(記述を除く）の得点が 200 点以上の者

また、入学手続時には経費支弁書や収入等経済状況を確認できる書類を提出させ、経費支弁能力を確認する。入学後については、LMS へのアクセスによる在籍確認を行いながら、本学研究科にて実施してきた留学生対応のノウハウを活かすために、研究科学生課と連携し、留学生対象オリエンテーションの実施や正課外で行うビジネス日本語講座等の日本語学習フォロー等を行っていく。また、学生課にて定期的な面談をしながら個別に留学生の学修フォローを行っていく。

④ 判定方法

本学部では、受験希望者に対して出願書類として調査書及び志望動機書の提出を求めることとしており、判定については、以下の内容で評価基準を設け、調査書及び志望動機書に基づく書類選考により行うこととする。

●志望動機書について

出願書類として提出を求める「志望動機書」については、400 字以上 800 字未満とし、本学部を志望する理由について以下の内容を含め記載させる。

【高校生】
①志望動機の根拠となる高校在学中の経験や体験について
②本学部入学後の学修目標や身につけたい能力について
③本学部卒業後に就きたい職業や目指す人物像等について

【社会人・留学生】
①志望動機の根拠となる実社会での経験や体験について
②本学部入学後の学修目標や身につけたい能力について
③本学部卒業後、身に付けた能力をどのように活かしていきたいか

①、②より志望動機の根拠となる明確な事実や経験・体験があり、説得力と意欲が感じられるかどうか、②、③により社会貢献の視点を持った明確な目標を有しているかどうかを確認し、評価を行う。また、自分の考えや意見をわかりやすく明確に表現できているかどうかについても確認し、併せて評価を行う。

●調査書について

高校生、社会人ともに提出を求める高等学校調査書においては、各教科の学習成

績の状況及び単位取得状況を確認することで、大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有しているかを判定する。保存期間を過ぎている等の理由により調査書を提出できない場合、社会人については高等学校の単位修得証明書や最終学歴の卒業証明書・単位修得証明書の提出を求め、それによって判定を行う。

なお、高等学校卒業程度認定試験合格者については、合格証明書および合格成績証明書によって判定を行うものとする。留学生も日本人に準ずることとし、最終学歴の出身校が発行した日本語または英語による卒業証明書・成績証明書の提出を求める。

これにより、以下のとおり入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に照らし合わせながら、客観的で公平・公正な評価を行っていく。

① 志望動機書の内容を基に評価を行うもの

「本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人

「本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人」

「自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人」

② 調査書等を基に評価を行うもの

「大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有している人」

11）教育上の配慮

4 月からの入学時期に対して入学オリエンテーションを実施し、履修指導にあたる。4 月入学時に入学定員を満たさなかった場合には 10 月入学を想定しており、4 月に行うものと同等の入学オリエンテーションを 10 月に実施する。また、10 月入学者向けの履修モデルを作るなどの配慮を行う。

遠隔地で学ぶ本学部の学生に配慮し、図書館には電子書籍を整備する。電子書籍利用のために、EZproxy サービスを導入し学外からでも閲覧に支障のない運用を構築する。電子書籍は地理的、時間的制約なく利用することが可能となるため、利便性・公平性が高い。また、紙媒体の書籍利用については、図書館ホームページを通じて貸出し申請を受け付ける仕組みを設け、郵送サービスにより貸し出すこととする。図書の郵送サービスについては、図書館司書とは別に図書館補助者を配置する。最大貸出冊数 5 冊、貸出期間 2 週間とするルールを設定し、学生への貸し出し時の郵送料金は学生負担（着払い）、返却時の料金は大学負担（貸し出し時に返却用封筒同封）とし、利便性・公平性

を確保する。また、学生の返却時に使用する返却用封筒は、「ゆうパック」を使用し、配達状況が追跡でき、損害賠償保証の適用となる対応とする。なお、辞典・辞書・禁帯出図書・定期刊行物（新聞・雑誌等）の貸し出しは行わない。

12）映像教材等の制作の具体的な計画

① 作成体制

映像教材は、担当教員、インストラクショナルデザイナー、映像担当者が協業して作成を行う。

□映像教材の特徴

本学部の教材は映像を基本とし、インストラクショナルデザインを採り入れた映像教材とする。科目毎に科目オリエンテーションコンテンツ（シラバスやその科目の学修ガイドを集めた授業回ではないコンテンツ）を置き、学修のしやすさを図るものとする。必要に応じてアバターを出演させるなどの学生が飽きない要素も取り入れる。

□映像教材作成プロセス

①基本設計（シラバス）（授業担当教員・インストラクショナルデザイナー）
（チェックリストに基づく確認）

②詳細設計（シラバスシート）（授業担当教員・インストラクショナルデザイナー）
（チェックリストに基づく確認）

③作成スケジュール調整と科目オリエンテーション動画の作成【1 日】

④作成【授業 1 回分で 5 日】

(1) 授業教材作成（授業担当教員）
(2) 授業教材の修正（授業担当教員・インストラクショナルデザイナー）
(3) 修正の確認（映像担当者）
(4) 著作権チェック（授業担当教員・教務担当）
(5) 映像教材編集（映像担当）
(6) 映像教材の確認（授業担当教員・教務担当）
(7) LMS 設定（授業担当教員・LMS 担当）

授業担当教員は、シラバスの作成時に、通信教育の手段でも十分に学修効果が得られる参考図書等を選定する。また、著作権については、教材・台本作成時点でチェックリストを用いて確認を行い、著作権侵害がないかを確認し、必要に応じて外部専門家への確認依頼や、必要な著作権許諾を得た上で映像教材を作成するものとする。

② 作成計画

上に述べたプロセスに沿って担当教員とインストラクショナルデザイナー、映像担当が連携してメディア授業の映像教材の作成を行う。1単位（8回分）の映像教材を完成させるまでの期間は、教員の準備期間を含めて約3ヶ月、2単位（15回分）では約5ヶ月を想定している。映像教材は同時並行で作成を行っていく。

初年度に開講するメディア授業の映像教材　科目については、令和8年3月までに完成させる。具体的な計画は以下の通りである。

① 2026年度（令和8年度：初年度）に開講するメディア授業科目（30科目）

・2025年（令和7年）2月末までに
　シラバスの完成（「参考図書」等選定（又は作成））
　授業の先行作成の開始（1科目）
・2025年（令和7年）2月から
　映像教材作成開始
・令和8年（2026年）2月末までに
　1年次配当の映像教材の作成完了（30科目）

② 2027年度（令和9年度：2年目）に開講する授業科目（49科目）

③ 2028年度（令和10年度：3年目）に開講する授業科目（53科目）

④ 2029年度（令和11年度：4年目）に開講する授業科目（13科目）

③ 収録施設・設備

情報通信技術の発達により、スタジオなどの大規模な設備を使用せずに映像制作を行うことができるようになっていることから、本学部では、主に、PCのカメラを通して撮影した授業動画・プレゼンテーション動画をベースに映像教材を作成する。

授業の映像教材作成にあたっては、作成前に、インストラクショナルデザイナーが授業担当教員に授業構成や授業方法を確認する。授業担当教員は、授業教材を作成し、これが、映像教材のベースとなる。このベースを基に、映像教材を制作する。

このような方法により、コンテンツの作成や更新に迅速に対応することも可能となる。

④ 著作物利用に関する管理体制

本学部における著作物利用に関する管理体制を説明する。

まず、図書等を通信教育で活用する場合の著作物の取扱いについては、改正著作権法第35条を踏まえ、学部設置認可後、授業目的公衆送信補償金等管理協会へ申請、登録を行うこととしている。

次に、同協会へ報告する権利者に対する補償金の分配に向けた利用報告書の作成については、教務担当が映像教材作成時に著作権チェックを行うこととし、その結果

を適切に管理する。その結果を基に、LMS を管理している業者と連携し、アクセスログから利用実態を抽出したものと照合させ、利用報告書の完成に至るものとする。

13）教育デザイン研究所

教育の質を保証するために、教育デザイン研究所を設け、映像教材制作部門、学修デザイン・支援部門を置く。映像教材制作部門には映像ディレクター、編集担当者を配置し、担当教員が作成した授業教材を基に、映像教材を製作する。学修デザイン・支援部門には、本学部のオンデマンド型の通信教育を効果あるものとするため、インストラクショナルデザイナーを配置する。インストラクショナルデザイナーは、オンライン授業の質向上をめざし、授業担当教員との協業によるオンライン授業の開発、指導補助者の研修、教授法の研究など、効果・効率・魅力を兼ね備えた質の高いオンライン授業を生み出すための支援・研究を行う。

14）システム障害への対応

本学部のシステムは、Azure Monitor を使用して、サーバ状態の監視を行っている。収容定員である 3,600 人が LMS を同時利用できるように、それに対応したスペックのサーバにて運用を行っている。基本的には障害が起きないように設計すると共に、万が一障害が発生した場合にも対応すべく、サーバを複数台構築しての運用、随時メンテナンスを予定し障害にも即座に対応することで、学修に支障が出ない環境を構築・提供していく。また、利用の状態に応じて冗長化できるように構成している。なお、サーバ負荷などの検知は常時監視するようシステム化し、閾値を超えた場合にアラートを発生させる仕様となっている。万が一、LMS の利用に支障が出ると予測される場合には、LMS と別に配置しているポータルサイトを通じてサービス遅延や停止のお知らせを学生に告知していく体制を整備する。

前述のように、メンテナンスは随時行うよう計画している。メンテナンス内容としては、バグの解消、機能追加、セキュリティパッチの適用、脆弱性の対応、ヴァージョンアップなどを行う計画である。随時メンテナンスを行うことで、バグなどの障害に即時対応することを目的としている。対応する際には、必ず事前告知を行うこととしている。また、バックアップは日次バックアップ 5 日分とデータベースの取得を行う計画であり、障害発生時に対応するための体制を整えていく。随時メンテナンスを行う際は、学修に支障の無いように配慮し、大がかりなメンテナンスを実施する場合は、予め日時を計画し、こちらも必ず事前告知を行って実施することとしている。

15）セキュリティ上の安全性の担保に向けた取り組み

セキュリティ上の安全性を担保するため、本学部のシステムは Azure 上でサーバ運用を行い、一定基準の安全性を確保している。また、全ての通信は SSL による暗号化通信を基本とし、データの機密性を担保している。外部からアクセスできるシステムのポート

は制限しており、定期的に脆弱性診断を行うことで、外部からの不正アクセスを防止する環境を構築している。

さらに、学術認証フェデレーションへの加入および UPKI クライアント証明書を導入し、ユーザーの認証情報をより安全に管理して、ネットワークシステム全体のセキュリティを向上させる。

上記の考え方と取り組みを基本として、情報セキュリティ対策基本方針および情報セキュリティ対策基本規定を制定し、情報システムの運用に関する権限と責任を持つ最高情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ対策に係わる教育実施計画の策定およびインシデントに対処するための情報セキュリティ実施責任者を配置し、情報セキュリティ対策等の審議を行う機能を持つ委員会を設置する。

開学後の実運用では、LMS に関する学内システム管理者およびシステム会社の担当者と密に連携を取り、セキュリティ体制について定期的に PDCA を回しながら運用していく。

情報セキュリティ実施責任者はセキュリティに関する外部講習会に参加し、FD 研修・SD 研修にて教職員に浸透させ、学修者に対してもお知らせを通じて周知させるとともに、単位外のセキュリティ講習会をオンデマンド形式で受講させることにより、全体でのセキュリティ体制を構築していく。万が一、セキュリティインシデントが発生した場合は、学内システム管理者とシステム会社の担当者が情報連携し、最高情報セキュリティ責任者の指示のもと、対策チームを発足させ対応にあたり、今後の対策を委員会で検討し実行する。なお、学内システム管理者とシステム会社の担当者が速やかに連携できるよう連絡手段を設定し、学内での緊急連絡体制および学生への連絡体制を明確にしておき、緊急時に備えておく。

９．取得可能な資格

本学部の教育課程を修了することによって取得可能な資格は設定しないものの、本学部の教育課程と関連性が高い以下の資格は、学生の卒業後の様々な社会活動、経済活動において、有益であると考えられるため、資格の取得を推奨する。また、資格の取得を希望する学生に対しては、本学部にて準備する株式会社ウイネットが提供する e ラーニング教育サービス「Web トレーニング」を提供し、事務局キャリア支援課にて学生を支援する。

○基本情報技術者試験　独立行政法人情報処理推進機構

１０．入学者選抜の概要

１）基本的な考え方

入学資格は、学校教育法第 90 条の規定により、高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、若しくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

本学部における入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入方針を明確にするものとする。

入学者選抜においては、本学部の教育理念に共感し、多様な価値観や自分と異なる感性を柔軟に受け入れ、社会・地域に貢献したいと考えている学生を積極的に幅広く受け入れる。また、社会に出た経験（就業経験）を有する 18 歳以上の者を社会人と定義し、それらの学生も広く受け入れる。

具体的な入学にあたっては、公式ホームページや学校説明会、学校案内書で学部・学科の教育内容、履修方法等を示すとともに、事務局事業推進課において入学前の相談にも応じ、学修目的を持たせたうえで、志望動機などを確認していく。入学者選抜は、志望動機の明確さ、入学を希望する学部への理解度、将来目標といった観点より、総合的に判断していく。以上を踏まえて下記の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

2）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

・本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人
・本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人
・自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人
・大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有している人

3）入学者選抜の方法

本学部の入学者選抜は、一般入試にて入学者を選抜することとし、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき選抜する。

なお、外国語を母語とする外国人留学生の受け入れについては、入学資格を外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者とし、以下のとおりとする。本学部への入学を理由とした留学の在留資格は認められないことを周知し、その上で外国籍の方が入学を希望する場合については、日本人同様の一般選抜にて選考を行う。ただし、本学部ではすべての授業を日本語で行うため、受講に必要な日本語能力を十分に有し、以下のいずれかに該当することを出願資格として設ける。

1.日本語能力試験「Ｎ２（旧２級）」以上に合格した者
2.日本留学試験の「日本語」（記述を除く）の得点が 200 点以上の者

また、入学手続時には経費支弁書や収入等経済状況を確認できる書類を提出させ、経費支弁能力を確認する。入学後については、LMS へのアクセスによる在籍確認を行いながら、本学研究科にて実施してきた留学生対応のノウハウを活かすために、研究科学生課と連携し、留学生対象オリエンテーションの実施や正課外で行うビジネス日本語講座等の日本語学習フォロー等を行っていく。また、学生課にて定期的な面談をしながら個別に留学生の学修フォローを行っていく。

4）判定方法

本学部では、受験希望者に対して出願書類として調査書及び志望動機書の提出を求めることとしており、判定については、以下の内容で評価基準を設け、調査書及び志望動機書に基づく書類選考により行うこととする。

●志望動機書について

出願書類として提出を求める「志望動機書」については、400 字以上 800 字未満とし、本学部を志望する理由について以下の内容を含め記載させる。

【高校生】
①志望動機の根拠となる高校在学中の経験や体験について
②本学部入学後の学修目標や身につけたい能力について
③本学部卒業後に就きたい職業や目指す人物像等について

【社会人・留学生】
①志望動機の根拠となる実社会での経験や体験について
②本学部入学後の学修目標や身につけたい能力について
③本学部卒業後、身に付けた能力をどのように活かしていきたいか

①、②より志望動機の根拠となる明確な事実や経験・体験があり、説得力と意欲が感じられるかどうか、②、③により社会貢献の視点を持った明確な目標を有しているかどうかを確認し、評価を行う。また、自分の考えや意見をわかりやすく明確に表現できているかどうかについても確認し、併せて評価を行う。

●調査書について

高校生、社会人ともに提出を求める高等学校調査書においては、各教科の学習成績の状況及び単位取得状況を確認することで、大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有しているかを判定する。保存期間を過ぎている等の理由により調査書を提出できない場合については高等学校

の単位修得証明書や最終学歴の卒業証明書・単位修得証明書の提出を求め、それによって判定を行う。

なお、高等学校卒業程度認定試験合格者については、合格証明書および合格成績証明書によって判定を行うものとする。留学生も日本人に準ずることとし、最終学歴の出身校が発行した日本語または英語による卒業証明書・成績証明書の提出を求める。

これにより、以下のとおり入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に照らし合わせながら、客観的で公平・公正な評価を行っていく。

①志望動機書の内容を基に評価を行うもの

「本学部の教育理念に共感し、オンラインでの学修に積極的に取り組む意欲のある人

「本学部で学修する知識とスキルを活かして地域社会や国際社会に貢献したいと考える人」

「自分の考えや意見を他者に対して表現することができる人」

②調査書等を基に評価を行うもの

「大学での学修に必要な基礎知識として、高等学校卒業程度の基礎知識（特に「数学」「国語」）を有している人」

5）選抜体制

本学部における入学者選抜は、教職員によって構成される「入試・広報委員会」が入学者の選抜方法、実施体制等を立案する体制になっている。具体的な選抜試験の実施は学部教員が担当し、合否の判定は入試委員会にて原案を作成し、学部教授会で審議の上、学長が決定する。なお、開設初年度の入学生の選抜においては、教員組織が成立していないため、教員予定者による「臨時委員会」を設置し、この委員会での合否原案作成、審議等を行った上で学長が決定する。

6）科目等履修生や聴講生等、正科生以外の受入れ

本学部は、正科生以外の区分として科目等履修生、聴講生、特修生を設け、様々な目的をもつ学生の受入れを行う。各区分の詳細は以下の通りである。

なお、下記記載の「教育研究に支障のない場合」とは、収容定員を満たしていない場合を意味する。また、正科生以外の受け入れは、完成年度以降に行うものとしており、受け入れる人数の想定は、収容定員に対する欠員数となる。

①科目等履修生

科目等履修生は、本学部の学生以外の者で、本学部の一又は複数の授業科目の履修

ができ、期末テストに合格すると正規の単位を付与するものである。本学の出願資格を満たす者を対象とし、教育研究に支障のない場合に限り書類選考による選考の上、学部教授会の審議を経て学長が入学を許可する。なお、科目履修生は本学部教育研究に支障のない範囲で若干名受入れることとし、その在籍期間は6カ月とする。また、在学期間の延長を可とする。

②聴講生

聴講生は、本学部の学生以外の者で、本学部の一又は複数の授業科目の履修ができるものの、期末テストは実施せず、単位を付与されないものである。本学部の出願資格を満たす者を対象とし、教育研究に支障のない場合に限り書類選考による選考の上、学部教授会の審議を経て学長が入学を許可する。聴講生の在籍期間は6カ月とし、在学期間の延長を可とする。

③特修生

特修生は、満15歳以上で学ぶ意思のあるものに本学部における教育機会を提供するもので、単位は付与されないものである。所定の出願条件を満たすものを対象とし、教育研究に支障のない場合に限り生年月日を証明する書類を含む書類選考による選考の上、学部教授会の審議を経て学長が入学を許可する。特修生の在籍期間は6ヶ月とし、在学期間の延長を可とする。

１１．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

１）教育研究実施組織の編制の考え方、方針

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）は、組織として研究対象とする学問分野を工学分野の情報学とし、この教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編制としている。なお、大学通信教育設置基準が規定する収容定員3,600人の学部設置の必要基幹教員数は21人であり、これを満たしている。

具体的な教員組織の編制では、「情報学」を専門とする基幹教員を中心とした教員組織としているとともに、専門教育科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授11名及び准教授6名、講師3名、助教2名を配置し、合計22名の基幹教員体制を計画している。

専門分野別では、教育工学分野に2名、情報・工学系分野に19名、ビジネス系分野に 1 名を配置している。年度ごとの教員組織の整備計画については、開設年度の令和８年度は教育工学分野に2名、情報・工学系分野に15名、ビジネス系分野に1名となり、情報・工学系分野の教員が完成年度に対して4名不足するものの、開設年度は基礎教育科目が中心となり、専門教育科目の大半は令和９年度以降の配置となることから、

教育研究実施に支障はない。また、この完成年度に対して不足する情報・工学系の教員4名は、令和9年度に全て就任することとしており、令和9年度以降においても教育研究実施における支障はない。

コロナ下において、基幹教員10名は、ネットを活用したオンライン授業の経験を有している。

2）主要授業科目への教員配置

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）における教育上主要と認める授業科目への基幹教員の配置について述べる。次の科目を主要科目と定めた。基礎教育科目の学修基盤の区分の必修科目「PBL入門」「生成AI活用」(2科目)、専門教育科目の情報・工学系の必修科目「Linux入門」「プログラミング基礎」「コンピュータアーキテクチャⅠ」「ソフトウェアアーキテクチャⅠ」「データサイエンス入門」「ソフトウェア開発Ⅰ」「デザイン思考」「サービスデザイン」(8科目)、専門教育科目のビジネス系の必修科目「経営学基礎」「プロジェクトマネジメント入門」(2 科目)、専門教育科目の演習系の必修科目「DXプロジェクトⅠ」「DXプロジェクトII」「DXプロジェクトIII」(3科目)。これら合計15科目については、全て基幹教員を配置した。

3）教員組織の年齢構成

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）の教員組織の年齢構成については、開設時点では30歳～39歳の基幹教員2名、40歳～49歳の基幹教員2名、50歳～59歳の基幹教員4名、60歳～64歳の基幹教員5名、65歳以上の基幹教員4名により構成（令和8年度より就任予定の基幹教員5名除く）することとしている。また、完成年度の3月31日時点においては、30歳～39歳の基幹教員0名、40歳～49歳の基幹教員2名、50歳～59歳の基幹教員7名、60歳～64歳の基幹教員3名、65歳～69歳の基幹教員6名、70歳以上の基幹教員4名による構成となることから、開設時点よりも65歳以上の基幹教員が6名増加することとなる。

本学の就業規則においては、講師以上の定年を満65歳と定め、定年年令に達した年の年度末をもって退職することとしているため、開設時点で65歳以上の4名の教員及び完成年度までに65歳以上となる5名の教員については、この規則に抵触する。しかしながら、該当する教員は開設時点からの安定的な学部運営のために、学校法人新潟総合学園就業規則 9 条を踏まえ、年齢条件を設定せず、情報学分野に関する教育研究において経験豊富な実績と実力を考慮した採用であり、これらの基幹教員を中心に教員組織の充実化が図れることから、教育研究水準の維持・向上及び教育研究の活性化に支障がない構成である。なお、完成年度までにこの規則に抵触する 9 名の基幹教員を別記様式第3号（その3）別添資料の採用根拠としている「学校法人新潟総合学園教育職員等就業規則附則3」により定年延長する。【資料 23】「学校法人　新潟総合学園就業

規則　抜粋」

4）完成年度以後の基幹教員組織構想について

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）の完成年度以後の教員組織構想については、開設後4年間の若手中堅教員の育成状況を踏まえた学内昇格や新規採用などの教員組織に関する中期的な人事計画を策定することとし、開設時の基幹教員の半数を新規採用の基幹教員によって構成する計画とする。

また、完成年度以降は教員の退職時期を予め考慮のうえ、後任者については、「①科目に適合する教員を採用する」、「②公募により広く適任者を求め公正な採用を行う」、「③学内教員の昇格によって補充する」ことに留意した採用とするとともに、学部内の若手中堅教員の育成状況を鑑みたバランスのとれた年齢構成、教員組織の継続性確保に留意した採用を行い、更なる教育研究水準の維持・向上、教育研究の活性化を図るものとする。

特に本学部は基幹教員の年齢構成が高齢に偏っていることを踏まえ、教育研究実施組織の将来構想については、教育研究活動の継続性を維持していくため、若手教員の確保に重点を置いた採用計画、若手教員の育成を行う。

具体的には、2029 年度末時点で満 65 歳以上の教員 11 名（このうち、教授 6 名）については 2032 年度末までに全員が雇用契約期間満了の見通しであることから、こちらの教員の補充を若手教員の採用、学部内の職位昇格によって行うことにより、開設時点の基幹教員 21 名（このうち教授 11 名）を維持し、教育研究活動の水準を確保する。なお、2030 年度以降は、教育研究活動のさらなる充実、高齢教員の経験豊富な実績と実力による若手教員の育成を継続すべく、基幹教員数を 23 名に増員、2032 年度には教授数を 12 名に増員した教育研究組織を目指す。

（図表 1 、図表 2 参照）

（図表 1 ）完成年度（2029 年度末）以降の基幹教員組織構想

教員配置計画	2030 年度～2033 年度
雇用契約期間満了	・2029 年度末時点で満 65 歳以上の教員 11 名のうち、4 名は 2030 年度末雇用契約満了、4 名は 2031 年度末雇用契約満了。3 名は 2032 年度末雇用契約期間満了。
昇格予定	・情報工学分野の講師・准教授 5 名について、教育研究業績等の評価に基づき准教授・教授に昇格予定。

新規採用	・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、情報学分野に関する研究実績を有する中堅の教授を 4 名、中堅の准教授を 3 名、若手の講師を 3 名採用予定。 ・公募等により、博士の学位、教育工学分野に関する研究業績を有する中堅の准教授 1 名を採用予定。 ・公募等により、博士の学位、大学等におけるビジネス分野に関する研究実績を有する中堅の教授 1 名、若手の講師 1 名を採用予定。 ・上記を通じ 13 名の基幹教員を新規採用。

（図表２）完成年度（2029 年度末）以降の基幹教員組織構想（新規採用計画）

	2030 年度	2031 年度	2032 年度	2033 年度
基幹教員数	23（11）名	23（11）名	23（11）名	23（12）名
年度末 退任予定数	4 名	4 名	3 名	1 名
新規採用計画	・情報学分野 講師 1 名	・情報学分野 教授 2 名 ・情報学分野 准教授 1 名 ・ビジネス分野 講師 1 名	・情報学分野 教授 1 名 ・教育工学分野 准教授 1 名 ・ビジネス分野 教授 1 名 ・情報学分野 准教授 1 名	・情報学分野 教授 1 名 ・情報学分野 准教授 1 名 ・情報学分野 講師 2 名
昇格予定	昇格なし	・情報学分野 教授 1 名昇格 ・情報学分野 准教授 1 名昇格	・情報学分野 教授 1 名昇格 ・情報学分野 講師 2 名昇格	・情報学分野 教授 1 名昇格 ・教育工学分野 教授 1 名

１２．研究の実施についての考え方、体制、取組

1）研究に関する支援体制

研究の実施支援体制確立のため、研究委員会と教員組織および事務局との情報共有・連係の下、組織的な活動を実施する。具体的には、研究委員会については、月次の定例会議として実施し、教員組織および事務局職員が出席の下、進捗状況や重要な情報を共有する。また、進捗状況については専用のオンラインプラットフォームを設け、意見交換やテキストディスカッションを通じてメンバーとの対話を促進する。更には専門的なスキルや知識の向上を図るために、ワークショップや研修を不定期で実施し、知識の共有とスキルの向上を促進するとともに事業創造大学院大学にて院生向けに提供していた学術論文作成のための成果報告書作成マニュアル「研究論文作成の手引き」【資料 24】を本学部基幹教員向けに改編し、研究実施のための支援を行う。

研究の環境整備としては、学内に合同研究室を設け、全基幹教員が研究に取り組める環

境を確保するとともに、図書委員会と連携して、電子ジャーナルデータベースの利用状況の定期的な確認及び収蔵希望調査の定期実施を通じ、研究に必要となる文献確保に努める。

2）共同研究等に関する支援体制

企業との連携や共同研究等に関する支援体制については、研究活動を効果的・効率的に進めていくために、プロジェクトの企画・運営、知的財産の管理・運用等の研究支援業務を行う人材群であるリサーチ・アドミニストレーターの役割を担う職員を配置するとともに、知的財産に関する知識経験豊富な教員をアドバイザーとして配置し、社会連携課と連携して企業との連携体制や共同研究に関しての支援を行うこととしている。

具体的な支援内容については、契約書の作成・調整、知的財産等に関する企業との研究契約等の管理、研究費の調達支援や予算管理等の研究資金の管理、企業との窓口業務、研究者と企業担当者とのネットワーキング支援、研究プロジェクトのスケジュール・進捗管理、研究倫理やコンプライアンスの確認等を想定している。

次に、想定する推進体制や連携方法について、企業との連携においては、オンラインでの連携を中心としながら、必要に応じて、企業先へ出向き対面での打合せや共同研究を実施することを想定している。

3）研究テーマ

本学部では、社会実装と結びついた実践的応用を支えるため、以下のような基礎的・横断的な研究領域において、情報学的な理論、方法、構造の探究を重視している。

•ソフトウェア設計手法および生成 AI 支援ツールの応用に関する研究

設計過程における構造化とプロンプト生成との関係を理論的に検討し、人間と生成 AI 系の協調に関する設計モデルを構築する。

•ユーザー行動のモデル化と情報デザイン支援に関する研究

利用者の認知的プロセスや判断傾向を定量的に捉え、それに基づく設計指標や介入枠組みの抽出を目指す。

•AI・データサイエンスの適用とアルゴリズムの妥当性評価

機械学習モデルの説明可能性、推論誤差、バイアス制御といった観点から、適用の条件と限界に関する分析枠組みを整備する。

•ハードウェアアーキテクチャの設計・実装に関する研究

処理構造や応答特性、拡張性に着目し、新たな設計手法や構成案の提示を目指す。

•オンライン教育における学習支援設計と教育効果の評価に関する研究

オンデマンド型遠隔学習の実施環境に基づき、学習行動の観察、教育支援設計の分析、教育成果の構造化を通じた教育工学的知見の蓄積を図る。

１３．施設、設備等の整備計画

本学は、新潟県新潟市の中心部に位置する JR 新潟駅から徒歩 5 分というアクセス至便な場所に位置し、10 階建て延べ床面積 3,702.7 ㎡の校舎を備えている。校舎は、学長室、事務室、医務室、研究室、大講義室 1 室、講義室 3 室、ゼミ室 9 室、図書館、学生控室（リラックスルーム)、自習室等を備えている。

学内には Wi－Fi 環境が整備されており、教室、図書館、学生控室、研究室等のどこからでもフリーでアクセスすることができる。大学では、多様な学生の学修や研究時間に対応するため、朝 9 時から夜 22 時まで開館している。

１）校地、運動場の整備計画

情報デザイン学部は、全ての授業をメディア授業で行う、全国の学生を対象とした通信教育課程の学部であるため、学生は来学することなく学位の取得が可能となることから、運動場を必要とする科目は開設しない。したがって、本学部開設に伴う運動場の設置は行わない。

２）校舎等施設の整備計画

①校舎の整備

情報デザイン学部情報デザイン学科（通信教育課程）設置に伴う校舎等施設の整備計画については、現在、本学にて法人事務局として使用する 5 階フロアの全体と 4 階フロアの一部を転用して改修する計画となっている。

5 階フロアは、大会議室として使用していた（108.55 ㎡）を学部事務室に、法人本部事務室として使用していた（72.20 ㎡）と役員室（50.20 ㎡）を情報デザイン学部デザイン学科の基幹教員 22 名の合同研究室に、倉庫として使用していた施設（55.88 ㎡）を学生と教員の面談等に使用する学生指導室、応接室にそれぞれ転用して改修する。また、複数人での共同作業が必要となる場合を想定して、法人事務室（50.02 ㎡）を教材制作室に転用して改修する。

4 階フロアの一部については、本来、本学部の教育課程において学生は通学を必要としないものの、一時的に学修環境を必要とする学生向けの自習室に転用して改修する。

なお、合同研究室は、定員 11 名の合同研究室①と定員 13 名の合同研究室②の 2 室を用意している。基幹教員は原則として、この合同研究室にて研究教育活動を行うものの、テストの採点や学生指導については、LMS 等のコンピュータ・インターネット上で実施することから、来学せず、基幹教員が各自で確保する研究拠点、活動場所にて対応することも可能である。また、学生が対面での指導を希望する場合、合同研究室ではなく、5 階フロアに設置する学生指導室にて行うことから、学生指導において支障はない。研究者の研究については、同研究室のほか、各教員の研究拠点、活動

場所にて行い、基本的に PC を使用した研究が主であり、広いスペースの必要性は高くない。なお、企業や団体等と連携した大規模な研究を行う場合は、企業が用意する施設や、大学周辺のレンタルオフィスの使用等を想定していることから、基幹教員の研究活動に支障はない。

②設備の整備

合同研究室は、机・椅子・書庫（鍵付き）の他にミーティングテーブルが配置されており、他の教員や学生とのコミュニケーションが図れるようになっている。なお、個人情報に関連する資料をはじめとする重要な書類については、各教員専用の書庫（鍵付き）に保管することを徹底する。

ネットワーク環境については、全館に安定的な接続が可能な Wi-Fi 環境が整備されているため、学生が本学を臨時で利用する場合に対応できるようになっている。

学部事務室には全職員が各自で使用する PC を配置し、各自が担当する業務を行う。

③図書等の資料及び学術メディアセンターの整備計画

本学部は通信教育課程であり、多くの学生が全国各地で学ぶことから、学生の図書館への来館利用は限定的であるものの、図書館利用希望者を見据えた図書館の整備を行う。現在、図書館は、研究科で学ぶ学生用にワンフロアに閲覧席と、開架書架を配置している。また、館内には無線 LAN によるインターネット接続が可能であるが、LAN ケーブル接続口や電源コンセントを有した閲覧席も用意し、PC を持ち込んでインターネット等を利用した学修を可能としている（全 52 席）。さらに、閲覧席とは別に情報検索席 1 席、PC 設置席 4 席、DVD 視聴席 2 席を設けており、本学部生はこれらの施設を利用する。

図書館の利用は、本学部の設置に伴い学部と研究科の共用となるものの、研究科の学生の利用時間が主に平日の昼間であり、本学部の学生の大半は社会人で夕方以降の利用が多くなることが想定される。また、遠隔地で学ぶ学生の利用が想定される土曜日は、研究科の授業がなく、研究科の学生の図書館利用も限定的であることから、本学部開設後の図書館の共用に支障はない。図書館には図書館司書 1 名と図書館補助者 1 名が在駐し、平日 9:30～21:45、土曜 9:30～17:15 の間開館の上、図書館利用者が学修・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答可能な体制を整えるとともに、ネットワークにより情報を共有し、学内外からの相互貸借の依頼・受付を行う。

また、本学より遠隔地に居住し、図書館の日常的な利用が困難な学生（主に通信教育課程の学部の学生を想定）に関しては、図書館ホームページを通じて図書の貸し出し申請を受け付ける仕組みを設け、申請された図書を郵送サービスの利用により貸

し出すことが可能となる。この郵送サービスについては、学生の利便性・公平性を最大限確保することとし、図書館補助者がメールでの受付により前日までの受付分を受付翌日に発送作業を行う他、最大貸出冊数 5 冊、貸出期間 2 週間を条件とした貸し出しルールを設定する。辞典・辞書・禁帯出図書・定期刊行物（新聞・雑誌等）の貸し出しは行わない。なお、学生への貸し出し時の郵送料金は学生負担（着払い）、返却時の料金は大学負担（貸し出し時に返却用封筒を同封）とし、利便性・公平性を確保する。また、学生の返却時に使用する返却用封筒は、「ゆうパック」を使用し、配達状況が追跡でき、損害賠償保証の適用となる対応とする。

図書の整備については、現在、図書館に配架された図書は約 1 万 4 千冊、学術雑誌 44 種、電子ジャーナル 220 種については、経営学を中心とした書籍であるため、学部開設に伴い主要な学問となる情報学に関する電子書籍「IT と現代ビジネス：実践から学ぶ経営・実務・技術」「情報学へのとびら」「新基礎情報学：機械をこえる生命」「情報科学入門」等を中心に 1,796 冊追加（和書（紙）905 冊、和書（電子）841 冊、洋書 50 冊）し、その後、段階的に充実させる。この電子書籍や電子ジャーナルは、インターネットを通じて遠隔地に居住する学生であっても利用が可能となると共に、利用する時間においても制約がなく、学生の都合のつく時間での利用が可能となることから、図書館の利用の有無に関わらず貸し出しが可能となる。【資料 25】「情報デザイン学部図書・雑誌等のリスト」

教員の研究環境の整備や学生の利用に向けては、インターネット上で提供されている論文検索サイト、電子ジャーナルが使用可能な環境を整備している。また、海外の電子ジャーナルについては、既に Emerald を導入しており、EZproxy を通じて学外より教員と学生が利用することが可能である。この電子ジャーナルは、日本最大級のビジネス総合情報データベース「日経テレコン２１」他、企業財務・マクロ経済データベース「日経バリューサーチ」、海外電子ジャーナルデータベース「emerald」、判例検索データベース「TKC ローライブラリー」、税務データベース「DHC Premium」、日本税務研究センターデータベース「JTRI」、「国立国会図書館デジタルコレクション」の図書館向けデジタル化資料送信サービス、NII 電子リソースリポジトリ「NII-REO」の利用が可能である。そして、これらデータベースの利用説明を毎期開催し、その利活用の推進を図っている。

１４．管理運営

教学面における管理運営体制としては、学部教授会のほか、大学運営に係る重要事項を審議する機関として総務会を設置し、適切な管理運営に努める。

本学部の管理運営をサポートする事務局は、5 階学部事務室の職員が担当する。同事務室の職員は学部の管理運営の庶務、学部の教務事務・授業管理及び教員の教育研究活動支援業務を行うとともに、学生の奨学金等についても担当し、円滑な学生生活を支援する。

1）総務会

総務会は大学の意思決定最高機関として本学の運営及び教学に係る全学的な重要事項を審議する場であり、経営、組織、人事、学則・規程の制定及び改廃などについて審議することとしている。【資料 26】「開志創造大学総務会規程（案）」

学長は、大学運営を総括する権限と責任を有し、「総務会」を主宰し、「総務会」で全学に係る次の事項（学則第 15 条第 3 項）を審議し、学長がこれを決定することとする。

① 教育研究の組織・体制の基本事項に関すること
② 教育研究環境の整備に関すること
③ 学則その他重要な規定の制定改廃に関すること
④ 教育職員人事に関すること
⑤ 学生の定員に関すること
⑥ 学生の生活、身分に関する重要事項
⑦ 学部及びその他機関の連絡調整に関すること
⑧ 学長が諮問する事項
⑨ 理事会が諮問する事項
⑩ その他大学運営に関する重要な事項

2）学部教授会

学部教授会（以下教授会という）は、学長及び当該組織に所属する基幹教員をもって構成することとし、毎月 1 回開催する。教授会は、議長に学部長を充て主に次の事項（学則第 17 条第 2 項及び第 3 項）について審議を行い、学長が決定を行うに当たり意見を述べる。学長は教授会の意見をもとに最終決定を行うこととし、学長のリーダーシップによるガバナンスのもとで、適正な管理運営に努めることとする。【資料 27】「開志創造大学教授会規程（案）」

① 教育課程及び履修方法に関すること
② 学生の入学、退学、転入学、転学、留学、休学、復学、再入学、復籍
③ 課程の修了
④ 学位の授与
⑤ 学生の懲戒及び除籍

3）会議

学科会議は、当該学科の基幹教員と教授会が必要と認めた者で組織し、学科に関する独自の事項、教育・研究に関すること、教授会から付託された事項に関することを審議

することとする。【資料 28】「開志創造大学学科会議規程（案）」

４）学内委員会等

学部教授会の下部組織として教学等を審議するための以下の委員会を設置し、大学運営の健全性を担保する。なお、下記の委員会の他、大学運営管理のために必要となる各種委員会を研究科と合同で開催し、適切な管理運営体制を構築する。

① 教務委員会
教育課程、試験、修学支援、学籍異動等に関する重要事項を審議し処理する。

② 入試・広報委員会
入学試験、学生募集及び広報活動に関する事項を審議し実施する。

③ 学生委員会
学生の生活支援及び指導、修学上の経済的支援及び指導等に関して審議し実施する。

④ SD 委員会
教職員の学校運営能力・資質向上に関する事項を審議し実施する。

⑤ FD 委員会
学部の教育・研究内容及び教育方法の改善に関する事項を審議し実施する。

⑥ キャリア支援委員会
学生のキャリア形成及び就職活動等の進路支援に関する事項を審議し実施する。

以上、大学全体の管理運営体制に則り適切な管理運営を行う。

１５．自己点検・評価

本学は、学則第１条（目的）において「開志創造大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法を踏まえ、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを通じて文化・社会の発展に寄与するとともに、経済・産業の諸分野において貢献しうる幅広い職業人の育成を目的とする。」と定めるとともに、同２条（自己評価等）において、「本学は、その教育研究の向上を図り、第１条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と定めている。

以上の学則に基づき、本学の目的に照らして適切な教育研究活動が行われているか、自己点検・評価のための「自己点検・自己評価委員会」を設置し、以下の項目に基づき、定期的に教育研究活動状況や目標達成状況を把握及び評価し、その結果については学部教授会で審議するとともに、目標と現状との間に乖離があれば、教育研究活動の改善を行う。

更に、その結果は積極的に社会に公表し、社会の評価を受けることを通じて、教育内容や方法の不断の見直しや改善を図ることにより、自らの教育研究水準の一層の向上に努

めていくとともに、これらの効果をより明確化するため、自己点検・評価の結果について外部検証を行うこととしている。以下の項目は、自己点検・自己評価の基本方針を踏まえた重点項目である。【資料 29】「開志創造大学自己点検・自己評価委員会規程」

（１）大学の理念及び目的に関する事項
（２）教育研究組織に関する事項
（３）教員及び教員組織に関する事項
（４）教育内容、方法及び成果に関する事項
（５）学生の受入れに関する事項
（６）学生支援に関する事項
（７）教育研究環境に関する事項
（８）社会連携及び社会貢献に関する事項
（９）人権に関する事項
（10）管理運営及び財務に関する事項
（11）内部質保証に関する事項
（12）情報公開に関する事項

なお、認証評価については、2012 年度、2019 年度に、それぞれ大学機関別認証評価を受審した。学校基本法第 109 条第 3 項但し書きに従って公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審した結果、学校教育法第 99 条第 3 項に基づく大学院の基準に適合していると認定された。また、その結果については、ホームページで公表している。

次回の大学機関別認証評価の受審は 2026 年度を予定しており、従前の通り、その結果はホームページで公表する。

１６．情報の公表

本学は、在学生や受験希望者、学外の関係者、その他、広く社会の人々に本学の教育目的や内容、教育研究の様子など必要な以下の情報についてホームページ上で広く公表していくこととする。（専門職大学院を有しているため、学校教育法第83条の2 第2 項，第99 条第3 項及び第108 条第5 項による専門性が求められる職業に就いている者，当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況についての情報も含む。）

さらに、日本私立学校振興・共済事業団が実施する大学ポートレート（私学版）において、本学の特色や理念を実現するために実践している教育研究の取組を発信していく。

１）開志創造大学の理念
２）教育研究上の基礎的な情報
（１）学部、学科及び研究科、専攻科の名称及び教育研究上の目的
（２）基幹教員、専任教員数
（３）校地・校舎等の施設、その他の学生の教育研究環境

（４）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

３）修学上の情報等

（１）教員組織、各教員が有する学位及び業績

（２）入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数, 修了者数、進学者数、就職者数

（３）入試に関すること

（４）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

（５）学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっての基準

（６）学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

（７）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

４）財務情報

（１）計算書類

５）上記以外の情報

（１）教育研究上の情報

① 教育条件

② 教育内容

③ 学生の状況

④ 国際交流・社会貢献等の概要

（２）財務情報

① 全般的な財務状況の説明

② 会計科目の説明

③ 経年推移の状況

④ 財務比率と分析

⑤ 各種グラフ

⑥ 学校法人会計の特徴

（３）事業計画

① 事業計画書

② 事業報告書

（４）公的研究費

① 公的研究費の不正使用防止に関する規程

② 研究活動に係る不正行為防止に関する規程

③ 外部資金獲得状況

（５）自己点検評価・第三者機関大学評価

①2015 年度～2023 年度自己点検評価

②2010 年度、2015 年度、2020 年度経営系専門職大学院認証評価結果

③2012 年度、2019 年度機関別認証評価結果

（６）諮問委員会
（７）ガバナンス・コード

掲載ページを基に、今後情報を追加していく予定である。
http://www.jigyo.ac.jp/about/information/

１７．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

１）教育内容等の改善を図るための組織的な研修等（FD）

（１）FD 実施体制

教育理念の実現を目的として、教育・研究内容及び教育方法の改善、そして個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組む。具体的には、学部教授会のもとに FD 委員会を設置し、原則、毎月 1 回定例の FD 活動を実施して教育内容・方法の改善に取り組む。

また、今回の学部設置に伴い設置する教育デザイン研究所での研究成果（オンライン教材の開発、教授法の研究、指導補助者の研修等）を適宜 FD 委員会と共有し、教育内容・方法の改善に取り組み、授業・教育のシステム化による教育の効果的かつ効率化の可能性を追求する。

（２）FD 実施内容

① 教員の研究支援や教育力向上を目的としたFD研修会の開催
② 学生による授業評価アンケートの実施
③ 外部講師を招聘しての FD 活動
④ 教員授業の相互レビュー
⑤ 同法人内大学との共同研修会の開催
⑥ FD委員会での各種取組み結果の情報共有と改善計画の立案と実行
⑦非同期型メディア授業で学習効果を高める設計と実践についての研修
⑧非同期型授業の学習評価とフィードバックについての研修

（３）FD委員会実績（教員や外部講師による活動実績）

	実施日	講師	テーマ	参加人数
1	2023 年 7 月 19 日	新潟医療福祉大学副学長 大西 秀明 氏　ほか	2024 年度科研費学内説明会	6 名
2	2023 年 12 月 20 日	事業創造大学院大学教務委員長　一守 靖 氏	2024 年度シラバス執筆要領説明会	13 名
3	2024 年 7 月 17 日	新潟医療福祉大学副学長 大西 秀明 氏　ほか	2024 年度科研費学内説明会	19 名
4	2024 年 12 月 18 日	事業創造大学院大学教務委員長　一守 靖 氏	2024 年度シラバス執筆要領説明会	20 名
5	2025 年 1 月 22 日	情報デザイン学部（仮称）設置準備室　竹岡 篤永 氏 事業創造大学院大学教授 浅野 浩美 氏、杉本 等 氏	ハイフレックス授業に関する研修	25 名

（４）2025年度FD実施計画

①科研費説明会（2025年７月中旬）

②シラバス執筆要領説明会（2025年12月中旬）

③ハイフレックス授業に関する研修（2026年１月中旬）

２）管理運営に必要な教職員への研修等（SD）

（１） SD 実施体制

教職員に大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため必要な知識及び技能を修得させ、並びにその能力及び資質を向上させるために、「開志創造大学 SD 委員会規程」に基づいて、全学的に教職員対象の年間複数回の SD 研修を実施する。【資料 30】「開志創造大学 SD 委員会規程」

（２）SD 実施内容

教務、学生支援、総務、入試、学生募集、研究支援などの各分野の業務理解を深め、適切な大学運営に努めることとする。今後の益々の業務分野の広がりと職務の多様化・高度化に対応するために、大学職員に求められる能力開発に取り組み、組織的に教育研究の水準を高めていく計画である。

（３） SD 研修実績

2023 年度（令和 5 年度）、2024 年度（令和 6 年度）には、学長、副学長、教授等を

はじめとした全教職員を対象としたSD研修を以下のとおり実施している。

	実施日	講師	テーマ	参加人数
1	2023年 8月18日	一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）理事 野方 英樹 氏 ほか	教育機関における著作物利用と授業目的公衆送信補償金制度　ほか	32名
2	2023年 11月9日	日経メディアマーケティング株式会社 専門講師 佐倉 環 氏	データベース『日経バリューサーチ』における財務データの使い方、競合分析の調べ方	13名
3	2023年 12月20日	事業創造大学院大学副学長 黒田 達也 氏	大学教育現場における生成AI活用について	29名
4	2023年 12月22日	広尾レディース　院長 宗田 聡 氏	男性にも知ってほしい働く女性のメンタルヘルスケア	10名
5	2024年 7月4日	臨床心理士　公認心理師 精神保健福祉士　事業創造大学院大学カウンセラー　鈴木　陽子　氏	発達障害が強い方への理解･支援	31名
6	2024年 7月10日	エメラルドジャパン 江口　剛史 氏	英語電子ジャーナル『Emerald』の検索、活用方法について	11名
7	2024年 10月30日	カウンセリングルームさくら代表理事　小林　奈緒美 氏	ストレスフルな状況をストレスにしないためには	24名
8	2024年 12月18日	新居裕登 弁護士(名川･岡村法律事務所)、松村拓実 弁護士（同）	教職員間のハラスメント防止	23名

（４）2025年度SD実施計画

①英語電子ジャーナル「Emerald」説明会（2025年7月上旬）

②メンタルヘルス講習会（2025年10月下旬）

③リスクマネジメント講習会（2025年11月中旬）

④ハラスメント研修（2025年11月下旬）

１８．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１）教育課程内の取組

本学部では、学生の社会的・職業的自立を支援するため、専門教育科目の演習系科目においてDXプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲの科目を開設し、社会的・職業的自立に向けて適切な指導、および意識づけを行う。これらの科目においては、従来の働き方に加え、オンラインでの働き方が通常になった現代において、非同期、オンラインでのプロジェクト参加、運営の基本スキルを修得するとともに、「販売、製造、美容、農業など」におけるビジネスシーンを想定した情報の基礎知識や情報技術の活用を通じて、学生の社会的・職業的自立を支援する。

２）教育課程外の取組

①オンラインによる学生カウンセリング

カウンセリングを希望する学生に対して、オンラインプラットフォームを通じた、オンラインカウンセリングを実施する。オンラインカウンセリングを学生が希望する場合は、オンラインプラットフォームやメール等を通じた予約申し込みを事務局学生課宛てに行い、適切なカウンセリングを実施する。また、高度かつ専門的な対応を要する場合は、臨床心理士の資格を保有するカウンセラーが同席し、オンラインカウンセリングを実施する。なお、校舎内で対面でのカウンセリングを希望する学生に対しては、オンラインカウンセリング同様オンラインプラットフォームやメール等を通じた予約申し込みを事務局学生課宛てに行い、５階フロアに設ける学生指導室及び応接室にて、オンラインカウンセリング同様の対面カウンセリングを実施する。

②就職支援

学内にキャリア支援委員会を設置し、定期的に学生の就職に向けた課題の検討及び、情報共有を行うと共に、事務局内に設置する学生課を通じて、1年から4年までの間、定期的に学生の就職意向調査を実施し、その結果に基づいた適切な指導を実施する。

また、企業が学校、またその学校に在籍する学生へ向け、オンラインで求人情報をダイレクトに送付できるクラウドサービスであるキャリタスUC（無料プラン）を導入し、学生が就職活動を効率的かつ効果的に行えるよう支援する。

更には教員を中心に学生の就職先確保と情報収集のために活動する組織を編制し、情報・通信・システム関連の企業を主なターゲットに置き、新卒採用で就職を希望する学生が希望する業種や職種に就職できるように、対象となる企業との関係の強化、学部・学生の特徴を理解した上での求人開拓を実施する。

③実施体制の連携

上記記載の通り、学内においてキャリア支援委員会を配置し、学生の就職に向けた課題の検討及び、情報共有を行う。このキャリア委員会は授業を担当する教員と事務

局内に設置する学生課の職員によって構成することとし、教員と職員との適切な情報共有、学生フォローの実施による社会的・職業自立に向けた指導及び体制の構築を目指す。　【資料 31】「開志創造大学キャリア支援委員会規程」

3）適切な体制の整備について

本学ではキャリア教育・就職活動支援体制としてキャリア支援委員会を設置するとともに、大学構内に教務課キャリア支援室の拠点となるキャリア支援室を設け、組織的に指導・支援に取り組む。キャリア支援委員会及びキャリア支援室は、教員と事務職員が連携して進路指導、就職相談・指導、各種就職関連講座、就職先開拓等の就職支援活動に取り組む。

資料目次

【資料 1】「令和 3 年度版情報通信白書（第 1 部序章）〈抜粋〉」 p 3
【資料 2】『内閣府の政策「Society5.0 とは」』 p 8
【資料 3】「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（報告書概要版）
〈経済産業省　2016 年 6 月〉 p 9
【資料 4】「IT 人材白書 2020」 p 10
【資料 5】「IT 人材需給に関する調査」 p 12
【資料 6】「デジタルスキル標準 ver.1.1」 p 13
【資料 7】「DX レポート」 p 15
【資料 8】『都心のまちづくり「にいがた 2 ㎞」の覚醒』新潟市 HP 抜粋 p 16
【資料 9】大学通信教育課程定員超過率 p 18
【資料 10】大学審議会答申「グローバル時代に求められる高等教育の在り方について
－2012 年（平成 12 年）11 月 22 日－」 p 19
【資料 11】「デジタルガバナンス・コード 2.0」（経済産業省 2022 年 9 月 13 日改訂）
p 20
【資料 12】ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表 p 21
【資料 13】教育課程構造図（カリキュラムマップ）、履修系統図 p 25
【資料 14】LMS 機能一覧 p 28
【資料 15】ポートフォリオ機能一覧 p 31
【資料 16】履修モデル p 32
【資料 17】読み替えルール（案） p 35
【資料 18】編入学後の履修モデル p 36
【資料 19】開志創造大学情報デザイン学部ＦＤ委員会規程 p 38
【資料 20】LMS 操作マニュアル（教員用、学生用） p 40
【資料 21】開志創造大学指導補助者能力基準確認チェックシート p 274
【資料 22】情報デザイン学部完成年度における教員の勤務モデル表 p 275
【資料 23】「新潟総合学園就業規則　抜粋」 p 276
【資料 24】研究論文作成の手引き p 278
【資料 25】情報デザイン学部図書・雑誌等のリスト p 288
【資料 26】開志創造大学総務会規程（案） p 303
【資料 27】開志創造大学学部教授会規程（案） p 305
【資料 28】開志創造大学学科会議規程（案） p 307
【資料 29】開志創造大学自己点検・自己評価委員会規定 p 308
【資料 30】開志創造大学ＳＤ委員会規程 p 311
【資料 31】開志創造大学キャリア支援委員会規程 p 313

【資料 32】高校卒業者等への履修指導用資料（授業科目履修例）　p 315

序章 我が国におけるデジタル化の歩み

1990年代後半より、パソコン、インターネットや携帯電話などの情報通信技術が急速に普及する中、我が国では、2000年に情報通信技術戦略本部が設置され、IT基本法が制定されて以降、e-Japan戦略を始めとした様々な国家戦略等を掲げ、インフラ整備、ICT利活用やデータ利活用の推進等を通じて、デジタル化を推進してきた。

序章においては、このように大きな転換が生じた2000年頃以降について、我が国のデジタル化政策の歴史、社会におけるデジタル化の進展状況や国際指標での位置付けを概観するとともに、我が国のデジタル化が後れた原因を考察する*1。

1 我が国デジタル化政策の歴史

デジタル化と一口に言っても、私たちの生活・社会や企業、政府などの様々な分野においてデジタル化が進められてきている。様々な観点から整理することが可能であるが、ここでは、これまでの国家戦略等における目指す目標や重点的な取組の特徴から、2000年以降から新型コロナウイルス感染症の流行が拡大する2020年頃までをICTインフラの整備を進めた第一期、ICT利活用を推進した第二期、デジタルデータの利活用を推進する第三期、デジタル社会の構築を目指す第四期の4つの時代に区分し、それぞれの経緯を整理する*2（図表0-1-1-1）。

図表0-1-1-1 デジタル化の歴史

（出典）総務省作成

1 第一期：ICTインフラの整備

第一期では、世界的に進展する産業・社会構造の変化（IT革命）に対し、我が国全体として戦略的かつ重点的に取り組むための体制整備及び国家戦略の策定が進められた。この国家戦略では、世界最先端のIT国家となることを目指し、様々な具体的な目標が掲げられたが、特にICTインフラの整備が進められた時期である。ICT化を進めるためには、ICTインフラにより、インターネットを利用できる環境を整備することが不可欠であり、そのための取組が進められた。

ア e-Japan戦略（2001年）

1990年代後半、コンピュータや通信技術の急速な発展により社会、経済の大きな変革が世界規

*1 これまでの情報通信白書でも、デジタル化に関する経緯についてまとめている。例えば、平成27年版情報通信白書では通信自由化以降の30年のICTの進化について、令和元年版情報通信白書ではデジタル経済の進化について、令和2年版情報通信白書では移動通信システムの進化について、整理している。

*2 各期における特徴を基に4つの区分に分類しているが、取り上げた特徴以外の取組も行っていることには留意が必要である。例えばICTインフラ整備については、第一期だけではなく、それ以降も通信インフラの高速化・大容量化や無線化などに対応し、引き続き必要な整備が行われている。

【資料 1】

2 第二期：ICT利活用の推進

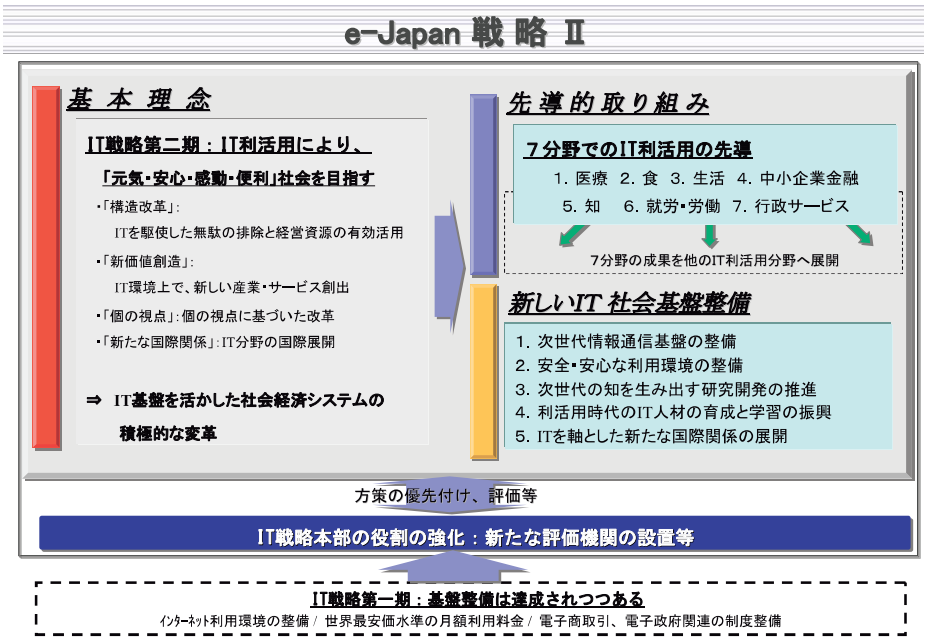
ICTは、利用できる環境を整備するだけではなく、いかに利活用するかが重要である。第一期のICTインフラ整備が当初計画よりも前倒しで進んできたことを受け、第二期においては、ICTインフラの整備だけではなく、ICT利活用促進に向けた多くの取組が行われた。

ア e-Japan戦略Ⅱ（2003年）

e-Japan戦略の公表から2年が経過し、「高速インターネットを3,000万世帯に、超高速インターネットを1,000万世帯に」という「利用可能環境整備」の目標は達成され、電子商取引や電子政府関連の制度的な基盤整備も進んできたことを受け、「IT戦略の第一期の目標は達成されつつある」として、2003年7月、IT戦略本部により「e-Japan戦略Ⅱ」[*4]が公開された（図表0-1-1-3）。

e-Japan戦略Ⅱでは、IT利活用の推進を前面に打ち出し、第一期で整備されたIT基盤を活かして社会・経済システムを積極的に変革し、21世紀にふさわしい「社会全体が元気で、安心して生活でき、新たな感動を享受できる、これまで以上に便利な社会」を目指すことを基本理念としている。その基本理念を実現するために、国民にとって身近で重要な7つの分野（1.医療、2.食、3.生活、4.中小企業金融、5.知、6.就労・労働、7.行政サービス）において先導的取組を進め、その成果を他の分野に展開することが掲げられている。

図表0-1-1-3 e-Japan戦略Ⅱの概要



（出典）IT戦略本部（2003）「e-Japan戦略Ⅱ（概要）」

イ IT新改革戦略（2006年）

（ア） IT新改革戦略

「e-Japan戦略」の5年間で、我が国はブロードバンドインフラの整備と利用の広がり、高機能の携帯電話の普及、電子商取引の環境整備とその飛躍的拡大等について世界最先端を実現した一方で、

＊4 IT戦略本部（2003.7.2）「e-Japan戦略Ⅱ」（http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/030702ejapan.pdf）

【資料 1】

るための、非連続な飛躍を支える重点戦略（3本柱）に絞り込んだ戦略と位置付けられ、「戦略の実施に当たっては、これまでの関連政策が効果を上げていない原因を徹底的に追求し、IT戦略以外の各政策との連携、関係府省間の連携、政府と自治体との連携、政府と民間との連携等を具体的に進め、新たな国民主権の社会が早期に確立されるよう、国を挙げて、強力に推進する。」と記された。

3本柱と定められたのは「国民本位の電子行政の実現」、「地域の絆の再生」、「新市場の創出と国際展開」であった。

3 第三期：デジタルデータの利活用

2010年代半ばから、ネットワークインフラの技術進歩や民間事業者における組織内データ利活用やデータ連携の進展、さらにIoTの爆発的な普及といった環境の変化に伴い、データ大流通時代が到来したと言われている。このような背景の下、第三期では、公共データやパーソナルデータなどの様々なデジタルデータの利活用を進め、全ての国民がIT利活用やデータ利活用を意識せず、その便益を享受し、真に豊かさを実感できる社会である「官民データ利活用社会」の構築に向けた取組が行われた。

ア 世界最先端IT国家創造宣言（2013年）

2013年6月に、「失われた20年」とも言われる長期の景気低迷からの経済再生、少子高齢化の進展と人口減少、東日本大震災からの復興と大規模自然災害への対策、原発事故後のエネルギーの安定供給と経済性の確保、高度成長期に集中的に投資した社会インフラの老朽化などの様々な課題を克服し、持続的な成長と発展を可能にする成長戦略の柱として、「世界最先端IT国家創造宣言」[*10]が閣議決定された。

世界最先端IT国家創造宣言では、「今後、5年程度の期間（2020年まで）に、世界最高水準のIT利活用社会の実現とその成果を国際展開すること」を目標とし、「1. 革新的な新産業・新サービスの創出と全産業の成長を促進する社会の実現」「2. 健康で安心して快適に生活できる、世界一安全で災害に強い社会の実現」「3. 公共サービスがワンストップで誰でもどこでもいつでも受けられる社会の実現」の3項目を柱として必要な取組を定めた。

このうち、デジタルデータに関しては、「1. 革新的な新産業・新サービス」の中で、公共データの民間開放（オープンデータ）を推進するとともに、ビッグデータを活用した新事業・新サービスの創出を促進する上で利用価値が高いと期待される「パーソナルデータ」の利用を促進するための環境整備等を図るとしている。

イ 官民データ活用推進基本法等

（ア） 官民データ活用推進基本法（2016年）

「データ大流通時代」の到来を背景として、2016年12月、官民データ活用の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進し、国民が安全で安心して暮らせる社会及び快適な生活環境の実現に寄与することを目的として、官民データ活用推進基本法が公布・施行された。官民データ活用推進基本法では、政府及び都道府県による「官民データ活用推進基本計画」の策定が求められ、市町村の計画策定は努力義務とされた。また、推進体制として、IT総合戦略本部の下に、内閣総理大臣を

＊10「世界最先端IT国家創造宣言」（2013.6.14閣議決定）（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/pdf/it_kokkasouzousengen.pdf）

【資料 1】

会に向けた電子行政の目指す方向性を示す「デジタル・ガバメント推進方針」*12が策定された。

本方針では、これからの行政サービスに求められるあり方として「デジタル技術の活用による利用者中心サービス」及び「官民協働によるイノベーションの創出」の2点を掲げ、「デジタル技術を徹底活用した利用者中心の行政サービス改革」、「官民協働を実現するプラットフォーム」、「価値を生み出すITガバナンス」の3つを柱とした取組を進めていくことを示した。

(エ) デジタル・ガバメント実行計画（2018年）

2017年12月には、政府の取組を地方や民間まで広めるデジタル・ガバメントの実現に向け、ITを活用した社会システムの抜本改革の実現を目指す「IT新戦略の策定に向けた基本方針」*13を策定するとともに、2018年1月には、デジタル・ガバメント推進方針を具体化した「デジタル・ガバメント実行計画」*14の初版が策定された。

その後、2019年12月に施行されたデジタル手続法*15に基づく情報通信技術を利用して行われる手続等に係る国の行政機関等の情報システムの整備に関する計画と一体のものとして、2019年12月20日に改定版*16が閣議決定された。

なお、本計画はその後の取組の進展や、新型コロナウイルス感染症への対応で明らかになった課題を踏まえ、2020年12月に再度改定されている。

各府省は、デジタル・ガバメント実行計画に基づき中長期計画を策定し、少なくとも年1回、各種施策の進捗状況を踏まえた各府省中長期計画の見直し・拡充を行うことが求められている。

4 第四期：デジタル社会の構築

第三期までは、世界最先端の「IT国家」の創造が目標として掲げられていたが、2018年には世界最先端の「デジタル国家」の創造が掲げられている。

その背景としては、我が国はICTインフラの整備は世界的に見ても進んでいるものの、電子政府やオープンデータではまだまだ進展する余地が大きく、IT・データ利活用の面で官・民共同で取り組むべき課題は多いことがある。

そのため、「世界最先端デジタル国家」の創造に向け、政府自らが徹底的にデジタル化に取り組む行政サービスのデジタル改革を起点として、地方公共団体や民間部門を通じた「ITを活用した社会システムの抜本改革」を断行し、サイバーセキュリティの確保を図りつつ、ITを最大限活用した簡素で効率的な社会システムを構築し、国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できる社会を実現することを目指している。

ア 世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画（2018年）

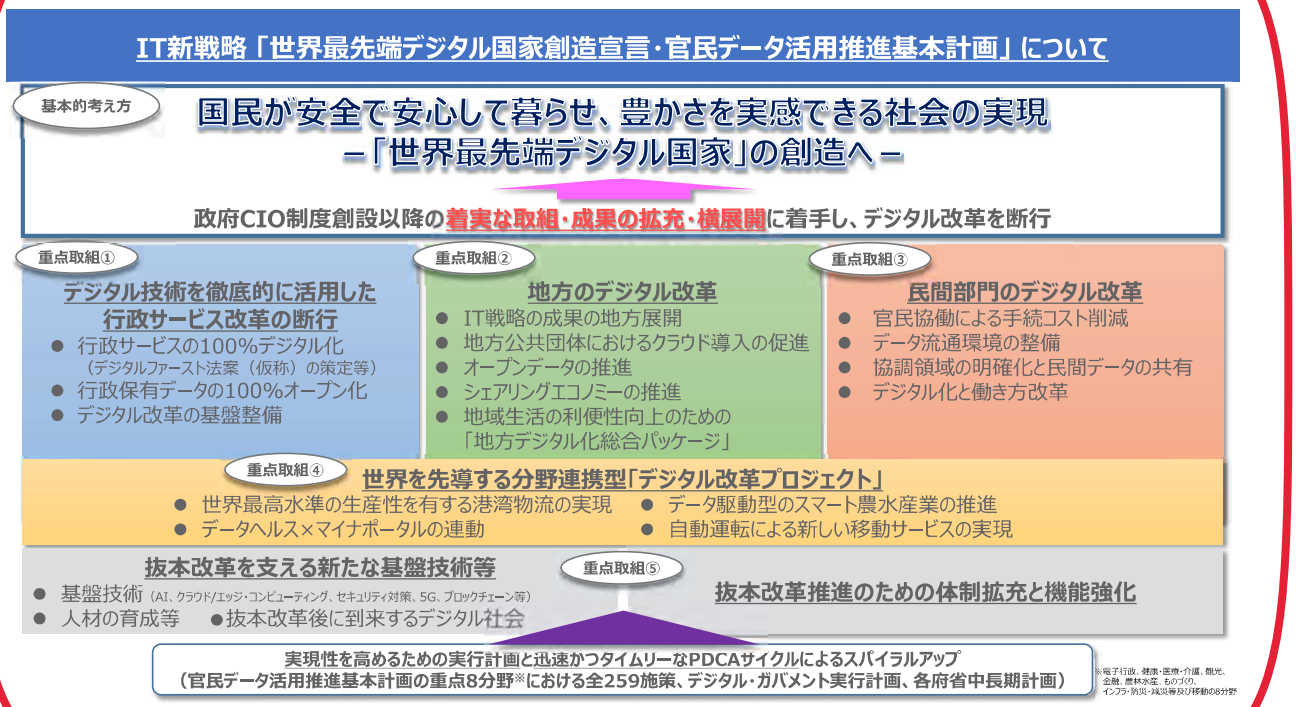
2018年6月に「世界最先端デジタル国家」の創造に向け、政府の行政サービスを起点として、紙中心のこれまでの行政の在り方等を含めた大改革を断行することで、国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できる社会を実現することを目指した「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推

＊12 IT総合戦略本部 官民データ活用推進戦略会議（2017.5.30）「デジタル・ガバメント推進方針」（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20170530/suisinhosin.pdf）
＊13 IT総合戦略本部 官民データ活用推進戦略会議（2017.12.22）「IT新戦略の策定に向けた基本方針」（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20171222/siryou.pdf）
＊14 eガバメント閣僚会議決定（2018.1.16初版）「デジタル・ガバメント実行計画」（https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/densei_jikkoukeikaku.pdf）
＊15「情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律」（平成十四年法律第百五十一号）
＊16「デジタル・ガバメント実行計画」（2019.12.20改定（閣議決定））（https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/densei_jikkoukeikaku_20191220.pdf）

【資料 1】

進基本計画」が策定された。同計画では、①デジタル技術を徹底的に活用した行政サービス改革の断行、②地方のデジタル改革、③民間部門のデジタル改革を重点目標として掲げている（図表0-1-1-7）。

図表0-1-1-7　世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画の概要



（出典）IT総合戦略室（2018）「「世界最先端デジタル国家」に向けて」

上記のような経緯でデジタル化が進められていたが、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、コロナ禍で急速にデジタル活用が進められたものの、我が国のデジタル化が十分に進んでいないことが浮き彫りとなった。そのような実態を踏まえ、社会全体のデジタル活用に向けた様々な取組が進められている（詳細は第２章で詳述）。

2 我が国社会のデジタル化の進展

これまで我が国のデジタル化政策の歴史を見てきたが、デジタル化といっても、活用される技術やサービス等の普及状況は、時代や分野によって大きく異なる。ここでは、我が国社会のデジタル化に関する技術やサービス等の普及状況等を基に、我が国社会のデジタル化の進展について概観する。

1 通信インフラ

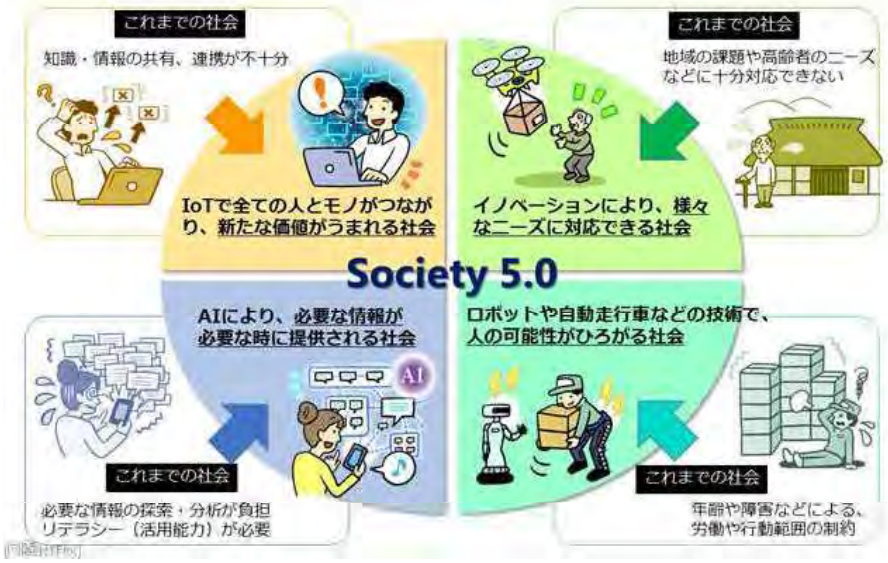
デジタル化に当たっては、その基盤となる通信インフラが必要不可欠であるが、通信インフラはどのように普及していったのであろうか。

ア　固定通信

インターネットが普及し始めた1990年代後半の通信環境は、電話回線によるダイヤル接続が主流であったが、通信速度が十分ではない、従量課金型である、インターネット接続中は通話を行えないといった課題があった。

そのような中、1999年にADSLの商用が開始されたが、通話と同時にインターネット接続が可能

【資料2】『内閣府の政策「Society5.0」とは』



Society 5.0のしくみ

Society 5.0は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより実現します。これまでの情報社会（Society 4.0）では、人がサイバー空間に存在するクラウドサービス（データベース）にインターネットを経由してアクセスして、情報やデータを入手し、分析を行ってきました。

Society 5.0では、フィジカル空間のセンサーからの膨大な情報がサイバー空間に集積されます。サイバー空間では、このビッグデータを人工知能（AI）が解析し、その解析結果がフィジカル空間の人間に様々な形でフィードバックされます。今までの情報社会では、人間が情報を解析することで価値が生まれてきました。Society 5.0では、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることになります。

<2> IT人材動向の将来予測

IT人材の「不足規模」に関する推計結果

【資料 3】「 IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果 」（報告書概要）〈経済産業省2016年6月〉

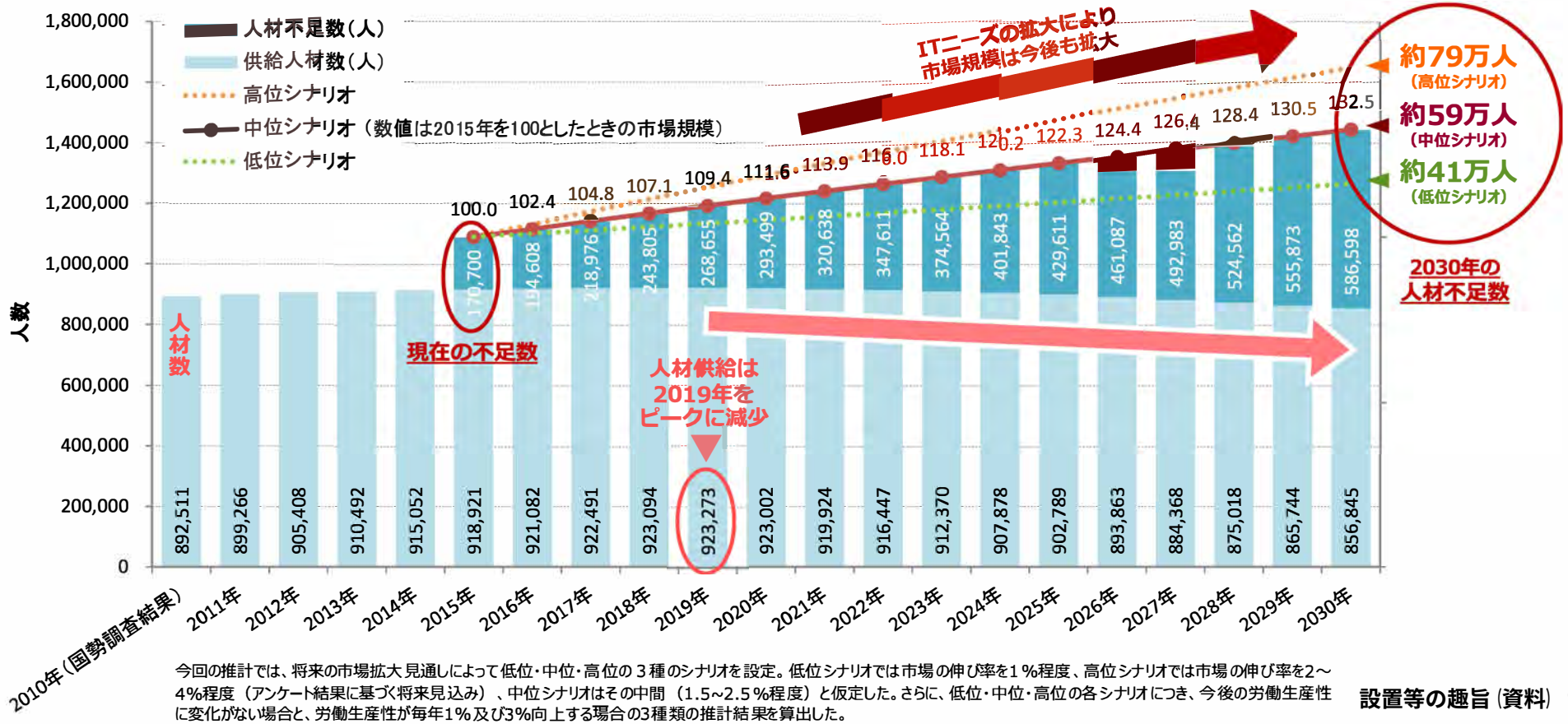
■ IT関連産業の産業人口に関する将来推計（マクロ推計）の一環として、人材の不足状況や今後の見通しに関するアンケート調査結果に基づき、現在及び将来の人材不足数に関する推計も実施。

■ マクロ推計によれば、**2015年時点で約17万人のIT人材が不足している**という結果になった。さらに、前頁で示されたとおり、今後IT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材不足は今後ますます深刻化し、**2030年には、（中位シナリオの場合で）約59万人程度まで人材の不足規模が拡大する**との推計結果が得られた。

2 今後のIT人材の不足規模

IT人材の不足規模に関する予測

■ 2015年の人材不足規模：約17万人
■ 2030年の人材不足規模：約59万人（中位シナリオ）
⇒ IT人材不足は、今後ますます深刻化



今回の推計では、将来の市場拡大見通しによって低位・中位・高位の３種のシナリオを設定。低位シナリオでは市場の伸び率を１％程度、高位シナリオでは市場の伸び率を2～4%程度（アンケート結果に基づく将来見込み）、中位シナリオはその中間（1.5~2.5％程度）と仮定した。さらに、低位・中位・高位の各シナリオにつき、今後の労働生産性に変化がない場合と、労働生産性が毎年1％及び3%向上する場合の3種類の推計結果を算出した。

刊行にあたって

グローバル化やデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速するなか、世界は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行という新たな試練に向き合うこととなりました。対人接触や移動が制限される状況下で社会や経済活動のあり方は変容し、個人のみならず組織においても、迅速かつ抜本的な対応が求められています。

このような非常事態において、デジタル化の推進を加速する必要はさらに高まっています。我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されているSociety 5.0では、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させることで、経済発展と社会的課題の解決を両立するとしています。デジタル化を進めることは、ビジネス変革や競争力の向上に加え、物質の自由な往来が阻害される状況下での事業継続にも大きな意味を持つこととなります。企業規模や業種を問わず、すべての企業においてデジタル化の推進は喫緊の課題であるとの認識を新たにし、取り組んで行く必要があります。

IT人材白書では、「IT人材白書2016」より毎年企業のデジタル化の状況やデジタル化に携わる人材について、現状を把握し課題を明確化するために調査を行ってきました。今回の「IT人材白書2020」では、毎年調査を実施しているIT企業およびユーザー企業におけるIT人材の“量”や“質”に対する過不足感や、IT業務の内製化について、従業員規模により注目すべき変化がみられました。

また、Society 5.0の実現に向けた取り組みの一環として、IPAでは社会全体でのデータ連携・共有の基盤づくりを担う「デジタルアーキテクチャ・デザインセンター」（Digital Architecture Design Center: DADC）を設立しました。産官学が連携して透明性・公平性・中立性が確保されたアーキテクチャ設計を行い、活動を通して日本の産業におけるアーキテクチャ設計力の強化を目指すものです。これらの取り組みが、Society 5.0の実現の一助となることを期待します。

「IT人材白書」に係る調査は、その前身となる「IT人材市場動向予備調査」から数えて13年目を迎え、「IT人材白書」の発刊は今回で12冊目となりました。本白書を取りまとめるにあたって、調査への協力企業、関係者の皆様やご支援を賜ったすべての皆様方に対し、心から敬意を表すとともに、厚くお礼申し上げます。

2020年8月

IPA（独立行政法人情報処理推進機構）
理事長　富田　達夫

【資料 4】

第1章　「IT人材白書2020」のメッセージとポイント

社会の変容が進み、デジタルトランスフォーメーション（DX）の一刻も早い取り組みが求められている。この動向を踏まえ、「IT人材白書2020」では、重要性の高い領域である“DXに対応する人材”や“DX推進に向けた企業動向”と“変化が加速するIT人材を取り巻く環境”という観点から、企業やIT人材の現状を把握するべく調査をした。ここでは「IT人材白書2020」のメッセージと、今年度の調査結果のポイントを述べる。

1節　「IT人材白書2020」のメッセージ

1. サブタイトルに込めた意図

今こそDXを加速せよ
～選ばれる“企業”、選べる“人”になる～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行という非常事態をきっかけに日本社会のデジタル化の立ち遅れが浮き彫りになった。“デジタルトランスフォーメーション（DX）”に本気で取り組まなければ、新型コロナウイルス感染症流行収束後の世界への対応だけでなく、国際競争力の低下はもちろん、少子高齢化など山積する国内の問題にも対処できない。

まさに今、すべての企業は、一刻も早くDXに取り組まざるを得ないときを迎えている。組織、業務、企業文化・風土等を抜本的に変革し、デジタル技術を活用した顧客価値創出やビジネスモデル革新を実現することで、新たな成長・競争力強化に繋げていくことが求められている。

本白書の「IT人材動向調査」は、新型コロナウイルス感染症の拡大以前に実施されたため、感染症拡大による影響はほぼ現れていないことに留意する必要がある。しかし、“企業”の従業員規模やIT業務の内製化状況により、IT人材の“量”、“質”の過不足感、IT業務に携わる範囲などの調査項目で変化が見え始めた。

また、DXの課題として危機感の浸透や変革に対する社内の意識改革、社内人材の育成が挙げられた。一方、IT人材自身については、“新たなスキルを活かせる場がない”、“勉強の必要性を感じない” といった意識があることが明らかになった。

企業におけるDXの推進は、企業の経営者の手腕に託され、ビジネス（経営、事業）にITがますます不可欠となり、そこにはビジネスを動かす“人”が繋がっている。企業は人材を自社に引き付ける魅力を拡充させ、その人材を適材適所に配置し、経営を革新しなければならない。そして、IT人材自身は、新しいスキルを身に付け、その力を発揮できる企業を見つける。

今こそ、“企業”と“人”が新たな日常を迎えるための関係を構築しはじめる時である。

第1章　事業概要

1.　背景と目的

(1)　背景

経済産業省が平成28年6月に公表した「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査[1]」によれば、IT需要が今後拡大する一方で、我が国の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれ、IT 人材の需要と供給の差（需給ギャップ）[2]は、需要が供給を上回り、2030年には、最大で約79万人に拡大する可能性があると試算されている。

IT人材は、我が国のIT産業の産業競争力強化のほか、企業等における高度なIT利活用、デジタルビジネスの進展等を担っている。特にAI（Artificial Intellegence：人工知能）やビッグデータを使いこなし、第4次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できるIT人材の確保が重要となっている。

こうした状況を踏まえ、「未来投資戦略2017[3]（平成29年6月9日閣議決定）」において、第4次産業革命下で求められる人材の必要性・喫緊性を明確化するため、経済産業省、厚生労働省、文部科学省等が連携してIT人材需給を把握する仕組みを早期に構築することとされた。

(2)　目的

上記を踏まえ、本調査分析では、第4次産業革命に対応したIT人材の需給状況を把握する手法について検討を行うとともに、各種条件のもとでの試算を行い、その試算結果を取りまとめた。

---

[1] 経済産業省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果を取りまとめました」
http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160610002/20160610002.html

[2] 本報告書では、需要と供給の差を需給ギャップと略する場合がある。需給ギャップは、需要が供給を上回る（人材不足）場合と供給が需要を上回る（人材余剰）の場合がある。

[3] 未来投資戦略2017―Society 5.0 の実現に向けた改革―
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf

【資料 6】「デジタルスキル標準ver.1.1」

DXリテラシー標準の全体像

標準策定のねらい

ビジネスパーソン一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、
DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why
DXの背景

- ✓ DXの重要性を理解するために必要な、社会、顧客・ユーザー、競争環境の変化に関する知識を定義

→ DXに関するリテラシーとして身につけるべき知識の学習の指針とする

What
DXで活用されるデータ・技術

- ✓ ビジネスの場で活用されているデータやデジタル技術に関する知識を定義

→DXに関するリテラシーとして身につけるべき知識の学習の指針とする

How
データ・技術の利活用

- ✓ ビジネスの場でデータやデジタル技術を利用する方法や、活用事例、留意点に関する知識を定義

→ DXに関するリテラシーとして身につけるべき知識の学習の指針とする

マインド・スタンス

- ✓ 社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要な意識・姿勢・行動を定義

→個人が自身の行動を振り返るための指針かつ、組織・企業がDX推進や持続的成長を実現するために、構成員に求める意識・姿勢・行動を検討する指針とする

All Rights Reserved Copyright© IPA 2023

【資料 6】

項目一覧

DXリテラシー標準策定のねらい

ビジネスパーソン一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why DXの背景

- 社会の変化
- 顧客価値の変化
- 競争環境の変化

What DXで活用されるデータ・技術

データ	社会におけるデータ
	データを読む・説明する
	データを扱う
	データによって判断する
デジタル技術	AI
	クラウド
	ハードウェア・ソフトウェア
	ネットワーク

How　データ・技術の利活用

活用事例・利用方法	データ・デジタル技術の活用事例
	ツール利用
留意点	セキュリティ
	モラル
	コンプライアンス

マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

新たな価値を生み出す基礎としてのマインド・スタンス

- 顧客・ユーザーへの共感
- 常識にとらわれない発想
- 反復的なアプローチ
- 変化への適応
- コラボレーション
- 柔軟な意思決定
- 事実に基づく判断

今後も継続的にDXの在り方の変化を捉え必要な改訂を行う。

All Rights Reserved Copyright© IPA 2023

3.5 DX人材の育成・確保

【資料 7】「DXレポート」

- デジタル技術の進展の中で、DXを実行することのできる人材の育成と確保は各社にとって最重要事項である。ユーザ企業、ベンダー企業それぞれにおいて、**求められる人材スキルを整理**し、**必要な対応策**を講じていくことが必要。

【対応策】

（１）ユーザ企業において求められる人材

- CDO（Chief Digital Officer）：**システム刷新をビジネス変革につなげて経営改革を牽引できるトップ人材**
- デジタルアーキテクト（仮称）：業務内容にも精通しつつ**ITで何ができるかを理解し、経営改革をITシステムに落とし込んで実現できる人材**
- **各事業部門**において**ビジネス変革で求める要件を明確にできる人材**
- ビジネス変革で求められる要件をもとに**設計、開発できる人材**
- **AIの活用等ができる人材、データサイエンティスト**

（２）ベンダー企業において求められる人材

- 受託開発への過度な依存から脱却し、自社の技術を活かして、**アプリケーション提供型のビジネスの成長戦略を描き、実現できる人材**
- 求められる要件の実現性を見極めた上で、**新たな技術・手法を使った実装に落とし込める人材**
- ユーザー起点でデザイン思考を活用し、**UX（ユーザーエクスペリエンス）を設計し、要求としてまとめあげる人材**
- スピーディーに変化する**最新のデジタル技術を詳しく理解し、業務内容にも精通するITエンジニア**

（３）人材確保・育成に向けた対応策

- **アジャイル開発の実践そのもの**が、ユーザ企業の人材にあっては開発手法を学び、ベンダー企業の人材にあっては開発に従事しながら業務を知ることにつながり、**ユーザ企業・ベンダー企業双方の人材育成にもなる。**
- **新たに整備されたITエンジニアのスキル標準や情報処理技術者試験の活用**により、上記のような求められるIT人材の能力の明確化や、学び直しによる人材育成が進められることを期待
- **大学を含めた産学連携で人材育成**を進めることも有効である。企業にとっては、**自社のプロジェクトを大学とともに取り組むこと**により、AIやデータ活用のスキルを実践的に獲得できるとともに、大学にとっても企業の持つデータを活用できるため、研究ならびに教育の良い教材となる。
  2018年度より、**第四次産業革命スキル習得講座認定制度**が運用されている。大学及び大学と連携した民間の講座も増えてきていることから、今後も**産学の連携が促進**されることが期待される。

『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』～市民とともに「かわ・まち・みなと」で紡ぐ過去から未来への成長エンジン～

最終更新日：2023年2月14日

ポスト　LINEで送る

位置付け

「選ばれる都市 新潟市」の実現に向け、「新潟市都心のまちづくり推進本部会議」での検討を通じ、市民や関係団体・企業等の皆様から頂いたご意見・ご提案も参考にしながら、これからの都心のまちづくりの方向性として、『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』を令和4年2月15日に策定しました。

『　心　　づ　　「こい ﾊﾞ-2km　　PDF：2　7KB

『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』

歴史の継承

本市は、江戸時代に北前船の最大の寄港地となるなど、人・物・文化が交流する日本海側最大の湊町として繁栄し、幕末の開港五港にも選ばれ、その風情や趣は現在にも受け継がれています。

その後、日本海側初の特定重要港湾の指定や、地方空港初の国際空港指定、上越新幹線の開通や、高速道路網の整備など、産業や交通のインフラ整備が着実に進められてきました。

また、2007年には本州日本海側で唯一の政令指定都市となり、さらなる拠点性の向上に向けた施策を推進してきました。

本市の現状・課題

（1） 新潟駅周辺整備事業の進展
（2） 都心エリアで民間開発の兆し
（3） 若い世代の県外流出と人口減少
（4） 老朽化したビルの更新の停滞
（5） 進出企業のニーズを満たすオフィス床の不足

時代の要請

（1） ウィズコロナ・アフターコロナへの対応
（2） SDGs(持続可能な開発目標)の実現
（3） ゼロカーボンの推進（脱炭素社会の実現）
（4） デジタル化の進展

【「にいがた2km」の覚醒】へ

事業・プロジェクト

にいがた2km内におけるNINNOからの新たなビジネス提案に関する説明会を開催しました
SDGsの推進
新潟市「にいがた2km×8区連携」ビジネスモデル創出事業
（選定結果）将来に向けた持続可能な食と農の創出プロジェクト　委託候補者選定プロポーザルの実施について
新潟市「にいがた2km×8区連携」ビジネスモデル創出事業に係る委託業者選定プロポーザルの実施について
にいがた2km × ○○ ～みんなで考えるまちづくり～
第2回「にいがた2km×8区」ビジネス連携促進に係る説明会を開催しました
新潟市「にいがた2km」魅力発信業務に係る委託業者選定プロポーザルの実施について
『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】』～市民とともに「かわ・まち・みなと」で紡ぐ過去から未来への成長エンジン～
新潟市都心のまちづくり推進本部
ふるさと新潟市応援寄附金　返礼品の提案募集について
ふるさと新潟市応援寄附金業務委託企画提案の募集について
新潟市経済社会再興本部
新潟都心のまちづくり「にいがた2km」

【資料 8】

みなとまち新潟を象徴する信濃川と萬代橋から広がる「都心エリア」において、高次都市機能の集積や魅力の創出、賑わいづくりを市民の皆様と一体で取り組むことで、『緑あふれ、人・モノ・情報が行き交う活力あるエリア』を創造し、8区のネットワーク強化を図りながら、『本市経済・産業の発展を牽引する成長エンジン』としていく取組を推進します。

都心のまちづくり基本方針　三本の柱

1. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり
2. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる 新たな価値の創造
3. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり

基本方針における推進項目

1. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり

～官民協働による「稼げる都心づくり」を推進し、その成長エネルギーを全市域へ波及～

（1） 都市機能の更新・充実に向けた都心部の再開発促進 （都市再生緊急整備地域の活用）
（2） 戦略的な企業誘致の推進
（3） 産業DX、ICT推進の先進エリアとしての取組強化
（4） 歴史・文化・スポーツを通じた賑わいの創出
（5） 観光資源を活かした交流人口の拡大

2. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる 新たな価値の創造

～都市と田園が調和する本市の魅力発信と、異業種間の協業・変革を進め、次世代に向けたまちづくり～

（1） 「新潟の食と花」の魅力発信
（2） 「儲かる農業」の推進
（3） 新たな価値やビジネスが創出される環境づくり
（4） 観光資源を活かした交流人口の拡大【再掲】

3. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり

～都市緑化の推進、道路空間・水辺空間の有効活用など、ゆとりと潤いのあるまちづくり～

（1） 都心の水辺空間の魅力を十分に活かした賑わいの創出
（2） くつろげる 歩いて楽しい緑豊かな都市空間の実現
（3） 都心における各エリアの特性を活かした良好な都市景観の形成

令和5年度の取組について

『都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】に掲げた基本方針3本柱の推進項目ごとに、令和5年度に実施する事業概要や予算額、目指す成果などを整理しました。

令和5年度の取組（PDF：1,345KB）

令和5年度予算編成について

過年度の取組

令和4年度の取組（PDF：1,798KB）

令和4年度予算編成について

新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金　寄附一覧（法人・団体）
新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金へのご寄附について
新潟開港150周年アーカイブ
新潟をアピールするロゴマーク
国家戦略特区
新潟暮らし創造運動
地方創生
大都市制度・区政創造
広域連携・他団体との連携
ふるさと新潟市応援寄附金

注目情報

シティプロモーションページ「What's NiiGATA」
新型コロナワクチン接種券について
ホームページバナー広告募集（新潟市トップページ）

新潟市
スキマ時間の楽しみ方
スキマ時間は満喫時間！時間のスキマお任せください！

情報が見つからないときは

大学通信教育課程収容定員超過状況

		2020年	2021年	2022年	2023年
サイバー大学 IT総合学部	収容定員	2,500名	2,500名	4,000名	4,000名
	在籍数	3,070名	3,710名	4,343名	4,429名
	定員超過率	122.8%	148.4%	108.6%	110.7%
東京通信大学 情報マネジメント学部	収容定員	800名	1,600名	2,000名	2,000名
	在籍数	1,524名	2,409名	2,842名	3,066名
	定員超過率	190.5%	169.0%	158.1%	153.3%

グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について

平成12年11月22日　大学審議会答申（抜粋）

(1)大学教育における情報通信技術の活用の在り方

1)基本的考え方

（大学教育と情報通信技術）

大学は，単に知識を教授するだけではなく，人格形成期にあたる青年期の学生にとっては，教員や他の学生との触れ合いや相互の交流を通じて人間形成を図る大切な場であるという考え方に立って，キャンパスにおいて直接の対面授業を行うことを基本としており，その重要性は今後とも変わることはない。

一方，衛星通信やインターネット等の情報通信技術を大学教育において活用することは，教育内容を豊かにし，教育機会の提供方法を変え，大学教育への一層のアクセス拡大に資するものであり，新しい社会的価値観の健全な創出に重要な役割を果たすものである。

情報通信技術の発展に関連しては，人間関係の希薄化や情報モラルの問題なども指摘されているが，こうした負の側面への対応に留意しつつも，迅速かつ高度な情報通信技術を大学教育において積極的に活用して，大学教育の内容や方法を高度化するとともに，国民に対し学習機会をより広く提供することにより人々の生涯学習ニーズに適切にこたえ，さらに，国境を越えて知的資源を発信することにより知的国際貢献を果たしていくことは，大学における教育研究活動を革新していく上で重要なことと考える。

ここでは，近年普及が著しいインターネット等の情報通信技術を中心として，大学教育における活用の在り方について，提言を行うこととする。しかし，情報通信の分野における技術の進展は日進月歩であるため，制度上の諸問題については随時見直しを行っていく必要がある。各大学においても，新しい情報通信技術を積極的に活用し，大学の教育内容・方法の改善を進めることが求められる。

以下，大学学部における取扱いを中心に述べるが，特段の記述がない事項については，大学院，短期大学，高等専門学校についても同様の取扱いとすることが適当である。

（通信制における取扱い）

a）遠隔授業により修得することのできる単位数の見直し

現在，通信制の大学においては，通学制の場合と同様に，人間形成に資するなどとの考え方の下，卒業に要する単位のうち20単位以上は直接の対面授業によることとしているが，このような対面教育の併用は，今後とも重要である。

しかしながら，通信制は，そもそも職業人など通学が困難な者に対して広く高等教育の機会を開く観点から設けられた教育提供の形態であり，一定の単位を直接の対面授業により修得することは，とりわけ職業人などにとっては必ずしも容易ではなく，高等教育と社会との往復型の生涯学習を推進する上では改善の余地があると考えられる。

一方，情報通信技術の発展により，直接の対面授業以外の方法でもきめ細かな学習指導を行うことが可能となってきており，米国においては，メンターと呼ばれる学習指導者による学習指導体制を確保しつつ，主に職業人を対象としてインターネットを活用した授業のみで学位取得が可能な大学教育が展開されつつある。いつでもどこでも学習が可能な，職業人がアクセスしやすい教育システムの構築は，世界的に共通の課題となっている。 以上のことから，今後，通信制の大学においては，社会人の学習ニーズに柔軟にこたえる通信制本来の役割にかんがみ，従来の直接の対面授業による修得が必要な22お単位についても，遠隔授業により修得することができるものとすることが適当である。このことにより，卒業に必要な単位(124単位)すべてを遠隔授業により修得することも可能となる。

ただし，平成9年12月の答申「「遠隔授業」の大学設置基準における取扱い等について」において示したとおり，直接の対面授業には，教員と学生や学生相互の触れ合いなどによる人間形成の効果があると考えられることから，高等学校を卒業して実社会での職業経験を経ずに大学教育を受ける青年期の学生などに対しては，各大学の定める範囲内で，直接の対面授業を履修させる機会を与えることが望ましい。

b）インターネット等活用授業の遠隔授業としての位置付け

現行の大学設置基準では，遠隔授業について，「文部大臣が別に定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」と定めている。この規定を受けた文部省の告示においては，テレビ会議式の遠隔授業に関する要件が定められている。具体的には，次の要件のいずれをも満たすもので，大学において，直接の対面授業に相当する教育効果を有すると認めたものであることとされている。

ア　文字，音声，静止画，動画等の多様な情報を一体的に扱うもので，同時かつ双方向に行われるもの

イ　授業を行う教室等以外の教室，研究室又はこれらに準ずる場所において，履修させるもの

インターネット等活用授業については，その特性にかんがみ，直接の対面授業におけるような同時性・双方向性がなくとも，全体としてそれと同等の教育効果が確保されると評価することが可能である。具体的には，次の要件をすべて満たすもので，大学において，直接の対面授業に相当する教育効果を有すると認めたものを遠隔授業として位置付けることが適当である。

イ　文字，音声，静止画，動画等の多様な情報を一体的に扱うもの

ロ　電子メールの交換などの情報通信技術を用いたり，オフィス・アワー等に直接対面したりすることによって，教員や補助職員（教員の指導の下で教育活動の補助を行うティーチング・アシスタントなど）が毎回の授業の実施に当たり設問解答，添削指導，質疑応答等による指導を行うもの

ハ　授業に関して学生が相互に意見を交換する機会が提供されているもの

なお，インターネット等活用授業についても，1単位が45時間の学修を要する教育内容をもって構成されるべきことは，対面授業の場合と同様である。また，こうした授業を実施する大学についても，正課外の活動を含めた教員や学生相互の触れ合いなどを考慮すると，現在の設置基準に定める校舎等の所要の施設を備えることが必要と考えられるが，今後の実施状況等を踏まえつつ，その基準の在り方について必要に応じ検討することが適当である。

お問合せ先

【資料11】「デジタル・ガバナンスコード2.0」（経済産業省　2022年9月13日改訂）

デジタルガバナンス・コードについて

- あらゆる要素がデジタル化されていく Society5.0 に向けて、ビジネスモデルを抜本的に変革（DX[1]：デジタルトランスフォーメーション）し、新たな成長を実現する企業が現れてきている。一方、グローバルな競争の中で、競合する新たなビジネスモデルにより既存ビジネスが破壊される事例（デジタルディスラプション）も現れてきている。
- こうした時代変化の中で、持続的な企業価値の向上を図っていくためには、
  ① IT システムとビジネスを一体的に捉え、新たな価値創造に向けた戦略を描いていくこと
  ② デジタルの力を、効率化・省力化を目指したITによる既存ビジネスの改善にとどまらず、新たな収益につながる既存ビジネスの付加価値向上や新規デジタルビジネスの創出に振り向けること
  ③ ビジネスの持続性確保のため、IT システムについて技術的負債となることを防ぎ、計画的なパフォーマンス向上を図っていくこと
  ④ 必要な変革を行うため、IT 部門、DX 部門、事業部門、経営企画部門など組織横断的に取り組むこと

  が重要であり、企業全体の組織構造や文化の改革、中長期的な投資を行う観点から、経営者の関与が不可欠なものである。
- 一方で、我が国企業で本格的な DX の取組は遅れており、レガシーシステムがいまだ足かせとなっている企業や、ビジネスモデルの変革に取り組むものの、変革の入り口で足踏みしている企業も多い。
- また、企業の DX を進める能力を無形資産と捉えた、経営者とステークホルダーの対話も十分に行われていない。
- こうした背景の中で、経営者に求められる企業価値向上に向け実践すべき事柄を「デジタルガバナンス・コード」として取りまとめていくこととする。企業が DX の取組を自主的・自発的に進めることを促すとともに、特に、経営者の主要な役割として、ステークホルダーとの対話を捉え、対話に積極的に取り組んでいる企業に対して、資金や人材、ビジネス機会が集まる環境を整備していく。
- なお、対象は、上場・非上場や、大企業・中小企業といった企業規模、

---

1 DXの定義は次のとおりとする。「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。」

【資料12】ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

情報デザイン学部情報デザイン学科　ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

【ディプロマ・ポリシー】

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて 課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

			ディプロマ・ポリシーとの対応			
科目名	履修年次	主要授業科目	A	B	C	D
ポートフォリオⅠ	1					○
ポートフォリオⅡ	2					○
ポートフォリオⅢ	3					○
ポートフォリオⅣ	4					○
PBL入門	1	○			○	
テクニカル・リーディング	1		○			
情報入門	1		○			
生成AI活用	1	○	○			
宗教学	1					○
インターネット社会論	2		○			
社会学	1					○
メディア史	2		○			
情報リテラシー	1		○			
情報化社会と情報倫理	2		○			
ロボティクス入門	3		○			
DX最前線	3		○			
ファシリテーション入門	2					○
フィールドワーク入門	1				○	
エスノグラフィ	2				○	
国際変動論	3					○
消費者行動心理	2				○	
認知心理学	2				○	
科学哲学入門	1					○
基礎造形表現	1		○			
UXデザイン	2				○	
美術・デザイン史	2					○
デジタル時代の人体表現技術	3		○			
デジタル時代のストーリー創りと絵コンテ技術	3		○			
建築史入門	2					○
楽典と演奏入門	3					○
楽曲メディアコンテンツクリエイション	3					○
基礎数学Ⅰ	1		○			
基礎数学Ⅱ	1		○			
経済学入門	1					○
英語リスニングⅠ	1					○
英語リスニングⅡ	1					○
英語コミュニケーション	2					○
英語ビジネスコミュニケーション	3					○
テクニカル・ライティング	2		○			
線形代数Ⅰ	2		○			
線形代数Ⅱ	2		○			
離散数学	2		○			
微分・積分Ⅰ	2		○			

【資料12】ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

情報デザイン学部情報デザイン学科　ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

【ディプロマ・ポリシー】

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて 課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

			ディプロマ・ポリシーとの対応			
科目名	履修年次	主要授業科目	A	B	C	D
微分・積分 II	2		○			
微分方程式入門	2		○			
物理学入門	2		○			
電磁気学	2		○			
量子力学	3		○			
光量子エレクトロニクス入門	4				○	
Linux入門	1	○	○			
Linux活用入門	2		○			
プログラミング基礎	1	○	○			
プログラミング発展	1		○			
アルゴリズムとデータ構造	2		○			
データベース論	2		○			
ソーシャル・コンピューティング	3				○	
コンピュータアーキテクチャ I	1	○	○			
コンピュータアーキテクチャ II	2		○			
ソフトウェアアーキテクチャ I	1	○	○			
ソフトウェアアーキテクチャ II	2		○			
システムプログラミング基礎 I	1		○			
システムプログラミング基礎 II	2		○			
システムプログラミング発展	3		○			
次世代プログラミング言語	4		○			
リーダブルコード	2		○			
データサイエンスプログラミング	3		○			
言語処理技術	3		○			
自然言語処理入門	3		○			
コンピュータネットワーク	2		○			
ヒューマンコンピュータインタラクション	3		○			
通信工学・情報理論	3		○			
データサイエンス入門	1	○	○			
データサイエンス基礎	2		○			
データサイエンス発展	3		○			
データエンジニアリング	3		○			
ネットワーク分析	3				○	
クリエイティブAI	2		○			
サイバーセキュリティ概論	3		○			
サイバーセキュリティ演習	4				○	
コンピュータグラフィックス・メタヴァース入門	2		○			
ソフトウェア開発 I	3	○			○	
ソフトウェア開発 II	4				○	
Webアプリケーション開発	2		○			
Webデザイン	2		○			
Web3入門	3				○	
コンピュータ・グラフィックス基礎	3		○			

【資料12】ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

情報デザイン学部情報デザイン学科　ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

【ディプロマ・ポリシー】

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて 課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

			ディプロマ・ポリシーとの対応				
科目名	履修年次	主要授業科目	A	B	C	D	
デザイン思考	1	○			○		
サービスデザイン	3	○			○		
制御工学入門	3		○				
カオス・複雑系入門	3				○		
画像処理・コンピュータビジョン	3		○				
電気回路	2		○				
電子回路	2		○				
組込みソフトウェア概論	4				○		→
ソフトウェアデザイン	3				○		
IoT デバイス入門	3		○				
デジタル回路	2		○				
デジタルLSI設計入門	3		○				→
量子情報理論入門	3				○		
宇宙利用工学入門	3				○		
スマート農業入門	4				○		
衛星測位システム特論	4				○		→
システムズデザイン概論	3				○		
プロダクトデザイン概論	2				○		
デザインリサーチ	2				○		
建築計画学概論	3				○		
建築構法デザイン	3				○		
標準化入門	4				○		→
半導体チップ製造概論	4		○				
深層学習基礎	3		○				
深層学習応用	4				○		
ゲームプランとゲームシナリオのデザイン	3				○		
金融工学入門	3				○		
バイオインフォマティクス入門	3				○		
経営学基礎	1	○		○			
会計・簿記	1			○			
マーケティング	2			○			
プロジェクトマネジメント入門	1	○			○		
プロジェクトマネジメント発展	2				○		
ビジネスリテラシー	2			○			→
ビジネスインテリジェンス入門	3			○			→
ビジネスインテリジェンス発展	4			○			→
ビジネスアーキテクチャ入門	3				○		→
ビジネスアーキテクチャ発展	4				○		→
品質管理	2			○			
グローバル人材開発	3			○		○	
コーポレートファイナンス	3			○			
ベンチャーファイナンス	4			○			→
デジタルマーケティング	3			○			

【資料12】ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

情報デザイン学部情報デザイン学科　ディプロマ・ポリシーと授業科目対応表

【ディプロマ・ポリシー】

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて 課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

			ディプロマ・ポリシーとの対応			
科目名	履修年次	主要授業科目	A	B	C	D
アントレプレナー	3			○		
リーダーシップ入門	2			○		○
デジタルエコノミー基礎	1			○		
地域おこし論	3					○
交渉学概論	3					○
知的財産権概論	2			○		
知的財産権実践	3			○		
宇宙ビジネス入門	3			○		
Web3・DAO地域創生	2					○
DXプロジェクトⅠ	2	○			○	○
DXプロジェクトⅡ	3	○			○	○
DXプロジェクトⅢ	4	○			○	○
特別研究Ⅰ	2				○	
特別研究Ⅱ	3				○	
特別研究Ⅲ	4				○	

【資料13】情報デザイン学部情報デザイン学科　履修系統図（全体）

ディプロマポリシー

カリキュラムポリシー

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

- A-1:情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する
- A-2:実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する
- A-3:情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

- B-1:ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する
- B-2:　情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

- C-1:「デザイン」を通じて課題解決や価値創造を実現する科目を配置する
- C-2:プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する
- C-3:情報技術を多様な機会に応用するための知識・方法論を身につける科目を配置する

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

- D-1:地域や多様な社会での協働に必要なスキルと多様な価値観・協調・リーダーシップを学ぶ科目を配置する
- D-2:自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する

教育課程

※前期・後期の割り振りなし

1年	2年	3年	4年	
前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
ポートフォリオⅠ	ポートフォリオⅡ	ポートフォリオⅢ	ポートフォリオⅣ	学修基盤
PBL入門				
テクニカル・リーディング				
情報入門	生成AI活用			
英語リスニングⅠ	英語リスニングⅡ	英語コミュニケーション	英語ビジネスコミュニケーション	語学
社会学	経済学入門	消費者行動心理	国際変動論	一般教養
宗教学	科学哲学入門	情報化社会と情報倫理	認知心理学	
情報リテラシー		メディア史	インターネット社会論	DX最前線
フィールドワーク入門		ファシリテーション入門	エスノグラフィ	ロボティクス入門
	基礎造形表現	美術・デザイン史	UXデザイン	楽典と演奏入門
基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ		建築史入門	楽曲メディアコンテンツクリエイション
				デジタル時代の人体表現技術
				デジタル時代のストーリー創りと絵コンテ技術
	テクニカル・ライティング			情報・工学系
	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ		
	微分・積分Ⅰ	微分・積分Ⅱ		
	物理学入門	微分方程式入門		量子力学
	電磁気学			量子情報理論入門
	電気回路	電子回路		制御工学入門
コンピュータアーキテクチャⅠ	コンピュータアーキテクチャⅡ	デジタル回路		IoTデバイス入門
		コンピュータネットワーク		通信工学・情報理論
Linux入門	Linux活用入門			
ソフトウェアアーキテクチャⅠ	ソフトウェアアーキテクチャⅡ	離散数学		
プログラミング基礎	プログラミング発展	アルゴリズムとデータ構造	リーダブルコード	ソフトウェア開発Ⅰ
		データベース論	Webアプリケーション開発	
		Webデザイン		言語処理技術
システムプログラミング基礎Ⅰ	システムプログラミング基礎Ⅱ			システムプログラミング発展
				データエンジニアリング
データサイエンス入門	データサイエンス基礎			データサイエンス発展
				画像処理・コンピュータビジョン
				ネットワーク分析
デザイン思考	デザインリサーチ	プロダクトデザイン概論		サービスデザイン
		クリエイティブAI		ヒューマンコンピュータインタラクション
		コンピュータグラフィックス・メタヴァース入門		コンピュータ・グラフィックス基礎
				建築計画学概論
				金融工学入門
				自然言語処理入門
				データサイエンスプログラミング
				深層学習基礎
				Web3入門
				ソーシャル・コンピューティング
				ゲームプランとゲームシナリオのデザイン
				システムズデザイン概論
				宇宙利用工学入門
				建築構法デザイン
				バイオインフォマティクス入門
				光量子エレクトロニクス入門
				半導体チップ製造概論
				サイバーセキュリティ概論
				サイバーセキュリティ演習
				組込みソフトウェア概論
				標準化入門
				ソフトウェア開発Ⅱ
				次世代プログラミング言語
				深層学習応用
				スマート農業入門
				衛星測位システム特論
経営学基礎	マーケティング	コーポレートファイナンス	ベンチャーファイナンス	ビジネス系
会計・簿記	ビジネスリテラシー	デジタルマーケティング		
デジタルエコノミー基礎		ビジネスアーキテクチャ入門	ビジネスアーキテクチャ発展	
プロジェクトマネジメント入門	プロジェクトマネジメント発展	アントレプレナー		
	リーダーシップ入門	ビジネスインテリジェンス入門	ビジネスインテリジェンス発展	
	Web3・DAO地域創生	グローバル人材開発		
	品質管理	知的財産権実践		
	DXプロジェクトⅠ	DXプロジェクトⅡ	DXプロジェクトⅢ	演習系
	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅲ	自由科目

交渉学概論
地域おこし論
宇宙ビジネス入門

【凡例】

- 基礎教育科目(学修基盤、語学)
- 基礎教育科目（一般教養）
- 専門教育科目（情報・工学系）
- 専門教育科目（ビジネス系）
- 専門教育科目（演習系）
- 自由科目

赤枠：必修科目
黒枠：選択科目

青字：１単位科目
黒字：２単位科目

→：前提科目
⇢：履修推奨科目

【資料13】情報デザイン学部情報デザイン学科　履修系統図（関係図①）

ディプロマポリシー

カリキュラムポリシー

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

- A-1:情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する
- A-2:実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する
- A-3:情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

- B-1:ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する
- B-2:　情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

- C-1課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する
- C-2:プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する
- C-3:情報技術を多様な機会に応用するための知識・方法論を身につける科目を配置する

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

- D-1:他者と相互理解を深めるためのスキルと多様な価値観について知る科目を配置する
- D-2:協調とリーダーシップについて学ぶ科目を配置する
- D-3:自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する

教育課程

※前期・後期の割り振りなし

1年	2年	3年	4年
前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期

学修基盤

ポートフォリオⅠ → ポートフォリオⅡ → ポートフォリオⅢ → ポートフォリオⅣ

PBL入門
テクニカル・リーディング
情報入門
生成AI活用

語学

英語リスニングⅠ → 英語リスニングⅡ
英語コミュニケーション
英語ビジネスコミュニケーション

一般教養

情報リテラシー
情報化社会と情報倫理
メディア史
インターネット社会論
DX最前線
ロボティクス入門
フィールドワーク入門
ファシリテーション入門
認知心理学
エスノグラフィ
消費者行動心理
UXデザイン
経済学入門
社会学
国際変動論
科学哲学入門
宗教学
基礎造形表現
美術・デザイン史
建築史入門
デジタル時代の人体表現技術
デジタル時代のストーリー創りと絵コンテ技術
楽典と演奏入門
楽曲メディアコンテンツクリエイション
基礎数学Ⅰ → 基礎数学Ⅱ

前提科目・推奨科目のみを抜粋

情報・工学系

テクニカル・ライティング
線形代数Ⅰ → 線形代数Ⅱ
微分・積分Ⅰ → 微分・積分Ⅱ
標準化入門

ビジネス系

経営学基礎 → 会計・簿記
デジタルエコノミー基礎
マーケティング
コーポレートファイナンス
デジタルマーケティング
ベンチャーファイナンス
ビジネスリテラシー
プロジェクトマネジメント入門
ビジネスアーキテクチャ入門
ビジネスアーキテクチャ発展
プロジェクトマネジメント発展
アントレプレナー
地域おこし論
グローバル人材開発
リーダーシップ入門
ビジネスインテリジェンス入門
ビジネスインテリジェンス発展
品質管理
Web3・DAO地域創生
宇宙ビジネス入門
知的財産権概論
知的財産権実践
交渉学概論

【凡例】

- 基礎教育科目(学修基盤、語学)
- 基礎教育科目（一般教養）
- 専門教育科目（情報・工学系）
- 専門教育科目（ビジネス系）
- 専門教育科目（演習系）
- 自由科目

赤枠：必修科目
黒枠：選択科目

青字：１単位科目
黒字：２単位科目

→ ：前提科目
⇢ ：履修推奨科目

【資料13】情報デザイン学部情報デザイン学科　履修系統図（関係図②）

ディプロマポリシー

カリキュラムポリシー

A　情報社会の基盤となる情報技術に関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

- A-1:情報技術の基礎概念を理解し、基礎知識を身につける科目を配置する
- A-2:実社会で使われている情報技術の基本的な知識とスキルを身につける科目を配置する
- A-3:情報倫理や情報技術が社会にもたらす影響や、情報技術の最新動向について理解する科目を配置する

B　情報社会におけるビジネスに関する知識とスキルを身につけている（知識・技能）

- B-1:ビジネス活動の基礎を知る科目を配置する
- B-2:　情報技術を活用したビジネス活動の知識とスキルを身につける科目を配置する

C　情報技術を活用し、「デザイン」を通じて課題解決と価値創造ができる力を身につけている（思考・判断・表現）

- C-1課題解決や価値創造に関する考え方・方法論を知る科目を配置する
- C-2:プロジェクト立案・遂行できる能力を身につける科目を配置する
- C-3:情報技術を多様な機会に応用するための知識・方法論を身につける科目を配置する

D　地域社会、国際社会で協働できる協調・リーダーシップと、志を開いて学び続ける姿勢を身につけている（態度・志向性）

- D-1:他者と相互理解を深めるためのスキルと多様な価値観について知る科目を配置する
- D-2:協調とリーダーシップについて学ぶ科目を配置する
- D-3:自らの内なる志に気づき、一生を通じて学び続けるための心構えを養う科目を配置する

教育課程

※前期・後期の割り振りなし

1年	2年	3年	4年	
前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
テクニカル・リーディング	前提科目・推奨科目のみを抜粋			学修基盤
	前提科目・推奨科目のみを抜粋			語学
基礎数学Ⅰ　基礎数学Ⅱ	前提科目・推奨科目のみを抜粋			一般教養
	テクニカル・ライティング			情報・工学系
	線形代数Ⅰ → 線形代数Ⅱ			
	微分・積分Ⅰ → 微分・積分Ⅱ			
	微分方程式入門			
	物理学入門　電磁気学	量子情報理論入門　カオス・複雑系入門		
	電気回路　電子回路	量子力学	光量子エレクトロニクス入門	
		制御工学入門　宇宙利用工学入門		
		通信工学・情報理論		
			半導体チップ製造概論	
	コンピュータグラフィックス・メタヴァース入門	コンピュータ・グラフィックス基礎		
コンピュータアーキテクチャⅠ	デジタル回路 → コンピュータアーキテクチャⅡ	デジタルLSI設計入門		
		IoTデバイス入門		
			衛星測位システム特論	
		システムズデザイン概論		
Linux入門	Linux活用入門　コンピュータネットワーク			
		サイバーセキュリティ概論	サイバーセキュリティ演習	
		Web3入門		
プログラミング基礎		ソフトウェア開発Ⅰ	ソフトウェア開発Ⅱ	
	ソフトウェアアーキテクチャⅠ → ソフトウェアアーキテクチャⅡ		組込みソフトウェア概論	
	アルゴリズムとデータ構造			
	リーダブルコード			
プログラミング発展	Webアプリケーション開発　Webデザイン	データサイエンスプログラミング	ソフトウェアデザイン	
	データベース論		言語処理技術	
			次世代プログラミング言語	
システムプログラミング基礎Ⅰ	システムプログラミング基礎Ⅱ	システムプログラミング発展		
	離散数学	ネットワーク分析	深層学習基礎 → 深層学習応用	
		データエンジニアリング		
データサイエンス入門	データサイエンス基礎	データサイエンス発展　ソーシャル・コンピューティング		
		自然言語処理入門　画像処理・コンピュータビジョン		
		金融工学入門　バイオインフォマティクス入門		
デザイン思考	デザインリサーチ	サービスデザイン	スマート農業入門	
	プロダクトデザイン概論　クリエイティブAI	ヒューマンコンピュータインタラクション　ゲームプランとゲームシナリオのデザイン		
		建築計画学概論 → 建築構法デザイン		
			標準化入門	
前提科目・推奨科目のみを抜粋	知的財産権概論			ビジネス系
	DXプロジェクトⅠ	DXプロジェクトⅡ	DXプロジェクトⅢ	演習系
	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅲ	自由科目

【凡例】

- 基礎教育科目(学修基盤、語学)
- 基礎教育科目（一般教養）
- 専門教育科目（情報・工学系）
- 専門教育科目（ビジネス系）
- 専門教育科目（演習系）
- 自由科目

赤枠：必修科目
黒枠：選択科目

青字：１単位科目
黒字：２単位科目

→ ：前提科目
⇢ ：履修推奨科目

【資料14】LMS機能一覧

■ e-Campus v3.0 機能一覧

更新日　2025/2/28

※現在設計/開発中のため、 開学までに一部機能が変更となる可能性があります

No.	分類	システム機能名	機能名	概要	備考
1	システム管理	学校管理	学校法人環境の新規作成	新しい学校法人環境を一から構築します。	
2			基本情報の編集	学校コードや学校名など、基本情報の編集をします。	
3			学校別使用機能の設定	各学校へ利用を許可する機能を指定します。	
4			利用認証方法選択	学校別に認証する機能を設定します。（SAML認証）	
5			学部学科名称の学校別カスタム設定	学科組織管理で利用できる区分名称の個別設定をします。	
6			単位修得試験運用可否	単位修得試験の運用可否を学校別に指定します。	
7			成績評価、成績認定時の評価等級設定	成績評価、成績認定時の等級を学校別に指定します。	
8			履修確定通知・成績判定通知のカスタム設定	履修確定時、成績判定時の通知内容を学校別にカスタマイズします。	
9		システム管理	出欠状態ステータスのカスタム設定	出欠状態のラベル名をカスタマイズします。	
10			学校へ開放された設定項目の編集	学校管理者が学校に関する設定をカスタマイズします。	
11			提出期限カウントダウンの設定	提出期限までのカウントダウンを開始する日数を設定します。	
12			リンクの設定	リンクガジェットに表示するリンクを設定します。	
13			成績試験の名称設定	成績に関わる試験の名称を設定します。	
14			成績区分の設定	成績評価区分や、単位修得の下限を設定します。	
15			カスタム修了証の設定	学校独自の修了証を設定します。	
16			科目カテゴリの設定	科目カテゴリを設定します。	
17			スケジュール カテゴリ設定	スケジュール登録時のカテゴリを設定します。	
18			質問カテゴリ設定	学生が質問をするときに選択できるカテゴリを設定します。	
19			履修確定コメント設定	履修確定時に学生に通知される内容を設定します。	
20			成績確定コメント設定	成績開示時に学生に通知される内容を設定します。	
21	トップ	ダッシュボード	ユーザ属性別ダッシュボード	ユーザ属性を元にその特性に最適化されたガジェットを表示します。	
22		ガジェット	ユーザ情報ガジェット	ユーザアイコン、ユーザ名、未読のシステムメッセージ件数を表示します。	
23			お知らせガジェット	お知らせガジェットは、大学からのお知らせ、教員のお知らせ、未読件数を表示します。	
24			スケジュールガジェット	学内行事のスケジュールを表示します。	
25			担当授業ガジェット	今季担当している授業の一覧と、各授業に届いている未読質問数や未評価数を表示します。	
26			時間割ガジェット	授業の予定を表示します。	
27			リンクガジェット	他のシステムやウェブサイトへのリンクを表示します。	
28	運用管理	ユーザ管理	ユーザの新規作成	新規ユーザを作成します。	
29			ユーザ情報編集	既存のユーザ情報を修正・更新します。	
30			ユーザの削除	不要になったユーザ情報をシステムから削除します。	
31			ユーザ検索と一覧表示	特定の条件でユーザを検索し、結果を一覧表示します。	
32			表示項目変更	ユーザ一覧の表示項目を利用者が必要に応じて変更します。	
33			ロールの割当	ユーザに適切な機能を割り当てます。	
34			学科組織の割当	ユーザを特定の学科や組織に割り当てます。	
35			学年指定	学生ユーザに対し、適切な学年を割り当てます。	
36			ユーザ利用停止	特定のユーザのアクセスを一時的に停止します。	
37			学生カルテへの遷移	学生の基本情報や学習状況、成績などの詳細情報を表示します。	
38			ユーザ情報エクスポート	ユーザ情報を外部ファイルにエクスポートします。	
39			データ連携でのユーザ情報更新	学務システムなどと日次バッチ処理にてCSVファイルでのユーザ情報更新自動化処理を行います。	
40		ロール管理	ロールの新規作成	新たなロールを作成し機能権限を設定します。	
41			ロール情報編集と機能権限の割当	ロール情報を編集し機能権限を変更します。	
42			ロールの削除	不要になったロールを削除します。	
43			ロールの検索と一覧表示	条件に応じたロールを検索し一覧表示します。	
44			表示項目変更	ロール一覧の表示項目を変更します。	
45			ロール情報のエクスポート	ロール情報を外部ファイルにエクスポートします。	
46			ロール情報インポート	CSVファイルを用いてロール情報に対し一括更新などを行います。	
47		組織管理	学部、学科、コースの組織階層作成	学校種別毎に指定された呼称で、学科組織の構成を設定します。	
48			階層別の担当教員指定	クラス担任の情報閲覧範囲の制限に利用するなど、授業担任とは異なる担任の意味合いで担当者を設定します。	
49			学科・組織などの検索と一覧表示	条件に応じた組織階層を検索し一覧表示します。	
50			組織情報のエクスポート	学科組織情報を外部ファイルにエクスポートします。	
51			組織情報インポート	CSVファイルを用いて学科組織情報に対し一括更新などを行います。	
52			データ連携でのコース情報更新	学務システムなどと日次バッチ処理にてCSVファイルでの組織情報更新自動化処理を行います。	
53		グループ管理	グループの新規作成	新しいグループを作成します。授業の受講者や検索、データ操作時のユーザ絞り込みに利用します。	
54			グループの情報編集	既存のグループ情報を変更・更新します。	
55			グループの削除	不要になったグループをシステムから削除します。	
56			グループ検索と一覧表示	指定の条件でグループを検索し、結果を一覧で表示します。	
57			表示項目変更	グループ一覧の表示項目を変更します。	
58			グループ単位への対象者設定	ユーザをグループに割り当てます。	
59			グループのエクスポート	グループ情報をを外部ファイルにエクスポートします。	
60			グループのインポート	CSVファイルを用いてグループに対し一括更新などを行います。	
61		期間管理	期間の新規作成	期間を新たに設定します。期間は、学期の概念を元とした授業開講期間の一括管理を行います。	
62			期間の情報編集	設定された期間の詳細情報を編集・更新します。	
63			期間の削除	不要になった期間をシステムから削除します。	
64			期間検索と一覧表示	特定の条件で期間を検索し、結果を一覧で表示します。	
65			期間管理の表示項目変更	期間管理画面の表示項目を変更します。	
66			期間のエクスポート	期間情報を外部ファイルにエクスポートします。	
67			期間のインポート	CSVファイルを用いて期間に対し一括更新などを行います。	
68		科目管理	科目の新規作成	新しい科目を作成します。科目名、単位数、カテゴリなどの情報を設定します。	
69			科目の情報編集	既存の科目情報を変更・更新します。	
70			科目の削除	不要になった科目をシステムから削除します。	
71			科目検索と一覧表示	特定の条件で科目を検索し、結果を一覧で表示します。	
72			科目一覧の表示項目変更	科目一覧の表示項目を変更します。	
73			科目のエクスポート	科目情報を外部ファイルにエクスポートします。	
74			科目のインポート	CSVファイルを用いて科目に対し一括更新などを行います。	
75			データ連携での科目情報更新	学務システムなどと日次バッチ処理にてCSVファイルでの科目情報更新自動化処理を行います。	
76		動画管理	動画の新規登録	新たな教育用動画をシステムに登録します。動画タイトル、説明、関連科目などの情報を設定します。	
77			動画の情報編集	既存の動画情報を変更・更新します。動画のタイトルや説明、関連科目などを編集します。	
78			動画の削除	不要になった動画をシステムから削除します。動画の使用状況を考慮して慎重に操作します。	
79			動画の字幕登録機能	動画の字幕をCSVで登録します。	
80			動画の検索と一覧表示	特定の条件で動画を検索し、結果を一覧で表示します。動画コンテンツの管理や検索に便利です。	
81			動画一覧の表示項目変更	科目一覧の表示項目を利用者のニーズに応じて変更します。表示する情報をカスタマイズして効率的に管理します。	
82		操作履歴管理	ユーザ別操作履歴の一覧表示	システム内でのユーザ別操作履歴を一覧で確認します。	
83			操作履歴の検索	特定の条件に基づいて操作履歴を検索します。	
84			操作履歴の表示項目変更	検索結果一覧で表示する操作履歴の項目をカスタマイズします。	
85			操作履歴情報のエクスポート	操作履歴情報を外部ファイルにエクスポートします。	
86		学生情報（学生カルテ）	学生一覧表示	システムに登録されている全学生の情報を一覧で確認します。	
87			一覧表示への学生カルテ表示機能	学生一覧から直接、個々の学生カルテにアクセスできる機能を提供します。	
88		学生カルテ	基本情報の表示	学生の基本的な個人情報や学籍情報を表示します。	
89			詳細情報の表示	学生の詳細な連絡先情報や経歴を表示します。	
90			履修状況の表示	学生の履修科目や履修状況を確認します。	
91			成績表の表示	学生の成績を詳細に表示し、成績管理を支援します。	
92			学習進捗状況の表示	学生の学習進捗状況を確認し、学習支援の計画を立てます。	
93			操作履歴の表示	学生のシステム利用履歴を確認します。	
94			質問履歴の表示	学生からの質問の履歴を表示します。	
95			問い合わせ履歴の表示	学生からの問い合わせ履歴を表示し、適切なサポートを行います。	
96			履修授業の出欠情報表示	学生の授業出席状況を確認し、出席管理を効率化します。	
97			時間割表の表示	学生の時間割を表示し、日々のスケジュール管理をサポートします。	
98			活動記録の表示	学生の学内外での活動記録を表示し、全人的なサポートを実現します。	
99			詳細情報のインポート	詳細情報タブに表示される情報をCSVでインポートします。	
100		評価項目管理	評価項目の新規作成	評価項目セットを新たに設定します。	
101			評価項目の情報編集	設定された評価項目セットの詳細情報を編集・更新します。	
102			評価項目の削除	不要になった評価項目セットをシステムから削除します。	
103			評価項目の複製	評価項目セットを複製します。	
104			評価項目一覧表示・検索・ソート	特定の条件で評価項目セットの基本的な検索・ソートをします。	
105			評価項目一覧の表示項目変更	評価項目管理画面の表示項目を変更します。	
106			基本情報編集	評価項目セットコード、評価項目セット名を入力します。	
107			評価軸情報編集	評価軸、評価対象を設定します。	
108			評価点情報編集	評価点、評価対象を設定します。	
109	授業管理	構成管理	管理可能授業一覧表示・検索・ソート	管理可能な全授業の表示とともに、基本的な検索・ソートをします。	
110			授業の新規作成	授業を新規作成します。	
111			授業の削除	不要となった授業の削除を行います。	
112			授業の複製	授業を複製します。	
113			基本情報編集	科目や期間、代表教員名やサムネイル画像、曜日・時限、履修前提条件の設定を行います。	
114			履修情報編集	授業を受講する学科やクラス、コースを設定し、それぞれの組織に対応する科目区分（必修や選択必修）を設定します。	
115			構成情報編集	授業のフォルダ、各種アイテムを配置し授業の内容を構築します。	
116			教員・職員設定	授業担当者の設定や変更を行います。	
117			対象者設定	授業を履修可能な学生を指定します。	
118			エクスポート	授業情報を外部ファイルにエクスポートします。	
119			インポート	CSVファイルを用いて各種授業情報に対し一括更新などを行います。	
120			データ連携での授業情報更新	学務システムなどと日次バッチ処理にてCSVファイルでの授業情報更新自動化処理を行います。	
121			作成した授業のプレビュー機能	作成した授業アイテムの表示レイアウトをプレビューで表示します。	
122		進捗管理	管理可能授業一覧表示・検索・ソート	システム内に登録されている全授業を一覧表示し、基本的な検索や並び替えが可能です。	
123			管理可能学生一覧表示・検索・ソート	システムに登録されている学生を一覧表示し、基本的な検索や並び替えが可能です。	
124			授業・教材別学習進捗状況一覧表示・詳細表示	授業ごとに指定された教材の学習進捗状況を一覧で確認し、詳細情報を表示します。	
125			履修者別授業や教材の学習進捗状況一覧表示・詳細表示	各学生のフォルダや教材毎の学習進捗状況を一覧で表示し、詳細情報を表示します。	
126			授業別進捗率表示	各授業の進捗率を可視化し、進行状況を把握する情報をグラフと共に表示します。	
127			学生別授業進捗率表示	学生ごとの授業進捗率を表示し、個別の学習状況を把握します。	

128			授業実施回別進捗率表示	授業の実施回ごとの進捗率を表示し、まとまった単位での進行状況を確認します。	
129			アイテム別学習進捗状況表示	各教材アイテムごとの学習進捗状況を表示し、詳細な学習状況を把握します。	
130			アイテム別実施・提出内容個別表示	学生ごとの各アイテムの実施状況や提出内容を確認し、個別の進捗を把握します。	
131			動画アイテム ユーザ別リアクション結果表示機能	学生がリアクション機能を用いた軌跡を動画のシークバー付近に表示し、動画アイテム視聴中のリアクション状況を確認します。	
132			レポート評価・コメント機能	提出されたレポートの評価やコメントを登録し、学生にフィードバックを行ないます。	
133			レポートアイテム 提出PDFデータへの採点評価機能	PDFデータへ直接ブラウザ上で採点や評価を書き込み、学生へフィードバックをします。	
134			テストアイテム ユーザ別マーク結果表示機能	テストアイテムの設問単位で記録された学生のマークを閲覧します。	
135			テストアイテム 試験実施時Webカメラ撮影結果確認機能	テストアイテム実施にWebカメラでの画像撮影を一定間隔で行い、テスト実施者の状況や本人確認を行います。	
136			未採点提出物数カウント機能	未採点の提出物の数をカウントし、教員が評価作業の状況を一目で把握できるようにします。	
137			授業・学生別の2カラム3カラム表示UI	授業・フォルダ・アイテム別の学生の進捗状況を2カラムまたは3カラムで表示し、学生個々の学習状況を詳細に表示します。	
138			学生別マトリクス表示UI	学生を中心に、授業全体の進捗状況をマトリクス形式で表示し、学生に対する俯瞰的な進捗情報の表示が可能です。	
139			データ出力	授業進捗管理に関連するデータを外部ファイルとしてエクスポートし、分析やレポート作成に活用します。	
140		成績管理	管理可能授業一覧表示・検索・ソート	管理可能な全授業の表示とともに、基本的な検索・並び替えができます。	
141			授業内成績一括入力	学生一覧より編集対象を選択肢、成績評価を一括入力します。	
142			学生別成績評価入力	学生個別の成績評価を入力します。	
143			成績入力後一括登録機能	1件1件保存ではなく、複数件入力した最後に登録処理を行います。	
144			データ出力	成績情報を外部ファイルにエクスポートします。	
145			データ入力	CSVファイルを用いて授業成績の一括更新などを行います。	
146			成績確定処理	入力された成績に対し入力を確定します。確定後は成績編集操作は不可	
147			成績開示処理	入力されている成績を学生の成績参照まで開示します。	
148			データ連携での成績情報連携	学務システムなどへ日次バッチ処理にてCSVファイルでの成績情報更新自動化処理を行います。	
149		質問管理	質問一覧表示	学生からの質問を一覧形式で表示します。	
150			対応状況共有機能	質問の対応状況を共有するためのステータス管理をすることができます。	
151			回答返信機能	質問に対して直接回答を行います。	
152			質問対応履歴記録	質問内容から応対履歴を保持し時系列で表示します。	
153		出席管理	管理可能授業一覧表示・検索・ソート	管理可能な全授業の表示とともに、基本的な検索・並び替えができます。	
154			授業フォルダ構成別学生個別の出欠状況一覧画面	授業別にフォルダ構成をもとにした学生別出欠情報を閲覧できます。	
155			授業別学生個別の出席数・欠席数・欠席率の表示	各授業ごとに学生の出席状況を数値や比率で表示します。	
156			授業フォルダ構成別学生出欠状況個別入力・一括入力	出欠情報の入力、編集、クリアの基本操作に加え、一括入力操作を行います。	
157			出欠入力後一括登録機能	1件1件保存ではなく、複数件入力した最後に登録処理を行います。	
158			データ出力	出席情報を外部ファイルにエクスポートします。	
159			データ入力	CSVファイルを用いて成績の一括判定を行います。	
160		成績認定管理	新規成績認定の登録	科目に対し成績認定を行い、単位を習得した状態と同義にシステム上で取り扱われます。	
161			成績認定の編集・削除	すでに設定されている成績認定の科目やユーザの編集、もしくは設定を削除がを行います。	
162			成績認定情報のエクスポート	成績認定情報を外部ファイルにエクスポートします。	
163			成績認定のインポート	CSVファイルを用いて成績認定の一括指定を行います。	
164		授業連絡管理	授業連絡の新規作成	新しい授業連絡を作成し、必要な情報をリアルタイムに指定ユーザへ掲示します。	
165			授業連絡の下書き保存	作成途中の授業連絡を保存し、後で編集・公開を行います。	
166			授業連絡情報編集	既存の授業連絡を編集し、最新情報に更新します。	
167			授業連絡表示期間の設定	授業連絡の表示期間を設定し、公開日を指定できるので掲載予約を行います。	
168			授業連絡配信元の個別設定	配信元を変更することで、個人ではなく各種部課からの授業連絡として、一元管理ができます。	
169			授業連絡の削除	不要になった授業連絡をシステムから削除します。	
170			授業連絡検索と一覧表示	条件に応じた授業連絡を検索し、一覧表示します。	
171			授業連絡一覧の表示項目変更	授業連絡一覧の表示項目を必要に応じて変更します。	
172			授業連絡の重要度設定	授業連絡の重要度を設定し、優先度に応じた表示を行います。	
173			授業連絡配信先ユーザ別個別既読状況・既読日の確認	各ユーザの授業連絡の既読状況と既読日を確認します。	
174			授業連絡のエクスポート	授業連絡情報を外部ファイルにエクスポートします。	
175			授業連絡のインポート	CSVファイルを用いてシステムにインポートします。	
176		クリッカー管理	クリッカーの新規作成	クリック型の投票やアンケート用の項目を作成します。	
177			クリッカーの削除	不要になったクリッカーを削除します。	
178			クリッカーの複製	作成したクリッカーを複製します。	
179			クリッカー一覧表示・検索・ソート・複製	作成したクリッカーを一覧で表示します。基本的な検索やソートを行います。	
180			○×回答機能	ユーザがクリッカーを使用して○×形式の回答を行います。	
181			簡易アンケート収集機能	簡易アンケートを実施し回答を収集します。	
182			詳細アンケート収集機能	設問内容や選択肢を設定したアンケートを実施し、回答を収集します。	
183			各種集計結果表示	投票やアンケートの結果をグラフィカルに表示し、学生とリアルタイムにその結果を共有します。	
184			表示モード切替機能	表示モードを変更し、回答モード、学生側への結果表示モード、非表示モードを切り替えます。	
185			結果表示機能	[結果表示モード]に切り替えることで、学生へ参加者数、グラフ、凡例を表示します。	
186			クリッカーのエクスポート	クリッカー情報を外部ファイルにエクスポートします。	
187			クリッカーのインポート	CSVファイルを用いてシステムにインポートします。	
188		シラバス管理	科目をベースとしたシラバス一覧表示・検索・ソート	各科目に関連付けられたシラバスを一覧表示と、基本的な検索やソートを行います。	
189			年度別の科目一覧を表示	過年度絞り込みを基本機能として、シラバスの運用管理を効率化します。	
190			シラバス登録状況管理機能	シラバスの登録状況を管理し、情報登録と更新を効率化します。	
191			シラバス編集機能	シラバスの年度、状態（下書きや公開）、添付ファイル（PDF）の設定を編集します。	
192			シラバスの下書き保存	作成途中のシラバス情報を保存し、後で編集・公開を行います。	
193		休補講管理	休補講情報の新規作成	休講や補講の情報を新規に登録し配信します。	
194			休補講情報の下書き保存	情報の入力中に下書き保存が可能です。	
195			休補講情報情報編集	既に登録された休補講情報を編集します。	
196			休講情報・補講情報個別配信	特定の受講者に休講や補講情報を個別に配信します。	
197			休補講情報表示期間の設定	休補講情報の表示期間を設定し、必要な期間のみ情報を公開します。	
198			休補講情報の削除	不要になった休補講情報を削除します。	
199			休補講情報の検索と一覧表示	特定の条件で休補講情報を検索し、一覧表示します。	
200			休補講一覧の表示項目変更	表示項目をカスタマイズして、必要な情報のみを表示します。	
201			休補講情報のエクスポート	情報を外部ファイルにエクスポートします。	
202			休補講情報のインポート	CSVファイルを用いて休補講情報を取り込めます。	
203	授業運用	担当授業	担当授業トップページ	担当授業内の履修者などの情報や、各メニューへ遷移することができるレイアウトを表示します。	
204		サマリレポート機能	学生の履修授業アイテム別進捗状況の表示	各学生の授業ごとの進捗状況、個別アイテムごとの進捗状況や評価を横断的に表示します。	
205	授業	授業一覧	授業一覧トップレイアウト表示	授業一覧トップページのレイアウトを表示します。	
206			授業実施画面 カスタムビュー表示	授業アイテムの実施に必要な情報をカスタムビューで表示します。	
207			フォルダ	アイテムをフォルダ単位でまとめることができ、回構成として利用します。	
208		質問	質問受付機能	学生から授業担当の教員に対して質問します。	
209		クリッカー	投票実施	授業内での投票を実施し、意見や反応を収集します。	
210			簡易アンケート回答	簡易アンケートに回答し、授業のフィードバックを提供します。	
211			集計結果表示機能	投票やアンケートの集計結果を表示します。	
212			共有機能	教員が作成したクリッカーを別の教員に共有します。	
213		授業連絡	授業連絡一覧表示	授業担当教員から学生へ通知した連絡事項を表示します。	
214			授業連絡詳細表示	個々の授業連絡の掲示内容を確認します。	
215		チャット	リアルタイム質問受付	学生と担当教員同士や受講している学生グループでの会話をリアルタイムで実施します。	
216			チャットベースの対話機能	授業中の疑問や議論をチャット形式で行うことができ、参加しやすい環境を提供します。	
217		マーク	マーク一覧機能	動画やテストでつけたマークを一覧で表示します。	
218			遷移機能	マークを付けた動画やテストの開始部分に遷移します。	
219		成績	成績参照機能	学生が成績を確認することができます。	
220	アイテム	動画	動画教材の受講機能	ストリーミング再生に対応した動画教材を受講できる機能を提供します。	
221			動画再生機能の基本機能	スムーズな動画再生をサポートする基本的な機能を備えています。	
222			動画マーキング機能	動画の重要なポイントをマーキングし、後から参照しやすくします。	
223			動画リアクション機能	動画に対するリアクションをします。	
224			配布資料ダウンロード機能	動画に設定した添付資料を学生側でダウンロードします。	
225			授業ノート機能	ノートをテキストで動画アイテム内に保存し、またはダウンロードします。	
226			字幕表示機能	動画に設定した字幕を表示します。	
227			コメント機能	動画アイテム内でコメントを投稿します。自分で登録したコメントは後で削除できます。	
228			クリッカー機能	動画アイテム内で投票を実施し、意見や反応を収集します。	
229			質問機能	動画アイテム内で担当教員に質問することができます。	
230			外部URL動画教材埋め込み表示	外部URLの動画教材を埋め込み表示し、多様な教材の活用を可能にします。	
231		レポート	レポート教材受講機能	レポート形式の教材を提供し、論述式の課題の受講が可能です	
232			レポートデータアップロード	学習者が作成したレポートをアップロードできる機能を提供します。	
233			PDFデータ直接記入機能	PDF形式提出データに先生や学生が直接記入が可能な機能です。	
234		テスト	テスト教材受講機能	様々な形式のテストをオンラインで受験できる機能です。	
235			択一式選択問題	一つの正解を選択する形式の問題を利用します。	
236			複数選択問題	複数の選択肢の中から複数の正解を選ぶ問題です。	
237			プルダウン形式	プルダウンメニューから答えを選択する形式の問題です。	
238			穴埋め形式	文章中の空白部分に適切な語句を入れる形式の問題です。	
239			一問一答	一問の回答を行った直後、正解、正答を表示するテストの出題形式です。	
240			チャレンジ	テスト受講中に間違えた問題を再度チャレンジし、全問正解するまで繰り返すことができるテストの出題形式です。	
241			制限時間	テストの開始からカウントダウンが始まる制限時間の設定が可能です。	
242			中断機能	テストを中断することで保存された状態となり、再度開くと中断した設問から開始します。	
243			実施回数制限	テストの実施回数を設定することができます。	
244		試験機能	成績認定試験受験機能	単位修得に必要な試験を受験できる機能を提供します。	
245		アンケート	アンケート教材受講機能	複数の質問タイプからなるアンケート形式の教材を実施可能です。	
246			アンケート択一式選択形式問題	一つの選択肢を選ぶ形式の質問です。	
247			アンケート複数選択形式問題	複数の選択肢から好きなだけ選ぶことができる質問です。	
248			アンケートプルダウン形式問題	プルダウンメニューから答えを選択する形式の質問です。	
249			アンケートリッカート形式問題	評価を選択して答えることができる質問です。	
250			アンケート自由記述形式問題	自由記述で答えを入力できる形式の質問です。	
251			質問分岐	分岐した質問を設定することができます。	
252			集計結果表示機能	教員側で許可したときのみ、集計結果を学生に公開します。	
253			複数回答許可機能	教員側で許可したときのみ、何回でも回答をすることができます。	
254			編集機能	教員側で許可したときのみ、既に回答をしたアンケートの回答内容を変更することができます。	
255		ライブ授業	ウェビナーサービスURL指定 遷移機能	ウェビナーサービスへの直接遷移を可能にし、オンライン授業の実施をサポートします。	
256		ディスカッション	授業内ディスカッション教材受講	授業内にディスカッション機能を提供し、課題内容に対し意見交換の場を提供します。	
257			発言回数・返信回数修了条件機能	発言や返信の回数に基づいた修了条件を設定し、課題に位置づけることができます。	
258			教員による一括コメント返信機能	教員が、学生のスレッドに対して一括でコメントを返信します。	
259	コミュニケーション	お知らせ管理	お知らせの新規作成	新しいお知らせを作成し、必要な情報をリアルタイムに指定ユーザへ掲示します。	
260			お知らせの下書き保存	作成途中のお知らせを保存し、後で編集・公開を行います。	
261			お知らせ情報編集	既存のお知らせを編集し、最新情報に更新します。	
262			お知らせ表示期間の設定	お知らせの表示期間を設定し、公開日を指定できるので掲載予約を行います。	

263			お知らせ配信元の個別設定	配信元を変更することで、個人ではなく各種部課からのお知らせとして、一元管理ができます。	
264			お知らせの削除	不要になったお知らせをシステムから削除します。	
265			お知らせ検索と一覧表示	条件に応じたお知らせを検索し、一覧表示します。	
266			お知らせ一覧の表示項目変更	お知らせ一覧の表示項目を必要に応じて変更します。	
267			お知らせの重要度設定	お知らせの重要度を設定し、優先度に応じた表示を行います。	
268			お知らせ配信先ユーザ別個別既読状況・既読日の確認	各ユーザのお知らせの既読状況と既読日を確認します。	
269			お知らせのエクスポート	お知らせ情報を外部ファイルにエクスポートします。	
270			お知らせのインポート	CSVファイルを用いてシステムにインポートします。	
271		お知らせ	お知らせ一覧表示	授業や学務など、カテゴリごとにお知らせを一覧で表示します。	
272			お知らせお気に入りマーク記録	重要なお知らせにマークを付け、後で簡単に参照できるようにします。	
273			お知らせ詳細表示	個々のお知らせの掲示内容を確認します。	
274		問い合わせ管理	お問い合わせ一覧表示	学生からのお問い合わせを一覧形式で表示します。	
275			対応状況共有機能	お問い合わせの対応状況を共有するためのステータス管理が可能です。	
276			回答返信機能	お問い合わせに対して直接回答を行います。	
277			お問い合わせ対応履歴記録	お問い合わせ内容から応対履歴を保持し時系列で表示します。	
278		問い合わせ	お問い合わせ内容送信機能	学生が直接お問い合わせを送信できる機能を提供します。	
279			お問い合わせ履歴一覧表示	お問い合わせの応対履歴を一覧で確認します。	
280			お問い合わせ内容・回答詳細表示	お問い合わせとそれに対する回答の詳細を閲覧します。	
281	イベント	スケジュール管理	スケジュールの新規作成	新しいスケジュールを作成し、学内行事などのスケジュールをカレンダー上へ反映します。	
282			スケジュールの下書き保存	登録途中のスケジュール情報を下書きとして保存し、後で編集を続けることができます。	
283			スケジュール情報編集	既存のスケジュール情報を修正・更新します。	
284			スケジュール表示期間の設定	スケジュールがカレンダー上に表示される期間を設定します。終日スケジュールも登録することができます。	
285			スケジュールの削除	不要になったスケジュールをシステムから削除します。	
286			スケジュール検索と一覧表示	条件に応じたスケジュールを検索し、一覧表示します。	
287			スケジュール一覧の表示項目変更	スケジュール一覧の表示項目を必要に応じて変更します。	
288			スケジュールのエクスポート	スケジュール情報を外部ファイルにエクスポートします。	
289			スケジュールのインポート	CSVファイルを用いてシステムにインポートします。	
290		スケジュール	カレンダー表示機能	学務予定やスケジュールをカレンダー形式で表示します。	
291			スケジュール表示	登録されたスケジュールを表示します。	
292			スケジュール内容詳細表示	各スケジュールの詳細情報を閲覧します。	
293	履修管理	履修管理	管理可能授業一覧表示・検索・ソート	管理可能な全授業の表示とともに、基本的な検索・並び替えが可能	
294			授業別履修申請者数状況確認	各授業の履修申請者数を確認し、履修状況を把握します。	
295			授業別履修申請者一覧表示	各授業の履修申請状況を学生一覧で表示し、学生の詳細情報にアクセスします。	
296			履修申請承認機能（却下可）	履修申請の承認及び却下を行い、各期間で行われた履修申請の判定結果を登録します。	
297			履修申請者確定処理	履修申請を承認した後、その申請に対し確定を行った上で学生へ通知を送信します。	
298			履修確定者一覧表示	履修確定した学生を一覧表示し、履修者の詳細情報にアクセスします。	
299			データ出力	履修申請者・履修確定者の情報を外部ファイルにエクスポートします。	
300			データ入力	CSVファイルを用いて履修承認処理、確定処理の一括更新などを行います。	
301			データ連携での履修情報作成・変更・削除	学務システムなどと日次バッチ処理にてCSVファイルでの履修情報更新自動化処理を行います。	
302		履修申請	履修申請機能	履修可能な授業の一覧から、履修申請を行います。	
303	その他	グループチャット	特定ユーザとのチャット機能	特定のユーザーと直接チャットができる機能を提供します。	
304			指定グループ内チャット機能	特定のグループ内でのみ利用可能なチャット機能を提供します。	
305		システムメッセージ	リアルタイム通知	重要なお知らせや更新情報をリアルタイムで通知します。	
306			定時通知	日毎に1回、定時で設定されているお知らせを通知します。	
307			未読通知バッチ表示	未読のお知らせやメッセージをバッチ表示し、見落としを防ぎます。	
308			ヘッダ常時表示の通知呼出	ヘッダ部分に常時表示される通知呼出機能で、いつでも最新情報にアクセスします。	
309		表示切り替え機能	学生ビュー切り替え機能	学生が紐づいている場合は、状況を確認したい学生を選択します。	
310		パスワード変更	パスワード変更機能	各自のパスワードを変更することができます。	
311		情報・設定	バージョン情報の表示	システムの現在のバージョンを表示します。	
312			ニックネーム編集	自身のニックネームを編集できる機能を提供します。	
313			ユーザアイコン変更機能	個々のユーザアイコンを変更できる機能を提供します。	
314	搭載予定	グループワーク	グループワーク機能	授業内の任意のグループで、チャットやファイルリンク共有、相互評価をします。	
315		成績自動集計・承認	成績自動集計機能	評価軸を設定し、自動で成績を集計します。	
316			成績承認機能	成績を承認経路を通じて、確定することができます。	
317		プッシュ通知	プッシュ通知	システムメッセージを使用端末に通知します。	
318		学習条件	学習条件	授業を受講するための前提条件や免除条件を授業フォルダやアイテムに設定します。	
319		顔認証	顔照合併用	顔認証技術を使用し、テスト受講時の顔画像と本人を認証します。（予定）	
320	システム	認証	アプリ認証	DBへアプリ認証用PWを暗号化して格納。パスワードは忘れると再発行のみ可能なセキュリティです。	
321			パスワードポリシー	64文字以内の半角英数字、半角記号	
322			SAML認証	SAMLを使用した認証方法を提供し、シングルサインオン環境をサポートします。	
323	汎用機能	一括処理関連	インポートフォーマットダウンロード	データインポートに必要なフォーマットをダウンロードします。	
324			インポートフォーマット列をキー指定機能	インポート時に特定の列をキーとして指定できる機能を提供します。	
325			エクスポートデータインポート用key同時出力機能	データのエクスポート時にインポート用のキーを同時に出力する機能を提供します。	

【資料15】ポートフォリオ機能一覧

教員	学生グループの作成	学生をグルーピングする
	学生グループのインポート	CSV形式ファイルのインポートでグループへ学生を一括して割り当てる
	学生グループの操作	学生グループに学生を追加、削除、移動する
	学生一覧表示	グループ内の学生を一覧表示する
	学生検索	学生の属性情報を用いて学生を検索する
	タグ検索	タグ内容を用いて検索する
	全文検索	ポートフォリオ内のファイルデータ内容を検索する
	コメント	学生が作成したファイルにテキストでコメントをする／コメントファイル（PDF）をアップロードする
学生	アップロード	学修成果物（テキスト、PDF、動画）をアップロードする
	ダウンロード	指定したファイルをダウンロードする
	ファイル作成	テキスト形式またはHTML形式でファイルを作成する
	ファイルへのタグ付け	アップロードした学修成果物、作成したファイルにタグを付ける
	ショーケースの作成	作成したファイル、アップロードした学修成果物をまとめてショーケースを作成する
	ショーケースの公開設定	作成したショーケースに公開範囲を設定する
	タグ検索	タグ内容を用いて検索する
	全文検索	自分が作成した、または、公開されているポートフォリオ内のファイルデータ内容を検索する
	コメント	公開されているショーケースにコメントをする

【資料16】履修モデル　　履修モデル：開志創造大学 情報デザイン学部　情報デザイン学科

データサイエンスや生成AI等の情報技術を活用することによって問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって組織において協調・リーダーシップを発揮できる人材

：必修科目　　赤文字：主要授業科目

分野		1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		
		授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	
基礎教育科目	学修・基盤（必修11単位）	ポートフォリオⅠ		ポートフォリオⅠ	1	ポートフォリオⅡ		ポートフォリオⅡ	1	ポートフォリオⅢ		ポートフォリオⅢ	1	ポートフォリオⅣ		ポートフォリオⅣ	1	4
		PBL入門	2	情報入門	1													3
		テクニカル・リーディング	2	生成AI活用	2													4
	一般教養（必修8単位）（選択16単位）	情報リテラシー	1	フィールドワーク入門	2	ファシリテーション入門	2	エスノグラフィ	1	DX最前線	2							8
		基礎数学Ⅰ	1	基礎造形表現	2	UXデザイン	2	メディア史	1	国際変動論	1							7
		経済学入門	1	科学哲学入門	2	インターネット社会論	1			美術・デザイン史	2							6
				基礎数学Ⅱ	1	消費者行動心理	2											3
																		0
	語学（必修8単位）	英語リスニングⅠ	2	英語リスニングⅡ	2	英語コミュニケーション	2			英語ビジネスコミュニケーション	2							8
	小計																	43
専門教育科目	情報・工学系（必修13単位）（選択25単位以上）	Linux入門	2			テクニカル・ライティング	2	リーダブルコード	2									6
		プログラミング基礎	2	プログラミング発展	2	線形代数Ⅰ	1	Linux活用入門	2									7
		コンピュータアーキテクチャⅠ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅠ	1	コンピュータアーキテクチャⅡ	1	コンピュータネットワーク	2	データサイエンスプログラミング	2	サイバーセキュリティ概論	2					9
		データサイエンス入門	2	システムプログラミング基礎Ⅰ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅡ	1	データサイエンス基礎	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	深層学習基礎	2					10
		デザイン思考	1			アルゴリズムとデータ構造	2			言語処理技術	1	データエンジニアリング	2					6
						システムプログラミング基礎Ⅱ	1	Webアプリケーション開発	2	コンピュータグラフィックス・メタヴァース入門	2	通信工学・情報理論	2	ソフトウェアデザイン	2			9
						データベース論	2			サービスデザイン	2	ソフトウェア開発Ⅰ	2	ソフトウェア開発Ⅱ	2			8
	ビジネス系（必修8単位）（選択12単位以上）	プロジェクトマネジメント入門	2			プロジェクトマネジメント発展	2											4
		経営学基礎	2	会計・簿記	2					ビジネスインテリジェンス入門	2					ベンチャーファイナンス	2	8
										アントレプレナー	2							2
								マーケティング	2	ビジネスアーキテクチャ入門	2	デジタルマーケティング	2					6
	演習系（必修6単位）					DXプロジェクトⅠ	2			DXプロジェクトⅡ	2			DXプロジェクトⅢ	2			6
	小計																	81
	合計																	124
	学期修得単位数　計	21		19		23		15		24		13		6		3		

＜卒業要件＞
○基礎教育科目　43単位以上修得
学修・基盤　　必修　11単位
一般教養　　必修　8単位　　選択　16単位
語学科目　　必修　8単位
○専門教育科目　81単位以上修得
情報・工学系　必修　13単位　　選択　25単位以上
ビジネス系　　必修　10単位　選択　10単位以上
演習系　　必修　6単位

1年次修得単位数　計　40

2年次修得単位数　計　38

3年次修得単位数　計　37

4年次修得単位数　計　9

本モデルの修得単位数　合計　124

【資料16】履修モデル　　履修モデル：開志創造大学 情報デザイン学部　情報デザイン学科

情報技術の知識とスキルを応用することによりビジネスの課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって協調・リーダーシップを発揮できる人材

：必修科目　　赤文字：主要授業科目

分野		1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		
		授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	
基礎教育科目	学修・基盤（必修11単位）	ポートフォリオⅠ		ポートフォリオⅠ	1	ポートフォリオⅡ		ポートフォリオⅡ	1	ポートフォリオⅢ		ポートフォリオⅢ	1	ポートフォリオⅣ		ポートフォリオⅣ	1	4
		PBL入門	2	情報入門	1													3
		テクニカル・リーディング	2	生成AI活用	2													4
	一般教養（必修8単位）（選択16単位）	フィールドワーク入門	2	宗教学	1	UXデザイン	2	ファシリテーション入門	2	国際変動論	1							8
		情報リテラシー	1	科学哲学入門	2	消費者行動心理	2	メディア史	1									6
		社会学	1	基礎造形表現	2			インターネット社会論	1									4
		基礎数学Ⅰ	1	基礎数学Ⅱ	1			エスノグラフィ	1									3
				経済学入門	1			美術・デザイン史	2									3
	語学（必修8単位）	英語リスニングⅠ	2	英語リスニングⅡ	2	英語コミュニケーション	2			英語ビジネスコミュニケーション	2							8
	小計																	43
専門教育科目	情報・工学系（必修13単位）（選択25単位以上）	Linux入門	2							データサイエンスプログラミング	2							4
		プログラミング基礎	2	プログラミング発展	2	リーダブルコード	2	デザインリサーチ	2			コンピュータグラフィックス・メタヴァース入門	2					10
		コンピュータアーキテクチャⅠ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅠ	1			コンピュータネットワーク	2									4
										ソフトウェア開発Ⅰ	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2					4
						アルゴリズムとデータ構造	2			Webアプリケーション開発	2							4
		データサイエンス入門	2					データベース論	2			Web3入門	2					6
				デザイン思考	1	Webデザイン	2	プロダクトデザイン概論	2	サービスデザイン	2							7
	ビジネス系（必修8単位）（選択12単位以上）	プロジェクトマネジメント入門	2	デジタルエコノミー基礎	2	プロジェクトマネジメント発展	2	知的財産権概論	2			ビジネスアーキテクチャ入門	2					10
		経営学基礎	2	会計・簿記	2	リーダーシップ入門	2			コーポレートファイナンス	2			グローバル人材開発	2	ベンチャーファイナンス	2	12
										アントレプレナー	2	ビジネスインテリジェンス入門	2	ビジネスアーキテクチャ発展	2			6
						マーケティング	2	Web3・DAO地域創生	2	地域おこし論	2	デジタルマーケティング	2					8
	演習系（必修6単位）					DXプロジェクトⅠ	2			DXプロジェクトⅡ	2			DXプロジェクトⅢ	2			6
	小計																	81
	合計																	124
	学期修得単位数　計	22		21		20		20		19		13		6		3		

＜卒業要件＞

○基礎教育科目　43単位以上修得
学修・基盤　　必修　11単位
一般教養　　必修　8単位　　選択　16単位
語学科目　　必修　8単位
○専門教育科目　81単位以上修得
情報・工学系　必修　13単位　選択　25単位以上
ビジネス系　　必修　10単位　選択　10単位以上
演習系　　必修　6単位

1年次修得単位数　計　43

2年次修得単位数　計　40

3年次修得単位数　計　32

4年次修得単位数　計　9

本モデルの修得単位数　合計　124

【資料16】履修モデル　　履修モデル：開志創造大学 情報デザイン学部　情報デザイン学科

企業の情報技術部門やシステム部門等でのシステムの高度化や情報技術の活用による業務の高度化・効率化が図れる人材

：必修科目　　赤文字：主要授業科目

分野		1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		
		授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	
基礎教育科目	学修・基盤（必修11単位）	ポートフォリオⅠ		ポートフォリオⅠ	1	ポートフォリオⅡ		ポートフォリオⅡ	1	ポートフォリオⅢ		ポートフォリオⅢ	1	ポートフォリオⅣ		ポートフォリオⅣ	1	4
		PBL入門	2	情報入門	1													3
		テクニカル・リーディング	2	生成AI活用	2													4
	一般教養（必修8単位）（選択16単位）			フィールドワーク入門	2	ファシリテーション入門	2			国際変動論	1							5
		宗教学	1	経済学入門	1			メディア史	1	ロボティクス入門	1							4
				科学哲学入門	2	インターネット社会論	1	エスノグラフィ	1									4
		基礎造形表現	2	情報リテラシー	1	UXデザイン	2	消費者行動心理	2									7
		基礎数学Ⅰ	1	基礎数学Ⅱ	1			美術・デザイン史	2									4
	語学（必修8単位）	英語リスニングⅠ	2	英語リスニングⅡ	2	英語コミュニケーション	2			英語ビジネスコミュニケーション	2							8
	小計																	43
専門教育科目	情報・工学系（必修13単位）（選択25単位以上）	Linux入門	2			テクニカル・ライティング	2	リーダブルコード	2	データサイエンスプログラミング	2							8
		プログラミング基礎	2	プログラミング発展	2					ヒューマンコンピュータインタラクション	2	バイオインフォマティクス入門	1	標準化入門	1			8
		コンピュータアーキテクチャⅠ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅠ	1			コンピュータネットワーク	2	Web3入門	2							6
								データサイエンス基礎	2			コンピュータグラフィックス基礎	1					3
				データサイエンス入門	2	アルゴリズムとデータ構造	2					データエンジニアリング	2					6
								Webアプリケーション開発	2			金融工学入門	1					3
				デザイン思考	1	データベース論	2			サービスデザイン	2	ソフトウェア開発Ⅰ	2					7
	ビジネス系（必修8単位）（選択12単位以上）									グローバル人材開発	2	地域おこし論	2					4
		プロジェクトマネジメント入門	2			プロジェクトマネジメント発展	2			ビジネスインテリジェンス入門	2			ビジネスインテリジェンス発展	2	ベンチャーファイナンス	2	10
				経営学基礎	2			品質管理	2	アントレプレナー	2	ビジネスアーキテクチャ入門	2			ビジネスアーキテクチャ発展	2	10
				会計・簿記	2	知的財産権概論	2	マーケティング	2	コーポレートファイナンス	2	デジタルマーケティング	2					10
	演習系（必修6単位）					DXプロジェクトⅠ	2			DXプロジェクトⅡ	2			DXプロジェクトⅢ	2			6
	小計																	81
	合計																	124
	学期修得単位数　計		17		23		19		19		22		14		5		5	

＜卒業要件＞

○基礎教育科目　43単位以上修得
学修・基盤　　必修　11単位
一般教養　　必修　8単位　　選択　16単位
語学科目　　必修　8単位

○専門教育科目　81単位以上修得
情報・工学系　必修　13単位　　選択　25単位以上
ビジネス系　　必修　10単位　選択　10単位以上
演習系　　必修　6単位

1年次修得単位数　計　40

2年次修得単位数　計　38

3年次修得単位数　計　36

4年次修得単位数　計　10

本モデルの修得単位数　合計　124

【資料17】読替ルール（案）

編入学者等の単位認定一覧表

科目区分		卒業に必要な単位数	必要単位数（小計）	認定単位数（MAX）	編入者等の種類 短大卒業者	他大学中途退学者	本学通信教育課程修業不良退学者	高等専門学校卒業者（※３）	専門学校修了者（※４）	高等専門学校等専攻科修了者	学士	高度専門士（※4）
学修基盤	ポートフォリオⅠ・Ⅱ	必修2単位		2	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
	ポートフォリオⅢ・Ⅳ	必修2単位			（認定しない）							
	PBL入門	必修2単位		2	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
	テクニカルリーディング	必修2単位		2	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
	情報入門	必修1単位		1	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
	生成AI活用	必修2単位		2	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
語学	英語リスニングⅠ・Ⅱ、英語コミュニケー	必修6単位		6	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
	英語ビジネスコミュニケーション	必修2単位			（認定しない）							
一般教養		必修４単位＋選択20単位以上	43単位以上	17	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
情報・工学系		必修13単位＋選択25単位以上		14	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
ビジネス系		必修8単位＋選択12単位以上		12	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
演習系	DXプロジェクトⅠ	必修2単位		2	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定	個別認定
	DXプロジェクトⅡ・Ⅲ	必修4単位			（認定しない）							
（その他）		専門科目から選択17単位以上	81単位以上									
			124単位以上	60				9	6	9	25	9

※ 3高等専門学校4・5年次生にて履修した科目のみが単位認定の対象科目になります。

※ 4専門学校の修了者の個別認定については、編入学基礎資格証明書に記載のある学習時間数を換算して認定します。

【資料18】編入後の履修モデル履修モデル：開志創造大学 情報デザイン学部　情報デザイン学科

データサイエンスや生成AI等の情報技術を活用することによって問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって組織において協調・リーダーシップを発揮できる人材

：必修科目　赤文字：主要授業科目

分野		1年次 前期 授業科目名	単位数	1年次 後期 授業科目名	単位数	2年次 前期 授業科目名	単位数	2年次 後期 授業科目名	単位数	3年次 前期 授業科目名	単位数	3年次 後期 授業科目名	単位数	4年次 前期 授業科目名	単位数	4年次 後期 授業科目名	単位数	
基礎教育科目	学修・基盤（必修11単位）	（単位認定）	9							ポートフォリオⅢ		ポートフォリオⅢ	1	ポートフォリオⅣ		ポートフォリオⅣ	1	11
																		0
																		0
	一般教養（必修4単位）（選択20単位）	（単位認定）	17							DX最前線	2	国際変動論	1					20
										エスノグラフィ	1	ロボティクス入門	1					2
										基礎数学Ⅰ	1	基礎数学Ⅱ	1					2
																		0
																		0
	語学（必修8単位）	（単位認定）	6							英語ビジネスコミュニケーション	2							8
	小計																	43
専門教育科目	情報・工学系（必修13単位）（選択25単位以上）	（単位認定）	14							Linux入門	2			言語処理技術	1	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	19
										プログラミング基礎	2	プログラミング発展	2	Linux活用入門	2			6
										コンピュータアーキテクチャⅠ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅠ	1	コンピュータネットワーク	2	サイバーセキュリティ概論	2	6
										データサイエンス入門	2	深層学習基礎	2	通信工学・情報理論	2	データベース論	2	8
										リーダブルコード	2	データサイエンスプログラミング	2	データエンジニアリング	2			6
										アルゴリズムとデータ構造	2			ソフトウェアデザイン	2			4
										サービスデザイン	2	ソフトウェア開発Ⅰ	2	ソフトウェア開発Ⅱ	2			6
	ビジネス系（必修8単位）（選択12単位以上）	（単位認定）	12							マーケティング	2	ビジネスインテリジェンス入門	2	交渉学概論	2	知的財産権概論	2	20
																		0
																		0
																		0
	演習系（必修6単位）	（単位認定）	2							DXプロジェクトⅡ	2			DXプロジェクトⅢ	2			6
	小計																	81
	合計																	124

3年次編入（学士）～先端IT
（単位認定：60単位）

＜卒業要件＞
○基礎教育科目　43単位以上修得
学修・基盤　　必修　11単位
一般教養　　必修　4単位　　選択　20単位
語学科目　　必修　8単位
○専門教育科目　81単位以上修得
情報・工学系　　必修　13単位　　選択　25単位以上
ビジネス系　　必修　8単位　選択　12単位以上
演習系　　必修　6単位
上記の他、専門教育選択科目17単位以上

学期修得単位数　計　60　0　0　0　23　15　17　9

1年次修得単位数　計　60
2年次修得単位数　計　0
3年次修得単位数　計　38
4年次修得単位数　計　26

本モデルの修得単位数　合計　124

【資料16】編入後の履修モデル履修モデル：開志創造大学 情報デザイン学部　情報デザイン学科

データサイエンスや生成AI等の情報技術を活用することによって問題発見・分析を行い、課題解決や価値創造ができ、多角的な視点をもって組織において協調・リーダーシップを発揮できる人材[

：必修科目　赤文字：主要授業科目

分野		1年次 前期 授業科目名	単位数	1年次 後期 授業科目名	単位数	2年次 前期 授業科目名	単位数	2年次 後期 授業科目名	単位数	3年次 前期 授業科目名	単位数	3年次 後期 授業科目名	単位数	4年次 前期 授業科目名	単位数	4年次 後期 授業科目名	単位数	
基礎教育科目	学修・基盤（必修11単位）	（単位認定）	9							ポートフォリオⅢ		ポートフォリオⅢ	1	ポートフォリオⅣ		ポートフォリオⅣ	1	11
																		0
																		0
	一般教養（必修4単位）（選択20単位）	（単位認定）	17							フィールドワーク入門	2	DX最前線	2					21
										ファシリテーション入門	2	エスノグラフィ	1					3
																		0
																		0
																		0
	語学（必修8単位）	（単位認定）	6							英語ビジネスコミュニケーション	2							8
	小計																	43
専門教育科目	情報・工学系（必修13単位）（選択25単位以上）	（単位認定）	14							Linux入門	2			言語処理技術	1	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	19
										プログラミング基礎	2	プログラミング発展	2	Linux活用入門	2			6
										コンピュータアーキテクチャⅠ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅠ	1	コンピュータネットワーク	2	サイバーセキュリティ概論	2	6
										データサイエンス入門	2	深層学習基礎	2	通信工学・情報理論	2	データベース論	2	8
										リーダブルコード	2	データサイエンスプログラミング	2	データエンジニアリング	2			6
										アルゴリズムとデータ構造	2			ソフトウェアデザイン	2			4
										サービスデザイン	2	ソフトウェア開発Ⅰ	2	ソフトウェア開発Ⅱ	2			6
	ビジネス系（必修8単位）（選択12単位以上）	（単位認定）	12							プロジェクトマネジメント入門	2	マーケティング	2	ビジネスインテリジェンス入門	2			18
												ビジネスアーキテクチャ入門	2					2
																		0
																		0
	演習系（必修6単位）	（単位認定）	2							DXプロジェクトⅡ	2			DXプロジェクトⅢ	2			6
	小計																	81
	合計																	124

3年次編入（専門学校修了）～先端IT

＜卒業要件＞
○基礎教育科目　43単位以上修得
学修・基盤　　必修　11単位
一般教養　　必修　4単位　　選択　20単位
語学科目　　必修　8単位
○専門教育科目　81単位以上修得
情報・工学系　　必修　13単位　　選択　25単位以上
ビジネス系　　必修　8単位　選択　12単位以上
演習系　　必修　6単位
上記の他、専門教育選択科目17単位以上

学期修得単位数　計	60	0	0	0	23	17	17	7
		1年次修得単位数　計　60		2年次修得単位数　計　0		3年次修得単位数　計　40		4年次修得単位数　計　24

本モデルの修得単位数　合計　124

J 2407

開志創造大学情報デザイン学部ＦＤ委員会規程

（設　置）

第１条　開志創造大学情報デザイン学部は、本学部の教育目的の実現に向け、ファカルティ・ディベロップメント（通称ＦＤ）を推進するために、開志創造大学情報デザイン学部ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目　的）

第２条　委員会は、本学部の教育目的の実現を目的として、教育・研究内容及び教育方法の改善、そして個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組むために、ＦＤ委員会の構成、役割、運営等について定める。

（任　務）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、組織的な取り組みを適切に推進することを任務とする。

(1) ＦＤ活動の企画・立案

(2) ＦＤ活動の実績評価

(3) ＦＤ活動に関する情報の収集と提供

(4) その他、学内機関の諮問する事項

（組　織）

第４条　委員会は、次の委員をもって組織する。

(1) 学部から選出された教員　　２名以上

(2) 委員会が必要と認めた教員及び事務職員　若干名

（任　期）

第５条　教員である委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　教員である委員に欠員が生じた場合は、教員による補欠委員を選出する。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（専門部会）

第７条　委員会が必要と認めるときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。

（審議終了後の報告）

第８条　委員会は、委員会において重要な事項について審議を終了したときは速やかに、その審議結果を学部長に報告しなければならない。学部長は、その報告内容を精査し、総務会もしくは学部教授会（以下「教授会」という）のどちらの承認を受ける必要があるかを委員会に指示する。委員会は、学部長の指示を受け、審議結果を総務会もしくは教授会に報告し、学長の最終決定を得なければならない。

２　委員会は、審議結果の総務会もしくは教授会への報告を専門委員会（部会）の責任者に指示することができる。

（審議決定の効力）

第９条　委員会が行った議決のうち重要な事項については、その後における総務会もしくは教授会の承認と学長の決定を経て効力を生ずるものとする。ただし、あらかじめ総務会もしくは教授会の承認並びに学長の承認を経て、その効力の確定を委員会の議決に委ねた場合は、この限りでない。

（事　務）

第１０条　委員会の事務は、事務局教務課がこれにあたる。

（雑　則）

第１１条　ここの規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が審議する。

２　審議終了後の取扱いは、第８条に定める手続きを準用する。

（補　則）

第１２条　この規程の改廃は、教授会もしくは総務会の審議を経て学長が決定する。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

e-Campus+
V3.0
操作マニュアル

【 教員 ／ 職員 ／ 学校システム管理者 版 】

202502_3_I_0

目次

1. はじめに 1
1-1 システム概要 1
1-2 対象ユーザ 2
1-3 動作環境 3
1-4 目的と使い方 4
2. システムへのアクセス方法 5
2-1 ログイン手順 5
2-2 ログアウト手順 8
2-3 パスワードの変更 10
3. 主な画面と基本操作 12
3-1 トップページ 12
3-2 ガジェット 16
3-3 基本的な操作方法 19
4. システム管理 30
4-1 システムの設定時期 30
4-2 システム設定 31
5. 運用管理 35
5-1 ロール管理 35
5-2 組織管理 41
5-3 ユーザ管理 48
5-4 期間管理 53
5-5 評価項目管理 59
5-6 科目管理 65
5-7 グループ管理 71
5-8 動画管理 78
5-9 操作履歴管理 85
5-10 学生情報 88
6. 授業管理 94
6-1 構成管理 94
6-2 教材のアイテム 115
6-3 進捗管理 145
6-4 成績管理 154
6-5 質問管理 164
6-6 クリッカー 168
6-7 授業連絡管理 175
6-8 シラバス管理 181
6-9 成績認定管理 186
7. 授業運用 191

7-1 担当授業 191
7-2 サマリーレポート 193
8. コミュニケーション 194
8-1 お知らせ管理 194
8-2 問い合わせ管理 205
8-3 設定・編集 208
8-4 チャット 210
9. イベント 213
9-1 スケジュール管理 213
10. 履修管理 219
10-1 履修管理 219
11. システムメッセージ 229
11-1 システムメッセージの受信と表示 229

本マニュアルに掲載されている機能並びに画面は 2025年 2 月末現在のものです。機能の拡張により実際の仕様とは異なる場合があります。

1．はじめに

本マニュアルは、e-Campus+システムを利用する教職員の皆様が、日々の管理と運営をスムーズに行うため、まとめたものです。入力方法等で分からないことが生じた時に、本マニュアルを ご活用ください。

1-1 システム概要

1-1-1 システムの目的

e-Campus+は、学生の学習全般を管理する学習管理システムです。
このシステムは、学生のインタラクティブな学習を支援します。
ユーザ管理、成績評価、授業管理、コミュニケーション機能により、学習者の進捗管理や教育成果の最適化を可能にし、より効果的な学習環境を提供できます。

⚠
以下の点にご留意ください。

・本マニュアルは e-Campus+V3.0 の機能を記載しています。内容は今後変わる可能性があります。
・「ユーザコード」や「科目コード」など、データに一意に附番される各種コードは
　自由度向上のため手動採番を採用しております。ご設定前にコードの採番ルールを決めていただくようお願いします。
・第三者へアカウントの共有を行わない等、アカウントの管理には十分注意してください。
・本システムでは動画や PDF などの教材を登録できますが、著作権の取り扱いには十分注意してください。
・本システムは、学校種および学校の運用に合わせた機能を学校ごとに提供しています。

I-2 対象ユーザ

I-2-1 ユーザ種別と利用機能

ユーザ種別について

e-Campus+は、利用者に対し以下の「ユーザ種別」を設定して、機能と操作権限を提供します。

学生:
システム上での履修申請、授業受講、課題提出、試験受験、成績確認など、基本的な学習活動を行うユーザです。
履修申請や授業進捗の自己管理、オンラインでの資料閲覧、テストの実施など、システムを通じて日常の学習活動を行います。

教員:
授業構成の作成、学生の進捗管理、課題評価、成績評価など、学生の学習活動を管理するユーザです。

職員:
学生情報の管理、科目や授業の設定、授業スケジュールの調整、履修や成績情報の管理など、学務業務を行うユーザです。学生データの管理、授業スケジュールの調整などを行います。

学校システム管理者:
自校のシステム設定の管理、ユーザアカウントの管理、各種権限など、システム全体の運用を担うユーザです。

保護者:
自身の子供の学習状況の確認や、お知らせ／スケジュールの閲覧を行うユーザです。

I-2-2 ユーザ種別とロール

「ユーザ種別」がシステムを利用する立場のカテゴリであることに対し、「ロール」は、ユーザがシステム内で"果たす役割"や権限を指します。

例)

≪ユーザ≫	≪ロール≫	≪権限設定 例≫
教員	教員	授業の作成、進捗管理、学生カルテ（制限なしの閲覧）、スケジュール、お知らせ機能
	TA	進捗管理、学生カルテ（基本情報のみ閲覧）、スケジュール、お知らせ機能
職員	事務局	機能全般
	運用者	成績管理、出欠管理、スケジュール、お知らせ機能

e-Campus+では、学校の運用にあわせ、自由にロールを作成することができます。

1-3 動作環境

1-3-1 システム要件

e-Campus+のシステム要件は次の通りです。

要件	パソコン	タブレット端末	スマートフォン
OS （オペレーティングシステム）	Windows10 以降 macOS12 以降	iPadOS16 以降 Android12以降	iOS16 以降 Android12以降
ブラウザ	各 OS の標準ブラウザ（最新バージョン推奨）		
	Chrome、Edge Firefox、Safari	Safari、Chrome	
画面解像度	1280x720 ピクセル以上	画面サイズに応じた レスポンシブ表示	
インターネット接続	安定した ブロードバンド接続	Wi-Fi または モバイルデータ接続	4G/5G または Wi-Fi 接続
ウェブカメラ マイク	内蔵または外付け	内蔵カメラ	
ブラウザ設定	Cookie の使用許可、JavaScript の使用許可		
TLS1.2 暗号化通信対応環境	TLS1.2 対応の端末やブラウザ		
本システムは最低 1GHz のプロセッサと 1GB 以上のメモリを搭載したデバイスでの利用を推奨します。			

1-3-2 サポートされる環境

システムは、前述の要件を満たす環境で動作します。

古いバージョンの OS やブラウザでは、予期せぬ問題が発生する可能性があります。したがって、常にデバイスとソフトウェアを最新の状態に保つことを推奨します。また、全デバイスでの対応としていますが、以下の状況で最適化されます。

ユーザ種別	対応デバイス
学校システム管理者／職員	パソコン、タブレット （管理作業はパソコンを推奨）
教員	パソコン、タブレット （管理作業はパソコンを推奨）
学生	パソコン、タブレット、スマートフォン
保護者	パソコン、スマートフォン、タブレット

メモ

・「5-10-2 学生カルテ」閲覧時、スマートフォンの場合は、横向きが推奨です。

・iPad mini は画面サイズが小さいため、推奨されません。

I-4 目的と使い方

I-4-1 マニュアルのアイコンについて

以下のアイコンの表記と意味を参考にしてください。

アイコン	意味
メモ	機能に関する補足を示します。
	機能に関する、運用上の注意を示します。

メモ

学校管理者は機能にシステム的な制限はなく、ロールで設定することで、全ての管理機能が使用できます。

2. システムへのアクセス方法

e-Campus+へのアクセス方法を説明します。
また、パスワードを忘れた場合の対処方法についても説明します。

2-1 ログイン手順

2-1-1 システムへのアクセスとログイン

システムへのアクセスとログイン

システムへのアクセスは、インターネットブラウザを使用して行います。ユーザは指定された URL にアクセスし、学校から提示されたログイン ID とパスワードを使用してログインします。

① インターネットブラウザを開き、「https://e-campus-plus.com/」にアクセスします。

② ログイン ID とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

③ トップ画面が表示されます。

［学校システム管理者トップ画面］

［職員トップ画面］

［教員トップ画面］

※画面の表示内容は、学校の運用やロールの設定により、上図と異なる場合があります。

2-2 ログアウト手順

システムの使用を終えた後は、セキュリティを保持するためにログアウトすることが重要です。

2-2-1 システムからのログアウト

ログアウトするには、以下の手順に従ってください。

①画面上部のヘッダーにある[ユーザ名]をクリックします。

②表示されるドロップダウンメニューで [ログアウト]をクリックします。

③ ログアウトの確認メッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックするとログアウトが実行されます。

④ ログアウトが完了すると、ログイン画面に戻ります。

メモ

操作せずに一定の時間がたつと、自動的にログアウトされます。その場合再度ログイン画面からログインをしてください。

メモ

今後、プッシュ通知機能が搭載予定です。プッシュ通知機能では[ログアウト]ボタンが右上の[アカウント情報]-[情報・設定]メニュー内に表示されます。

2-3 パスワードの変更

学生からの問い合わせがあったとき、パスワードの変更が必要な場合

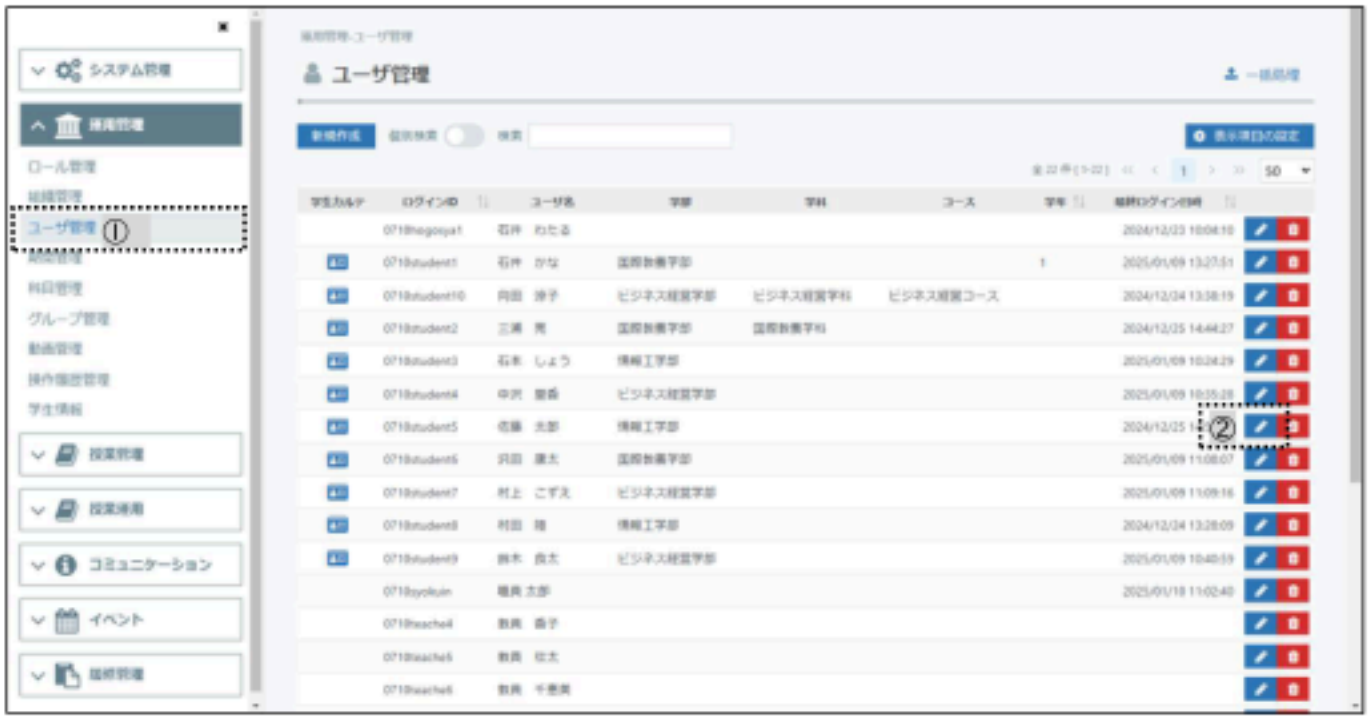
「2-3-1 パスワードを忘れた学生から問い合わせがあったとき」の手順に従って変更を行ってください。

2-3-1 パスワードを忘れた学生から問い合わせがあったとき

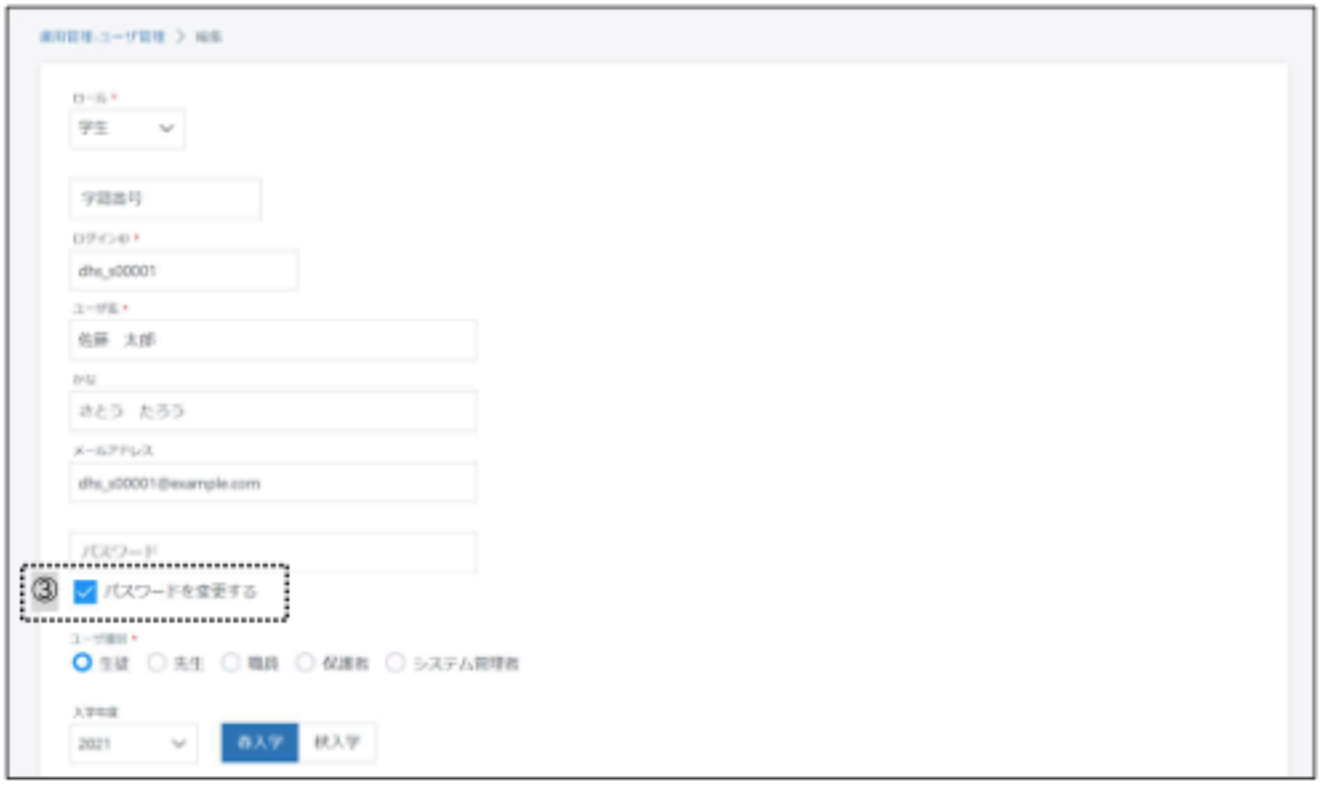
学生がパスワードを忘れた場合は、教職員側でパスワードのリセットを行います。

①「5-3 ユーザ管理」を参照し、ナビゲーションバーから［運用管理］－［ユーザ管理］をクリックします。

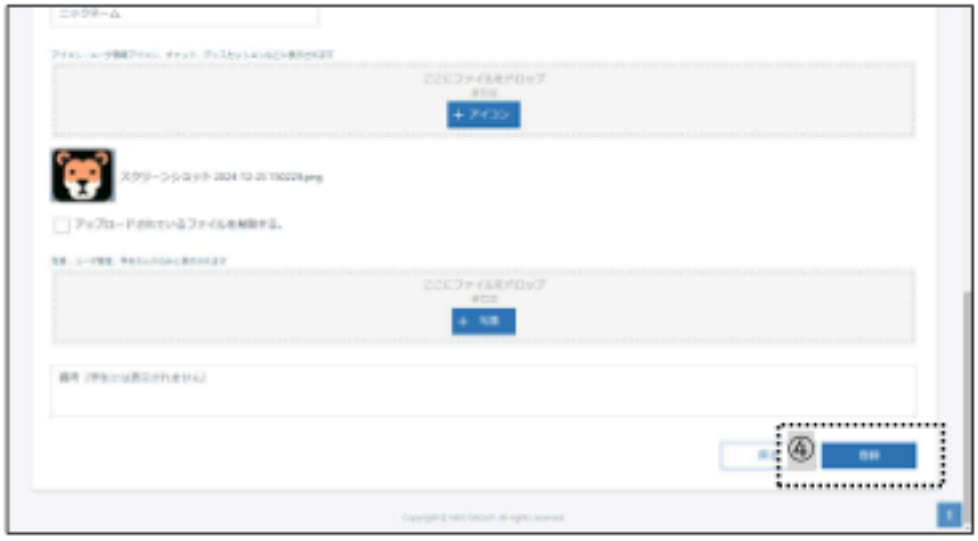
②パスワードをリセットするユーザ行の［ ］アイコンをクリックして、「ユーザ情報の編集」画面に遷移します。



③[パスワードを変更する]チェックボックスをオンにします。



④[パスワード]項目が入力可能になります。新しいパスワードを入れて[登録]ボタンをクリックしてください。



⑤ ここで設定したパスワードを学生に伝えてください。

3. 主な画面と基本操作

本章では、e-Campus+システムの主要な画面構成と基本操作について説明します。

まず、ログイン後のトップページでは、システムへの初回アクセス時に目にする主要な情報や機能がどのように配置されているかを説明します。ナビゲーションバーから主要機能への移動方法や、それぞれの機能の概要と目的、一覧表示画面の基本的な操作方法についても説明します。

3-1 トップページ

トップページはユーザが本システムにログインした直後に最初に目にする画面です。この画面では、ユーザが日々の操作をスムーズに行うために配置されているガジェットやその機能へのショートカット、通知を集約しています。トップページに表示されている各情報の説明とその利用方法について説明します。

3-1-1 トップページの機能紹介

トップページは、ヘッダー、メインエリア、ナビゲーションバーのエリアに分かれています。（下図は職員トップページです）

①メインエリア

メインエリアは、トップページの中心部分にあり、ガジェットやシステムメッセージなどの主要な情報が表示されます。ユーザはここで、学校や授業からの重要なお知らせや直近のスケジュール、授業の進捗状況などを確認できます。

②ヘッダー

ヘッダーはトップページの最上部に位置し、ロゴ、システムメッセージ起動ボタン、アカウント情報エリアがあります。アカウント情報エリアでは、クリックするとプロフィール編集などのオプションが表示されます。また、ヘッダーには本システムのロゴが配置され、このロゴをクリックすることで、いつでもトップページに戻ることができます。システムメッセージ（ベルアイコン）には、メッセージを受信した件数をバッジ表示し、重要なメッセージを見逃さないよう常時表示されています。

③ナビゲーションバー

ナビゲーションバーは、ページの左側に固定されており、様々な機能へのリンクを提供します。各機能へのリンクは、カテゴライズされており、効率的に操作を進めることが可能です。

3-1-2 利用者別のトップページ

職員トップページ

職員トップページは、ガジェットではなく、システム内の様々な機能が一覧表示されています。職員は一覧を通じて、学生情報、構成管理、進捗管理、成績管理などへ簡単にアクセスできます。

教員トップページ

教員トップページは、ユーザ情報、最新のお知らせ、スケジュール、担当授業、役立つリンクがガジェット形式で配置されています。担当授業のガジェットでは、現在の授業一覧と関連情報へのアクセスが可能です。

メモ

学生ビュー

教員は自分のユーザでログインしたまま学生トップページや開講授業の学生側画面を表示することができます。

右上のアカウント情報エリアの[学生ビューで表示]、[通常ビューで表示]で切り替えることができます。

（学生ビューを表示するとき）

（教員の通常ビューに戻るとき）

学生トップページ

学生トップページは、個人のユーザ情報、最新のお知らせ、スケジュール、履修授業、および重要なリンクがガジェットとして表示されます。各ガジェットは、学生が日々の学業に必要な情報に素早くアクセスできるように配置されています。たとえば、履修授業のガジェットは、現在登録している授業とその進捗状況を一目で確認できるようになっています。

保護者トップページ

保護者トップページは、保護者ユーザに紐づいている学生のレポート課題提出状況や、スケジュール、学生に配信されたお知らせなどを閲覧することができます。

3-2 ガジェット

本システムでは、学生と教員のメインエリアに、日々の学業や教育活動をサポートするための様々なガジェットが用意されており、必要な情報や機能へのアクセス、授業や学習進捗の確認などが可能です。
ここでは、教員の主要なガジェットについて、その特徴と機能を紹介します。

3-2-1 ガジェットの種類と役割

ユーザ情報ガジェット

ユーザ情報ガジェットは、ユーザアイコン、ユーザ名、未読のシステムメッセージ件数を表示します。このガジェットは、ユーザが自分に関連する情報を一目で把握し、即時にそれぞれの機能へアクセスできるガジェットです。

お知らせガジェット

お知らせガジェットでは、学務からのお知らせ、履修授業からのお知らせが表示されます。また、お知らせには重要マークやお気に入りマークがつけられ、絞り込みボタンを使って特定のお知らせを簡単に検索できます。このガジェットは、ユーザにとって最新かつ関連性の高い情報を一箇所に集約し、常に最新の状態に保つための役割を果たします。

スケジュールガジェット

スケジュールガジェットでは、学事予定や学内イベントなどのスケジュールが表示されます。

担当授業ガジェット

担当授業ガジェットは、今期担当している授業の一覧と各授業に届いている未読質問数、未評価数が表示されます。教員はこのガジェットを利用して、授業の管理と学生へのフィードバックを効率的に行うことができます。

リンクガジェット

リンクガジェットは、他システムやサイトへのリンクを集約しています。
このガジェットを通じて、大切なリンク先に効率よくアクセスすることができ、日々の業務を効率的に進めることが可能です。

メモ

担当授業ガジェットのエリアは、教員ユーザに表示されます。

学生ユーザの場合、このエリアには履修授業ガジェットが表示されます。

履修授業ガジェット

履修授業ガジェットは、今期の履修授業を一覧で表示し

進捗率、授業へのリンクが表示されます。

このガジェットは、学生が自身の学習進捗を把握し、

必要な授業へと素早くアクセスするための中心的な機能です。

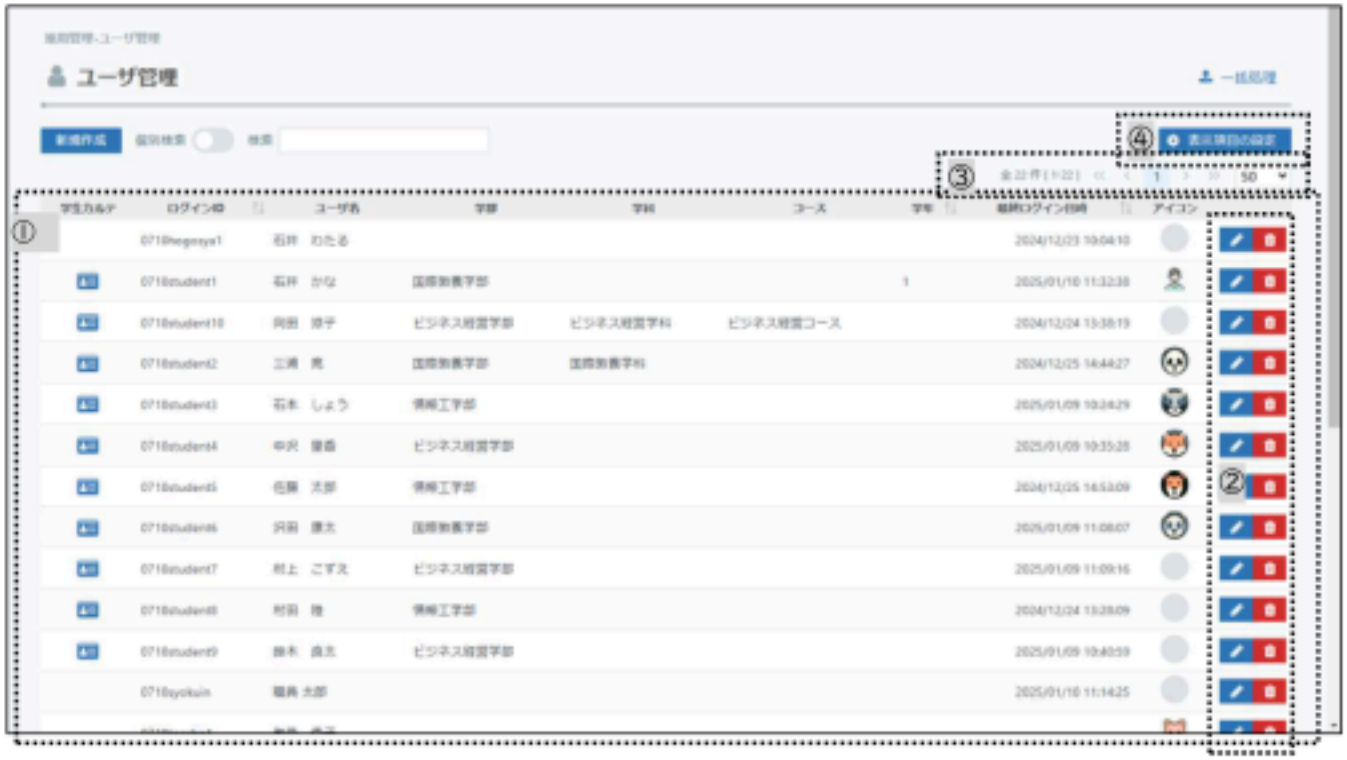
授業の中に期限が超過したものが1つでもあると、

授業名に[期限超過有マーク]が表示されます。

3-3 基本的な操作方法

ユーザが頻繁に使用する一覧表示画面、検索機能、並び替えなど、基本的な操作は、システム内のさまざまな機能で共通しており、その操作方法について説明します。（下図は教員ページです）

3-3-1 一覧表示



①一覧表示

選択した機能の一覧が上図①のように表示されます。先頭行には、項目名が表示され、項目名の横にある「 」をクリックすることで昇順／降順の並び替えができます。並び替えに対応していない項目名もあります。

②操作列

操作列（上図の②）は一覧表の一番右側に位置し、行毎に操作を行うボタンが配置されています。
主には[ ]アイコンと[ ]アイコンがあり、各行のデータを編集または削除することができます。

③表示件数の切り替え

表示件数（前ページ図の③）で、全件数を表示し、次ページへの切り替えができます。右端のドロップダウンリストを開くと、1ページに表示可能な件数を変更することができます。

④表示項目の設定

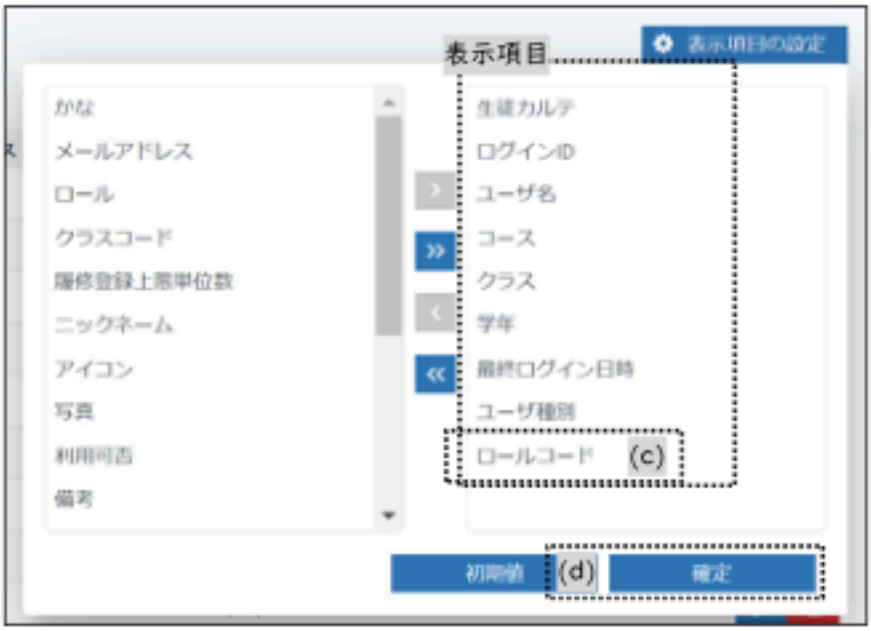
表示項目の設定は、一覧表の右上にあるボタン（前ページ図の④）を使用して行います。
画面に表示する項目をカスタマイズする（不要な項目を非表示にする）ことができます。

(a)［表示項目の設定］ボタンをクリックし、プルダウンメニューを表示します。
(b)左側の［表示可能項目］から、一覧に表示させたい項目をクリックして選択し、［Add］ボタンをクリックします。

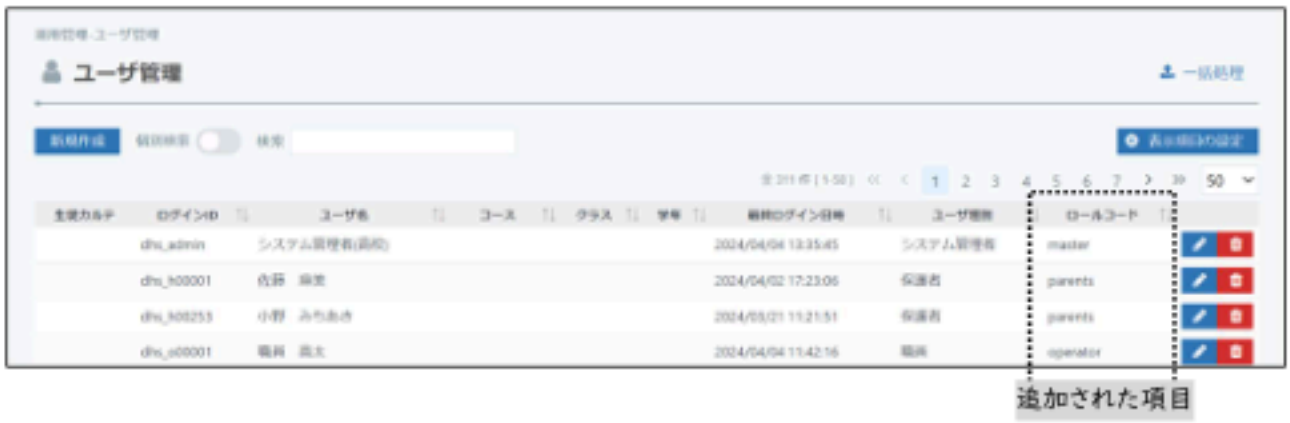
＊ここでは、例として「ロールコード」を選択しています。

(c)クリックして選択状態にした項目が、右側の[表示項目]へ移動します。

(d)[確定]ボタンをクリックしてプルダウンメニューを閉じます。



(e)選択した項目が一覧画面に反映されます。



メモ

この機能は別のパソコンでアクセスした時も、その設定内容は保持されます。

3-3-2 検索方法と並び替え

フリーワード検索

フリーワード検索を使用すると、ユーザは自由な言葉で情報を検索することができます。
この機能は、一覧画面を表示した状態でリアルタイムに結果を反映し、迅速に必要な情報を見つけることができます。
検索件数は下図①に表示されます。検索を解除する場合は[クリア]ボタン（下図②）をクリックします。

（例："数学"で検索）

個別検索

個別検索を利用すると、一覧表の特定の項目に対して詳細な検索が行えます。
[個別検索]トグルスイッチをオンにすると、各項目名の下にテキストフィールドが表示され、ここに入力された文字列に基づいた検索が行われます。複数項目に入力することで、AND 検索が可能となります。

(トグルスイッチ：オフ)一覧のヘッダー行が変わる前

（トグルスイッチ：オン）一覧のヘッダー行が変わった後

検索した後の画面

検索件数は、一覧表の右上（下図①）に表示されます。検索結果を解除するときは[クリア]ボタン（下図②）クリックします。
個別検索を解除する際は、トグルスイッチ（下図③）をオフにします。

＊例として、ユーザ名に「佐藤」を含むユーザを個別に検索した結果を表示しています。

並び替え（ソート）

一覧表の項目名の右側にある「 」をクリックすることで、昇順や降順に並び替えることができます。

(ソートしていない時)

（昇順でソート）

（降順でソート）

3-3-3 一括処理

一括処理（インポート／エクスポート）

一括処理機能により、システム内の様々なデータ（ユーザ情報、学習進捗情報、成績情報等）を CSV 形式でダウンロード（エクスポート）し、保存や他システムへの移行が容易になります。また、新しいデータをまとめてシステムに登録（インポート）する際も、CSV ファイルを使用して効率的に作業が行えます。これにより、大量のデータの扱いが簡単かつ迅速になります。

インポート用 CSV ファイルダウンロード

① 一括処理でインポートする際の CSV フォーマットデータを事前に出力しておき、読み込める項目を確認します。

② CSV ファイルを準備します。

・Excel などを使って CSV ファイルを作成する。

・e-Campus+から書き出した CSV ファイルを編集する。

③ 準備したファイルを「CSV（カンマ区切り）（*.csv）」の形式で保存します。

メモ

一括処理でインポートする際の CSV フォーマットデータは、各機能一覧の右上にある［一括処理］をクリックし、一括処理ダイアログの［ダウンロード］ボタンから出力できます。

CSV ファイルの読込（インポート）

① 各機能の一覧画面で、右上にある［一括処理］をクリックします。

② 一括処理ダイアログが表示されます。

③「ここにファイルをドロップ」エリア内へ CSV ファイルをドロップ、または［+CSV ファイル選択］ボタンをクリックして指定します。

④ 指定した csv ファイル名が表示されたら、その下部にある［インポート］ボタンをクリックします。

⑤ 処理の受け付け完了メッセージが表示され、［閉じる］ボタンをクリックすると、一覧画面へ戻ります。

⑥ 処理に成功すると、csvファイルで追加した情報が反映され、各管理の情報が一括更新されます。

メモ

・機能によっては、一括処理ダイアログに［インポート対象］の設定がある場合があります。
［インポート対象］を選択し、データを対象ごとに分けてインポートしてください。

（例：ユーザ管理の一括処理ダイアログ）

メモ

インポート処理の結果は、システムメッセージでも確認できます。

CSV ファイルの書き出し（エクスポート）

① 各機能の一覧画面で、右上にある［一括処理］をクリックします。

② 一括処理ダイアログが表示されます。

③［エクスポート］ボタンをクリックし、一覧画面の情報を CSV フォーマットのテキストデータでダウンロードします。

4. システム管理

ここでは、管理者が行う本システムの設定時期とシステム設定について説明します。

4-1 システムの設定時期

はじめに必要な設定

初期設定	•「4-2 システム設定」：学校ごとの各設定を行います。
運営の前準備	•「5-1 ロール管理」：運用する担当者ごとに権限の組み合わせ（ロール）を作成します。 •「5-2 組織管理」：コース、専攻、クラスなど組織階層を設定します。

年度初めの必要に応じた設定

新規設定・変更	•「5-3 ユーザ管理」：すべてのユーザの新規登録、編集、削除などを実施します。 •「5-4 期間管理」：授業の受講可能期間、成績判定する期間などを設定します。 •「5-5 評価項目管理」：授業や科目の成績を評価する基準を作成します。 •「5-6 科目管理」：授業科目を作成します。

授業前設定

授業の設定・変更	•「5-8 動画管理」：授業の動画を登録します。 •「6-1 構成管理」：授業の内容、構成を設定します。

運用中必要に応じた設定

グループの作成・変更	•「5-7 グループ管理」：グループチャットやお知らせの通知先に使用する、任意の学生、教員とのグループを作成、変更します。
操作ログの確認	•「5-9 操作履歴管理」：ユーザの操作履歴を確認することができます。
学生情報の確認	•「5-10 学生情報」：学生カルテの情報を閲覧することができます。

4-2 システム設定

システム設定の項目をそれぞれ説明します。

4-2-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[システム管理]-[システム設定]をクリックします。

② 「システム設定」画面にはナビゲーションパネルが表示され、各種設定項目が表示されます。

一番最下部までスクロールすると[登録]ボタンがあり、クリックして設定内容を保存します。

4-2-2 設定項目

機能の有効･無効設定

学生の「チェックガジェット」の「提出期限のカウントダウンを開始する日数」が設定できます。

当日提出期限のもののみ表示する場合は「0」を設定します。

提出期限での表示制限をしない場合は空欄にします。

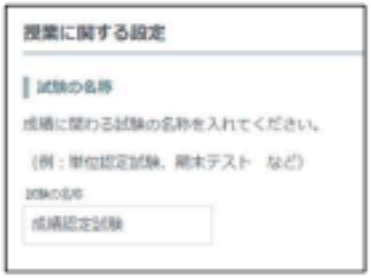
（学生の「チェックガジェット」）

リンクの設定

リンクの表示名とURLを設定することができます。リンクの数に制限はありませんが、多すぎるとデザインが崩れる恐れがあります。設定したリンクはユーザガジェットに表示されます。

授業に関する設定

成績に関わる試験の名称が設定できます。
初期設定は「成績認定試験」です。
設定した名称は、学生画面授業トップの単位認定試験ボタンの名称に表示されます。



（学生の「授業トップ」）

成績に関する設定

成績登録時にどの評価区分から成績認定とするかを設定します。
例えば、A~E 評価で「B」から成績を認定する場合は「B」を設定します。

また修了証も設定できます。修了証は学生の成績参照画面で表示することができます。設定しない場合は e-Campus+の既定のデザインで表示されます。指定したデザインを使用したい場合はご相談ください。

カテゴリに関する設定

各種カテゴリが設定できます。

・「科目カテゴリ」は科目に設定するカテゴリです。学生が履修申請をするときなどに表示されます。「基本」科目や「応用」科目、「専門」科目など学校の運用に合ったカテゴリを設定できます。

・「スケジュールカテゴリ」は、学生や教員のスケジュール表に表示されます。「学校行事」やイベントの種類を設定でき、カテゴリごとに色分けされます。

・「質問カテゴリ（全体）」は学校への問い合わせ時に学生から選択するカテゴリです。

・「質問カテゴリ（授業）」は学生が授業で行う質問時に選択できるカテゴリです。

初期表示コメントに関する設定

履修確定と成績確定時に表示されるコメントを、それぞれ５パターン設定することができます。これらのコメントは、履修申請や成績公開時に学生に通知されます。

5. 運用管理

運用管理は、ユーザに対する権限の設定や、授業を構成する共通の決まりごとを設定します。
ここでは、ユーザ管理やロール管理などの基本機能を通じた操作方法を説明します。

5-1 ロール管理

「ロール（役割）」は、ユーザがシステム内でどのような権限やアクセス権を持つかを指定する仕組みで、このシステムでは「学校システム管理者」「職員」「教員」「TA」「学生」など運用に合わせたロールを作成することができます。誰にどのような権限を付与し、運用することが効率的か事前にイメージしてロールを作成してください。

5-1-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［運用管理］-［ロール管理］をクリックします。
② 「ロール管理」画面が開きます。

5-1-2 ロールの作成と管理

ロールの新規作成

新しいロールを作成し、必要な機能権限を設定する方法を説明します。

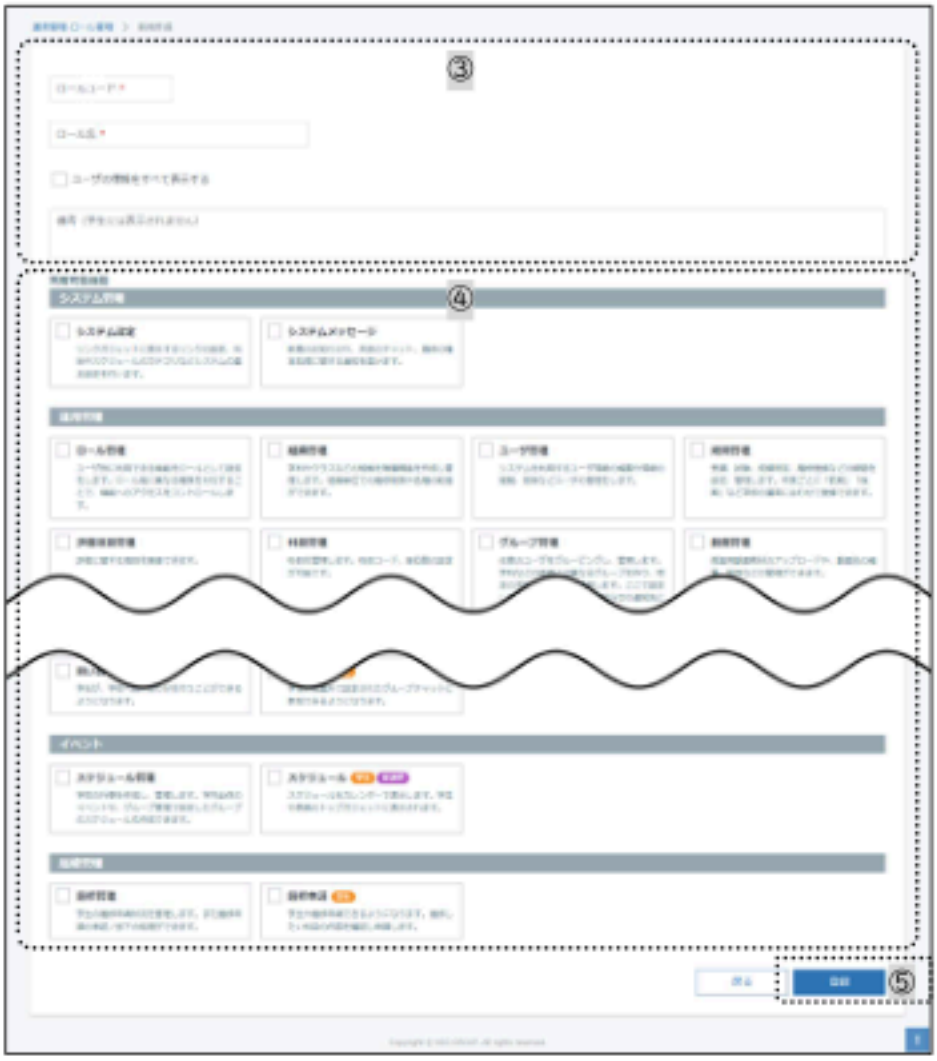
① ナビゲーションバーから[運用管理]- [ロール管理]をクリックします。

②「ロール管理」画面で、[新規作成]ボタンをクリックします。

③ 必要なロール情報（コード、名称、説明など）を入力します

④ 該当のロールに必要な機能を[利用可能機能]から選択します。

⑤ [登録]ボタンをクリックします。



⑥ 新規作成したロールが一覧画面に表示されます。

メモ

・ロールコードやロール名は登録後も変更できますが、ロール名は学内で運用する教員や職員の方がわかりやすい名称にしていただくことをお勧めします。

・ロール管理画面では[ロールコード]の昇順で表示されるため、表示したい順に[ロールコード]を設定いただくことをお勧めします。

⚠

[ユーザの情報をすべて表示する]オプションを有効にした場合、そのロールが割り当てられたユーザは、個人情報を含むユーザデータを閲覧できるようになります。また、この設定はエクスポート時にも適用され、その情報は CSV 形式のテキスト情報として出力されます。このオプションは初期設定で無効になっており、これによりユーザの個人情報が誤って表示されることを防ぎます。なお、どの情報を個人情報と定義するかは、学校によって異なります。

⚠

各ユーザで使用できる機能は、学校の運用に合わせて学校システム管理者がロール管理を行います。各ユーザの画面に表示される機能はそのロール管理によって表示が変わります。

ロールの編集と機能権限の割当

① 「ロール管理」画面で編集したいロールを表示し、[✎]アイコンをクリックします。

② 変更したい情報（権限設定など）を編集し、[登録]ボタンをクリックします。

ロールの削除

①「ロール管理」画面から、削除したいロールの［ 🗑 ］アイコンをクリックします。

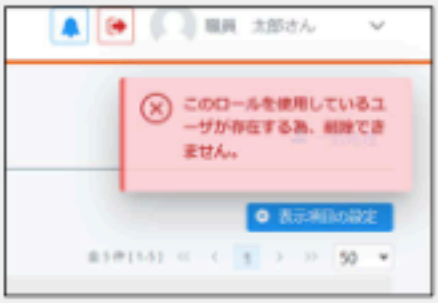
②「削除」の確認ダイアログが表示されたら、［削除］ボタンをクリックします。

③ 削除完了のメッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックして、「ロール管理」画面に戻ります。

メモ

使用しているユーザがいる場合、ロールは削除できません。

すべてのユーザを削除した後に、ロールを削除します。



5-2 組織管理

組織管理機能では、コースの階層構造を管理します。
また学科に対する教員を設定することができます。

5-2-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［運用管理］－［組織管理］をクリックします。
② 「組織管理」画面が表示されます。

5-2-2 学部の編集

「組織管理」の画面では、階層構造を確認しながら、学部、学科の新規作成や編集を行うことができます。

学部、学科の作成

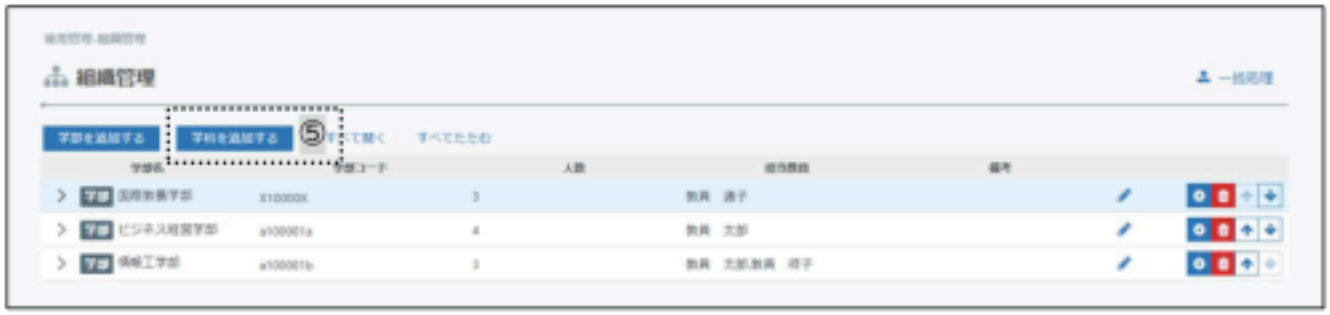
① 「組織管理」画面の左上にある［学部を追加する］ボタンをクリックします。

② 新規入力行が表示されるので、［学部名（必須項目）］、［学部コード（必須項目）］、［備考］を入力します。

③ 入力後、［✓］アイコンをクリックして登録します。

④ 作成したい学科の行を選択します。

⑤［学科を追加する］ボタンが表示されるのでクリックします。



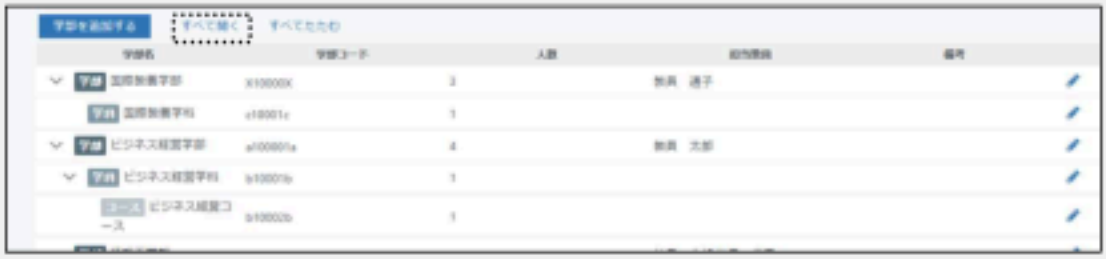
⑥ 新規入力行が表示されるので、[学科]の情報を入力します。

⑦ 入力後、[✓]アイコンをクリックして登録します。

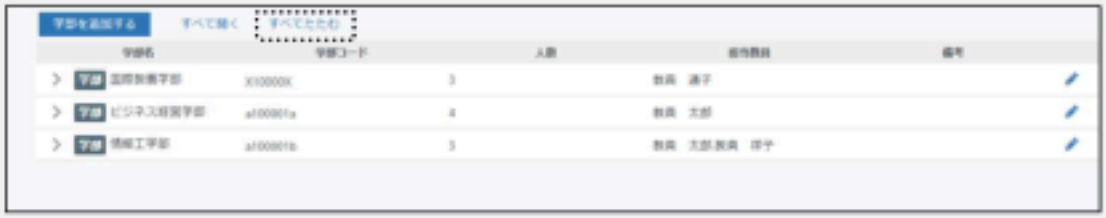
メモ

・学部・学科などの組織を(a)～(d)の方法で階層的に展開したり、閉じたりすることができます。

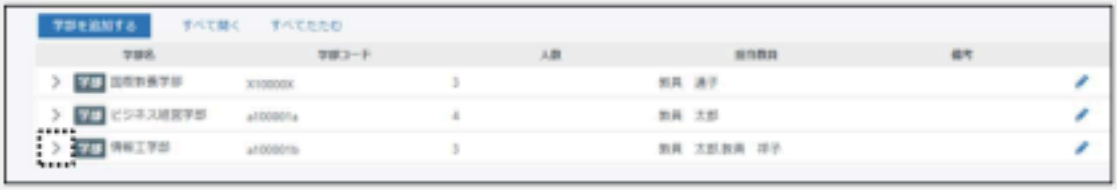
(a)［すべて開く］・・・・ 階層構造がすべて開きます。

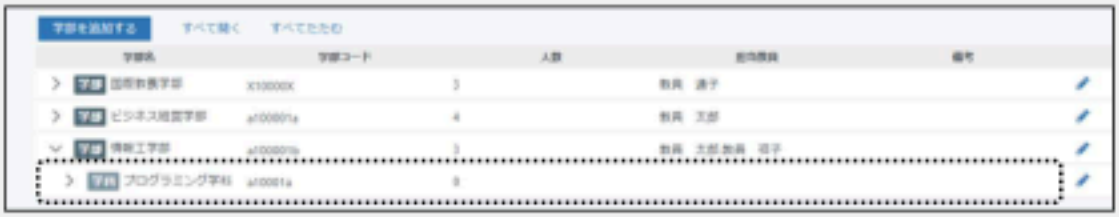


(b)［すべてたたむ］・・ 階層構造がすべて閉じます。

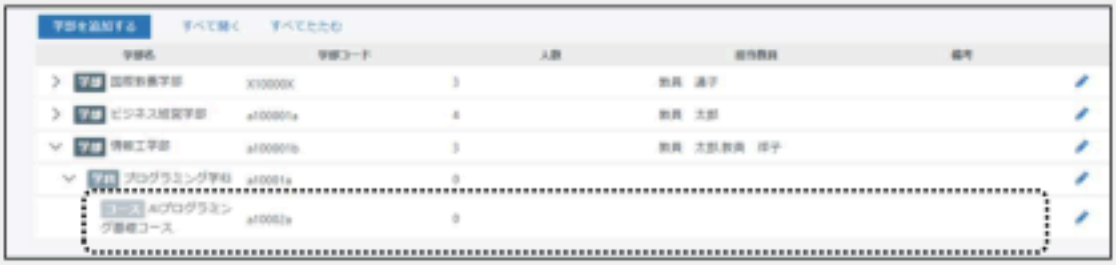


(c) 選択した組織名の前にある[>]をクリックし、下位階層を展開します。

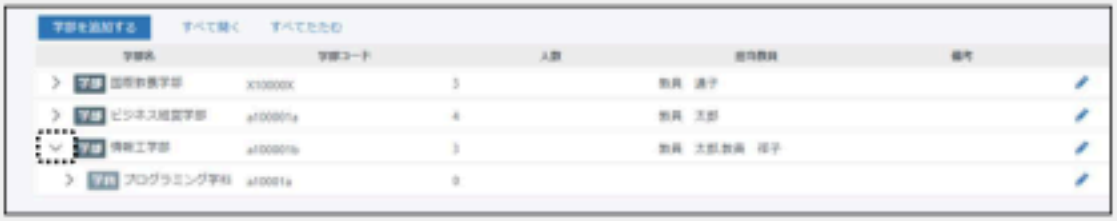


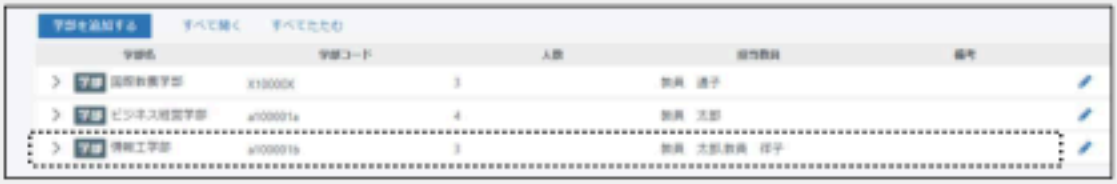


さらに下位の階層も展開できます。



(d) 選択した組織名の前にある[v]をクリックし、下位階層を閉じます。

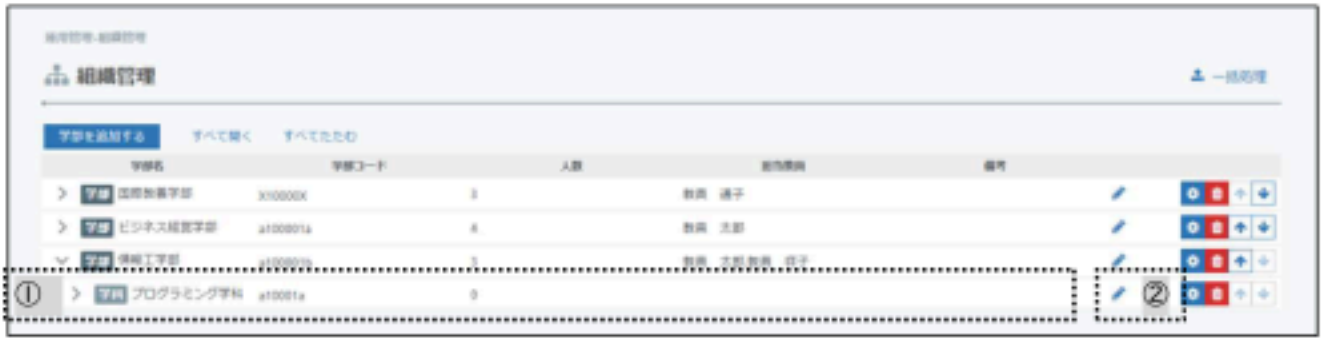




学部・学科の編集

① 「組織管理」画面で編集したい学部、学科をクリックします。

② 選択した学部、学科の行の右端にある[✎]アイコンをクリックします。



③ 選択した行が入力モードに変わり、[学部名]や[学部コード]などの情報が変更できるようになります。

④ 必要な変更を加えた後、右端にある[✓]アイコンをクリックして変更を確定します。

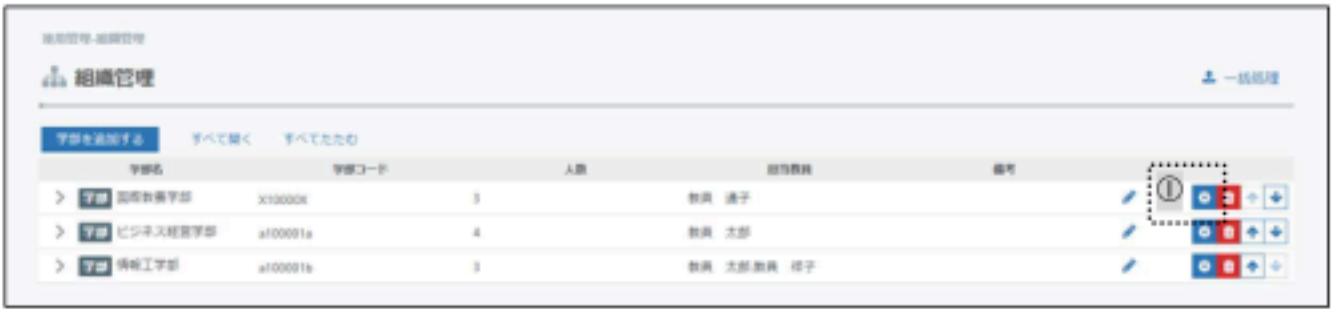
⑤ 編集が完了すると、行が通常モードに戻り、更新された情報が表示されます。

5-2-3 各階層への教員の設定

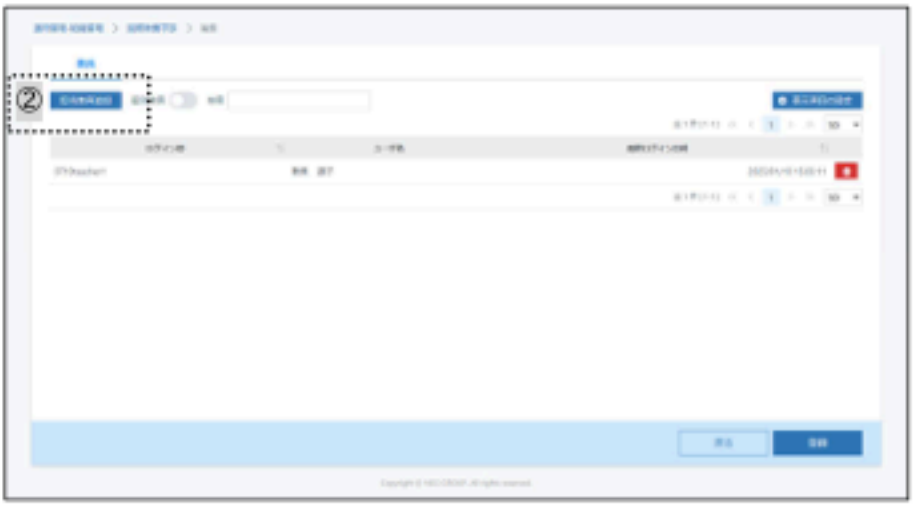
ここでは、選択した学部・学科などの組織を担当する教員の割り当てについて説明します。

担当の教員の設定

①「組織管理」画面で対象の学部または学科の［歯車］アイコンをクリックします。

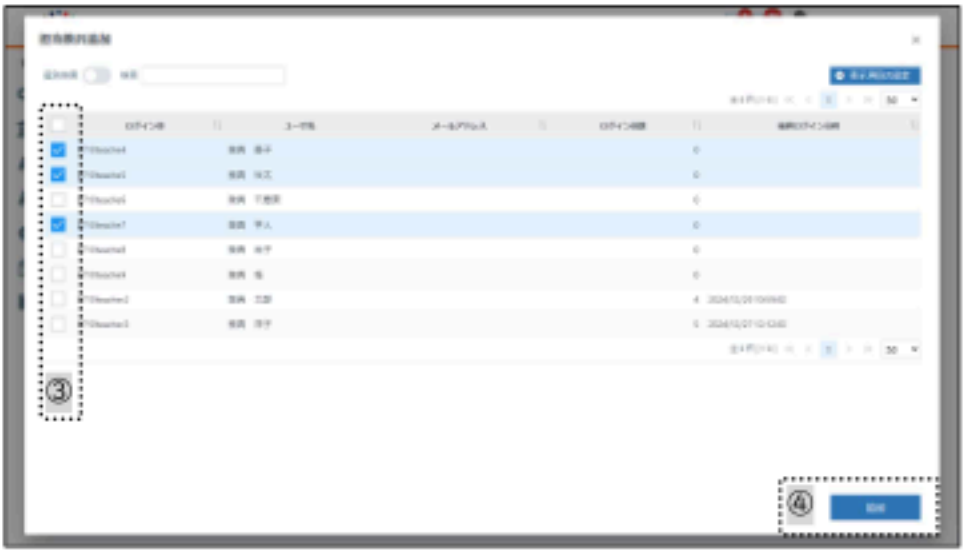


②［教員］タブが選択されていることを確認し、［担当教員追加］ボタンをクリックします。



③「担当教員追加」のダイアログから対象の教員を選択します。

④［追加］ボタンをクリックします。



メモ

・担当教員の設定は設定された組織の階層にのみ適用され、上位組織で設定した内容が自動的に下位組織に引き継がれることはありません。このため、特定の設定を全組織に適用させたい場合は、階層ごとに設定を行う必要があります。

5-3 ユーザ管理

職員、教員、学生の属性値の編集を行い、管理します。

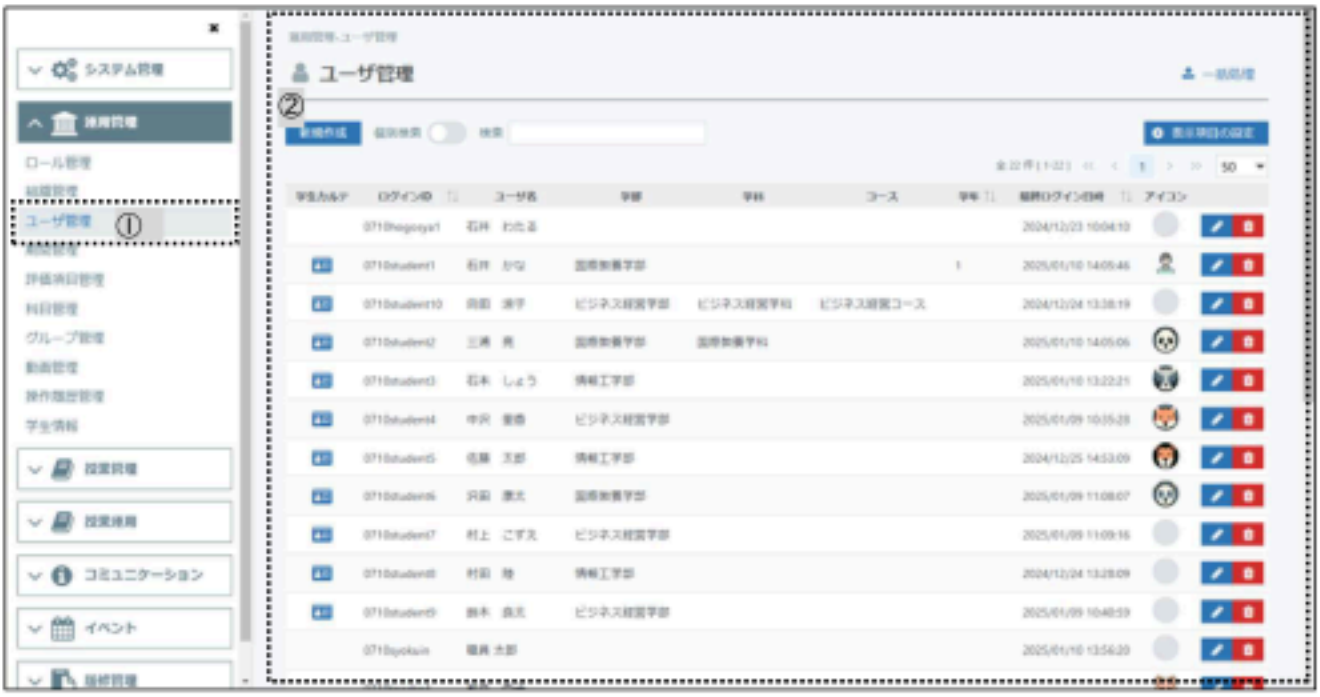
5-3-1 機能と画面遷移

ユーザ管理ではシステム内でのユーザ情報の編集や管理を行います。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[運用管理] - [ユーザ管理]をクリックします。

②「ユーザ管理」画面が表示されます。

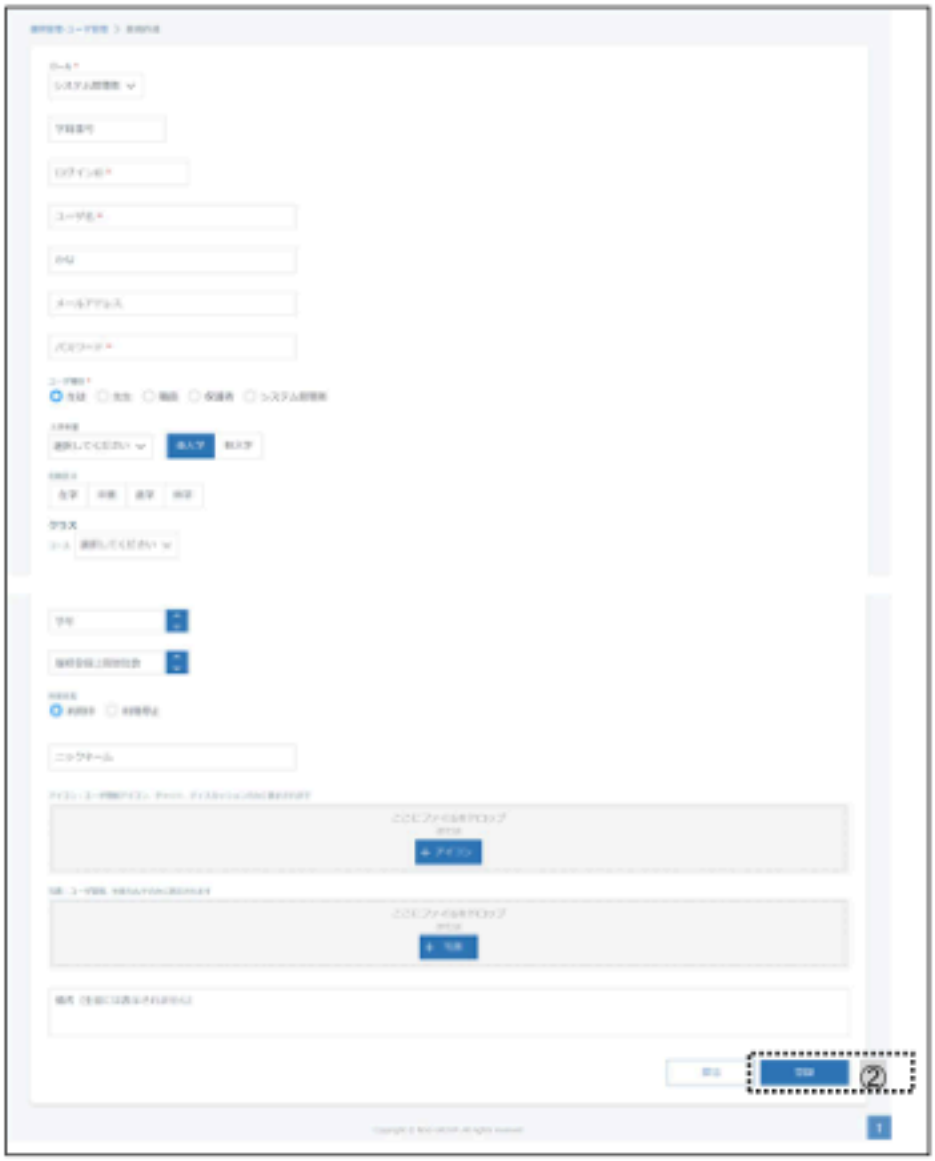


5-3-2 ユーザの作成と管理

ユーザ情報の新規作成

①[新規作成]ボタンをクリックします。

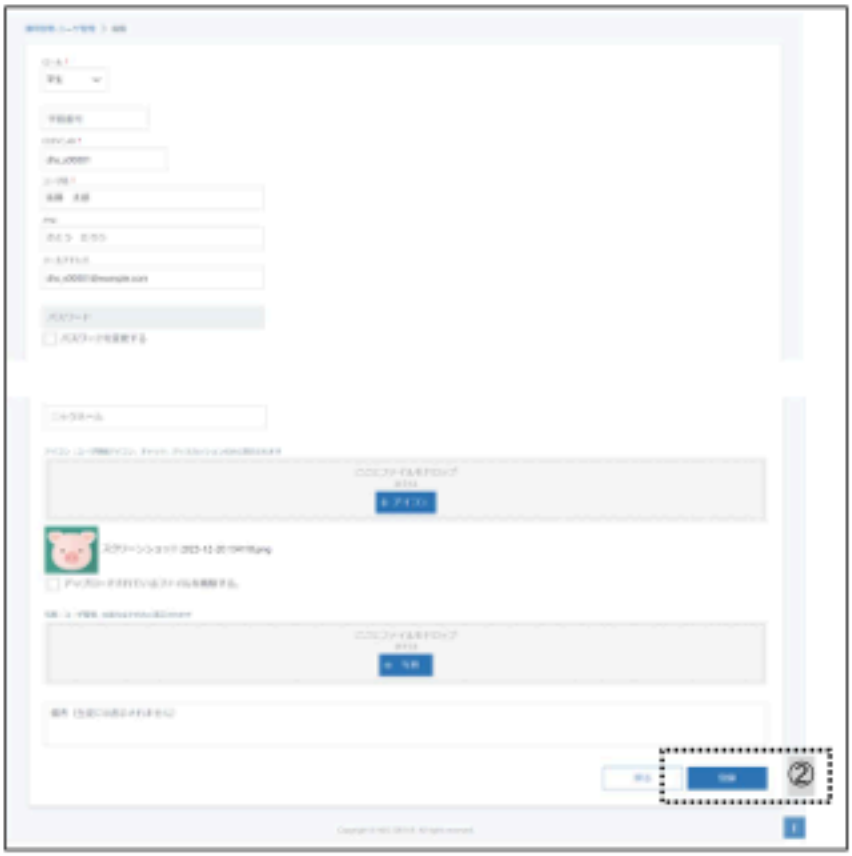
②必要な項目を入力し、[登録]ボタンをクリックします。



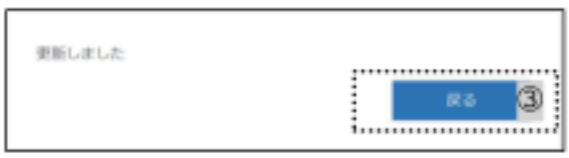
ユーザ情報の編集

①編集するユーザ行の[ ]アイコンをクリックして、「ユーザ情報の編集」画面に遷移します。

②必要な項目を変更し、画面最下部の[登録]ボタンをクリックします。



③ユーザ情報が更新されると完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックして、「ユーザー覧」画面に戻ります。



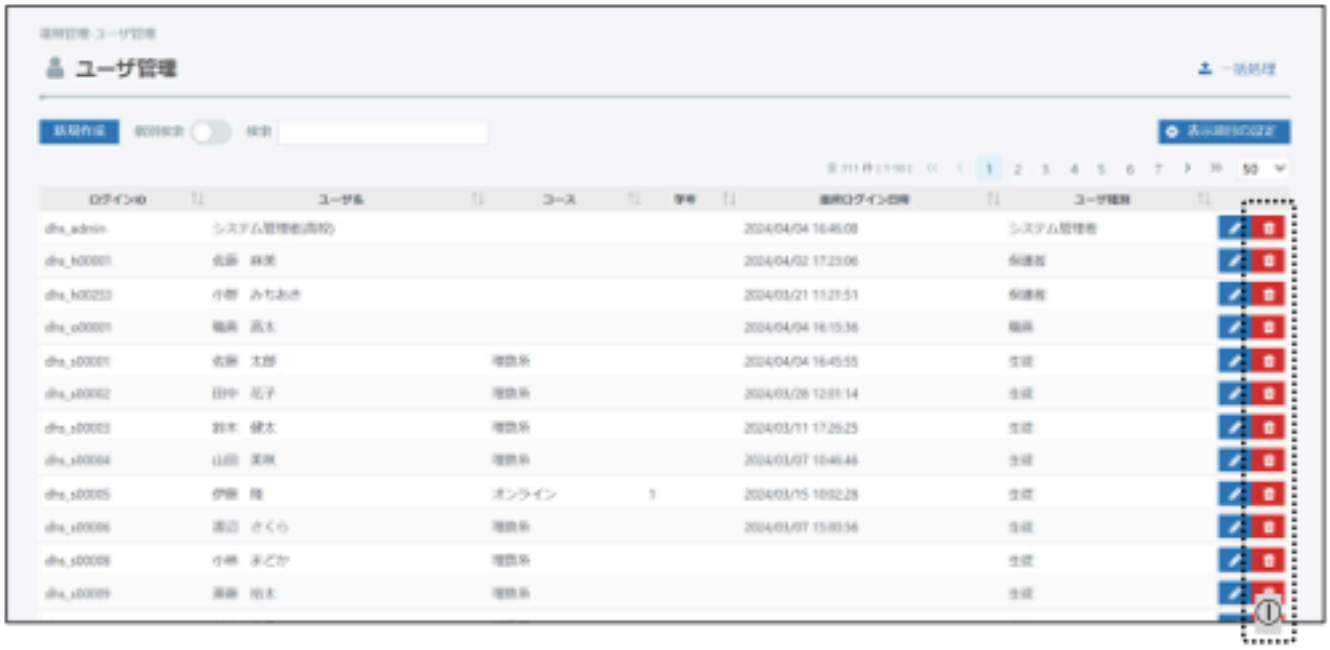
設定項目名	説明
ロール（必須）	ユーザに与えるロール（機能・権限）を設定します。 ロールは学校システム管理者が作成したロール名がリストに表示されます。
ログイン ID（必須）	ユーザのログイン ID を入力します。 他のユーザと重複するログイン ID は設定できません。
ユーザ名（必須）	ユーザの名前を入力します。
かな	ユーザ名のよみを入力します。
メールアドレス	ユーザのメールアドレスを入力します。 ユーザのメールアドレスは以下の場合に使用します。 ・レポート未採点通知
パスワード	ユーザのパスワードを入力します。
ユーザ種別（必須）	ユーザの種別を設定します。 ユーザ種別は以下の機能に影響します。 ・学生：学生用ダッシュボード ・教員：教員用ダッシュボード ・職員：職員、学校システム管理者用ダッシュボード ・保護者：保護者用ダッシュボード ・学校システム管理者：職員、学校システム管理者用ダッシュボード
学籍番号	ユーザの学籍番号を入力します。
入学年度	ユーザの入学年度を入力します。 学年度の半期ごとに区分される春入学/秋入学を選択してください。
在籍区分	ユーザの在籍状況を指定します。 在学/卒業/退学/休学を選択してください。
組織	ユーザが所属する学科、コースなどの組織を設定します。
学年	ユーザの学年を設定します。
履修登録上限単位数	履修申請機能でユーザが年間履修申請できる上限単位数（CAP）を設定します。
利用可否	ユーザの現在の利用状態を設定します。
ニックネーム	ユーザのニックネームを設定します。 チャットやディスカッション機能で表示させることができます。
アイコン	ユーザのアイコンを設定します。 ユーザを一覧で確認できる画面や、自身のプロフィール画面、チャットなどで使用されます。
写真	進捗管理や学生カルテに表示されます。学校へ提出した学生の写真を登録する項目です。
備考	必要に応じて備考を入力します。

メモ

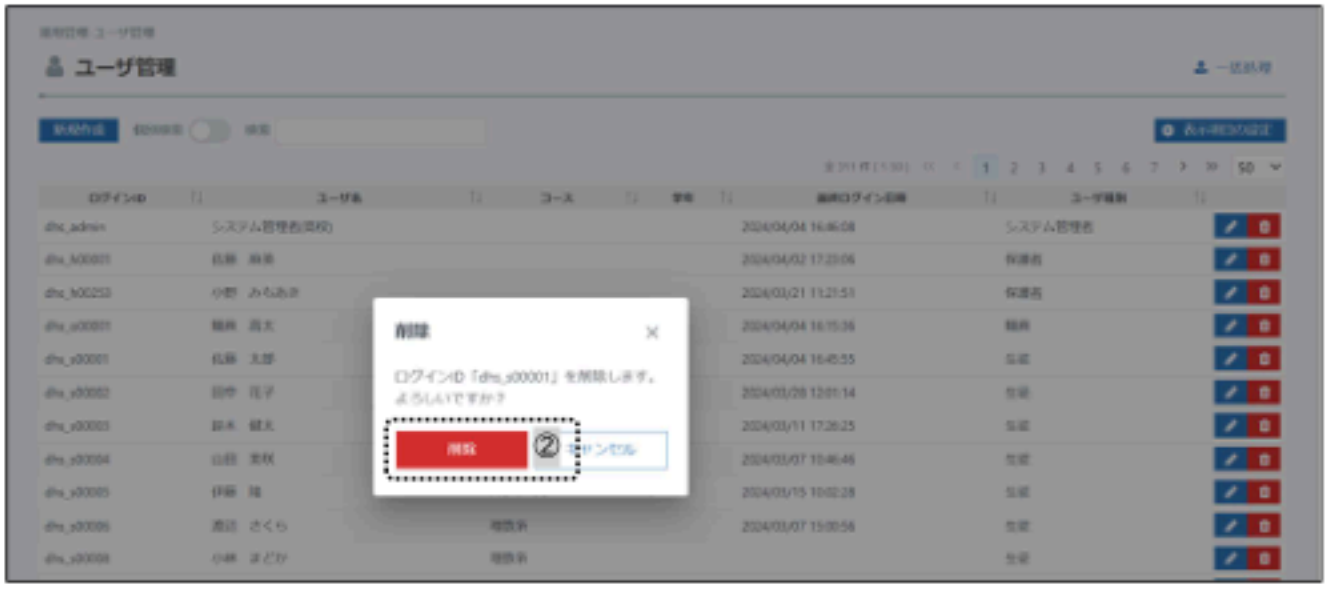
ユーザの一括更新は、「3-3-3 一括処理」の方法で行うと便利です。

ユーザの削除

①「ユーザ管理」画面から、削除したいユーザの[🗑]アイコンをクリックします。



②「削除」の確認ダイアログが表示されたら、[削除]ボタンをクリックします。



③削除完了のメッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックして、「ユーザ管理」画面に戻ります。

5-4 期間管理

期間管理では、履修や授業、試験、成績判定などの期間を設定できます。

5-4-1 機能と画面遷移

期間管理では、授業スケジュールが制御されます。
期間を設定することで、前期、後期や通年などの統一された授業運営を行うことができます。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［運用管理］－［期間管理］をクリックします。
② 「期間管理」画面を表示します。

5-4-2 期間の作成と編集

期間の作成

新しい期間を作成し、表示期間、実施期間、履修申請期間など、授業運営に必要な期間を定めます。

① 「期間管理」画面で［新規作成］ボタンをクリックします。

② 必須項目（期間コード、期間名、年度）を入力し、その他の詳細設定を行います。

設定項目名	説明
期間コード（必須）	期間を識別するための一意のコードを入力します。
期間名（必須）	期間の名称を入力します。
年度（必須）	期間が属する年度を入力します。
表示期間	学生の「授業一覧」画面に表示される期間を入力します。
実施可能期間	授業が実施される期間を入力します。 「表示期間」内であっても、「実施可能期間」内でなければ授業に設定されたアイテムを学習することはできません。
履修申請可能期間	学生が履修する授業や科目を登録するための申請が可能な期間を入力します。
（成績認定試験）の実施可能期間	成績を認定するための試験を実施する期間を入力します。 なお( )部分は、学校ごとに「システム設定」で登録した名称が表示されます。
成績判定期間	教員が成績を判定できる期間を入力します。
備考	必要に応じて説明を入力します。 （学生の画面には表示されません。）

③［登録］ボタンをクリックします。

メモ

・日付の設定は、入力エリアをクリックすると表示されるカレンダーで設定することができます。

・時刻の設定は、入力エリアをクリックすると表示される下図で設定することができます。

なお、「開始日時」の時刻は既定値で「0:00」、「終了日時」の時刻は既定値で「23:59」です。

また、各期間の設定をしない場合は、その期間の制限はかかりません。

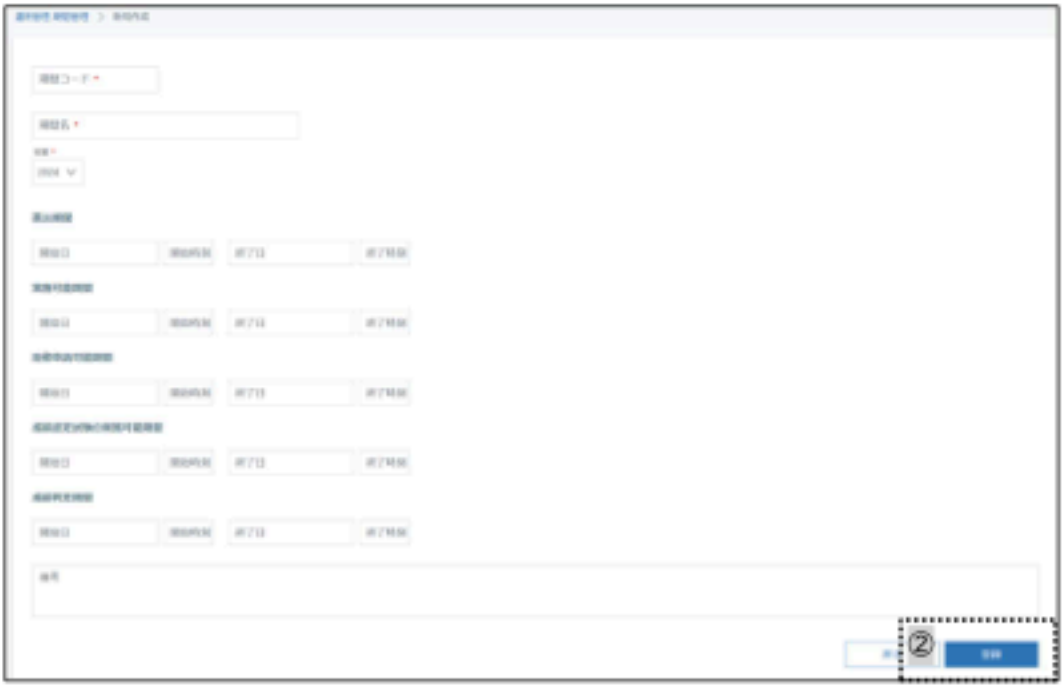
④ 完了画面が表示されるので[戻る]ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

⑤ 新規作成した「期間」が一覧画面に表示されます。

期間の編集

① 「期間管理」画面で、編集したい期間の［操作］列から［ ］アイコンをクリックして、「編集」画面を開きます。

② 必要な変更を加えた後、［登録］ボタンをクリックします。



③ 完了画面が表示されるので［戻る］ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

④ 編集した内容が反映された期間が一覧画面に表示されます。

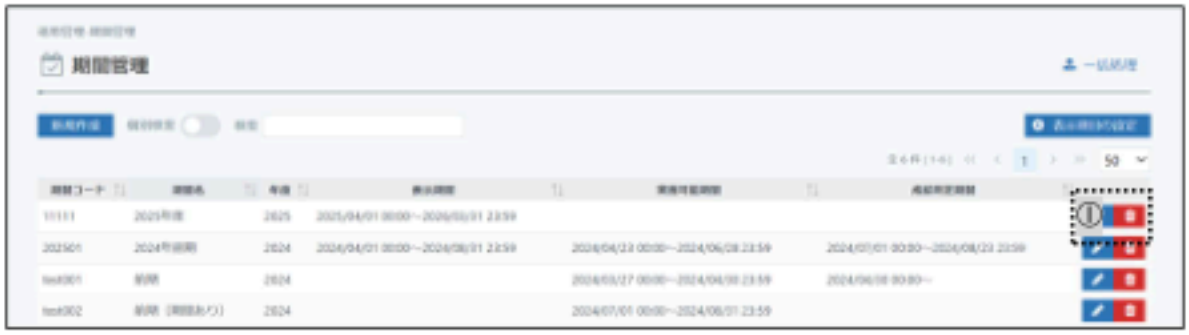
メモ

・期間の設定を変更すると、その期間が設定されている授業に対する各期間が一律変更されます。

・授業に設定されている期間は、ナビゲーションバーの［授業管理］－［構成管理］から授業を選択し、［基本］タブの［期間］で確認することができます。

期間の削除

① 削除したい期間の、[操作]列から[🗑]アイコンをクリックします。



② 確認メッセージが表示されるので[削除]ボタンをクリックします。

③ 完了画面が表示されるので[閉じる]ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

メモ

・ナビゲーションバーの[構成管理]や[担当授業]に表示される授業一覧では、この期間管理で「前期」と「後期」を作成し、年間の授業運用に即した期間を設定することで、それぞれの期に紐づく授業を年度別に表示をすることが可能です。

・期間設定の編集は、ナビゲーションバーにあるメニューカテゴリの[授業管理]や[授業運用]に含まれる機能を始め、学生が利用する履修登録、成績参照などの授業に関する機能全般に影響を与えます。期間設定を操作する際は、設定に誤りが無いか確認してください。なお、別の機能で使用されている期間は削除することはできません。

5-5 評価項目管理

評価項目管理では、授業や科目の成績を評価するための基準を管理することができます。
評価の透明性や一貫性を保ちながら適切な評価を行うことができます。

5-5-1 機能と画面遷移

「評価項目管理」画面では、各科目で集計したい評価区分を登録することができます。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［運用管理］-［評価項目管理］をクリックします。
② 「評価項目管理」画面が表示されます。

メモ

今後、成績管理機能を強化する予定です。
「評価項目管理」で設定した評価区分をアイテムごとに設定でき、評価区分ごとにディスカッション評価、ルーブリック評価などの計算方法が設定できる予定です。集計された成績は、担当する教員や管理者が確認・承認するプロセスを経ることで最終的に確定します。これにより、成績の誤りや不備を事前に防ぎ、正確で公正な成績を保証することができます。

5-5-2 評価項目の作成と編集

評価項目の作成

① 「評価項目管理」画面で［新規作成］ボタンをクリックします。

② [基本]タブで評価項目コード、評価項目名を入力します。※評価項目コードは自動採番です。

③ [評価軸]タブをクリックします。

④ [評価軸]タブで[評価軸追加]ボタンをクリックします。

⑤「評価軸」画面で評価軸を設定します。

⑥［登録］ボタンをクリックします。

設定項目名	説明
評価軸コード（必須）	評価軸を識別するための一意のコードを入力します。 自動採番で設定されます。
評価軸名（必須）	評価軸の名称を入力します。
評価対象	評価対象となるアイテムを設定します。 複数選択可能です。
評価点利用	いいえ（成績の自動計算を行う場合）／ はい（成績自動計算せず手入力で設定する場合）

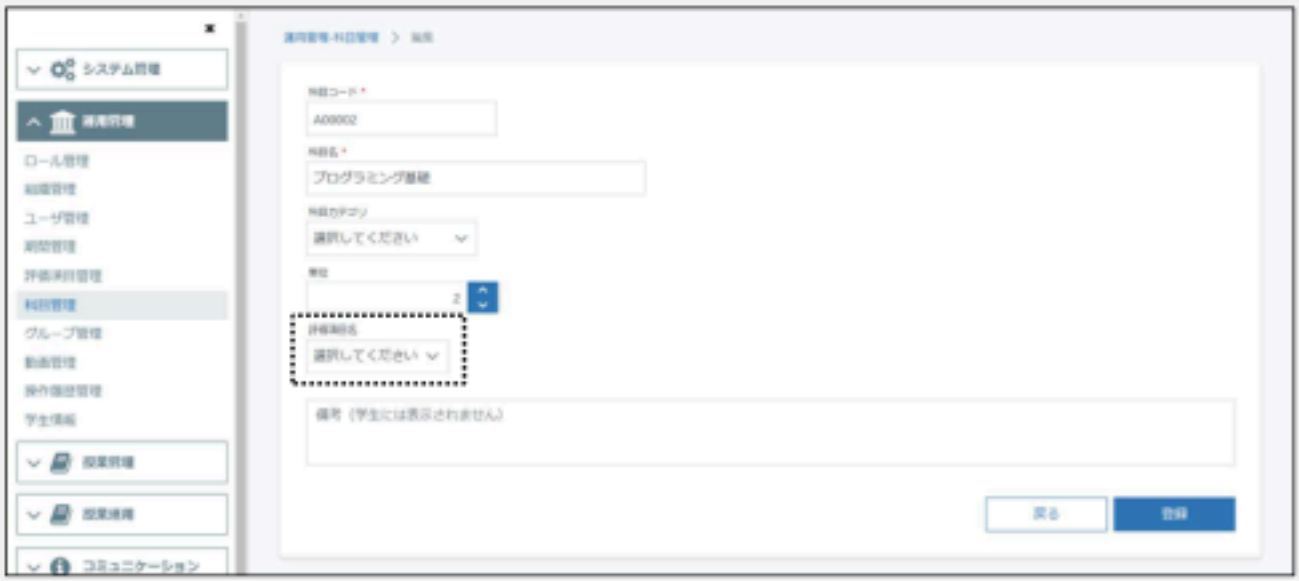
⑦［評価軸］タブに戻ります。

［登録］ボタンをクリックします。

⑧ 完了画面が表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面が表示されます。

メモ

ここで設定した評価項目は、科目管理の「評価項目名」で選択できるようになり、科目ごとに異なる評価を設定することができます。



さらに、科目で設定した評価項目から、授業アイテムや、テストの設問で評価軸を選択することができます。

評価項目の編集

① 「評価項目管理」画面で、編集したい評価項目の[ ]アイコンをクリックして、「編集」画面を開きます。

② 必要な変更を加えた後、[登録]ボタンをクリックします。

③ 完了画面が表示されるので[戻る]ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

評価項目の削除

① 削除したい評価項目の[🗑]アイコンをクリックします。

② 確認メッセージが表示されるので[削除]ボタンをクリックします。

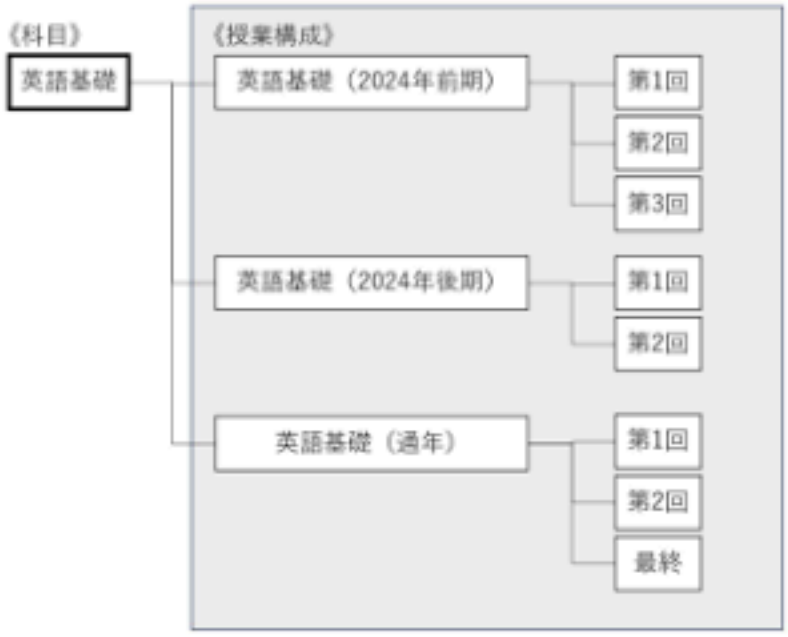
③ 完了画面が表示されるので[閉じる]ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

5-6 科目管理

本システムでは、授業構成を設定する前に科目の設定が必要です。

下図（例）のように授業構成は《科目》に紐づきます。ここでは、《科目》の作成について説明します。

（例）



5-6-1 機能と画面遷移

科目管理では新しい科目の追加、既存科目の編集、削除を行います。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[運用管理] - [科目管理]をクリックします。

②「科目管理」画面が表示されます。

5-6-2 科目の作成と編集

科目の作成

学内の科目をすべて登録します。なお、科目は基本的にシステム利用時に一回だけ登録を行います。それ以降に、科目を追加する場合や、登録した科目の内容を変更する場合に編集を行います。

①「科目一覧」画面で[新規作成]ボタンをクリックします。

② 科目コード、科目名、単位数などを入力します。

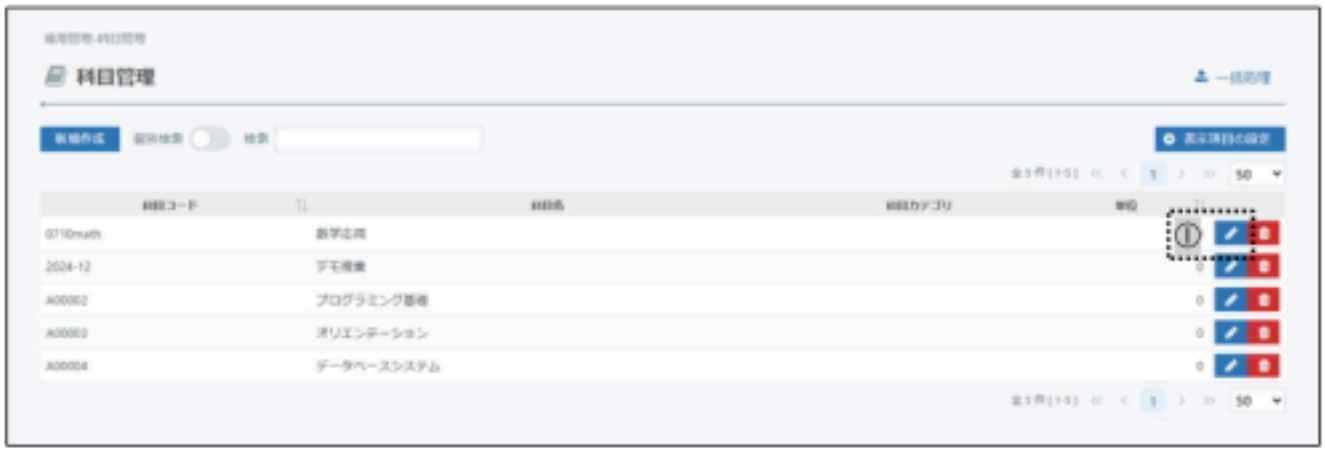
設定項目名	説明
科目コード（必須）	科目を識別するための一意のコードを入力します。
科目名（必須）	科目の名称を入力します。
科目カテゴリ	科目のカテゴリをドロップダウンリストから選択します。 カテゴリの内容は、あらかじめ学校システム管理者によって設定されています。
単位	科目の単位数を入力します。
評価項目名	評価項目管理で設定した評価項目をドロップダウンリストから選択します。
備考	必要に応じて備考を入力します。

③［登録］ボタンをクリックします。

④ 完了画面が表示されるので[戻る]ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

科目の編集

① 登録済の科目を編集するには、編集したい科目の[ ]アイコンをクリックします。



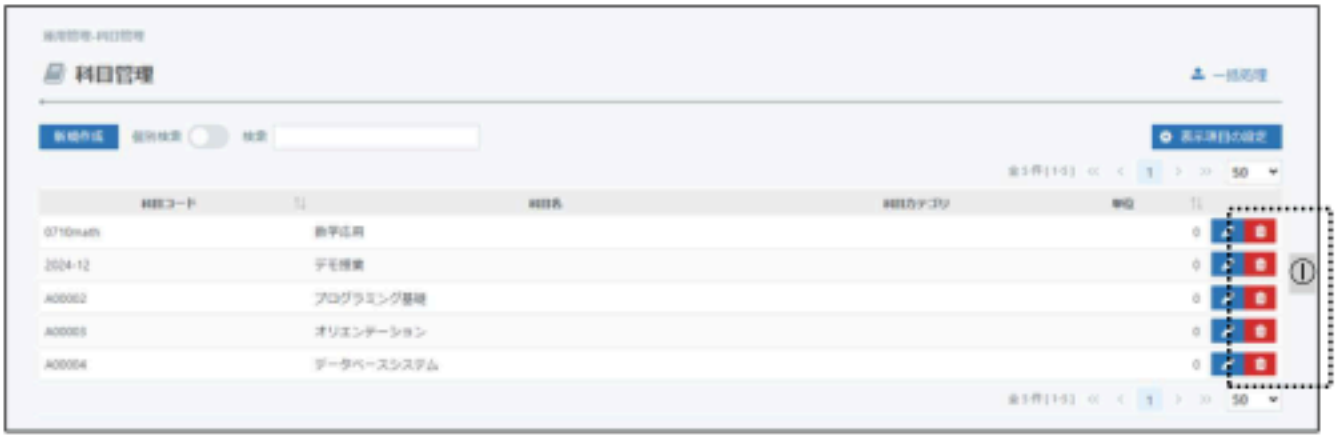
② 必要な情報を変更します。

③ [登録]ボタンをクリックして完了します。

④ 完了画面が表示されるので[戻る]ボタンをクリックし、一覧画面に戻ります。

科目の削除

① 科目を削除するには、削除したい科目の[🗑]アイコンをクリックします。



② 確認ダイアログが表示され、[削除]ボタンをクリックします。

③ 完了メッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックし一覧画面に戻ります。

⚠

学生が履修中の科目であっても削除することができます。ただし、履修中の科目を削除した場合、以下の機能や情報に影響が及びますので、削除時の確認作業は慎重に行ってください。

［影響のある機能や情報］

授業、シラバス、成績参照、履修申請

メモ

今後、成績自動集計機能が強化されると［評価項目名］の設定により、成績が自動集計される予定です。

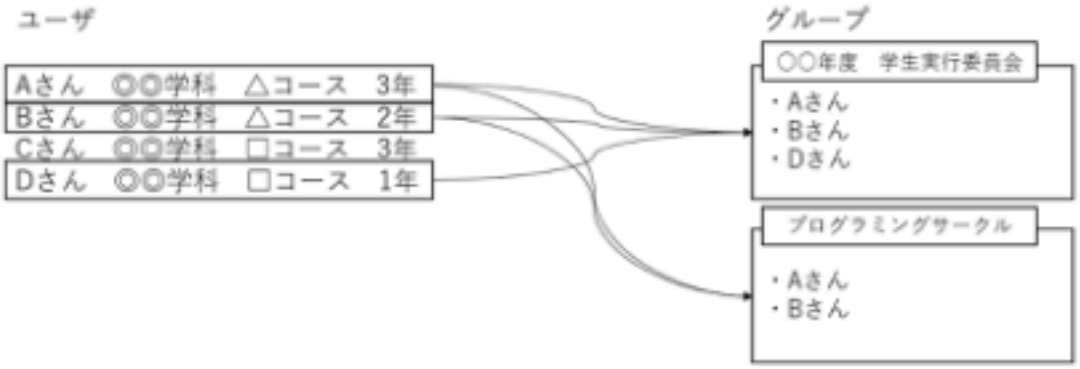
5-7 グループ管理

ここでは、グループ管理を説明します。

5-7-1 機能と画面遷移

グループ管理は、任意のユーザをグルーピングする機能です。ひとりのユーザは複数のグループに属することも可能です。この機能はチャットのルーム作成やお知らせの配信など各種機能で活用できます。特定の活動、課題のプロジェクトに関連するユーザをまとめておくことで、グループ内の情報共有やコミュニケーションが容易になります。

例:学年や所属(学科やコース)が異なる学生同士をグループ管理



機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[運用管理] - [グループ管理]をクリックします。

②「グループ管理」画面が表示されます。

5-7-2 グループの作成と編集

グループの新規作成と対象者設定

① [新規作成]ボタンをクリックします。

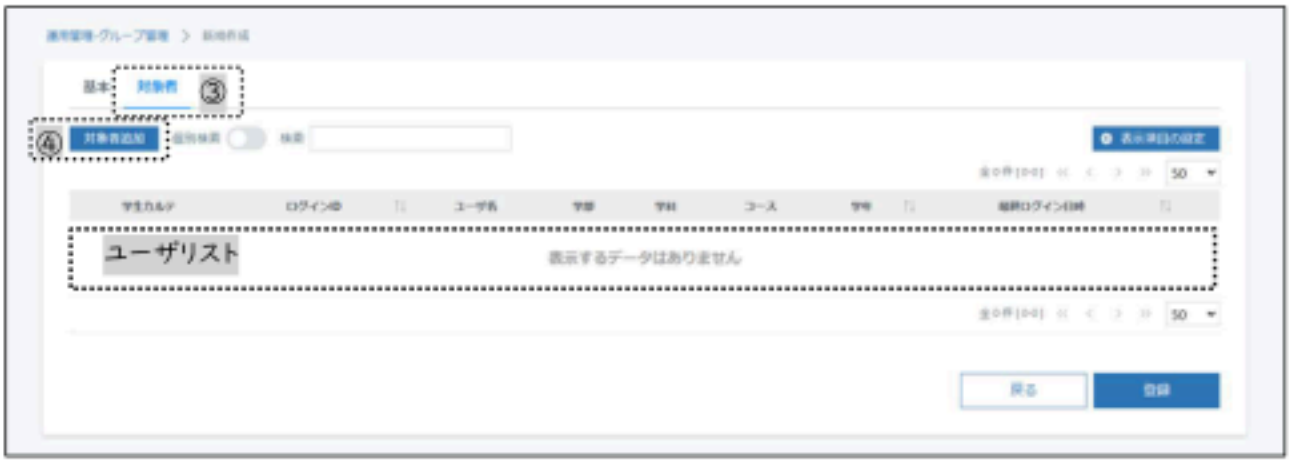
②[基本]タブが表示され、グループコード、グループ名、共有を入力します。

設定項目名	説明
グループコード(必須)	グループを識別するための一意のコードを入力します。 (英数字 20 文字以内)
グループ名(必須)	グループの名称を入力します。
共有 (いずれか必須)ラジオボタン	共有しない(利用できるのは自分のみ)／ 共有する(他の教職員にも表示されます。編集や削除は自分とシステム管理者のみが可能です。)
備考	必要に応じて備考を入力します。

③[対象者]タブをクリックして切り替えます。

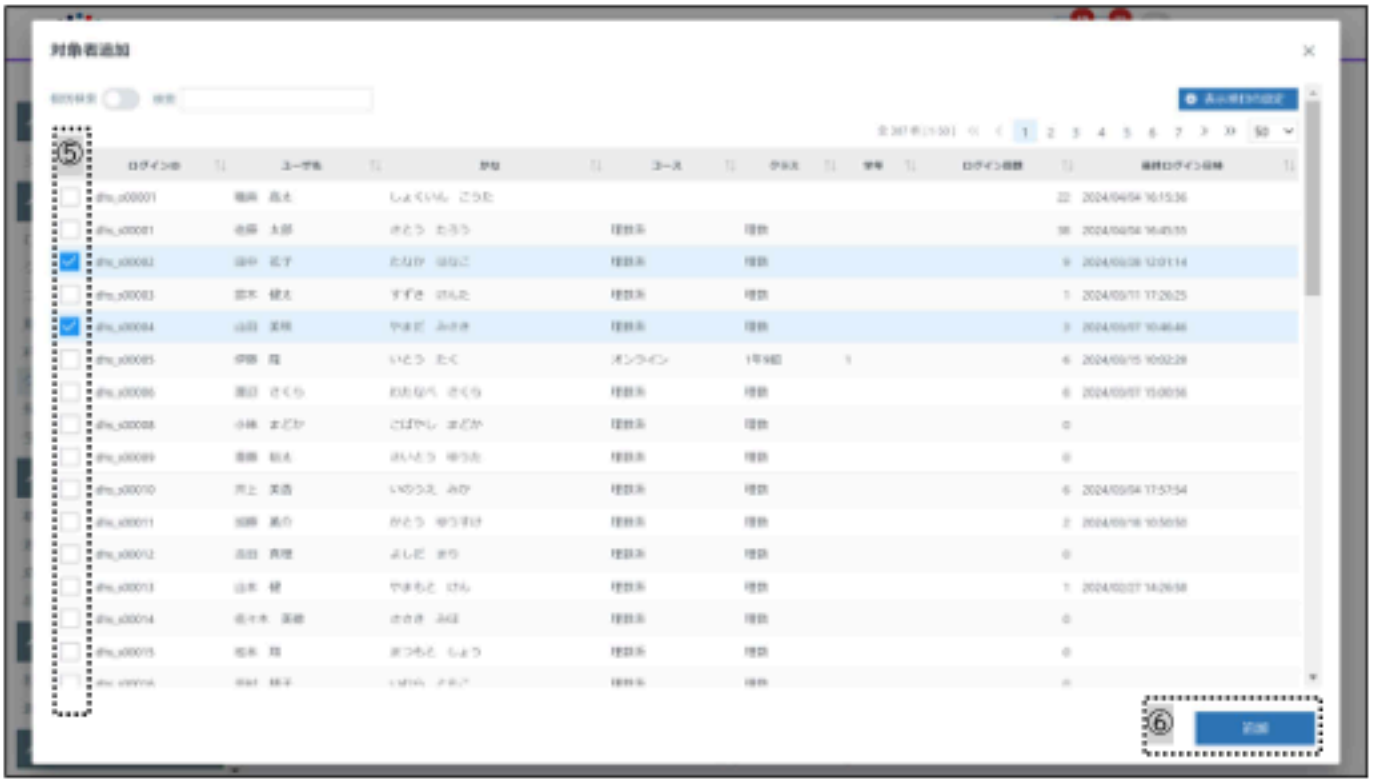
この時点では、ユーザリストには誰も登録されていません。

④[対象者追加]ボタンをクリックし、[対象者追加]ダイアログを表示します。



⑤グループに含める学生ユーザのチェックボックスをオンにします。

⑥[追加]ボタンをクリックします。



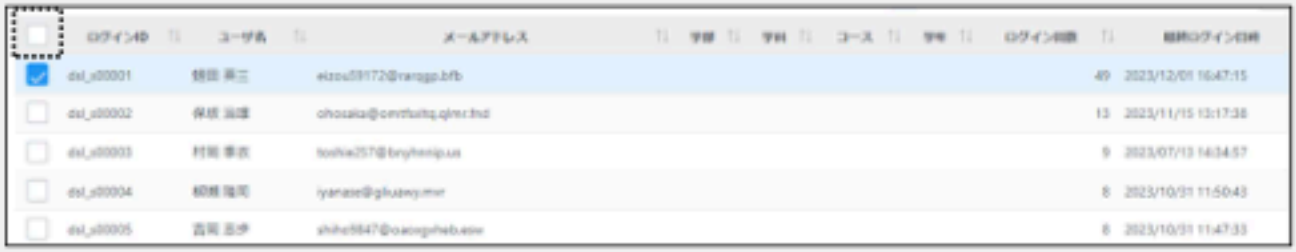
⑦ユーザリストに追加したユーザが表示され、[登録]ボタンをクリックします。

⑧完了画面が表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面が表示されます。

メモ

・特定のユーザを追加する場合は[個別検索]のトグルスイッチをオンにし、テキストフィールドに条件を入力すると見つけやすくなります。また、一覧の項目名の横にある「□」をクリックすると、昇順／降順の並べ替えができます。

・全員選択する場合は、[全選択]ボタンを使うと便利です。



グループの編集（グループ対象者の追加）

① 編集したいグループ名の[ ]アイコンをクリックします。

② [対象者]タブで[対象者追加]ボタンをクリックし、対象者を選択して[追加]ボタンをクリックします。

③ [登録]ボタンをクリックします。

④ 完了画面が表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面が表示されます。

グループの編集（グループ対象者の削除）

① 編集したいグループ名の[ ]アイコンをクリックします。

② [対象者]タブをクリックし、削除したいユーザの[ ]アイコンをクリックします。

③ 確認画面が表示されるので、[削除]ボタンをクリックします。

④ 対象者が更新されたプレビューが表示されます。更新を確定するには[登録]ボタンをクリックします。

グループの削除

① 削除したいグループ名の[ ]アイコンをクリックします。

② 確認メッセージにて[削除]ボタンをクリックすると削除が完了します。

③ 削除完了のメッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックして、「グループ管理」画面に戻ります。

メモ

「グループ」の削除は、対象者に設定されたユーザをすべて削除した後に削除が可能となります。

ユーザを削除する場合は、そのユーザがグループを介して受講している授業を解除し、グループチャットへの参加状況や用途を確認の上、行ってください。

5-8 動画管理

5-8-1 機能と画面遷移

動画管理では、授業用動画教材のアップロード、管理、および設定内容の編集、字幕の設定を行います。
動画教材に用いる動画の最適化を行い、パソコン、タブレット、スマートフォンなど各デバイスに適した配信用の動画データに自動的に変換されます。授業用の動画を事前に登録しておき、授業の構成を作成する際に、この機能で変換された動画データを動画教材に指定することで、学生が利用している端末に適した動画配信が行われ、スムーズな学習を提供することができます。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[運用管理]－[動画管理]をクリックします。
②「動画管理」画面が表示されます。

「動画管理」画面の表示項目

「動画管理」画面には、授業で使用する動画データの情報が表示され、一元管理することができます。

5-8-2 新規アップロード

動画データの新規アップロード

新規作成では、授業で使用する動画をあらかじめ登録します。

登録可能な拡張子を参考に、適切な動画を選択してください。

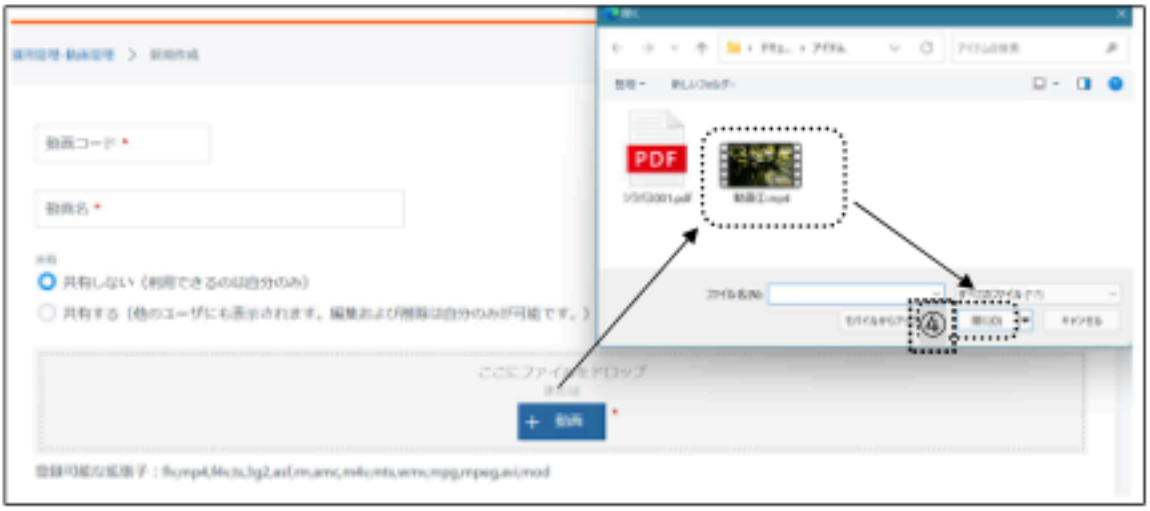
① [新規作成]ボタンをクリックします。

② 必須項目（動画コード、動画名）を入力します。

③ [+動画]ボタンをクリックします。

設定項目名	説明
動画コード（必須）	動画データを識別するための一意のコードを入力します。 （英数字 20 文字以内）
動画名（必須）	動画のタイトルを入力します。
共有	[共有する]を選択すると、他のユーザ（教職員）と共有されます。ただし、編集や削除はアップロードしたユーザのみが行えます。
動画ファイル（必須）	動画ファイル形式を指定します。 flv,mp4,f4v,ts,3g2,asf,rm,amc,m4v,mts,wmv,mpg,mpeg,avi,mod
字幕ファイル	動画の原稿を設定します。
備考	必要に応じて備考を入力します。

④ アップロードする動画ファイルを選択します。



⑤ 選択した動画ファイルのアップロードが開始されます。

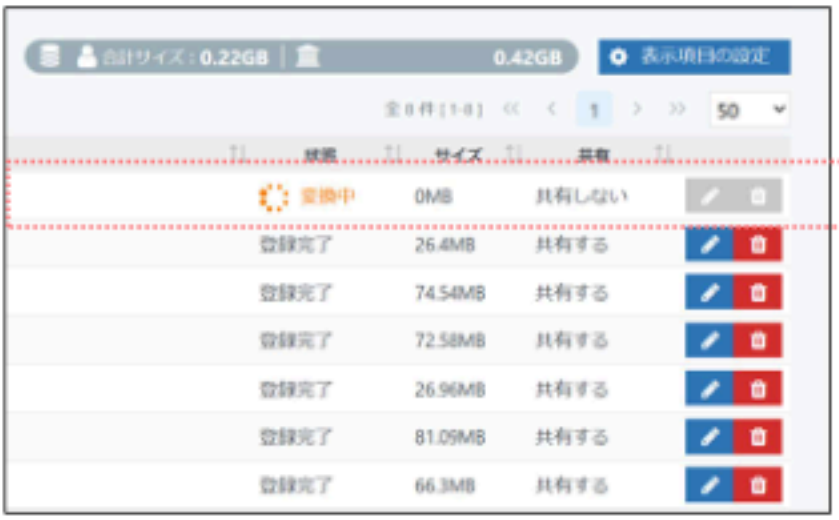
インジケータが 100%になったら次のステップに進むことができます。

⑥ [登録]ボタンをクリックします。

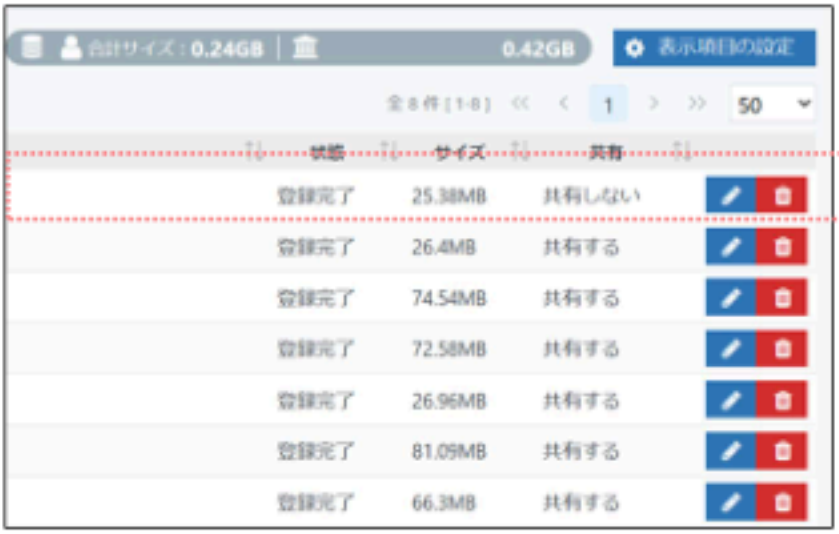
⑦「動画を利用できる形に変換します」のメッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面に戻ります。

⑧一覧画面でアップロードした動画の［状態］が「変換中」から「登録完了」に変われば、登録完了です。

変換中



登録完了



メモ

動画の変換は即時行われますが、変換処理は動画ファイルのデータサイズにより時間がかかる場合があります。

動画アップロード後、処理が正常に完了すると、「動画一覧」画面の［状態］が［登録完了］に変わります。

［状態］が［登録失敗］と表示される場合、正常に処理が完了していません。

時間をおいて再度登録してください。

5-8-3 字幕ファイルのアップロード

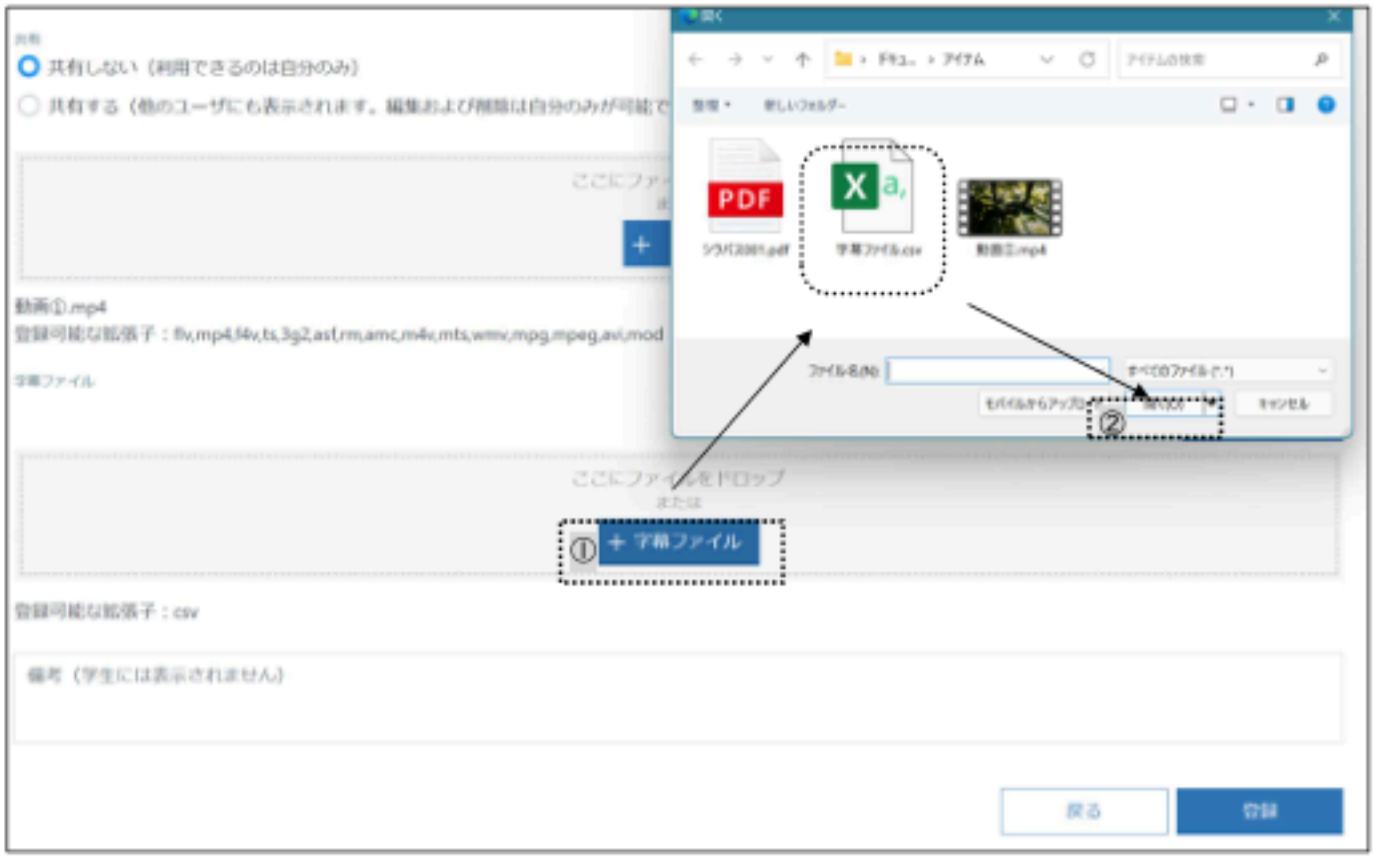
字幕ファイルの新規アップロード

授業で使用する動画にあらかじめ字幕ファイルを登録することができます。

① 編集画面で[字幕ファイル]ボタンをクリックします。

② アップロードする字幕ファイルを選択します。

③ [登録]ボタンをクリックします。



メモ

字幕ファイルは[ダウンロード]から CSV ファイルをダウンロードし、「時間」に動画の時間を入力し、「テキスト」に動画の時間に応じた内容を入力してください。

時間	テキスト
0:00:00	こんにちは、経済学入門の講義へようこそ。今日は需要と供給について学びます。
0:00:15	まず、需要とは何かを考えてみましょう。需要とは、消費者が特定の商品やサービスを購入したいという欲求です。
0:00:35	一方、供給とは、生産者が商品やサービスを提供することを指します。
0:00:54	では、需要と供給が市場でどのように相互作用するのかを見ていきます。
0:01:10	このグラフをご覧ください。横軸が数量、縦軸が価格を表しています。
0:01:23	青い曲線が需要曲線、赤い曲線が供給曲線です。これらの交点が市場の均衡点を示します。
0:01:36	市場の均衡点では、需要と供給が一致し、商品が適正な価格で取引されます。

5-8-4 アップロードした動画の編集・削除

動画情報の変更

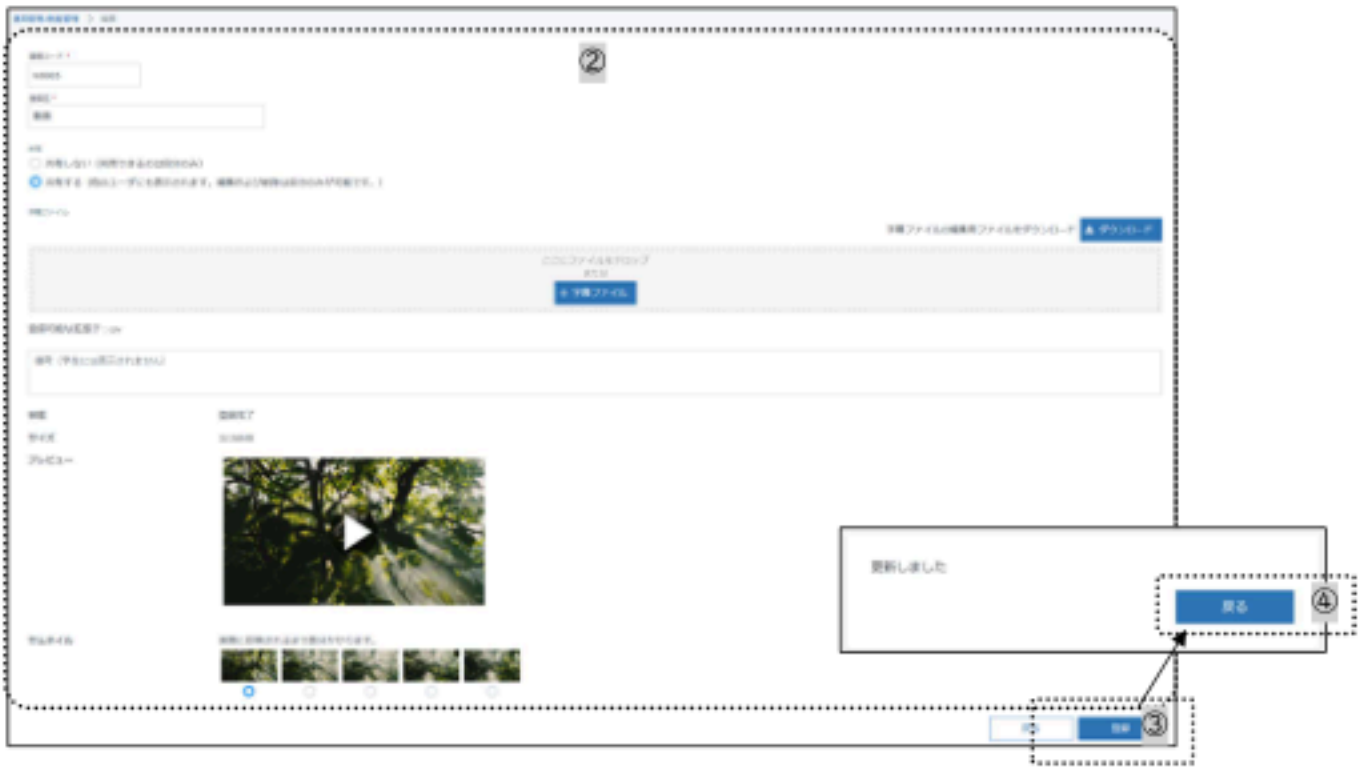
動画情報の変更は、動画データを差替えることなく行うことができます。

① 動画情報を変更したい動画の[編集]ボタンをクリックします。

② 必要な内容を変更します。

③ [登録]ボタンをクリックして変更を適用します。

④ [戻る]ボタンをクリックすると、動画管理の一覧に戻ります。



メモ

動画のサムネイルは５枚自動生成され、編集時に選択することができます。サムネイルは、学生の画面の科目パネルに表示されます。

動画の削除

不要になった動画は、システムから削除することができます。

① 削除したい動画の［削除］ボタンをクリックします。

② 確認メッセージが表示されたら、［削除］ボタンをクリックします。

③ ［閉じる］ボタンをクリックすると、動画管理の一覧に戻ります。

④ 動画が「動画管理」画面から削除されます。

削除しようとする動画がアイテムとして使用されている場合は、右上にアラートが表示され、削除できません。

5-9 操作履歴管理

5-9-1 機能と画面遷移

操作履歴管理機能では、ユーザの活動履歴を記録し、確認することができます。
この機能は、ログイン時や各種機能へのアクセス、アイテムの提出を行った時などを記録し、その操作を行った時に利用していた端末と OS、ブラウザの種類を特定し、ユーザの利用状況の追跡ができます。
これにより、不正アクセスや誤操作のプロセスを確認することができます。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［運用管理］－［操作履歴管理］をクリックします。
② 「操作履歴管理」の一覧画面が表示されます。

5-9-2 記録している操作の種類

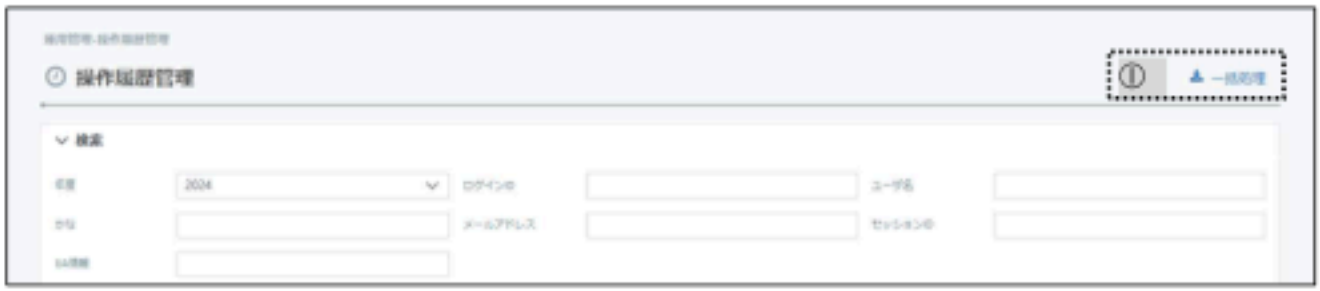
操作履歴管理では、ユーザの操作ごとに以下の情報が記録されます。

項目名	説明
機能名	ユーザがアクセスまたは操作を行った機能名です。この情報は、どの機能がどの程度使用されているかを把握するのに役立ちます。
画面 URL	ユーザが訪れた、または操作を行った具体的なシステム内のアドレスです。これにより、どの画面が利用されているか、または操作が行われた場所を特定できます。
ボタン名	ユーザがクリックまたは操作したボタンの名前です。機能へのアクセスが行われた場合、「機能遷移」として記録されます。この情報は、ユーザの操作パターンやシステム内での動線を理解するのに役立ちます。
UA（ユーザエージェント）情報	ユーザがシステムにアクセスする際に使用しているブラウザやオペレーティングシステムなどの情報です。この情報は、システムの互換性や利用者のデバイスの種類を把握するのに役立ちます。
詳細 1～5	特定の操作に関連する追加情報を記録します。例えば、授業トップにアクセスした場合は授業名が記録され、アイテムの実行時にはアイテム名の記録など、機能内のどの情報へアクセスしたか特定するための情報を記録します。
操作日時	操作が行われた具体的な日時です。これにより、特定の操作がいつ行われたかを正確に把握することができ、操作の時間的な流れを追跡するのに役立ちます。

5-9-3 操作履歴のエクスポート

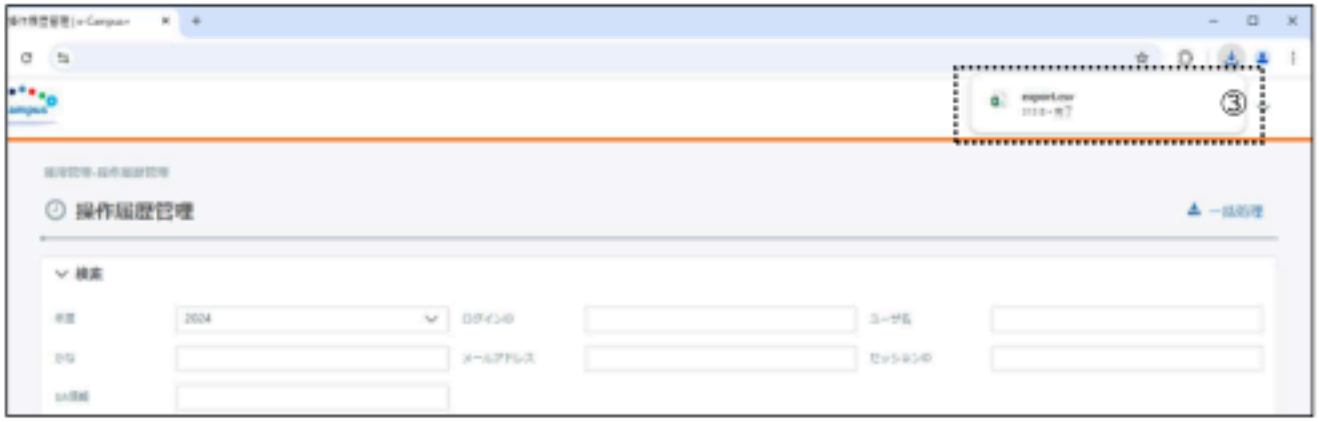
操作履歴は CSV 形式でエクスポートすることができます。これにより、履歴の詳細な分析が可能になります。

① [一括処理] をクリックします。



② 一括処理ダイアログが表示されるので、[エクスポート] ボタンをクリックします。

③ CSV ファイルがダウンロードされます。



メモ

上図は chrome ブラウザの場合です。お使いの環境により、ダウンロード結果の表示は異なります。

5-10 学生情報

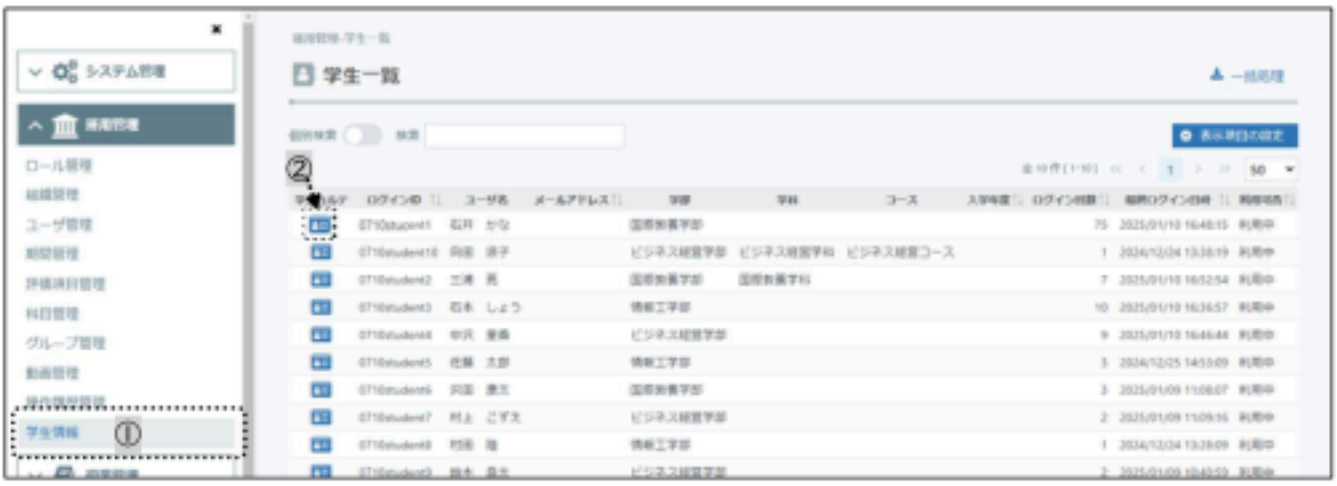
5-10-1 機能と画面遷移

「学生情報」画面では、学生カルテを通じて履修情報、成績、進捗状況など、学生個人の詳細な情報を閲覧することができます。この機能では、担当する教員や TA、または職員など閲覧者の役割に応じた情報が提供されます。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［運用管理］-［学生情報］をクリックします。

② 「学生一覧」画面で、学生カルテを表示するユーザ名の左にある［学生カルテ］アイコンをクリックします。



③ 学生カルテが新しいタブまたはウィンドウで開きます。

④ 画面下部にある［閉じる］ボタンをクリック、またはタブ・ウィンドウを閉じることで学生カルテを閉じることができます。

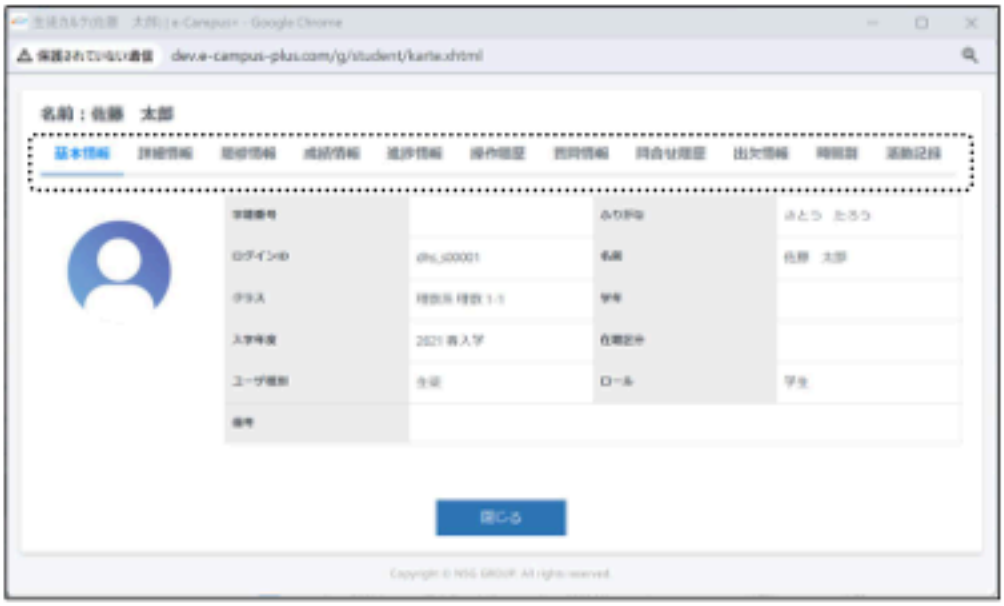
メモ

ブラウザの設定により、カルテが新しいタブまたは新しいウィンドウで開きます。

5-10-2 学生カルテ

学生カルテでは、個々の学生に関連する各種情報がタブで整理されています。

これにより学生の履修状況、成績、進捗情報などが確認できます。

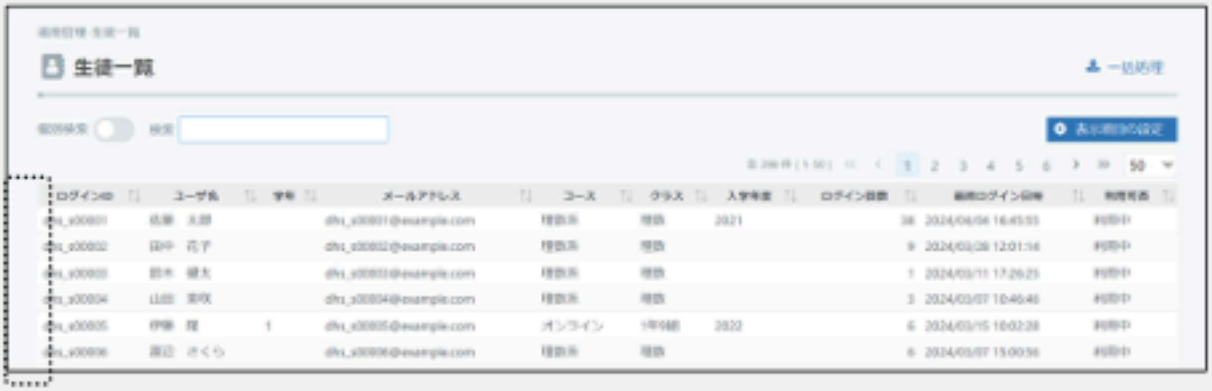


メモ

・学生カルテはユーザ種別、ロールによって閲覧できる情報が異なります。

・学生カルテは、ナビゲーションバーの[運用管理]-[学生情報]以外にも[学生カルテ]アイコンが表示されていれば、どの機能の画面からでもアクセスすることができます。

・[学生カルテ]アイコンは[表示項目の設定]により、非表示になっている場合があります。
その場合、「3-3-1 一覧表示」④の操作により、[学生カルテ]アイコンを表示させることができます。



学生カルテの各タブの情報

基本情報

学生の名前やログインIDなどの基本情報を表示します。

詳細情報

生年月日や住所、保護者情報などの詳細情報を表示します。

履修情報

学生の履修申請状況などの履修状況を表示します。
（機能を利用中の学校のみ表示）

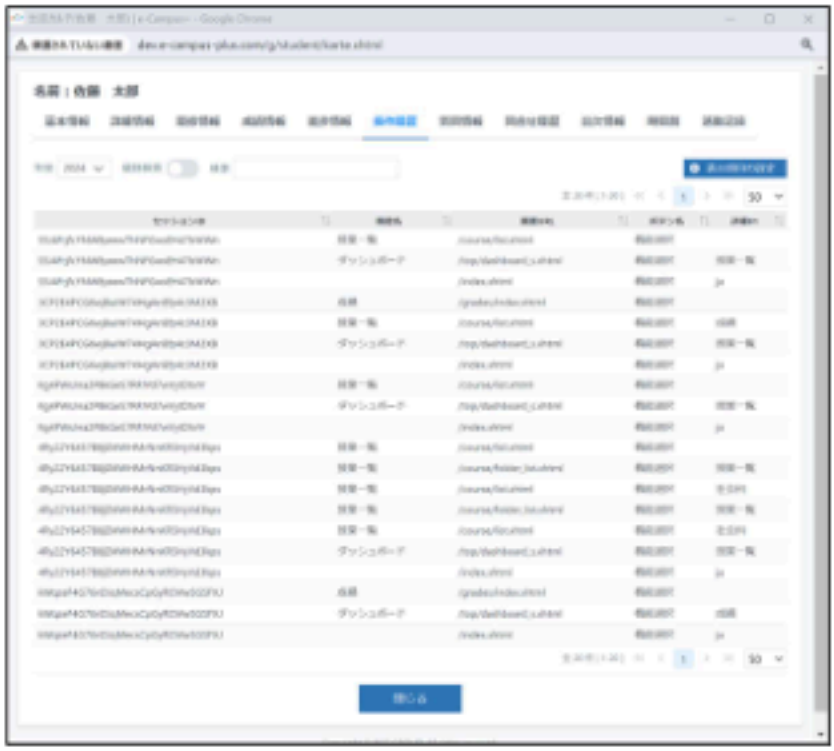
成績情報

学生の成績判定結果を表示します。
（機能を利用中の学校のみ表示）

進捗情報

学生の学習進捗状況を表示します。

操作履歴



学生のシステム利用記録を表示します。

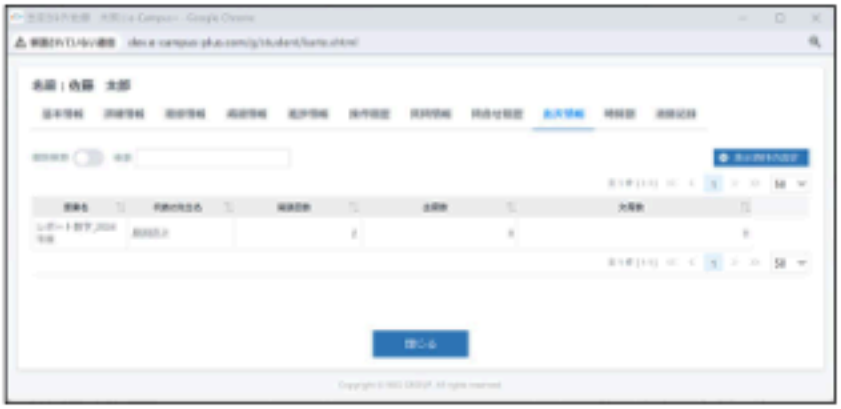
質問情報

学生からの質問の記録を表示します。

問合せ履歴

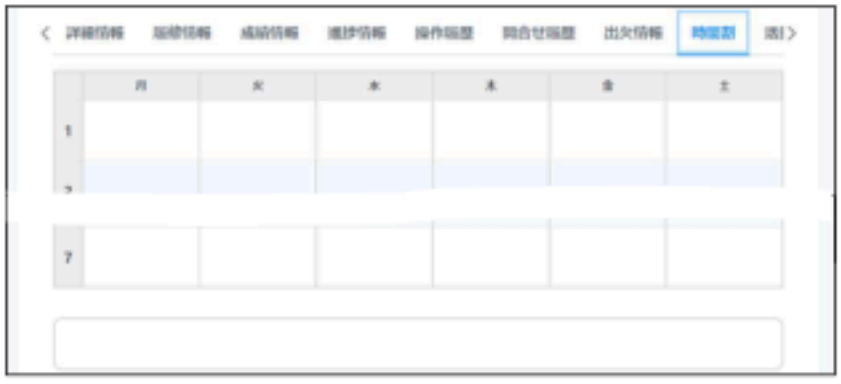
学生からの問合せ･質問の応対記録を表示します。
（機能を利用中の学校のみ表示）

出欠情報



授業の出席･欠席の記録を表示します。
（機能を利用中の学校のみ表示）

時間割



学生の時間割情報を表示します。
（機能を利用中の学校のみ表示）

活動記録

教員・職員が入力する、面談記録や学生の活動情報を表示します。
活動記録は学生カルテで唯一、入力できるタブです。
面談やサークル活動などの記録を入力することで、教員間で活動内容を共有することができます。

⚠ 活動履歴を記入している最中に、タブまたはウィンドウを閉じる操作を行うと、記入中の内容が記録されないままウィンドウが閉じられてしまうため注意してください。

6. 授業管理

本章では授業の構成の設定、教員や履修対象者の設定の方法と、担当授業にアクセスし、授業の詳細確認について説明いたします。ここからの機能は、ユーザに設定されたロールの権限によって使用できる画面が変わります。

6-1 構成管理

6-1-1 機能と画面遷移

構成管理は、授業の新規作成、各種条件の指定、担当教員や履修対象者の設定など、授業に関する要素を管理します。

機能への遷移方法

授業の構成を確認する画面への遷移方法は 2 通りあります。ロールで設定した権限によって、使用できる機能が異なります。

① ナビゲーションバーから［授業管理］－［構成管理］をクリックします。

②「構成管理」画面が表示されます。

メモ

・「構成管理」画面と「担当授業」画面では以下の違いがあります。

「構成管理」画面： 授業の新規追加と、システム内の授業すべての編集・削除が可能

「担当授業」画面： 自身が担当している授業のみ編集が可能

・「担当授業」画面には、教員トップページの「担当授業」画面からも遷移することができます。

メモ

今後、グループワーク機能を搭載予定です。

グループワークは、教員が任意のグループを作成し、学生はグループ内でチャット、成果物の提出、ファイルの URL を共有した共同作業や、相互評価（グループ間、グループ内の評価）をすることができます。教員からもグループの状況を確認でき、評価を実施することができます。オンライン上で学生同士がチームで協力して学習に取り組むことをサポートする機能で、チームワークスキルが養われます。

6-1-2 授業情報の登録

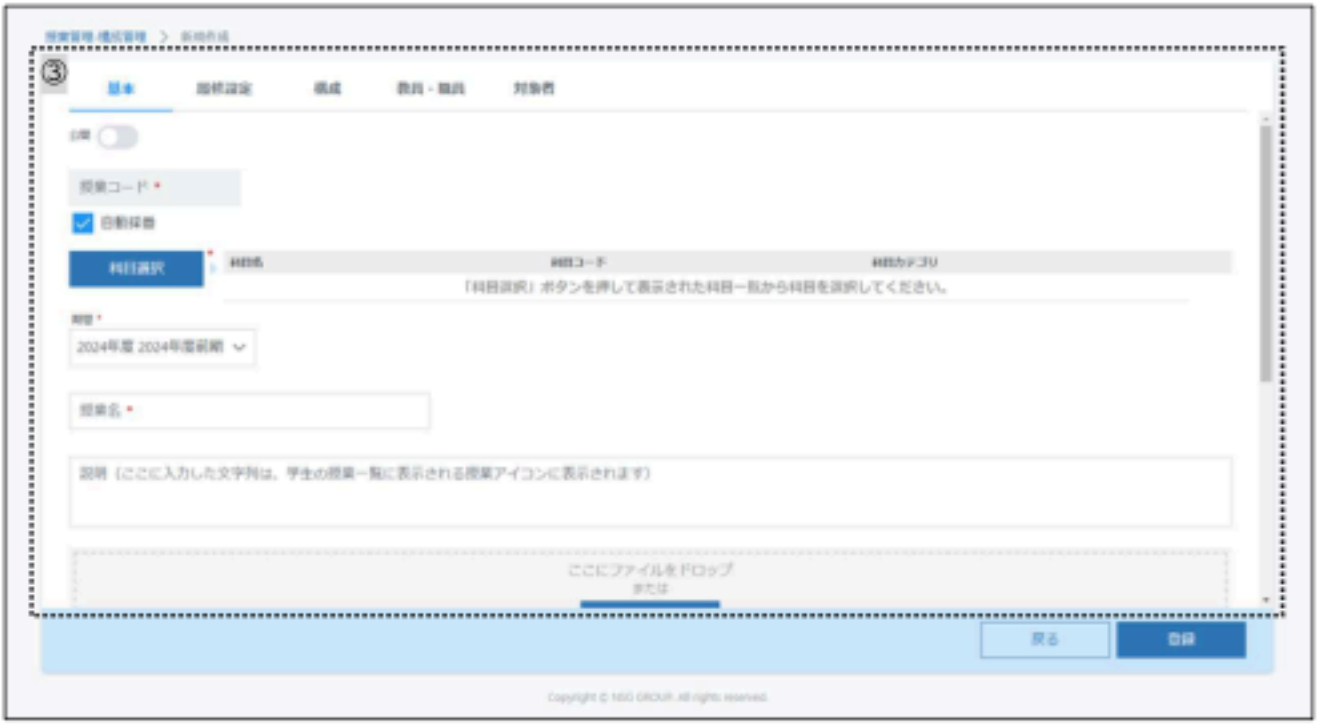
授業を新しく作成する方法を説明します。

授業の新規作成

① ナビゲーションバーから[授業管理] ー[構成管理]をクリックします。

② [新規作成]ボタンをクリックします。

③ 編集画面が表示されます。



構成管理機能では、以下のタブごとに様々な設定を行うことができます。

[基本]タブ:

授業の基本的な情報を設定します。授業名、期間、修了条件などを設定できます。

[履修設定]タブ:

どの学科・コースが履修申請できるのか、また学科・コースごとの履修区分を設定します。

[構成]タブ:

授業を構成する授業回フォルダや教材コンテンツ（アイテム）の配置と設定を行います。

これにより、授業の流れや内容の整理、提供方法を具体的に定めることができます。

[教員・職員]タブ:

授業を担当する教員を指定します。設定された教員は、授業の運用を行うことができます。

また、代表の教員もここで設定します。

[対象者]タブ:

受講する対象者を設定します。

メモ

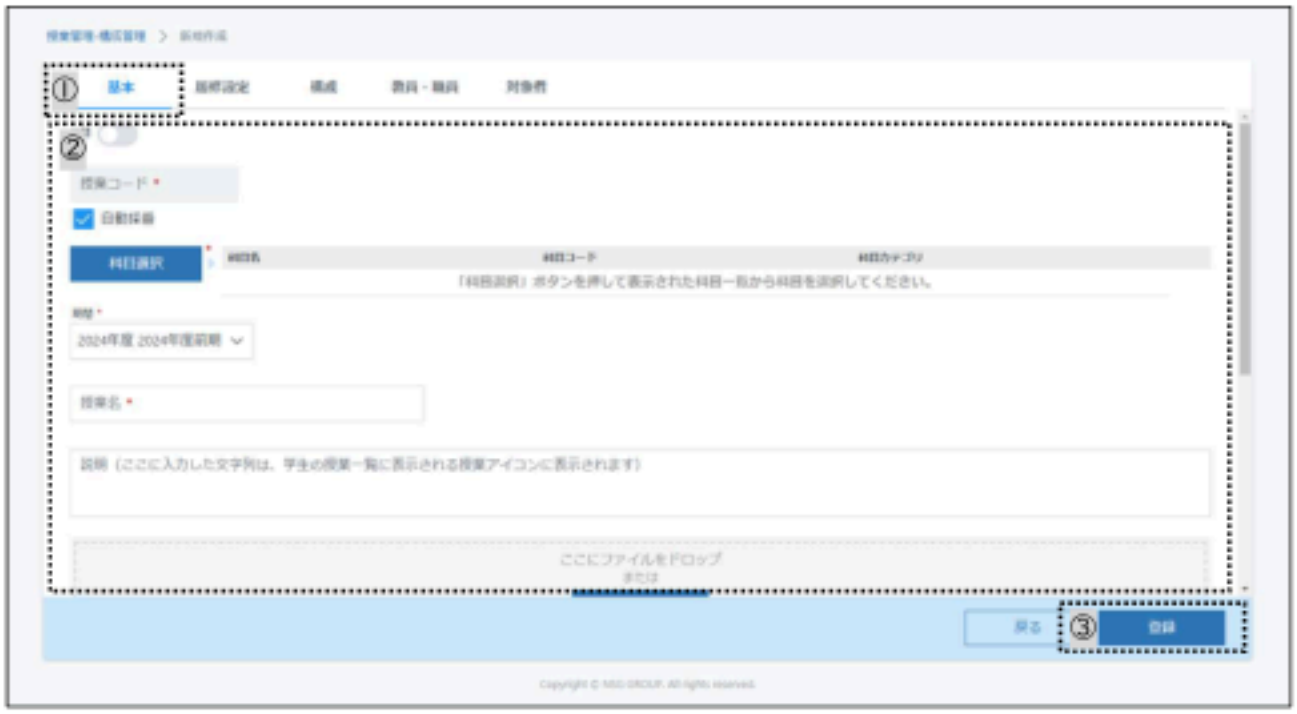
各タブの設定は「6-1-3 授業の基本情報の登録」以降で説明します。

6-1-3 授業の基本情報の登録

① [基本]タブをクリックします。

② 授業の基本情報を登録します。

③ この時点で登録が必要であれば、ページ下部に表示されている[登録]ボタンをクリックし、編集内容を登録します。

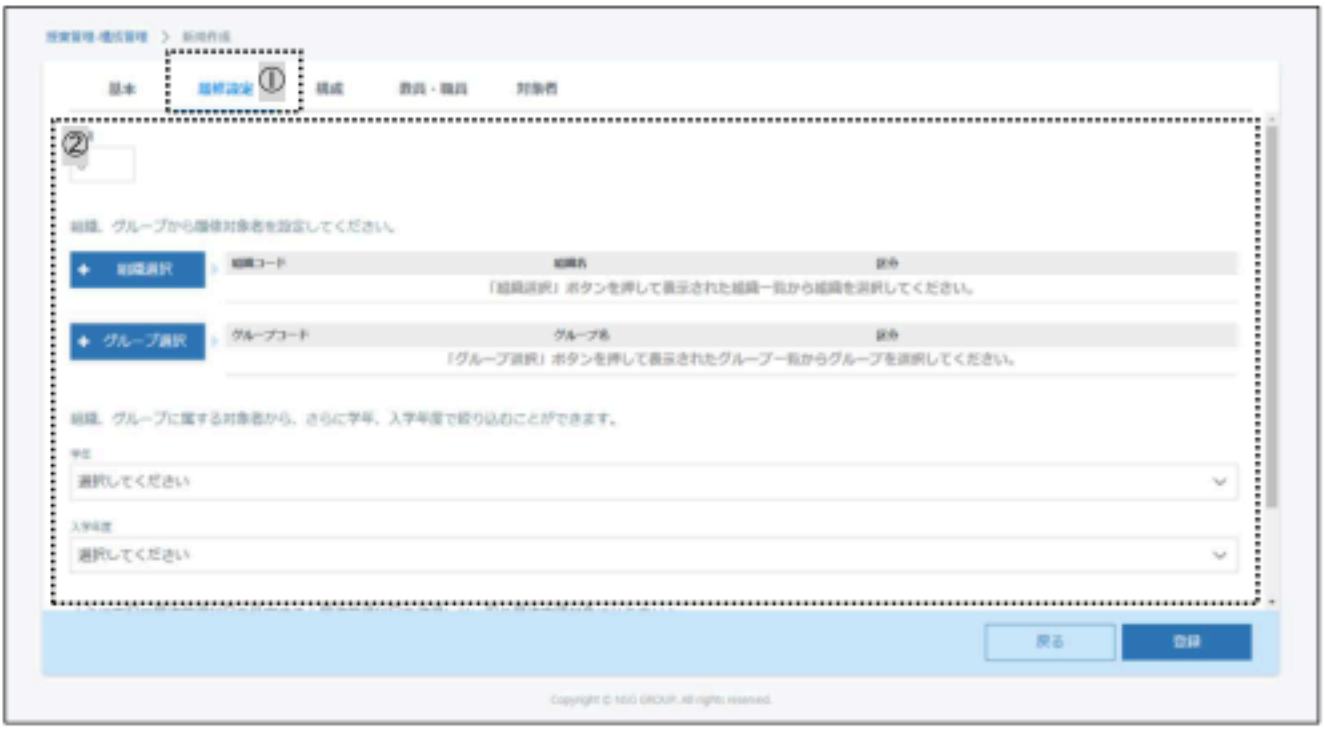


設定項目名	説明
公開	授業の公開状態を選択します。
授業コード（必須）	授業を特定するための一意のコードを入力します。[自動採番]チェックボックスがオンの場合は自動採番されます。 （英数字 20 文字以内）
自動採番	授業コードを自動採番する場合はチェックボックスをオンにします。
科目選択（必須）	授業に対する科目を指定します。 選択画面では、「科目管理」画面で登録したものが表示されます。
期間（必須）	授業の期間管理で作成した期間を指定します。
授業名（必須）	授業の名称を設定します。選択した科目名が初期値で設定されます。 設定した内容が学生の授業トップ画面に表示されます。
説明	授業の内容や目的の概要を記載します。 入力した場合、学生用の授業トップ画面に表示されます。
サムネイル画像	授業一覧に表示される画像を指定します。
曜日・時限	時間割に表示される開講曜日と時間を設定します。
修了条件（必須）	授業の修了条件を設定します。 （進捗率と連動している設定が可能）
修了証を表示する	授業修了後に、成績参照画面で学生が修了証をダウンロード可能とする場合はチェックをオンにします。

6-1-4 履修設定の登録

① [履修設定]タブをクリックします。

② 履修情報を登録します。



設定項目名	説明
定員	定員を入力します。
組織	履修対象者を組織、グループから選択します。
学年	組織、グループに属する対象者から、さらに学年で履修対象者を絞り込むことができます。
入学年度	組織、グループに属する対象者から、さらに入学年度で履修対象者を絞り込むことができます。
履修前提科目	履修前提科目を設定することができます。履修前提科目を修得しない限り履修申請対象になりません。

メモ

ここで設定した対象組織、グループの学生は、ナビゲーションバーの［履修管理］－［履修申請］をクリックすると表示される「履修科目一覧」画面から履修申請を行うことができます。

6-1-5 授業の構成の登録

① [構成]タブをクリックします。

② [ ]アイコンをクリックします。

(a) フォルダー一覧

フォルダは例えば、授業の第 1 回、第 2 回ごとのセッションなど、授業内容のグループとしてアイテムを格納します。

(b) アイテム一覧

アイテムは、動画、レポート、テスト、アンケートなどの教材コンテンツです。左側のフォルダー一覧から選択したフォルダ内に格納されたアイテムが表示されます。フォルダ内の全アイテムが非公開設定の場合、そのフォルダ自体も非表示となります。
[ ] [ ] でアイテムを並び替えできます。

③ [編集]ボタンをクリックします。

④「フォルダ編集」画面で編集し[登録]ボタンをクリックします。

実施可能期間

初期値は、授業の［基本］タブで設定した［期間］に準じた開始日時と終了日時になります。

実施可能期間を超えると学生側には表示されなくなります。

実施可能条件

実施可能条件はフォルダの教材コンテンツを実施するための前提条件です。これにより、学生が特定の知識やスキルを有していることを確認した上で、新しい学習内容に進めるようになります。実施可能条件は、フォルダにのみ設定可能です。

⑤［アイテム追加］ボタンをクリックします。

⑥「アイテム追加」画面へ遷移します。ここで、任意のアイテムを登録することができます。

⑦ 以下の項目を入力します。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別	動画、テスト、レポートなどの作成するアイテムの種類を選択します。 作成した後、アイテムの変更はできません。
アイテム種別オプション	動画、テスト、レポートなどを選択した際、そのアイテムのオプション機能を選択します。
公開ステータス	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	アイテムの実施可能期間を設定します。 フォルダの実施可能期間とは異なり実施可能期間を超えても学生側には表示されますが、ボタンが非活性になり実施できなくなります。
開始前表示文	アイテムの受講前に必ず表示される文を設定します。
終了後表示文	アイテムの受講後に必ず表示される文を設定します。
添付ファイル （pdf,zip,png,pptx,jpg）	このアイテムを学習する際の参考資料や補足資料を設定します。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

メモ

アイテム（教材コンテンツ）の登録は「6−2 教材のアイテム」を参照してください。

メモ

［評価対象］を設定すると、同じ［評価対象］ごとに、自動で成績が集計される機能を搭載予定です。

設定すると、［評価対象］が学生の「アイテム一覧」画面に表示されます。

成績認定試験

成績認定試験フォルダ

フォルダ作成時に[成績認定試験フォルダとする]チェックボックスをオンにすると、編集中のフォルダと、そのフォルダ内に設定したアイテムは、授業の試験に相当します。

試験実施時の本人確認

・成績認定試験などの際に、撮影機能を活用し本人が受験している状況を画像として保存
・テスト開始時にウェブカメラの撮影機能を用いバックグラウンドで動作
・撮影機能は 3 分または 5 分ごとに複数回撮影し、常時画像を学校側のシステムへ送信
・送信された画像は、その授業を担当している教職員が、ナビゲーションバーの[授業管理]-[進捗管理]からリアルタイムで閲覧可能

メモ
・受験者本人確認および不正行為や代理受験を防ぎ、適正な試験を実施するために今後、顔認証を搭載する予定です。
・「成績認定試験」という名称は、[システム管理]-[システム設定]の[試験の名称]によって変わります。

6-1-6 授業を担当する教員の登録

教員の追加

① [教員・職員]タブをクリックします。

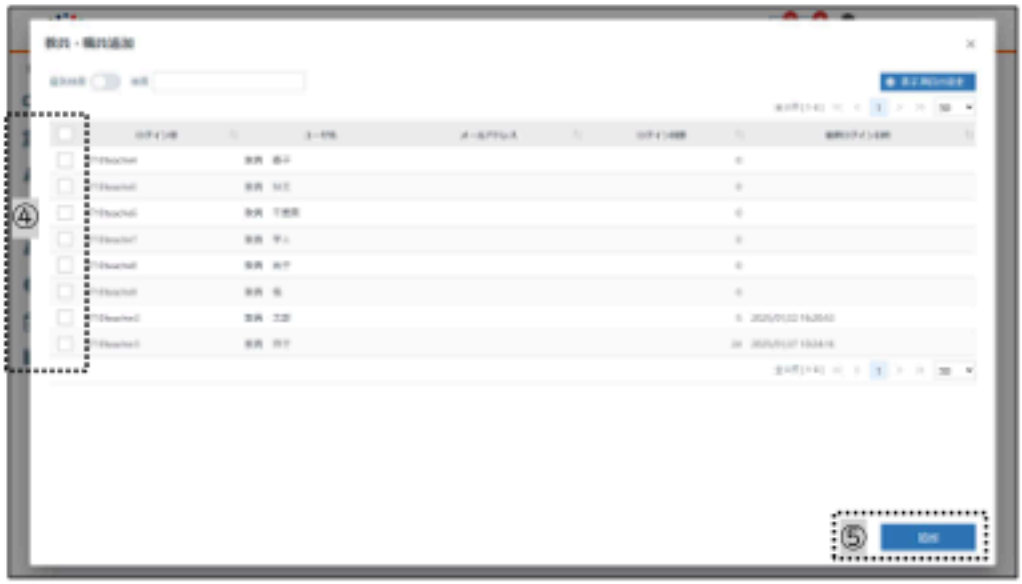
② 担当の教員が一覧で表示されます。

（教職員が設定されていない場合、「表示するデータはありません」と表示されます。）

③ [教員・職員追加]ボタンをクリックします。

④ 表示された[教員・職員追加]ダイアログで担当の教職員を選択します。

⑤ [追加]ボタンをクリックして[教員・職員]タブに戻ります。



メモ

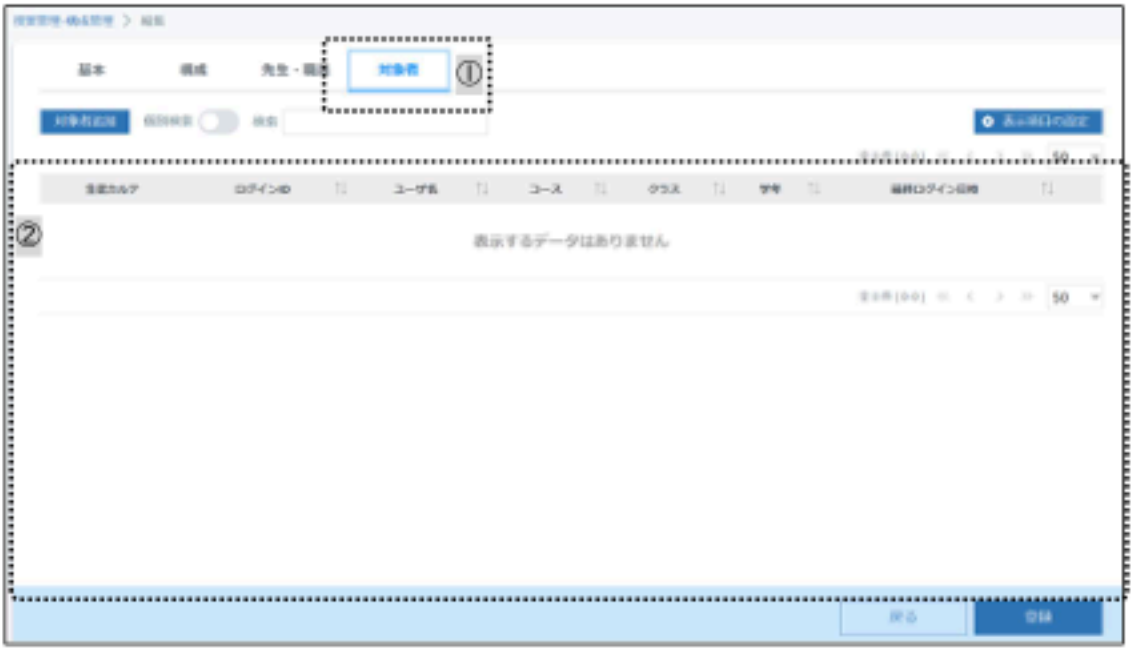
担当教員が設定から外れると、その教員は授業管理やその授業を履修している学生の進捗状況を閲覧することができなくなります。授業の日常運営や評価の管理にも影響が出るため、事前に確認を行った上で変更してください。

6-1-7 授業の学習者の登録

① [対象者]タブをクリックします。

② 学習の対象者が一覧で表示されます。

（学習者が設定されていない場合、「表示するデータはありません」と表示されます）

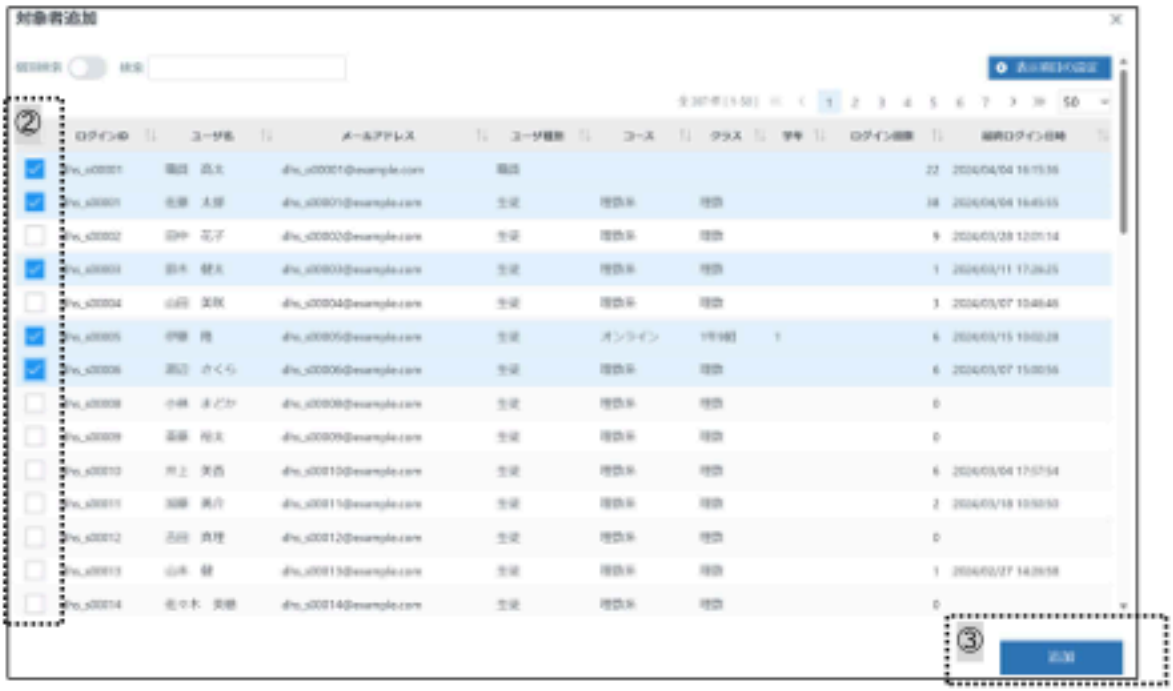


対象者の追加

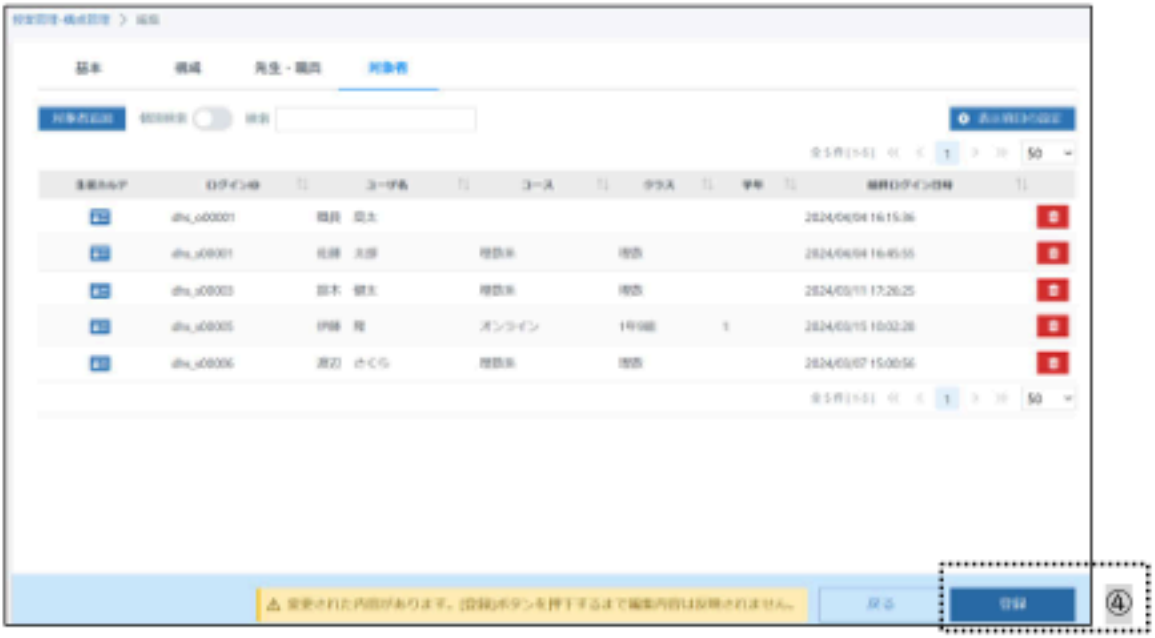
① [対象者追加]ボタンをクリックします。

② 表示された［対象者追加］ダイアログで学習の対象者を選択します。

③ ［追加］ボタンをクリックして［対象者］タブに戻ります。



④ 最後に［登録］ボタンをクリックし、授業を登録します。



⑤ 完了画面が表示されるので［戻る］ボタンをクリックします。

メモ

・授業の構成は複数のタブに分かれています。各タブで入力後、最後に［登録］ボタンをクリックすることで、保存されます。

・入力内容が各項目の指定条件を満たしていない場合、
［登録］ボタンをクリックしても画面はそのままで、条件を満たさない項目の横にエラーメッセージが表示されます。

6-1-8 授業構成の変更

既に作成された授業構成の変更や削除など、授業の管理を行うことができます。

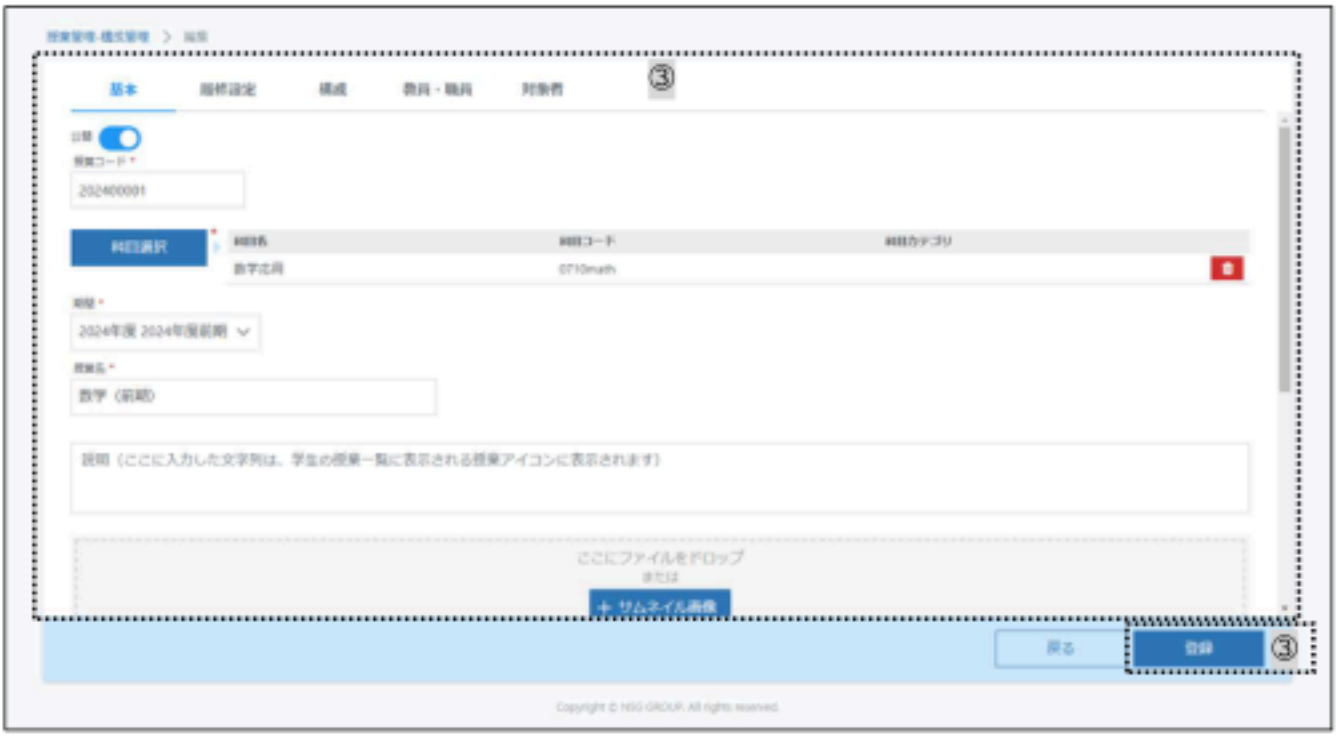
授業情報の編集

「構成管理」からの遷移

① ナビゲーションバーから[授業管理]-[構成管理]をクリックします。

② 授業情報を編集する授業の[ ]アイコン をクリックします。

③ [基本]タブが開きます。各タブの必要な項目を入力し、[登録]ボタンをクリックします。



「担当授業」からの遷移

① ナビゲーションバーから［授業運用］－［担当授業］をクリックします。

② 授業情報を編集する授業の［詳細］ボタンをクリックします。

③［授業構成］をクリックします。

④ 各タブの必要な項目を入力し、[登録]ボタンをクリックします。

授業の削除

① ナビゲーションバーから[授業管理] －[構成管理]をクリックします。

② 削除したい授業の横にある[🗑]アイコンをクリックします。

③ 確認メッセージが表示され、[削除]ボタンをクリックすると削除が完了します。

メモ

・授業を削除すると、学生の学習進捗や提出物、成績、履修などのデータは閲覧できなくなります。

授業の複製

① 複製したい授業の横にある[ ]アイコンをクリックします。

② 確認メッセージが表示され、[複製]ボタンをクリックします。

③ 完了メッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックします。

④ 複製が完了します。

メモ

・複製のあと、[ ]アイコンから内容を編集してください。

・授業の複製では［対象者］は複製されないため、新しく設定する必要があります。

6-2 教材のアイテム

本システムでは、レポート、テスト、アンケートなどのアイテムを授業の内容に合わせて配信することができます。

メモ

各アイテムは[アイテム作成]画面にある[プレビュー]ボタンをクリックすることで、学生が実施する画面表示を随時確認することができます。

6-2-1 アイテムの種類

アイテムは以下の通りです。

アイテム名	アイコン	説明
レポート (通常レポート)		学生が提出するレポートは従来の Word やテキスト入力などの提出フォーマットとなり、評価はテキストコメント、もしくはファイルに直接記入し学生へ送信するレポートです。
レポート (クラウド PDF)		学生は PDF の答案用紙などに直接記入し、提出。教員は提出された PDF に直接採点、評価コメントを記入し学生へフィードバックを行う、すべてブラウザ上で完結するレポートです。
テスト (通常,一問一答,チャレンジ:共通)		複数の設問形式を組み合わせたテストを作成し、点数や制限時間などを設けたクイズ、ミニテスト、本格的な試験まで作成できます。
アンケート		アンケートを出し、回収することができます。
動画(ファイル指定)		動画管理を利用し、システム内に登録された動画ファイルを選択して使用します。これにより、動画コンテンツを教材として直接指定できます。
動画(URL 指定)		YouTube などの外部サービスにアップロードされた動画の URL を指定して組み込みます。これにより、外部の動画コンテンツを教材として活用できます。
テキスト(PDF)		学生が開くことはできるがダウンロードはできない PDF 形式の教材です。主に読むための資料として使用でき、学生はブラウザ上で内容を確認することができます。
ディスカッション		教員が設定したテーマに沿って学生同士がディスカッションを行うことができます。ディスカッションの修了条件や実施期間を設定することができます。

メモ

アイテムは他にもライブ授業が用意されています。

メモ

今後、前提条件・免除条件設定機能を搭載予定です。
前提条件は設定した条件のアイテムやフォルダの学習を予め満たしておく必要があり、免除条件は設定した条件の学習をスキップすることができます。前提条件、免除条件を設定することにより、学生個々が適切な学習プロセスにより効率的な学習を進めることができるようになります。設定は複数の条件を組み合わせることが可能です。また、成績認定試験フォルダは、学生毎に異なる進捗度に対応できるよう、「前提条件が完了した後から１週間」など、前提条件完了日から指定した日数で終了日を設定することができます。

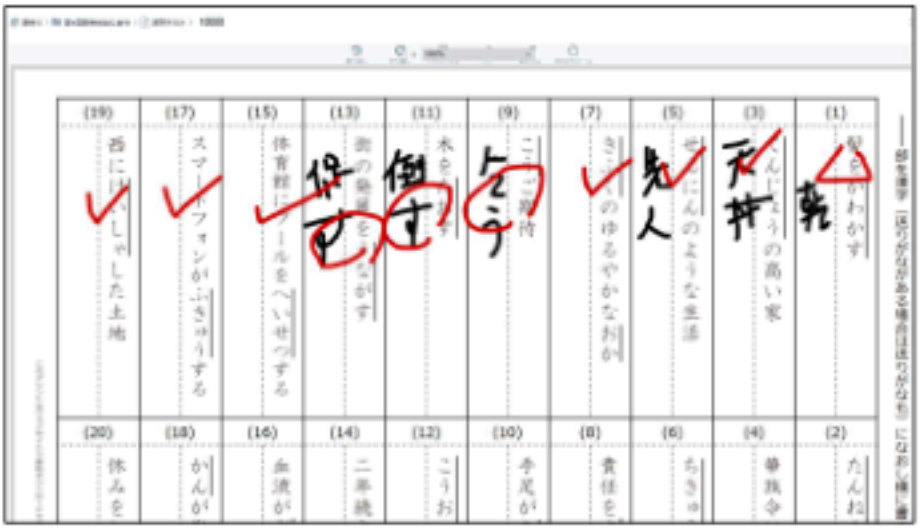
6-2-2 レポート（通常/クラウド PDF）

通常レポート

授業で指定された形式のファイルを学生がアップロードし、教員はその内容を確認して、評価やコメントを学生へ送信することができます。

クラウド PDF

手書き PDF をアップロードして採点します。



メモ

レポートの採点や評価の方法は、「6−3−3 アイテム別の確認方法」を参照してください。

設定手順

①「アイテム作成」画面を開きます。

「6−1−5 授業の構成の登録」を参照してください。

②以下を入力します。

③[詳細設定]ボタンをクリックします。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別（必須）	「レポート」を選択します。
アイテム種別オプション	「通常レポート」もしくは、「クラウド PDF」を選択します。
公開ステータス（必須）	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	任意でアイテムの実施可能期間を設定します。
開始前表示文	レポートの受講前に必ず表示される文を設定します。
終了後表示文	レポートの受講後に必ず表示される文を設定します。
添付ファイル （pdf,zip,png,pptx,jpg） （クラウド PDF の場合必須）	レポート実施時に学生へ配布する資料を設定します。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

メモ

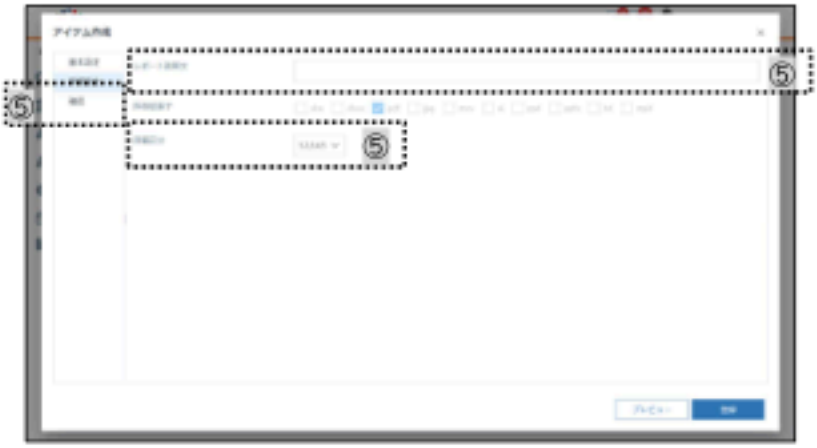
設定した[評価対象]は、学生のテスト画面に表示されます。

④（通常レポートの場合）「レポート説明文」を入力し、学生がアップロード提出を許可する「許容拡張子」を選択します。
このレポートを評価する評価区分を設定し、左メニューの[確認]をクリックします。

メモ

5 段階評価の「1, 2, 3, 4, 5」、「可、不可」「A、B、C」などの成績評価区分は、あらかじめ登録されています。

⑤（クラウド PDF の場合）「レポート説明文」とレポートを評価する「評価区分」を設定し、左メニューの[確認]をクリックします。



⑥確認画面で[登録]ボタンをクリックします。

⑦元の画面でアイテムが追加されたことを確認してください。

6-2-3 テスト（通常テスト/一問一答/チャレンジ）

学習の理解度を測るためのテストアイテムは以下の 3 種類です。

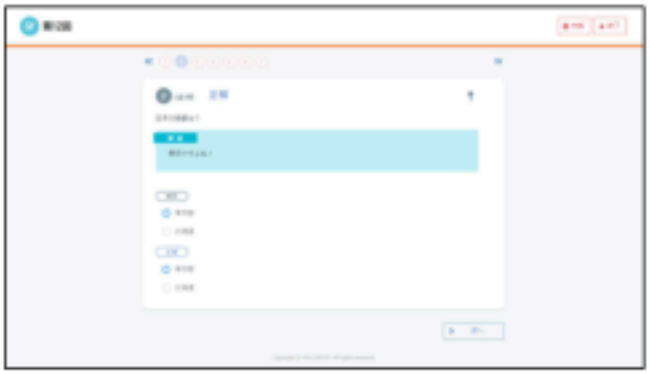
通常テスト

「通常テスト」は、全問回答後に一括採点するテスト形式です。

一問一答

「一問一答」は、問題ごとに即時採点するテスト形式です。

1 問ごとに振り返りをすることができます。



チャレンジ

「チャレンジ」は、テストに登録した問題のうち、不正解となった問題のみを出題する形式です。

不正解となった問題に集中して取り組むことができるため、効率よく苦手問題の克服につなげることができます。

設定手順

①「アイテム追加」画面を開きます。

「6－1－5 授業の構成の登録」を参照してください。

②以下を入力します。

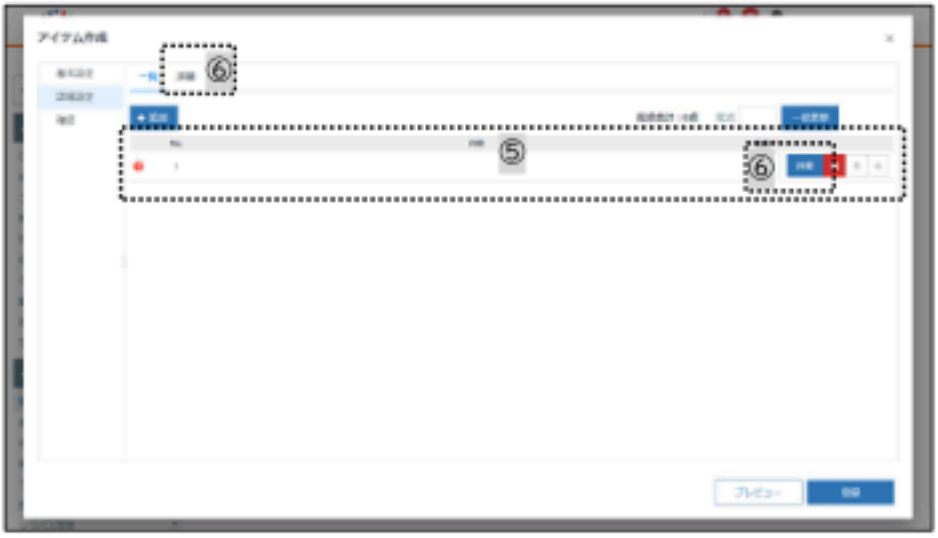
③[詳細設定]をクリックします。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。自動採番で初期値が表示されています。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別（必須）	「テスト」を選択します。通常テスト／一問一答／チャレンジを選択します。
公開ステータス（必須）	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	任意のアイテムの実施可能期間を設定します。
開始前表示文	テストの受講前に必ず表示される文を設定します。
添付ファイル （pdf,zip,png,pptx,jpg）	テストに使用するファイルを添付してください。 この添付資料は、学生がテストを開始する前にダウンロードできます。
合格基準（必須）	0 点から 100 点まで、柔軟に合格ラインを設定し、各テストの難易度と学生の達成基準を設定できます。
制限時間	制限時間を設定することができます。制限時間を設定していない場合は 0 を設定します。
受講者への表示	採点後の画面に、問題に対する正解や、正誤、合否、点数、解説を表示させるかを選択します。
実施可能回数	学生がテストを実施できる回数を設定します。 0 を設定すると、無制限にテストを受けることができます。
再実施	テストが不合格の場合に、再実施できるまでの待機時間です。 0 時間から 24 時間まで設定できます。
Web カメラを使用する	テスト実施中、受講者のカメラ映像を取得する場合にチェックをつけます。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

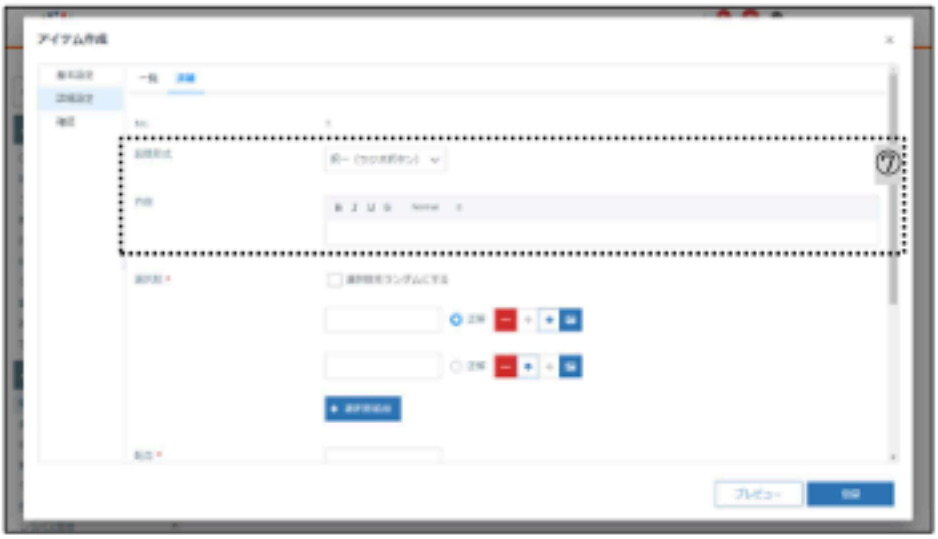
④ [+追加]ボタンをクリックし、設問を新規作成します。

⑤ 新規行が作成されます。

⑥ [詳細]タブや[詳細]ボタンをクリックします。



⑦ [設問形式]を選択し、問題文を[内容]に入力します。



出題順序をランダムにする

同一テストの出題順序を変えます。出題順序はユーザによって異なります。

設問形式

択一、複数選択、記述、穴埋めなど、多様な設問形式でテストを作成することができます。

- 択一（ラジオボタン）：選択肢から一つだけ選択可能な設問形式です。
- 択一（プルダウン）：ドロップダウンリストから一つの答えを選択します。選択肢が多い場合に適しています。
- 択一（正誤）：正しいか誤りかを選択させる設問形式です。
- 複数選択: 複数の選択肢の中から、一つ以上を選択する設問形式です。
- 単一行自由記述:一行で回答を記入します。具体的なキーワードや短文回答に適しています。
- 穴埋め（選択）: 選択肢から正しい答えを選び、文章中の空欄を埋める設問形式です。
- 穴埋め（記述）: 文章中の空欄を自由記述で埋める設問形式です。

選択肢をランダムにする

選択肢の表示順をランダムにします。表示順はユーザによって異なります。

メモ

・選択肢には必要に応じて画像を設定することができます。

・［ファイル］や［リンク］は問題ごとに設定でき、学生のテスト画面で確認することができます。

⑧ 左メニューの[確認]をクリックします。

⑨「確認」画面が表示されるので、[登録]ボタンをクリックします。

6-2-4 アンケート

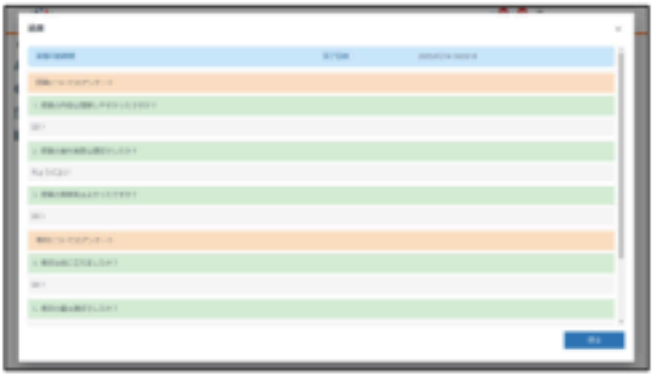
授業内で利用できるアンケートです。
授業の理解度や感想など意見調査用のアンケートを設定することができます。

アンケートの画面構成と主要な操作

<学生画面>

<学生側の回答確認画面>

（[回答者への公開]を[しない]場合）



（[回答者への公開]を[する]場合）

設定手順

①「アイテム追加」画面を開きます。

「6−1−5 授業の構成の登録」を参照してください。

②以下を入力します。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。自動採番のコードが初期表示されます。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別（必須）	「アンケート」を選択します。
公開ステータス（必須）	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	任意のアイテムの実施可能期間を設定します。
開始前表示文	アンケートの受講前に必ず表示される文を設定します。
終了後表示文	アンケート終了後に表示される文を設定します。
添付ファイル （pdf,zip,png,pptx,jpg）	アンケートに使用するファイルを添付してください。 この添付資料は、学生がアンケートを開始する前にダウンロードできます。
実施可能回数	アンケートに回答できる回数の制限を設定します。
回答後の編集	アンケート回答後に回答の編集を許可するかどうかを設定します。 「許可する」を設定すると、回答者が一度提出した回答内容を何回でも編集することができます。
回答者への公開	全員の回答を回答者へ公開するかどうかを設定します。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

③左メニューの[詳細設定]をクリックします。

メモ

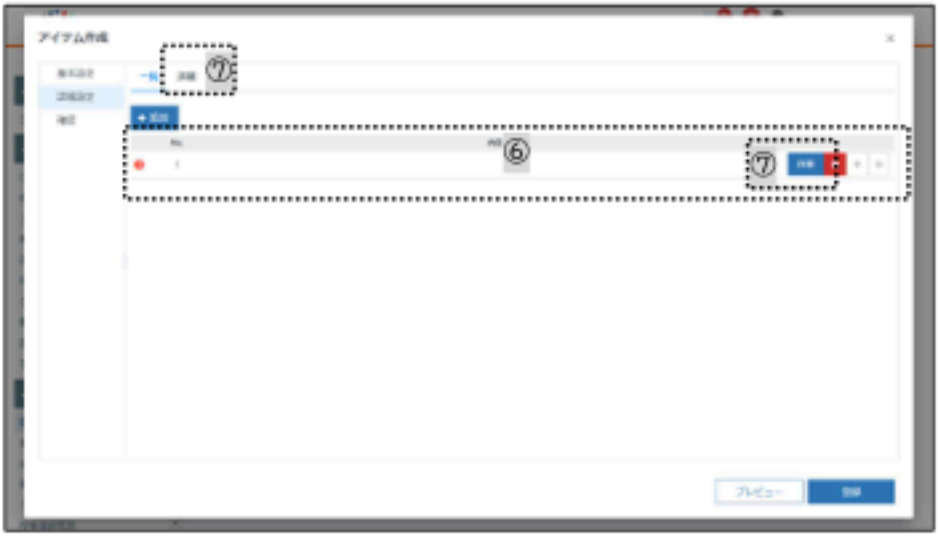
・アンケート集計結果の確認は「6−3−3 アイテム別の確認方法」を参照してください。

④ アンケートの設問作成する「アイテム作成」画面が開きます。

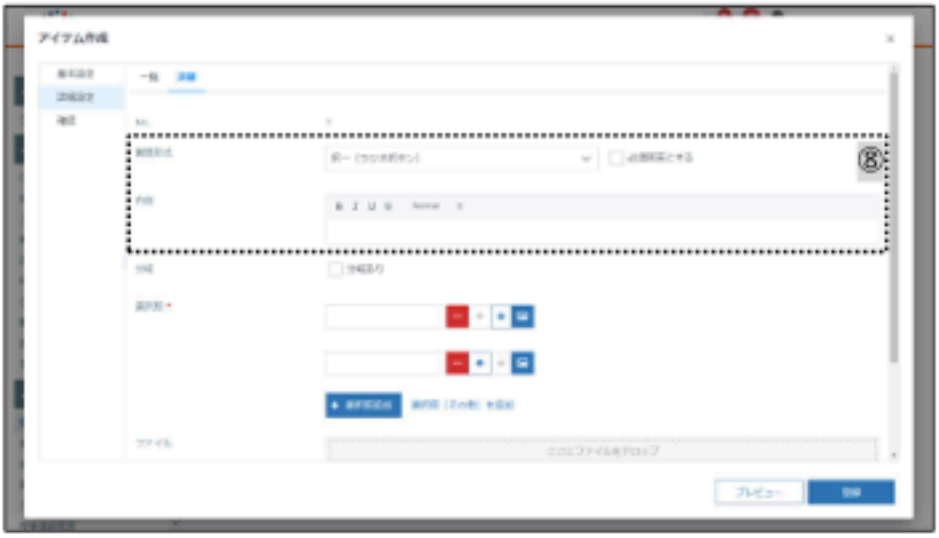
⑤ [＋追加]ボタンをクリックし、設問を新規作成します。

⑥新規行が作成されます。

⑦[詳細]タブや[詳細]ボタンをクリックします。



⑧［設問形式］を選択し、質問文を［内容］に入力します。



質問形式

- 択一（ラジオボタン）：選択肢から一つだけ選択可能な設問形式です。
- 択一（プルダウン）：ドロップダウンリストから一つの答えを選択します。選択肢が多い場合に適しています。
- 択一（評価）：一定の基準や尺度に基づき、評価を一つ選択する質問形式です。
- 複数選択: 複数の選択肢の中から、一つ以上を選択する設問形式です。
- 自由記述: テキストフィールドに回答を記入できます。学生が自由に意見や感想を記述する質問形式です。
- 説明のみ: 文章のみ表示します。

必須回答オプション

アンケートにおいて、特定の質問を必須回答に設定することで、学生が重要な質問を見逃したり、意図的に回避したりすることなく、全ての必要な質問に対し情報を回収ができます。

分岐

［分岐あり］を設定すると、選択した選択肢によって次に表示される質問をコントロールすることができます。

［選択肢］に遷移先の質問を設定する項目が追加されます。

メモ

・選択肢は必要に応じて画像を設定することができます。

・［選択肢（その他）を追加］を使用すると、「『その他』を選択すると文字入力できる選択肢」を追加することができます。

⑨左メニューの[確認]をクリックします。

⑩「確認」画面が表示されるので、[登録]ボタンをクリックします。

6-2-5 動画

「動画」アイテムは、動画ファイルまたは URL を指定して配信します。

起動イメージ

（アップロード）

（外部 URL 指定）

動画教材（ファイル指定）

本システムのサーバーにアップロードされた動画ファイルを使用します。

> メモ
>
> アップロード可能な動画ファイルの種類は以下の種類です。
>
> flv, mp4, f4v, ts, 3g2, asf, rm, amc, m4v, mts, wmv, mpg, mpeg, avi, mod

> メモ
>
> 選択できる動画をアップロードする方法は「5-8 動画管理」を参照してください。

動画教材（URL 指定）

URL 指定をすることにより、YouTube などの動画を、本システムの動画教材が表示されているウィンドウの指定エリアに埋め込まれた状態で表示することができます。この方法では、動画をシステムにアップロードする必要がなく、URL を指定するだけで学生が動画にアクセスできるようになります。

設定手順

①「アイテム追加」画面を開きます。

「6－1－5 授業の構成の登録」を参照してください。

②以下の項目を入力します。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。初期値は自動採番で設定されています。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別（必須）	「動画」を選択します。
アイテム種別オプション（必須）	「ファイルを選択する」か「URL を指定する」を選択します。
公開ステータス（必須）	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	任意でアイテムの実施可能期間を設定します。
開始前表示文	アイテムの受講前に必ず表示される文を設定します。
添付ファイル （pdf,zip,png,pptx,jpg）	このアイテムを学習する際の参考資料や補足資料を設定します。
リアクションボタンの表示	リアクションボタンの有無を設定します。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

③（ファイル指定の場合）「アイテム種別オプション」から「ファイルを選択する」を選択します。

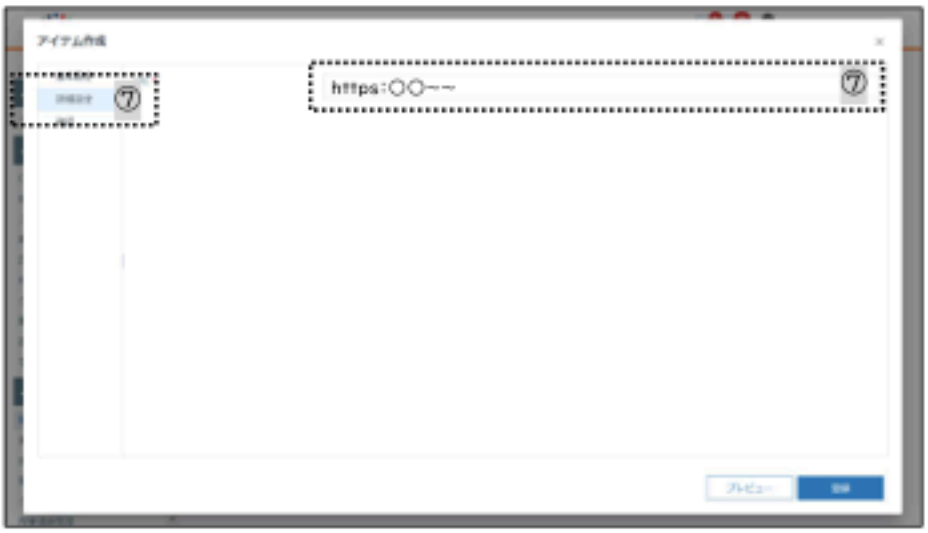
④左メニューの[詳細設定]をクリックします。

設定項目名	説明
機能制御	コメント欄、質問、クリッカーの有無を設定します。
コメント投稿者の表示	[機能制御]でコメント欄を有にしたとき、コメント投稿者の名前をニックネームで表示するか、本名で表示するかを設定します。

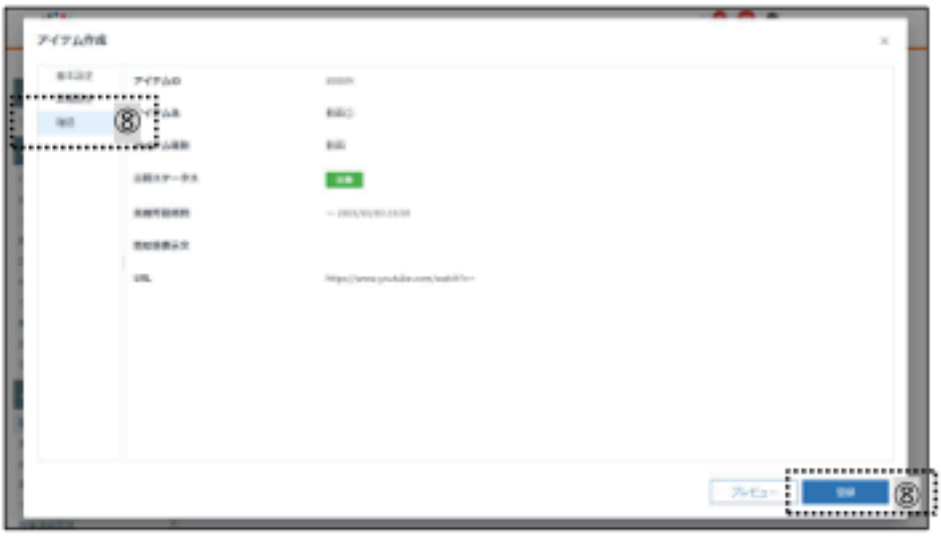
⑤動画を選択し、[機能制御]や[コメント投稿者の表示]を設定します。

⑥左メニューの[確認]をクリックし、確認画面で[登録]ボタンをクリックします。

⑦（URL 指定の場合）左メニューの［詳細設定］をクリックし、動画 URL を入力します。



⑧左メニューの［確認］をクリックし、確認画面で［登録］ボタンをクリックします。



6-2-6 テキスト(PDF)

テキスト(PDF)

ダウンロードはできない PDF 形式の教材で、主に読むための資料としてブラウザ上で内容を確認します。

設定手順

①「アイテム作成」画面を開きます。

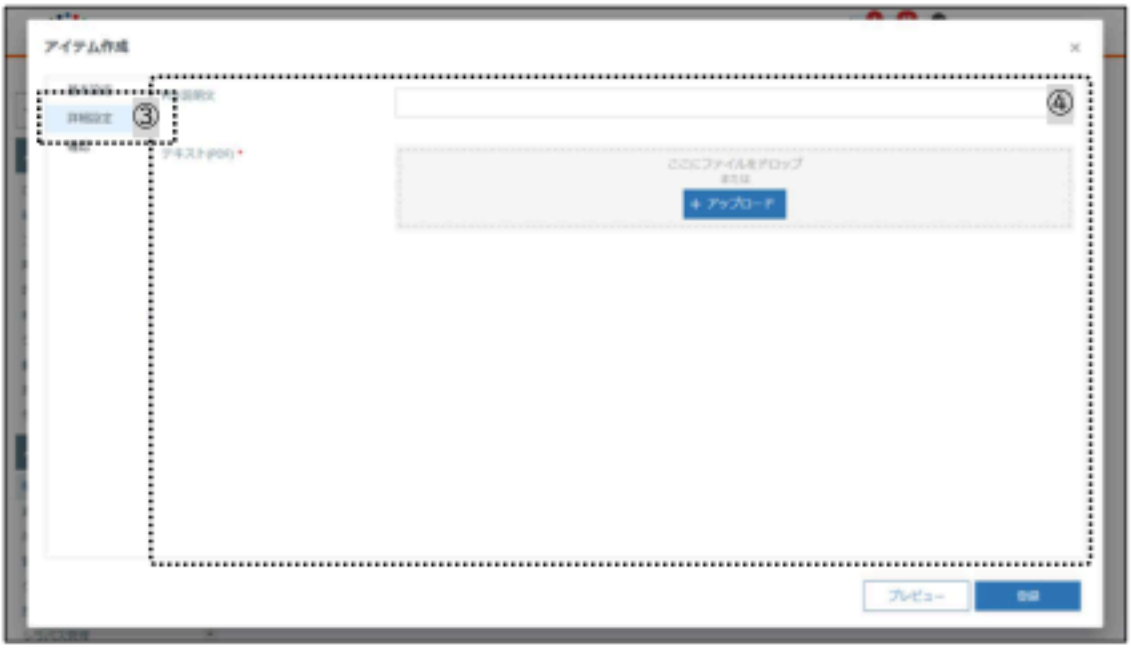
「6－1－5 授業の構成の登録」を参照してください。

②以下を入力します。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別（必須）	「テキスト（PDF）」を選択します。
公開ステータス（必須）	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	任意でアイテムの実施可能期間を設定します。
開始前表示文	アイテムの受講前に必ず表示される文を設定します。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

③左メニューの［詳細設定］をクリックします。

④［PDF 説明文］、［テキスト（PDF）］を設定します。



⑤左メニューの［確認］をクリックします。

⑥確認画面で［登録］ボタンをクリックします。

⑦元の画面でアイテムが追加されたことを確認してください。

6-2-7 ディスカッション

ディスカッション

教員が設定したテーマに沿って学生同士がディスカッションします。

設定手順

①「アイテム作成」画面を開きます。

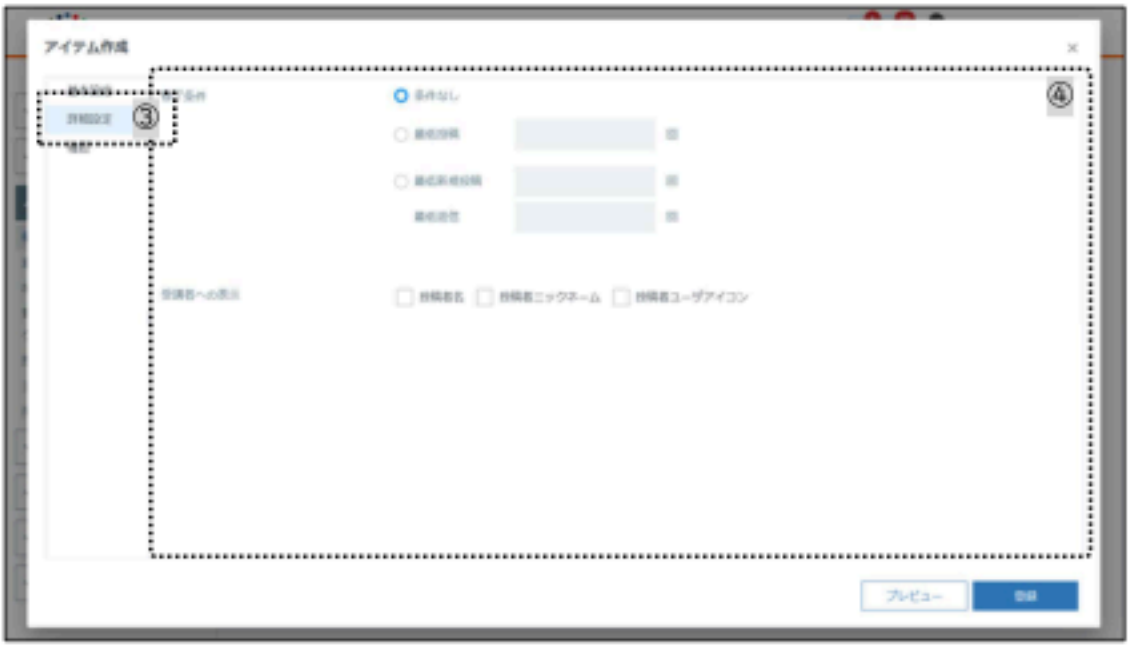
「6－1－5 授業の構成の登録」を参照してください。

②以下を入力します。

設定項目名	説明
アイテム ID（必須）	一意の識別コードを入力します。 （英数字 20 文字以内）
アイテム名（必須）	任意のアイテム名を入力します。
アイテム種別（必須）	「ディスカッション」を選択します。
公開ステータス（必須）	学生への公開有無を設定します。
実施可能期間	任意でアイテムの実施可能期間を設定します。
テーマ	ディスカッションのテーマや説明文を設定します。
備考	ディスカッション画面に表示される文を設定します。
添付ファイル （pdf,zip,png,pptx,jpg）	ディスカッション実施時に学生へ配布する資料を設定します。
評価対象	評価項目管理が有効になっている場合のみ表示されます。 チェックボックスをオンにすると「評価軸」の設定が追加されます。
評価軸	評価軸を設定します。

③左メニューの［詳細設定］をクリックします。

④［修了条件］、［受講者への表示］を設定します。



⑤左メニューの［確認］をクリックし、確認画面で［登録］ボタンをクリックします。

⑥元の画面でアイテムが追加されたことを確認してください。

6-2-8 アイテムの変更と削除

アイテムの削除と複製について説明します。

アイテムの削除

アイテムを授業の構成から削除することは、本システム内に保存された教材を削除することになります。削除されたアイテムは復元できないため、操作には十分な注意を払い操作を行ってください。

アイテムの削除手順

①ナビゲーションバーから[授業管理] - [構成管理]をクリックします。

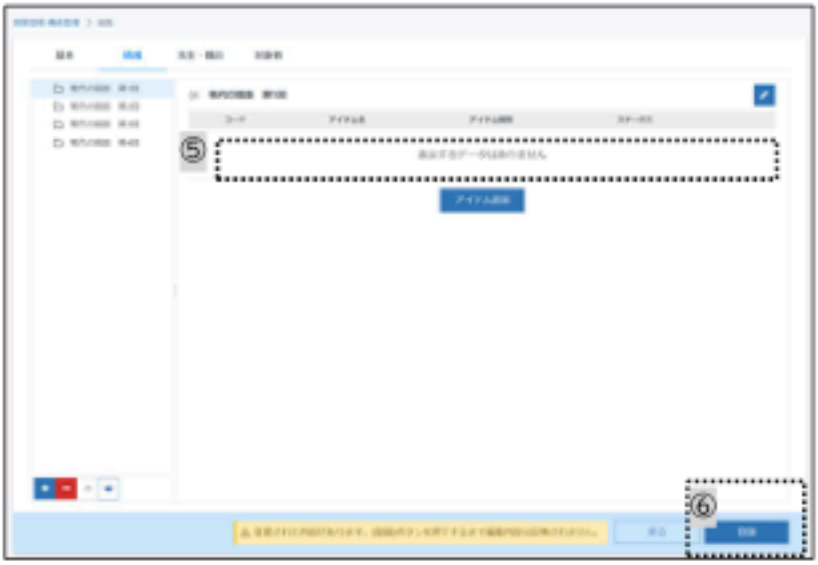
②[ ]アイコンをクリックします。

③[構成]タブでフォルダを選択してアイテム一覧を表示させます。

④削除を行うアイテムの[ ]アイコンをクリックします。

⑤[🗑]アイコンをクリックした授業が、一覧から削除されます。

⑥[登録]ボタンをクリックし保存します。



⑦更新完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックします。

アイテムの複製

授業に設定したアイテムは、複製して新しいアイテムとして利用することができます。アイテムは、同じ授業フォルダ内だけでなく、別の授業にも複製することができます。複製したアイテムには、必要に応じて個別に編集や調整を行ってください。

アイテムの複製手順

①ナビゲーションバーから[授業管理] - [構成管理]をクリックします。

②[ ]アイコンをクリックします。

③[構成]タブでフォルダを選択してアイテム一覧を表示させます。

④複製したいアイテムの右側にある[ ]アイコンをクリックします。

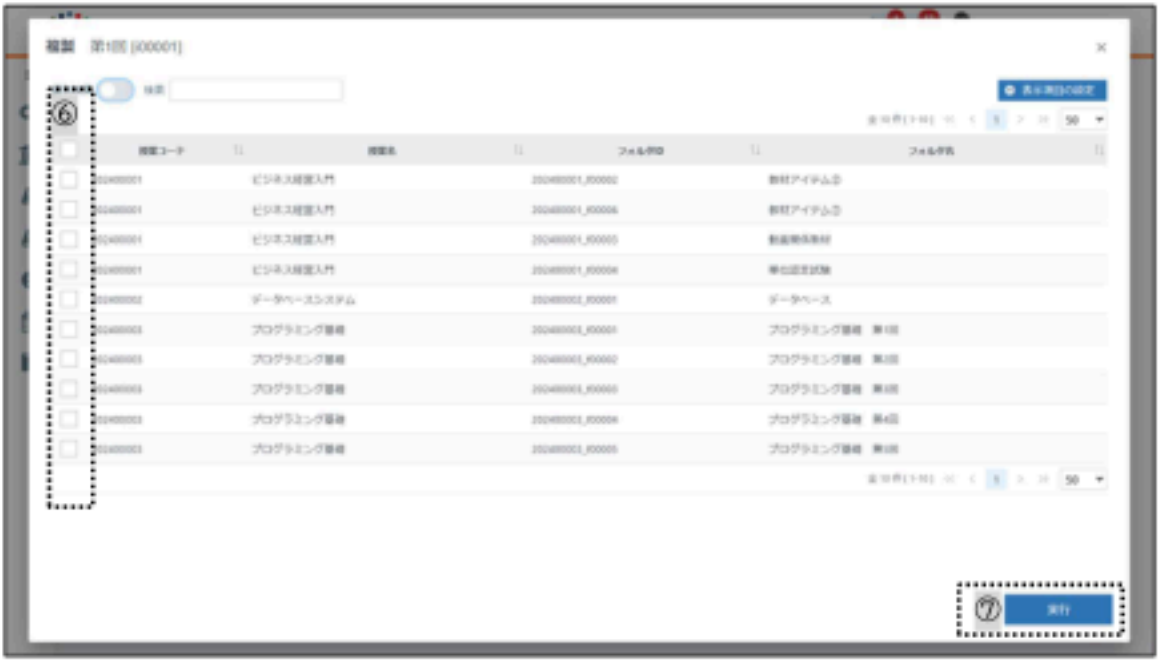
⑤「複製先」ダイアログが表示されます。

［ここに複製］を選択した場合はすぐに複製されて［構成］タブに戻ります。

［それ以外に複製］を選択した場合は⑥へ進みます。

⑥「複製」ダイアログが表示されます。ここで、複製するアイテムをどの授業のどのフォルダに格納するか一覧の左側にあるチェックボックスをオンにします。フォルダ単位での複数選択も可能です。

⑦［実行］ボタンをクリックします。



⑧［構成］タブに戻り、画面右上に処理結果のメッセージが表示されます。

⑨必要に応じて複製先の授業へ移動し、複製したアイテムが正しく格納されていることを確認します。

メモ

複製したアイテムの管理には注意し、各アイテムが適切な授業やフォルダに割り当てられていることを確認してください。

6-3 進捗管理

6-3-1 機能と画面遷移

進捗管理は、授業の学習進捗、学生の課題進捗状況、提出物の確認などを行うことができます。また、個別に学生の進捗状況やアイテム別の進捗率を把握することで、より効果的な指導が可能になります。

機能への遷移方法

[授業管理]から遷移

① ナビゲーションバーから［授業管理］－［進捗管理］をクリックします。

② ［進捗管理］の「授業一覧」画面が表示されます。

[授業運用]から遷移

①ナビゲーションバーから[授業運用]－[担当授業]をクリックします。

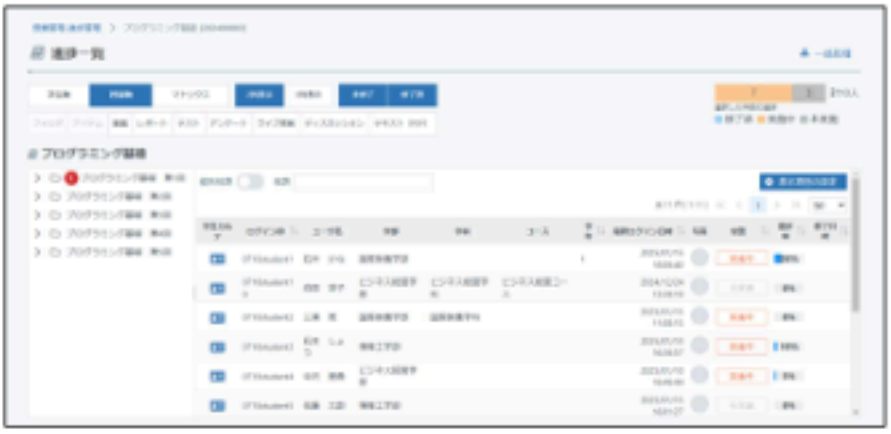
②進捗を確認したい授業の[詳細]ボタンをクリックします。

③［進捗］ボタンをクリックします。

6-3-2 授業・学生別学習進捗状況の確認

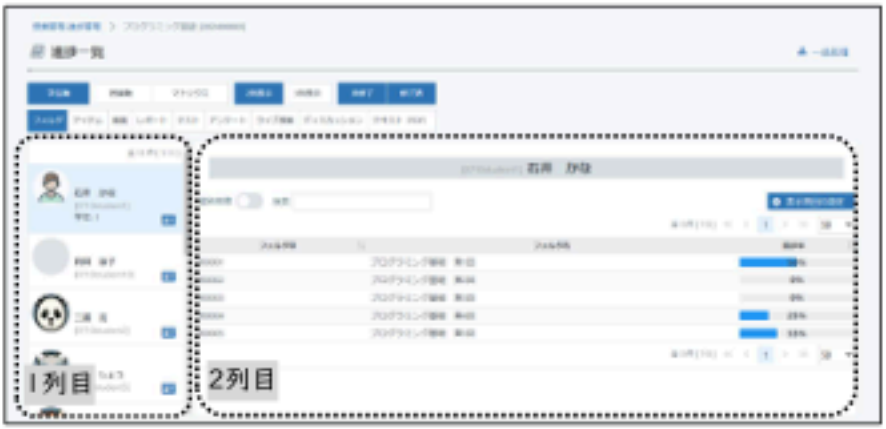
進捗画面の表示

授業軸



学生軸

(2 列表示)



1列目：学生一覧が表示されます。
2列目：アイテム一覧が表示されます。

(3 列表示)

1列目：学生一覧が表示されます。
2列目：アイテム一覧が表示されます。
3列目：選択したアイテムの詳細が表示されます。

(ボタン構成)

① 表示軸切り替えボタン（学生軸/授業軸/マトリクス）

② 2 列表示/3 列表示 切り替えボタン

③ フォルダ/アイテム 切り替えボタン

④ アイテム絞り込み ボタン（動画/レポート/テスト/アンケート/ライブ授業/ディスカッション/テキスト（PDF））

⑤ 未修了/修了済 絞り込みボタン

メモ

アイテムごとに進捗状況を確認したい場合は、（ボタン構成）の④から該当のアイテムを選択してください。

「進捗管理」画面の表示構成

（1）授業のフォルダごとに、進捗を確認したい場合

①[授業軸]ボタンをクリックします。

②左側ペインには、各授業回フォルダが階層で表示されます。

③「 > 」ボタンをクリックすると、授業回フォルダの構成が表示されます。

④確認したいアイテム名をクリックすると、右側の一覧にそのアイテム名の進捗状況が表示されます。

⑤詳しく確認したい場合は[詳細]ボタンをクリックします。

⑥学生の進捗状況が表示され、実施回数や、評価日時、複数実施している場合はその履歴が確認できます。

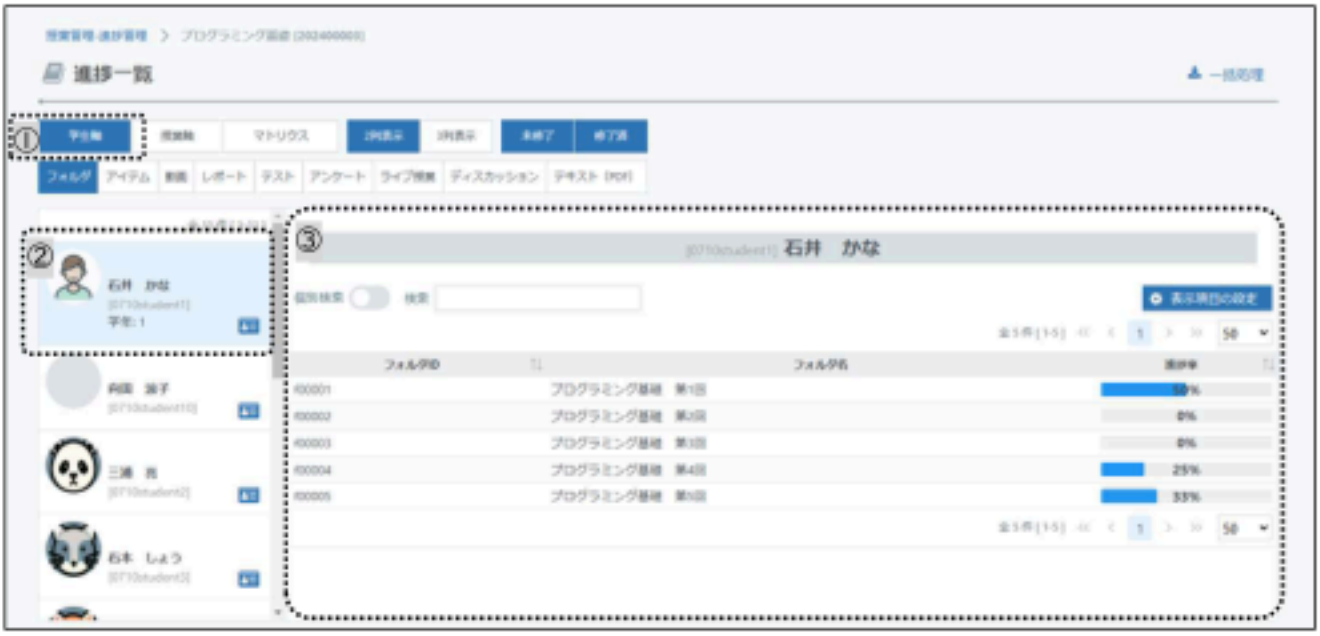
⑦さらにアイテムの評価や内容の確認をしたい場合は[詳細]ボタンをクリックします。

(2) 学生ごとに進捗を確認したい場合

①[学生軸]ボタンをクリックします。

②進捗を確認したい学生をクリックします。

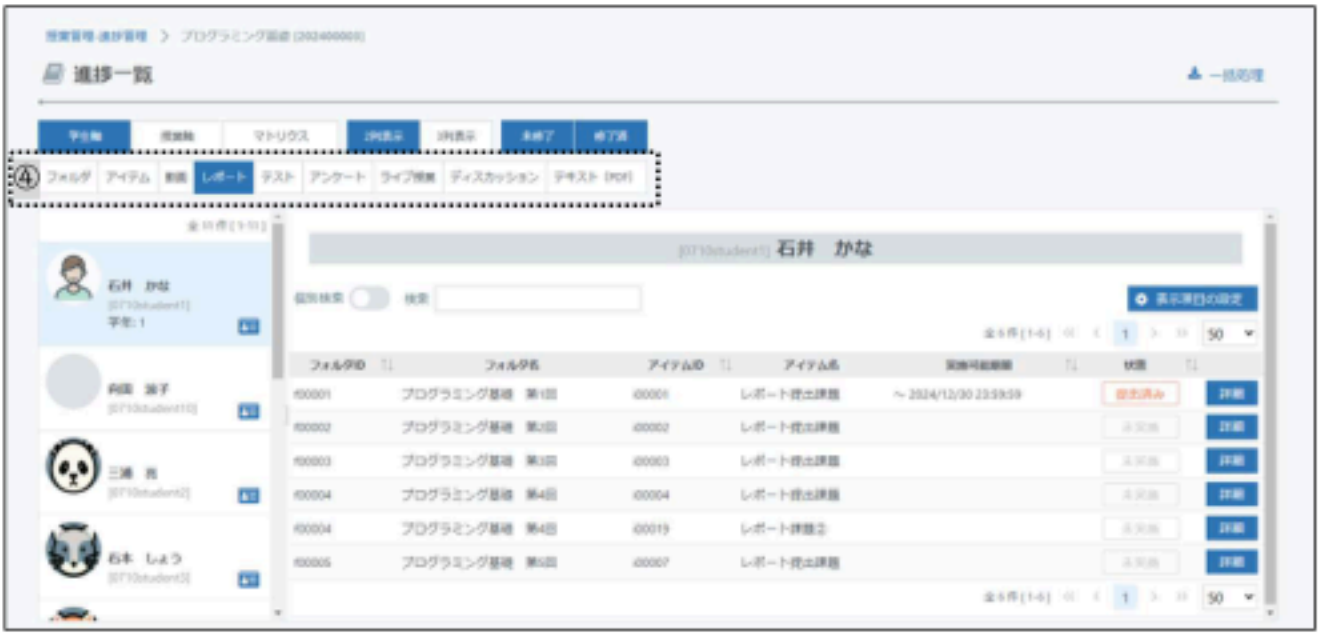
③個別の進捗状況が授業回フォルダごとに表示されます。



④[アイテム絞り込み]ボタンで絞込んで、アイテムごとの実施状態を確認することができます。

（例）　[アイテム]ボタン･･･アイテムすべての実施状態を表示します。

[レポート]ボタン･･･レポートのみの実施状態を表示します。



(3) マトリクスビュー

①[マトリックス]ボタンをクリックすると表示されます。教員はフォルダを横断したアイテムを横に並べた状で、学生の授業の中に構成されたアイテムへの学習進捗情報を閲覧することができます。

メモ

・各アイテム、各フォルダをクリックすると進捗バーが表示されます。

・テストアイテムをクリックすると対象テストを実施した学生の最高点、最低点、平均点が表示されます。

最高点	最低点	平均点
100点	50点	88点

6-3-3 アイテム別の確認方法

アンケートの集計結果の確認方法

①「進捗一覧」画面を表示し、アンケートの集計結果を確認したいアイテムをクリックします。

②右上の[集計]ボタンをクリックします。

③集計結果を円グラフで確認できます。

メモ

右上の[CSV 出力]ボタンをクリックすると、集計結果を CSV で出力することができます。

レポートの採点と評価方法

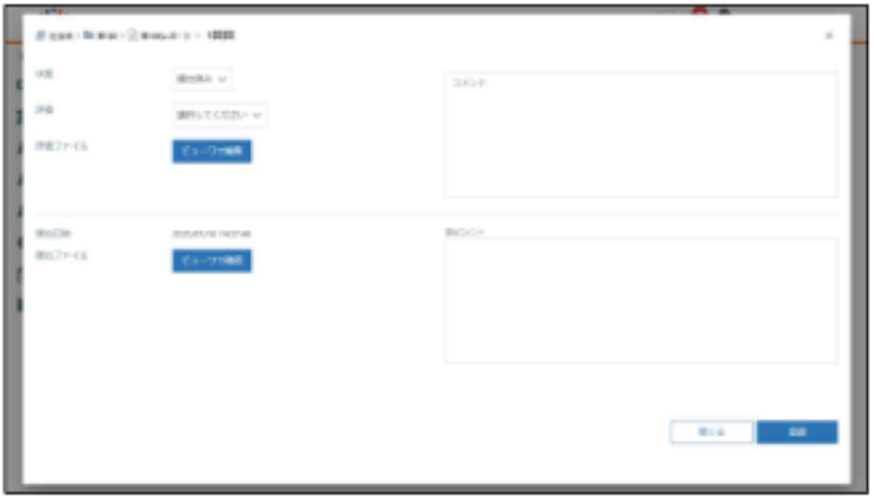
①レポートの未採点があると、授業回フォルダや、該当のレポートの左側に赤いバッジが表示されます。

②レポートの採点、評価をしたいレポートを選択します。

③[状態]が「提出済み」となっている学生列の[詳細]ボタンをクリックします。

④学生ごとのレポート提出履歴などの詳細画面が表示されるので、[詳細]ボタンをクリックします。

⑤レポート確認、評価画面が開きます。



6-4 成績管理

6-4-1 機能と画面遷移

成績管理では、学生の成績評価を一括入力し、成績確定処理や成績開示処理を行うことができます。

> メモ
> 今後、各アイテムの評価をもとに科目の成績を自動判定する機能を搭載する予定です。

機能への遷移方法

[授業管理]からの遷移

①ナビゲーションバーから［授業管理］－［成績管理］をクリックします。

②［成績管理］の「授業一覧」画面が表示されます。

> メモ
> ［成績管理］画面の［評価］ボタンからは、今後、各授業アイテムの評価軸から自動で成績を集計をした結果の確認や、成績の手入力などができる予定です。

[授業運用]からの遷移

① ナビゲーションバーから［授業運用］－［担当授業］－［詳細］ボタンをクリックします。

②「担当授業トップ」画面で、［成績判定］をクリックします。

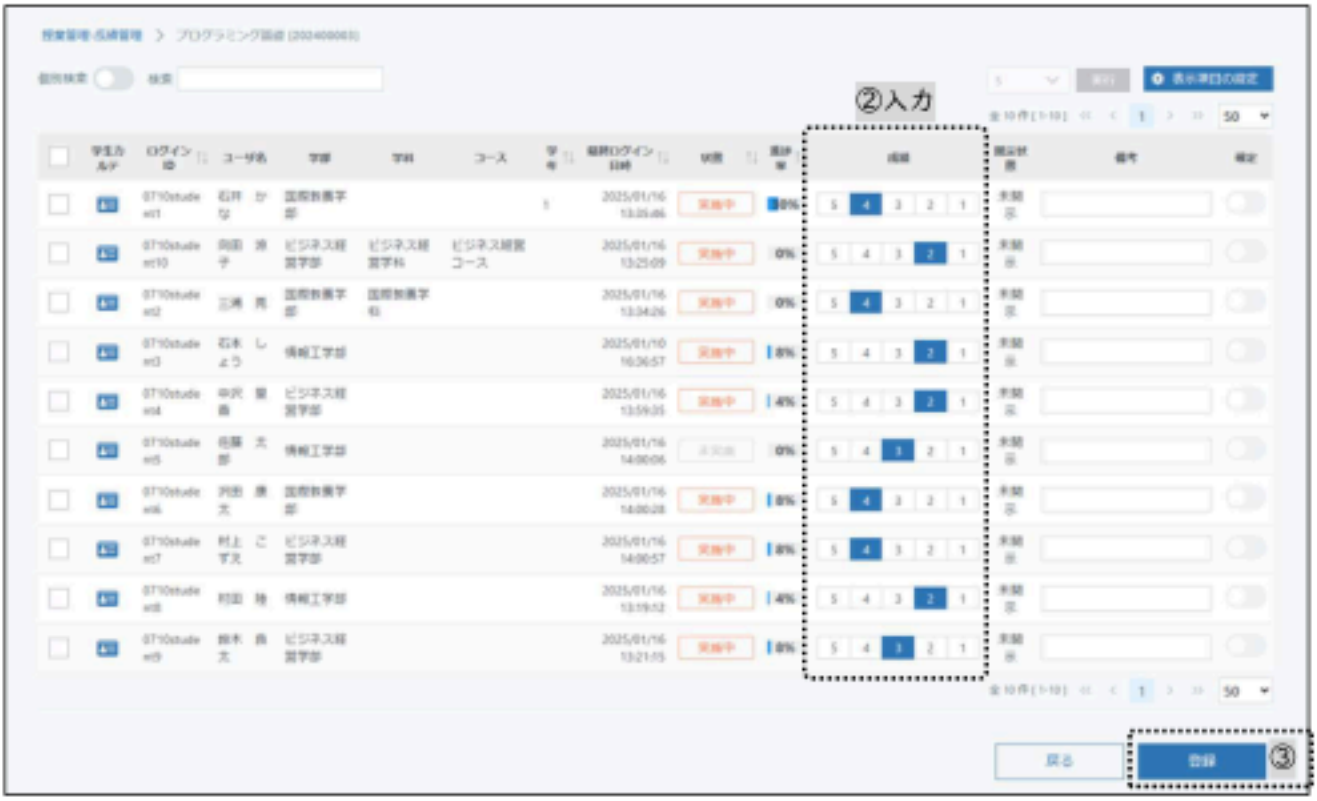
6-4-2 成績の入力と確定

学生別成績評価の入力

① 「成績管理」画面で、成績管理を行う授業の[成績]ボタンをクリックします。

② 各ユーザの[成績]に、評価を設定します。

③ 入力を保存するには、[登録]ボタンをクリックします。



④ 処理完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面へ戻ります。

メモ

5 段階評価の「1, 2, 3, 4, 5」、「可、不可」「A、B、C」などの成績評価区分は、あらかじめ登録されています。

メモ

［成績管理］画面の［評価］ボタンからは、今後、各授業アイテムの評価軸から自動で成績を集計をした結果の確認や、成績の手入力などができる予定です。

成績の一括登録

① ［成績管理］の「授業一覧」画面で、成績管理を行う授業の[成績]ボタンをクリックします。

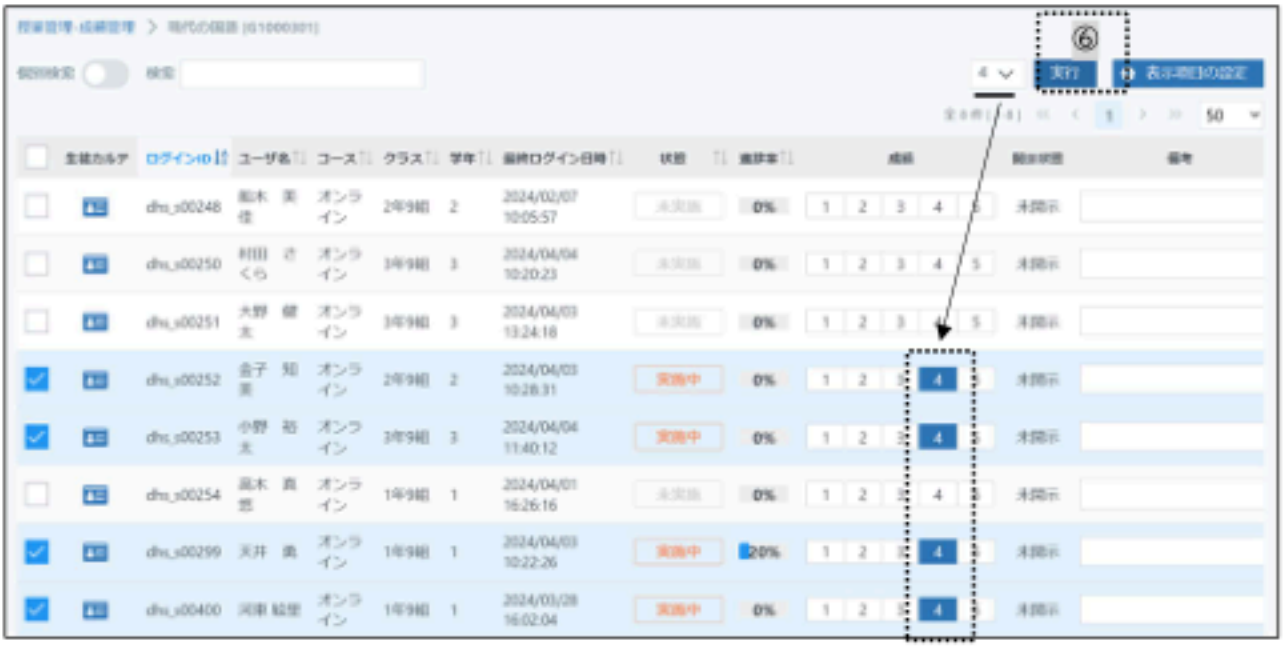
② 最上部、最左にある[全選択]ボタンをオンにします。

③ すべての学生が選択されます。

④ 成績の一括入力を行わない学生については、個々にチェックボックスをオフにします。

⑤ 最上部の右側にあるドロップダウンリストから一括入力する成績を選択します。

⑥ [実行]ボタンをクリックします。チェックボックスがオンの対象者全員に、成績が一括入力されます。



⑦ 一括入力された成績を保存するには、画面最下までスクロールし、[登録]ボタンをクリックします。

⑧ 完了メッセージが表示されます。[戻る]ボタンをクリックすると成績管理の一覧画面へ戻ります。

成績確定処理

個別確定

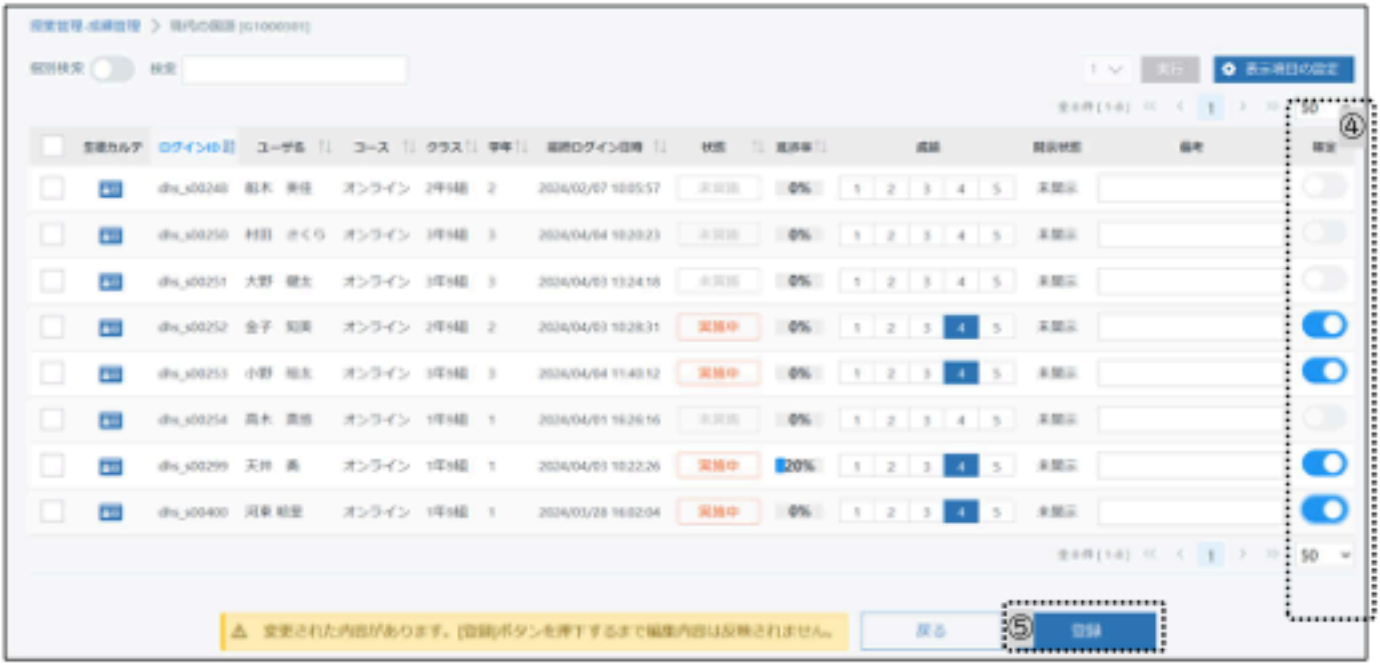
① ナビゲーションバーから「成績管理」画面へ遷移します。

② 「授業一覧」画面が表示されます。

③ 成績管理を行う授業の[成績]ボタンをクリックします。

④ 学生一覧から成績を確定する学生の行一番右にある[確定]トグルスイッチをクリックします。

⑤ 入力を保持するために[登録]ボタンをクリックします。



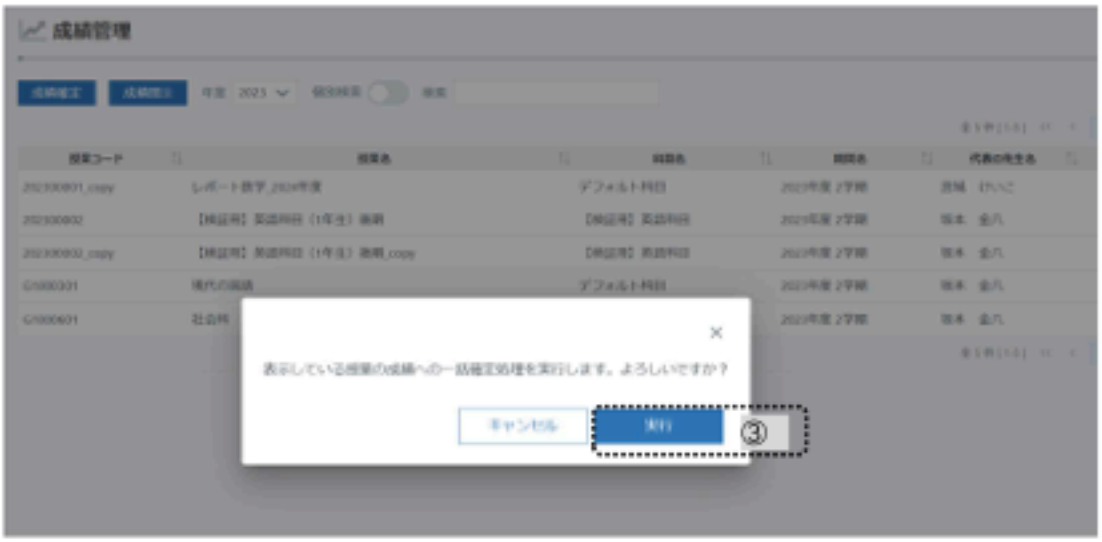
⑥ 完了メッセージが表示されたら、[戻る]ボタンをクリックして一覧画面へ戻ります。

一括確定

①ナビゲーションバーから「成績管理」画面へ遷移します。

②上部にある[成績確定]ボタンをクリックします。

③成績確定の確認を求めるダイアログボックスが表示されます。[実行]ボタンをクリックします。



④処理が正常に受け付けられたメッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックします。

メモ

[成績確定]ボタンは科目を跨ぎ、複数の科目の成績を一括で確定するため、十分確認をした上で操作してください。

6-4-3 成績の開示

成績が確定された後、学生に成績を公開する方法を説明します。

一度確定された成績は原則変更ができないため、確定前に入念にチェックを行ってください。

成績が開示されると、学生に通知されます。

成績開示の手順

①「成績管理」画面にて、[成績開示]ボタンをクリックします。

②[コメント]ダイアログが表示されます。

③ コメントを選択し、[送信]ボタンをクリックします。

④ 処理完了メッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックして一覧画面へ戻ります。

6-5 質問管理

質問管理は、授業を履修している学生からの質問を確認し、回答するための機能です。
ここでは、質問の確認、回答方法を説明します。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[授業運用]-[質問管理]をクリックします。

② 質問管理を行う授業の[参照]ボタンをクリックします。

③「質問管理」画面が表示されます。

メモ

[状態(未読/既読)]は質問対応者の中で誰かひとりでも読めば、既読になります。

6-5-1 質問の内容の表示と対応

質問と回答は、質問が来た順に並べられ、対話形式でのやり取りが可能です。各質問は、質問コード、カテゴリ、タイトル、送信者、宛先といった情報とともに表示されます。回答する際は、テキストフォームを利用して対話形式で応答します。過去の対応履歴も参照することができます。

① ナビゲーションバーから［授業管理］-［質問管理］をクリックして、「質問一覧」画面を開きます。

② 回答を行いたい質問の授業の［参照］ボタンをクリックします。

③ 回答を行いたい質問の［確認］ボタンをクリックします。

④「質問回答」画面が表示されるので、回答をテキストフォームに入力します。

⑤ 回答内容を確認し、[回答する]ボタンをクリックして送信します。

メモ

学生からの問い合わせは「質問一覧」画面の[対応状況]で、「未回答」「回答済み」などの状況を確認することができます。複数名の教職員で対応をしても状況を共有することができます。

また、過去の対応履歴を確認することで、以前の質問や回答を参照し、より適切な回答を提供することができます。

メモ

「質問回答」画面で[一時保存]ボタンをクリックすると、回答内容は一時保存され、「質問一覧」画面では[対応状況]が「一時保存中」の状態になります。

保存した回答内容は、学生には送信されませんが、教員・職員の方には共有されています。

メモ

学生が質問を送信すると、[ベルマーク]アイコンに通知が届きます。

メモ

動画の質問機能から送信された質問では、元となる動画のリンクが表示されます。

6-6 クリッカー

クリッカーは、授業中のインタラクティブな学習活動を支援する機能です。このツールを使って、教員はリアルタイムで学生の理解度を測り、学生は即座にフィードバックを受け取ることができます。

6-6-1 クリッカー機能の概要

クリッカー機能を用いることで、教員と学生の双方向のコミュニケーションが促進されます。この機能は、学生の参加意欲を高め、授業の活性化につなげることができます。

機能説明

クリッカー機能は、質問を学生に提示し、その回答をリアルタイムで収集するものです。この機能を活用することで、教員は学生の理解度を即座に把握し、必要に応じて授業の進行を調整することができます。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[授業管理] - [クリッカー管理]をクリックします。
② クリッカーを作成したい科目の[参照]ボタンをクリックします。

③「クリッカー管理」画面が表示されます。

メモ

授業トップの[クリッカー]からも遷移できます。

授業トップはナビゲーションバーから[授業運用]－[担当授業]をクリックし、授業の[詳細]ボタンをクリックすると表示されます。

6-6-2 クリッカーの新規作成

①「クリッカー管理」画面で[新規作成]ボタンをクリックします。

② 必要な項目を入力し、[登録]ボタンをクリックします。

<table>
<tr><th>設定項目名</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>キーワード（必須）</td><td>学生がクリッカーに回答するためのキーワードを設定します。
キーワードは、重複した内容を設定することができませんので、ご注意ください。</td></tr>
<tr><td>[簡易設定]
[詳細設定]
（いずれか必須）
ラジオボタン</td><td>[簡易設定]・・・4 択(4 色)の選択肢を表示します。選択肢の文言は設定できません。

[詳細設定]・・・自由に設問形式や選択肢を追加することができます。
<table>
<tr><th>設定項目名</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>設問形式</td><td>[択一（ラジオボタン）][択一（プルダウン）][択一（正誤）][自由記述][複数選択]から設定します。</td></tr>
<tr><td>選択肢</td><td>[設問形式]で選んだ形式によっては、選択肢を設定します。
(a) [選択肢追加]ボタンをクリックすると選択肢入力欄が増えます。
(b) [－]をクリックすると入力した選択肢を削除します。
[＋][＋]をクリックすると入力した選択肢の順番を入れ替えます。</td></tr>
</table>

</td></tr>
<tr><td>設問内容</td><td>クリッカーの問題文を設定します。</td></tr>
<tr><td>共有
（いずれか必須）
ラジオボタン</td><td>共有しない（利用できるのは自分のみ）／
共有する（他の教職員にも表示されます。編集や削除は自分とシステム管理者のみが可能です。）</td></tr>
<tr><td>実施対象</td><td>クリッカーを実施する対象のクラスや学年を設定します。設定は任意です。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>必要に応じて備考を入力します。</td></tr>
</table>

メモ

簡易設定は、設問なしで簡単に作れるため、リアルタイムで授業やアンケートをとるときに便利です。

③ 登録したクリッカーが表示されます。

登録した直後は[表示モード]が[非表示]になっています。

[回答モード]をクリックすると、学生が回答できる状態になります。

メモ

クリッカーは複製することができます。

複製したいクリッカーの横にある[ ]アイコンをクリックします。

複製したクリッカーは、[ ]アイコンから必要に応じて個別に編集や調整を行ってください。

6-6-3　回答の確認と集計結果の公開

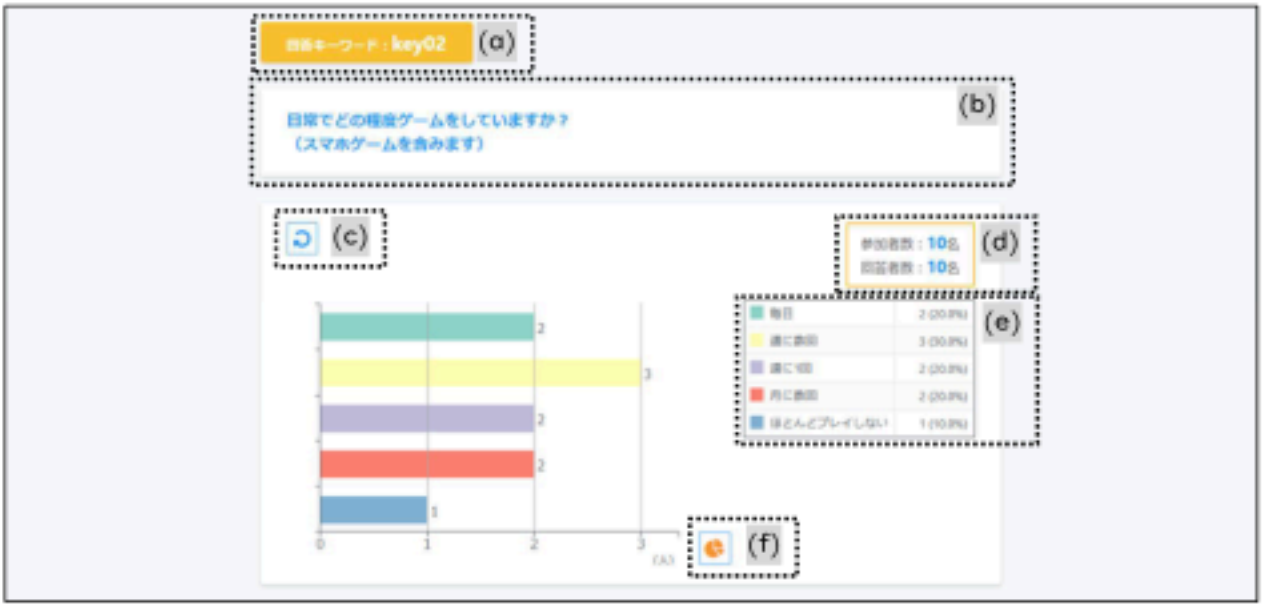
回答状況の確認

教員は学生の回答状況や集計結果をいつでも確認することができます。

①確認したいクリッカーの[ ]アイコンをクリックします。

②現在の回答状況が表示されます。

[簡易設定]または[択一（ラジオボタン）][択一（プルダウン）][択一（正誤）][複数選択]の場合



(a) 回答キーワード…… [キーワード]に設定した内容です。

(b) 設問内容 …… [設問内容]に設定した内容です。

(c) 更新ボタン …… 表示を更新し、最新の集計結果を表示します。

(d) 参加者数･回答者数 …… [参加者数]は [参加]ボタンをクリックした人数を表示します。
[回答者数]は実際に回答した人数を表示します。

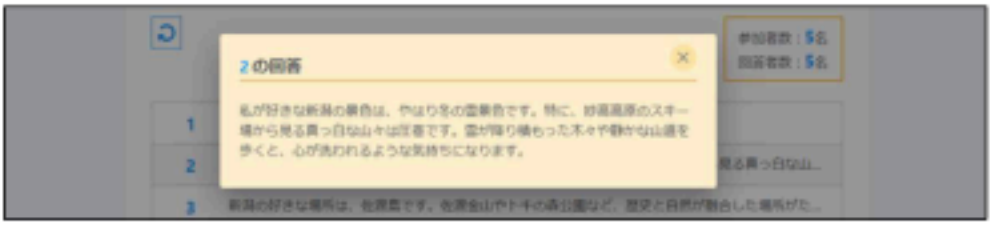
(e) 凡例…… グラフの凡例です。

(f) グラフ切り替えボタン…… グラフの表示形式を切り替えます。
クリックするたびに棒グラフと円グラフを交互に表示します。

[自由記述]の場合

(a) 回答一覧 …… 回答の一覧です。回答が長文の場合は一部省略して表示されます。

(b) 回答番号 …… 番号をクリックすると文章全体をポップアップで表示します。



学生への集計結果の公開

教員は、表示モードを変更することにより、学生側のクリッカー回答画面で結果を公開することができます。

① [結果表示モード]をクリックします。

[結果表示モード]を選択すると、学生側の画面が自動的に集計結果に切り替わり、[非表示]を選択すると、自動的に元の画面に戻ります。

メモ

[結果表示モード]は 1 時間のみ維持されます。

1 時間経過すると自動的に[非表示]に戻り、学生からは回答も結果も確認できなくなります。

6-7 授業連絡管理

授業連絡管理は、授業担当の教員からの授業に関する連絡を掲載し提供するための機能です。連絡は授業を受けている学生に対して配信されます。ここでは、授業連絡の作成、公開、閲覧状況の確認方法を説明します。

6-7-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[授業管理]-[授業連絡管理]をクリックします。

② 授業連絡を行う授業の[参照]ボタンをクリックします。

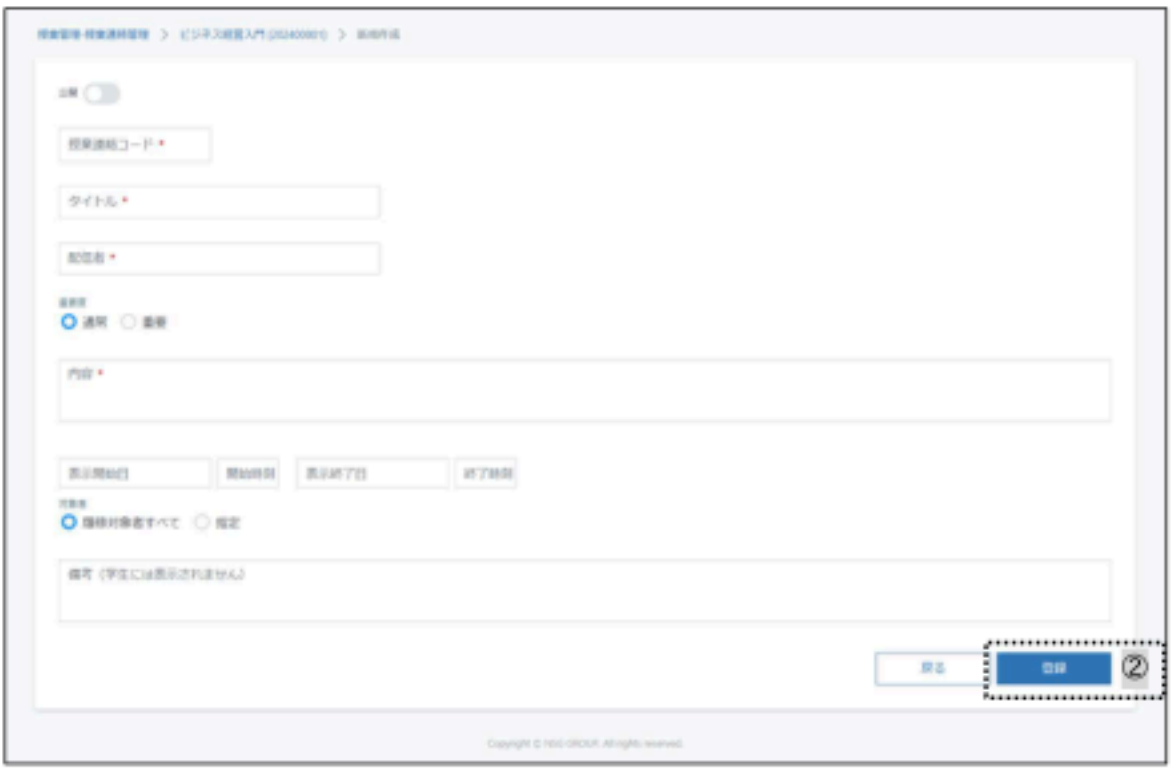
③「授業連絡管理」画面が表示されます。

設定手順

① 「授業連絡管理」画面で［新規作成］ボタンをクリックします。

② 必要な情報を入力し、［登録］ボタンをクリックします。

設定項目名	説明
公開（必須）	授業連絡の現在の状態を示します。 （トグルスイッチ：オフ）下書きとして保存され、入力した内容は配信されません。 （トグルスイッチ：オン）入力した内容が対象者に配信されます。
授業連絡コード（必須）	授業連絡を特定するための一意のコードです。
タイトル（必須）	題名や概要を示します。
配信者（必須）	発信者を示します。
重要度	緊急性や重要性のレベルを指定します。
内容（必須）	詳細な説明や情報を記載します。
表示開始日時	お知らせが表示され始める日時です。
表示終了日時	お知らせが表示されなくなる日時です。
対象者	すべて（履修している学生すべて）／ 指定（履修している学生の中から組織、学年、グループで指定）
備考	授業連絡に関連する追加情報や注記ができます。



③ 完了メッセージが表示されるので、[戻る]ボタンをクリックし「授業連絡管理」画面へ戻ります。

履修対象者から特定のクラス、グループ、学年を指定した配信先とする場合

① 「授業連絡管理」画面から[新規作成]ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。

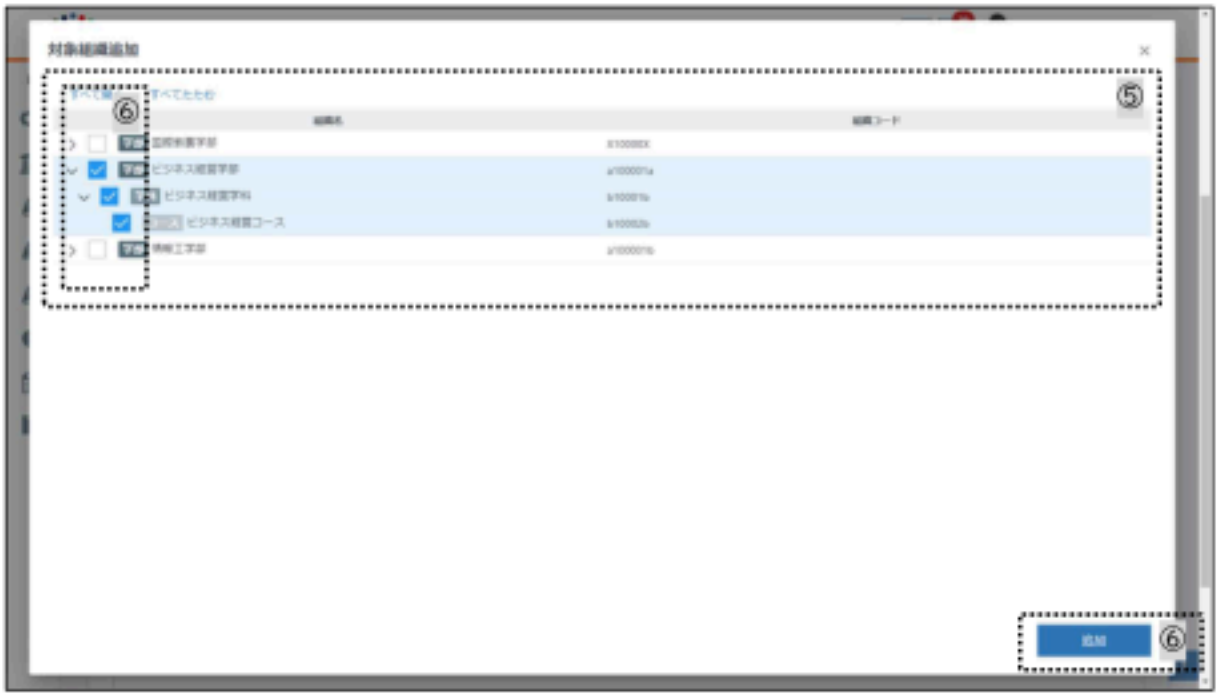
② 対象者の[指定]のラジオボタンをクリックします。

③ [指定]の下部に設定項目が表示されます。

④ [組織選択]ボタンをクリックします。

⑤「対象組織追加」ダイアログが表示され、組織の一覧が表示されます。

⑥ 配信対象とするクラスのチェックボックスをオンにし、[追加]ボタンをクリックします。

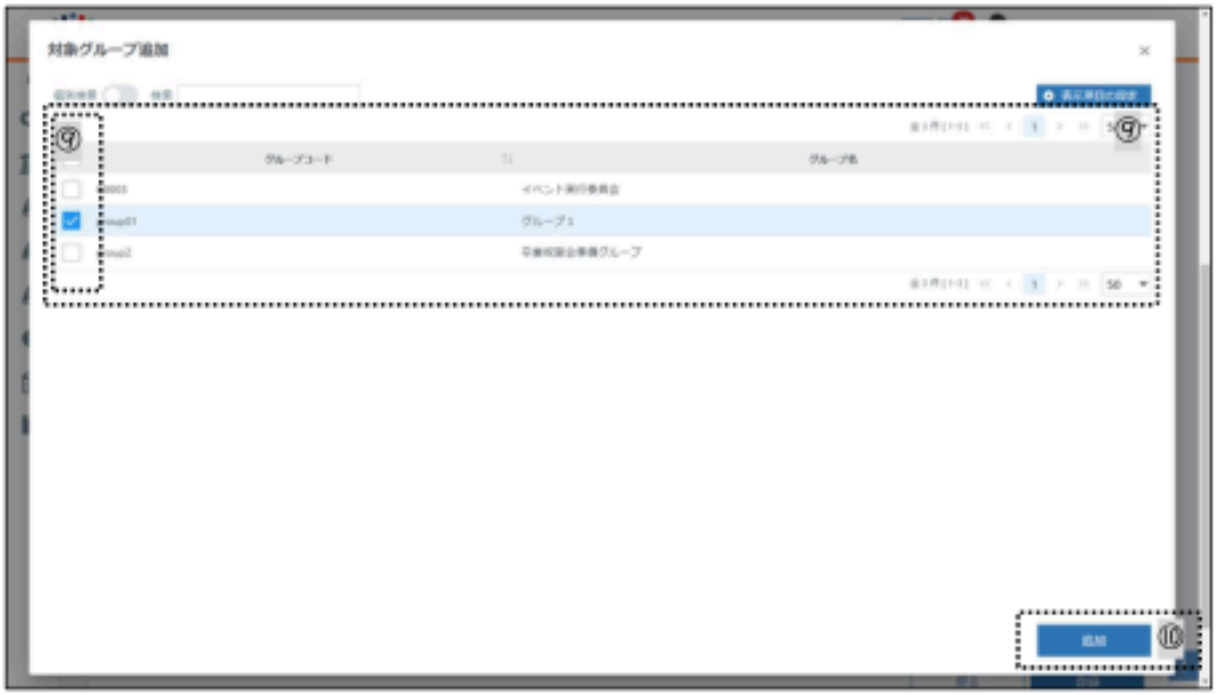


⑦「新規作成」画面に戻ると、対象者に追加したクラスが表示されます。

⑧ 続いてグループも追加する場合は、[グループ選択]ボタンをクリックします。

⑨「対象グループ追加」ダイアログが表示され、配信対象とするグループのチェックボックスをオンにします。

⑩［追加］ボタンをクリックします。



⑪「新規作成」画面に戻ると、追加したグループが表示されます。

さらに、選択した配信対象者を、学年や入学年度で絞り込むができます。

⑫「学年」で絞り込むには、［学年］プルダウンリストから学年を選択します。

⑬「入学年度」でも絞り込む場合は、[入学年度]プルダウンリストから入学年度を選択します。

⑭ 対象者の設定をすべて終えたら、[登録]ボタンをクリックします。

⑮ 完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると「授業連絡管理」画面へ戻ります。

6-8 シラバス管理

6-8-1 機能と画面遷移

シラバス管理機能では、年度別の科目一覧を表示し、シラバスの登録、管理をすることができます。

機能への遷移方法

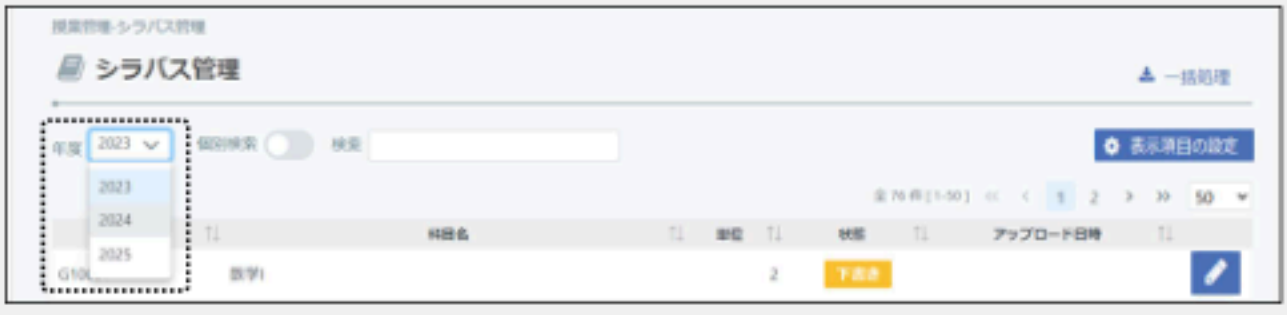
① ナビゲーションバーから[授業管理]－[シラバス管理]をクリックします。

②「シラバス管理」画面が表示されます。

メモ

シラバスは、年度に紐づく科目それぞれに登録してください。

今年度以外のシラバスを登録したい場合は、[年度]ドロップダウンリストから年度を選択してください。



6-8-2 シラバスの編集と更新

シラバス PDF データの登録

① シラバスを登録したい科目の[操作]列の[ ]アイコンをクリックします。

② 項目を設定します。

設定項目名	説明
年度（必須）	「シラバス管理」画面で表示されていた年度が初期表示されます。 設定したい年度を選択します。
状態（必須）	「下書き」か「公開」を選択します。公開したシラバスは学生の履修申請画面に表示されます。
添付ファイル（pdf）	シラバスファイルを添付します。形式は「.pdf」のみです。

③ [シラバス（PDF）]ボタンをクリックし、シラバスの PDF ファイルを選択します。

④ 添付したファイル名が表示されます。

⑤ [登録]ボタンをクリックします。

⑥ 完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると、「シラバス管理」画面に戻ります。

メモ

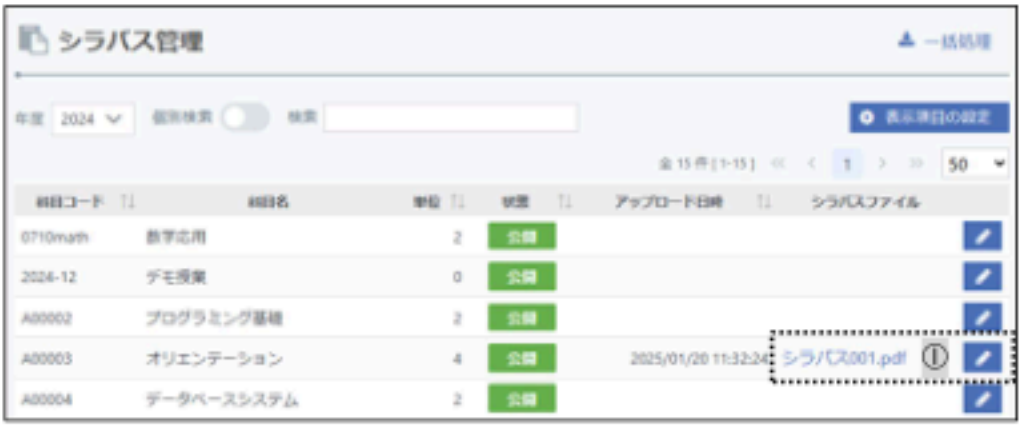
・シラバスの PDF はファイルをドラッグアンドドロップすることで添付することもできます。

・シラバスは PDF フォーマットのみ対応しています。

シラバスの更新

シラバスの更新は、登録済みのシラバスを削除し、新しいシラバスをアップロードする手順で行います。

① シラバスを更新する対象の科目の[ ]アイコンをクリックします。

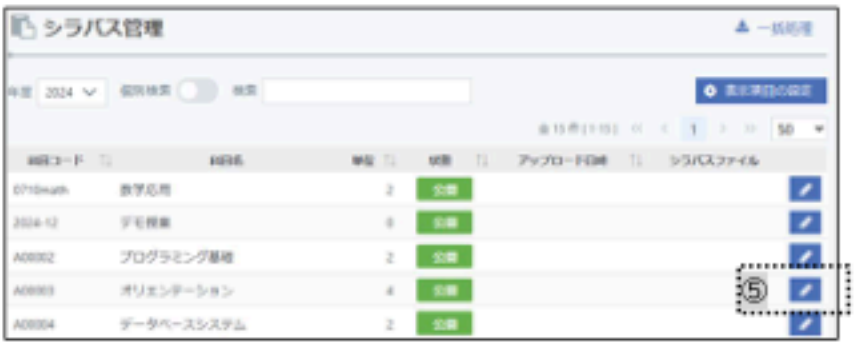


② [アップロードされているファイルを削除する。]チェックボックスをオンにします。

③ [登録]ボタンをクリックします。

④ 完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックします。

⑤再度①で選択した対象の科目の[ ]アイコンから、「シラバス PDF データの登録」の手順でシラバス PDF データを登録します。



6-9 成績認定管理

6-9-1 機能と画面遷移

成績認定管理機能では、学生の科目別成績だけでなく、既修得単位の認定や編入時の一括単位認定も可能です。さらに、学生が取得した資格に基づく単位の認定も行えます。これにより、学生一人ひとりの学習成果や資格取得状況を踏まえた、より細やかな管理を実現します。

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから［授業管理］－［成績認定管理］をクリックします。

② 「成績認定管理」画面が表示されます。

成績認定の新規作成

①［新規作成］ボタンをクリックします。

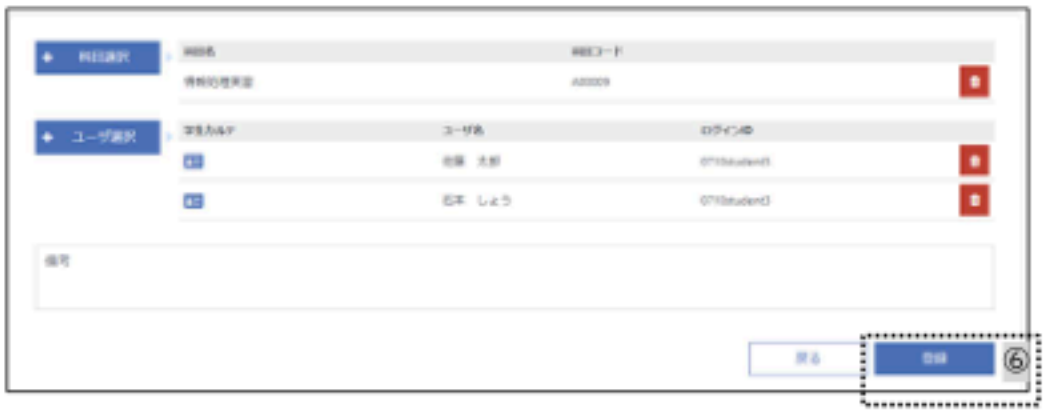
②［科目選択］ボタンをクリックします。

③「科目選択」画面で、認定に該当する科目を指定し、[追加]ボタンをクリックします。

④ 単位を認定する学生ユーザを指定するには［ユーザ選択］ボタンをクリックします。

⑤「ユーザ選択」画面で、学生ユーザを指定し、［追加］ボタンをクリックします。

⑥［登録］ボタンをクリックします。



⑦ 完了のメッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると、「成績認定管理」画面に戻ります。

成績認定の編集

成績認定管理で作成した内容は、いつでも編集と削除を行うことはできますが、学生の成績参照にも反映されるため、注意してください。

成績認定の編集・削除

① 編集または削除したい成績認定の行の操作列から[ ]アイコンまたは[ ]アイコンをクリックします。

②（編集のとき）必要に応じて設定内容を変更し、[登録]ボタンをクリックします。

③（削除のとき）確認メッセージにて[削除]ボタンをクリックすると削除が完了します。

7. 授業運用

7-1 担当授業

7-1-1 機能と画面遷移

この画面は、担当している授業の一覧が表示されます。

機能への遷移方法

①ナビゲーションバーから[授業運用]-[担当授業]をクリックします。

②年度内の担当授業が一覧で表示されます。

メモ

ここで表示される授業は、担当している授業のみが一覧で表示されます。

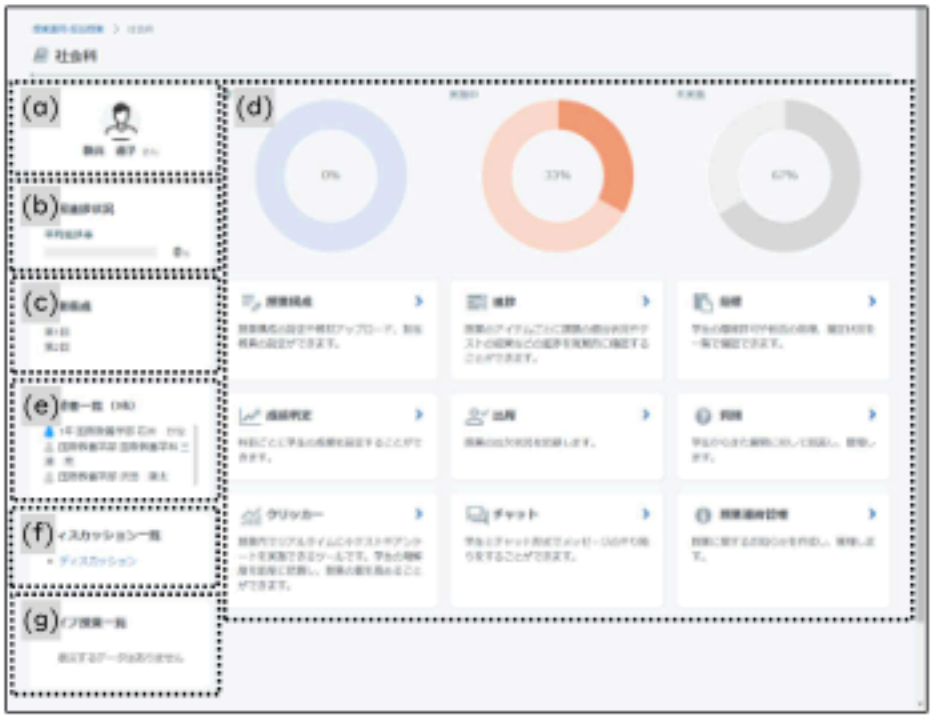
「担当授業」の一覧画面に表示される授業は、「構成管理」画面の[先生]タブで指定された教員に表示されます。

7-1-2 授業トップ

授業トップの表示

① 「担当授業一覧」から操作列にある［詳細］ボタンをクリックします。

② クリックした授業の、授業トップが表示されます。



(a)代表教員・・・・・・・・・・・・代表教員のアイコンと、名前が表示されます。

(b)学習進捗状況・・・・・・・選択した授業の学習進捗がインジゲーターで表示されます。

(c)授業構成・・・・・・・・・・・・授業を構成する授業回のタイトルが表示されます。

(d)授業機能・・・・・・・・・・・・授業構成、学習進捗、履修状況、成績など授業に関する各種機能を使用することができます。

(e)履修者一覧・・・・・・・・・選択した授業を履修している学生のリストが表示されます。
参加中（学習中）の学生は、名前の左側にあるアイコンがカラー表示されます。

(f)ディスカッション一覧・・選択した授業のディスカッションのリストが表示されます。

(g)ライブ授業一覧・・・・・・選択した授業のライブ授業のリストが表示されます。

7-2 サマリーレポート

サマリーレポートは授業を横断してアイテムの実施状況や評価情報を閲覧することができます。

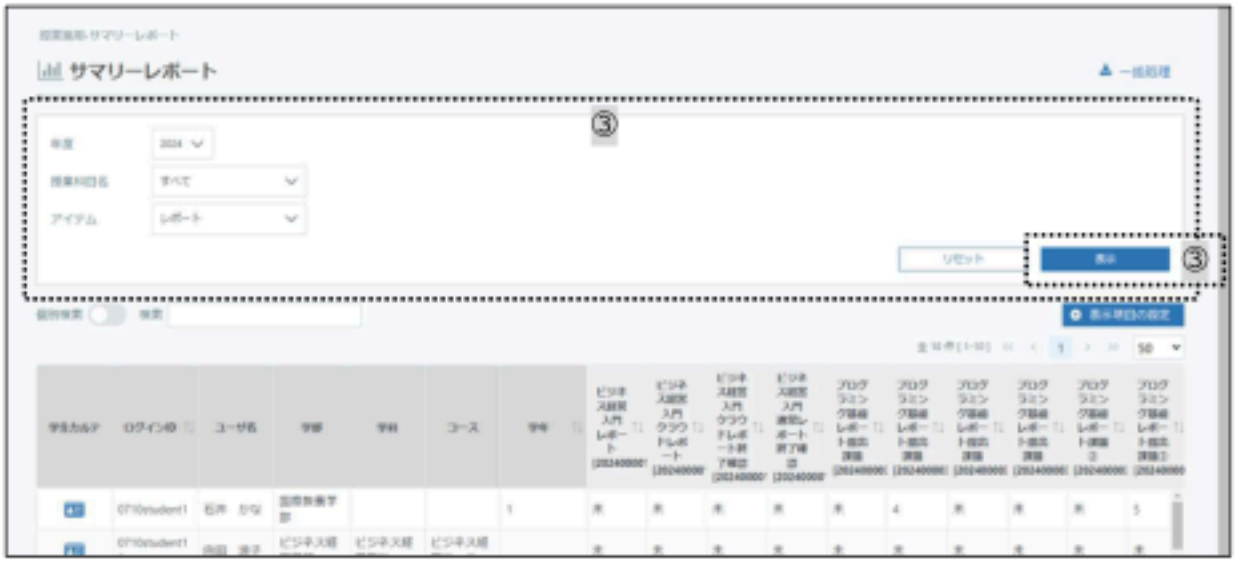
7-2-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[授業運用]-[サマリーレポート]をクリックします。

② 「サマリーレポート」画面が表示されます。

③ 必要な条件を入力して、[表示]ボタンをクリックします。



メモ

サマリーレポートの表示結果は CSV でダウンロードすることができます。

8. コミュニケーション

コミュニケーションは、お知らせ管理や問い合わせ管理など、学生や教職員間での情報共有やサポートを効果的に行う機能です。

8-1 お知らせ管理

お知らせ管理は、学務や授業担当の教員からのお知らせを掲載し提供するための機能です。
ここでは、お知らせの作成、公開、閲覧状況の確認方法を説明します。

8-1-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[コミュニケーション]-[お知らせ管理]をクリックします。
② 「お知らせ管理」画面が表示されます。

8-1-2 お知らせの公開と管理

お知らせの配信先は以下のように設定できます。

① すべて（e-Campus+に登録しているすべてのユーザ）

② 学生 （ユーザ種別が学生、保護者のユーザ）

③ 保護者（ユーザ種別が保護者のユーザのみ）

お知らせの作成と公開

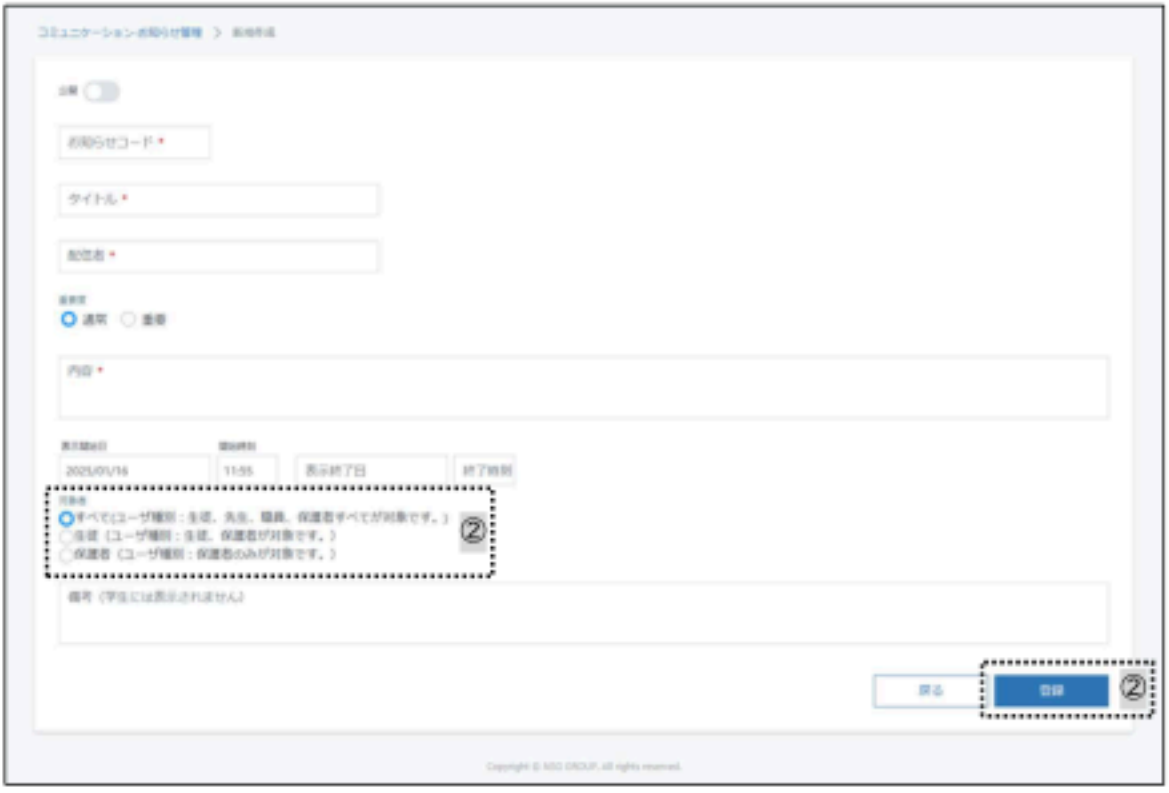
ここでは、e-Campus+に登録しているすべてのユーザを配信先とする場合と、特定のクラス、グループ、学年を指定した配信先とする場合の方法を説明します。

すべてのユーザを配信先とする場合

① ナビゲーションバーから［コミュニケーション］-［お知らせ管理］へ進み、［新規作成］ボタンをクリックします。

② 必要な情報を入力し、[対象者]の[すべて]を選択し、[登録]ボタンをクリックします。

設定項目名	説明
公開（必須）	お知らせの現在の状態を示します。 （トグルスイッチ：オフ）下書きとして保存され、入力した内容は配信されません。 （トグルスイッチ：オン）入力した内容が対象者に配信されます。
お知らせコード（必須）	お知らせを特定するための一意のコードです。
タイトル（必須）	題名や概要を示します。
配信者（必須）	発信者を示します。
重要度	緊急性や重要性のレベルを指定します。
内容（必須）	詳細な説明や情報を記載します。
表示開始日時	お知らせが表示され始める日時です。
表示終了日時	お知らせが表示されなくなる日時です。
対象者	すべて(ユーザ種別：生徒、先生、職員、保護者すべてが対象です。)／ 生徒（ユーザ種別：生徒、保護者が対象です。）／ 保護者（ユーザ種別：保護者のみが対象です。）
備考	お知らせに関連する追加情報や注記ができます。



③ 完了メッセージが表示されるので、[戻る]ボタンをクリックし「お知らせ一覧」画面へ戻ります。

学生を指定した配信先とする場合

① 「お知らせ管理」画面から[新規作成]ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。

② 対象者の[生徒]のラジオボタンをクリックします。

③ [対象者]の下部に設定項目が表示されます。

④ [組織選択]ボタンをクリックします。

⑤「対象組織追加」ダイアログが表示され、組織の一覧が表示されます。

⑥ 配信対象とする組織のチェックボックスをオンにし、[追加]ボタンをクリックします。

⑦「新規作成」画面に戻ると、対象者に追加した組織が表示されています。

⑧ 続いてグループも追加する場合は、[グループ選択]ボタンをクリックします。

⑨「対象グループ追加」ダイアログが表示され、配信対象とするグループのチェックボックスをオンにします。

⑩ [追加]ボタンをクリックします。

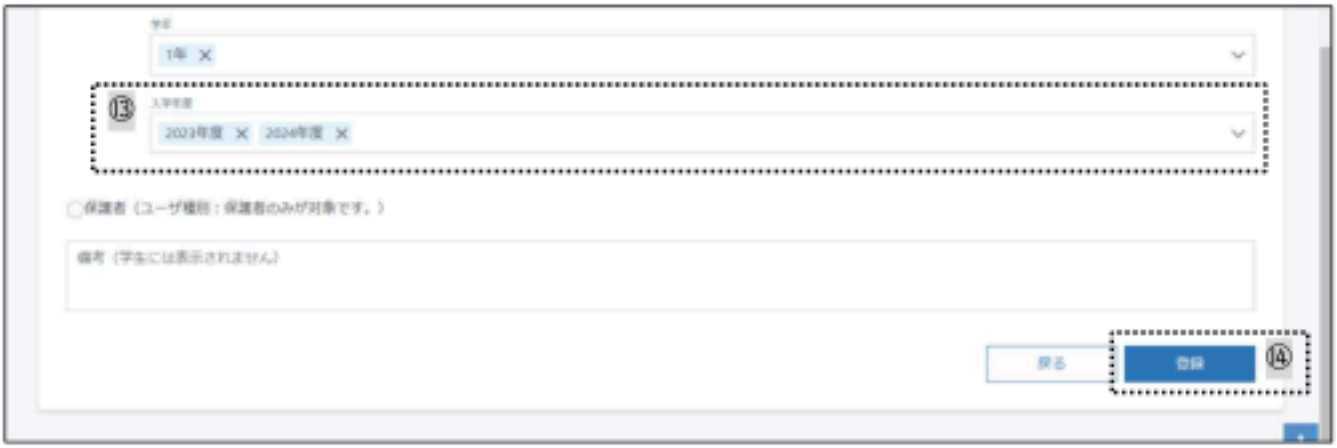
⑪「新規作成」画面に戻ると、追加したグループが表示されます。

さらに、選択した配信対象者を、学年や入学年度で絞り込むができます。

⑫ 学年で絞り込むには、[学年]プルダウンリストから学年を選択します。

⑬ 入学年度でも絞り込む場合は、[入学年度]プルダウンリストから入学年度を選択します。

⑭ 対象者の設定をすべて終えたら、[登録]ボタンをクリックします。



⑮ 完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると「お知らせ一覧」画面へ戻ります。

メモ

・該当の学生へ配信されたお知らせは、保護者も閲覧することができます。

保護者を指定した配信先とする場合

① 「お知らせ管理」画面から［新規作成］ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。

② 対象者の[保護者]のラジオボタンをクリックします。

③ これ以降は、［学生を指定した配信先とする場合］と同様に、必要に応じて［組織］、［グループ］、［学年］、［入学年度］を設定します。

メモ

・ラジオボタンで［保護者］を選択すると保護者だけに配信することができます。

メモ

・[表示期間]を設定することで、お知らせが特定の期間内でのみ表示されるように制御できます。
また、[重要度]を設定すると閲覧者に[重要]マークが表示されます。

(学生用)お知らせガジェット

(学生用)「お知らせ」画面

・お知らせの対象者として[学年]と[入学年度]を設定した場合は、指定した組織やグループに属する学生の中から、設定した[学年]と[入学年度]の学生に対し、お知らせが公開されます。

8-1-3 お知らせの更新と閲覧状況確認

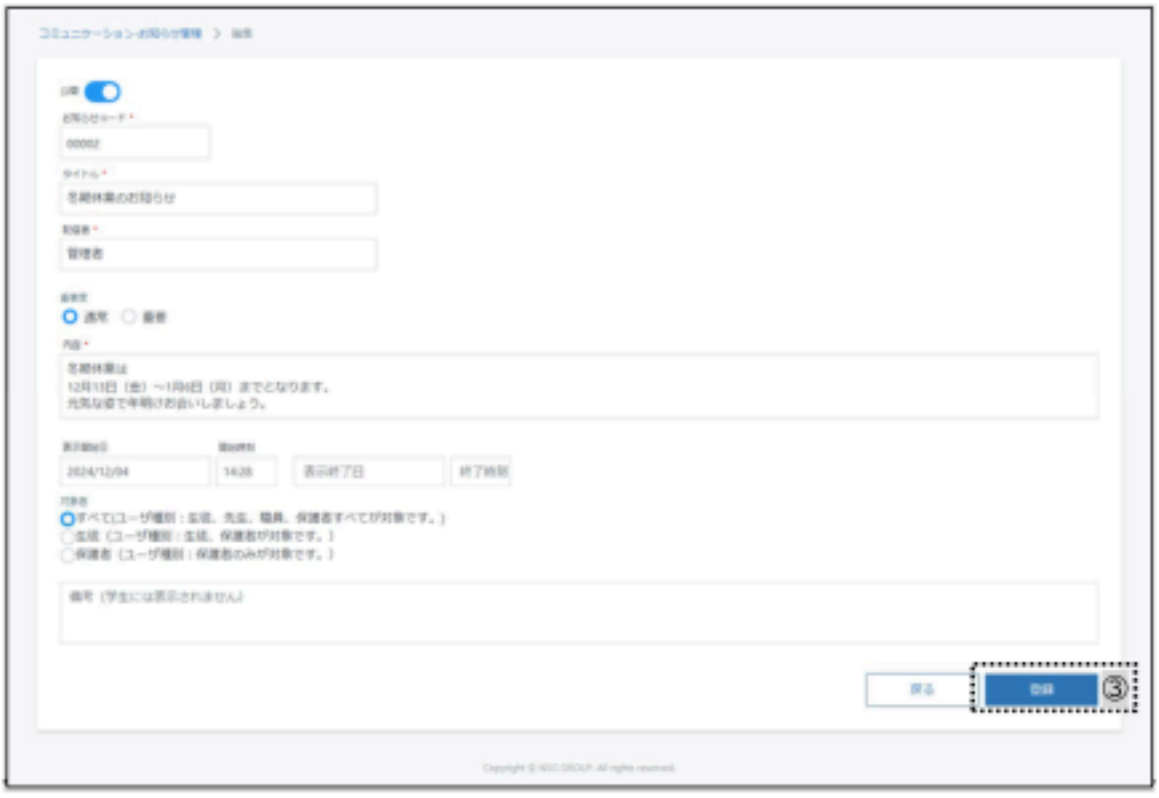
お知らせの編集と更新

既存のお知らせを編集する方法を説明します。

① ナビゲーションバーから[コミュニケーション]-[お知らせ管理]をクリックします。

② 編集したいお知らせの[ ]アイコンをクリックします。

③ 変更を加えた後、[登録]ボタンをクリックします。



メモ

[状態]で[公開]が設定されたお知らせは、表示開始日時にシステムメッセージが送信されます。また、公開期間中にお知らせの編集を行った場合は、登録後に再度システムメッセージが送信されます。お知らせを削除した場合は、送信済のシステムメッセージも削除され、対象者に表示されなくなります。

お知らせの閲覧状況確認

お知らせの閲覧状況を確認するには、各お知らせの詳細ページから参照します。

① 「お知らせ管理」画面の[状況]ボタンをクリックします。

② 通知されたユーザの一覧が表示されますので、[状態]列で未読を確認します。

8-1-4 お知らせの確認

お知らせガジェット

配信されたお知らせは、対象者のお知らせガジェットを通じて、最新のお知らせを確認することができます。このガジェットは、新しいお知らせがある場合に自動的に更新され、直接クリックして内容を読むことができます。

ナビゲーションバーからのお知らせ

ナビゲーションバーの[コミュニケーション]-[お知らせ]を通じてお知らせを確認することができます。ここから、全体または特定のグループ向けに配信されたお知らせを閲覧することが可能です。

8-2 問い合わせ管理

8-2-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[コミュニケーション]-[問い合わせ管理]をクリックします。

② 「問い合わせ一覧」画面が表示され、既読か未読かを確認できます。

メモ

[状態（未読/既読）]は問い合わせ対応者の中で誰かひとりでも読めば、既読になります。

8-2-2 問い合わせ内容の表示と対応

質問と回答は、時系列順に並べられ、対話形式でのやり取りが可能です。各質問は、質問コード、カテゴリ、タイトル、送信者、宛先といった情報とともに表示されます。回答する際は、テキストフォームを利用して対話形式で応答します。過去の対応履歴も参照することができます。

① ナビゲーションバーから[コミュニケーション]-[問い合わせ管理]をクリックして、「問い合わせ一覧」画面を開きます。
② 回答を行いたい質問の[確認]ボタンをクリックします。

③「質問回答」画面が表示されるので、回答をテキストフォームに入力します。
④ 回答内容を確認し、[回答する]ボタンをクリックして送信します。

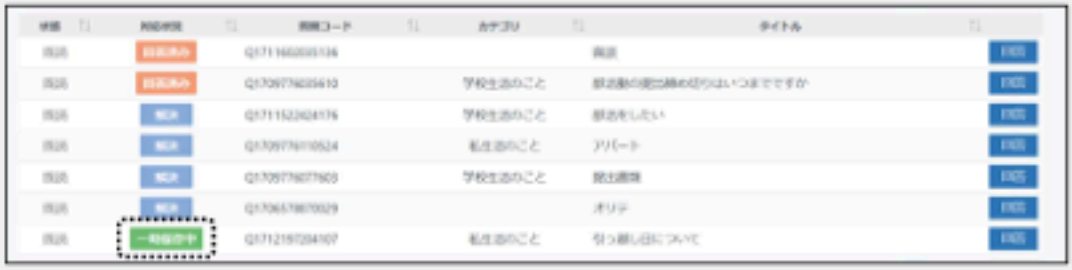
メモ

学生からの問い合わせは「問い合わせ一覧」画面の[対応状況]で、「未回答」「回答済み」「解決」などの状況を確認することができます。複数名の教職員で対応をしても状況を共有することができます。
また、過去の対応履歴を確認することで、以前の質問や回答を参照し、より適切な回答を提供することができます。

メモ

[一時保存]ボタンをクリックすると、回答内容は一時保存され、[対応状況]が「一時保存中」の状態になります。

保存した回答内容は、学生には送信されませんが、教員・職員の方には共有されています。



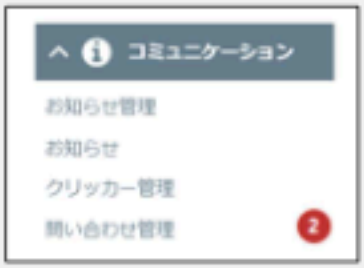
メモ

学生から問い合わせが届くと、通知が届きますが、

今後、ナビゲーションバーの[コミュニケーション]-[問い合わせ管理]にも

赤いバッジが表示される予定です。

未読の問い合わせ件数が一目でわかりやすくなります。



8-3 設定・編集

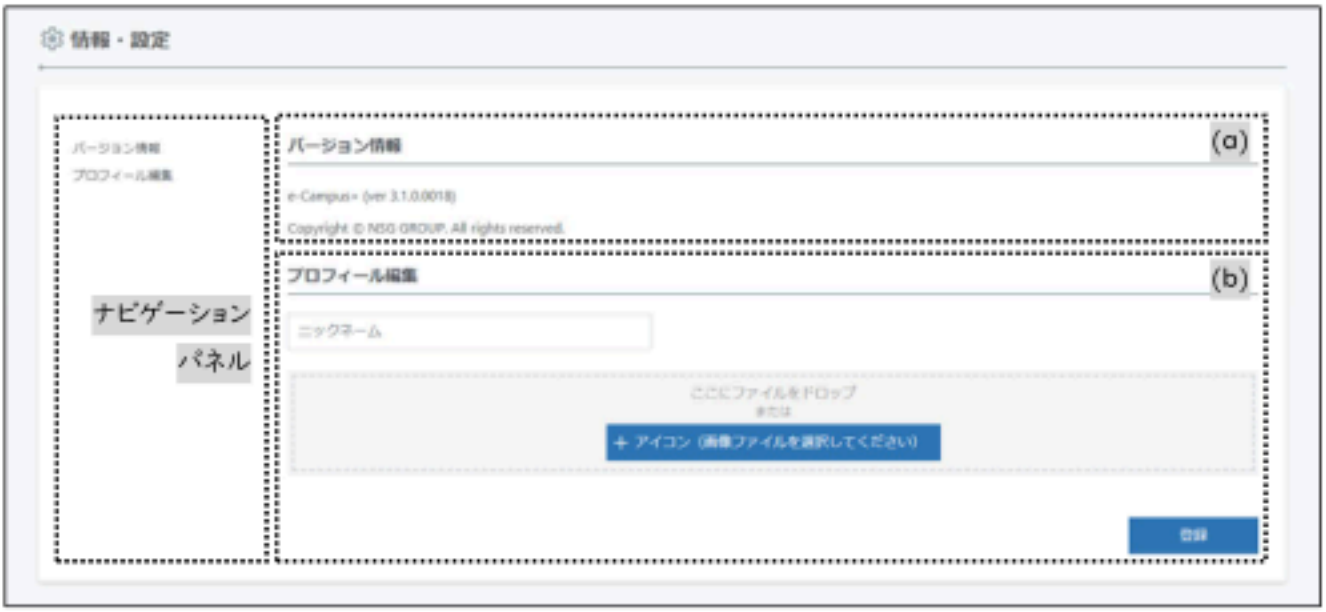
8-3-1 情報・設定の編集とカスタマイズ

自身のニックネーム、アイコン画像を変更することができます。ニックネームやアイコンは、授業内のディスカッションやチャット機能で表示されます。

① ログイン後、画面上部のヘッダーにある[ユーザ名]をクリックします。

② 表示されるドロップダウンリストから[情報・設定]を選択します。

③「情報・設定」画面が表示されます。

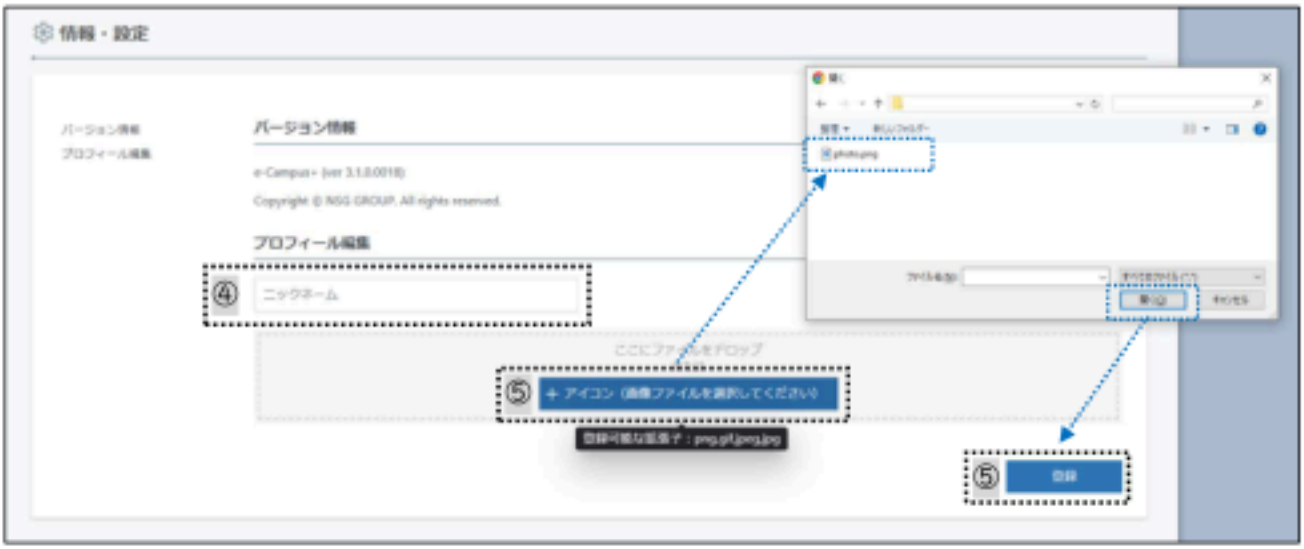


(a) バージョン情報…… 現在使用しているシステムのバージョンが表示されます。

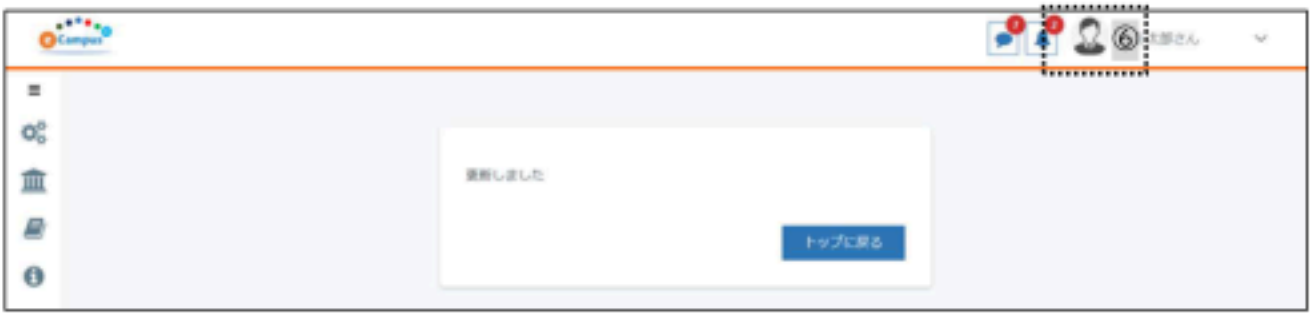
(b) プロフィール編集 …… ニックネーム、アイコン画像の編集を行います。

④ ニックネームを入力します。

⑤ アイコン画像の編集を行い、[登録]ボタンをクリックして更新を完了します。



⑥ 更新されたプロフィール情報は、システム上で即座に反映され、他のユーザからも新しい情報として確認することができます。



メモ

ニックネームは主にディスカッションや、動画アイテムのコメントの投稿者表示などで使用されます。

メモ

今後、プッシュ通知機能が搭載予定です。プッシュ通知機能では[ログアウト]ボタンが右上の[アカウント情報]-[情報・設定]メニュー内に表示されます。

8-4 チャット

チャットは、学生 - 教職員間でコミュニケーションをとることができる機能です。
チャット機能に新しい通知がある場合、チャットの起動ボタンにカウント表示されます。また、個人の発言やスレッドに返信があった際は、システムメッセージで通知されます。

8-4-1 チャットの利用

チャットは、教員が設定したグループや授業内チャットでコミュニケーションを行うことが可能です。

機能への遷移

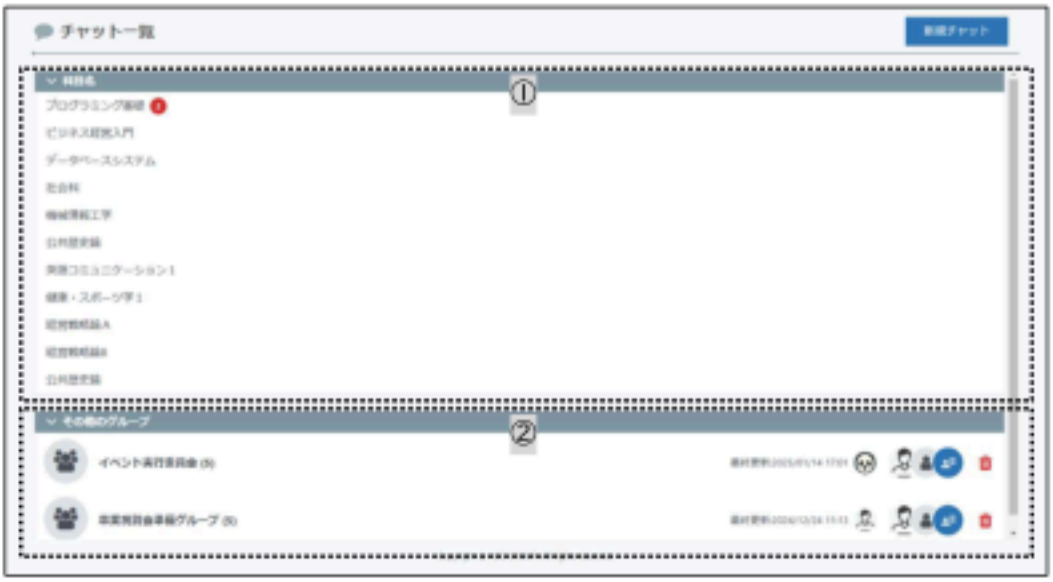
① ログイン後、ヘッダーから [チャット]アイコンをクリックします。

② チャット一覧が表示されます。

チャット一覧の画面構成

① 授業のチャット：担当する授業科目ごとのグループチャットです。履修する学生と担当教員がグループのメンバーです。授業のチャットは自動的に作られます。

② グループチャット：特定の学生と教員間のグループチャットです。学年や学部、学科などの組織を超えてメンバーを設定することができるため、共通の趣味を持つサークルなどのグループチャットとして活用することができます。



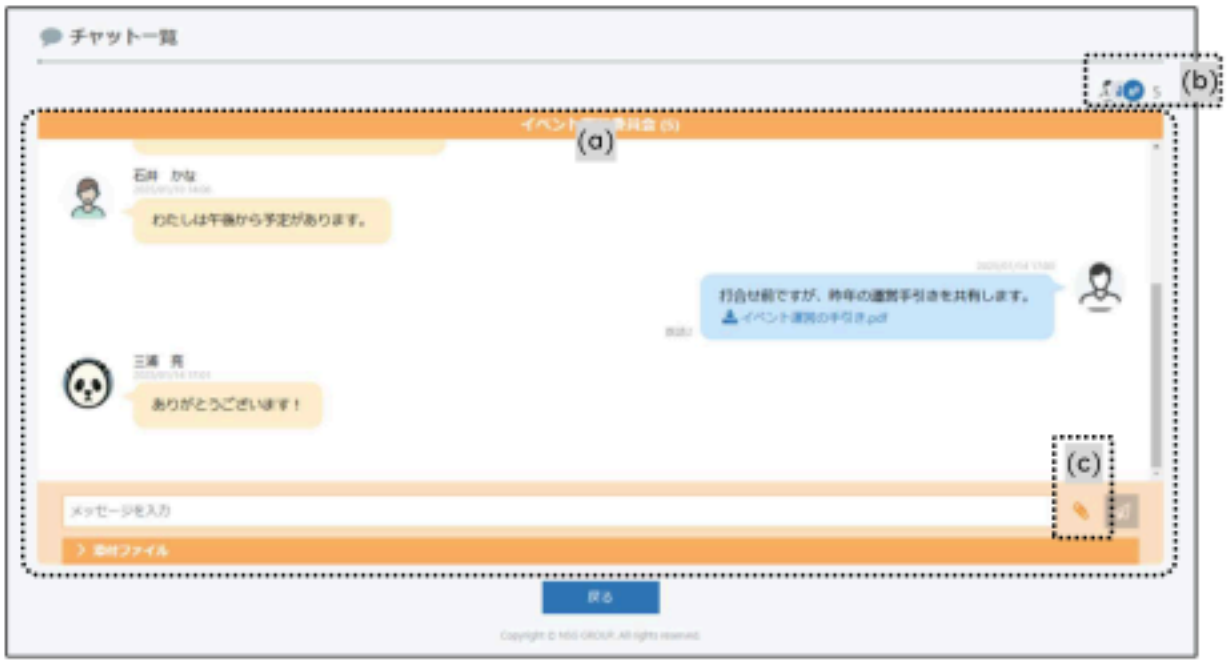
チャットでの会話

チャット機能の画面構成

(a) ［対話表示エリア］…… メッセージを入力し、送信します。自分の発言は右側に、相手の発言は左側に時系列順に表示されます。

(b) ［プロパティ］アイコン …… グループのメンバーを確認することができます。

(c) ［クリップ］アイコン …… 添付ファイルを添付することができます。



チャットの開始方法

①「チャット一覧」画面からチャットを開始するグループを選択します。

②[対話表示エリア]が表示されます。

③ 対話表示エリアの下部にあるテキストエリアへ入力し[送信]ボタンをクリックします。

メモ

・チャットの投稿は即時送受信され、返信はシステムメッセージへ通知が届きます。また、未読のメッセージがある場合、ヘッダーにある[チャット]アイコンにバッジが表示されます。

・画像や PDF ファイルの送信を行うことができます。

・学生同士が自由にグループを作成することはできません。

9. イベント

9-1 スケジュール管理

9-1-1 機能と画面遷移

機能への遷移方法

① ナビゲーションバーから[イベント]-[スケジュール管理]をクリックします。

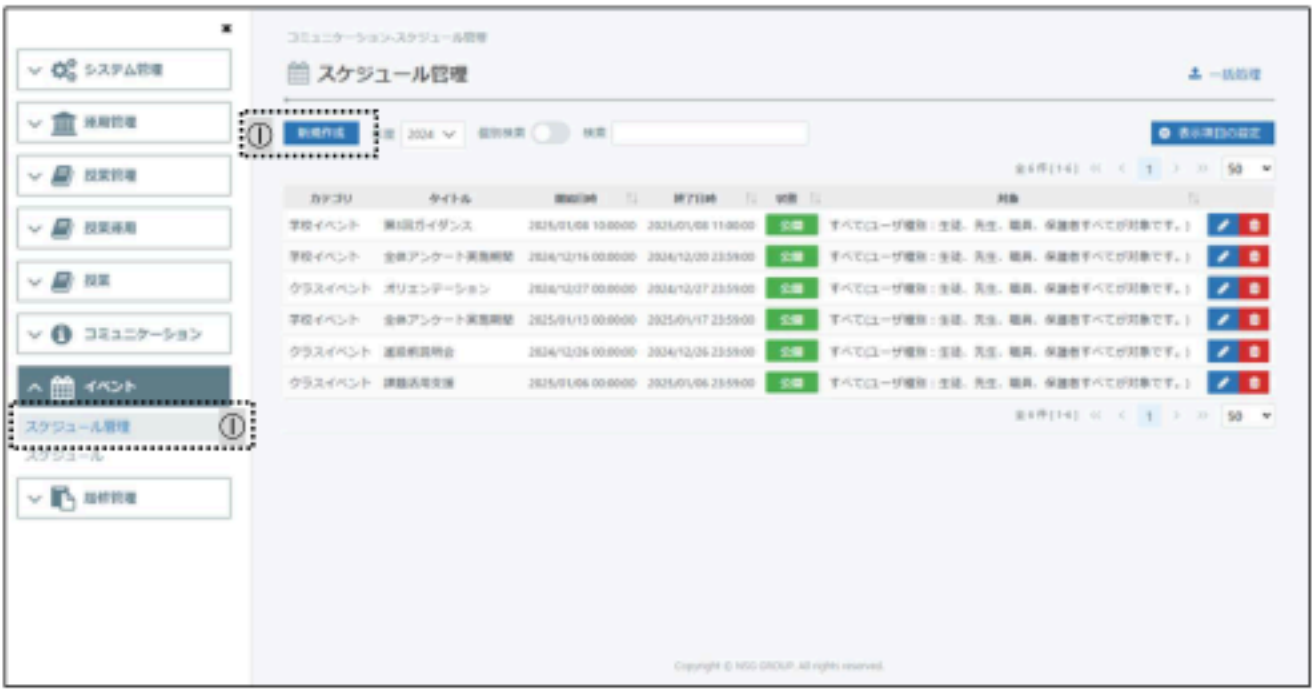
② 「スケジュール管理」画面が表示されます。

9-1-2 スケジュールの新規作成

スケジュールの新規作成と公開

学校行事や課外活動などのスケジュールを対象者となるクラスや学年などを指定して配信することができます。

① ナビゲーションバーから[イベント]-[スケジュール管理]に進み、[新規作成]ボタンをクリックします。



② 必要な情報を入力し、全員に配信する場合は[すべて]を選択します。

設定項目名	説明
公開（必須）	スケジュールの現在の状態を示します。 （トグルスイッチ：オフ）下書きとして保存され、入力した内容は配信されません。 （トグルスイッチ：オン）入力した内容が対象者に配信されます。
カテゴリ	カテゴリを選択します。カテゴリはシステム設定で事前登録されています。
タイトル（必須）	タイトルを設定します。
開始日時（必須）	掲示の開始日時を設定します。
終了日時（必須）	掲示の終了日時を設定します。
終日フラグ	掲示の時間を設定せず、終日掲示の場合にフラグのチェックをオンにします。
詳細	本文を設定します。
対象者	生徒（ユーザ種別：生徒、保護者が対象です。）／ すべて(ユーザ種別：生徒、先生、職員、保護者すべてが対象です。)
備考	備考を入力します。（学生には表示されません。）

③ [登録]ボタンをクリックします。

④ 完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると、一覧画面へ戻ります。

スケジュール情報の編集と更新

① 「スケジュール管理」画面で編集したいスケジュールの [ ] アイコンをクリックします。

② 変更を加えた後、[登録] ボタンをクリックして変更を適用します。

スケジュールの削除

①「スケジュール管理」画面で削除したいスケジュールの[🗑]アイコンをクリックします。

② 確認ダイアログが表示されたら、[削除]ボタンをクリックします。

③ 完了メッセージが表示され、[閉じる]ボタンをクリックすると一覧画面へ戻ります。

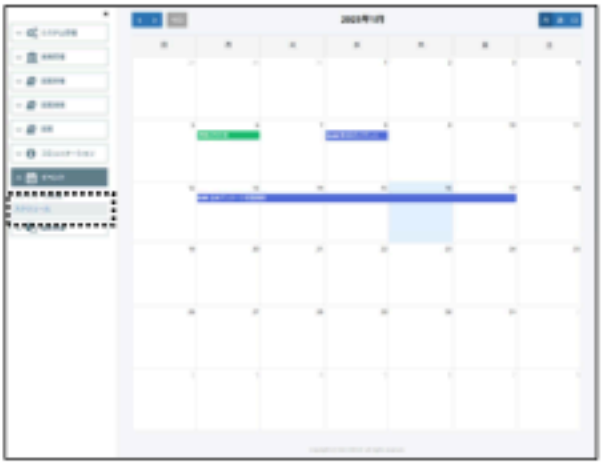
9-1-3 スケジュールの確認

スケジュールガジェット

スケジュールガジェットは、e-Campus+のトップページに表示され、直近の学事予定やイベントを簡単に確認することができます。このガジェットを利用することで、学生はナビゲーションバーを通じてスケジュール機能に直接アクセスする必要なく、即座に重要な日程を把握することができます。

スケジュール機能

スケジュールは、ナビゲーションバーの[イベント]-[スケジュール]をクリックすることで確認することもできます。表示される月間カレンダーでは、各日に予定されている学事イベントや重要な日程が確認できます。[月/週/日]ボタンを使用して表示を切り替え、特定の予定の詳細を確認することができます。



メモ

・スケジュール機能では、学事予定やイベントなど用途に合わせてスケジュールの表示色を設定することができます。例えば、試験日や提出期限など、重要度に応じた色分けを設定することもできます。

・[/]ボタンを使用して、カレンダーの表示月を変更できます。
[今日]ボタンをクリックすると、現在の月（または週、日）に戻ることができます。

・登録したスケジュールは、学生や保護者のトップページのスケジュールガジェットにも表示されます。

10. 履修管理

10-1 履修管理

10-1-1 機能と画面遷移

履修管理は、授業ごとの履修申請者の確認、履修申請の承認/却下、履修確定処理、および履修確定者の確認が可能です。

機能への遷移方法

[履修管理]からの遷移

① ナビゲーションバーから[履修管理] －[履修管理]をクリックします。

②「履修管理」画面が表示されます。

[授業運用]から遷移

① ナビゲーションメニューから[授業運用] －[担当授業]－[詳細]をクリックします。

② [担当授業]画面の [履修]ボタンをクリックします。

10-1-2 履修申請の管理

履修申請者の確認

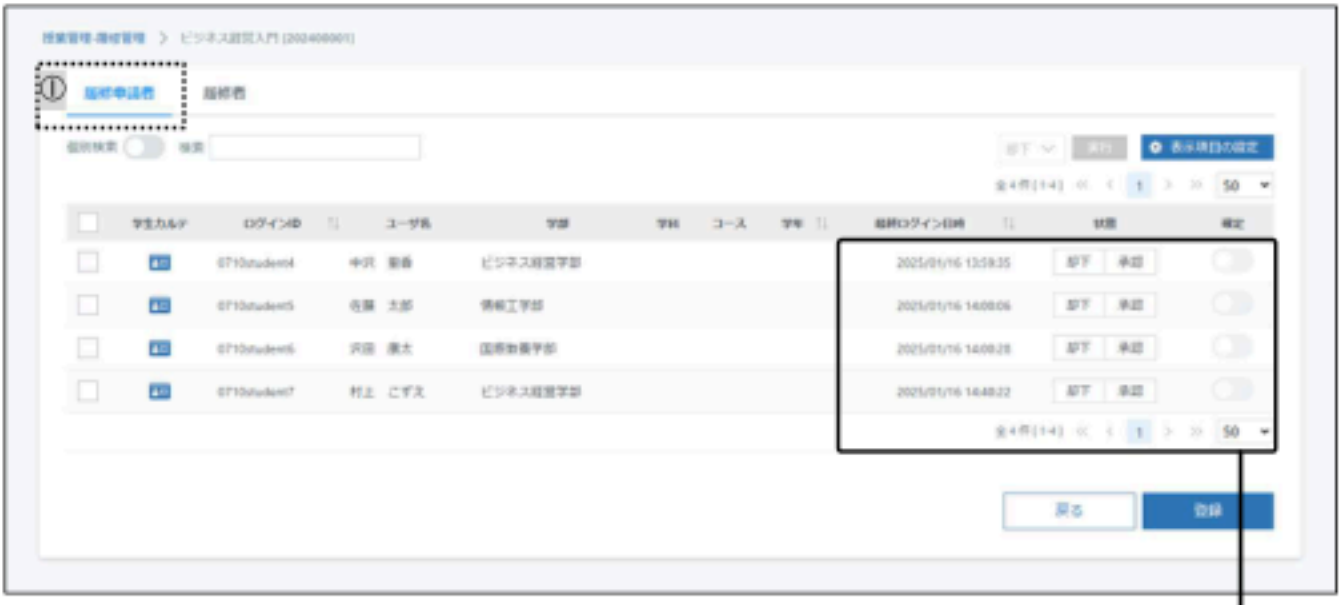
① ナビゲーションバーから[履修管理] － [履修管理]をクリックします。

② 履修申請者を確認したい授業の[操作]列から[表示]ボタンをクリックします。

③ [履修申請者]タブが開き、履修申請をした学生が一覧で確認できます。

履修申請の承認と却下

① [履修申請者]タブをクリックします。



② [状態]列の[承認]または[却下]をクリックし、履修申請の判定操作を行います。

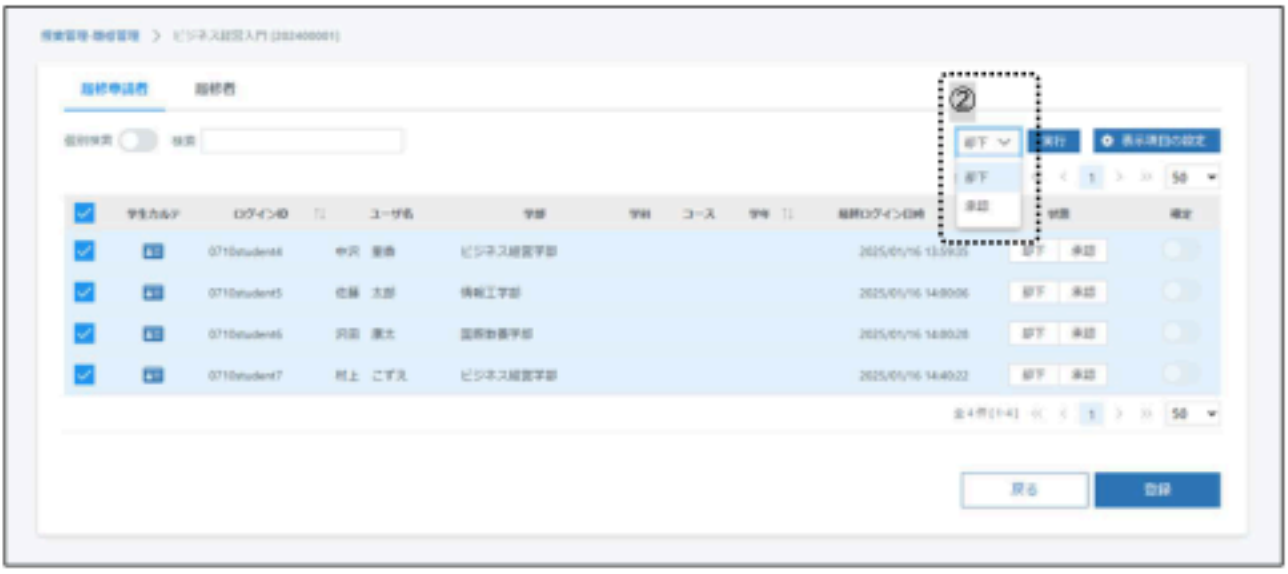
③ 一連の判定操作が完了した後に、[登録]ボタンをクリックします。

承認と却下の一括処理

承認と却下は一括で処理することが可能です。

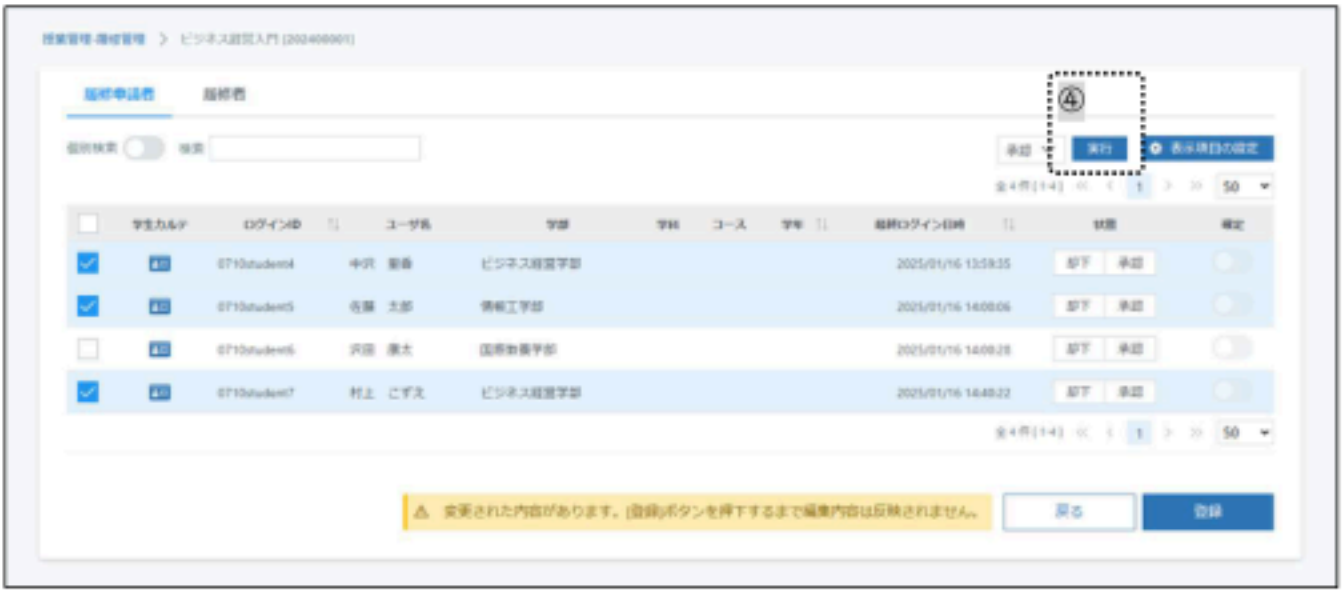
① [履修申請者]タブの一覧画面上の[全選択]ボタンをオンにします。

② 右上に表示される[却下／承認]ドロップダウンリストで[却下]か[承認]を選択します。

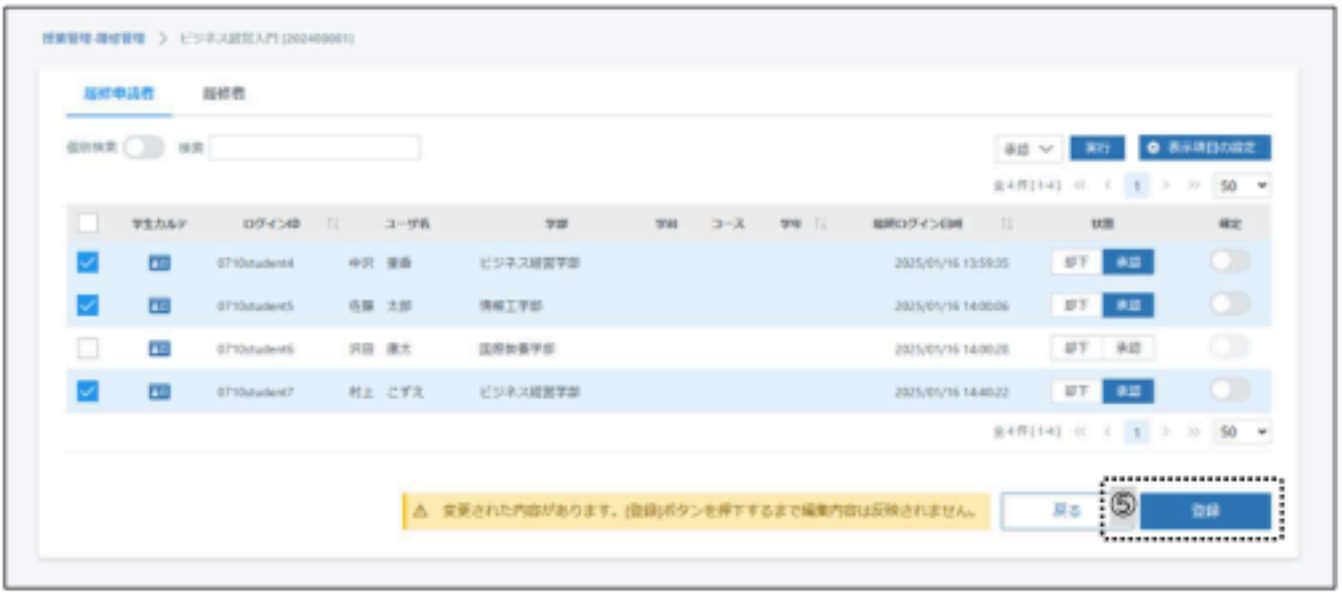


③ ②で選択した[却下]もしくは[承認]の対象者以外のチェックボックスはオフにします。

④ [実行]ボタンをクリックします。



⑤ [登録]ボタンをクリックします。



⑥ 完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面へ戻ります。

10-1-3 履修確定者の管理

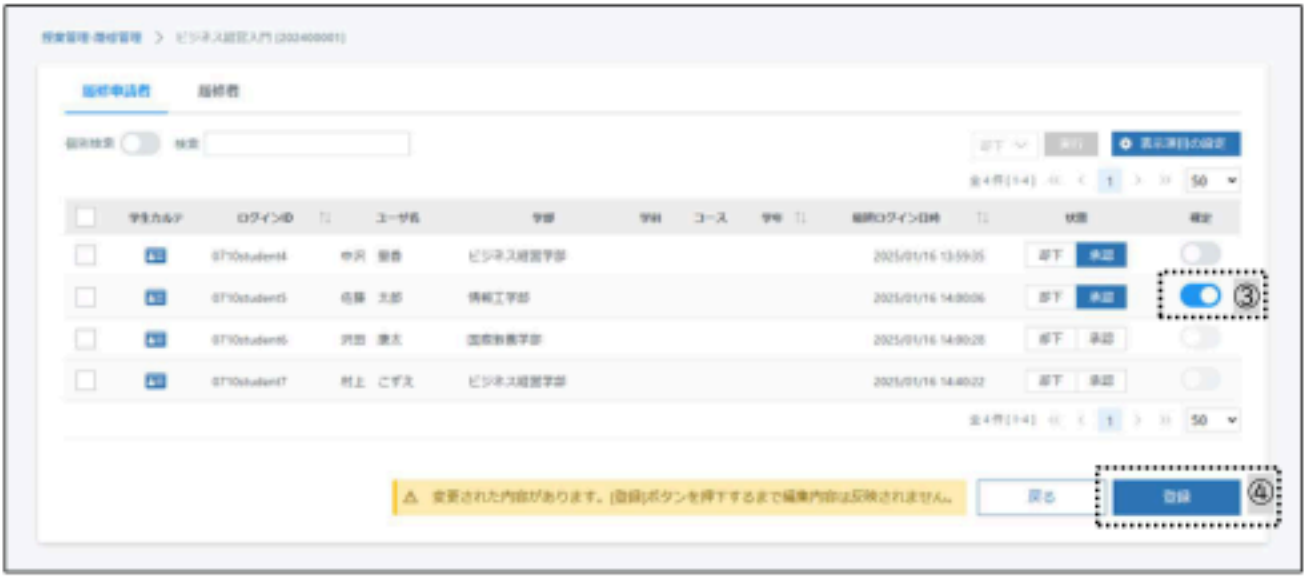
履修確定処理

①「履修管理」画面から[表示]ボタンをクリックします。

②[履修申請者]タブの[状態]列にて、[承認]もしくは[却下]ボタンがオンになっている学生を確認します。

③ その学生の[確定]トグルスイッチをオンにします。

④ [登録]ボタンをクリックします。



⑤ コメント確認のダイアログが表示されます。

履修確定通知をコメント付きで送る場合は、[確定された学生にコメントを送付する]を選択し、

下部から選択したいコメントのラジオボタンをオンにしてください。

⑥ [送信]ボタンをクリックします。

⑦ 処理完了メッセージが表示され、[戻る]ボタンをクリックすると一覧画面へ戻ります。

メモ

履修確定の通知コメントはあらかじめ学校システム管理者によって設定されています。なお、通知は履修の承認および却下の確定を行った学生に送られ、以前に確定した学生には送信されません。
履修確定の通知に、コメントを付けない場合は、[コメントを付けずに履修確定通知を送信する]を選択し、[実行]ボタンをクリックします。

メモ

「履修管理」画面の[履修申請者確定]ボタンは、承認または却下の確定処理を一括で実行します。結果は、学生に一斉に通知されます。個別に一件ずつ処理することも可能ですが、このボタンを活用することで、科目を横断した全ての履修申請を一括で確定し、効率よく学生への通知を行うことができます。

履修確定者の確認

① 履修確定処理後、「履修管理」画面から、履修確定者一覧を表示する授業列の[表示]ボタンをクリックします。

② [履修者]タブをクリックします。

③「確定者一覧」画面が表示されます。

履修確定者の削除

履修確定者の削除は、「履修者」タブから直接行うことができます。

① 「確定者一覧」画面の削除したい学生の横にある[ ]アイコンをクリックします。

メモ

履修確定者の削除は「期間管理」画面で設定している「履修可能期間」内に行うと、学生は再度、履修申請画面で申請処理を行うことができます。

11．システムメッセージ

本システムでは、お知らせの通知、チャットに対する返信の通知、大学や教員への問い合わせの通知など、さまざまな通知を自動的に行います。これらのメッセージをシステムメッセージといいます。

11-1　システムメッセージの受信と表示

通知は、画面のヘッダーにある[ベル]アイコンにまとめて表示されます。
未読のメッセージがある場合、[ベル]アイコンに未読件数を示すバッジが表示されます。
件数表示は既読になるまで表示されます。

①[ベル]アイコンをクリックします。

②表示されたシステムメッセージ一覧から、確認したいメッセージをクリックします。

③メッセージが表示されます。

システムメッセージエリアには、下記機能の通知が表示されます。

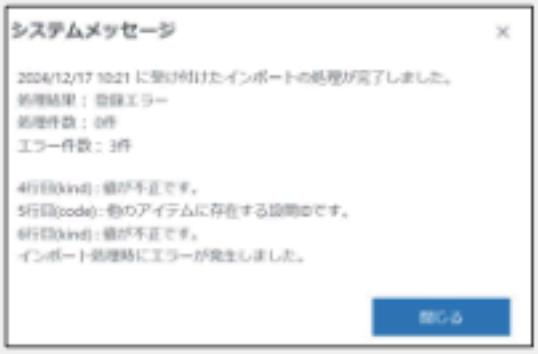
機能	通知される内容
チャット	授業チャット、授業外のグループチャットでグループのメンバーが送信したときの通知です。
お知らせ	お知らせが配信されると送信される通知です。
質問	授業の担当教員へ、学生から質問があったときの通知です。
インポート処理結果	各機能でインポート処理を行ったときの、処理結果を知らせる通知です。

メモ

今後プッシュ通知機能が搭載される予定です。プッシュ通知機能では、システムメッセージで通知されるメッセージが各端末に届きますが、通知のオン／オフを各機能ごとに設定することができます。

メモ

「インポート処理結果」では、インポートがエラーだった場合に、どの値がエラーだったのかを確認することができます。



107	9784798169934	1034702190	ビジネスデザインのための行動経済学ノート：バイアスとナッジでユーザーの心理と行動をデザインす	中島亮太郎	翔泳社	202109
108	9784492444740	1036220873	ＷＯＫＥ　ＣＡＰＩＴＡＬＩＳＭ「意識高い系」資本主義が民主主義を滅ぼす	カール・ローズ：庭田よう子	東洋経済新報社	202304
109	9784799327272	1036341199	世界のビジネス書５０の名著	トム・パトラー・ボードン：大間知知子	ディスカヴァー・トゥエンティワン	202103
110	9784861403491	1035894212	テーマ・ジャンルからさがすビジネス支援本２０１８―事業の経営を考える本―	ＤＢジャパン	ＤＢジャパン	202303
111	9784326504992	1036652445	ＭＢＡテキスト経営学入門	幸田達郎	勁草書房	202308
112	9784830951589	1037154324	創造する経営学	経営学史学会：桑田耕太郎	文眞堂	202302
113	9784830951503	1037154315	ドラッカー研究：思索の展開と焦点	春日賢	文眞堂	202208
114	9784487816903	1036942115	サステナビリティ：ＳＤＧｓ以後の最重要生存戦略	水上武彦	東京書籍	202307
115	9784830952203	1037154370	経営倫理入門：サステナビリティ経営をめざして	日本経営倫理学会	文眞堂	202303
116	9784866922201	1035192786	組織倫理論の可能性：経営の解釈・実践枠組み探究への新たなる地平	谷口照三	大学教育出版	202209
117	9784502387616	1033756688	エモーショナルコンプライアンス：遵守の強制から誇りある行動を導く	増田英次	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202107
118	9784866922522	1036043953	世界を創る日本企業のみかた：ビジネスミクロ分析のすすめ	林隆一	大学教育出版	202304
119	9784495210410	1036353243	コーポレート・ガバナンス「本当にそうなのか？」：大量データから見る真実．２	円谷昭一	同文舘出版	202303
120	9784830951985	1037154351	グローバル化の進展と市場開発：多国籍企業の競争と「協調」	竹田志郎	文眞堂	202211
121	9784274229497	1035758149	プロジェクトマネジメント標準ＰＭＢＯＫ入門：ＰＭＢＯＫ第７版対応版	広兼修	オーム社	202211
122	9784492962152	1035709614	プロジェクトの成功率の高め方：「ＰＭエコシステム」で不確実な時代を乗り越える	和田智之	東洋経済新報社	202211
123	9784501633509	1034828578	センス＆レスポンド：傾聴と創造による成功する組織の共創メカニズム	ジェフ・ゴーセルフ：ジョシュ・セイデン	東京電機大学出版局	202205
124	9784492534366	1033350672	パーパス経営：３０年先の視点から現在を捉える	名和高司	東洋経済新報社	202105
125	9784492522271	1032310431	ＫＰＩ大全：重要経営指標１００の読み方＆使い方	グロービス：嶋田毅	東洋経済新報社	202009
126	9784492534670	1037099394	ディスカバリー・ドリブン戦略：かつてないほど不確実な世界で「成長を最大化」する方	リタ・マグレイス：入山章栄	東洋経済新報社	202309
127	9784502441110	1035923202	負けない戦略：経営は勝つことではなく、負けないこと	井上善海	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202211
128	9784502395017	1034234110	ビジネスモデル創造企業	伊藤嘉浩	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202109
129	9784492534311	1032551108	ＶＵＣＡ時代のグローバル戦略	パンカジュ・ゲマワット：琴坂将広	東洋経済新報社	202011
130	9784641165595	1032583895	ビジネスに役立つ経営戦略論：企業の戦略分析入門	澤田直宏	有斐閣	202003
131	9784492962114	1035842352	データドリブン経営の不都合な真実	グランバレイ：鍛治川修	東洋経済新報社	202302
132	9784295013631	1034605730	ビジネスの現場で使えるＡＩ＆データサイエンスの全知識	三好大悟	インプレス	202203
133	9784820729846	1034807657	デジタル×生命知がもたらす未来経営	松田雄馬：浅岡伴夫	日本能率協会マネジメントセンター	202202
134	9784254129113	1033756724	データサイエンス入門	笹嶋宗彦	朝倉書店	202104
135	9784320009325	1033756743	クラウドソーシングが不可能を可能にする：小さな力を集めて大きな力に変える科学と方法	森嶋厚行：喜連川優	共立出版	202005
136	9784830951534	1037154319	生産性のマネジメント：付加価値向上への進化	経営学史学会：信夫千佳子	文眞堂	202205
137	9784800590510	1036207591	戦略的人的資本の開示　運用の実務	ＨＲテクノロジーコンソーシアム	日本能率協会マネジメントセンター	202211
138	9784492557945	1031873868	コーチング・バイブル：人の潜在力を引き出す協働的コミュニケーション	ヘンリー・キムジーハウス：キャレン・キムジーハウス	東洋経済新報社	202007
139	9784820728023	1035183698	ピープルアナリティクスの教科書：組織・人事データの実践的活用法	ピープルアナリティクス＆ＨＲテクノロジー：北崎茂	日本能率協会マネジメントセンター	202005
140	9784502332319	1031814458	Ｑ＆Ａ発達障害・うつ・ハラスメントの労務対応：女性活躍・ハラスメント規制法に対応！	布施直春	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202001
141	9784254129120	1033756725	データの前処理	羽室行信	朝倉書店	202106
142	9784492534212	1031873869	「つながる世界」のサイバーリスク・マネジメント：「Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０」時代のサプライチェーン戦略	佐々木良一：木下翔太郎	東洋経済新報社	202003
143	9784641222137	1036483334	新・現代の財務管理	榊原茂樹：新井富雄	有斐閣	202304
144	9784502421518	1034871871	戦略的コストマネジメント	梶原武久	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202203
145	9784766428490	1035758127	会計学を索ねて：基本概念と存在理由	友岡賛	慶應義塾大学出版会	202210
146	9784502328619	1031814461	ヨーロッパの会計規制	本田良巳	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202002
147	9784502352010	1033753112	注文の多い料理店で学ぶ収益認識会計	金子裕子：植野和宏	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202011
148	9784502334719	1032310351	知財会計論入門	金田堅太郎	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202003
149	9784502349812	1033006423	監査実施プロセスの理論と実践	小澤義昭	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202009
150	9784419065928	1031866377	中国の会計・税務・法務Ｑ＆Ａ	ＥＹ新日本有限責任監査法人	税務経理協会	202002
151	9784320096523	1036391772	データ駆動型ファイナンス：基礎理論からＰｙｔｈｏｎ機械学習による応用	吉川大介	共立出版	202207
152	9784254275889	1035182745	Ｐｙｔｈｏｎによる金融テキストマイニング	和泉潔：坂地泰紀	朝倉書店	202207
153	9784254129144	1035110547	ファイナンスデータ分析	岡田克彦	朝倉書店	202203
154	9784339028225	1033657006	マルチエージェントによる金融市場のシミュレーション	高安美佐子：和泉潔	コロナ社	202009
155	9784320115163	1034605717	金利の計算：解析学への入り口	高木悟：上江洲弘明	共立出版	202203
156	9784492733585	1032433818	誤解だらけのアセットアロケーション：実務家のためのガイド	ウィリアム・キンロー：マーク・クリッツマン	東洋経済新報社	202010
157	9784535789050	1035805665	株式市場のマルチフラクタル解析	黒田耕嗣：増川純一	日本評論社	202104
158	9784254290288	1035940342	フィナンシャルＥＲＭ：金融・保険の統合的リスク管理	ポール・スウィーティング：松山直樹	朝倉書店	202111
159	9784535607200	1035877093	アクチュアリー数学入門	黒田耕嗣：斧田浩二	日本評論社	202209
160	9784535789807	1035877094	損害保険数理	岩沢宏和：黒田耕嗣	日本評論社	202209
161	9784589041111	1033435540	一般賠償責任保険の諸課題：ＣＧＬ・保険危機の示唆と約款標準化	鴻上喜芳	法律文化社	202011
162	9784339027969	1032551130	メディア学入門	柿本正憲：大淵康成	コロナ社	202004
163	9784274227684	1034118512	ＩＲＴ項目反応理論入門：統計学の基礎から学ぶ良質なテストの作り方	高橋信	オーム社	202110
164	9784764906624	1036652500	ポール・エルデス：離散数学の魅力：伝説の講義	パシェック・フバタル：秋山仁	近代科学社	202308
165	9784320115316	1036652468	数学ソフトウェアの作り方	高山信毅：野呂正行	共立出版	202210
166	9784274228209	1034511281	離散数学：コンピュータサイエンスの基礎数学	シーモア・リップシュッツ：マーク・リプソン	オーム社	202202
167	9784535789524	1035805670	トポロジカル・インデックス：フィボナッチ数からピタゴラスの三角形までをつなぐ新	細矢治夫	日本評論社	202109
168	9784627096912	1032649777	ファーストステップ基礎数学	猪股俊光：樽松理樹	森北出版	202101
169	9784320114371	1032535616	サーストン万華鏡：人と数学の未来を見つめて	小島定吉：藤原耕二	共立出版	202009
170	9784764906242	1032583920	数学用語英和辞典：和英索引付き	蟹江幸博	近代科学社	202011
171	9784535789593	1035265767	社会に最先端の数学が求められるワケ：新しい数学と産業の協奏．１	科学技術振興機構研究開発戦略センター：高島洋典	日本評論社	202203
172	9784535789494	1035826688	ことばの数理千一夜：ことばの仕組みとパズルと数学と	小谷善行	日本評論社	202112
173	9784320114722	1036288638	計算理論と数理論理学	田中一之	共立出版	202206
174	9784785314125	1033947255	集合と位相	内田伏一	裳華房	202003
175	9784422414430	1035700962	「代数」から「微積分」への旅	マイク・ゴールドスミス：緑慎也	創元社	202005
176	9784764906457	1035927315	世界標準ＭＩＴ教科書　ストラング：教養の線形代数	ギルバート・ストラング：松崎公紀	近代科学社	202303
177	9784627057326	1034118499	線形代数	上野健爾：工学系数学教材研究会	森北出版	202112
178	9784535789616	1035826681	線形代数と数え上げ	〓〓金久	日本評論社	202112
179	9784764906006	1034044844	ストラング：線形代数とデータサイエンス	ギルバート・ストラング：松崎公紀	近代科学社	202110
180	9784535789197	1031927317	行列・行列式・ベクトルがきちんと学べる線形代数	押川元重	日本評論社	202003
181	9784254117677	1035110541	多項式と計算機代数	横山和弘	朝倉書店	202202
182	9784621305911	1032952847	連接層の導来圏と代数幾何学	上原北斗：戸田幸伸	丸善出版	202012
183	9784627057524	1036357433	確率統計	工学系数学教材研究会：上野健爾	森北出版	202306
184	9784339029345	1036652476	Ｊｕｌｉａによる数理最適化	小林和博	コロナ社	202305
185	9784274230325	1036357426	Ｅｘｃｅｌ統計学超入門	角田保	オーム社	202305
186	9784274230066	1036010349	連続最適化アルゴリズム	飯塚秀明	オーム社	202302
187	9784274230028	1035923284	Ｒによる実証分析：回帰分析から因果分析へ	星野匡郎：田中久稔	オーム社	202301
188	9784627055629	1035709620	確率統計	上野健爾：高専の数学教材研究会	森北出版	202212
189	9784798176611	1036207441	Ｐｙｔｈｏｎによるあたらしいデータ分析の教科書	寺田学：辻真吾	翔泳社	202210
190	9784762831997	1035109218	Ｒを使った〈全自動〉ベイズファクタ分析：ｊｓ－ＳＴＡＲ＿ＸＲ＋でかんたんベイズ仮説検定	田中敏：中野博幸	北大路書房	202207
191	9784764906525	1035107929	個体群生態学と行列モデル：統計学がつなぐ野外調査と数理の世界	島谷健一郎：高田壮則	近代科学社	202206
192	9784798171944	1035889690	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶあたらしい統計学の教科書	馬場真哉	翔泳社	202206
193	9784339028393	1035923230	ベイズ学習とマルコフ決定過程	中井達	コロナ社	202203
194	9784320112711	1036010301	分散分析を超えて：実データに挑む	広津千尋	共立出版	202202
195	9784798165257	1034702217	データサイエンスの無駄遣い：日常の些細な出来事を真面目に分析する	篠田裕之	翔泳社	202110
196	9784274231759	1038823965	Ｐｙｔｈｏｎではじめる数理最適化：ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう	岩永二郎：石原響太	オーム社	202109
197	9784320112704	1035758076	エシェロン解析：階層化して視る時空間データ	栗原考次：石岡文生	共立出版	202108
198	9784320125186	1035758077	データサイエンスのための確率統計	尾畑伸明	共立出版	202107
199	9784274226250	1032719422	Ｒによるデータ分析のレシピ	舟尾暢男	オーム社	202011
200	9784274226120	1034554658	Ｅｘｃｅｌによるやさしい統計解析：分析手法の使い分けと統計モデリングの基礎	荒川俊也	オーム社	202010
201	9784798165233	1034632272	Ｐｙｔｈｏｎで動かして学ぶ！Ｋａｇｇｌｅデータ分析入門	篠田裕之	翔泳社	202010
202	9784320112698	1034234170	ＥＭアルゴリズム	黒田正博	共立出版	202007
203	9784839973575	1031875423	つくりながら学ぶ！Ｐｙｔｈｏｎによる因果分析：因果推論・因果探索の実践入門	小川雄太郎	マイナビ出版	202006
204	9784254118353	1033585728	確率幾何解析	谷口説男	朝倉書店	202102
205	9784764906303	1032952878	量子探索：量子ウォークが拓く最先端アルゴリズム	今野紀雄	近代科学社	202102
206	9784627094413	1031873801	入門確率過程	竹居正登	森北出版	202007
207	9784339028386	1034328812	確率的ゲーム理論	菊田健作	コロナ社	202110
208	9784274230615	1036391798	Ｐｙｔｈｏｎによる時系列分析：予測モデル構築と企業事例	〓橋威知郎	オーム社	202306
209	9784320112728	1036391769	統計的逐次推定論	赤平昌文：小池健一	共立出版	202206
210	9784320124844	1036288640	Ｃ＆Ｆｏｒｔｒａｎ　演習で学ぶ数値計算	片桐孝洋：大島聡史	共立出版	202203
211	9784254129007	1034044827	Ｐｙｔｈｏｎによる数値計算入門	河村哲也：桑名杏奈	朝倉書店	202104
212	9784621306406	1034118495	塵劫記を読みとく百科：江戸時代の大ベストセラー和算書の世界	佐藤健一（和算研究）	丸善出版	202109
213	9784320035768	1037099442	実践計算物理学：物理を理解するためのＰｙｔｈｏｎ活用法	須藤彰三：岡真	共立出版	202301
214	9784339027983	1036288646	メディアのための物理：コンテンツ制作に使える理論と実践	大淵康成：柿本正憲	コロナ社	202204
215	9784780609509	1036335245	物理学基礎　Ｗｅｂ動画付	原康夫	学術図書出版社	202110
216	9784320036130	1034689686	工科系の物理学基礎：質点・剛体・連続体の力学	佐々木一夫：長谷川晃	共立出版	202103
217	9784320036215	1036652470	解きながら学ぶ量子力学	武藤哲也	共立出版	202211
218	9784785321420	1036427659	量子力学．１	小出昭一郎	裳華房	202206
219	9784785321437	1036427660	量子力学．２	小出昭一郎	裳華房	202206
220	9784535789555	1035826666	量子力学	萩野浩一：宮下精二	日本評論社	202203
221	9784785321413	1035714673	量子論	小出昭一郎	裳華房	202112
222	9784621306321	1033756712	漸近的安全性による重力の量子論へのアプローチ	太田信義	丸善出版	202107
223	9784320035430	1034328810	量子エンタングルメントから創発する宇宙	高柳匡：須藤彰三	共立出版	202009
224	9784785321406	1035714674	量子力学演習	小出昭一郎：水野幸夫	裳華房	202008
225	9784422215341	1034460851	フラクタル：混沌と秩序のあいだに生まれる美しい図形	オリヴァー・リントン：駒田曜	創元社	202102
226	9784785324100	1036427674	物理数学	橋爪洋一郎	裳華房	202210
227	9784320114012	1033657002	解析力学と微分方程式	谷島賢二：磯崎洋	共立出版	202004
228	9784339033816	1035182765	次世代医療ＡＩ：生体信号を介した人とＡＩの融合	計測自動制御学会：藤原幸一	コロナ社	202107
229	9784339033830	1035182767	量の理論とアナロジー	計測自動制御学会：久保和良	コロナ社	202111
230	9784535005297	1036476427	年報知的財産法．２０２２－２０２３	高林龍：三村量一	日本評論社	202212
231	9784274227585	1034118510	情報通信工学	佐藤亨	オーム社	202110
232	9784621306413	1034118496	高速デジタル信号の伝送技術：シグナル・パワーインテグリティ入門	エリック・ボガティン：須藤俊夫	丸善出版	202109
233	9784295016113	1036377065	いちばんやさしいＷｏｒｄＰｒｅｓｓの教本：６．ｘ対応　人気講師が教える本格Ｗｅｂサイトの作り	石川栄和：大串肇	インプレス	202304

234	9784798173009	1036530951	プロのコーディングが身につくＨＴＭＬ／ＣＳＳスキルアップレッスン　すぐに活かせて	千貫りこ	翔泳社	202301
235	9784798174198	1035745882	動かして学ぶ！Ｐｙｔｈｏｎ　Ｄｊａｎｇｏ開発入門	大高隆	翔泳社	202203
236	9784274227417	1034234144	Ｒｕｂｙではじめるｗｅｂアプリの作り方	久保秋真	オーム社	202111
237	9784339009446	1034605722	ＩｏＴ通信性能解析	蜷川忠三	コロナ社	202104
238	9784295008873	1031670302	Ｒｕｂｙ　ｏｎ　Ｒａｉｌｓ　６　実践ガイド：機能拡張編	黒田努	インプレス	202005
239	9784798162492	1034632273	Ｐｙｔｈｏｎで動かして学ぶ！あたらしいＩｏＴの教科書	ＶＯＳＴ	翔泳社	202003
240	9784295016137	1036104414	続・５Ｇ教科書ＮＳＡ／ＳＡから６Ｇまで	服部武（電子工学）：藤岡雅宣	インプレス	202304
241	9784295015994	1036104411	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ画像認識	田村雅人：中村克行	インプレス	202303
242	9784764906648	1036652498	ＩＴの基礎	國友義久	近代科学社	202307
243	9784422400839	1036942088	コンピュータとプログラミング	土屋誠司：芋野美紗子	創元社	202307
244	9784764906563	1035927310	自然計算の基礎	鈴木泰博	近代科学社	202302
245	9784320124851	1036288641	マイクロコンピュータ入門：高性能な８ビットＰＩＣマイコンのＣ言語によるプログ	モシニャガ・ワシリー：森元逞	共立出版	202204
246	9784274226151	1034554659	コンピュータアーキテクチャ	馬場敬信	オーム社	202011
247	9784627917224	1035502802	ＭＡＴＬＡＢ／Ｓｉｍｕｌｉｎｋによるわかりやすい制御工学	川田昌克：西岡勝博	森北出版	202211
248	9784274226304	1032583989	ＰＩＤ制御：現代制御論の視点から	志水清孝	オーム社	202011
249	9784320094659	1034044859	心を知るための人工知能：認知科学としての記号創発ロボティクス	谷口忠大	共立出版	202006
250	9784627787018	1031340555	ＭＡＴＬＡＢ／Ｓｉｍｕｌｉｎｋによる制御工学入門	川田昌克	森北出版	202002
251	9784501333805	1032326668	深層学習＆深層強化学習による電子工作　Ｃｈａｉｎｅｒ編：たのしくできる	牧野浩二：西〓博光	東京電機大学出版局	202003
252	9784274229633	1036519567	回路シミュレータＬＴｓｐｉｃｅで学ぶ電子回路	渋谷道雄	オーム社	202211
253	9784320124639	1034437421	Ｓｙｓｔｅｍ　Ｖｅｒｉｌｏｇ入門：設計・仕様・検証のためのハードウェア記述言語	篠塚一也	共立出版	202010
254	9784492558263	1036652423	ＢｔｏＢマーケティング：ＤＸ時代の成長シナリオ	余田拓郎	東洋経済新報社	202307
255	9784384060591	1036124002	刺さる英語マーケティング翻訳術	岩木貴子	三修社	202302
256	9784830952029	1037154354	すっきりわかるマーケティング戦略	隈本純：村中均	文眞堂	202301
257	9784535806153	1036249639	マーケティング	西本章宏：勝又壮太郎	日本評論社	202212
258	9784641150973	1036483335	はじめてのマーケティング	久保田進彦：澁谷覚	有斐閣	202208
259	9784641221833	1034437374	マーケティング戦略	和田充夫：恩藏直人	有斐閣	202201
260	9784254129137	1034234135	マーケティングデータ分析	中原孝信	朝倉書店	202109
261	9784274227240	1033585760	ＡＩ・データ分析モデルのレシピ	漆畑充：石井大輔	オーム社	202106
262	9784820727750	1035183709	マーケティング実践テキスト：基本技術からデジタルマーケティングまで	池上重輔	日本能率協会マネジメントセンター	202003
263	9784766428445	1035301953	アメリカ・マーケティング研究史１５講	堀越比呂志	慶應義塾大学出版会	202209
264	9784492581186	1034511239	「専門家」以外の人のためのリサーチ＆データ活用の教科書：問題解決マーケティングの秘訣は、これだ！	米田恵美子	東洋経済新報社	202204
265	9784657218018	1033226964	多文化社会の消費者認知構造：グローバル化とカントリー・バイアス	寺崎新一郎	早稲田大学出版部	202102
266	9784762029851	1031873781	マーケティング・リサーチに従事する人のための調査法・分析法：定量調査・実験調査・定性調査の調査法と基礎的分析法	日本マーケティング・リサーチ協会：島崎哲彦	学文社	202003
267	9784561752288	1035843268	考え方がすぐわかるスマートサプライチェーンの設計と構築：物流ＤＸが起こす変化をつかむ	鈴木邦成：中村康久	白桃書房	202203
268	9784798154411	1034702210	戦略ゲームＡＩ解体新書：ストラテジー＆シミュレーションゲームから学ぶ最先端	三宅陽一郎	翔泳社	202110
269	9784560031629	1011515259	プルーストと身体 ―「失われた時を求めて」における病・性愛・飛翔―	吉田，城	白水社	41153
270	9784560027745	1011515261	荷風のリヨン ―『ふらんす物語』を歩く―	加太，宏邦	白水社	41153
271	9784560046265	1011515268	アルトー ―思考と身体―	宇野，邦一	白水社	41153
272	9784560033050	1011515271	バーナード・ショー名作集	バーナード・ショー	白水社	41153
273	9784560033067	1011515272	コクトー名作集	渋沢，龍彦	白水社	41153
274	9784560024546	1011515279	バルト ―距離への情熱―（哲学の現代を読む 4）	渡辺，諒	白水社	41153
275	9784766407075	1013985124	「内向の世代」論	古屋，健三	慶應義塾大学出版会	41649
276	9784766408324	1013985133	巖谷小波お伽作家への道 ―日記を手がかりに―	勝尾，金弥	慶應義塾大学出版会	41649
277	9784766412901	1013985177	遠藤周作	加藤，宗哉	慶應義塾大学出版会	41649
278	9784426105143	1014000735	文学史のおさらい （おとなの楽習 10）	川島，周子	自由国民社	41684
279	9784426107963	1014000741	日本の名作おさらい （おとなの楽習 16）	中嶋，毅史	自由国民社	41684
280	9784426108212	1014000758	フランス文学 ―名作と主人公―（明快案内シリーズ．読書入門：archive edition）	加藤，民男	自由国民社	41684
281	9784426108236	1014000759	ドイツ文学 ―名作と主人公―（明快案内シリーズ．読書入門：archive edition）	保坂，一夫	自由国民社	41684
282	9784426108229	1014000761	ロシア文学 ―名作と主人公―（明快案内シリーズ．読書入門：archive edition）	水野，忠夫	自由国民社	41684
283	9784469250169	1014985276	文学言語の成熟 （篠沢フランス文学講義 1）	篠沢，秀夫	大修館書店	41663
284	9784469250176	1014985277	絶対を求めて （篠沢フランス文学講義 2）	篠沢，秀夫	大修館書店	41663
285	9784469250305	1014985278	ベル・エポックの輝き （篠沢フランス文学講義 3）	篠沢，秀夫	大修館書店	41663
286	9784469250657	1014985279	伝統からの解放 （篠沢フランス文学講義 4）	篠沢，秀夫	大修館書店	41663
287	9784469250664	1014985280	大洪水の時代 （篠沢フランス文学講義 5）	篠沢，秀夫	大修館書店	41663
288	9784588450051	1015256632	幕末・維新期の文学 （叢書・日本文学史研究）	前田，愛	法政大学出版局	41705
289	9784588100031	1015256636	共和国幻想 ―レチフとサドの世界―（《思想*多島海》シリーズ）	植田，祐次	法政大学出版局	41705
290	9784588470035	1015256644	占領と文学	浦田，義和	法政大学出版局	41705
291	9784843330623	1015299842	野上弥生子とその時代	狩野，美智子	ゆまに書房	41712
292	9784582365047	1016198118	日本文学史序説 上 （加藤周一著作集 4）	加藤，周一	平凡社	41887
293	9784582365054	1016198119	日本文学史序説 下 （加藤周一著作集 5）	加藤，周一	平凡社	41887
294	9784582365146	1016198128	羊の歌 （加藤周一著作集 14）	加藤，周一	平凡社	41887
295	9784585055136	1016413027	小川洋子 ―見えない世界を見つめて―（新鋭作家論叢書）	綾目，広治	勉誠出版	41929
296	9784585055112	1016413028	村上龍 ―「危機」に抗する想像力―（新鋭作家論叢書）	黒古，一夫	勉誠出版	41929
297	9784585055143	1016413029	島田雅彦 ―「恋物語」の誕生―（新鋭作家論叢書）	小林，孝吉	勉誠出版	41929
298	9784585055129	1016413030	柳美里 ―「柳美里」という物語―（新鋭作家論叢書）	永岡，杜人	勉誠出版	41929
299	9784842915296	1018717334	響け、わたしを呼ぶ声 ―勇気の人干刈あがた―	小沢，美智恵	八千代出版	42300
300	9784894764279	1022252328	昭和十年前後の太宰治 ―「青年」・メディア・テクスト―（未発選書 15）	松本，和也	ひつじ書房	42762
301	9784874246948	1022529756	日本古典の花園を歩く （日本語学習者のための日本研究シリーズ = Japan studies for Japanese learners 3）	林，四郎	くろしお出版	42657
302	9784841903096	1024854083	遺稿集連鎖 ―近代文学側面誌―	紅野，敏郎	丸善雄松堂	42895
303	9784841902532	1024854085	大正期の文芸叢書	紅野，敏郎	丸善雄松堂	42895
304	9784130820301	1025735777	國文學概説	阿部，秋生	東京大学出版会	43112
305	9784642054362	1025423413	平安京の都市生活と郊外 （歴史文化ライブラリー 36）	古橋，信孝	吉川弘文館	43140
306	9784642054393	1025423416	森鷗外 ―もう一つの実像―（歴史文化ライブラリー 39）	白崎，昭一郎	吉川弘文館	43140
307	9784642054584	1025423435	文学から見る「満洲」 ―「五族協和」の夢と現実―（歴史文化ライブラリー 58）	川村，湊	吉川弘文館	43119
308	9784582760019	1016432294	古代人と夢 （平凡社ライブラリー 1）	西郷，信綱	平凡社	42034
309	9784582760040	1022205140	樋口一葉の世界 （平凡社ライブラリー 4）	前田，愛	平凡社	42713
310	9784582760170	1025526196	ベンヤミンの生涯 （平凡社ライブラリー 17）	野村，修	平凡社	43126
311	9784582850017	1030601337	わが心の小説家たち （平凡社新書 001）	吉村，昭	平凡社	43721
312	9784582850024	1030601338	古今黄金譚 ―古典の中の糞尿物語―（平凡社新書 002）	林，望	平凡社	43721
313	9784582850789	1030601355	時代小説の愉しみ （平凡社新書 078）	小沢，信男	平凡社	43721
314	9784582852493	1030601384	ゲーテとベートーヴェン ―巨匠たちの知られざる友情―（平凡社新書 249）	青木，やよひ	平凡社	43721
315	9784582855289	1030601463	夏目漱石と戦争 （平凡社新書 528）	水川，隆夫	平凡社	43721
316	9784582855555	1030601473	文学者たちの大逆事件と韓国併合 （平凡社新書 555）	高沢，秀次	平凡社	43721
317	9784882022268	1030945550	宮澤賢治物語	竹沢，克夫	彩流社	43896
318	9784882027935	1030945557	臨床文学論 ―川端康成から吉本ばななまで―	近藤，裕子	彩流社	43896
319	9784389420260	1031404714	ロマン=ロラン 新装版（人と思想 26）	村上　嘉隆	清水書院	43868
320	9784389420406	1031404725	トーマス・マン 新装版（人と思想 40）	村田　經和	清水書院	43868
321	9784389420413	1031404726	シラー 新装版（人と思想 41）	内藤　克彦	清水書院	43868
322	9784389420529	1031404737	スタンダール 新装版（人と思想 52）	鈴木　昭一郎	清水書院	43868
323	9784389420642	1031404749	ブレヒト 新装版（人と思想 64）	岩淵　達治	清水書院	43868
324	9784389420673	1031404751	ゲーテ 新装版（人と思想 67）	星野　慎一	清水書院	43868
325	9784389420680	1031404752	ヴィクトル=ユゴー 新装版（人と思想 68）	辻　昶	清水書院	43868
326	9784389420734	1031404756	ゾラ 新装版（人と思想 73）	尾崎　和郎	清水書院	43868
327	9784389420741	1031404757	ボーヴォワール 新装版（人と思想 74）	村上　益子	清水書院	43868
328	9784389420819	1031404762	シェイクスピア 新装版（人と思想 81）	福田　陸太郎	清水書院	43868
329	9784389420826	1031404763	ドストエフスキイ 新装版（人と思想 82）	井桁　貞義	清水書院	43868
330	9784389420888	1031404768	ベンヤミン 新装版（人と思想 88）	村上　隆夫	清水書院	43868
331	9784389420895	1031404769	ヘッセ 新装版（人と思想 89）	井手　賁夫	清水書院	43868
332	9784389421038	1035170320	シュトルム 新装版（人と思想 103）	宮内　芳明	清水書院	44834
333	9784389421090	1035170326	サン=テグジュペリ 新装版（人と思想 109）	稲垣　直樹	清水書院	44834
334	9784389421182	1035170334	シュニツラー 新装版（人と思想 118）	岩淵　達治	清水書院	44834
335	9784389421274	1035170343	ブルースト 新装版（人と思想 127）	石木　隆治	清水書院	44834
336	9784389421311	1035170347	モーパッサン 新装版（人と思想 131）	村松　定史	清水書院	44834
337	9784389421397	1035170355	アレクサンドル=デュマ 新装版（人と思想 139）	辻　昶	清水書院	44834
338	9784389421410	1035170357	ジョルジュ=サンド 新装版（人と思想 141）	坂本　千代	清水書院	44834
339	9784389421458	1035170361	パステルナーク 新装版（人と思想 145）	前木　祥子	清水書院	44834
340	9784389421625	1035170378	トルストイ 新装版（人と思想 162）	八島　雅彦	清水書院	44834
341	9784389421670	1035170383	アルベール=カミュ 新装版（人と思想 167）	井上　正	清水書院	44834
342	9784389421687	1035170384	バルザック 新装版（人と思想 168）	高山　鉄男	清水書院	44834
343	9784389421700	1035170386	ミュッセ 新装版（人と思想 170）	野内　良三	清水書院	44834
344	9784389421748	1035170390	紫式部 新装版（人と思想 174）	沢田　正子	清水書院	44834
345	9784389421854	1035170401	スタール夫人 新装版（人と思想 185）	佐藤　夏生	清水書院	44834
346	9784389421977	1035170413	三島由紀夫 （人と思想 197）	熊野純彦	清水書院	44834
347	9784389421984	1035170414	谷崎潤一郎 （人と思想 198）	板東洋介	清水書院	44834
348	9784585054450	1031853770	漢籍伝来 ―白楽天の詩歌と日本―	静永　健	勉誠出版	44022
349	9784882024835	1032019510	プーシキン ―饗宴の宇宙―	郡，伸哉	彩流社	44141
350	9784787291523	1032859796	司馬遼太郎とその時代 戦中篇	延吉，実	青弓社	44435
351	9784787291677	1032859797	司馬遼太郎とその時代 戦後篇	延吉，実	青弓社	44435
352	9784787272720	1032859798	侵犯するシェイクスピア ―境界の身体―	本橋，哲也	青弓社	44435
353	9784787291967	1032859799	宮沢賢治と天然石	北出，幸男	青弓社	44435
354	9784787291707	1032859801	探偵小説と日本近代	吉田，司雄	青弓社	44435
355	9784787291899	1032859996	スポーツする文学 ―1920-30年代の文化詩学―	疋田，雅昭	青弓社	44442
356	9784882022602	1033568663	近似値 ―フランス近代作家論集―	シャルル・デュ・ボス	彩流社	44463
357	9784582831467	1034040927	漱石先生お久しぶりです	半藤，一利	平凡社	44540
358	9784861822612	1034149651	「日本文学」の成立	鈴木　貞美	作品社	44575
359	9784788516854	1034767098	プライヴァシーの誕生 ―モデル小説のトラブル史―	臼比 嘉高	新曜社	44750
360	9784882029564	1035124413	田村俊子の世界 ―作品と言説空間の変容―	山崎，真紀子	彩流社	44834

361	9784779170928	1035124433	おとなのグリム童話 ―あまり知られていなかった作品を読む―（フィギュール彩 91）	金成，陽一	彩流社	44834
362	9784779113505	1035760044	徳富蘆花とトルストイ ―日露文学交流の足跡―改訂増補	阿部　軍治	彩流社	44946
363	9784779113840	1035760067	白樺派とトルストイ ―武者小路実篤・有島武郎・志賀直哉を中心に―	阿部　軍治	彩流社	44946
364	9784779114052	1035760081	日本近代文学の断面 ―１８９０－１９２０―	岩佐　壮四郎	彩流社	44946
365	9784779114120	1035760089	ドイツ市民悲劇とジェンダー ―啓蒙時代の「自己形成」―	菅　利恵	彩流社	44946
366	9784779114335	1035822297	ケベックの女性文学 ―ジェンダー・エクリチュール・エスニシティ―	山出　裕子	彩流社	44960
367	9784779114359	1035822299	宮崎湖処子伝 ―甦る明治の知識人―	木村　圭三	彩流社	44960
368	9784779114458	1035822309	追悼長篠康一郎 ―太宰治に捧げた生涯―	太宰文学研究会	彩流社	44960
369	9784779114700	1035822326	ドイツのゴシック小説	亀井　伸治	彩流社	44960
370	9784779115288	1035889766	カフカの「中国」と同時代言説 ―黄禍・ユダヤ人・男性同盟―	川島，隆	彩流社	45009
371	9784779128493	1036011094	落語×文学 ―作家寄席集め―	恩田 雅和	彩流社	45037
372	9784130860642	1036104381	犠牲の森で ―大江健三郎の死生観―	菊間，晴子	東京大学出版会	45044
373	9784766428902	1036288666	江戸の花道 ―西鶴・芭蕉・近松と読む軍記物語―	佐谷，眞木人	慶應義塾大学出版会	45093
374	9784395320646	1036440190	夏目漱石博物館 ―絵で読む漱石の明治―	石崎　等	彰国社	45121
375	9784395006861	1036440191	漱石まちをゆく ―建築家になろうとした作家―	若山　滋	彰国社	45121
376	9784766429015	1037464397	おとめ座の荷風	持田，叙子	慶應義塾大学出版会	45233
377	97848188xxxxx	1011601525	政治経済学の再構築 ―ポスト・ケインズ派経済学入門―［再版］（ポスト・ケインジアン叢書 1）	J.A.クリーゲル	日本経済評論社	41275
378	9784818804760	1011601526	ポスト・ケインズ派経済学入門　第2刷（ポスト・ケインジアン叢書 2）	A.S.アイクナー	日本経済評論社	41275
379	97848188xxxxx	1011601527	貨幣的経済理論 （ポスト・ケインジアン叢書 3）	P.デヴィッドソン	日本経済評論社	41275
380	9784818801486	1011601528	ケムブリジ資本論争　改訳版（ポスト・ケインジアン叢書 4）	G.C.ハーコート	日本経済評論社	41275
381	97848188xxxxx	1011601529	巨大企業と寡占 ―マクロ動学のミクロ的基礎―（ポスト・ケインジアン叢書 5）	A.S.アイクナー	日本経済評論社	41275
382	9784818800380	1011601530	資本主義経済の動態理論 （ポスト・ケインジアン叢書 6）	M.カレツキ	日本経済評論社	41275
383	97848188xxxxx	1011601531	雇用と成長 （ポスト・ケインジアン叢書 7）	R.カーン	日本経済評論社	41275
384	97848188xxxxx	1011601532	資本蓄積と所得分配 （ポスト・ケインジアン叢書 8）	D.J.ハリス	日本経済評論社	41275
385	9784818801028	1011601533	価値と価格の理論 （ポスト・ケインジアン叢書 9）	P.M.リヒテンシュタイン	日本経済評論社	41275
386	9784818801042	1011601534	国際貨幣経済理論 （ポスト・ケインジアン叢書 10）	P.デヴィッドソン	日本経済評論社	41275
387	9784818802575	1011601535	資本理論とケインズ経済学 （ポスト・ケインジアン叢書 11）	J.ロビンソン	日本経済評論社	41275
388	9784818816015	1011601536	経済成長と分配理論 ―理論経済学統論―（ポスト・ケインジアン叢書 12）	N.カルドア	日本経済評論社	41275
389	9784818804524	1011601537	マクロ経済学の構図 ―方法論的アプローチ―（ポスト・ケインジアン叢書 13）	S.C.ダウ	日本経済評論社	41275
390	9784818802315	1011601538	線型経済学と動学理論 （ポスト・ケインジアン叢書 14）	R.M.グッドウィン	日本経済評論社	41275
391	9784818802377	1011601539	生産と分配の理論 ―スラッファ経済学の新展開―（ポスト・ケインジアン叢書 15）	L..L..パシネッティ	日本経済評論社	41275
392	9784818802759	1011601540	ケインズの経済学と価値・分配の理論 （ポスト・ケインジアン叢書 16）	J. イートウェル	日本経済評論社	41275
393	9784818802216	1011601541	価値と分配の理論 ―スラッファ経済学入門―（ポスト・ケインジアン叢書 17）	L.マインウェアリング	日本経済評論社	41275
394	9784818801707	1011601542	投資と金融 ―資本主義経済の不安定性―（ポスト・ケインジアン叢書 18）	H.P.ミンスキー	日本経済評論社	41275
395	9784818804357	1011601543	ケインズとケインジアンのマクロ経済学 （ポスト・ケインジアン叢書 19）	V.チック	日本経済評論社	41275
396	9784818804630	1011601544	ポスト・ケインズ派経済学の新展開 ―分配・有効需要および国際経済―（ポスト・ケインジアン叢書 20）	J.A.クレーゲル	日本経済評論社	41275
397	9784818806597	1011601545	非線形経済動学 （ポスト・ケインジアン叢書 21）	R.M.グッドウィン	日本経済評論社	41275
398	9784818806726	1011601546	ケインズ「一般理論」と蓄積 （ポスト・ケインジアン叢書 22）	A.アシマコプロス	日本経済評論社	41275
399	9784818807631	1011601547	市場と計画の社会システム ―カレツキ経済学入門―（ポスト・ケインジアン叢書 23）	M.C.ソーヤー	日本経済評論社	41275
400	9784818807921	1011601548	金融恐慌 ―戦後アメリカの経験―（ポスト・ケインジアン叢書 24）	M.H.ウォルフソン	日本経済評論社	41275
401	9784818809680	1011601549	構造変化の経済動学 ―学習の経済的帰結についての理論―（ポスト・ケインジアン叢書 25）	L.L.パシネッティ	日本経済評論社	41275
402	9784818812598	1011601550	カレツキと現代経済 ―価格設定と分配の分析―（ポスト・ケインジアン叢書 26）	P.クライスラー	日本経済評論社	41275
403	9784818811911	1011601551	貨幣・経済発展そして国際問題 ―応用経済学統論―（ポスト・ケインジアン叢書 27）	N.カルドア	日本経済評論社	41275
404	9784818810471	1011601552	非線形経済動学とカオス （ポスト・ケインジアン叢書 28）	H.-W.ローレンツ	日本経済評論社	41275
405	9784818813229	1011601553	現代金融システムの構造と動態 ―国際比較と「収れん仮説」の検証―（ポスト・ケインジアン叢書 29）	M.シェイバーグ	日本経済評論社	41275
406	9784818813694	1011601554	アメリカ金融システムの転換 ―21世紀に公正と効率を求めて―（ポスト・ケインジアン叢書 30）	ディムスキ	日本経済評論社	41275
407	9784818814554	1011601555	成長と分配 （ポスト・ケインジアン叢書 31）	D.K.フォーリー	日本経済評論社	41275
408	9784818815827	1011601556	貨幣・利子および資本 ―貨幣的経済理論入門―（ポスト・ケインジアン叢書 32）	C. ロジャーズ	日本経済評論社	41275
409	9784818819535	1011601558	金融不安定性と景気循環 （ポスト・ケインジアン叢書 34）	W.ゼムラー	日本経済評論社	41275
410	9784818818897	1011601570	非西欧圏の経済学 ―土着・伝統的経済思想とその変容―（経済思想 11）	八木，紀一郎	日本経済評論社	41275
411	9784818814486	1011601584	ルソーの経済哲学	B. フレーデン	日本経済評論社	41275
412	9784818809475	1011619120	ケインズ ―歴史的時間から複雑系へ―	吉田，雅明	日本経済評論社	41275
413	9784818810747	1011619121	ケインズ経済学研究 ―「一般理論」基本体系の吟味―	川口，弘	日本経済評論社	41275
414	9784818820647	1011619125	ドイツ資本主義と空港	山田，徹雄	日本経済評論社	41275
415	9784818813755	1011619126	ドイツ資本主義と鉄道	山田，徹雄	日本経済評論社	41275
416	9784818801295	1011619136	価値・資本及び地代 （近代経済学古典選集 8）	ウィクセル	日本経済評論社	41275
417	9784818803480	1011619137	価値と価格の理論の数学的研究	アーヴィング・フィシアー	日本経済評論社	41275
418	9784818816305	1011619138	貨幣及び流通手段の理論 （近代経済学古典選集 13）	ミーゼス	日本経済評論社	41275
419	9784818819207	1011619142	韓国財閥史の研究 ―分断体制資本主義と韓国財閥―	鄭，章淵	日本経済評論社	41275
420	9784818818187	1011624622	日英経済史	横井，勝彦	日本経済評論社	41275
421	9784818810525	1011624625	日本の経済学と経済学者 ―戦後の研究環境と政策形成―	池尾，愛子	日本経済評論社	41275
422	9784818809574	1011624626	日本の経済計画 ―戦後の歴史と問題点― 新版	林，雄二郎	日本経済評論社	41275
423	9784818804258	1011624627	日本の経済思想四百年	杉原，四郎	日本経済評論社	41275
424	9784818814370	1011624630	日本近代の経済政策史的研究 （青山学院大学経済研究所研究叢書 6）	三和，良一	日本経済評論社	41275
425	9784818814110	1011624632	日本占領の経済政策史的研究	三和，良一	日本経済評論社	41275
426	9784274068171	1012404363	Excelで学ぶゲーム理論 = Learning theory of games with excel	中野，明	オーム社	41334
427	9784830947315	1013923650	テイラー （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 1）	中川，誠士	文眞堂	41614
428	9784830947322	1013237246	ファヨール ―ファヨール理論とその継承者たち―（経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 2）	佐々木，恒男	文眞堂	41431
429	9784830947339	1013923649	メイヨー=レスリスバーガー ―人間関係論―（経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 3）	吉原，正彦	文眞堂	41614
430	9784830947346	1013923648	フォレット （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 4）	三井，泉	文眞堂	41614
431	9784830947353	1013923647	バーリ=ミーンズ （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 5）	三戸，浩	文眞堂	41614
432	9784830947360	1013237247	バーナード （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 6）	藤井，一弘	文眞堂	41432
433	9784830947377	1013237248	サイモン （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 7）	田中，政光	文眞堂	41433
434	9784830947384	1013237249	ウッドワード （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 8）	岸田，民樹	文眞堂	41434
435	9784830947391	1013923646	アンソフ （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 9）	庭本，佳和	文眞堂	41614
436	9784830947407	1013237250	ドラッカー （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 10）	河野，大機	文眞堂	41435
437	9784830947414	1013923645	ニックリッシュ ―経営共同体の思想―（経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 11）	田中，照純	文眞堂	41614
438	9784830947421	1013923644	グーテンベルク （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 12）	海道，ノブチカ	文眞堂	41614
439	9784830947438	1013923643	日本の経営学説 1 （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 13）	小笠原，英司	文眞堂	41614
440	9784830947445	1013923642	日本の経営学説 2 （経営学史叢書 ： 経営学史学会創立20周年記念 14）	片岡，信之	文眞堂	41614
441	9784830947230	1013923651	経営学史事典 ―経営学史学会創立20周年記念― 第2版	経営学史学会	文眞堂	41614
442	9784766415131	1013985183	はじめて学ぶ経済学	石橋，春男	慶應義塾大学出版会	41649
443	9784766416336	1013985185	マクロ経済の分析	石橋，春男	慶應義塾大学出版会	41649
444	9784492314418	1016423861	入門経済学 第2版	井原，哲夫	東洋経済新報社	41985
445	9784492395394	1016423862	初心者のための経済指標の見方・読み方	塚崎，公義	東洋経済新報社	41985
446	9784492443927	1016423873	データで読み解く中国経済 ―やがて中国の失速がはじまる―	川島，博之	東洋経済新報社	41985
447	9784492443958	1016423874	やっぱりアメリカ経済を学びなさい ―世界経済はアメリカを中心に動く―	小野，亮	東洋経済新報社	41985
448	9784492520864	1016423876	バリュー経営 ―知のマネジメント―	一條，和生	東洋経済新報社	41985
449	9784830947162	1016424089	ドラッカー、その思想	三戸，公	文眞堂	42020
450	9784320005723	1016424108	進化経済学ハンドブック = Handbook of evolutionary economics	進化経済学会	共立出版	41943
451	9784492813027	1016432072	ミクロ経済学Expressway	八田，達夫	東洋経済新報社	41992
452	9784492395370	1016432074	経済嫌いのための経済「超」入門	美和，卓	東洋経済新報社	41992
453	9784326504008	1016606037	父が息子に語るマクロ経済学	齊藤　誠	勁草書房	41936
454	9784622078708	1016669584	大脱出 ―健康、お金、格差の起原―	アンガス・ディートン	みすず書房	41985
455	9784622078760	1017162581	21世紀の資本	トマ・ピケティ	みすず書房	42048
456	9784842917733	1034759387	近現代日本経済史　上巻	谷沢　弘毅	八千代出版	44743
457	9784842917870	1034759388	近現代日本経済史　下巻	谷沢　弘毅	八千代出版	44743
458	9784492312551	1035134607	経済発展論入門	秋山　裕	東洋経済新報社	44821
459	9784492314173	1035134608	ジョーンズマクロ経済学　2	チャールズ I.ジョーンズ	東洋経済新報社	44821
460	9784492653319	1035134611	現代ファイナンス理論	野口　悠紀雄	東洋経済新報社	44821
461	9784561234418	1035843265	ダイバシティ・マネジメント ―多様性をいかす組織―	谷口　真美	白桃書房	44960
462	9784535557963	1035877125	国際経済学へのいざない 第2版	友原，章典	日本評論社	45002
463	9784818826250	1035949971	社会経済学研究	レオン・ワルラス	日本経済評論社	45009
464	9784130403122	1037099386	ポストコロナの世界経済 ―グローバルリスクの構造変化―	小川，英治	東京大学出版会	45205
465	9784830952180	1037154368	ワークブック国際ビジネス 第3版	米澤，聡士	文眞堂	45226
466	9784582288551	1037219426	マンガ会社はこれからどうなるのか	岩井，克人	平凡社	45226
467	9784492602348	1037377950	タイパコスパがいっきに高まる決算書の読み方 ―外資系金融の「分析力」と「瞬発力」が身につく19の方法―	齋藤，浩史	東洋経済新報社	45247
468	9784492047354	1037803186	きみのお金は誰のため ―ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」―	田内，学	東洋経済新報社	45289
469	9784866922706	1037921094	これから経営学 ―新しく学ぶ経営の基礎―	須藤芳正	大学教育出版	45282
470	9784641046887	1035816178	国際関係私法入門 ―国際私法・国際民事手続法・国際取引法―第4版補訂 （※）	松岡 博	有斐閣	44960
471	9784641139510	1035816179	家族と刑法 ―家庭は犯罪の温床か?―	深町 晋也	有斐閣	44960
472	9784641138599	1035816184	民事訴訟の実像と課題 ―利用者調査の積み重ねが示すもの―	菅原 郁夫	有斐閣	44960
473	9784641126145	1035816185	法解釈の方法論 ―その諸相と展望―	山本 敬三	有斐閣	44960
474	9784785729905	1035837597	Law Practice 憲法 第3版	笹田 栄司	商事法務	44960
475	9784785728977	1035837598	Law Practice 民事訴訟法 第4版	山本 和彦	商事法務	44974
476	9784785728939	1035837607	株主総会資料電子提供の法務と実務	塚本 英巨	商事法務	44974
477	9784785729851	1035837610	取締役・取締役会の法律実務Q&A 第2版	島田 邦雄	商事法務	44974
478	9784641228405	1035842244	日本国憲法 第4版	松井，茂記	有斐閣	44967
479	9784641228399	1035842245	判例行政法入門 第7版	芝池，義一	有斐閣	44967
480	9784641138513	1035842246	和解の基礎と実務	増田，勝久	有斐閣	44967
481	9784641233041	1035842247	民事訴訟法への招待	伊藤，眞	有斐閣	44967
482	9784641138971	1035842248	民事執行・保全入門 補訂第2版	中野，貞一郎	有斐閣	44967
483	9784641139558	1035842249	刑法各論の悩みどころ （法学教室Library）	橋爪，隆	有斐閣	44967
484	9784785710019	1035858616	国際倒産法制	山本，和彦	商事法務	44995
485	9784785712983	1035858618	一問一答不動産登記法等一部改正法 ―筆界特定―	清水，響	商事法務	44995
486	9784785716622	1035858621	逐条解説・法の適用に関する通則法 （逐条解説シリーズ）	小出，邦夫	商事法務	44995
487	9784785718220	1035858629	Q&A取締役会運営の実務	沢口，実	商事法務	44995

488	9784785728892	1035858648	Law practice 刑法 第4版	佐久間，修	商事法務	44995
489	9784785728830	1035858659	取締役・執行役ハンドブック 第3版	中村，直人	商事法務	44995
490	9784785728847	1035858660	監査役・監査等委員・監査委員ハンドブック	中村，直人	商事法務	44995
491	9784785728854	1035858661	商業登記ハンドブック 第4版	松井，信憲	商事法務	44995
492	9784785729165	1035858662	会社分割ハンドブック 第3版	酒井，竜児	商事法務	44995
493	9784785729523	1035858664	新株予約権ハンドブック 第5版	太田，洋	商事法務	44995
494	9784785728472	1035858706	アメリカ人が驚く日本法	樋口，範雄	商事法務	44995
495	9784785728533	1035858707	取締役会事務局の実務 ―コーポレート・ガバナンスの支援部門として―	日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク取締役会事務局懇話会	商事法務	44995
496	9784785728540	1035858708	リーガルオペレーション革命 ―リーガルテック導入ガイドライン―	佐々木，毅尚	商事法務	44995
497	9784785728557	1035858709	会社補償Q&Aとモデル契約	邉，英基	商事法務	44995
498	9784785728571	1035858710	バーチャル株主総会の実務 第2版	沢口，実	商事法務	44995
499	9784785728601	1035858711	インド不動産法制 ―理論と実践 : 不動産に関連する法制度一般から合弁・M&A等のプロジェクトまで―	川村，隆太郎	商事法務	44995
500	9784785728670	1035858714	敵対的株主提案とプロキシーファイト 第3版	松山，遥	商事法務	44995
501	9784785728694	1035858716	登記法入門 ―実務の道しるべ―	鈴木，龍介	商事法務	44995
502	9784785728878	1035858719	株式が相続された場合の法律関係	浜田，道代	商事法務	44995
503	9784785728922	1035858721	株式実務担当者のための会計・金商法・税法の基礎知識	中村，慎二	商事法務	44995
504	9784785728953	1035858722	Q&A監査等委員会設置会社の実務 第2版	太子堂，厚子	商事法務	44995
505	9784785728984	1035858723	中国商事仲裁の基本と実務	孫，彦	商事法務	44995
506	9784785729066	1035858728	役員のための法律知識 第3版	中村，直人	商事法務	44995
507	9784785729073	1035858729	社債法 第2版	橋本，円	商事法務	44995
508	9784785729547	1035858739	中華人民共和国民法典 1：対照条文編	渠，涛	商事法務	44995
509	9784785729554	1035858740	中華人民共和国民法典 2：資料編	渠，涛	商事法務	44995
510	9784785729561	1035858741	株主総会取締役会監査役会の議事録作成ガイドブック 第3版	三井住友信託銀行ガバナンスコンサルティング部	商事法務	44995
511	9784785729585	1035858743	任意の指名委員会・報酬委員会の実務	渡辺，邦広	商事法務	44995
512	9784785729608	1035858744	遺言執行の手引 第2版	山崎，巳義	商事法務	44995
513	9784788291102	1035858585	相続開始時別相続人の範囲と遺産の割合 ―明治民法・応急措置法・現行民法―	中込　一洋	新日本法規出版	44974
514	9784785730000	1035907675	犯罪被害者救済便覧 ―インターネット犯罪被害者の民事的救済等―	須藤 純正	商事法務	44988
515	9784641228276	1035923214	行政救済法	芝池，義一	有斐閣	45002
516	9784641150911	1035923219	刑事訴訟法 （有斐閣ストゥディア）	池田，公博	有斐閣	45002
517	9784641046917	1035923222	ここからはじめる国際法 = Introduction to international law : focusing on Japan in international society ―事例から考える国際社会と日本の関わり―	佐藤，義明	有斐閣	45002
518	9784788291386	1036007271	論点別インデックスで引く養育費・婚姻費用判断の考慮要素	森法律事務所　森　公任	新日本法規出版	45023
519	9784641126404	1036010281	法学入門 第3版	田中，成明	有斐閣	45030
520	9784641048324	1036010288	現代中国法入門 第9版（外国法入門双書）	高見澤，磨	有斐閣	45030
521	9784788291843	1036202441	認知症高齢者をめぐる法律実務 ―法的リスクと相続問題―	水谷　英夫	新日本法規出版	45058
522	9784426128272	1036249791	はじめての六法 第8版（3日でわかる法律入門）	尾崎 哲夫	自由国民社	45072
523	9784426122393	1036249792	はじめての憲法総論・人権 第7版（3日でわかる法律入門）	尾崎 哲夫	自由国民社	45072
524	9784426122157	1036249793	はじめての民法総則 第11版（3日でわかる法律入門）	尾崎 哲夫	自由国民社	45072
525	9784426127626	1036249794	はじめての刑事訴訟法 第9版（3日でわかる法律入門）	尾崎 哲夫	自由国民社	45072
526	9784426127145	1036249828	今日から成年後見人になりました 第2版	児島 明日美	自由国民社	45072
527	9784426127381	1036249830	戸籍のことならこの1冊 第5版（はじめの一歩）	石原 豊昭	自由国民社	45072
528	9784426127497	1036249835	自分でできる不動産登記 第2版	児島 充	自由国民社	45072
529	9784641222120	1036288609	法の世界へ 第9版（有斐閣アルマ Interest）	池田，真朗	有斐閣	45079
530	9784641151093	1036288610	行政法 = Administrative law 第3版（有斐閣ストゥディア）	野呂，充	有斐閣	45079
531	9784641228443	1036288611	現代行政法入門 第5版	曽和，俊文	有斐閣	45079
532	9784641184633	1036288614	民法入門・総則 第5版補訂版（有斐閣ブックス . エッセンシャル民法 1）	永田，眞三郎	有斐閣	45079
533	9784641159563	1036288615	債権各論 第5版（有斐閣Sシリーズ . 民法 ; 4 36）	藤岡，康宏	有斐閣	45079
534	9784641184589	1036288616	債権 第2版（有斐閣ブックス . エッセンシャル民法 3）	永田，眞三郎	有斐閣	45079
535	9784641233102	1036288618	新・改正会社法セミナー = New seminar on company law reform : examination of the 2019 and 2014 revisions ―令和元年・平成26年改正の検討―	藤田，友敬	有斐閣	45079
536	9784641179561	1036288619	民事訴訟法 第4版（Legal quest）	三木，浩一	有斐閣	45079
537	9784641151109	1036288620	民事訴訟法 第3版（有斐閣ストゥディア）	安西，明子	有斐閣	45079
538	9784766428919	1036288664	民法総則 第2版（新・考える民法 1）	平野，裕之	慶應義塾大学出版会	45093
539	9784788291935	1036307377	法律家・宅建業者のための任意売却相談対応マニュアル	大西，隆司	新日本法規出版	45093
540	9784785728946	1036332497	債権法の未来 ―改正が見送られた重要論点―	大阪弁護士会　民法改正問題特別委員会	商事法務	45093
541	9784785729356	1036332498	実務問答会社法	後藤 元	商事法務	45093
542	9784785729394	1036332499	eディスカバリー物語 ―グローバル・コンプライアンスの実務―	佐々木 毅尚	商事法務	45093
543	9784785729646	1036332500	契約法の現代化　3 ―債権法改正へ―	山本 敬三	商事法務	45093
544	9784785729813	1036332502	会社法実務問答集　4	大阪株式懇談会	商事法務	45093
545	9784785730116	1036332504	事業再生と財産評定の実務	永沢 徹	商事法務	45093
546	9784785730154	1036332505	株主提案と委任状勧誘 第3版	太子堂 厚子	商事法務	45093
547	9784785730185	1036332506	株主総会ハンドブック 第5版	中村 直人	商事法務	45093
548	9784641228467	1036357404	憲法判例50! 第3版（Start up）	上田，健介	有斐閣	45100
549	9784641233133	1036357405	物権判例30! 第2版（Start up . 民法 2）	水津，太郎	有斐閣	45100
550	9784641159570	1036357406	債権総論 第5版（有斐閣Sシリーズ . 民法 ; 3 22）	野村，豊弘	有斐閣	45100
551	9784641139619	1036357407	判例刑法総論 第8版	山口，厚	有斐閣	45100
552	9784641139626	1036357408	判例刑法各論 第8版	山口，厚	有斐閣	45100
553	9784641126398	1036357409	日本近代法史講義	伊藤，孝夫	有斐閣	45100
554	9784788292062	1036404919	成年後見実務マスター ―後見事務、後見監督人、任意後見、後見登記等―	額田　洋一	新日本法規出版	45114
555	9784641222090	1036483327	民法　4　債権総論 第2版（有斐閣アルマ .Specialized）	片山，直也	有斐閣	45142
556	9784641243637	1036483328	刑法基本講義 ―総論・各論―第3版補訂版	佐久間，修	有斐閣	45142
557	9784641046900	1036483331	国際取引法 第5版	佐野，寛	有斐閣	45142
558	9784641228474	1036652429	行政法 = Administrative law text 第3版	宇賀，克也	有斐閣	45170
559	9784641233096	1036652430	執行手続・倒産手続の研究	上原，敏夫	有斐閣	45170
560	9784641499980	1037099407	研究者への道	中田，裕康	有斐閣	45205
561	9784641139657	1037099409	入門刑事手続法 第9版	三井，誠	有斐閣	45205
562	9784788292369	1037164768	ケース別特別受益、寄与分・特別寄与料、遺留分認定のポイントと算定方法	東京弁護士会　親和全期会	新日本法規出版	45212
563	9784785730086	1037289399	会社法実務問答集　5	大阪株式懇談会	商事法務	45219
564	9784641228535	1037313208	行政法総論 第8版（行政法概説 1）	宇賀，克也	有斐閣	45226
565	9784641233195	1037313210	債権総論判例30! 増補版（Start up . 民法 3）	田高，寛貴	有斐閣	45226
566	9784788292482	1037468660	必読任意後見契約×ライフプランノート作成・活用マニュアル ―終活に関心があるすべての方々へ―	冨永，忠祐	新日本法規出版	45240
567	9784788292499	1037468661	税理士が知っておきたい　遺言書でできる相続対策	山本，和義	新日本法規出版	45240
568	9784788292550	1037468663	政省令・施行通達対応　相続土地国庫帰属制度承認申請の手引	横山，宗祐	新日本法規出版	45240
569	9784788292567	1037468664	ケース別　地域社会の迷惑行為　困難事案対応のヒント	中村，剛	新日本法規出版	45240
570	9784788292574	1037468665	ケースでみる　境界確認の困難要因と実務対応	鈴木，泰介	新日本法規出版	45240
571	9784641233157	1037770881	担保物権・債権総論 第4版（民法判例集）	瀬川，信久	有斐閣	45247
572	9784641233140	1037770882	ケースで探索会社法 ―理解を深め，もう少し先へ―	伊藤，靖史	有斐閣	45247
573	9784785729714	1037796162	実務分析M&A判例ハンドブック 第2版	阿南，剛	商事法務	45275
574	9784785730321	1037796163	詳解改正民法・改正不登法・相続土地国庫帰属法	潮見，佳男	商事法務	45275
575	9784788292673	1037889160	財産別　共有物管理の法律実務	第一東京弁護士会司法制度調査委員会	新日本法規出版	45275
576	9784657238061	1036803738	難民問題の「恒久的解決策」を問い直す ―人間の安全保障の実践―（早稲田大学エウプラクシス叢書 042）	山本剛	早稲田大学出版部	45177
577	9784785730048	1035907677	消費者法	大澤 彩	商事法務	44988
578	9784642039239	1035923182	児童福祉の戦後史 ―孤児院から児童養護施設へ―	本庄，豊	吉川弘文館	45002
579	9784750354835	1035923461	ホワイト・フェミニズムを解体する ―インターセクショナル・フェミニズムによる対抗史―	カイラ・シュラー	明石書店	44995
580	9784750355351	1035923463	子どもコミッショナーはなぜ必要か ―子どものSOSに応える人権機関―	日本弁護士連合会子どもの権利委員会	明石書店	44995
581	9784750355368	1035923465	震災後のエスノグラフィ ―「阪神大震災を記録しつづける会」のアクションリサーチ―	高森　順子	明石書店	44995
582	9784750355528	1036009939	子どもアドボカシー ―つながり・声・リソースをつくるインケアユースの物語―	畑　千鶴乃	明石書店	45023
583	9784750355405	1036009940	「難民」とは誰か ―本質的理解のための34の論点―	小泉　康一	明石書店	45023
584	9784130502061	1036010325	メディアと社会の連環 = Communicative systems in the mass-media and society : on the autopoietic system theory of Niklas Luhmann ―ルーマンの経験的システム論から―	佐藤，俊樹	東京大学出版会	45023
585	9784621307540	1036010360	環境社会学事典	環境社会学会	丸善出版	45030
586	9784805888063	1036034519	子ども家庭支援アセスメントガイドブック ―学校-家庭-地域をつなぐ―	公益社団法人日本社会福祉士会	中央法規出版	45030
587	9784780312706	1036101841	学童保育指導員になる、ということ。 ―子どももおとなも育つ放課後―	田中　一将	かもがわ出版	45037
588	9784130261760	1036104369	マス・エンパシーの文化史 ―アメリカとソ連がつくった共感の時代―	亀田，真澄	東京大学出版会	45044
589	9784130343169	1036104373	ケアシステム ―「治し支える医療」を実現する地域包括ケア―（シリーズ超高齢社会のデザイン）	飯島，勝矢	東京大学出版会	45044
590	9784130461382	1036104378	日本的雇用システムをつくる1945-1995 ―オーラルヒストリーによる接近―	梅崎，修	東京大学出版会	45044
591	9784818826274	1036104382	イギリス家族政策はどう変わったのか ―子育て・貧困と政府の役割―	N.アイゼンシュタット	日本経済評論社	45044
592	9784766428797	1036104485	コロナ禍と家計のレジリエンス格差 = Inequality of household resilience in times of COVID-19 pandemic	山本，勲	慶應義塾大学出版会	45044
593	9784766428858	1036104487	検証・コロナ期日本の働き方 ―意識・行動変化と雇用政策の課題―	樋口，美雄	慶應義塾大学出版会	45044
594	9784766428476	1036104490	なぜ男女の賃金に格差があるのか ―女性の生き方の経済学―	クラウディア・ゴールディン	慶應義塾大学出版会	45044
595	9784487816323	1036113746	「リーダーシップ基礎」入門 ―傾聴力・対話力・交渉力・説得力を鍛える！―	田村 次朗	東京書籍	45044
596	9784750355238	1036202425	ADHDの僕がグループホームを作ったら、モヤモヤに包まれた ―障害者×支援=福祉??―	山口　政佳	明石書店	45058
597	9784750355566	1036202426	黙殺された被曝者の声 ―アメリカ・ハンフォード正義を求めて闘った原告たち―（世界人権問題叢書 113）	トリシャ・T・プリティキン	明石書店	45058
598	9784842005447	1036202513	社会体制と社会権 ―ロシアの体制転換と住宅・土地・社会保障―	篠田優	有信堂高文社	45058
599	9784870589155	1036202530	初級者のための診療報酬完全マスタードリル　2023年版 ―重要ポイント全300問―	内芝 修子	医学通信社	45058
600	9784870589223	1036202535	ビジュアル速解　診療報酬・完全攻略マニュアル　2023年4月補訂版	青山 美智子	医学通信社	45058
601	9784870589247	1036202537	診療報酬請求事務能力認定試験受験対策と予想問題集　2023年前期版 ―2023年4月現在の法律・点数に完全準拠―	医学通信社	医学通信社	45058
602	9784845117987	1036207378	雇用システムの変化と労働法政策の展開	島田　陽一	旬報社	45058
603	9784845118038	1036207379	労働法論の探究 ―労働法の理論と政策―	唐津博	旬報社	45058
604	9784492261170	1036220874	「一度きりの人生、今の会社で一生働いて終わるのかな?」と迷う人のスタートアップ「転職×副業」術	藤岡，清高	東洋経済新報社	45093
605	9784535526662	1036249644	「我々は」から「私は」の時代へ ―個別的労使関係での分権的組合活動が生み出す新たな労使関係―	西尾 力	日本評論社	45065
606	9784772419635	1036276293	こころの支援と社会モデル ―トラウマインフォームドケア・組織変革・共同創造―	笠井　清登	金剛出版	45072
607	9784762832239	1036281025	障害から始まるイノベーション ―ニーズをシーズにとらえ直す障害学入門―	田中，真理	北大路書房	45114
608	9784641174856	1036288626	親密圏と公共圏の社会学 ―ケアの20世紀体制を超えて―	落合，恵美子	有斐閣	45079
609	9784779171086	1036307416	貧困は自己責任か （フィギュール彩 2-8）	高沢，幸男	彩流社	45093
610	9784845118021	1036310325	岐路に立つ労使関係 ―労働組合法の課題と展望―	道幸，哲也	旬報社	45093
611	9784589042545	1036332477	行政処分による消費者被害回復の理論 ―EUデジタルプラットフォーム規制の考察と我が国の課題―	宗田，貴行	法律文化社	45093
612	9784495465438	1036353230	格差社会論 第3版	熊沢由美	同文舘出版	45093
613	9784641174849	1036357414	外国人雇用の産業社会学 ―雇用関係のなかの「同床異夢」―	園田，薫	有斐閣	45100
614	9784130614085	1036391758	インターネット・オブ・プレイス ―「都市」の新しい拡張―	高木，聡一郎	東京大学出版会	45107

615	9784766428940	1036391786	中国の高齢者福祉政策 ―人口減少社会に向けての制度設計―	黄，瑋	慶應義塾大学出版会	45107
616	9784750355641	1036395839	記憶と記録にみる女性たちと百年 （イスラーム・ジェンダー・スタディーズ 5）	岡，真理	明石書店	45107
617	9784750355658	1036395840	うつりゆく家族 （イスラーム・ジェンダー・スタディーズ 6）	竹村，和朗	明石書店	45107
618	9784750355900	1036395845	児童養護施設鹿深の家の「ふつう」の子育て ―人が育つために大切なこと―	綱島，庸祐	明石書店	45107
619	9784589042613	1036404895	ソーシャルワーク論　1 ―基盤と専門職―	木村 容子	法律文化社	45114
620	9784589042675	1036422109	ひとり親家庭はなぜ困窮するのか ―戦後福祉法制から権利保障実現を考える―	金川 めぐみ	法律文化社	45114
621	9784535526891	1036476477	ジェンダー平等社会の実現へ ―「おかしい」から「あたりまえ」に―	杉井，静子	日本評論社	45191
622	9784130530347	1036483319	災禍の時代の社会学 ―コロナ・パンデミックと民主主義―	遠藤，薫	東京大学出版会	45135
623	9784130664103	1036483321	当事者研究の誕生	綾屋，紗月	東京大学出版会	45135
624	9784750355832	1036508977	共生社会のアサーション入門 ―差別を生まないためのコミュニケーション技術―	小林　学美	明石書店	45142
625	9784750356105	1036508982	いっしょに考える難民の支援 ―日本に暮らす「隣人」と出会う―	森　恭子	明石書店	45142
626	9784589042750	1036510595	子どもの「貧困の経験」 ―構造の中でのエージェンシーとライフチャンスの不平等―	大澤 真平	法律文化社	45142
627	9784589042767	1036510596	労働安全衛生法改正の課題 （日本労働法学会誌 136号）	日本労働法学会	法律文化社	45142
628	9784789420358	1036510613	社会保険のてびき　令和5年度版	社会保険研究所	社会保険研究所	45149
629	9784642039277	1036652432	近代日本メディア史 1: 1868-1918	有山，輝雄	吉川弘文館	45170
630	9784772419673	1036655566	自殺防止の手引き ―誰もが自殺防止の強力な命の門番になるために―	羽藤　邦利	金剛出版	45170
631	9784780312720	1036727681	SOGIをめぐる法整備はいま ―LGBTQが直面する法的な現状と課題―	LGBT法連合会	かもがわ出版	45177
632	9784780312805	1036727683	フランスの子どもの育ちと家族 ―一人ひとりに届ける福祉が支える―	安發，明子	かもがわ出版	45177
633	9784780312812	1036727684	子ども白書　2023：いま、子どもの声を<きく>	日本子どもを守る会	かもがわ出版	45177
634	9784780312836	1036727686	「AKK女性シェルター」から「DV防止法」制定へ ―1990年代フェミニズム・当事者主体の女性運動記録―	波田，あい子	かもがわ出版	45177
635	9784750356129	1036828897	フェミニスト男子の育て方 ―ジェンダー、同意、共感について伝えよう―	ボビー・ウェグナー	明石書店	45177
636	9784422931005	1036942092	さよなら、子ども虐待	細川 貂々	創元社	45184
637	9784642039284	1036946522	近代日本メディア史 2: 1919-2018	有山，輝雄	吉川弘文館	45191
638	9784384049091	1036946631	すぐに役立つ図解とQ&Aでわかる正社員以外「パート・派遣・副業・高年齢者雇用」の働き方をめぐる法律問題	林 智之	三修社	45191
639	9784384049169	1036946639	図解で早わかり最新障害者福祉の法律と手続きがわかる事典	若林 美佳	三修社	45191
640	9784805888018	1036996073	社会福祉の動向　2023	社会福祉の動向編集委員会	中央法規出版	45191
641	9784805889152	1036996079	実践ソーシャルワーク・スーパービジョン	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	45191
642	9784805889220	1036996080	ソーシャルワーク実践における意思決定支援 ―ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化に向けたエンパワメント―	公益社団法人日本社会福祉士会	中央法規出版	45191
643	9784130502092	1037099388	メディア論の冒険者たち = Exploring media theory : twenty-eight key thinkers	伊藤，守	東京大学出版会	45205
644	9784623095247	1037114447	最新・社会調査へのアプローチ ―論理と方法―	大谷，信介	ミネルヴァ書房	45212
645	9784780312898	1037181600	秋葉原事件を忘れない ―この国はテロの連鎖へと向かうのか―	杉田　俊介	かもがわ出版	45212
646	9784762832284	1037219329	深掘り!関係行政論　産業・労働分野 ―公認心理師必携―	高坂 康雅	北大路書房	45212
647	9784766429121	1037283025	大学生が知っておきたい消費生活と法律 第2版	細川，幸一	慶應義塾大学出版会	45219
648	9784766429107	1037283027	平成災害復興誌 ―新たなる再建スキームをめざして―	牧，紀男	慶應義塾大学出版会	45219
649	9784254160796	1037313225	高潮・津波がわかる ―沿岸災害のメカニズムと防災 : カラー図説―	柴山，知也	朝倉書店	45226
650	9784492534687	1037377945	世界の学術研究から読み解く職場に活かす心理学	今城，志保	東洋経済新報社	45247
651	9784130161251	1037377967	仕事からの切り替え困難に対する心理的支援 ―持続可能な働き方の実現のために―	内村，慶士	東京大学出版会	45254
652	9784766429138	1037464396	The work of the future ―AI時代の「よい仕事」を創る―	デヴィッド・オーター	慶應義塾大学出版会	45233
653	9784766429169	1037464399	「新しい国民皆保険」構想 ―制度改革・人的投資による経済再生戦略―	田中，秀明	慶應義塾大学出版会	45233
654	9784780312980	1037468649	検証「LGBT理解増進法」 ―SOGI差別はどのように議論されたのか―	神谷，悠一	かもがわ出版	45240
655	9784540231667	1037535868	自分で地域で手づくり防災術 ―土砂崩れ、洪水、地震に備える―	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	45240
656	9784589042729	1037537597	ガールズ・アーバン・スタディーズ ―「女子」たちの遊ぶ・つながる・生き抜く―	大貫，恵佳	法律文化社	45240
657	9784130161268	1037770905	多元的無知 ―不人気な規範の維持メカニズム―	岩谷，舟真	東京大学出版会	45275
658	9784130312035	1037770909	詳解労働法 = Labor and employment law 第3版	水町，勇一郎	東京大学出版会	45254
659	9784861108594	1037801257	デジタル化時代のジェンダー平等 ―メルケルが拓いた未来の社会デザイン―	佐野，敦子	春風社	45261
660	9784502475511	1037803181	データで読み解く世代論	林，裕之	中央経済社	45275
661	9784492962268	1037803185	ウェルビーイングを実現するライフデザイン 2024―データ+事例が導く最強の幸せ戦略―（ライフデザイン白書）	第一生命経済研究所	東洋経済新報社	45289
662	9784492444788	1037803191	新しい封建制がやってくる ―グローバル中流階級への警告―	ジョエル・コトキン	東洋経済新報社	45289
663	9784862515285	1037842811	知って得する年金・税金・雇用・健康保険の基礎知識　2024年版 ―「自己責任」時代を生き抜く知恵―	榎本，恵一	三和書籍	45261
664	9784750356587	1037886076	子ども若者の権利とこども基本法 （子ども若者の権利と政策 1）	末冨，芳	明石書店	45289
665	9784750356594	1037886077	若者の権利と若者政策 （子ども若者の権利と政策 4）	宮本，みち子	明石書店	45289
666	9784750356488	1037886081	貧困とはなにか ―概念・言説・ポリティクス―新版	ルース・リスター	明石書店	45289
667	9784130263016	1008060919	都市発達史研究 新装版	今井，登志喜	東京大学出版会	40909
668	9784818813182	1011619105	社会史とは何か ―その方法と軌跡―	ユルゲン・コッカ	日本経済評論社	41275
669	9784818803213	1011624608	帝国の手先 ―ヨーロッパ膨張と技術―	D.R.ヘッドリク	日本経済評論社	41275
670	9784818808928	1011624612	鉄路17万マイルの興亡 ―鉄道からみた帝国主義―	C.B.ディヴィス	日本経済評論社	41275
671	9784818819924	1012719666	日英中世史料論	鶴島，博和	日本経済評論社	41365
672	9784426105129	1014000729	世界史のおさらい ―歴史の始まりから産業革命まで―（おとなの楽習 4）	土屋，彰久	自由国民社	41684
673	9784426110840	1014000744	現代史のおさらい （おとなの楽習 19）	土屋，彰久	自由国民社	41684
674	9784624932220	1014021730	歴史家と母たち ―カルロ・ギンズブルグ論―（ボイエーシス叢書）	上村，忠男	未来社	41698
675	9784766417432	1016418879	歴史学との出会い	速水，融	慶應義塾大学出版会	41929
676	9784326200535	1016479888	近代国家の形成とエスニシティ ―比較史的研究―（青山学院大学総合研究所叢書）	渡辺，節夫	勁草書房	41922
677	9784759813456	1016496324	文化遺産の眠る海 ―水中考古学入門―（DOJIN選書 45）	岩淵，聡文	化学同人	41999
678	9784818823846	1018934151	「新聞」で読む黒船前夜の世界	諸田，實	日本経済評論社	42720
679	9784818823198	1018934216	軍縮と武器移転の世界史 ―「軍縮下の軍拡」はなぜ起きたのか―	横井，勝彦	日本経済評論社	42720
680	9780470337325	1021855163	Archaeology for dummies （--For dummies）	Nancy Marie White	ワイリー・パブリッシング・ジャパン／ワイリー・ブラックウェル	42566
681	9781118679999	1021855175	First World War for dummies （--For dummies）	Seán Lang	ワイリー・パブリッシング・ジャパン／ワイリー・ブラックウェル	42566
682	9780470510155	1021855181	Twentieth century history for dummies UK ed（--For dummies）	Sean Lang	ワイリー・パブリッシング・ジャパン／ワイリー・ブラックウェル	42566
683	9784872594690	1022212613	市民のための世界史	大阪大学歴史教育研究会	大阪大学出版会	42629
684	9784326248339	1022470306	「知」とグローバル化 ―中世ヨーロッパから見た現代世界―	高山，博	勁草書房	42671
685	9784622085454	1023891627	ミクロストリアと世界史 ―歴史家の仕事について―	カルロ・ギンズブルグ	みすず書房	42748
686	9784622079859	1024589459	歴史の工房 ―英国で学んだこと―	草光，俊雄	みすず書房	42853
687	9784492919200	1025136693	ビジネスに効く!「世界史」 （週刊東洋経済eビジネス新書 No.122）	東洋経済新報社	東洋経済新報社	42944
688	9784492919866	1025136759	いまを読み解く「世界史」 （週刊東洋経済eビジネス新書 No.188）	東洋経済新報社	東洋経済新報社	42944
689	9784492920121	1025228523	近現代史 （週刊東洋経済eビジネス新書 No.211）	東洋経済新報社	東洋経済新報社	42951
690	9784766424096	1024943434	世界史のなかの近世 （青山学院大学総合研究所叢書）	青木，敦	慶應義塾大学出版会	42923
691	9784818820883	1025188242	歴史学の醍醐味	西川　正雄	日本経済評論社	42951
692	9784272510115	1025356557	歴史学が挑んだ課題 ―継承と展開の50年―	歴史科学協議会	大月書店	42972
693	9784585221623	1025431637	水中文化遺産 ―海から蘇る歴史―	林田，憲三	勉誠出版	43014
694	9780730376996	1025531293	Kokoda for dummies Australian ed（--For dummies）	Peter Williams	ワイリー・パブリッシング・ジャパン／ワイリー・ブラックウェル	43035
695	9784766424454	1025599549	第一次世界大戦への道 ―破局は避けられなかったのか―	ウィリアム・マリガン	慶應義塾大学出版会	43014
696	9784642054355	1025423412	語りかける文化遺産 ―ピラミッドから安土城・桂離宮まで―（歴史文化ライブラリー 35）	神部，四郎次	吉川弘文館	43140
697	9784642055147	1025424529	第二次世界大戦 ―現代世界への転換点―（歴史文化ライブラリー 114）	木畑，洋一	吉川弘文館	43140
698	9784642055833	1028112623	グローバル時代の世界史の読み方 （歴史文化ライブラリー 183）	宮崎，正勝	吉川弘文館	43455
699	9784642056267	1028112660	黄金の島ジパング伝説 （歴史文化ライブラリー 226）	宮崎，正勝	吉川弘文館	43455
700	9784492223796	1025881740	人類一万年の文明論 ―環境考古学からの警鐘―	安田，喜憲	東洋経済新報社	43119
701	9784582760668	1022205146	中世の再発見 ―対談 : 市・贈与・宴会―（平凡社ライブラリー 66）	網野，善彦	平凡社	42713
702	9784130220514	1026901572	考古学入門	鈴木，公雄	東京大学出版会	43140
703	9784766425192	1028063226	歴史は実験できるのか ―自然実験が解き明かす人類史―	ジャレド・ダイアモンド	慶應義塾大学出版会	43322
704	9784326248490	1029161073	ムカシのミライ ―プロセス考古学とポストプロセス考古学の対話―	阿子島，香	勁草書房	43448
705	9784492062111	1030360935	教養としての世界史の学び方	山下，範久	東洋経済新報社	43609
706	9784766424546	1030515208	真実が揺らぐ時 ―ベルリンの壁崩壊から9.11まで―	トニー・ジャット	慶應義塾大学出版会	43623
707	9784622087618	1030590848	敗北者たち ―第一次世界大戦はなぜ終わり損ねたのか1917-1923―	ローベルト・ゲルヴァルト	みすず書房	43651
708	9784492315163	1030682566	暴力と不平等の人類史 ―戦争・革命・崩壊・疫病―	ウォルター・シャイデル	東洋経済新報社	43700
709	9784582850239	1030601342	戦争の世紀 ―第一次世界大戦と精神の危機―（平凡社新書 023）	桜井，哲夫	平凡社	43721
710	9784326248346	1030884568	「20世紀史」を考える	塩川，伸明	勁草書房	43756
711	9784805110348	1031115494	歴史の歴史	樺山，紘一	千倉書房	43770
712	9784492371268	1031340608	スクエア・アンド・タワー　上 ―ネットワークが創り変えた世界―	ニーアル・ファーガソン	東洋経済新報社	43882
713	9784492371275	1031340609	スクエア・アンド・タワー　下 ―権力と革命500年の興亡史―	ニーアル・ファーガソン	東洋経済新報社	43882
714	9784622088653	1031670264	反穀物の人類史 ―国家誕生のディープヒストリー―	ジェームズ・C.スコット	みすず書房	43994
715	9784762828997	1031828328	サボタージュ・マニュアル ―諜報活動が照らす組織経営の本質―	米国戦略諜報局	北大路書房	44036
716	9784487812547	1032267596	移民の世界史	ロビン コーエン	東京書籍	44064
717	9784130262675	1032535601	歴史学の縁取り方 ―フレームワークの史学史―	恒木，健太郎	東京大学出版会	44204
718	9784866580234	1032633405	Toward creation of a new world history （JAPAN LIBRARY）	羽田　正	出版文化産業振興財団	44177
719	9784622089537	1033006434	感情史の始まり	ヤン・プランパー	みすず書房	44414
720	9784582124309	1033506513	世界史モノ事典 新版	平凡社	平凡社	44400
721	9784779111440	1033568610	切手が伝える第二次世界大戦 ―メディアとしての切手―（切手で知ろうシリーズ 1）	印南，博之	彩流社	44456
722	9784882028284	1033576061	古代水辺民の物語 ―太陽の生まれる楽土を求めて―	倉富，春成	彩流社	44477
723	9784882029007	1033576077	古代水辺民の遺産 ―新石器時代の文化基盤―	倉富，春成	彩流社	44477
724	9784639027324	1034126714	旧石器考古学辞典 4訂版	旧石器文化談話会	雄山閣	44554
725	9784872594379	1034149670	グローバルヒストリーと戦争 （阪大リーブル）	市　大樹	大阪大学出版会	44547
726	9784872596403	1034149680	グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育 ―日本史と世界史のあいだで―（阪大リーブル）	秋田茂	大阪大学出版会	44547
727	9784861825927	1034172448	第二次大戦の<分岐点>	大木毅	作品社	44575
728	9784872594263	1034302270	グローバルヒストリーと帝国 （阪大リーブル 044）	秋田　茂	大阪大学出版会	44596
729	9784639028147	1034507248	講座 考古学と関連科学	亀田修一	雄山閣	44673
730	9784272412365	1034680455	わかる・身につく歴史学の学び方 ―歴史学がわかると世界が見える―（シリーズ大学生の学びをつくる）	大学の歴史教育を考える会	大月書店	44715
731	9784622090571	1034689661	恥のきずな ―新しい文献学のために―	カルロ・ギンズブルグ	みすず書房	45233
732	9784492371312	1034769419	大惨事（カタストロフィ）の人類史	ニーアル・ファーガソン	東洋経済新報社	44764
733	9784585320173	1034769422	史学科の比較史 ―歴史学の制度化と近代日本―	小澤，実	勉誠出版	44757
734	9784866582207	1034787227	Asia Reoriented ―A New Conception of World History―	OKAMOTO　Takashi	出版文化産業振興財団	44750
735	9784130251730	1034871874	両岸の旅人 ―イスマイル・ユルバンと地中海の近代―（シリーズ・グローバルヒストリー 3）	工藤，晶人	東京大学出版会	44785
736	9784130230735	1035182582	歴史を社会に活かす ―楽しむ・学ぶ・伝える・観る―	歴史学研究会	東京大学出版会	44834
737	9784130251716	1035182583	グローバル化と世界史 （シリーズ・グローバルヒストリー 1）	羽田　正	東京大学出版会	44834
738	9784805108970	1035301820	なぜ歴史が書けるか	升味，準之輔	千倉書房	44862
739	9784393333464	1035689026	18歳から考える国家と「私」の行方 ―セイゴオ先生が語る歴史的現在―東巻	松岡　正剛	春秋社	44897
740	9784393333471	1035689027	18歳から考える国家と「私」の行方 ―セイゴオ先生が語る歴史的現在―西巻	松岡　正剛	春秋社	44897
741	9784130230803	1035842341	歴史学の作法	池上，俊一	東京大学出版会	44967

742	9784780312614	1036101833	さまざまな歴史世界 （講座:わたしたちの歴史総合－世界史×日本史－ 1）	歴史総合研究会	かもがわ出版	45037
743	9784780312621	1036101834	さまざまな国家 （講座:わたしたちの歴史総合－世界史×日本史－ 2）	歴史総合研究会	かもがわ出版	45037
744	9784780312638	1036101835	「近世」としての「東アジア近代」 （講座:わたしたちの歴史総合－世界史×日本史－ 3）	歴史総合研究会	かもがわ出版	45037
745	9784780312645	1036101836	「近代」とは何か （講座:わたしたちの歴史総合－世界史×日本史－ 4）	歴史総合研究会	かもがわ出版	45037
746	9784780312652	1036101837	戦争と社会主義を考える （講座:わたしたちの歴史総合－世界史×日本史－ 5）	歴史総合研究会	かもがわ出版	45037
747	9784780312669	1036101838	日本史の政治哲学 （講座:わたしたちの歴史総合－世界史×日本史－ 6）	歴史総合研究会	かもがわ出版	45037
748	9784130611411	1036104380	汎計画学 ソヴィエト・ロシア篇	八束，はじめ	東京大学出版会	45044
749	9784130230827	1036391756	「戦前歴史学」のアリーナ ―歴史家たちの一九三〇年代―	歴史学研究会	東京大学出版会	45107
750	9784585320272	1037313206	グレーゾーンと帝国 = La zona grigia e imperi ―歴史修正主義を乗り越える生の営み―	高綱，博文	勉誠社	45226
751	9784779129216	1037777623	歴史との対話 ―今を問う思索の旅―	樋口，映美	彩流社	45254
752	9784862438829	1036252688	物質の状態 【動画】（こっそり学ぶ！はじめての理科［化学］VOL.3）	医学映像教育センター	医学映像教育センター	45240
753	9784862438836	1036427510	化学反応 【動画】（こっそり学ぶ！はじめての理科 ［化学］VOL.4）	医学映像教育センター	医学映像教育センター	45240
754	9784862438843	1036510625	酸と塩基 【動画】（こっそり学ぶ！はじめての理科［化学］VOL.5）	医学映像教育センター	医学映像教育センター	45240
755	9784862438850	1036525536	生体を構成する物質 【動画】（こっそり学ぶ！はじめての理科［化学］VOL.6）	医学映像教育センター	医学映像教育センター	45240
756	9784621306611	1034437429	はじめての数論	J.H.シルヴァーマン	丸善出版	44645
757	9784621306987	1034511296	クルツワイル-ヘンストック積分入門 ―積分論へのやさしい統一的アプローチ―	A.フォンダ	丸善出版	44673
758	9784820729822	1034807644	沁みる「フーリエ級数・フーリエ変換」 ―文系編集者がわかるまで書き直した―	佐藤 敏明	日本能率協会マネジメントセンター	44764
759	9784320114685	1034871967	応用事例とイラストでわかる離散数学 ―カンタンな数学でAIも理解できる!?―第2版	延原，肇	共立出版	44799
760	9784000054744	1035110522	シュレーディンガー方程式 ―ベクトルからはじめる量子力学入門―	ダニエル・フライシュ	岩波書店	44806
761	9784799328613	1035171038	わくわく科学実験図鑑 ―なぜ?どうして?がよくわかる―（おうちでSTEAM教育）	クリスティーナ・ハーカート・シュール	ディスカヴァー・トゥエンティワン	44834
762	9784274228988	1035182763	Python意思決定の数理入門	橋本，洋志	オーム社	44841
763	9784535789579	1035265779	代数学のレッスン ―計算体験を重視する入門―	雪田，修一	日本評論社	44876
764	9784254122725	1035502804	尤度によるデータ生成過程の表現 （統計学入門 2）	豊田，秀樹	朝倉書店	44876
765	9784254131437	1035709550	現代相対性理論入門	井田，大輔	朝倉書店	44904
766	9784320113930	1035758075	次元解析入門 （数学のかんどころ 40）	矢崎，成俊	共立出版	44953
767	9784254122664	1035758093	生成量による実感に即したデータ分析 （統計学入門 1）	豊田，秀樹	朝倉書店	44932
768	9784768705971	1035805735	行列と幾何学 ―図で見てわかる線形代数―復刻版	松本，誠	現代数学社	44988
769	9784535798304	1035826686	京大の入試問題で深める高校物理 （はじめて学ぶ物理学）	吉田 弘幸	日本評論社	44967
770	9784762832093	1035834229	エピソードで学ぶ統計リテラシー ―高校から大学、社会へとつながるデータサイエンス入門―	山田 剛史	北大路書房	44960
771	9784535789685	1035877096	具体例からの表現論入門 新装版 （表現論入門セミナー 第1巻）	平井，武	日本評論社	45002
772	9784535789692	1035877097	リー代数と表現論 新装版 （表現論入門セミナー 第2巻）	山下，博	日本評論社	45002
773	9784798175751	1036207448	身の回りにあるノーベル賞がよくわかる本 ―しろねこと学ぶ生理学・医学賞、物理学賞、化学賞―【スマホ・読上】（サイエンス・ウォーカー） （※）	かきもち	翔泳社	45205
774	9784535798328	1036249637	常微分方程式入門 ―物理を使うすべての人へ―	大信田 丈志	日本評論社	45065
775	9784764906617	1036288635	イベント時系列解析入門 （統計スポットライト・シリーズ 6）	小山，慎介	近代科学社	45086
776	9784764960510	1036288636	R言語入門	長畑，秀和	近代科学社	45086
777	9784320044999	1036288643	基礎からわかる物理化学	柴田，茂雄	共立出版	45093
778	9784780610413	1036335244	物理学入門 第3版	原 康夫	学術図書出版社	45086
779	9784788909632	1036366853	となりにカテキョつきっきり算数 入門編1 数・割合・速さ	安浪 京子	実務教育出版	45100
780	9784320114777	1036391770	整数論体験入門	野口，和範	共立出版	45107
781	9784320115217	1036391771	計算による最適化入門 （コンピュータが育む数学の展開）	福田，公明	共立出版	45107
782	9784785312084	1036427646	解析入門 （数学のとびら）	柳田 英二	裳華房	45128
783	9784785335236	1036427662	有機化学のための量子化学計算入門 ―Gaussianの基本と有効利用のヒント―	西長 亨	裳華房	45128
784	9784785324117	1036427675	電磁気学入門 （物理学レクチャーコース）	加藤 岳生	裳華房	45128
785	9784785322762	1036427676	マクスウェル方程式で学ぶ電磁気学入門	竹川 敦	裳華房	45128
786	9784785335250	1036427677	高校生にもわかる物理化学 ―量子化学と化学熱力学―	岩井 秀人	裳華房	45128
787	9784320114760	1036483346	複素関数入門 ―留数計算への道すじ―	中島，匠一	共立出版	45149
788	9784339046779	1036483353	わかる図形科学	平野，元久	コロナ社	45135
789	9784254111590	1036483357	数論入門事典	加藤，文元	朝倉書店	45142
790	9784422400754	1036488592	イラストでわかるやさしい物理学 （「科学のキホン」シリーズ 1）	カート・ベイカー	創元社	45184
791	9784320114821	1036652466	大学数学入門教室 ―学んで解いて身につける―	藤岡，敦	共立出版	45170
792	9784320036208	1036652469	大学生の物理入門 ―基礎と演習―	高橋，正雄	共立出版	45170
793	9784339061260	1036652477	これならわかる微積分学	島，弘幸	コロナ社	45170
794	9784254122886	1036652480	組成データ解析入門 ―パーセント・データの問題点と解析方法―	太田，亨	朝倉書店	45170
795	9784422400778	1036942085	イラストでわかるやさしい化学 （「科学のキホン」シリーズ 3）	東辻 千枝子	創元社	45184
796	9784320114791	1037099437	よくわかるIRで身につく統計学入門	兵頭，昌	共立出版	45205
797	9784320114814	1037099438	入門統計的回帰とモデル選択 ―数理とRによる仕組みの理解―	萩原，克幸	共立出版	45205
798	9784274230851	1037099464	Excelで学ぶ多変量解析入門 新装版 ―次世代の解析手法「拡張型数量化1類」を解説―	菅，民郎	オーム社	45205
799	9784254131499	1037313224	新・物性物理入門 = A new introduction to condensed matter physics	塩見，雄毅	朝倉書店	45226
800	9784274230929	1037313232	化学のためのPythonによるデータ解析・機械学習入門 改訂2版	金子，弘昌	オーム社	45219
801	9784320114869	1037378004	データ分析入門 ―Excelで学ぶ統計―	岩城，秀樹	共立出版	45268
802	9784320114883	1037378006	オープンデータを使って学ぶ!Excel統計分析入門	向原，強	共立出版	45268
803	9784635130172	1037414320	文系でもよくわかる宇宙最大の謎！時間の本質を物理学で知る 【スマホ・読上】	松原，隆彦	山と渓谷社	
804	9784274231087	1037464421	機械学習のための確率過程入門 ―確率微分方程式からベイズモデル,拡散モデルまで―	内山，祐介	オーム社	45240
805	9784274231025	1037464423	Rによる教育・言語・心理系のためのデータサイエンス入門	柳川，浩三	オーム社	45240
806	9784862556783	1037779420	算数嫌いな子が好きになる本 ―小学校6年分のつまずきと教え方がわかる―増補改訂版	松島，伸浩	カンゼン	45282
807	9784621308769	1037842749	トロピカル幾何学入門	D.マクラガン	丸善出版	45268
808	9784764960718	1037939950	ビギナーのための超電導 ―理論・実験・解析の超入門―（マルチフィジックス有限要素解析シリーズ 5）	寺尾，悠	近代科学社	
809	9784274230967	1037972927	マンガでわかるまずはこれだけ！統計学 ―Excelで体験するデータ分析―	田久 浩志	オーム社	
810	9784320125520	1039200604	生成AI ―言語・ロボット・動作・法律 : 特集―（コンピュータビジョン最前線 Summer 2024）		共立出版	45534
811	9784254123005	1039200575	やってみようアンケートデータ分析 ―選択式回答のテキストマイニング流分析―	牛沢，賢二	朝倉書店	45527
812	9784787235374	1038980760	生成AIの論点 ―学問・ビジネスからカルチャーまで―【スマホ・読上】	喜連川，優	青弓社	45513
813	9784339029413	1038981545	現代光コンピューティング入門	成瀬，誠	コロナ社	45513
814	9784274231841	1038980742	深層学習による画像認識の基礎	菅沼 雅徳	オーム社	45506
815	9784320125742	1038981734	Human‐in‐the‐Loop機械学習 ―人間参加型AIのための能動学習とアノテーション―	Robert(Munro)Monarch	共立出版	45506
816	9784320125773	1038981735	コンピュータリテラシ ―情報処理入門―第5版	植竹，朋文	共立出版	45506
817	9784320125780	1038981736	大学生の知の情報・AIスキル	森，園子	共立出版	45506
818	9784098253005	1038447754	文系人間のための「AI」論 【スマホ・読上】（小学館新書）	高橋 透	小学館	45471
819	9784407358407	1036996149	超スマート社会を生きるための情報のセキュリティと倫理	佐藤万寿美	実教出版	45191
820	9784407361223	1036996152	大学基礎データサイエンス	伊藤大河	実教出版	45191
821	9784492922217	1036007286	テクノロジーの未来地図 【スマホ・読上】（週刊東洋経済eビジネス新書 No.420）	東洋経済新報社	東洋経済新報社	45135
822	9784818825635	1032433726	AIのキホン ―人工知能のしくみと活用―（大妻ブックレット 4）	市村，哲	日本経済評論社	44211
823	9784492558362	1039267718	ゼロから始めるAI・データサイエンス超入門 ―データを正しく扱うための第一歩―	藤田，一樹	東洋経済新報社	45562
824	9784535789203	1038023027	AI人材にいま一番必要なこと ―すべての人が知るべき、AIの本質と活用術―【スマホ・読上】	柴原，一友	日本評論社	45534
825	9784621053911	1038610644	これからの「ソフトウェアづくり」との向き合い方 【スマホ・読上】（丸善ライブラリー）	石川 冬樹	丸善出版	45492
826	9784295018964	1038652380	サイバーセキュリティ ―生成AI時代の新たなビジネスリスク―（先読み!IT×ビジネス講座 : 濃い内容がサクッと読める!）	岩佐，晃也	インプレス	45478
827	9784492962305	1038808961	2034年デジタル社会の地図 ―未来への解像度を上げる10年後の予測―	TIS株式会社ビジネスイノベーションユニット	東洋経済新報社	45478
828	9784844609315	1038501341	趣味のChatGPT ―超初心者&ITに馴染めない「大人」に贈る―	酒井，麻里子	理工図書	45443
829	9784862515292	1038584524	はじめてのソーシャルメディア論	白土由佳	三和書籍	45436
830	9784326103355	1038477631	人工知能の哲学入門	鈴木 貴之	勁草書房	45429
831	9784492503522	1038477680	AIナビゲーター 2024年版 ―生成AIの進化がもたらす次世代ビジネス―	野村総合研究所	東洋経済新報社	45429
832	9784130634595	1038477694	教養としての機械学習	杉山 将	東京大学出版会	45415
833	9784750356860	1038372647	抑圧のアルゴリズム ―検索エンジンは人種主義をいかに強化するか―	サフィヤ・U.ノーブル	明石書店	45401
834	9784320125728	1038360284	新入生のためのデータサイエンス入門	豊田，修一	共立出版	45387
835	9784622096016	1036652427	認知アポカリプス ―文明崩壊の社会学―	ジェラルド・ブロネール	みすず書房	45366
836	9784274231179	1037972924	画像生成AIと著作権について知っておきたい50の質問	ニャタBE	オーム社	45310
837	9784560094594	1035877153	スマホ・デトックスの時代 ―「金魚」をすくうデジタル文明論―【スマホ・読上】	ブリュノ・パティノ	白水社	45289
838	9784326000609	1037803173	知識コモンズとは何か ―パブリックドメインからコミュニティ・ガバナンスへ―	西川，開	勁草書房	45261
839	9784585300090	1036946518	デジタルアーカイブの新展開	時実，象一	勉誠社	45191
840	9784422414492	1036488595	イラストで学ぶ世界を変えたコンピュータの歴史	レイチェル・イグノトフスキー	創元社	45184
841	9784326103249	1036483337	人工知能とどうつきあうか ―哲学から考える―	鈴木，貴之	勁草書房	45149

洋書（紙のみ）

NO	ISBN（13桁）	書名	著者名	出版社	出版年月
1	9781119869986	Algorithms for Dummies	Mueller, John Paul/ Massaron, Luca	For Dummies	202206
2	9781119806660	iMac for Dummies	Chambers, Mark L.	Wiley	202202
3	9781484290590	Beginning Java Objects : From Concepts to Code	Barker, Jacquie	APress	202305
4	9781394159161	GitHub for Dummies	Guthals, Sarah/ Haack, Phil	For Dumies	202305
5	9781119861645	Java for Dummies	Burd, Barry	Wiley	202206
6	9783031324536	A Psychology of User Experience : Involvement, Affect and Aesthetics (Human-Computer Interaction Series)	Turner, Phil	Springer	202308
7	9783031364860	Stepping into Virtual Reality	Gutiérrez A, Mario A. / Vexo, Frédéric / Thalmann, Daniel	Springer	202308
8	9783031078156	Concise Guide to Software Engineering : From Fundamentals to Application Methods (Undergraduate Topics in Computer Science)	O'Regan, Gerard	Springer	202208
9	9780367332600	AI Meets BI : Artificial Intelligence and Business Intelligence	Bulusu, Lakshman/ Abellera, Rosendo	CRC Press	202011
10	9781484280195	Applied Deep Learning with Tensorflow 2 : Learn to Implement Advanced Deep Learning Techniques with Python	Michelucci, Umberto	Apress	202204
11	9781119796763	Artificial Intelligence for Dummies	Mueller, John Paul/ Massaron, Luca	Wiley	202201
12	9781492055433	Artificial Intelligence in Finance : A Python-Based Guide	Hilpisch, Yves	O'Reilly Media	202010
13	9781492041412	Deep Learning from Scratch : Building with Python from First Principles	Weidman, Seth	O'Reilly Media	201909
14	9781098134181	Generative Deep Learning : Teaching Machines to Paint, Write, Compose, and Play	Foster, David	O'Reilly Media	202305
15	9781119863632	Handbook of Human-Machine Systems (IEEE Press Series on Human-machine Systems)	Fortino, Giancarlo (EDT)/ Kaber, David (EDT)/ Nürnberger, Andreas (EDT)	Wiley-IEEE Press	202308
16	9789811245145	Handbook on Computer Learning and Intelligence	Angelov, Plamen Parvanov (EDT)	World Scientific Pub Co Inc	202206
17	9781098113001	Learning Data Science : Data Wrangling, Exploration, Visualization, and Modeling with Python	Lau, Sam/ Gonzalez, Joseph/ Nolan, Deborah	O'Reilly Media	202309
18	9781032256986	Computer Graphics through OpenGL® : From Theory to Experiments	Guha, Sumanta	Chapman & Hall/CRC	202212
19	9781484281543	Beginning Data Science in R 4 : Data Analysis, Visualization, and Modelling for the Data Scientist	Mailund, Thomas	Apress	202206
20	9781394155729	Beginning Database Design Solutions : Understanding and Implementing Database Design Concepts for the Cloud and Beyond	Stephens, Rod	Wiley	202305
21	9781119821182	Data Conscience : Algorithmic Siege on our Humanity	Marshall, Brandeis Hill/ Gebru, Timnit (FRW)	John Wiley & Sons Inc	202210
22	9781492031086	Fundamentals of Data Visualization : A Primer on Making Informative and Compelling Figures	Wilke, Claus O	O'Reilly Media	201904
23	9780443186790	Mathematical Methods in Data Science	Ren, Jingli/ Wang, Haiyan	Elsevier	202301
24	9783031023620	Thinking Data Science : A Data Science Practitioner's Guidebook	Sarang, Poornachandra	Springer	202303

25	9789811250071	Way of Data, The: from Technology to Applications	Wu, Hequan/ Zheng, Weimin	World Scientific	202304
26	9783031320439	Essentials of Cloud Computing : A Holistic, Cloud-Native Perspective (Texts in Computer Science)	Surianarayanan, Chellammal/ Chelliah, Pethuru Raj	Springer	202308
27	9781119837497	Search Engine Optimization All-in-One for Dummies	Clay, Bruce/ Jones, Kristopher B.	Wiley	202204
28	9781119892304	How to Measure Anything in Cybersecurity Risk	Hubbard, Douglas W./ Seiersen, Richard	Wiley	202304
29	9781538167823	Privacy in the Age of Big Data : Recognizing Threats, Defending Your Rights, and Protecting Your Family	Payton, Theresa/ Claypoole, Ted	Rowman & Littlefield	202303
30	9781032458847	The Future of Digital Communication : The Metaverse	Rojas, Raquel V. Benítez (EDT)	CRC Press	202308
31	9789811980077	Communication Principles for Data Science (Signals and Communication Technology)	Suh, Changho	Springer	202303
32	9781786307880	Digital Dictionary	Cauli, Marie/ Favier, Laurence/ Jeannas, Jean-Yves	Wiley	202211
33	9783031123030	Modern Cryptography : Applied Mathematics for Encryption and Information Security	Easttom, William	Springer	202210
34	9780367859404	Artificial Intelligence and Causal Inference (Chapman & Hall/crc Machine Learning & Pattern Recognition)	Xiong, Momiao	Chapman & Hall/CRC	202203
35	9780262545198	Causal Inference (The Mit Press Essential Knowledge series)	Rosenbaum, Paul R.	MIT Press	202304
36	9781119561071	Computational Statistics in Data Science	Piegorsch, Walter W./ Levine, Richard A./ Zhang, Hao Helen/ Lee, Thomas C. M.	Wiley	202204
37	9780443184307	Deep Learning (Handbook of Statistics)	Srinivasa Rao, Arni S.R. (EDT)/ Govindaraju, Venu (EDT)/ Rao, C.R. (EDT)	Academic Press Inc	202303
38	9780367456856	Design and Analysis of Experiments and Observational Studies using R (Chapman & Hall/crc Texts in Statistical Science)	Taback, Nathan	CRC Press	202204
39	9781032223827	Fundamentals of Mathematical Statistics (Chapman & Hall/crc Texts in Statistical Science)	Lauritzen, Steffen	Chapman & Hall/CRC	202304
40	9789813361072	Deep Learning and Physics (Mathematical Physics Studies)	Tanaka, Akinori/ Tomiya, Akio/ Hashimoto, Koji	Springer	202102
41	9780198857242	Essays in Physics : Thirty-two thoughtful essays on topics in undergraduate-level physics	Brooker, Geoffrey	Oxford University Press	202107
42	9789819939046	Demystifying Causal Inference : Public Policy Applications with R	Dayal, Vikram/ Murugesan, Anand	Springer	202310
43	9781032027302	Business Intelligence and Human Resource Management : Concept, Cases, and Practical Applications	Singh, Deepmala (EDT)/ Singh, Anurag (EDT)/ Omar, Amizan (EDT)	Productivity Press	202208
44	9783662658178	Blockchain Technology for Business Processes : Meaningful Use of the New Technology in Businesses	Adam, Katarina	Springer	202209
45	9781439858349	Business Analysis for Business Intelligence	Brijs, Bert	Taylor & Francis Inc	201210
46	9781119298588	Business Analytics for Managers : Taking Business Intelligence Beyond Reporting (Wiley & Sas Business)	Laursen, Gert H. N./ Thorlund, Jesper	Wiley	201612
47	9780124058910	Data Warehousing in the Age of Big Data (The Morgan Kaufmann Series on Business Intelligence)	Krishnan, Krish	Morgan Kaufmann Publishers In	201306
48	9780470433744	Decision Support Systems for Business Intelligence	Sauter, Vicki L.	John Wiley & Sons Inc	201101
49	9781394202171	Present Beyond Measure : Design, Visualize, and Deliver Data Stories That Inspire Action	Pica, Lea	Wiley	202311
50	9780470408865	Profiles in Performance : Business Intelligence Journeys and the Roadmap for Change	Dresner, Howard	John Wiley & Sons Inc	200911

雑誌（国内・紙のみ）

NO	ISSN	商品コード	書名	著者名	出版社	刊行頻度
1	0916-6297	L1050	ＳＯＦＴＷＡＲＥ　ＤＥＳＩＧＮ		技術評論社	月刊
2	0386-2240	05469	数理科学		サイエンス社	月刊
3	1342-2839	A0494	エレクトロニクス実装技術		Ｇｉｃｈｏビジネスコミュニケーションズ（株）	月刊
4	0447-8053	05269	情報処理		情報処理学会	月刊
5	1345-482X	A4231	日経ＮＥＴＷＯＲＫ		日経ＢＰマーケティング	月刊
6	0385-1680	A4241	日経エレクトロニクス		日経ＢＰマーケティング	月刊
7	0285-4619	A4228	日経コンピュータ		日経ＢＰマーケティング	隔週
8	0917-009X	07115	日経サイエンス		日経ＢＰマーケティング	月刊
9	1347-4685	07189	日経ソフトウエア		日経ＢＰマーケティング	隔月刊
10	0287-9506	A4222	日経パソコン		日経ＢＰマーケティング	隔週
11	0387-9569	01619	Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ		ＣＱ出版株式会社	月刊
12	0040-9413	L0461	トランジスタ技術		ＣＱ出版株式会社	月刊
13	0029-0491	C2137	日経Ｒｏｂｏｔｉｃｓ		日経ＢＰマーケティング	月刊
14	0912-8085	A0962	人工知能		人工知能学会	隔月刊

【資料26】開志創造大学総務会規程（案）

開志創造大学総務会規程（案）

（目　的）

第１条　この規程は，開志創造大学学則第１５条第４項の規定に基づき、総務会について必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条　総務会は、開志創造大学学則第１５条第３項に掲げる事項を審議する。

（委員会設置）

第３条　総務会は、必要に応じて個別の議案を審議させるための専門委員会（以下「委員会」という）を置くことができる。

２　委員会における審議結果は総務会もしくは学部教授会及び研究科教授会に報告し、その承認を経なければならない。

３　委員会に関する規程は、別に定める。

（議　長）

第４条　総務会に議長を置き、学長をもって充てる。

２　議長は、総務会を主宰する。

（開　催）

第５条　総務会は、原則として毎月１回開催する。

２　前項の規定にかかわらず、議長は，必要に応じて臨時に総務会を開催することができる。

（議案の提出）

第６条　議案は、議長が提出する。

２　前項の規定にかかわらず、当該総務会構成員は、その３分の１以上の連署をもって議案を提出することができる。

（審　議）

第７条　総務会は、公務により出張中の者、休職者及び３０日以上の病気休暇中の者並びに大学が企画運営する行事により欠席する者を除き、議題ごとに当該議決権を有する者の３分の２以上の出席がなければ議事を行うことができない。

２　総務会の審議は、他に特別の定めのある場合を除き、議決権を有する出席者の過半数をもって決し、理事会に留保されている事項を除き、議長が最終決定する。

（構成員以外の者の出席）

第８条　総務会は、必要に応じて構成員以外の者を総務会に出席させ、意見を聴くことができる。

（審議事項の報告）

第９条　第２条の規定に基づき審議された事項のうち、大学の円滑な運営を図るために学部教授会及び研究科教授会への報告が必要とされる事項については、議長を通じて学部教授会及び研究科教授会に報告しなければならない。

（庶　務）

第１０条　総務会の庶務は、事務局総務課が処理する。

（規程の改廃）

第１１条　この規程の改廃は、総務会の審議を経て学長が決定する。

（運営の細目）

第１２条　この規程に定めるもののほか、総務会の運営について必要な事項は、総務会の議を経て議長が別に定める。

附　則

この規程は，平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

J 2102

開志創造大学学部教授会規程（案）

（趣　旨）

第１条　この規程は、開志創造大学学則第１７条第４項の規定により、学部教授会（以下「教授会」という。）に関し、必要な事項を定める。

（構　成）

第２条　教授会は、学長及び当該組織に所属する基幹教員をもって構成する。

２　学則第１６条第２項のただし書きにより、必要があると認めるときはその他の教職員を出席させることができる。

３　前項による取扱は学部長が決定する。

（審議事項）

第３条　教授会は、学則第１７条第２項及び第３項に定める事項について学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（会　議）

第４条　教授会は、原則として毎月定例に開催する。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

（議長及び会の開催）

第５条　教授会に議長を置き、学則第１２条第３項の規定により学部長をもって充てる。ただし、議長に事故があるときは、構成員のうちから議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

２　教授会構成員の３分の１以上が開催を要求したときは、学部長は教授会を開催しなければならない。

（会議の成立要件）

第６条　教授会は、構成員（授業中、止むを得ない理由による学生指導中、海外出張中及び休職中の者を除く）の３分の２以上が出席しなければ開くことができない。

（審　議）

第７条　教授会における審議は、出席構成員の過半数の賛意をもって教授会の意見とする。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（構成員以外の出席）

第８条　議長は、必要があると認めるときは、第２条に規定する教授会を構成する者（以下「構成員」という。）以外の者を当該教授会に出席させ、報告又は意見を求めることができる。

２　前項による扱いは学部長が決定する。

（議事の記録）

第９条　議長は、教授会の議事の要旨を記録して、次回の定例教授会で確認を得るものと

する。

（庶　務）

第１０条　教授会に関する事務並びに議事要旨の作成及び保管は、議長の指示に基づき総務課が行う。

（雑　則）

第１１条　この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、学長が決定する。

（補　則）

第１２条　この規程の改廃は、教授会もしくは総務会の審議を経て学長が決定する。

附　則

この規定は、令和８年４月１日から施行する。

【資料28】開志創造大学学科会議規程（案）

開志創造大学学科会議規程（案）

（設　置）

第１条　開志創造大学学則第１８条第１項の規定により、学科会議を置く。

（組　織）

第２条　学科会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 開志創造大学の当該学部の基幹教員　若干名

(2) 当該学部教授会が必要と認めた者　若干名

２　前項第２号会議の委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。

（審議事項）

第３条　学科会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 学部に係る教育・研究に関すること。

(2) 学部教授会から付託された事項に関すること。

（議　長）

第４条　学科会議に議長を置き、学長がこれを決定する。

２　議長は、学科会議を招集する。

３　議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名した構成員がその職務を代理する。

（審　議）

第５条　学科会議は、構成員の過半数の出席をもって開くものとする。

２　学科会議の審議は、出席した構成員の過半数の賛意をもって学科会議の意見とする。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第６条　議長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

（事　務）

第７条　学科会議の事務は、関係部局等の協力を得て、事務局で処理する。

（雑　則）

第８条　この規程に定めるもののほか、学科会議の運営に関し必要な事項は、学科会議の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

開志創造大学自己点検・評価委員会規程（案）

（設　置）

第１条　開志創造大学に自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目　的）

第２条　委員会は、他の委員会と密接な連携を図りつつ、学生・教員・職員相互協力のもと、教育全般に関する企画・提言を行い、開志創造大学の教育研究の改善を推進することを目的とする。

（任　務）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、教育研究の改善を適切に推進することを任務とする。

（１）本学の教育研究活動等に関し、全学的な観点から行う自己点検・評価の方針の策定に関すること。

（２）全学的な自己点検・評価の企画立案、評価項目の設定、実施及びその結果の公表に関すること。

（３）学外者評価及び学外機関評価への対応及びその結果の公表に関すること。

（４）全学的自己点検・評価、学外者評価及び学外機関評価の結果に基づく学長への改善方策及び改善計画の提言に関すること。

（５）その他本学における自己点検・評価に関すること。

（６）必要規程の点検に関すること。

（７）その他本学における教育研究の改善の推進に関すること。

（組　織）

第４条　委員会は、次の委員をもって組織する。

（１）学部から選出された教員　　３名以上

（２）研究科から選出された教員　　３名以上

（３）事務職員　　若干名

（４）学部及び研究科から選出する委員については、必要に応じて増員することができる。

（任　期）

第５条　教員である委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　教員である委員に欠員が生じた場合は、教員による補欠委員を選出する。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員長）

第６条　委員会に委員長を置く。

２　委員長は学部長及び研究科長と協議し、学長が委員のうちから委嘱する。

３　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（委員会）

第７条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

２　委員会の議事は、出席した委員の過半数の賛成をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第８条　委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（専門部会）

第９条　委員長が必要と認めるときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。

２　専門部会の委員は、委員会委員以外の者のうちからも選任できるものとし、委員長が委嘱する。

３　専門部会の長は、委員会委員のうちからあらかじめ委員長が指名する。

（審査終了後の報告）

第１０条　委員長は、委員会において重要な事項について審議を終了したときは速やかに、その審議結果を学部長もしくは研究科長に報告しなければならない。学部長もしくは研究科長は、その報告内容を精査し、総務会、学部教授会もしくは研究科教授会の承認を受ける必要があるかを委員長に指示する。委員長は、学部長もしくは研究科長の指示を受け、審議結果を総務会、学部教授会もしくは研究科教授会に報告し、学長の最終決定を得なければならない。

２　委員長は、審議結果の総務会、学部教授会もしくは研究科教授会への報告を専門委員会（部会）の責任者に指示することができる。

（審議決定の効力）

第１１条　委員会が行った議決のうち重要な事項については、その後における総務会、学部教授会もしくは研究科教授会の承認と学長の決定を経て効力を生ずるものとする。ただし、あらかじめ総務会、学部教授会もしくは研究科教授会の承認並びに学長の承認を経て、その効力の確定を委員会の議決に委ねた場合は、この限りでない。

（事　務）

第１２条　委員会の事務は、事務局ＩＲ室がこれにあたる。

（雑　則）

第１３条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が審議する。

２　審議終了後の取扱いは、第１０条に定める手続きを準用する。

（改　廃）

第１４条　この規程の改廃は、総務会、学部教授会もしくは研究会教授会の審議を経て学長が決定する。

附　則

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２６年５月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

J 2407

開志創造大学ＳＤ委員会規程（案）

（設　置）

第１条　開志創造大学は、本学の教育理念の実現に向け、スタッフ・ディベロップメント（通称ＳＤ）を推進するために、開志創造大学ＳＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目　的）

第２条　委員会は、本学の教育理念の実現することを目的として、教育・研究内容及び教育方法の改善、そして個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組むために、ＳＤ委員会の構成、役割、運営等について定める。

（任　務）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、組織的な取り組みを適切に推進することを任務とする。

(1) ＳＤ活動の企画・立案

(2) ＳＤ活動の実績評価

(3) ＳＤ活動に関する情報の収集と提供

(4) その他、学内機関の諮問する事項

（組　織）

第４条　委員会は、次の委員をもって組織する。

(1) 学部から選出された教員　　１名以上

(2) 研究科から選出された教員　　１名以上

(2) 委員会が必要と認めた教員及び事務職員　若干名

（任　期）

第５条　教員である委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　教員である委員に欠員が生じた場合は、教員による補欠委員を選出する。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（専門部会）

第７条　委員会が必要と認めるときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。

（審議終了後の報告）

第８条　委員会は、委員会において重要な事項について審議を終了したときは速やかに、その審議結果を学部長と研究科長に報告しなければならない。学部長と研究科長は、その報告内容を精査し、総務会の承認を受ける必要があるかを委員会に指示する。委員会は、学部長と研究科長の指示を受け、審議結果を総務会に報告し、学長の最終決定を得なければならない。

２　委員会は、審議結果の総務会の報告を専門委員会（部会）の責任者に指示することができる。

（審議決定の効力）

第９条　委員会が行った議決のうち重要な事項については、その後における総務会の承認と学長

の決定を経て効力を生ずるものとする。ただし、あらかじめ総務会の承認並びに学長の承認を経て、その効力の確定を委員会の議決に委ねた場合は、この限りでない。

（事　務）

第１０条　委員会の事務は、事務局教務課がこれにあたる。

（雑　則）

第１１条　ここの規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が審議する。

２　審議終了後の取扱いは、第８条に定める手続きを準用する。

（補　則）

第１２条　この規程の改廃は、総務会の審議を経て学長が決定する。

附　則

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２０年１０月１５日から施行する。

附　則

この規程は、平成２０年１１月１９日から施行する。

附　則

この規程は、平成２１年８月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

【資料31】開志創造大学キャリア支援委員会規程（案）

J 2411

開志創造大学キャリア支援委員会規程（案）

（設　置）

第１条　開志創造大学にキャリア支援委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目　的）

第２条　委員会は、学生のキャリア形成について適切な支援や助言を行い、その充実を図るために必要な事項を調査、審議又は処理することを目的とする。

（任　務）

第３条　　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、学生のキャリア形成支援の充実を図ることを任務とする。

（１）学生のキャリア形成支援及び就職支援の企画、調整及び実施に関する事項

（２）学生のキャリア形成支援及び就職支援に係る情報収集及び調査並びに分析に関する事項

（３）学生のキャリア形成支援及び就職支援に係る教職員の意識の啓発に関する事項

（４）職業安定法及び雇用対策法に基づく職業紹介機関としての事項

（５）インターンシップに関する事項

（６）その他キャリア支援に関する重要な事項

（組　織）

第４条　委員会は、次の委員をもって組織する。

（１）学部から選出された教員　　１名以上

（２）研究科から選出された教員　　１名以上

（３）事務職員　　若干名

（４）学部と研究科から選出する委員については、必要に応じて増員することができる。

（任　期）

第５条　教員である委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　教員である委員に欠員が生じた場合は、教員による補欠委員を選出する。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員長）

第６条　委員会に委員長を置く。

２　委員長は学部長と研究科長と協議し、学長が委員のうちから委嘱する。

３　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（委員会）

第７条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

２　委員会の議事は、出席した委員の過半数の賛成をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）
第８条　委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。
（専門部会）
第９条　委員長が必要と認めるときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。
２　専門部会の委員は、委員会委員以外の者のうちからも選任できるものとし、委員長が委嘱する。
３　専門部会の長は、委員会委員のうちからあらかじめ委員長が指名する。
（審査終了後の報告）
第１０条　委員長は、委員会において重要な事項について審議を終了したときは速やかに、その審議結果を学部長と研究科長に報告しなければならない。学部長と研究科長は、その報告内容を精査し、学部教授会もしくは研究科教授会のどちらの承認を受ける必要があるかを委員長に指示する。委員長は、学部長か研究科長の指示を受け、審議結果を学部教授会もしくは研究科教授会に報告し、学長の最終決定を得なければならない。
２　委員長は、審議結果の学部教授会もしくは研究科教授会への報告を専門委員会（部会）の責任者に指示することができる。
（審議決定の効力）
第１１条　委員会が行った議決のうち重要な事項については、その後における総務会の承認と学長の決定を経て効力を生ずるものとする。ただし、あらかじめ総務会の承認並びに学長の承認を経て、その効力の確定を委員会の議決に委ねた場合は、この限りでない。
（事　務）
第１２条　委員会の事務は、キャリア支援室がこれにあたる。
（雑　則）
第１３条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が審議する。
２　審議終了後の取扱いは、第１０条に定める手続きを準用する。
（改　廃）
第１４条　この規程の改廃は、総務会の審議を経て学長が決定する。

附　則
この規程は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、令和８年４月１日から施行する。

【資料32】高校卒業者等への履修指導用資料（授業科目履修例）　開志創造大学 情報デザイン学部　情報デザイン学科

：必修科目　赤文字：主要授業科目

分野		1年次 前期 授業科目名	単位数	1年次 後期 授業科目名	単位数	2年次 前期 授業科目名	単位数	2年次 後期 授業科目名	単位数	3年次 前期 授業科目名	単位数	3年次 後期 授業科目名	単位数	4年次 前期 授業科目名	単位数	4年次 後期 授業科目名	単位数	
基礎教育科目	学修・基盤（必修11単位）	ポートフォリオⅠ		ポートフォリオⅠ	1	ポートフォリオⅡ		ポートフォリオⅡ	1	ポートフォリオⅢ		ポートフォリオⅢ	1	ポートフォリオⅣ		ポートフォリオⅣ	1	4
		PBL入門	2	情報入門	1													3
		テクニカル・リーディング	2	生成AI活用	2													4
	一般教養（必修8単位）（選択16単位）	フィールドワーク入門	2	宗教学	1	UXデザイン	2	ファシリテーション入門	2	国際変動論	1	美術・デザイン史	2					10
		情報リテラシー	1	科学哲学入門	2	消費者行動心理	2	エスノグラフィ	1	メディア史	1							7
		社会学	1	経済学入門	1	基礎造形表現	2	インターネット社会論	1									5
		基礎数学Ⅰ	1	基礎数学Ⅱ	1													2
																		0
	語学（必修8単位）	英語リスニングⅠ	2	英語リスニングⅡ	2	英語コミュニケーション	2			英語ビジネスコミュニケーション	2							8
	小計																	43
専門教育科目	情報・工学系（必修13単位）（選択25単位以上）	Linux入門	2							データサイエンスプログラミング	2			Web3入門	2			6
		プログラミング基礎	2	プログラミング発展	2	リーダブルコード	2	デザインリサーチ	2			コンピュータグラフィックス・メタヴァース入門	2					10
		コンピュータアーキテクチャⅠ	1	ソフトウェアアーキテクチャⅠ	1	アルゴリズムとデータ構造	2	コンピュータネットワーク	2									6
						Webデザイン	2			ソフトウェア開発Ⅰ	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2					6
										Webアプリケーション開発	2	ソーシャルコンピューティング	2					4
		データサイエンス入門	2					データベース論	2									4
				デザイン思考	1			プロダクトデザイン概論	2	サービスデザイン	2							5
	ビジネス系（必修8単位）（選択12単位以上）	プロジェクトマネジメント入門	2	デジタルエコノミー基礎	2			知的財産権概論	2	ビジネスアーキテクチャ入門	2							8
		経営学基礎	2	会計・簿記	2			リーダーシップ入門	2	アントレプレナー	2	コーポレートファイナンス	2	グローバル人材開発	2	ベンチャーファイナンス	2	14
						ビジネスリテラシー	2					ビジネスインテリジェンス入門	2	デジタルマーケティング	2	地域おこし論	2	8
						マーケティング	2	Web3・DAO地域創生	2									4
	演習系（必修6単位）					DXプロジェクトⅠ	2			DXプロジェクトⅡ	2			DXプロジェクトⅢ	2			6
	小計																	81
	合計																	124
	学期修得単位数　計		22		19		20		19		18		13		8		5	

＜卒業要件＞
○基礎教育科目　43単位以上修得
学修・基盤　必修　11単位
一般教養　必修　8単位　選択　16単位
語学科目　必修　8単位
○専門教育科目　81単位以上修得
情報・工学系　必修　13単位　選択　25単位以上
ビジネス系　必修　10単位　選択　10単位以上
演習系　必修　6単位

1年次修得単位数　計　41

2年次修得単位数　計　39

3年次修得単位数　計　31

4年次修得単位数　計　13

本モデルの修得単位数　合計　124

【資料21】開志創造大学指導補助者能力基準確認チェックシート

開志創造大学指導補助者能力基準確認チェックシート

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【採用基準】修士の学位を取得しているも者またはこれに準ずる能力を有しているもの且つ、以下のすべてがBの評価基準以上かつ、Aの評価が2か所以上のものを指導補助者として任用する。

必要な能力スキル		A	☑欄	B	☑欄	C	☑欄
コミュニケーション力	・学生と効果的なコミュニケーションを取り、質問に答え、学習上の課題に対処することができるスキル ・教員や他の指導補助者と連携し、協力して指導するためのコミュニケーションスキル ・ 学生に対して建設的なフィードバックを提供し、成長をサポートするスキル ・学生の学業やキャリアを踏まえたメンタリングを行うスキル ・ 対面、電子メール、チャット、電子掲示板など、異なるコミュニケーションツールの特性を理解して使いこなすスキル	・学生とのコミュニケーションが優れており、適切なフィードバックを提供し、学習支援を効果的に行うことができる ・聴取能力が高く、学生の質問や懸念に対応し、対話を深めるスキルがある ・チーム内での協力や協調が得意で、他の教員や指導補助者との連携が円滑である		・学生とのコミュニケーションは基本的には効果的で、質問に適切に答えることができる ・時折、聴取能力や対話スキルに改善の余地がある ・チーム内での協力は行うことできるが、若干、改善の余地がある		・学生とのコミュニケーションが不十分であり、フィードバック提供や学習支援が不適切な場合がある ・聴取能力や対話スキルが不足しており、学生とのコミュニケーションが難しい ・チーム内での協力や協調が課題であり、連携が不十分である	
論理的思考力	・複雑な問題を分析し、要因を理解する論理的思考能力 ・ 問題に対して効果的な解決策を設計し、実行に移すスキル ・ 学生に論理的思考を教えることができ、論理的な議論や解決策の構築、サポート力 ・複数のタスクや課題の優先順位を付ける能力 ・教育内容や指導法の改善のためにデータを収集し、論理的思考に基づいた改善策の提案力	・複雑な問題に対して論理的で体系的なアプローチを持ち、解決策を導き出す能力が高い ・学生に対して論理的な思考を教え、問題解決スキルを向上させることができる ・知識とデータを論理的に結びつけ、意思決定に活かすことができる		・基本的な論理的思考スキルを持ち、多くの問題に対処できる ・学生に対して論理的思考の重要性を教え、サポートできる ・問題解決時には効果的な論理的アプローチをとれるが、一部の複雑な問題には対処できないことがある		・論理的思考スキルが不足しており、多くの問題に対処できない ・学生に論理的思考を教えることが難しく、サポートが不十分である ・問題解決において論理的なアプローチを取ることが難しい	
問題解決力	・ 学生が学習上の問題に取り組む際に助言し、解決策を提供する力 ・学生が個人的な問題に直面した際にサポートし、解決策を見つける能力 ・教育内容やカリキュラムに関する問題を特定し、改善策を提案するスキル ・学術的な研究やプロジェクトにおいて発生する問題に対処し、解決策を見つける能力 ・教員や他の指導補助者と協力してプログラムの課題や問題を共に解決することができる力	・複雑な問題に対して効果的な解決策を見つけ、実行に移す能力が高い ・学生に問題解決プロセスを指導し、実践的なアドバイスを行うことができる ・問題の分析と解決において、創造的なアプローチを行うことができる		・基本的な問題解決スキルを持ち、多くの一般的な問題に対処できる ・学生に問題解決の基本を教え、サポートできる ・問題解決において慎重なアプローチを取り、成功することが多いが、複雑な問題には時間がかかる		・問題解決スキルが不足しており、多くの問題に対処できない ・学生に問題解決を教えることが難しく、サポートが不十分である ・問題解決において混乱し、解決策を見つけることが困難である	
モラル、倫理観	・学生に倫理的な行動を示し、学術上において誠実な対応を行うことができる能力 ・学生のプライバシーを保護し、個人情報を慎重に取り扱う必要性の理解 ・教育分野でのプロフェッショナリズムを保ち、倫理的な基準にしたがって行動できる能力	・高い倫理観を持ち、学生との関係やアドバイスにおいて誠実である ・学術的な誠実性を守り、不正行為に対して厳格な態度をとることができる ・学生の権利とプライバシーを尊重し、公正な取り扱いができる		・倫理観は一般的に高いが、時折適切な判断を下すためのサポートが必要な場合がある ・学術的な誠実性を重視し、不正行為に対して適切に対処できる ・学生の権利とプライバシーを尊重するが、一部改善の余地がある		・倫理観に問題があり、学生との関係や指導において誠実性や正直さに欠けることがある ・学術的な誠実性を欠いており、不正行為に対して不適切な対応をすることがある ・学生の権利とプライバシーを適切に尊重せず、公平性に欠けることがある	
情報リテラシー	・指導に必要な情報を効果的に収集し、評価するスキル ・情報の信頼性を評価し、信頼性の低い情報を識別する能力 ・学生に対して情報リテラシーの基本を教え、情報の使い方をサポートするスキル	・情報リテラシーが高く、信頼性の高い情報源を評価し、適切に活用できる ・学生に情報リテラシーの重要性を教え、情報を効果的に調査・収集できるようにサポートできる ・最新の情報技術やデータベースを活用し、学術的な研究を支援できる		・基本的な情報リテラシーはあるが、時折情報の評価や収集に間違うことがある ・学生に基本的な情報リテラシースキルを伝え、情報の調査・収集をサポートできる ・一般的な情報技術やデータベースを利用することができるが、改善の余地がある		・情報リテラシーが不足しており、信頼性の低い情報源を使用することがある ・学生に情報リテラシーを指導できない場合が多い ・情報技術やデータベースの利用が制限されており、支援が必要である	
数量的スキル	・ 統計データを解釈し、学生やプログラムの評価に役立てるスキル ・ 数学や統計に関連する学習課題や問題に対してサポートを提供する能力 ・教育内容や学習成果のデータを収集し、分析するスキル	・数学的なスキルが高く、統計データの解釈や数値分析が得意である ・学生に数量的スキルを効果的に教え、数学的なアプローチをサポートできる ・研究プロジェクトにおいて数量的データの処理や解析に優れている		・数学的なスキルはあるが、複雑な数値分析にはサポートが必要な場合がある ・学生に基本的な数量的スキルを教え、基本的な数学的なアプローチをサポートできる ・数量的データの処理や解析は行えるが、改善の余地がある		・数量的スキルが不足しており、数学的な問題に苦労することが多い ・学生に数量的スキルを教えることが難しい ・数量的データの処理や解析が困難であり、支援が必要である	

【資料22】　完成年度における教員の勤務モデル表

教員A

前期

	午前	午後
月	研究活動、論文執筆	オフィスアワー 16:00～20:00
火	指導補助者との情報共有、MTG	学生指導 （学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
水	学生からの相談対応、映像教材チェック・資料更新等	大学教授会、委員会対応
木	研究活動、論文執筆	研究会への参加、研究データの分析
金	オンデマンド教材の評価、改善点の検討	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】

前期

	午前	午後
月	研究活動、論文執筆	オフィスアワー 16:00～20:00
火	指導補助者との情報共有、MTG	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
水	学生からの相談対応、映像教材チェック・資料更新等	大学教授会、委員会対応
木	研究会への参加、研究データの分析	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
金	研究活動、論文執筆	研究会への参加、研究データの分析

教員B

前期

	午前	午後
月	研究活動、論文執筆	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
火	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
水	学生からの相談対応、映像教材チェック・資料更新等	大学教授会、委員会対応
木	研究活動、論文執筆	オフィスアワー 16:00～20:00
金	オンデマンド教材の評価、改善点の検討	研究活動、論文執筆

前期

	午前	午後
月	研究活動、論文執筆	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
火	指導補助者との情報共有、MTG	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】
水	研究活動、論文執筆	大学教授会、委員会対応
木	研究活動、論文執筆	オフィスアワー 16:00～20:00
金	学生からの相談対応、映像教材チェック・資料更新等	学生指導 学生からの質問やメールへの返信、掲示板確認等）【1科目】

【資料 23】「学校法人新潟総合学園就業規則　抜粋」

（採　用）

第９条　教育職員は、大学設置基準その他の法令に定める資格を有する者のうちから採用する。

２　前項以外の職員は、人物、学歴、知識、技能、経験、健康、免許等を勘案し適当と認める者を採用する。

３　職員の採用は、別に定める任期に係る規程により一定の期間を定めて行うことができる。但しこの場合においても期間内における退職、解雇、災害補償等に関する学園、職員双方の権利、義務は留保する。

４　教育職員は職員本人の希望により勤務の態様や給与他の処遇を個別に定めて採用することができる。その場合においては期限を付すことにより、定年年齢を超えた者も採用することができる。

５　期間を定めて採用した者の、当該期間満了後の再任に関する事項は、別に定める。

（定　年）

第 20 条　教育職員のうち無期雇用契約および途中で有期雇用契約から無期雇用契約に転換した教授、准教授、講師の定年は満 65 歳とし、定年年令に達した年の年度末をもって退職とする。但し、職員、学園双方協議のうえ再雇用して 3 年以内勤務させることができるものとし、当該任期が経過した後の再任は個別に決定する。

２　教育職員のうち、無期雇用契約および途中で有期雇用契約から無期雇用契約に転換した助教・助手の定年は満 60 歳とし、定年年令に達した年の年度末をもって退職とする。但し、定年退職後の再雇用を希望する者で、就業規則第 21 条（解雇）または第 22 条（懲戒解雇）に該当しない者であって、高年齢者雇用安定法一部改正法附則第 3 項に基づきなお効力を有することとされる改正前の高年齢者雇用安定法第 9 条第 2 項に基づく労使協定の定めるところにより、次の（1）～（3）の全て、もしくは（4）に該当する者においては 65 歳に達した年の年度末まで、基準のいずれかを満たさない者については基準の適用年齢の年度末まで、学園の提示した労働条件に合意した者と 1 年単位の再雇用契約を締結する。

（１）過去 3 年間の定期健康診断の結果、及び日常の本人の心身の状態から従事する業務に支障がないと判断されること

（２） 次の健康状態であること

・過去 3 年間、2 週間以上連続して疾病で休んでいないこと

・慢性的な疾患により、通院治療が必要な病気に罹患していないこと。但し、常用する薬の受け取りが主たる目的である通院を除く

（３） 過去 10 年間に懲戒処分を受けていないこと

（４） その他前各号を満たさない者でも、学園が特に必要と認めた者

３　前項の場合において、次の表の左欄に掲げる期間における当該基準の適用については、同表の左欄に掲げる区分に応じ、それぞれ右欄に掲げる年齢以上の者を対象に行うこと

とする。

平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで	61 歳
平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	62 歳
平成 31 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日まで	63 歳
平成 34 年 4 月 1 日から平成 37 年 3 月 31 日まで	64 歳

4　第２項の規定にかかわらず、学園が特に必要と認めた場合、雇用終了年令を超えて勤務することがある。

5　定年を超える期間に対しては退職金を支給しない。

附　則

3　第 20 条に係わらず学部・学科の新増設、大学院の新設など特別の事情があるときは、理事会において定年の延長を個別に措置することができる。

専門職学位成果報告書としての研究論文作成の手引き

2022 年度春版

この手引きでは、本学事業創造研究科の専門職学位成果報告書として研究論文を作成する際の留意事項、論文の基本的な構成、仕様などについて解説する。本学専門職学位成果報告書の研究論文には分量制限がないので、本手引きを踏まえて存分に執筆すること。

なお、本学紀要をはじめ学術雑誌等への投稿論文には枚数制限があるのが普通なので、制限に収まるようメリハリを付けて、本手引きの趣旨を反映させるよう努めて欲しい。

１．研究論文作成の方向性

研究論文を作成する上では、学術的な意味での独自性、独創性、新規性、有効性といったオリジナリティが求められ、しかも、その点が重視される。研究論文の作成においては、まず、当該論文のオリジナリティをどこに求めるか、という点にポイントがある。取り上げるテーマ、研究方法、分析手法、結論など、様々なオリジナリティがある。

1.1 リサーチ・クエスチョン

研究内容は、研究テーマだけでなく、研究を進める上での方向性を決める学術的な設問、いわゆるリサーチ・クエスチョン(RQ；research question)によって決まってくる。従って、RQ の立て方は慎重に検討する必要がある。適切に RQ を立てるには、自分の研究が属する学術領域で、自分の研究テーマがどんな位置にあるかを把握することが大切になる。現代学術は専門化、細分化が進んでおり、様々な学術領域にそれぞれ固有のやり方が存在している。そして、本学で学ぶ経営管理修士課程は社会科学系であるが、例えば情報技術や統計数学などの理数系から、法学や倫理学などの人文系まで、様々な学術分野に由来する科目が配置されている。これは、現代学術の粋を動員して事業経営、特に事業創造に係る諸問題を攻究しようとする現代経営学と、それを教授する本学の集学的性格を反映したものである。このため、RQ の解き方は、その研究論文が属する学術領域固有のやり方に依拠することになる。それでも、本学での研究論文は社会科学、特に広い意味での経営学に対し何等かの学術的貢献をすることが求められる。上述のオリジナリティとは、正しくここでいう学術的貢献に他ならない。

1.2 経営学研究の PDCA サイクル

このため、適切に学術的貢献するためには、経営学領域の科学的経営学研究サイクルに則ったテーマ設定が必要になる。経営学研究サイクルは経営学の重要な基礎概念の一つである PDCA のパラダイムに拠るもので、藤本他（2005）によれば図１の通りである。

このサイクルは普遍的なものであって、ある経営学上の仮説に対し１サイクル回すことで、それが学術的に受容されるとか、修正されるとかする訳である。そうした意味では、一つの研究論文はこのサイクルの何処から始めても良いといえる。既存の学説を仮説と位

置付けて実験を行えば、それは通説を検証する追試論文となるだろうし、多数の公開データを集めて実験結果として検証、考察を経て新たな仮説を提唱すれば、それは新理論構築型の論文となるだろう。

図 1　科学的経営学研究サイクル

出典：p. 10, 藤本隆宏他（2005）『経営学研究法』有斐閣アルマを参考に作成

但し、本学の専門職学位成果報告書は修士（専門職）学位論文なので、豊富で深奥な学識が要求される新仮説を提案する理論構築型論文よりも、何等かの仮説を検証する仮説検証型論文や、新しい実験方法に力点を置いた実験考察型論文などが堅実である。ここで実験方法という場合、多変量解析など統計的手法やシミュレーションツールといったデジタルな技法だけでなく、アンケート調査、聞取り調査、参与観察、文献サーベイ、論証などのアナログな手法も含んでいる。

1.3 複雑な研究設計の場合

また、研究設計的には、一つの学術論文でこのサイクルを 1 回転だけさせるとは限らない。何度も回転させたり、RQ のサイクルを複数並行的に回転させたりする複雑な構成の論文もある。また、重要で巨大な仮説や実験を扱う場合には、主たるリサーチ・クエスチョン（MRQ; main research question）を幾つかに分解して作成したサブ・リサーチ・クエスチョン（SRQ ; sub research question）の解決に終始して、MRQ については 1 回転未満であっても学術論文たり得る場合がある。但し、本学の研究論文は、学術的素養を修めた経営実践者である専門職修士の学位研究成果報告書なので、基本に則った経営学研究サイクル 1 回転を含む論文が一般的には好ましい。

1.4 実験研究結果の客観性

更に、自然科学系の実験研究において、研究結果の客観的信頼性が以下の様な 5 段階の研究型に分けて定式化されている。デジタルな実験方法が移入されるにつれて、学術分野により濃淡はあるが経営学を含む社会科学にも影響が及んでおり、研究設計上留意したい。

① 単純観察に基づく研究
② 無作為化観察に基づく研究
③ 無作為化実験に基づく研究
④ 無作為化盲検に基づく研究
⑤ 複数の④結果に基づく研究

番号が大なほど客観性が高い研究型と見做される。一般論として客観性は高い方が良い。

1.4.1 単純観察に基づく研究

「①単純観察に基づく研究」は、特に意図的な準備や選択をせずにアクセスした研究対象を、特段の介入や操作することなく観察した成果を実験結果として検証・考察した研究であり、本学における研究では、比較的少数の対象に対する場合が多い。例えば、一つの事業のビジネスケースや、起業家や発明者の実体験談を扱う論文などが該当する。客観性は五段階中最も低く、学術的には資料として扱われる場合も多いが、顕著な事例や卓越した人物などを対象に、従来にない情報を含むとか詳細で正確とかの価値が認められれば、研究論文たり得る場合がある。

1.4.2 無作為化観察に基づく研究

「②無作為化観察に基づく研究」は、偏りがないように選択した研究対象を、特段の介入や操作することなく観察した成果を実験結果として検証・考察した研究である。例えば一定の財務上や経営上の条件を満たした上場企業群を対象に、一定期間の株価の値動きを観察して、個別企業特性の寄与を多変量解析で求めるといったオンライン株式市場データベースを利用した研究などはこれに属する。フィナンシャル・データのオープン化や解析ソフトの普及により陳腐化した手法とみる批判もあるが、条件や特性の設定へ従来にない形で経営学上の知見を盛り込む等工夫すれば、今後も有用な手法たり得るかもしれない。

1.4.3 無作為化実験に基づく研究

「③無作為化実験に基づく研究」は、偏りがないように選択した研究対象に、特定の介入や操作を行った成果を実験結果として検証・考察した研究である。経営学領域の研究対象に介入や操作を行うことは、現実の企業や事業を対象とする場合は概ね困難である。しかし、企業購買担当者や消費者、従業員や一般市民といった対象を想定し、ブランド価値や支払意志価格、知覚品質や官能的選好などに関するマーケティングや新商品・新役務開発、労務管理や組織リーダーシップ系などの研究領域では、適切な企業の組織的協力を得れば可能になるだろう。なお、企業のキャンペーンや社会実験的な政策の効果を研究するとか、共通点がある複数企業の同時期の事例の比較研究とかの場合、厳密には②型だが、対象選択とアクセスの深さによっては③型に近い成果を期待して行うこともあるだろう。

1.4.4 無作為化盲検に基づく研究

「④無作為化盲検に基づく研究」では、③のやり方に加え、③の研究対象と同等の方法で偏りなく選択し、研究対象に施した特定の操作や介入を行わない対照群、或いはコントロール群と呼ばれる研究対象を設定し、同等の条件で両方を比較研究するものである。こうした方法は③と同様に、現実の企業経営や経済活動を対象に行うことは殆ど不可能だが、マーケティングや新商品・新役務開発等の研究領域で行うことは可能だろう。

なお、本学では、事業創造大学院大学研究倫理審査委員会規程を設けており、広義で医学系に属する可能性がある③型や④型の人を対象にした調査・実験を含む研究に先立ち、

その研究計画を審査する仕組みがある。その審査対象には、新商品・新役務開発係の研究だけでなく、労務管理や組織リーダーシップに関する理学系の研究なども該当する可能性があるので、指導教員に相談の上、十分留意して推進しなければならない。

1.4.5 複数の無作為化盲検研究結果に基づく研究

「⑤複数の④結果に基づく研究」は、④型が可能な研究領域ではしばしば行われるが、独立した一論文を成すよりも、先行研究サーベイを踏まえ新たな仮説提案や支配的な通説を修正・発展させるための論証やモデル構築のために行われることが多いといえる。修士課程レベルの⑤型研究は、客観性は高くてもオリジナリティある学術的貢献は期待し難いため、専門職学位成果報告書としての研究論文の柱に据えることは避けるべきである。

1.5 総記型論文について

また、特定分野の先行研究を、体系的、網羅的にサーベイして論ずる総記型論文も学術論文の一つの形式だが、これも専門職学位成果報告書としての研究論文では避けるべきである。総記型論文では、従来にない分野で初めて完璧に総記したとか、新しいパラダイムで整理し直して総記したとか、学術的価値の高い成果は有り得る。また、所謂、博士前期課程の修士論文で将来の博士学位請求論文での先行研究サーベイに相当する成果を総記型論文にまとめることなども有用である。しかし、経営専門職大学院のミッションに照らして、本学の修了論文には馴染みにくい形と考えられる。

２．研究論文の構成

2.1 基本的な構成

通常、研究論文は、単純化すると、①「題名」、②「要旨」、③「はじめに」、④「各章」、⑤「おわりに」から構成される。「はじめに」と「各章」と「おわりに」を、併せて「本文」という。また、「本文」には脚注も含まれる。

おおまかに言えば、「はじめに」で、

１）何を論じるのか。
２）なぜ、それを論じるのか。
３）どのように論じるのか（論文の構成）。

を、論じる。例えば、

「本稿は、○○を△△という観点から分析することを目的とするものである。これは、～～という点において今日重要であると考えられる。よって、本稿では、○○を△△という観点から分析することとしたい。

本稿は、まず、・・・を分析する（第 1 章）。つぎに、・・・を検討する（第 2 章）。つぎに・・・。」

「おわりに」では、

1）これまで、何を、どのように論じてきたのか。
2）その結果、一言で言って、何が分かったのか。
3）どのような経緯をたどってそのような結論に至ったのか。
4）関連するテーマで論じられなかったものとして、どのようなものがあるか。

を、論じる。例えば、

「本稿は、○○を△△という観点から分析してきた。その結果、□□という結論に至った。」
「なお、本稿との関連で、××という論点があるものの、充分に分析することができなかった。これについては、他日を期したい。」

2.2 各章のあり方

「各章」は、「はじめに」から「おわりに」までを橋渡しするものである。そこで、「各章」→「おわりに」→「はじめに」の順に本文を仕上げる。したがって、「はじめに」をはじめに仕上げることはできない。また、「要旨」→「題名」の順に作成するとよい。

論理的な構造を定式化すれば、「序論」、「背景」、「方法」、「結果」、「考察」、「結論」の 6 段階に区分できる。理工系や社会科学系の一部の学会等ではこの 6 章構成で論文の章立てすることを要求するところもある。この形は前述の経営学研究サイクル 1 回転を前提に論文を構成する場合に適している。更に、リサーチ・クエスチョンによっては一つの論文で研究サイクルを複数回、回転させる場合もあるので、上記の 6 段階を繰り返したり、複数並行して記述したりすることもある。

上記の「各章」では、方法、結果、考察を述べる。また、前記①型など事例や経緯を詳細・正確に述べる点に意義がある研究の場合、章立てがナラティヴ、つまり、物語的な順序で叙述されることが必要な場合もある。そのため、研究の方法やコンテンツに応じて④「各章」の構成を工夫するのが良い。

2.3 先行研究のサーベイ

学術論文の執筆に際して先行研究の綿密なサーベイは必須であり、必要十分に関係分野の主要研究成果を網羅すると同時に、夫々の方法や結論を誤りなく理解する必要がある。社会科学分野の学術論文を執筆する際、所要の先行研究サーベイを行ったことを証する先行主要研究諸論の紹介と要約を本論に先立ち行うべきである。その分量や本論との関係大小に応じ、上記 6 区分なら「序論」、「背景」、「方法」のいずれかの部分で記述するのが普通である。特に詳述する必要がない通説や有名な理論であれば「序論」で触れれば足りる場合が多い。また、当該分野の学説史や学派の相克などに係る総記的記述を「背景」

で行うことも少なくなく、分量が多い場合には、先行研究サーベイの章を独立して設ける場合もある。また、当該論文が新しい研究方法を採用したり、独自の工夫を行ったりした場合は、対比すべき先行研究のサーベイや解説を、「方法」の部分で記述することもある。

いずれにしろ、先行研究のサーベイは、研究論文のオリジナリティや学術的貢献を主張する上で必須である。当該研究論文のオリジナリティや学術的貢献は、先行研究サーベイと結びつける形で、本論に入る前に、整理した形で記しておかなければならない。

2.4 結論に書くべきこと

そして、「結論」では本論の成果を整理して要約すると同時に、前段に記した当該研究論文のオリジナリティや学術的貢献が達成されたことを明確に記述することが望ましい。なお、こうしたオリジナリティや学術的貢献、或いは、設定したリサーチ・クエスチョンの解決が、合理的な理由で同論文の研究で完全には達成されていない場合もしばしばある。そうした際は「結論」の部分に「残された課題」として客観的に記述すべきであり、それを通じて同研究論文の限界と今後の発展的方向性を明らかにすることが望ましい。

2.5 本学税法系論文の構成

本学の税法系「研究論文」の場合、全部で四章が標準となっている。いちばん最後の章を全体のまとめの章とすると、まとまりが良い。また、論じやすい章から論じていく。第 1 章から順に論じなければならない訳ではない。論じながら、章の並びを変更する方が容易である。あれこれ考えず、とにかく、おしまいまで論じ、あとからまとめて修正する。もっとも、論文全体の中で、各章のバランスを保ちながら論じる必要がある。論じはじめた当初は自分が何を論じているのか、わからないことが多い。このため、本筋とはあまり関係ない部分を論じてしまいがちになるしかし、本筋以外の部分をいくら論じても、論文は完成しない。極端に分量の多い章や、少ない章が存在する場合は、構成を再考する。

各章は複数のまとまりから成る。例えば、「節、款、項、目。」、「1.1、1.1.1、1.1.1.1.」などである。これら章立て細分化については、演習指導教員から特に指示がない限り、本学紀要の執筆規程に従うこと。（8．参照）

そして、本学の税法系研究論文では、全体として、ひとつの論文でひとつのテーマを論じる。異なるものを混合しない。その他、章全体について言及したことと同じことが当てはまる。等の留意事項があるので厳守すること。

2.6 論理的な文章の書き方のヒント

慣れない間は、できるだけ、細かいまとまり毎に論じる。一文ではひとつのことしか論じない、一文に主語と述語の組が一つだけの単文とするのがよい。一文に複数の主語と述語の組が存在する、所謂複文は極力避けるべきである。一般的指針として、一文が三行を超える長さになった場合は、分割することを推奨する。また、日本語文では主語を省略することが一般に少なくないが、研究論文ではなるべく主語を明記して、一意的に読めるよう努めなければならない。

そうした一文が集まって、ひとつの主張を行う段落を構成する。一文同士を集まる際は接続詞を上手く利用し、前後の論理的関係を明示するように工夫した。それら段落がいくつか集まって、ひとつのまとまった主張を行うようにまとめて構成するとよい。

３．研究論文の仕様

研究論文の作成では、内容が重要なことは議論を待たないが、その一方で、論文の仕様もある程度まではルールに沿った形で作成されることが求められる。

原則として、本文が日本語の場合、要旨は日本語とし、本文が英語の場合、要旨は英語とする。研究論文を含む本学の専門職学位成果報告書は、原則として「横書き」とする。

全体構成は、表紙に、題目および氏名を記載する。その次に要旨を置く。要旨の分量は少なくとも A4 一頁とし、具体的な分量は指導教員の指示に従うこと。要旨の最下行にキーワードを記載することが出来るが、記載の要否、および、キーワードの個数については、指導教員の指示に従うこと。要旨に続いて、目次、本文（図・表を含む）、そして、後注、参考文献リスト、付録等の順とする。図・表の数が多数に上る場合は、図表リストを作成して、参考文献リストの前に挿入して差し支えない。

また、文中で、先行研究および研究者等に言及する場合には、一般に敬語・敬称は使わない。但し、学術分野や学会等により異なる場合があるため、学会発表や学外誌投稿などを目指す場合は注意を要する。

3.1 図表類について

図・表は、原則として、本文中で予め言及した後に図および表があらわれるようにレイアウトを設定すること（After the mention 原則）。そして、図・表の作成や引用の意図を明確にすることが必要であり、本文中で言及されず、掲載意図が不明瞭な図・表を掲載することは控えること。また、図・表には、図には図の、表には表の、それぞれ固有の通し番号と題名をつけること。番号および表題を図・表本体の上に付すか、下に付すかは、演習指導教員から特に指示がない限り、本学紀要の執筆規程に従うこと。（８．参照）図表番号および題名が図・表本体の下にある場合はその下、図・表本体の上にある場合は図・表本体の下に、出典として、図・表の典拠文献等、或いは著者の作成である場合はその旨を明記し、必要に応じて図注、あるいは表注を、出典の記載の下に付すことができる。図・表本体、図表番号、題名、出典、図注・表注は一体のものであり、原則として同一の頁に収めるようにレイアウトすること。そして、これら一体としての図・表を本文中に配置する場合、その上下に１行ずつを空けること。

４．引用における留意事項

研究論文の作成においては、先行研究をはじめとして、他の研究者による論点など、自らの研究内容を明示する上でも引用は重要な要素となる。

4.1 引用することの意義

引用は、他の研究者の研究成果等を自らの研究論文に使うことであり、他の研究者の研究内容、研究成果について、①自分が理解したことを、「紹介」する、あるいは、②何らかの軸に基づき、「整理」し、それらに基づき、「検討」・「分析」するものである。検討し、分析するために、自分の理解を紹介し、整理する。正確に検討・分析する上で、自分の理解を正確に紹介し、整理する必要がある。そのためには、他の研究者の書いたものを正確に理解する必要がある。不正確な理解は不正確な検討・分析に至る。

4.2 正確に引用するには

他の研究者の研究内容を正確に理解する上では、①書き手の肩書、②題名、③章立て、④強調、⑤脚注、⑥時代背景、⑦参照文献、なども有効な要因になる。同じことを論じている論文であっても、論じる人によって異なるのが一般的である。一方、他の研究者の理解はそのまま把握しつつ、それを疑うことも必要で、活用する上では、必ず客観的な検証を行った上で活用する必要がある。

従って、他の研究者の研究内容を正確に理解するために、極力原典に当たるよう努めるべきである。本学図書室では、オンライン文献データベースなどで検索・閲覧することは勿論、国立国会図書館や他大学の蔵書を取り寄せることもできるので、充分に活用して欲しい。そして、引用する際には、必ず原典から行い、別の研究者が他の論文で引用した部分を再引用する、所謂「孫引き」は、厳に慎まなければならない。

4.3 引用の表記方法

表記法上の留意点としては、引用される内容は、自らの主張とは明確に分離する必要がある。そこで、他の研究者の意見には「鍵括弧付」で分離して、そのまま引用する。または、引用部分の上下に１行を空け、引用部分の最後に括弧付きで（引用終わり）等の文言を入れて、引用部分の終了を示してもよい。これらの方法が確実な引用方法である。これらの方法で紹介した後、自分自身のコメントを付す。紹介した箇所の自分なりの理解、すなわち、既に紹介した他の研究者との相違、自らと他の研究者の区別を明示することが重要である。

4.4 改変の禁止と要約／引用上の注意

引用部分は自分以外の人が書いたものである以上、誤字脱字を含め、一文字も変えてはならない。ただ、あまりやり過ぎると、分量を稼いでいるな、という印象を読み手に与えてしまうし、著作権上の問題となりかねない。そこで、要約して引用する方法もある。この場合には、他の研究者が論じたままではないので、間違えて紹介しないよう注意は必要である。特に、自分が引用したい研究者の主張を他の研究者が要約して引用した記述を再引用することは極力避け、原典に当たるよう努力すること。止むを得ない場合は、要約の引用であることを出典に明記すること。

引用では、誰が、いつ、どこで論じたのか、はっきりと示す必要がある。通常、論文では、複数の研究者が論じた複数の文献等を紹介することが多い。また、同一研究者がさま

ざまな時にさまざまな所で論じていることもあるので、情報管理を徹底する必要がある。決して、同時に紹介した複数の研究者の主張を混同したり、読み手が主張者を取り違えたりするように紹介してはならない。

研究論文における引用を表記する上では、紹介する引用を何らかの軸に基づき整理して紹介する必要があるので注意すること。例えば、以下の軸がある。

1）公表順。古い論文が新しい論文を批判することはあり得ない。

2）論点。ある一つの論点を巡り、複数の論文が異なる見解を提示していることがある。つまり、論点に対する結論と理由付けに注目する。

4.4 学術文献以外からの引用

研究テーマによっては、先行研究サーベイ以外の目的で、背景や本文各章の中で、学術雑誌や学術文献以外の、一般の新聞・雑誌や、ブログなどインターネット掲載コンテンツから引用することがある。また、インターネットなどを検索すれば、見ず知らずの研究者や学生の論文等を容易に参照できる時代になっている。しかし、これら全ての文章等には著作権が存在すると弁えて、引用に際しては、著作権法が定める学術利用の三条件「①必要な範囲で引用する」「②引用箇所を明示する」「③引用元を適正に表示する」を遵守すること。多少改変したり翻訳したりしても、剽窃・盗用と見做されて研究論文としての価値が損なわれることがあるので、軽率なコピー&ペースト等は厳に慎まなければならない

５．出典の表示方法

5.1 出典表示の方法と目的

研究論文では、引用文献、他の研究者の研究内容等を紹介する方法として、本文中に明記する方法と、注（脚注、あるいは、巻末注）を利用する方法がある。税法系論文では、一般的に脚注を用いる。本文中で明記する場合の論文・著書の表記方法は学術的専門分野や学会によりルールが異なっている。そのため、演習指導教員から特に指示がない限り、本学紀要の執筆規程に従うこと。（８．参照）

研究論文で、引用文献、他の研究者の研究内容等を紹介する目的は、何より出所の表示（citation）である。すなわち、①自分が論じていることと他人が論じていたことの区別、②A さんと B さんが論じていたことの区別、を明示するためのものである。

5.2 典拠文献等をどう扱うか

しかしながら、他の研究者が論じていたことは、なんでもかんでも出所、典拠となる訳ではない。自分が論じていることと最も関係の深いものを典拠として表示する。例えば、英文学について論じている文脈では英文学の専門家が論じていたことを典拠とし、フランス文学の専門家が論じていたことを典拠としてはならない。また、原典を典拠とする。他の研究者が典拠としているものを自分の典拠としてはならない。また、学問分野毎に、典拠の表示方法は異なることがある。したがって、可能な限り、それぞれの学問分野におけ

る表示方法を踏襲する。その際、演習指導教員から特に指示がない限り、本学紀要の執筆規程に従うこと。（８．参照）

６．注の使い方

6.1 注で出典などを表示する

注は引用や要約の出典を示すために用いることは前記の通りである。この場合、巻末注でも脚注でも利用できるが、どちらかに統一する方が良い。一般に脚注を用いるのは本文と並行して読むことが望ましい内容を示す場合なので、後述の参考文献リストに掲載されているのと同じ出典文献名等のみを脚注に記すのは冗長である。複数個所を引用している文献で引用頁を示す場合とか、複数の文献の記述を総合し要約した記述であることを明示する場合とかなど、特に脚注にする必然性があることが望ましい。

6.2 脚注で論ずる際の留意事項

また、脚注の役割として、議論の展開においても活用される。すなわち、脚注でも論じることもある。特に、本筋と少し離れる議論は脚注で取り上げるようにする。また、研究者の中には、大切な議論を脚注で展開している場合もある。但し、脚注の議論が長くなり、一つの脚注が複数頁にわたるのは文書として不体裁である。そもそも長く重要な議論は本文中に取り込むことが本来だが、本文に盛り込むことが不適当な長い議論は、その議論の要点を脚注に簡潔に記し、詳細は巻末注か付録を参照させる形が良い。目安として、本筋と離れた詳細な記述が概ね１頁近くに及ぶ場合は、付録とすることを検討するのが良い。

７．参考文献リストの書式

参考文献リストの書式は学術分野や学会等により差異があるが、国際的には Vancouver 方式と Harvard 方式が主流であり、自然科学や理学工学では前者が、人文科学や社会科学では後者が多いとされる。前者は本文に登場した順番に参考文献をリスト化し、後者はアルファベット順にリスト化する方式だが、細部は学会や学術雑誌等により異なる。日本でも学会や学術雑誌が上記２方式のどちらかを基本に細部を定めているのが通常である。

本学の専門職学位成果報告書としての研究論文を作成する場合、演習指導教員から特に指示がない限り、本学紀要の執筆規程に従うこと。（８．参照）

８．演習指導教員による指導

演習指導教員は、当該論文を将来学外の学術雑誌、学会誌、および、これらに類する先へ投稿等する可能性を考慮して、次の項目について、投稿等見込先の執筆規程に準拠し研究論文を作成することを指示して差し支えない。①図表番号および題名の付記位置、②出典表記方法、③典拠の表示方法、④参考文献のリスト書式、⑤その他演習指導教員が必要と認める事項。

以上

【資料25】情報デザイン学部図書・雑誌等のリスト

和書（紙のみ）

NO	ISBN（13桁）	書名	著者名	出版社	出版年月
1	9784814004911	ＩＴと現代ビジネス：実践から学ぶ経営・実務・技術	渕崎正弘：若林靖永	京都大学学術出版会	202308
2	9784595323485	情報学へのとびら	加藤浩（教育工学）：大西仁	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202203
3	9784757103993	新基礎情報学：機械をこえる生命	西垣通	ＮＴＴ出版	202106
4	9784254122596	情報科学入門	野本弘平	朝倉書店	202101
5	9784563016050	情報学基礎	山口和紀：和泉順子	培風館	202010
6	9784621305034	教養のコンピュータサイエンス情報科学入門	小舘香椎子：岡部洋一	丸善出版	202003
7	9784535788756	新・情報学入門：ビッグデータ時代に必須の技法	マイケル・バックランド：田畑暁生	日本評論社	202003
8	9784798066875	ＰＣ・ＩＴ図解　機械学習の技術としくみ：仕組みを知って仕事に生かす！	金城俊哉	秀和システム	202310
9	9784627872516	有理算術演算：高精度数値計算のためのアルゴリズムとプログラミング	寒川光：高橋大介	森北出版	202310
10	9784296203413	生成ＡＩの法的リスクと対策	福岡真之介：松下外	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202310
11	9784781915807	位相的データ解析から構造発見へ：パーシステントホモロジーを中心に	池祐一：エマソン・ガウ・エスカラ	サイエンス社	202309
12	9784320125148	渡辺澄夫ベイズ理論１００問　ｗｉｔｈ　Ｒ／Ｓｔａｎ	鈴木譲	共立出版	202309
13	9784526082894	トコトンやさしい画像認識の本	笠原亮介	日刊工業新聞社	202308
14	9784814400386	コンピュータビジョンのための実践機械学習：モデルアーキテクチャからＭＬＯｐｓまで	バリアパ・ラクシャマナン：マーティン・ガーナー	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202307
15	9784798177816	ＢＥＲＴ実践入門　ＰｙＴｏｒｃｈ　＋　Ｇｏｏｇｌｅ　Ｃｏｌａｂｏｒａｔｏｒｙで学	我妻幸長	翔泳社	202307
16	9784826902472	ＡＩの倫理リスクをどうとらえるか：実装のための考え方	リード・ブラックマン：小林啓倫	白揚社	202307
17	9784781915746	深層学習と統計神経力学	甘利俊一	サイエンス社	202306
18	9784839982805	データサイエンティストのための特徴量エンジニアリング	ソルダード・ギャリー：松田晃一	マイナビ出版	202306
19	9784000297196	大規模言語モデルは新たな知能か：ＣｈａｔＧＰＴが変えた世界	岡野原大輔	岩波書店	202306
20	9784065317785	人間非機械論　サイバネティクスが開く未来	西田洋平	講談社	202306
21	9784789845199	試せる４５！人工知能アルゴリズム全集：主成分分析，決定木／分類木，ｋ－近傍法，クラスタリ	牧野浩二	ＣＱ出版	202305
22	9784789845205	算数＆ラズパイから始めるディープ・ラーニング：ＴｅｎｓｏｒＦｌｏｗ版　ＣＮＮ／ＲＮＮ／ＡＥ／ＤＱ	牧野浩二：西崎博光	ＣＱ出版	202304
23	9784785730253	Ｑ＆Ａで学ぶメタバース・ＸＲビジネスのリスクと対応策	中崎尚	商事法務	202303
24	9784339033854	機械学習の可能性	計測自動制御学会：浮田浩行	コロナ社	202301
25	9784781915661	行列解析から学ぶ量子情報の数理	日合文雄	サイエンス社	202301
26	9784621307632	プログラミング言語の形式的意味論入門	Ｇ．ウィンスケル：末永幸平	丸善出版	202301
27	9784297132187	ＡＩのしくみと活用がこれ１冊でしっかりわかる教科書	高橋海渡：立川裕之	技術評論社	202301
28	9784065305133	Ｋａｇｇｌｅに挑む深層学習プログラミングの極意	小嵜耕平：秋葉拓哉	講談社	202301
29	9784000298995	テキストデータマネジメント：前処理から分析へ	波多野賢治：天笠俊之	岩波書店	202212
30	9784627857025	テンポラル・ネットワーク	増田直紀：ルノー・ランビオット	森北出版	202212
31	9784807920297	データサイエンスと機械学習：理論からＰｙｔｈｏｎによる実装まで	Ｄ．Ｐ．Ｋｒｏｅｓｅ：金森敬文	東京化学同人	202212
32	9784781915548	深層学習からマルチモーダル情報処理へ	中山英樹：二反田篤史	サイエンス社	202211
33	9784910558073	一Ｐｙｔｈｏｎで実践一基礎からの物理学とディープラーニング入門	福嶋健二：桂法称	科学情報出版	202211
34	9784526082405	トコトンやさしいＶＲの本	廣瀬通孝：東京大学バーチャルリアリティ教育研究セン	日刊工業新聞社	202211
35	9784883533589	メタバース・スマートグラス最前線：メタバースが牽引するＸＲデバイスに迫る	吉満大輔	産業タイムズ社	202211
36	9784627826625	強化学習	リチャード・Ｓ．サットン：アンドリュー・Ｇ．バルト	森北出版	202210
37	9784807920389	Ｐｙｔｈｏｎ，ＴｅｎｓｏｒＦｌｏｗで実践する深層学習入門：しくみの理解と応用	ジョン・クローン：鈴木賢治（工学）	東京化学同人	202209
38	9784781915463	異常検知からリスク管理へ	山西健司：久野遼平	サイエンス社	202208
39	9784297129729	ゲームから学ぶＡＩ環境シミュレータ×深層強化学習で広がる世界	西田圭介	技術評論社	202208
40	9784627856615	Ｐｙｔｈｏｎで実践する強化学習と転移学習	河野仁	森北出版	202208
41	9784781915494	コンピュータが考える：人工知能とはなにか	小林一郎（工学）	サイエンス社	202207
42	9784065285862	機械学習工学	石川冬樹：丸山宏	講談社	202207
43	9784296080199	現代暗号技術入門	デイビット・ウォン：高橋聡（翻訳）	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202207
44	9784781915456	組合せ最適化から機械学習へ：劣モジュラ最適化とグラフマイニング	相馬輔：藤井海斗	サイエンス社	202206
45	9784768459195	ＡＩが私たちに嘘をつく日	妙木浩之	現代書館	202205
46	9784839978358	機械学習エンジニアリング	アンドリー・ブルコフ	マイナビ出版	202204
47	9784864810814	レクチャーマルチメディア：基礎からわかる音・画像・映像の情報処理	川崎洋：柳井啓司	数理工学社(発売：サイエンス社)	202204
48	9784839977733	Ｐｙｔｈｏｎによるディープラーニング	フランソワ・ショレ：巣篭悠輔	マイナビ出版	202203
49	9784000297097	僕とアリスの夏物語　人工知能の、その先へ	谷口忠大	岩波書店	202201
50	9784297125608	ディープラーニングを支える技術　「正解」を導くメカニズム［技術基礎］	岡野原大輔	技術評論社	202201
51	9784065133323	深層学習	岡谷貴之	講談社	202201
52	9784781915210	計算理論とオートマトン言語理論：コンピュータの原理を明かす	丸岡章	サイエンス社	202111
53	9784296110377	ディープラーニングＡＩはどのように学習し、推論しているのか	立山秀利	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202111
54	9784297123079	暗号と認証のしくみと理論がこれ１冊でしっかりわかる教科書	光成滋生	技術評論社	202110
55	9784065238080	ディープラーニング学習する機械：ヤン・ルカン、人工知能を語る	ヤン・ルカン：松尾豊	講談社	202110
56	9784807909995	Ｐｙｔｈｏｎ・クラウドを用いた実践ＡＩ開発	ノア・ギフト：清水美樹	東京化学同人	202107
57	9784000299022	文学と言語コーパスのマイニング	金明哲：中村靖子	岩波書店	202106
58	9784297121303	絵と図でわかるＡＩと社会：未来をひらく技術とのかかわり方	江間有沙	技術評論社	202106
59	9784339011395	機械学習による音声認識	日本音響学会：久保陽太郎	コロナ社	202105
60	9784315523591	人工知能の可能性：機械は人間と同じ思考力を持てるのか	ブライアン・キャントウェル・スミス：川村秀憲	ニュートンプレス	202104
61	9784000297035	深層学習の原理に迫る：数学の挑戦	今泉允聡	岩波書店	202104
62	9784320124684	Ｐｙｔｈｏｎによる予測分析：課題発見から予測モデルのデプロイまで徹底解説	ＡｌｖａｒｏＦｕｅｎｔｅｓ：井手絢絵	共立出版	202103
63	9784798167343	Ｒによる機械学習	ブレット・ランツ：クイープ	翔泳社	202102
64	9784000299015	金融・経済分析のためのテキストマイニング	和泉潔：坂地泰紀	岩波書店	202101
65	9784526081071	トコトンやさしい量子コンピュータの本	山〓耕造	日刊工業新聞社	202101
66	9784873119335	計算できるもの、計算できないもの：実践的アプローチによる計算理論入門	ジョン・マコーミック：松崎公紀	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202012
67	9784315523003	ＡＩ大図鑑	松尾豊	ニュートンプレス	202012
68	9784000298971	テキストマイニングの基礎技術と応用	那須川哲哉：吉田一星	岩波書店	202012
69	9784105901691	レンブラントの身震い	マーカス・デュ・ソートイ：冨永星	新潮社	202011
70	9784320124622	量子コンピュータによる機械学習	大関真之：荒井俊太	共立出版	202008
71	9784065206126	ゼロからつくるＰｙｔｈｏｎ機械学習プログラミング入門	八谷大岳	講談社	202008
72	9784297115159	ＩＴエンジニアのための強化学習理論入門	中井悦司	技術評論社	202007
73	9784000614146	人工知能に未来を託せますか？：誕生と変遷から考える	松田雄馬	岩波書店	202006
74	9784065188040	テキスト・画像・音声データ分析	西川仁：佐藤智和	講談社	202005
75	9784000077965	人工知能：チューリング／ブルックス／ヒントン	開一夫：中島秀之	岩波書店	202004
76	9784297112097	ＡＩエンジニアを目指す人のための機械学習入門：実装しながらアルゴリズムの流れを学ぶ	清水琢也：小川雄太郎	技術評論社	202004
77	9784297112677	知識ゼロからの機械学習入門	太田和樹：ＴｅｃｈＡｃａｄｅｍｙ	技術評論社	202004
78	9784297135058	Ｗｅｂ３ビジネスの法務	熊谷直弥：山地洋平	技術評論社	202305
79	9784595323508	日常生活のデジタルメディア	青木久美子：高橋秀明	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202203
80	9784130634588	サイバー社会の「悪」を考える：現代社会の罠とセキュリティ	坂井修一	東京大学出版会	202201
81	9784623091256	情報倫理入門：ＩＣＴ社会におけるウェルビーイングの探求	村田潔：折戸洋子	ミネルヴァ書房	202105
82	9784641165687	プラットフォームビジネス：デジタル時代を支配する力と陥穽	マイケル・Ａ．クスマノ：アナベル・ガワー	有斐閣	202012
83	9784781914862	ソーシャルメディア論：行動データが解き明かす人間社会と心理	土方嘉徳	サイエンス社	202010
84	9784595322129	ＡＩシステムと人・社会との関係	山口高平：中谷多哉子	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202003
85	9784627817616	情報検索：検索エンジンの実装と評価	ステファン・ブッチャー：チャールズ・Ｌ．Ａ．クラーク	森北出版	202010
86	9784339013733	可視化と科学・文化・社会	竹島由里子：伊藤貴之	コロナ社	202310
87	9784297134211	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶはじめてのデータサイエンス	吉田雅裕	技術評論社	202304
88	9784320125209	数理思考演習	磯辺秀司：小泉英介	共立出版	202304
89	9784595324185	データベース	辻靖彦：芝〓順司	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202303
90	9784595324161	ヒューマンインタフェース	増井俊之：小池英樹	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202303
91	9784065307892	応用基礎としてのデータサイエンス　ＡＩ×データ活用の実践	北川源四郎：竹村彰通	講談社	202302
92	9784798068206	図解入門よくわかる最新サイバーセキュリティ対策の基本	福田敏博	秀和システム	202302
93	9784781915616	コンピュータサイエンス入門：コンピュータ・ウェブ・社会	増永良文	サイエンス社	202301
94	9784297132064	内部構造から学ぶＰｏｓｔｇｒｅＳＱＬ設計・運用計画の鉄則	上原一樹：勝俣智成	技術評論社	202212
95	9784807920396	［実践］データ活用システム開発ガイド：１０年使えるシステムへのスモールスタート	徳永竣亮：本田志温	東京化学同人	202212
96	9784781915609	コンピュータと情報システム	草薙信照	サイエンス社	202211
97	9784864810890	実学としてのデータベース：基礎から実践まで	宇田川佳久：藤原丈史	数理工学社(発売：サイエンス社)	202208
98	9784320124868	Ｒによるインタラクティブなデータビジュアライゼーション：探索的データ解析のためのｐｌｏｔｌｙとｓｈｉｎｙ	カーソン・シーベルト：奥石拓真	共立出版	202205
99	9784296000456	教養としてのコンピューターサイエンス講義：今こそ知っておくべき「デジタル世界」の基礎知識	ブライアン・カーニハン	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202205
100	9784297127244	［エンジニアのための］データ分析基盤入門　データ活用を促進する！プラットフォーム	斎藤友樹	技術評論社	202203
101	9784595323539	情報セキュリティ概論	山田恒夫：辰己丈夫	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202203
102	9784798064635	図解入門よくわかる最新情報セキュリティの技術と対策	若狭直道	秀和システム	202112
103	9784065132326	ゼロからはじめるデータサイエンス入門：Ｒ・Ｐｙｔｈｏｎ一挙両得	辻真吾：矢吹太朗	講談社	202112
104	9784873119540	詳説データベース：ストレージエンジンと分散データシステムの仕組み	アレックス・ペトロ：小林隆浩	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202107
105	9784065238097	教養としてのデータサイエンス	北川源四郎：竹村彰通	講談社	202106
106	9784297121068	情報セキュリティの技術と対策がこれ１冊でしっかりわかる教科書	中村行宏：若尾靖和	技術評論社	202105
107	9784627855915	情報可視化入門：人の視覚とデータの表現手法	三末和男	森北出版	202105
108	9784563016104	データサイエンス基礎	齋藤政彦：小澤誠一	培風館	202103
109	9784781915005	データベース入門	増永良文	サイエンス社	202102
110	9784297119522	ビッグデータを支える技術：ラップトップ１台で学ぶデータ基盤のしくみ	西田圭介	技術評論社	202102
111	9784065164044	データ分析のためのデータ可視化入門	キーラン・ヒーリー：瓜生真也	講談社	202101
112	9784873119298	初めてのマルウェア解析：Ｗｉｎｄｏｗｓマルウェアを解析するための概念、ツー	モナッパ・ケー・エー：石川朝久	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202012
113	9784065200896	絵でわかるサイバーセキュリティ	岡嶋裕史	講談社	202006
114	9784781914695	実習情報リテラシ	重定如彦：河内谷幸子	サイエンス社	202004
115	9784065193105	データサイエンスのためのデータベース	吉岡真治：村井哲也	講談社	202004
116	9784595322136	データの分析と知識発見	秋光淳生	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202003
117	9784595321924	生活環境と情報認知	川原靖弘：片桐祥雅	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202003
118	9784908327100	アプリケーションソフトの基礎知識：ＩＣ３　ＧＳ５キーアプリケーションズ対応	滝口直樹	オデッセイコミュニケーションズ(発売：ＪＲＣ)	202001
119	9784814400317	ソフトウェア設計のトレードオフと誤り：プログラミングの際により良い選択をするには	レレック，トマッシュ：スキート，ジョン	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202305
120	9784798068732	現場のプロがわかりやすく教えるＵＩ／ＵＸデザイナー養成講座	本末英樹	秀和システム	202304
121	9784297128661	ＵＭＬのしくみと実装がこれ１冊でしっかりわかる教科書	尾崎惇史	技術評論社	202207
122	9784839975999	セキュア・バイ・デザイン：安全なソフトウェア設計	ダン・ベルグ・ジョンソン：ダニエル・デオグン	マイナビ出版	202109
123	9784296000180	オブジェクト指向でなぜつくるのか：知っておきたいＯＯＰ、設計、アジャイル開発の基礎知	平澤章	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202104
124	9784297113513	オブジェクト指向ＵＩデザイン：使いやすいソフトウェアの原理	ソシオメディア：上野学	技術評論社	202006
125	9784297134815	これからはじめるＩｌｌｕｓｔｒａｔｏｒ　＆　Ｐｈｏｔｏｓｈｏｐの本，２０２３年最新版	黒野明子：ロクナナワークショップ	技術評論社	202305

126	9784296070367	継続的デリバリーのソフトウェア工学　もっと早く、もっと良いソフトウェアを作るため	デイビッド・ファーリー：長尾高弘	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202212
127	9784873119984	Ｌｅａｎ　ＵＸ：アジャイルなチームによるプロダクト開発	ジェフ・ゴーセルフ：ジョシュ・セイデン	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202208
128	9784798065915	図解！Ｄｏｃｋｅｒのツボとコツがゼッタイにわかる本	角間実	秀和システム	202207
129	9784873119724	実践自然言語処理：実世界ＮＬＰアプリケーション開発のベストプラクティ	ソウミャ・ヴァジュラ：ボーディサットヴァ・マジュンダ	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202202
130	9784297126216	これからはじめるＩｌｌｕｓｔｒａｔｏｒの本．２０２２年最新版	ロクナナワークショップ	技術評論社	202202
131	9784297126070	これからはじめるＰｈｏｔｏｓｈｏｐの本．２０２２年最新版	宮川千春：木俣カイ	技術評論社	202202
132	9784297125455	基礎からしっかり学ぶＬｉｎｕｘ入門	河原木忠司	技術評論社	202201
133	9784864810777	レクチャーソフトウェア工学	鵜林尚靖	数理工学社(発売：サイエンス社)	202112
134	9784296110315	エンジニア１年生のための世界一わかりやすいＬｉｎｕｘコマンドの教科書	うすだひさし	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202110
135	9784815608750	ソフトウェアテストの教科書：この１冊でよくわかる	布施昌弘：江添智之	ＳＢクリエイティブ	202108
136	9784297120245	Ｌｉｎｕｘ＋コマンド入門：シェルとコマンドライン、基本の力	西村めぐみ	技術評論社	202105
137	9784297116903	仮想化＆コンテナがこれ１冊でしっかりわかる教科書	五十嵐貴之：薄田達哉	技術評論社	202012
138	9784864810647	レクチャーオペレーティングシステム	福田晃（情報工学）	数理工学社(発売：サイエンス社)	202004
139	9784297111298	世界一わかりやすいＩｌｌｕｓｔｒａｔｏｒ操作とデザインの教科書：Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ対応版	ピクセルハウス	技術評論社	202003
140	9784065190067	ＰｙｔｈｏｎではじめるＫａｇｇｌｅスタートブック	石原祥太郎：村田秀樹	講談社	202003
141	9784815617837	新・明解Ｐｙｔｈｏｎ入門	柴田望洋	ＳＢクリエイティブ	202309
142	9784814400416	ルールズ・オブ・プログラミング：より良いコードを書くための２１のルール	ＣｈｒｉｓＺｉｍｍｅｒｍａｎ：久富木隆一	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202308
143	9784297136451	これからはじめる「情報」の基礎＜プログラミングとアルゴリズム＞	谷尻かおり：谷尻豊寿	技術評論社	202308
144	9784798061955	Ｂｌｅｎｄｅｒリアルタイムｃｇキャラクター制作入門	なのです	秀和システム	202308
145	9784807920327	ミュラーＰｙｔｈｏｎで実践するデータサイエンス	ジョン・ポール・ミュラー：ルカ・マサロン	東京化学同人	202308
146	9784535787650	ＣＧは数学でできている：映像数学の展望	安生健一	日本評論社	202308
147	9784339013719	３ＤＣＧの数理と応用	三谷純：高山健志	コロナ社	202307
148	9784320125667	もっと実用的でないＰｙｔｈｏｎプログラミング：ハッカー目線のリアルコーディング	リー・ヴォーン：武川文則	共立出版	202307
149	9784395321940	Ｐｒｏｃｅｓｓｉｎｇではじめるビジュアル・デザイン入門：直感と論理をきたえるプログラミング	三井和男	彰国社	202307
150	9784798177236	動かして学ぶ！Ｒｕｓｔ入門	ｍｅｂｉｕｓｂｏｘ	翔泳社	202304
151	9784297133221	パーフェクトＲｕｓｔ	古川正寿	技術評論社	202303
152	9784798068343	作って覚えるＶｉｓｕａｌ　Ｂａｓｉｃ　２０２２　デスクトップアプリ超入門	荻原裕之：宮崎昭世	秀和システム	202303
153	9784296201600	Ｐｙｔｈｏｎライブラリの教科書	立山秀利	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202303
154	9784798068534	プログラマー脳～優れたプログラマーになるための認知科学に基づくアプローチ	フェリエンヌ・ヘルマンス：水野貴明	秀和システム	202302
155	9784297132040	ＪａｖａエンジニアのためのＥｃｌｉｐｓｅパーフェクトガイド	横田一輝	技術評論社	202301
156	9784297131265	かんたんＶｉｓｕａｌ　Ｃ＋＋	堀義博	技術評論社	202212
157	9784065301173	ＯｐｅｎＣＶによる画像処理入門	小枝正直：上田悦子	講談社	202212
158	9784798067995	Ｕｎｒｅａｌ　Ｅｎｇｉｎｅ　５　リアルタイムビジュアライゼーション	モデリングブロス：スタジオブロス	秀和システム	202212
159	9784798067797	図解！ＴｙｐｅＳｃｒｉｐｔのツボとコツがゼッタイにわかる本　“超”入門編	中田亨	秀和システム	202212
160	9784839979003	ていねいに学ぶＢｌｅｎｄｅｒモデリング入門：Ｂｌｅｎｄｅｒ３対応	ウワン	マイナビ出版	202211
161	9784815616335	新・明解Ｃ言語中級編	柴田望洋	ＳＢクリエイティブ	202209
162	9784815611910	今日からはじめるＢｌｅｎｄｅｒ３入門講座	友	ＳＢクリエイティブ	202206
163	9784807920266	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶプログラミング入門	ブラッドリー・Ｎ．ミラー：デイヴィッド・Ｌ．ラーヌン	東京化学同人	202206
164	9784297127459	小一時間でゲームをつくる　７つの定番ゲームのプログラミングを体験	ゲヱム道館	技術評論社	202205
165	9784864810852	データ構造とアルゴリズム	五十嵐健夫	数理工学社(発売：サイエンス社)	202205
166	9784873119731	サイバーセキュリティプログラミング：Ｐｙｔｈｏｎで学ぶハッカーの思考	ジャスティン・サイツ：ティム・アーノルド	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202204
167	9784339018226	コンピュータプログラミング：Ｐｙｔｈｏｎでアルゴリズムを実装しながら問題解決を	電子情報通信学会：富樫敦	コロナ社	202204
168	97848399774 74	Ｍ５Ｓｔａｃｋ／Ｍ５Ｓｔｉｃｋではじめるかんたんプログラミング	田中正幸	マイナビ出版	202204
169	9784839978327	Ｃｏｌａｂｏｒａｔｏｒｙでやさしく学ぶＪａｖａＳｃｒｉｐｔ入門	掌田津耶乃	マイナビ出版	202202
170	9784807920211	天才プログラマータンメイが教えるＪｕｌｉａ超入門	タンメイ・バクシ：菅原宏治	東京化学同人	202202
171	9784297125196	エキスパートたちのＧｏ言語　一流のコードから応用力を学ぶ	上田拓也	技術評論社	202201
172	9784297125530	アルゴリズムがわかる図鑑	松浦健一郎：司ゆき	技術評論社	202201
173	9784297125219	問題解決のための「アルゴリズム×数学」が基礎からしっかり身につく本	米田優峻	技術評論社	202201
174	9784839975968	解きながら学ぶＪａｖａＳｃｒｉｐｔつみあげトレーニングブック	リブロワークス：中川幸哉	マイナビ出版	202112
175	9784297124373	プロを目指す人のためのＲｕｂｙ入門：言語仕様からテスト駆動開発・デバッグ技法まで	伊藤淳一（プログラミング）	技術評論社	202112
176	9784297125004	試してわかるＰｙｔｈｏｎ［基礎］入門	谷尻かおり	技術評論社	202112
177	9784798066196	Ｖｉｓｕａｌ　Ｃ＃　２０２２パーフェクトマスター	金城俊哉	秀和システム	202112
178	9784798160221	詳解Ｒｕｓｔプログラミング：開発言語Ｒｕｓｔを実践的に使う理解の促進と手法の整	ティム・マクナマラ：吉川邦夫	翔泳社	202111
179	9784297122652	Ｃ＃コードレシピ集	出井秀行	技術評論社	202108
180	9784297121990	パーフェクトＣ＃	斎藤友男：市井文弥	技術評論社	202107
181	9784320124745	データサイエンスのためのＲプログラミングスキル	マイケル・フリーマン：ジョエル・ロス	共立出版	202107
182	9784297120481	良いコードを書く技術：読みやすく保守しやすいプログラミング作法	縣俊貴	技術評論社	202105
183	9784296000197	プログラムはなぜ動くのか：知っておきたいプログラミングの基礎知識	矢沢久雄	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202105
184	9784627856011	実践ＵＶＭ入門：検証のためのＳｙｓｔｅｍＶｅｒｉｌｏｇクラスライブ	篠塚一也	森北出版	202104
185	9784297119270	ステップアップＵｎｉｔｙ：プロが教える現場の教科書	吉成祐人：伏木秀樹	技術評論社	202103
186	9784422414461	ひと目でわかるプログラミングのしくみとはたらき図鑑	渡邉昌宏：山崎正浩	創元社	202101
187	9784781914992	楽しく学ぶみんなのＣプログラミング：基礎からしっかり学ぼう	皆本晃弥	サイエンス社	202012
188	9784862464941	ゲームを動かす数学・物理Ｒ	堂前嘉樹	ボーンデジタル	202012
189	9784297116866	Ｐｙｔｈｏｎによる問題解決のためのアルゴリズム設計技法	マグナス・リー・ヘットランド：辻真吾	技術評論社	202011
190	9784297116378	なんでもＰｙｔｈｏｎプログラミング平林万能ＩＴ技術研究所の奇妙な実験	平林純	技術評論社	202010
191	9784815606015	新・明解Ｊａｖａ入門	柴田望洋	ＳＢクリエイティブ	202009
192	9784297114961	Ｊａｖａポケットリファレンス	〓江賢：山田祥寛	技術評論社	202009
193	9784297115722	最短距離でゼロからしっかり学ぶＰｙｔｈｏｎ入門　実践編：ゲーム開発・データ可視化・Ｗｅｂ開発	エリック・マッテス：鈴木たかのり	技術評論社	202009
194	9784798061702	実践Ｒｕｓｔプログラミング入門	初田直也：山口聖弘	秀和システム	202009
195	9784873119199	動かして学ぶ量子コンピュータプログラミング：シミュレータとサンプルコードで理解する基本アルゴリ	エリック・Ｒ．ジョンストン：ニック・ハリガン	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202008
196	9784781914831	プログラム意味論の基礎	小林直樹：住井英二郎	サイエンス社	202008
197	9784873119175	Ｅｆｆｅｃｔｉｖｅ　Ｐｙｔｈｏｎ：Ｐｙｔｈｏｎプログラムを改良する９０項目	ブレット・スラットキン：黒川利明	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202007
198	9784274225574	コンピュータグラフィックスの基礎	宮崎大輔：床井浩平	オーム社	202006
199	9784297112233	パーフェクトＰｙｔｈｏｎ	露木誠：小田切篤	技術評論社	202005
200	9784297112134	Ｓｗｉｆｔ実践入門：直感的な文法と安全性を兼ね備えた言語	石川洋資：西山勇世	技術評論社	202004
201	9784873119045	プログラミングＴｙｐｅＳｃｒｉｐｔ：スケールするＪａｖａＳｃｒｉｐｔアプリケーション開	ボリス・チェルニー：今村謙士	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202003
202	9784595322198	アルゴリズムとプログラミング	鈴木一史	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202003
203	9784130152020	心と脳	川合伸幸	東京大学出版会	202210
204	9784130152037	心と社会	鈴木宏昭	東京大学出版会	202209
205	9784130152013	心と身体	嶋田総太郎	東京大学出版会	202209
206	9784130152044	心をとらえるフレームワークの展開	横澤一彦	東京大学出版会	202209
207	9784320114159	空間回帰モデル	マイケル・Ｄ．ウォード：クリスチャン・スクレド・グレディッチュ	共立出版	202307
208	9784502436413	１からのデータ分析	古川一郎：上原渉	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202209
209	9784320114135	打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル	リチャード・ブリーン：水落正明	共立出版	202202
210	9784320114128	固定効果モデル	ポール・Ｄ．アリソン：太郎丸博	共立出版	202201
211	9784818826052	自治体ＤＸ推進とオープンデータの活用	木村泰知：高丸圭一	日本経済評論社	202112
212	9784817846730	信託の理論と実務入門	トラスト未来フォーラム：田中和明	日本加除出版	202009
213	9784502466915	株式報酬制度の設計と課題：リストリクテッド・ストック＆業績条件付ストック・オ	中村慎二	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202308
214	9784765805735	監査役実務入門	國吉信男：松永望	国元書房	202103
215	9784805112632	プロフェッショナル・サービスにおける組織アイデンティフィケーション構造：リーガル・サービスでのバリュー・プロフィット・チェ	小谷恵子	千倉書房	202302
216	9784489023941	Ｐｙｔｈｏｎ・Ｅｘｃｅｌ・ＳＱＬによる経済・経営分析のためのデータ処理入門	原泰史	東京図書	202307
217	9784320125193	経済経営のデータサイエンス	石垣司：植松良公	共立出版	202205
218	9784622090557	給料はあなたの価値なのか：賃金と経済にまつわる神話を解く	ジェイク・ローゼンフェルド：川添節子	みすず書房	202202
219	9784627083110	数理人口学入門	稲葉寿	森北出版	202209
220	9784502465017	スタートアップ／ベンチャーの経営強化書：持続的成長のための“次の一手”の考え方	三浦太	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202308
221	9784641151024	アントレプレナーシップ入門：ベンチャーの創造を学ぶ	忽那憲治：長谷川博和	有斐閣	202209
222	9784433750718	法務コンプライアンス実践ガイド：企業改革への新潮流	浜辺陽一郎	清文社	202111
223	9784322141900	新キャピタリズム時代の企業と金融資本市場『変革』：「サステナビリティ」と「インパクト」への途	加藤晃（リスクマネジメント）：野村資本市場研究所サステナブルファイナン	金融財政事情研究会	202212
224	9784805112274	共感が未来をつくる：ソーシャルイノベーションの実践知	野中郁次郎	千倉書房	202103
225	9784561267669	ビジネス・サファリ：都市型フィールドワークの技法	神原理	白桃書房	202203
226	9784883843749	グラフィック　経営学入門	上田隆穂：榊原健郎	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)	202309
227	9784296118052	経営学とはなにか	伊丹敬之	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202305
228	9784623095469	経営学の未来を考える：不確実性の高い時代を乗り切るために	目白大学経営学部・大学院経営学研究科	ミネルヴァ書房	202303
229	9784502422812	ビジネス・ケース・ライティングの方法論的研究：ジャーナリズムと経営学のフロンティア	長田貴仁	碩学舎(発売：中央経済グループパブ)	202203
230	9784641150836	考える経営学	中川功一：佐々木将人	有斐閣	202105
231	9784502351815	現代経営学の基本問題	百田義治	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202009
232	9784865565676	株主間契約と従業員事業承継	後藤孝典：牧口晴一	民事法研究会	202310
233	9784502479014	競争優位を実現するＳＤＧｓ経営	笹谷秀光	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202311
234	9784805113004	企業と社会フォーラム学会誌	企業と社会フォーラム	千倉書房	202309
235	9784805732427	ＳＤＧｓ時代を拓くグローバル・ビジネスの挑戦：「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて	日高克平：木村有里	中央大学出版部	202309
236	9784296115174	人権尊重の経営：ＳＤＧｓ時代の新たなリスクへの対応	櫻井洋介	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202211
237	9784315526141	ビジネスの新形態　Ｂ　Ｃｏｒｐ入門	クリストファー・マーキス：土肥将敦	ニュートンプレス	202210
238	9784495541231	サステナビリティ・ＳＤＧｓ経営：ビジネスパーソンの新知識１００	松原恭司郎	同文舘出版	202209
239	9784502326417	経営改革の教室：会社を変えるために何ができるだろうか。	松田千恵子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202004
240	9784794425669	アジア新興国のビジネス：スタートアップから財閥まで	澤田貴之	創成社	202004
241	9784296115099	Ｔｈｅ　Ｐｏｗｅｒ　Ｌａｗ　ベンチャーキャピタルが変える世界．下	セバスチャン・マラビー：村井浩紀	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202309
242	9784496056567	受注環境変化と中小企業の規模間格差	町田光弘	同友館	202306
243	9784794426123	地域を支え，地域を守る責任経営：ＣＳＲ・ＳＤＧｓ時代の中小企業経営と事業承継	矢口義教	創成社	202303
244	9784496056130	ダイバーシティ経営と個性ある中小企業：持続可能社会形成を目指す中小企業の役割向上について	日本中小企業学会	同友館	202207
245	9784502421419	中小企業経営入門	井上善海：木村弘	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202203
246	9784496055744	中小企業論：組織のライフサイクルとエコシステム	安田武彦：鈴木正明	同友館	202111
247	9784502383311	図解＆事例経営承継の仕組み・方法・実際	ＡＧＳコンサルティング：ＡＧＳ税理士法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202104
248	9784794425706	ベンチャー企業要論	小野瀬拡：佐久間信夫	創成社	202007
249	9784623088225	よくわかる中小企業	関智宏	ミネルヴァ書房	202004
250	9784433744939	ファミリービジネスは日本を救う　中小企業の運営・承継における理論と実務	大阪弁護士会・日本公認会計士協会近畿会フ	清文社	202304
251	9784502458019	「株主との対話」ガイドブック：ターゲティングからＥＳＧ、海外投資家対応まで	浜辺真紀子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202304
252	9784794812322	長寿ファミリー企業のアントレプレナーシップと地域社会：時代を超える京都ブランド	辻田素子	新評論	202302

253	9784296113835	ファミリー企業の戦略原理：継続と革新の連鎖	浅羽茂：山野井順一	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202206
254	9784502470912	Ｍ＆ＡにおけるＩＴデューデリジェンスの実践ガイド	ＥＹストラテジー・アンド・コンサルティン	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202308
255	9784502448317	ＰＭＩを成功させるグローバルグループ経営	前田絵理：黒澤壮史	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202302
256	9784502451010	続・事業承継とバイアウト　ロールアップ編	日本バイアウト研究所	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202301
257	9784419068165	Ｍ＆Ａ財務デューデリジェンス入門　手順と報告書の書き方	Ｇ＆Ｓソリューションズ：山田勝也	税務経理協会	202201
258	9784865564723	日本企業の海外拠点におけるリスク管理対策の革新と実践	白石斉	民事法研究会	202201
259	9784532135270	グローバル経営入門	浅川和宏	日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）	202203
260	9784883843145	グラフィックグローバル・ビジネス	井上真里	新世社（渋谷区）（発売：サイエンス社）	202007
261	9784474092297	インパクト評価と価値創造経営　ＳＤＧｓ・ＥＳＧ時代におけるサステナブルな価値創造	塚本一郎：関正雄	第一法規出版	202310
262	9784798069036	図解入門よくわかる最新ＰＭＢＯＫ第７版の活用	鈴木安而	秀和システム	202309
263	9784502470714	新「レピュテーショナル・リスク」管理論：ＳＮＳ時代の情報の加速化・拡散にどう対応するか	トーマツ：森滋彦	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202308
264	9784797290578	企業の危機管理：実践理論の構築を目指して	奈良武	信山社出版	202308
265	9784805112915	多様な組織から見る経営管理論	吉村典久	千倉書房	202305
266	9784303729820	現場実務者のためのリスクマネジメント	氏田博士	海文堂出版	202303
267	9784502451416	社会問題化する組織不祥事：構築主義と調査可能性の行方	中原翔	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202302
268	9784433744021	気候変動リスクと会社経営　はじめの一歩	石王丸周夫	清文社	202212
269	9784496056048	経営成果の分水嶺：停滞する中小企業はどこを改善すればよいのか？	九川謙一	同友館	202207
270	9784502427312	ＥＳＧカオスを超えて：新たな資本市場構築への道標	北川哲雄	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202205
271	9784296114979	ビジュアルビジネス・フレームワーク	堀公俊	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202209
272	9784535540675	経営戦略の経済学	浅羽茂	日本評論社	202307
273	9784495200626	ＢＳＣによる戦略の策定と実行：事例で見るインタンジブルズのマネジメントと統合報告	伊藤和憲	同文舘出版	202304
274	9784794426086	経営戦略の理論と実践：中小企業に使える	高垣行男	創成社	202304
275	9784947553942	戦略的経営のための政策ゲーム：未来との対話	リチャード・Ｄ．デューク：ジャク・Ｌ．Ａ．ガーツ	流通経済大学出版会	202304
276	9784561267720	共観創造：多元的視点取得が組織にもたらすダイナミズム	竹田陽子	白桃書房	202304
277	9784908327155	ビジネス統計のための基礎理論	後藤正幸	オデッセイコミュニケーションズ(発売：ＪＲＣ)	202302
278	9784495541330	「アート思考」の技術：イノベーション創出を実現する	長谷川一英	同文舘出版	202302
279	9784532119454	ビジュアルロジカル・シンキング	平井孝志：渡部高士	日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）	202203
280	9784798167862	インビンシブル・カンパニー：「無敵の会社」を作った３９パターンのビジネスモデル	アレックス・オスターワルダー：イヴ・ピニュール	翔泳社	202101
281	9784478109144	ビジネスモデルの教科書：ハーバード・ビジネス・レビュービジネスモデル論文ベ	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部：ＤＩＡＭＯＮＤハーバード・ビジネス・レビ	ダイヤモンド社	202011
282	9784502346019	「採算に乗る事業」の仕組みづくり：「誰に」「何を」「どうやって」，そして「いくら」	金森亨	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202006
283	9784297133146	評価指標入門　データサイエンスとビジネスをつなぐ架け橋	高柳慎一：長田怜士	技術評論社	202303
284	9784496056147	ＤＸプロセスガイドライン	ＡＩ・ＩｏＴ普及推進協会	同友館	202210
285	9784297129460	事業分析・データ設計のためのモデル作成技術入門	佐藤正美（情報システム・コンサルタント）：ＴＭの会	技術評論社	202208
286	9784532323370	共感経営：「物語り戦略」で輝く現場	野中郁次郎：勝見明	日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）	202005
287	9784496054464	研究開発を変える：イノベーションによる成長戦略の実現	木村壽男	同友館	202001
288	9784805113011	ジョブ・クラフティングのマネジメント	森永雄太	千倉書房	202310
289	9784478116883	いちばんやさしい「組織開発」のはじめ方	中村和彦（社会心理学）：早瀬信	ダイヤモンド社	202309
290	9784794426079	現代の経営組織論	文載皓	創成社	202304
291	9784788518032	新しいリーダーシップをデザインする：デザインリーダーシップの理論的・実践的検討	八重樫文：大西みつる	新曜社	202303
292	9784561267782	フォールトライン：組織の分断回避へのアプローチ	内藤知加恵	白桃書房	202303
293	9784860155940	経営組織・管理に関する一考察	土屋翔	みらい	202302
294	9784762032301	心理的エンパワーメントと組織の再活性化	當間政義	学文社	202302
295	9784296113248	ビジネスの名著を読む〔リーダーシップ編〕	日本経済新聞社：高野研一	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202204
296	9784830950698	経営組織入門	上林憲雄：庭本佳子	文眞堂	202004
297	9784539729816	Ｑ＆Ａ越境ワークの法務・労務・税務ガイドブック	宇賀神崇：フェアコンサルティンググループ	日本法令	202307
298	9784502453410	実践人的資本経営	小方信幸	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202304
299	9784845234011	「人的資本経営」ストラテジー	デロイトトーマツグループ人的資本経営サー	労務行政	202304
300	9784296117680	日本の会社のための人事の経済学	鶴光太郎	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202304
301	9784502457012	揺さぶる経営学：ＬＧＢＴＱから問い直す企業の生産性	柳淳也	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202303
302	9784296112128	人事の企み～したたかに経営を動かすための作戦集～	海老原嗣生	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202204
303	9784820121213	中途採用人材を活かすマネジメント	尾形真実哉	生産性出版	202103
304	9784474069657	人手不足を円満解決現状分析から始めるシニア再雇用・定年延長	森中謙介	第一法規出版	202009
305	9784502466816	社員３００名までの人事評価・賃金制度入門	森中謙介：山口俊一（経営コンサルタント）	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202306
306	9784762031199	ＭＢＡと日本的経営：海外ＭＢＡ派遣制度の実態と構造	金雅美	学文社	202112
307	9784469269673	健康経営を科学する！：実践を成果につなげるためのエビデンス	森晃爾：永田智久	大修館書店	202310
308	9784296070398	世界一やさしいＷｅｂ操作自動化入門	清水理史	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202207
309	9784297124458	実践的データ基盤への処方箋：ビジネス価値創出のためのデータ・システム・ヒトのノ	ゆずたそ：渡部徹太郎	技術評論社	202112
310	9784296115389	ビジネススクールで身につけるファイナンス×事業数値化力	大津広一	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202209
311	9784502398414	実践！コーポレートファイナンス：強いＣＦＯと財務部が企業価値を高める	小林俊之	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202111
312	9784785729240	エクイティ・ファイナンスの理論と実務	森・濱田松本法律事務所キャピタル・マーケ	商事法務	202201
313	9784502352416	図解＆ストーリー「資本コスト」入門	岡俊子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202008
314	9784502472312	実践Ｑ＆Ａマネジメント・コントロール・システムのはなし	山本宣明	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202309
315	9784502439018	エッセンシャル管理会計	谷武幸	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202208
316	9784502431319	事例でわかるコンプライアンス違反対応の内部監査	樋口達：山内宏光	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202205
317	9784595323423	現代の内部監査	齋藤正章：蟹江章	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202203
318	9784817196927	はじめての内部監査：監査の基礎知識から実務での応用まで	島田裕次	日科技連出版社	202002
319	9784419069605	改正リース会計の手引き：【公開草案対応版】	井上雅彦（公認会計士）	税務経理協会	202310
320	9784502477416	しくみ図解　会計思考のポイント	村井直志	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202310
321	9784502465215	財務会計のファンダメンタルズ	山本達司	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202309
322	9784502471018	海外取引の経理実務ケース５０	佐和周	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202309
323	9784502463716	デジタル技術の進展と会計情報	奥村雅史	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202307
324	9784947553966	制度会計における利益概念の意義	丸岡恵梨子	流通経済大学出版会	202305
325	9784502454318	ケースでわかる売り手からみたＭ＆Ａ・組織再編の会計実務	ＥＹ新日本有限責任監査法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202304
326	9784502450617	スタートガイド会計学	小栗崇資：森田佳宏	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202303
327	9784495187552	チャレンジ・アカウンティング	藤井則彦：藤井博義	同文舘出版	202303
328	9784785730093	取引法務と会計・税務の勘所　法務・経理・税務担当者の基礎知識	北村導人：黒松昂蔵	商事法務	202302
329	9784502446313	一生モノの「学ぶ力」を身につける：国見流結果を導く会計学習メソッド	国見健介	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202302
330	9784502436918	Ｑ＆Ａ税効果会計の実務	ＥＹ新日本有限責任監査法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202209
331	9784419068578	企業価値評価のための企業会計の基礎：動的理解と活用	大瀧晃栄	税務経理協会	202207
332	9784502431210	これだけは押さえておこう海外子会社管理の会計・税務・財務ケース５０	佐和周	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202206
333	9784883843497	実証会計・ファイナンス：Ｒによる財務・株式データの分析	笠原晃恭：村宮克彦	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)	202206
334	9784419068493	財務会計論	井上良二：山田康裕	税務経理協会	202205
335	9784324111130	入門公益法人・一般法人の会計・税務Ｑ＆Ａ：解けばしくみがわかる〈演習問題付き〉	辻・本郷税理士法人	ぎょうせい	202205
336	9784502421013	税効果会計のしくみ	ＥＹ新日本有限責任監査法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202203
337	9784839421922	はじめての会計学	日本大学会計学研究室	森山書店	202203
338	9784793004698	会計ライセンスへのパスポート会計学入門	田中薫（会計学）	泉文堂	202203
339	9784502385810	たかが会計：資本コスト、コーポレートガバナンスの新常識	福井義高	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202106
340	9784502371516	１からの会計	谷武幸：桜井久勝	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202103
341	9784532322847	会計×戦略思考：ビジネススクールで身につける	大津広一	日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）	202101
342	9784495210199	原点回帰の会計学：経済的格差の是正に向けて	渡辺泉（会計学）	同文舘出版	202009
343	9784419067175	基本財務会計	岩崎勇	税務経理協会	202006
344	9784502325311	経理規程ハンドブック	トーマツ（監査法人）	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202005
345	9784502346415	現代会計学	新井清光：川村義則	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202004
346	9784794415783	簿記のテキスト［基礎編］	村田直樹：野口翔平	創成社	202305
347	9784794415820	明解簿記講義	塩原一郎	創成社	202305
348	9784502450815	レクチャー初級簿記	千葉商科大学会計研究室	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202304
349	9784502454714	簿記原理トレーニング	岩〓健久：金子善行	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202303
350	9784502425219	ビジネスセンスが身につく簿記	成川正晃	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202203
351	9784794415691	プロジェクト学習によるプライマリー簿記	福浦幾巳：成宮哲也	創成社	202203
352	9784502343810	現代簿記会計の基礎	郡司健：加納輝尚	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202003
353	9784794415417	工業簿記・原価計算の解法	中島洋行：薄井浩信	創成社	202003
354	9784502461613	税効果会計における「税率差異」の実務	中島努：中島礼子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202304
355	9784754730604	はじめよう決算書ガイドブック	安本隆晴	大蔵財務協会	202212
356	9784502410710	図解連結決算のしくみと読み方	石王丸周夫	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202201
357	9784419066871	やさしく学べる連結会計：見やすい、わかりやすい、読みやすい　連結会計が楽し	瀬戸裕司	税務経理協会	202004
358	9784502370915	収益認識の会計入門	ＥＹ新日本有限責任監査法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202101
359	9784502431715	時価評価ガイドブック：金融商品の時価算定と株式価値評価の実務	トーマツ：小山敦史	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202207
360	9784561342298	フォレンジック会計：会計と企業法務との連携	中島真澄：片山智裕	白桃書房	202308
361	9784794415806	ゼミナール監査論	山本貴啓	創成社	202305
362	9784502438318	財務諸表監査の基礎理論	イアン・デニス：井上善弘	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202211
363	9784502421815	Ｍ＆Ａ・組織再編スキーム発想の着眼点７０	宮口徹：望月文太	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202208
364	9784336073372	税理士の坊さんが書いた宗教法人の税務と会計入門	上田二郎	国書刊行会	202207
365	9784322141856	Ｐｙｔｈｏｎとファイナンス事例で学ぶ機械学習	中山季之	金融財政事情研究会	202210
366	9784502415913	金融論	家森信善	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202202
367	9784322138290	金融リテラシー入門［基礎編］	幸田博人：川北英隆	金融財政事情研究会	202101
368	9784322141641	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶビジネスデータの予測モデル	青沼君明	金融財政事情研究会	202209
369	9784322135435	金融資本市場と公共政策：進化するテクノロジーとガバナンス	神作裕之	金融財政事情研究会	202006
370	9784322143683	デジタル化する証券市場	日本証券経済研究所：代田純	金融財政事情研究会	202310
371	9784322140316	資産・債権の流動化・証券化	西村あさひ法律事務所	金融財政事情研究会	202204
372	9784627857117	Ｐｙｔｈｏｎでできる！株価データ分析	片渕彼富：山田祥寛	森北出版	202301
373	9784322139860	準大手・中堅証券史：史談で学ぶ、変革の時代の証券会社	日本証券経済研究所：深見泰孝	金融財政事情研究会	202206
374	9784315523850	ブロックチェーンの技術と革新：ブロックチェーンが変える信頼の世界	ケビン・ワーバック：山崎重一郎	ニュートンプレス	202106
375	9784065240939	ブロックチェーン技術概論：理論と実践	山崎重一郎：安土茂亨	講談社	202106
376	9784296116270	２１世紀の金融政策：大インフレからコロナ危機までの教訓	ベン・Ｓ．バーナンキ：高遠裕子	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202310
377	9784296118700	パウエルＦＲＢ　迷走の代償	高見浩輔	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202309
378	9784296117857	日本銀行　虚像と実像：検証２５年緩和	河浪武史	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202306
379	9784322135930	巨大銀行の破綻処理：ベイルアウトの終わり、ベイルインの始まり	小立敬	金融財政事情研究会	202103

380	9784771034068	事例で読み解く住まいを年金化する方法：日本のリバースモーゲージ	倉田剛	晃洋書房	202102
381	9784496055874	ファンドマネジメント大全：資産運用会社の経営と実務	三好秀和	同友館	202203
382	9784496056697	日本文化を世界へ：中小企業のソフトな海外展開	日本政策金融公庫総合研究所	同友館	202310
383	9784496054655	中小企業の国際化と現地発イノベーション：アントレプレナーシップ、人材育成、マーケティング、	吉田健太郎	同友館	202003
384	9784766428049	デジタル化時代の自動車保険	堀田一吉：山野嘉朗	慶應義塾大学出版会	202203
385	9784862833129	公共部門の統合報告と管理会計の変容：旧制度派経済学と新制度派社会学	エパメイノンダス・カツィカス：フランチェスカ・M．ロッシ	関西学院大学出版会	202108
386	9784627855014	多モデル思考：データを知恵に変える２４の数理モデル	スコット・E．ペイジ：椿広計	森北出版	202011
387	9784065289235	目に見えない戦争　デジタル化に脅かされる世界の安全と安定	イヴォンヌ・ホフシュテッター：渡辺玲	講談社	202207
388	9784339061291	あれっ，大学で数学がわからなくなった！：大学数学を読み解く力を手に入れよう	浅井徹	コロナ社	202309
389	9784781915692	ガイダンス離散数学：基礎から発展的な考え方へ	中本敦浩：小関健太	サイエンス社	202303
390	9784798503370	楽しむ初等数学	松田康雄	九州大学出版会	202208
391	9784864810883	工学基礎離散数学とその応用	徳山豪	数理工学社(発売：サイエンス社)	202207
392	9784315525397	数学大図鑑プレミアム		ニュートンプレス	202204
393	9784595141591	数理科学：離散数理モデル	石崎克也：諸澤俊介	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202103
394	9784297116675	未解決問題から楽しむ数学：３ｘ＋１問題，完全数などを例に	今野紀雄：成松明廣	技術評論社	202011
395	9784320124646	コンピュータの数学	ロナルド・Ｌ．グレーアム：ドナルド・Ｅ．クヌース	共立出版	202009
396	9784000063289	数学、それは宇宙の言葉：数学者が語る５０のヴィジョン	サム・パーク：蟹江幸博	岩波書店	202008
397	9784781914640	例題から展開する大学の基礎数学	星賀彰	サイエンス社	202001
398	9784815810108	ルネサンスの数学思想	東慎一郎	名古屋大学出版会	202012
399	9784535790063	数学にはこんなマーベラスな役立て方や楽しみ方があるという話をあの人やこの人にディ．２	数学セミナー編集部	日本評論社	202309
400	9784794973580	こころを旅する数学：直観と好奇心がひらく秘密の世界	ダヴィッド・ベシス：野村真依子	晶文社	202303
401	9784297122119	味わう数学：世界は数学でできている	数理哲人	技術評論社	202107
402	9784794224705	生と死を分ける数学：人生の（ほぼ）すべてに数学が関係するわけ	キット・イェーツ：冨永星	草思社	202010
403	9784297111519	数学的な思考とは何か：数学嫌いと思っていた人に読んで欲しい本	長岡亮介	技術評論社	202002
404	9784320114890	証明作法：論理の初歩から証明の実践へ	石原哉	共立出版	202303
405	9784781914947	現代の数学への道集合と位相	遠藤久顕	サイエンス社	202012
406	9784781914923	例題形式で探求する集合・位相：連続写像の織りなすトポロジーの世界	丹下基生	サイエンス社	202011
407	9784627062016	ｍａｘ－ｐｌｕｓ代数とその応用	ベルント・ハイデルゴット：ヘールト・ヤン・オルスダー	森北出版	202212
408	9784297125165	暗号から学ぶ代数学	川添充：上野健爾	技術評論社	202112
409	9784595322822	正多面体と素数	橋本義武	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202103
410	9784798178684	Ｐｙｔｈｏｎで動かして学ぶ！あたらしい線形代数の教科書	かくあき	翔泳社	202308
411	9784065303757	Ｐｙｔｈｏｎでしっかり学ぶ線形代数　行列の基礎から特異値分解まで	神永正博	講談社	202301
412	9784781915319	ガイダンス線形代数	増岡彰	サイエンス社	202112
413	9784410154898	大学教養線形代数の基礎	市原一裕	数研出版	202112
414	9784297127794	Ｐｙｔｈｏｎで理解する微分積分の基礎	井口和之：辻真吾	技術評論社	202205
415	9784753601721	機械学習のための関数解析入門：カーネル法実践：学習から制御まで	伊吹竜也：山内淳矢	内田老鶴圃	202305
416	9784320125216	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ確率統計	尾畑伸明：荒木由布子	共立出版	202310
417	9784320125650	データサイエンス入門：線形代数・確率から数理最適化まで	原田史子：島川博光	共立出版	202309
418	9784320113558	ノン・セミパラメトリック統計解析	西山慶彦：人見光太郎	共立出版	202306
419	9784781915739	実習Ｒ言語による多変量解析：基礎から機械学習まで	内田治：佐野夏樹	サイエンス社	202305
420	9784320114838	全体観をつかむ多変量解析	吉田耕作	共立出版	202305
421	9784781915678	データ科学入門．２	松嶋敏泰：早稲田大学データ科学教育チーム	サイエンス社	202303
422	9784807920310	Ｒで基礎から学ぶ統計学	ＪｏｓｅｐｈＳｃｈｍｕｌｌｅｒ：笠田実	東京化学同人	202302
423	9784320114142	傾向スコア	ハイヤン・バイ：Ｍ．Ｈ．クラーク	共立出版	202301
424	9784065305140	最適輸送の理論とアルゴリズム	佐藤竜馬	講談社	202301
425	9784315526387	統計		ニュートンプレス	202212
426	9784641166110	データサイエンス入門：データ取得・可視化・分析の全体像がわかる	上田雅夫：後藤正幸	有斐閣	202212
427	9784296201129	最短コースでわかるＰｙｔｈｏｎプログラミングとデータ分析	赤石雅典	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202212
428	9784839976392	データ分析力を育てる教室	松本健太郎	マイナビ出版	202206
429	9784863455030	秘書問題入門：最適停止問題の基本モデルと計算法	高木英明	丸善プラネット(発売：丸善出版)	202205
430	9784320114654	Ｒと事例で学ぶベイジアンネットワーク	マルコ・スクタリ：ジャン・パティスト・デニス	共立出版	202204
431	9784781915265	ガイダンス確率統計：基礎から学び本質の理解へ	石谷謙介	サイエンス社	202112
432	9784791774197	データ視覚化の人類史：グラフの発明から時間と空間の可視化まで	マイケル・フレンドリー：ハワード・ウェイナー	青土社	202111
433	9784563010225	確率・統計の基礎	大野博道：岡本葵	培風館	202109
434	9784798168647	Ｐｙｔｈｏｎで動かして学ぶ！あたらしいベイズ統計の教科書	かくあき	翔泳社	202108
435	9784563010294	統計学リテラシー	田中勝：藤木淳	培風館	202102
436	9784781914978	統計解析入門	篠崎信雄：竹内秀一	サイエンス社	202012
437	9784065186190	Ｒで学ぶ統計的データ解析	林賢一：下平英寿	講談社	202011
438	9784781914787	実習Ｒ言語による統計学	内田治：笹木潤	サイエンス社	202009
439	9784106038570	予測学：未来はどこまで読めるのか	大平徹	新潮社	202008
440	9784320114340	大規模計算時代の統計推論：原理と発展	ブラッドレイ・エフロン：トレバー・ヘイスティ	共立出版	202007
441	9784274225352	Ｒによる極値統計学	西郷達彦：有本彰雄	オーム社	202005
442	9784779514692	平均値の差の検定からの統計学入門：統計的仮説検定の理解から予測へ	堤裕之	ナカニシヤ出版	202003
443	9784065191835	モンテカルロ統計計算	鎌谷研吾：駒木文保	講談社	202003
444	9784065186206	スパース回帰分析とパターン認識	梅津佑太：西井龍映	講談社	202002
445	9784798067728	Ｒ統計解析パーフェクトマスター（Ｒ４完全対応）［統計＆機械学習第２版］	金城俊哉	秀和システム	202210
446	9784627078819	確率論	岩田耕一郎	森北出版	202206
447	9784627082519	時系列データ解析	白石博	森北出版	202202
448	9784621308318	誤差がわかれば実験データがいきる　技術者と科学者のための不確かさ解析	フェイス・Ａ．モリソン：重川秀実	丸善出版	202308
449	9784595323492	数値の処理と数値解析	櫻井鉄也	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202203
450	9784864810760	数値解析の初歩：Ｃ言語と数式処理系（Ｍａｘｉｍａ，Ｐｙｔｈｏｎ）に	行木孝夫	数理工学社(発売：サイエンス社)	202108
451	9784535798373	はじめて学ぶ物理学：学問としての高校物理．下	吉田弘幸	日本評論社	202306
452	9784535798366	はじめて学ぶ物理学：学問としての高校物理．上	吉田弘幸	日本評論社	202306
453	9784339027976	ＣＧによるシミュレーションと可視化	菊池司：竹島由里子	コロナ社	202304
454	9784595323553	初歩からの物理	岸根順一郎：松井哲男	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202203
455	9784781915166	ベーシック物理学	大川正典：高橋徹（物理学）	サイエンス社	202107
456	9784903814971	物理法則の探究：深遠なる物理の法則はいかにして生まれたか	横家恭介	プレアデス出版	202004
457	9784780608502	大学初年次で学ぶ物理のコツ	浅賀圭祐：秋山永治	学術図書出版社	202003
458	9784065208892	絵でわかる物理学の歴史	並木雅俊	講談社	202009
459	9784622096191	励起：仁科芳雄と日本の現代物理学．下	伊藤憲二	みすず書房	202307
460	9784254131307	もっと楽しめる物理問題２００選．Ｐａｒｔ１	ペーター・グナディグ：伊藤郁夫	朝倉書店	202005
461	9784254131314	もっと楽しめる物理問題２００選．Ｐａｒｔ２	ペーター・グナディグ：伊藤郁夫	朝倉書店	202005
462	9784489024115	弱点克服大学生の量子力学	畑浩之	東京図書	202309
463	9784785322793	理工系学生のための量子力学・統計力学入門	小鍋哲	裳華房	202307
464	9784842703794	現代の量子力学．下	Ｊ．Ｊ．サクライ：ジム・ナポリターノ	吉岡書店	202306
465	9784065322444	非エルミート量子力学	羽田野直道：井村健一郎	講談社	202306
466	9784152102409	量子テレポーテーションのゆくえ：相対性理論から「情報」と「現実」の未来まで	アントン・ツァイリンガー：田沢恭子	早川書房	202305
467	9784781915708	コア・テキスト　量子力学：基礎概念から発展的内容まで	三角樹弘	サイエンス社	202304
468	9784130626279	量子技術入門	長田有登：やまざきれきしゅう	東京大学出版会	202304
469	9784627170612	図式と操作的確率論による量子論	中平健治	森北出版	202210
470	9784781915524	量子多体系の対称性とトポロジー：統一的な理解を目指して	渡辺悠樹	サイエンス社	202209
471	9784842703763	現代の量子力学．上	Ｊ．Ｊ．サクライ：ジム・ナポリターノ	吉岡書店	202205
472	9784826902335	二重スリット実験：量子世界の実在に、どこまで迫れるか	アニル・アナンサスワーミー：藤田貢崇	白揚社	202112
473	9784000299084	物質の量子力学	岡崎誠	岩波書店	202111
474	9784000299077	量子力学	原康夫	岩波書店	202111
475	9784480860927	実在とは何か：量子力学に残された究極の問い	アダム・ベッカー：吉田三知世	筑摩書房	202108
476	9784065239230	入門現代の量子力学：量子情報・量子測定を中心として	堀田昌寛	講談社	202107
477	9784595322839	量子物理学	松井哲男：岸根順一郎	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202103
478	9784000298933	例解量子力学演習	中嶋貞雄：吉岡大二郎	岩波書店	202011
479	9784798061597	図解入門よくわかる最新量子技術の基本と仕組み	若狭直道	秀和システム	202011
480	9784781914718	レクチャー量子力学	青木一	サイエンス社	202003
481	9784785322663	レクチャー量子力学：４つの基本原理から導く．２	石川健三	裳華房	202003
482	9784065316535	テンソルネットワーク入門	西野友年	講談社	202304
483	9784910612034	物理科学における数学的方法	メアリー・ボアス：上田晴彦	プレアデス出版	202208
484	9784781914763	Ｍ理論と行列模型：超対称チャーンーサイモンズ理論が切り拓く数理物理学	森山翔文	サイエンス社	202004
485	9784065184363	世界一わかりやすい物理数学入門：これ１冊で完全マスター！	川村康文	講談社	202001
486	9784320006140	ニュートンなんかこわくない：力学をつくった数学者たち	太田浩一	共立出版	202306
487	9784781914930	振動・波動・光講義ノート	引原隆士：中西俊博	サイエンス社	202012
488	9784781915593	微生物流体力学：生き物の動き・形・流れを探る	石本健太	サイエンス社	202212
489	9784121101259	脳とＡＩ：言語と思考へのアプローチ	酒井邦嘉：合原一幸	中央公論新社	202201
490	9784065265154	脳と人工知能をつないだら、人間の能力はどこまで拡張できるのか：脳ＡＩ融合の最前線	紺野大地：池谷裕二	講談社	202112
491	9784496055188	ヘルスケア産業クラスター形成の日本的特質：中小企業のイノベーションによる産業集積の再構築	北嶋守	同友館	202012
492	9784339033861	センサ技術の基礎と応用	計測自動制御学会：次世代センサ協議会	コロナ社	202303
493	9784339033755	計測技術の基礎：新ＳＩ対応	計測自動制御学会：山崎弘郎	コロナ社	202012
494	9784339013108	ディジタル音響信号処理入門：Ｐｙｔｈｏｎによる自主演習	日本音響学会：小澤賢司	コロナ社	202210
495	9784502461217	はじめてのＵＸデザイン図鑑	荻原昴彦	ＢＯＷ＆ＰＡＲＴＮＥＲＳ(発売：中央経済グループパブ)	202303
496	9784781915555	３Ｄ－ＣＡＤで学ぶ図形科学入門	横山ゆりか：金井崇	サイエンス社	202209
497	9784526082931	限界利益（見積・分析）をうまく使って「売上アップ！」－利益と付加価値を生み出す原	堀口敬	日刊工業新聞社	202309
498	9784817197788	製造業のＩｏＴ活用Ｑ＆Ａ：ＩｏＴのお悩み、解決します！	山田浩貴	日科技連出版社	202304
499	9784526081620	図解！本気の製造業「ＤＸ推進のお金の流れと原価管理」	吉川武文	日刊工業新聞社	202110
500	9784817197818	製品化５つの壁の越え方：自社オリジナル製品を作るための教科書	小田淳	日科技連出版社	202306
501	9784526082481	英語でＫａｉｚｅｎ！トヨタ生産方式	成沢俊子：ジョン・シュック	日刊工業新聞社	202301
502	9784526080944	誰も教えてくれない「部品工場の納期遅れ」の解決策	本間峰一	日刊工業新聞社	202010
503	9784817197870	マネジメントシステムに魂を入れる	日本適合性認定協会：飯塚悦功	日科技連出版社	202310
504	9784296000616	危機からの脱出．１	ウィリアム・エドワーズ・デミング：成沢俊子	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202207
505	9784817196934	最新タグチメソッド：パラメータ設計の再構築	中野恵司	日科技連出版社	202002
506	9784817197160	調達品の品質確保：ありたい姿と現実のギャップを埋めるために	鱠谷佳和	日科技連出版社	202009

507	9784502395819	カーボンゼロの衝撃：グリーン経済戦争下の市場新ルール	菊地正俊	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202108
508	9784842505862	企業と環境：ＳＤＧｓ時代における意思決定の新潮流	藤平慶太	養賢堂	202205
509	9784254150230	惑星探査とやさしい微積分．１	Ａ．Ｊ．Ｈａｈｎ：狩野覚	朝倉書店	202306
510	9784627855410	ＯｐｅｎＡＤＲによるデマンドレスポンス通信	蜷川忠三：山田倫久	森北出版	202007
511	9784407363937	新訂電気回路入門	日〓邦彦：堀桂太郎	実教出版	202310
512	9784274228148	実習電気回路	オーム社	オーム社	202203
513	9784434318412	ソニー創業者を支えた人：川名喜之氏　遺稿集	安藤哲雄	湘南社(発売：星雲社)	202303
514	9784297111755	通信設備が一番わかる：情報通信を支える通信設備の基礎から応用まで	真江島光：坂林和重	技術評論社	202003
515	9784297136437	ゼロからわかるネットワーク超入門：基礎知識からＴＣＰ／ＩＰまで	柴田晃	技術評論社	202309
516	9784815619480	これからはじめるＲｅａｃｔ実践入門：コンポーネントの基本からＮｅｘｔ．ｊｓによるアプリ	山田祥寛	ＳＢクリエイティブ	202310
517	9784798070285	Ｎｏｄｅ．ｊｓ超入門	掌田津耶乃	秀和システム	202307
518	9784297133863	ＨＴＭＬ＆ＣＳＳポケットリファレンス	森史憲：藤本壱	技術評論社	202305
519	9784297134099	縁の下のＵＩデザイン　小さな工夫で大きな効果をもたらす実践ＴＩＰＳ＆テクニック	池田拓司	技術評論社	202305
520	9784297134273	ゼロからわかるＬｉｎｕｘサーバー超入門Ｕｂｕｎｔｕ対応版	小笠原種高	技術評論社	202304
521	9784297133665	Ｗｅｂアプリケーションアクセシビリティ　今日から始める現場からの改善	伊原力也：小林大輔（プログラマー）	技術評論社	202303
522	9784798069005	詳解ＨＴＭＬ　＆　ＣＳＳ　＆　ＪａｖａＳｃｒｉｐｔ辞典	大藤幹：半場方人	秀和システム	202303
523	9784798175836	ＨＴＭＬ／ＣＳＳの絵本　Ｗｅｂコンテンツ作りの基本がわかる新しい９つの扉	アンク	翔泳社	202303
524	9784839980351	ちゃんと使える力を身につけるＷｅｂとプログラミングのきほんのきほん	大沢文孝	マイナビ出版	202301
525	9784297130206	サーバーのしくみと技術がこれ１冊でしっかりわかる本	横田一輝：遠藤有貴	技術評論社	202210
526	9784296070503	プログラマーになりたい！	長岡英史	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202210
527	9784839980313	これからはじめるＦｉｇｍａ　Ｗｅｂ・ＵＩデザイン入門	阿部文人：今聖菜	マイナビ出版	202209
528	9784297128524	図解でやさしくわかるネットワークのしくみ超入門	網野衛二	技術評論社	202207
529	9784815615741	この一冊で全部わかるサーバーの基本	きはしまさひろ	ＳＢクリエイティブ	202205
530	9784839979386	プロを目指す人のＨＴＭＬ＆ＣＳＳの教科書：ＨＴＭＬ　Ｌｉｖｉｎｇ　Ｓｔａｎｄａｒｄ準拠	大藤幹	マイナビ出版	202205
531	9784297127930	ネットワークのしくみと技術がこれ１冊でしっかりわかる本	中尾真二	技術評論社	202205
532	9784627856714	ＩｏＴ／５Ｇ／ＤＸのネットワーク技術・セキュリティ技術：発展動向から知財戦略まで	宮保憲治：岡田賢治	森北出版	202205
533	9784839977214	一生使えるＷｅｂライティングの教室：１０代から大人まで、基礎から身につく「文章力」	片桐光知子	マイナビ出版	202203
534	9784297123093	Ｗｅｂ技術がこれ１冊でしっかりわかる教科書	鶴長鎮一	技術評論社	202110
535	9784815610722	モダンＪａｖａＳｃｒｉｐｔの基本から始めるＲｅａｃｔ実践の教科書：最新ＲｅａｃｔＨｏｏｋｓ対応	じゃけぇ	ＳＢクリエイティブ	202109
536	9784815609610	いちばんよくわかるＷｅｂデザインの基本きちんと入門：レイアウト／配色／写真／タイポグラフィ／最新テクニ	伊藤庄平：益子貴寛	ＳＢクリエイティブ	202108
537	9784297121938	教科書では教えてくれないＨＴＭＬ＆ＣＳＳ	狩野祐東	技術評論社	202107
538	9784297119447	サーバ／インフラエンジニアの基本がこれ１冊でしっかり身につく本	馬場俊彰	技術評論社	202104
539	9784781914909	コンピュータで広がる：インターネットリテラシ入門	小口正人	サイエンス社	202012
540	9784781914770	Ｗｅｂのしくみ：Ｗｅｂをいかすための１２の道具	矢吹太朗	サイエンス社	202010
541	9784839974596	ＨＴＭＬ５＆ＣＳＳ３デザイン現場の新標準ガイド：体系的に学ぶＨＴＭＬとＣＳＳの仕様と実践	エビスコム	マイナビ出版	202010
542	9784873119212	リアルワールドバグハンティング：ハッキング事例から学ぶウェブの脆弱性	ピーター・ヤウォルスキー：玉川竜司	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202009
543	9784297114626	パーフェクトＲｕｂｙ　ｏｎ　Ｒａｉｌｓ	すがわらまさのり：前島真一	技術評論社	202008
544	9784297114701	ＰＨＰ本格入門．下	大家正登	技術評論社	202008
545	9784297113773	Ｖｕｅ．ｊｓ　超入門	石亀広大	技術評論社	202006
546	9784297112516	ＨＴＭＬ　＆　ＣＳＳ逆引き事典	大藤幹	技術評論社	202005
547	9784595322181	身近なネットワークサービス	葉田善章	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202003
548	9784798060668	はじめてのＣｅｎＴＯＳ　８	デージーネット	秀和システム	202002
549	9784297111250	ｊＱｕｅｒｙポケットリファレンス：ｊＱｕｅｒｙ３対応	鶴田展之	技術評論社	202001
550	9784526080234	ＩｏＴセキュリティ技術入門	松井俊浩	日刊工業新聞社	202001
551	9784297135119	量子コンピュータの頭の中　計算しながら理解する量子アルゴリズムの世界	束野仁政	技術評論社	202306
552	9784065302637	新しいヒューマンコンピュータインタラクションの教科書　基礎から実践まで	玉城絵美	講談社	202302
553	9784814400058	ＵＸ戦略：革新的なプロダクト開発のためのテクニック	ジェイミー・レヴィ：安藤幸央	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202211
554	9784781915142	コンピュータのしくみ：情報活用能力とは何かを考える	佐藤一郎（コンピュータサイエンス）	サイエンス社	202109
555	9784864810739	レクチャーヒューマンコンピュータインタラクション	志堂寺和則	数理工学社(発売：サイエンス社)	202102
556	9784526081088	トコトンやさしいウェアラブルの本：キーテクノロジーと活用分野がわかる！	塚本昌彦	日刊工業新聞社	202101
557	9784274225314	プログラマーのためのコンピュータ入門：内部ではどう動いているか	Ｌｅｐｔｏｎ	オーム社	202006
558	9784297119546	［増補改訂］ＧＰＵを支える技術：超並列ハードウェアの快進撃［技術基礎］	ＨｉｓａＡｎｄｏ	技術評論社	202103
559	9784627818811	複雑ネットワークと制御理論	阿久津達也：ホセ・ナチェル	森北出版	202306
560	9784320124813	Ｒａｓｐｂｅｒｒｙ　Ｐｉでロボットをつくろう！：動いて，感じて，考えるロボットの製作とＰｙｔｈｏｎ	マット・ティモンズ・ブラウン：齊藤哲哉	共立出版	202112
561	9784798064734	図解入門よくわかる最新シーケンス制御と回路図の基本：制御回路の作成手法と手順を初歩から学ぶ！　自動制御	武永行正	秀和システム	202105
562	9784864810753	エレクトロニクス入門：電子・原子の世界からコンピュータまで	柴田直	数理工学社(発売：サイエンス社)	202107
563	9784886863188	アナログ電子回路：半導体デバイスとその応用技術	落合政司	電気学会(発売：オーム社)	202208
564	9784065274071	ＬＴｓｐｉｃｅで独習できる！はじめての電子回路設計	鹿間信介	講談社	202203
565	9784862658753	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ回路シミュレーションとモデリング	盛健次：松澤昭	鳥影社	202104
566	9784798063263	ＦＰＧＡプログラミング大全．Ｘｉｌｉｎｘ編	小林優	秀和システム	202102
567	9784798068152	図解入門よくわかる半導体の動作原理	西久保靖彦	秀和システム	202212
568	9784065282922	初歩から学ぶ半導体工学	原明人	講談社	202211
569	9784798066837	図解入門よくわかる最新パワー半導体の基本と仕組み	佐藤淳一	秀和システム	202206
570	9784798065069	図解入門よくわかる最新半導体の基本と仕組み：基礎技術から最新情報まですべてを網羅	西久保靖彦	秀和システム	202107
571	9784753650507	半導体デバイスにおける界面制御技術	大貫仁：篠嶋妥	内田老鶴圃	202104
572	9784798062457	図解入門よくわかる最新半導体プロセスの基本と仕組み：シリコンが半導体になる製造工程を俯瞰	佐藤淳一	秀和システム	202009
573	9784526080647	トコトンやさしい半導体パッケージ実装と高密度実装の本	高木清：大久保利一	日刊工業新聞社	202005
574	9784798171821	実践ゲームＵＩデザイン　コンセプト策定から実装のコツまで	太田垣沙也子	翔泳社	202206
575	9784296112951	まちづくり仕組み図鑑：ビジネスを生む「地元ぐらし」のススメ	佐藤将之：馬場義徳	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202209
576	9784771037274	アメリカ産業イノベーション論	宮田由紀夫：安田聡子	晃洋書房	202304
577	9784480511225	日本商人の源流	佐々木銀弥	筑摩書房	202206
578	9784595324086	サービスサイエンス	岡田幸彦：原辰徳	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202303
579	9784502406713	日系小売企業の国際展開：日本型業態の挑戦	鳥羽達郎：川端庸子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202203
580	9784881253670	協働型プライベートブランド	神谷渉	専修大学出版局	202202
581	9784495650209	サービスにおける顧客優位のマーケティング：価値共創を基軸としたダイアディック・アプローチ	今村一真	同文舘出版	202309
582	9784130430449	サービスＶＲの挑戦：バーチャルリアリティからメタバースへ	廣瀬通孝	東京大学出版会	202306
583	9784768317396	コマーシャル・フォト広告＆ＣＭ年鑑．２０２３		玄光社	202303
584	9784756256423	発信する・共感を呼ぶＷｅｂ＆ＳＮＳ時代のブランディングデザイン	パイインターナショナル	パイインターナショナル	202208
585	9784842918549	新時代のマーケティング：デジタル経済を動かすキーワード	宮下雄治	八千代出版	202310
586	9784864341721	差異としてのマーケティング	片山富弘	五絃舎	202309
587	9784296202669	ＬＴＶ（ライフタイムバリュー）の罠	垣内勇威	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202307
588	9784641166134	マーケティングの力：最重要概念・理論枠組み集	恩藏直人：坂下玄哲	有斐閣	202305
589	9784798180274	マーケティングオペレーション（ＭＯｐｓ）の教科書　専門チームでマーケターの生産性	丸井達郎：廣崎依久	翔泳社	202305
590	9784805112762	便益遅延型サービスのマーケティングの方向性を探る：教育サービスと医療サービスの比較を通じて	藤村和宏	千倉書房	202303
591	9784561652441	デジタルマーケティング大全：新時代のビジネスモデルを切り拓く	進藤美希	白桃書房	202303
592	9784296001361	プライシングの技法	下寛和	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202212
593	9784864341561	サステナブル時代のコ・マーケティング　７Ｃコンパスモデル	清水公一	五絃舎	202206
594	9784495589837	図解よくわかるこれからのマーケティング：なるほど！これでわかった	金森努	同文舘出版	202204
595	9784419068585	エリア・マーケティングデベロップメント	岩田貴子	税務経理協会	202204
596	9784335002502	マーケティング論	雨宮史卓	弘文堂	202202
597	9784502403613	青山企業に学ぶコミュニティ型マーケティング	宮副謙司	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202201
598	9784532324476	世界で勝つブランドをつくる：なぜ、アメーラトマトはスペインで最も高く売れるのか	岩崎邦彦	日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）	202112
599	9784805112342	事例ベース意思決定（ＣＢＤＴ）によるマーケティング	郷香野子	千倉書房	202108
600	9784756252524	ブランディングデザインの教科書	西澤明洋	パイインターナショナル	202012
601	9784495650063	現代マーケティング論：モノもコトも一緒に考える	石川和男	同文舘出版	202009
602	9784502462115	顧客経験価値を創造する商品開発入門	高橋透	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202307
603	9784805112564	消費者によるイノベーション：分野外情報の有効性	本條晴一郎	千倉書房	202202
604	9784805112663	デュアル・チャネル：Ｂ２Ｂマーケティングにおける流通戦略	石井隆太	千倉書房	202301
605	9784623093274	よくわかる流通論	番場博之：大野哲明	ミネルヴァ書房	202212
606	9784526082337	トコトンやさしい物流の本	鈴木邦成	日刊工業新聞社	202210
607	9784864341479	流通政策の基礎	岡野純司	五絃舎	202203
608	9784496055775	ビジネスゲームで学ぶサプライチェーンマネジメント：原理原則と演習、そして実業務への応用	エド・ウィーンク：河合亜矢子	同友館	202203
609	9784526080487	入門物流（倉庫）作業の標準化：バラツキを減らし、ムダとミスをなくす！	鈴木邦成	日刊工業新聞社	202004
610	9784495390594	グローバルビジネスとトレード	池部亮	同文舘出版	202201
611	9784561742319	「送料有料」です！：人口減少社会でも持続可能な物流サービスのあり方	森田富士夫	白桃書房	202301
612	9784798065113	はじめてのＡｎｄｒｏｉｄアプリ開発　Ｊａｖａ編	山内直：山田祥寛	秀和システム	202202
613	9784297120849	モバイルゲーム開発がこれ１冊でしっかりわかる教科書	永田峰弘：大嶋剛直	技術評論社	202105
614	9784339013726	音楽情報処理	後藤真孝：北原鉄朗	コロナ社	202309
615	9784595141942	音楽・情報・脳	仁科エミ：河合徳枝	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202303
616	9784771035201	スポーツマネジメント入門	相原正道：前田和範	晃洋書房	202111
617	9784883354979	アスリート×ブランド：感動と興奮を分かち合うスポーツシーンのつくり方	長田新子	宣伝会議	202005
618	9784000297127	ことばと算数　その間違いにはワケがある	広瀬友紀	岩波書店	202207
619	9784297100155	たった１日で基本が身に付く！Ｃ言語超入門	小谷和弘	技術評論社	201810
620	9784837805144	経営のバトン　生命のバトン：百年企業の事業承継経験者が伝える３７の核心	安藤謙一郎	マネジメント社	202310
621	9784866211992	「３００億円赤字」だったマックを六本木のバーの店長がＶ字回復させた秘密：ほぼ実話！！	足立光	ＷＡＶＥ出版	201902
622	9784883353132	あのお店はなぜ消耗戦を抜け出せたのか：ネット時代の老舗に学ぶ「戦わないマーケティング」	仲山進也	宣伝会議	201407
623	9784320036277	明解統計力学	糸井千岳：糸井充穂	共立出版	202311
624	9784910879062	統計力学　応用編	村上雅人：飯田和昌	飛翔舎	202306
625	9784065316245	「複雑系」入門：カオス、フラクタルから生命の謎まで	金重明	講談社	202304
626	9784910879048	統計力学　基礎編	村上雅人：飯田和昌	飛翔舎	202303
627	9784785329259	つながりの物理学：パーコレーション理論と複雑ネットワーク理論	小田垣孝	裳華房	202009
628	9784339044607	機械系の電子回路	高橋晴雄：阪部俊也	コロナ社	200110
629	9784798064369	図解入門よ～くわかる最新電子回路の基本としくみ：回路の基礎からシミュレーションまで！　学習と演習	石川洋平：野口卓朗	秀和システム	202105
630	9784274227349	詳解電子回路：等価回路でしっかり理解！	吉河武文：三木拓司	オーム社	202108
631	9784798062525	ＦｒｅｅＣＡＤ入門	堀島健司	秀和システム	202311
632	9784767832111	ＡｕｔｏＣＡＤで３Ｄを使いこなすための９７の方法：ＡｕｔｏＣＡＤ　２０２４対応	芳賀百合	エクスナレッジ	202311
633	9784767831954	ＡｕｔｏＣＡＤで３Ｄ攻略読本：ＡｕｔｏＣＡＤ　２０２４対応	鳥谷部真	エクスナレッジ	202310

634	9784781209432	基礎から学ぶデジタル時代の矯正入門：ＩＯＳと３Ｄプリンターを応用したカスタムメイド矯正	ネアルコス・パナイ：三林栄吾	クインテッセンス出版	202305
635	9784775320082	プラモデルのための３Ｄプリンター＆３Ｄモデリング入門	小泉史人	新紀元社	202209
636	9784297128647	はじめてでもできるＦｕｓｉｏｎ３６０入門	田中正史	技術評論社	202207
637	9784485303078	ゼロからはじめるＳＯＬＩＤＷＯＲＫＳ．Ｓｅｒｉｅｓ２	オズクリエイション	電気書院	202206
638	9784339044782	ＣＡＤ／ＣＡＭ	望月達也	コロナ社	202104
639	9784395321971	図解建築の技術と意匠の歴史	溝口明則	彰国社	202310
640	9784254111583	幾何学入門事典	砂田利一：加藤文元	朝倉書店	202306
641	9784320114715	フリーズの数学スケッチ帖：数と幾何のきらめき	西山享	共立出版	202207
642	9784274225819	ＡＩ時代の離散数学	茨木俊秀	オーム社	202008
643	9784320124479	ネットワーク科学：ひと・もの・ことの関係性をデータから解き明かす新し	アルバート・ラズロ・バラバシ：池田裕一	共立出版	201902
644	9784627852815	グラフ理論入門：基本とアルゴリズム	宮崎修一（情報学）	森北出版	201506
645	9784621088296	数学新たな数と理論の発見史：歴史を変えた１００の大発見	リチャード・ビーティー：トム・ジャクソン	丸善出版	201406
646	9784065318201	ゲーム理論の〈裏口〉入門　ボードゲームで学ぶ戦略的思考法	野田俊也	講談社	202305
647	9784254270242	Ｒで学ぶゲーム理論	上條良夫：矢内勇生	朝倉書店	202303
648	9784641200050	活かすゲーム理論	浅古泰史：図斎大	有斐閣	202303
649	9784326550876	ゲーム理論の見方・考え方	岡田章	勁草書房	202207
650	9784641174627	協力の条件：ゲーム理論とともに考えるジレンマの構図	盛山和夫	有斐閣	202106
651	9784623088355	教養の会計学：ゲーム理論と実験でデザインする	田口聡志	ミネルヴァ書房	202004
652	9784798070742	これからのＡＩ×Ｗｅｂライティング本格講座　ＣｈａｔＧＰＴで超時短・高品質コンテ	瀧内賢	秀和システム	202309
653	9784344941380	Ｗｅｂ担当者のための３ステップＷｅｂマーケティング	小松雅直	幻冬舎メディアコンサルティング(発売：幻冬舎)	202212
654	9784897952437	図解でわかるデジタルマーケティングいちばん最初に読む本	野上眞一	アニモ出版	202011
655	9784295200307	沈黙のＷｅｂマーケティング：Ｗｅｂマーケッターボーンの逆襲	松尾茂起：上野高史	エムディエヌコーポレーション(発売：インプレス)	202010
656	9784295010067	いちばんやさしいスマートフォンＳＥＯの教本：人気講師が教える検索に強いスマホサイトの作り方	江沢真紀：コガン・ポリーナ	インプレス	202009
657	9784495540678	図解よくわかるこれからのデジタルマーケティング：なるほど！これでわかった	船井総合研究所	同文舘出版	202008
658	9784801306844	教養として知っておきたい３３の哲学	沢辺有司	彩図社	202310
659	9784787210470	読解レヴィ＝ストロース	出口顯	青弓社	201106
660	9784762025754	機械論的世界観批判序説：内省的理性と公共的理性	大倉茂	学文社	201511
661	9784815810030	統計学を哲学する	大塚淳	名古屋大学出版会	202010
662	9784326102969	社会科学の哲学入門	吉田敬（哲学）	勁草書房	202108
663	9784434305214	ＰＣネット年代記：パーソナルコンピュータは時代をどのように変えネット	佐藤正和	平成出版Ｇ(発売：星雲社)	202210
664	9784865490886	なるほどわかったコンピューターとプログラミング	ロージー・ディキンズ：ショー・ニールセン	ひさかたチャイルド	201702
665	9784588010514	メディアの歴史：ビッグバンからインターネットまで	ヨッヘン・ヘーリッシュ：川島建太郎	法政大学出版局	201702
666	9784627853614	情報通信ネットワークの基礎	宇野新太郎	森北出版	201612
667	9784339024845	情報ネットワーク概論：ネットワークとセキュリティの技術とその理論	井関文一：金光永煥	コロナ社	201410
668	9784838732098	マスター・オブ・スケール　世界を制したリーダーが初めて明かす事業拡大の最強ルール	リード・ホフマン：ジューン・コーエン	マガジンハウス	202210
669	9784315523973	シリコンバレーを越えて：次世代の革新家がめざすデジタル新技術と平等社会．上	ラメシュ・スリニヴァサン：大屋雄裕	ニュートンプレス	202107
670	9784315523980	シリコンバレーを越えて：次世代の革新家がめざすデジタル新技術と平等社会．下	ラメシュ・スリニヴァサン：大屋雄裕	ニュートンプレス	202107
671	9784478110669	スタンフォード式生き抜く力	星友啓	ダイヤモンド社	202009
672	9784478107249	１兆ドルコーチ：シリコンバレーのレジェンド　ビル・キャンベルの成功	エリック・シュミット：ジョナサン・ローゼンバーグ	ダイヤモンド社	201911
673	9784873118598	ＷＴＦ経済：絶望または驚異の未来と我々の選択	ティム・オライリー：山形浩生	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	201902
674	9784828425603	生成ＡＩは電気羊の夢を見るか？	増田悦佐	ビジネス社	202310
675	9784651203799	生成ＡＩ導入の教科書	小澤健祐	ワン・パブリッシング	202310
676	9784022519382	ゼロからわかる生成ＡＩ法律入門：対話型から画像生成まで、分野別・利用場面別の課題と	増田雅史：輪千浩平	朝日新聞出版	202309
677	9784815621216	生成ＡＩ：社会を激変させるＡＩの創造力	白辺陽	ＳＢクリエイティブ	202306
678	9784798068992	画像生成ＡＩがよくわかる本	田中秀弥：松村雄太	秀和システム	202305
679	9784777522521	ゼロから身に付く！ＣｈａｔＧＰＴ活用スキル：業務効率化、言語翻訳、文書の要約、万能シミュレーシ	ＣｈａｔＧＰＴ研究所	工学社	202305
680	9784297136017	ゼロからはじめる　なるほど！ＣｈａｔＧＰＴ活用術：仕事の効率が劇的に変わるＡＩ使いこなしのヒント	マイカ	技術評論社	202307
681	9784297138394	ＣｈａｔＧＰＴ／ＬａｎｇＣｈａｉｎによるチャットシステム構築［実践］入門	吉田真吾：大嶋勇樹	技術評論社	202310
682	9784798071305	プログラミング知識ゼロでもわかる　プロンプトエンジニアリング入門	掌田津耶乃	秀和システム	202311
683	9784814400454	Ｃ＋＋ソフトウェア設計：高品質設計の原則とデザインパターン	クラウス・イグルベルガー：千住治郎	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202310
684	9784297132347	ちょうぜつソフトウェア設計入門：ＰＨＰで理解するオブジェクト指向の活用	田中ひさてる	技術評論社	202212
685	9784815609801	Ｊａｖａ言語で学ぶデザインパターン入門	結城浩	ＳＢクリエイティブ	202111
686	9784872848632	情報処理試験合格へのパスポート　Pythonプログラミング	株式会社ウイネット　情報処理教育研究会	ウイネット出版	202102
687	9784872848762	Java実践プログラミング	株式会社ウイネット　情報処理教育研究会	ウイネット出版	202203
688	9784872848786	基礎からわかるネットワークテキスト	株式会社ウイネット　情報処理教育研究会	ウイネット出版	202203
689	9784872848755	情報処理試験合格へのパスポート　Cプログラミング	株式会社ウイネット　情報処理教育研究会	ウイネット出版	202203
690	9784873119564	機械学習デザインパターン：データ準備、モデル構築、ＭＬＯｐｓの実践上の問題と	バリアッパ・ラクシュマナン：サラ・ロビンソン	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202110
691	9784798169446	ＡＩエンジニアのための機械学習システムデザインパターン	澁井雄介	翔泳社	202105
692	9784873118758	分散システムデザインパターン：コンテナを使ったスケーラブルなサービスの設計	ブレンダン・バーンズ：松浦隼人	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	201904
693	9784798160214	実力養成Ｃ＃ワークブック：ファンダメンタル、コアコンセプト、パターン　Ｃ＃で	バスカラン・サルカー：清水美樹	翔泳社	201903
694	9784048930673	モダンＣ言語プログラミング：統合開発環境、デザインパターン、エクストリーム・プ	花井志生	ドワンゴ(発売：ＫＡＤＯＫＡＷＡ)	201901
695	9784621066041	オブジェクト指向のこころ：デザインパターンとともに学ぶ	アラン・シャロウェイ：ジェームズ・Ｒ．トロット	丸善出版	201402
696	9784641490062	現象学の新たな展開	哲学会	有斐閣	202310
697	9784627063112	圏論によるトポロジー	タイ・ダナエ・ブラッドリー：タイラー・ブライソン	森北出版	202306
698	9784320114845	活躍する圏論：具体例からのアプローチ	ブレンダン・フォン：デヴィッド・Ｉ・スピヴァック	共立出版	202302
699	9784297131500	圏論の地平線	西郷甲矢人	技術評論社	202212
700	9784000298292	モチーフ理論	山崎隆雄	岩波書店	202203
701	9784434036170	コンピュータ科学者がめったに語らないこと	ドナルド・Ｅ．クヌース：滝沢徹	エスアイビー・アクセス(発売：星雲社)	200309
702	9784315525915	文系のためのめっちゃやさしい人工知能：東京大学の先生伝授	松原仁	ニュートンプレス	202208
703	9784873119069	ゼロから作るＤｅｅｐ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ．３	斎藤康毅	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202004
704	9784873119113	ゼロからはじめるデータサイエンス：Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ基本と実践	ジョエル・グルス：菊池彰	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202004
705	9784274223938	機械学習ガイドブック：ＲとＰｙｔｈｏｎを使いこなす	櫻井豊	オーム社	201906
706	9784873118369	ゼロから作るＤｅｅｐ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ．２	斎藤康毅	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	201807
707	9784873117584	ゼロから作るＤｅｅｐ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ：Ｐｙｔｈｏｎで学ぶディープラーニングの理論と実装	斎藤康毅	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	201609
708	9784274231063	音楽で身につけるディープラーニング	北原鉄朗	オーム社	202310
709	9784274231193	機械学習による分子最適化：数理と実装	梶野洸	オーム社	202310
710	9784798167206	Ｇｏｏｇｌｅ　Ｃｏｌａｂｏｒａｔｏｒｙで学ぶ！あたらしい人工知能技術の教科書：機械学習・深層学習・強化学習で学ぶＡＩの基礎技術	我妻幸長	翔泳社	202109
711	9784873119106	Ｐｙｔｈｏｎではじめる教師なし学習：機械学習の可能性を広げるラベルなしデータの利用	アンクル・Ａ．パテル：中田秀基	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202004
712	9784274226984	Ｐｙｔｈｏｎコンピュータシミュレーション入門：人文・自然・社会科学の数理モデル	橋本洋志：牧野浩二	オーム社	202104
713	9784873118819	Ｐｙｔｈｏｎ計算機科学新教本：新定番問題を解決する探索アルゴリズム、ｋ平均法、ニ	デビッド・コペック：黒川利明	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	201906
714	9784873118727	ＰｙｔｈｏｎによるＡＩプログラミング入門：ディープラーニングを始める前に身につけておくべき１	プラティーク・ジョシ：相川愛三	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	201903
715	9784297103941	アルゴリズムはじめの一歩完全攻略	矢沢久雄	技術評論社	201902
716	9784627847897	遺伝的アルゴリズム：その理論と先端的手法	棟朝雅晴	森北出版	201507
717	9784314010894	ガイドツアー複雑系の世界：サンタフェ研究所講義ノートから	メラニー・ミッチェル：高橋洋（翻訳家）	紀伊國屋書店	201112
718	9784627451896	遺伝的アルゴリズムの構造工学への応用	古田均：杉本博之	森北出版	201110
719	9784320122628	知的システム工学	三木光範	共立出版	201110
720	9784893622280	遺伝的アルゴリズムと遺伝的プログラミング．続	平野広美	パーソナルメディア	200606
721	9784893621733	遺伝的アルゴリズムと遺伝的プログラミング：オブジェクト指向フレームワークによる構成と応用	平野廣美	パーソナルメディア	200002
722	9784800713223	ＦｉｌｅＭａｋｅｒ２０２３スーパーリファレンス：Ｗｉｎｄｏｗｓ　＆　ｍａｃＯＳ　＆　ｉＯＳ対応	野沢直樹：胡正則	ソーテック社	202307
723	9784814400119	マスタリングＬｉｎｕｘシェルスクリプト：Ｌｉｎｕｘコマンド、ｂａｓｈスクリプト、シェルプロ	ＭｏｋｈｔａｒＥｂｒａｈｉｍ：ＡｎｄｒｅｗＭａｌｌｅｔｔ	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202212
724	9784815617141	確かな力が身につくＰＨＰ「超」入門	松浦健一郎：司ゆき	ＳＢクリエイティブ	202209
725	9784798169361	スラスラわかるＰｙｔｈｏｎ	岩崎圭：北川慎治	翔泳社	202111
726	9784797393804	ネットワークがよくわかる教科書	福永勇二	ＳＢクリエイティブ	201809
727	9784817197795	ＡＩ時代の知的財産・イノベーション	早稲田大学次世代ロボット研究機構ＡＩロボ：森康晃	日科技連出版社	202307
728	9784326404162	知財とパブリック・ドメイン．第３巻	田村善之	勁草書房	202302
729	9784326404155	知財とパブリック・ドメイン．第２巻	田村善之	勁草書房	202302
730	9784326404148	知財とパブリック・ドメイン．第１巻	田村善之	勁草書房	202301
731	9784324109885	ＤＸ時代におけるデジタル・コンテンツ著作権	金井重彦：高橋淳	ぎょうせい	202111
732	9784812222249	はじめての工学倫理	齊藤了文：坂下浩司	昭和堂（京都）	202310
733	9784865564877	情報・ＡＩの利活用と紛争予防の法律実務：関連裁判例の分析からみる紛争防止策	阿部・井窪・片山法律事務所：服部誠	民事法研究会	202201
734	9784344944756	日本の開発力をよみがえらせる　知財ＤＸ	古川智昭	幻冬舎メディアコンサルティング(発売：幻冬舎)	202304
735	9784798166391	プロダクトマネジメントのすべて：事業戦略・ＩＴ開発・ＵＸデザイン・マーケティングか	及川卓也：曽根原春樹	翔泳社	202103
736	9784065289563	ＲＯＳ２とＰｙｔｈｏｎで作って学ぶＡＩロボット入門	出村公成：萩原良信	講談社	202208
737	9784862465306	Ｕｎｉｔｙではじめるロボット　プログラミング実践入門	布留川英一	ボーンデジタル	202205
738	9784904774908	ロボットプログラミングＲＯＳ２入門	岡田浩之	科学情報出版	202009
739	9784762832123	教育の方法と技術：ＩＤとＩＣＴでつくる主体的・対話的で深い学び	稲垣忠（情報教育）：深見俊崇	北大路書房	202212
740	9784762831409	教育デザイン研究の理論と実践	スーザン・マッケニー：トーマス・Ｃ．リーブス	北大路書房	202102
741	9784762829260	インストラクショナルデザインの道具箱１０１	市川尚：根本淳子	北大路書房	201603
742	9784762828836	授業設計マニュアル：教師のためのインストラクショナルデザイン	稲垣忠（情報教育）：鈴木克明	北大路書房	201502
743	9784762825736	インストラクショナルデザインの原理	ロバート・Ｍ．ガニエ：鈴木克明	北大路書房	200708
744	9784779128110	アカデミック・ダイバーシティの創造	岐阜聖徳学園大学外国語学部	彩流社	202203
745	9784906768905	教育工学への招待：教育の問題解決の方法論	赤堀侃司	ジャムハウス	202105
746	9784627855212	マルコフ決定過程：モデル化の基礎と応用事例	前田康成	森北出版	202103
747	9784771037601	大学生のキャリアデザイントレーニング：キャリア理論／自己理解／社会人基礎力	稲本恵子：田中美和	晃洋書房	202309
748	9784794607621	グローバル就活・転職術	大川彰一	ＩＢＣパブリッシング	202306
749	9784502452710	就活からの学習：大学生のキャリア探索と初期キャリア形成の実証研究	高崎美佐	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202303
750	9784874249260	『下町ロケット』で学ぶ！１２の社会人基礎力	鹿目葉子：大橋真由美	くろしお出版	202302
751	9784771036932	就活の社会学：大学生と「やりたいこと」	妹尾麻美	晃洋書房	202301
752	9784641184541	大学生として学ぶ自分らしさとキャリアデザイン	高丸理香：宇賀田栄次	有斐閣	202104
753	9784777522705	生成ＡＩの可能性と人類：人類のあり方や、仕事の仕方、生き方を、哲学的視点と	瀧本往人	工学社	202311
754	9784862465597	ＯｐｅｎＡＩ　ＧＰＴ－４／ＣｈａｔＧＰＴ／ＬａｎｇＣｈａｉｎ人工知能プログラミン	布留川英一	ボーンデジタル	202306
755	9784297136338	大規模言語モデル入門	山田育矢：鈴木正敏	技術評論社	202308
756	9784065133316	イラストで学ぶディープラーニング	山下隆義	講談社	201811
757	9784274222863	Ｐｙｔｈｏｎで機械学習入門：深層学習から敵対的生成ネットワークまで	大関真之	オーム社	201905
758	9784839677710	実践ＧＡＮ：敵対的生成ネットワークによる深層学習	ヤクブ・ランゲー：ヴラディミーア・ボック	マイナビ出版	202002
759	9784798064642	物体検出とＧＡＮ、オートエンコーダー、画像処理入門：ＰｙＴｏｒｃｈ／ＴｅｎｓｏｒＦｌｏｗ2による発展的	チーム・カルポ	秀和システム	202109
760	9784877233167	ＡＩで好きな絵をつくる！「Ｓｔａｂｌｅ　Ｄｉｆｆｕｓｉｏｎ」：魔法の言葉、呪文（プロンプト）が満載！「画像生成Ａ	生成ＡＩ研究会	興陽館	202309

761	9784865943160	ＧＣＰの教科書：機械学習ＡＰＩ、ＡｕｔｏＭＬ、ＢｉｇＱｕｅｒｙ　Ｍ．３	クラウドエース：吉積礼敏	リックテレコム	202111
762	9784794226570	数学者たちの黒板	ジェシカ・ワイン：徳田功	草思社	202307
763	9784296112609	なぜ倒産　令和・粉飾編：破綻１８社に学ぶ失敗の法則	日経トップリーダー：帝国データバンク	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202206
764	9784761276102	数学者図鑑	本丸諒	かんき出版	202205
765	9784635310406	屈辱の数学史　Ａ　ＣＯＭＥＤＹ　ＯＦ　ＭＡＴＨＳ　ＥＲＲＯＲＳ	マット・パーカー	山と渓谷社	202204
766	9784478113851	起業の失敗大全：スタートアップの成否を決める６つのパターン	トム・アイゼンマン：グロービス	ダイヤモンド社	202203
767	9784909979124	会計の日本史：その時“お金”が歴史を動かした！	大村大次郎	清談社Ｐｕｂｌｉｃｏ	202101
768	9784623090266	先人たちに学ぶマネジメント：戦国武将から近現代の企業家まで	岩井善弘：齊藤聡（税理士）	ミネルヴァ書房	202101
769	9784478108826	とてつもない数学	永野裕之	ダイヤモンド社	202006
770	9784065124970	学問の発見：数学者が語る「考えること・学ぶこと」	広中平祐	講談社	201807
771	9784326000586	テキストブック　自主創造の基礎	日本大学法学部	勁草書房	202303
772	9784641184657	ピア活動で身につけるアカデミック・スキル入門	伊藤奈賀子：河邊弘太郎	有斐閣	202303
773	9784766428308	思考を鍛えるライティング教育：書く・読む・対話する・探究する力を育む	井下千以子	慶應義塾大学出版会	202206
774	9784766426564	アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門	佐藤望：湯川武	慶應義塾大学出版会	202002
775	9784002710730	「情報自由法」で社会を変える！：情報開示最強ツールの実践ガイド	ジョン・ミッチェル：阿部小涼	岩波書店	202301
776	9784002710747	ＨＳＰブームの功罪を問う	飯村周平	岩波書店	202301
777	9784002710761	世界の片隅で日本国憲法をたぐりよせる	大門正克	岩波書店	202303
778	9784002710785	学校を改革する：学びの共同体の構想と実践	佐藤学（教育学）	岩波書店	202305
779	9784872848939	作文力アップ！伝わる文章を書く基本		ウイネット出版	202301
780	9784872849011	知っておきたい　ビジネスのマナー		ウイネット出版	202301
781	9784814400751	生成Ｄｅｅｐ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ：絵を描き、物語や音楽を作り、ゲームをプレイする	デビッド・フォスター：松田晃一	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202408
782	9784297141653	Ｃ＋＋ポケットリファレンス	高橋晶：安藤敏彦	技術評論社	202405
783	9784815623173	確かな力が身につくＣ#「超」入門	北村愛実	ＳＢクリエイティブ	202311
784	9784794426277	やさしく学べる経営学	海野博：森山一郎	創成社	202404
785	9784793128455	事業承継インデックス．令和６・７年版	山田＆パートナーズ：Ｙ＆Ｐ法律事務所	税務研究会	202410
786	9784794415905	学部生のための企業分析テキスト：業界・経営・財務分析の基本	高橋聡：福川裕徳	創成社	202403
787	9784502485015	会社法決算書の読み方・作り方：計算書類の分析と記載例	新日本有限責任監査法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202403
788	9784433700249	減価償却資産の耐用年数表．令和６年版	納税協会連合会編集部	納税協会連合会(発売：清文社)	202406
789	9784474022225	最新企業会計と法人税申告調整の実務：公認会計士による徹底解説．令和６年度版	日本公認会計士協会東京会	第一法規出版	202410
790	9784433726546	中小企業の事業承継：図解＆イラスト	牧口晴一：齋藤孝一	清文社	202405
791	9784502497315	現代税務会計論	成道秀雄：坂本雅士	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	202403
792	9784542190337	ＪＩＳハンドブック２０２４	日本規格協会	日本規格協会	202401
793	9784297143473	Ｇｏｏｇｌｅ　Ｃｌｏｕｄのしくみと技術がこれ１冊でしっかりわかる教科書	ｇｒａｓｙｓ：大沼翔	技術評論社	202409
794	9784595324802	コンピュータ通信概論	葉田善章	放送大学教育振興会(発売：ＮＨＫ出版)	202403
795	9784883355884	Ｃｒｅａｔｏｒ：ブレーン×ＯＡＣ．２０２４	日本広告制作協会	宣伝会議	202401
796	9784896411959	ディジタル世代のための情報基礎	井口磯夫：安達一寿	ムイスリ出版	201203
797	9784827114072	知的財産入門	中川勝吾	発明推進協会	202408
798	9784910136271	監査実務ハンドブック　２０２５年版		日本公認会計士協会	202411
799	9784883355945	【事例で学ぶ】成功するＤＭの極意　全日本ＤＭ大賞年鑑　２０２４		宣伝会議	202403
800	9784872849202	情報処理試験合格へのパスポート　コンピュータ概論		ウイネット出版	202412
801	9784872849219	情報処理試験合格へのパスポート　システム開発と情報技術		ウイネット出版	202412
802	9784872849226	情報処理試験合格へのパスポート　ＩＴ戦略とデータ利活用		ウイネット出版	202412
803	9784872848885	情報処理試験合格へのパスポート　アルゴリズムとデータ構造　第２版		ウイネット出版	202102
804	9784297140670	データサイエンス入門以前　データを正しく読み取るための基礎知識	阿部圭一	技術評論社	202403
805	9784872849165	手を動かしてわかるHTMLとCSSの基本		ウイネット出版	202407
806	9784815622978	生成ＡＩで世界はこう変わる	今井翔太	ＳＢクリエイティブ	202401
807	9784065332931	転移学習	松井孝太：熊谷亘	講談社	202404
808	9784814400591	ゼロから作るＤｅｅｐ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ．５	斎藤康毅	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	202404
809	9784065356357	暗号の理論と技術　量子時代のセキュリティ理解のために	國廣昇：安田雅哉	講談社	202405
810	9784761277246	頭がいい人のＣｈａｔＧＰＴ＆Ｃｏｐｉｌｏｔの使い方	橋本大也	かんき出版	202403
811	9784297140298	反実仮想機械学習～機械学習と因果推論の融合技術の理論と実践	齋藤優太	技術評論社	202404
812	9784320125797	量子情報科学入門	石坂智：小川朋宏	共立出版	202406
813	9784839984977	ＣｈａｔＧＰＴスゴイ活用術：基礎からＤＡＬＬ・Ｅ、ＧＰＴｓまで徹底解説	ＡＩ部	マイナビ出版	202404
814	9784065342909	面倒なことはＣｈａｔＧＰＴにやらせよう	カレーちゃん：からあげ	講談社	202401
815	9784297143091	深層ニューラルネットワークの高速化	佐藤竜馬	技術評論社	202409
816	9784788518544	記号創発システム論：来るべきＡＩ共生社会の「意味」理解にむけて	谷口忠大	新曜社	202409
817	9784274232381	今日から使えるファインチューニングレシピ：ＡＩ・機械学習の技術と実用をつなぐ基本テクニック	藤原弘将：吉岡琢	オーム社	202409
818	9784297143930	大規模言語モデル入門２：生成型ＬＬＭの実装と評価	山田育矢：鈴木正敏	技術評論社	202409
819	9784297144074	はじめてのＡＩリテラシー	岡嶋裕史：吉田雅裕	技術評論社	202409
820	9784297144098	ＡＩデータサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志：森倉悠介	技術評論社	202409
821	9784297144845	コード×ＡＩ　ソフトウェア開発者のための生成ＡＩ実践入門	服部佑樹	技術評論社	202410
822	9784297143510	ＣｈａｔＧＰＴのしくみと技術がこれ１冊でしっかりわかる教科書	中谷秀洋	技術評論社	202410
823	9784911256008	デジタル・デモクラシー：ビッグ・テックを包囲するグローバル市民社会	内田聖子	地平社	202404
824	9784297138257	イメージ＆クレバー方式でよくわかるかやのき先生のＩＴパスポート教室．令和０６年	栢木厚	技術評論社	202312
825	9784802614443	指標・特徴量の設計から始めるデータ可視化学入門　データを洞察につなげる技術	江崎貴裕	ソシム	202312
826	9784762033025	教養としてのデータ・情報リテラシー	黒澤和人：舩田眞里子	学文社	202404
827	9784296070695	はじめて学ぶ最新サイバーセキュリティ講義	ユージーン・Ｈ．スパフォード	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202404
828	9784065352199	ゼロから学ぶＧｉｔ／ＧｉｔＨｕｂ　現代的なソフトウェア開発のために	渡辺宙志	講談社	202404
829	9784295020110	アジャイルなプロダクトづくり：価値探索型のプロダクト開発のはじめかた	市谷聡啓	インプレス	202409
830	9784296071050	上流から下流まで生成ＡＩが変革するシステム開発	酒匂寛：羽生田栄一	日経ＢＰ(発売：日経ＢＰマーケティン)	202409
831	9784274232305	ソフトウェア品質保証の極意：経験者が語る、組織を強く進化させる勘所	日科技連ソフトウェア品質保証プロフェッシ	オーム社	202409
832	9784863544505	ＩＴアーキテクト入門	臼杵翔吾：奥山加菜子	シーアンドアール研究所	202409
833	9784815624316	新しいＬｉｎｕｘの教科書	三宅英明：大角祐介	ＳＢクリエイティブ	202404
834	9784872849226	情報処理試験合格へのパスポート　ＩＴ戦略とデータ利活用		ウイネット出版	202412
835	9784297138639	自然言語処理の教科書	小町守	技術評論社	202406
836	9784798072753	ＯＳＣクロニクル：オープンソースカンファレンス年代記	宮原徹	秀和システム	202409
837	9784802513043	Ｆｉｎａｌ　Ｃｕｔ　Ｐｒｏガイドブック	加納真	ビー・エヌ・エヌ新社	202409
838	9784297143114	Ａｐｐｌｅ　Ｖｉｓｉｏｎ　Ｐｒｏアプリ開発ガイド～ｖｉｓｉｏｎＯＳではじめる空間	服部智：小林佑樹	技術評論社	202409
839	9784297143336	Ｃ言語プログラミングの初歩の初歩	西村広光	技術評論社	202409
840	9784867751169	よくわかるＪａｖａＳｃｒｉｐｔ入門：はじめてでもつまずかないＪａｖａＳｃｒｉｐｔプログ	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア(発売：富士通エフ・オー・エ)	202409
841	9784815627034	画像生成ＡＩ　メイキングテクニックガイド	ＧｅｎｅｒａｔｉｖｅＡＩ編集部	ＳＢクリエイティブ	202409
842	9784274232428	ＡＩエディタＣｕｒｓｏｒ完全ガイド：やりたいことを伝えるだけでできる新世代プログラミン	木下雄一朗	オーム社	202409
843	9784297143534	Ｕｎｉｔｙ超入門　やさしくわかるゲーム開発	福島光輝	技術評論社	202410
844	9784326404353	ＡＩと著作権	上野達弘：奥邨弘司	勁草書房	202402
845	9784309254708	ブレイクスルー　ノーベル賞科学者カタリン・カリコ自伝	カタリン・カリコ：笹山裕子	河出書房新社	202407
846	9784535540484	データ駆動型回帰分析：計量経済学と機械学習の融合	末石直也	日本評論社	202404
847	9784489024245	Ｒによるデータ分析入門	松浦寿幸	東京図書	202404
848	9784492558355	ＴＨＥ　ＤＩＧＩＴＡＬ　ＴＲＡＮＳＦＯＲＭＡＴＩＯＮ　ＲＯＡＤＭＡＰ：絶え間なく変化する世界で成功するための新しいアプロ	デビッド・ロジャース：ＮＴＴデータ・コンサルティング・イニシア	東洋経済新報社	202407
849	9784502499616	イノベーション全史	木谷哲夫	ＢＯＷ＆ＰＡＲＴＮＥＲＳ(発売：中央経済グループパブ)	202403
850	9784817197856	情報セキュリティマネジメントシステム（ＩＳＭＳ）内部監査の実務と応用：ＩＳＯ／ＩＥＣ　２７００１	羽田卓郎：魚脇雅晴	日科技連出版社	202409
851	9784478013397	リーダーシップ論：人と組織を動かす能力	ジョン・Ｐ．コッター：ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部	ダイヤモンド社	201203
852	9784297138899	ＬＡＴＥＸ美文書作成入門	奥村晴彦：黒木裕介	技術評論社	202312
853	9784532113612	戦略的コーポレートファイナンス	中野誠	日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）	201608
854	9784130629300	実践としての統計学	佐伯胖：松原望	東京大学出版会	202408
855	9784492224175	Ｚ世代化する社会：お客様になっていく若者たち	舟津昌平	東洋経済新報社	202404
856	9784872849110	10代に知って欲しいSNS・ネットで違法行為をしないためのガイドブック		ウイネット出版	202405
857	9784750518527	「複雑系」が世界の見方を変える：関係、意識、存在の科学理論	ニール・シース：西村正人	亜紀書房	202409
858	9784767832456	科学がつきとめた疑似科学	山本輝太郎：石川幹人	エクスナレッジ	202402
859	9784758108560	理系のパラグラフライティング	高橋良子：野田直紀	羊土社	202404
860	9784478113400	Ｓｃｉｅｎｃｅ　Ｆｉｃｔｉｏｎｓ　あなたが知らない科学の真実	スチュアート・リッチー：矢羽野薫	ダイヤモンド社	202401
861	9784065295304	ネイティブが教える日本人研究者のための論文英語表現術：文法・語法・言い回し	エイドリアン・ウォールワーク：前平謙二	講談社	202401
862	9784622097075	数学思考のエッセンス：実装するための１２講	オリヴァー・ジョンソン：水谷淳	みすず書房	202406
863	9784410101748	新課程チャート式数学１＋Ａ	加藤文元	数研出版	202204
864	9784274231797	コンピュータでとく数学：データサイエンスのための統計・微分積分・線形代数	矢吹太朗	オーム社	202404
865	9784041141434	数学の世界史	加藤文元	ＫＡＤＯＫＡＷＡ	202402
866	9784000297271	数学者の思案	河東泰之	岩波書店	202406
867	9784627054813	加群とホモロジー代数入門	松田茂樹（数理科学）	森北出版	202405
868	9784627078918	数論幾何入門	三枝洋一	森北出版	202405
869	9784339014075	テンソルデータ解析の基礎と応用：テンソル表現，縮約計算，テンソル分解と低ランク近似	田中聡久：横田達也	コロナ社	202406
870	9784794226921	統計学の極意	デイヴィッド・シュピーゲルハルター：宮本寿代	草思社	202402
871	9784860647599	意味がわかる統計学：まずはこの一冊から	石井俊全	ベレ出版	202403
872	9784000058421	はじめての統計的因果推論	林岳彦	岩波書店	202402
873	9784274231230	因果推論：基礎から機械学習・時系列解析・因果探索を用いた意思	金本拓	オーム社	202403
874	9784867750810	はじめて学ぶ数理・データサイエンス・ＡＩ	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア(発売：富士通エフ・オー・エ)	202312
875	9784627097032	ベイズデータ解析	アンドリュー・ゲルマン：ジョン・Ｂ．カーリン	森北出版	202406
876	9784534061218	この１冊ですべてわかる　データサイエンスの基本	滋賀大学データサイエンス学部：宮本さおり	日本実業出版社	202409
877	9784065369821	Ｐｙｔｈｏｎではじめる時系列分析入門	馬場真哉	講談社	202409
878	9784297141288	Ｊｕｌｉａではじめる数値計算入門	永井佑紀	技術評論社	202405
879	9784781916057	量子多体物理と人工ニューラルネットワーク	野村悠祐：吉岡信行	サイエンス社	202406
880	9784320036314	解析力学：基礎の基礎から発展的なトピックまで	渡辺悠樹	共立出版	202407
881	9784106110245	メンタル脳	アンデシュ・ハンセン：マッツ・ヴェンブラード	新潮社	202401
882	9784779517792	入門科学技術と社会	標葉隆馬：見上公一	ナカニシヤ出版	202405
883	9784807913480	マテリアル×機械学習×ロボット：進化するマテリアルズ・インフォマティクス	一杉太郎	東京化学同人	202403
884	9784800713360	ＦｒｅｅＣＡＤ　モデリングマスター	原田将孝	ソーテック社	202409
885	9784872849196	プレゼンテーション力アップ！伝わる構成 資料 話し方の基本		ウイネット出版	202411
886	9784339029475	マルチメディアシステム概論：基礎技術から実用システム，ＶＲ・ＸＲ　まで	大賀寿郎：鈴木陽一	コロナ社	202410
887	9784815618469	１冊ですべて身につくＨＴＭＬ＆ＣＳＳとＷｅｂデザイン入門講座	Ｍａｎａ	ＳＢクリエイティブ	202403

888	9784295206736	ＨＴＭＬ＋ＣＳＳコーディングの強化書：プロの「引き出し」を増やす	草野あけみ	エムディエヌコーポレーション(発売：インプレス)	202409
889	9784295206774	初心者からちゃんとしたプロになる　ＰＨＰ基礎入門	柏岡秀男	エムディエヌコーポレーション(発売：インプレス)	202409
890	9784295020103	Ａｚｕｒｅネットワーク設計・構築入門：基礎知識から利用シナリオ、設計・運用ベストプラクテ	山本学：山田浩也	インプレス	202409
891	9784798073194	ＣｈａｔＧＰＴで学ぶＮｏｄｅ．ｊｓ＆Ｗｅｂアプリ開発	掌田津耶乃	秀和システム	202409
892	9784774137803	使いこなすシーケンス制御：現場の即戦力	熊谷英樹	技術評論社	200904
893	9784297143954	ＲＯＳ２ではじめよう次世代ロボットプログラミング：ロボットアプリケーション開発のための基礎から実践ま	近藤豊	技術評論社	202410
894	9784339009927	人工知能チップ回路入門	河原尊之	コロナ社	202410
895	9784898319741	新半導体戦争	平井宏治	ワック	202403
896	9784484221113	ＴＳＭＣ　世界を動かすヒミツ	林宏文：野嶋剛	ＣＣＣメディアハウス	202403
897	9784480018069	日本半導体物語：パイオニアの証言	牧本次生	筑摩書房	202409
898	9784339026917	ヘッドマウントディスプレイ	日本バーチャルリアリティ学会：清川清	コロナ社	202410
899	9784750518336	スペシャルティコーヒーの経済学	カール・ウィンホールド：古屋美登里	亜紀書房	202404
900	9784798188218	ゲームデータアナリティクス　よりよい開発・運営に向けたデータ分析の教科書	ＴｈｉｎｋｉｎｇＤａｔａ：ＴｈｉｎｋｉｎｇＤａｔａＪａｐａｎ	翔泳社	202409
901	9784799330838	「好き」を言語化する技術　推しの素晴らしさを語りたいのに「やばい！」しかでてこな	三宅香帆	ディスカヴァー・トゥエンティワン	202407
902	9784480860965	センス・オブ・ワンダー	レイチェル・カーソン：森田真生	筑摩書房	202403
903	9784041041420	確率思考の戦略論 ＵＳＪでも実証された数学マーケティングの力	森岡毅：今西聖貴	ＫＡＤＯＫＡＷＡ	201606
904	9784872849233	Photoshopクイックマスター　2025対応		ウイネット出版	202502
905	9784872848953	Illustratorクイックマスター		ウイネット出版	202301

和書（電子）

NO	ISBN（13桁）	商品コード	書名	著者名	出版社	出版年月
1	9784422400822	1036942087	情報デザインとコミュニケーション	土屋誠司：松本和幸	創元社	202307
2	9784320123595	1034605719	情報とデザイン	久野靖：小池星多	共立出版	202011
3	9784254122534	1033006462	現代社会と情報システム	室蘭工業大学現代情報学研究会	朝倉書店	202004
4	9784274225956	1032583928	一般情報教育	情報処理学会一般情報教育委員会：稲垣知宏	オーム社	202009
5	9784326603602	1037313215	未来社会と「意味」の境界：記号創発システム論／ネオ・サイバネティクス／プラグ	谷口忠大：河島茂生	勁草書房	202308
6	9784295016557	1036437855	実践ＸＡＩ［説明可能なＡＩ］：機械学習の予測を説明するためのＰｙｔｈｏｎコーディ	プラディープタ・ミシュラ：クイープ	インプレス	202306
7	9784274230639	1036391802	Ｒによるやさしいテキストアナリティクス	小林雄一郎	オーム社	202306
8	9784274230509	1036391804	基礎から学ぶ量子コンピューティング：イジングマシンのしくみを中心に	工藤和恵	オーム社	202306
9	9784274230363	1036220898	メタバースの教科書：原理・基礎技術から産業応用まで	雨宮智浩	オーム社	202304
10	9784295015956	1035927299	Ｔｈｅ　Ｋａｇｇｌｅ　Ｂｏｏｋ：データ分析競技　実践ガイド＆精鋭３１人インタビュ	コンラッド・バナシェヴィッチ：ルカ・マサロン	インプレス	202302
11	9784295016076	1036104408	いちばんやさしいＰｙｔｈｏｎ機械学習の教本：人気講師が教える業務で役立つ実践ノウハウ	鈴木たかのり：降旗洋行	インプレス	202302
12	9784274230103	1035923290	Ｏｐｔｕｎａによるブラックボックス最適化	佐野正太郎：秋葉拓哉	オーム社	202302
13	9784839982324	1037002067	ＪＡＸ／Ｆｌａｘで学ぶディープラーニングの仕組み：新しいライブラリーと畳み込みニューラルネットワーク	中井悦司	マイナビ出版	202302
14	9784764906570	1035927311	対話システムの作り方	東中竜一郎	近代科学社	202302
15	9784798177663	1036530962	メタバースワールド作成入門　ｃｌｕｓｔｅｒで作る仮想世界・イベント空間	ｖｉｎｓ	翔泳社	202301
16	9784295015581	1035758096	Ｐｙｔｈｏｎ機械学習プログラミング　ＰｙＴｏｒｃｈ＆ｓｃｉｋｉｔ－ｌｅａｒｎ編	セバスチャン・ラシュカ：ユーシー・ヘイデン・リュー	インプレス	202212
17	9784320124967	1035923243	機械学習：ベイズと最適化の観点から	セルジオス・テオドリディス：岩野和生	共立出版	202212
18	9784274228889	1035758145	深層学習	柳井啓司：中鹿亘	オーム社	202211
19	9784798173405	1036530991	現場で使える！機械学習システム構築実践ガイド：デザインパターンを利用した最適な設計・構築・運用手	澁井雄介	翔泳社	202211
20	9784798174877	1036207442	図解まるわかり　メタバースのしくみ	波多間俊之	翔泳社	202209
21	9784274229008	1035182764	自然言語処理の基礎	岡〓直観：荒瀬由紀	オーム社	202208
22	9784764906174	1035692947	データアナリティクスのための機械学習入門：アルゴリズム・実例・ケーススタディ	Ｊ．Ｄ．ケラハー：Ｂ．マクナミー	近代科学社	202208
23	9784274228872	1035110568	グラフニューラルネットワーク：ＰｙＴｏｒｃｈによる実装	村田剛志	オーム社	202207
24	9784798171494	1035889691	Ｐｙｔｈｏｎで動かして学ぶ！あたらしい機械学習の教科書	伊藤真（情報科学）	翔泳社	202207
25	9784274228810	1034871932	入門ディープラーニング：ＮｕｍＰｙとＫｅｒａｓを使ったＡＩプログラミング	藤野巌	オーム社	202206
26	9784295013709	1034605732	ＡＩ技術史　考える機械への道とディープラーニング	マイケル・ウルドリッジ：神林靖	インプレス	202203
27	9784764906365	1035107919	Ｐｙｔｈｏｎでプログラミングして理解する機械学習アルゴリズム	神野健哉	近代科学社	202202
28	9784320125124	1035923247	機械学習のためのカーネル１００問ｗｉｔｈ　Ｒ	鈴木譲	共立出版	202111
29	9784295012276	1033657020	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ音声合成	山本龍一：高道慎之介	インプレス	202108
30	9784320125179	1034689685	機械学習アルゴリズム	鈴木顕	共立出版	202106
31	9784295011385	1033350721	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ音声認識	高島遼一	インプレス	202105
32	9784254122619	1034437439	やってみようテキストマイニング：自由回答アンケートの分析に挑戦！	牛澤賢二	朝倉書店	202105
33	9784295011132	1032952870	ＰｙＴｏｒｃｈ自然言語処理プログラミング：ｗｏｒｄ２ｖｅｃ／ＬＳＴＭ／ｓｅｑ２ｓｅｑ／ＢＥＲ	新納浩幸	インプレス	202103
34	9784320124707	1035502788	数理情報学入門：基礎知識からレポート作成まで	須藤秀紹：〓岡旭	共立出版	202103
35	9784254122602	1033756723	ディープラーニングｗｉｔｈ　Ｐｙｔｈｏｎ：ビジネスマンがきちんと学ぶ	朝野熙彦	朝倉書店	202103
36	9784320125094	1034769486	スパース推定１００問ｗｉｔｈ　Ｐｙｔｈｏｎ	鈴木譲	共立出版	202101
37	9784798164953	1034632378	あたらしい脳科学と人工知能の教科書	我妻幸長	翔泳社	202101
38	9784295010623	1032583919	ディープラーニング実装入門：ＰｙＴｏｒｃｈによる画像・自然言語処理	吉崎亮介：祖父江誠人	インプレス	202012
39	9784295010074	1032800424	Ｐｙｔｈｏｎ機械学習プログラミング：達人データサイエンティストによる理論と実践	セバスチャン・ラシュカ：ヴァヒド・ミルジャリリ	インプレス	202010
40	9784339029116	1034044860	作って学ぶニューラルネットワーク：機械学習の基礎から追加学習まで	山内康一郎	コロナ社	202010
41	9784320125087	1034437422	スパース推定１００問ｗｉｔｈ　Ｒ	鈴木譲	共立出版	202010
42	9784295009849	1031983431	Ｐｙｔｈｏｎで学ぶ音源分離	戸上真人	インプレス	202008
43	9784422400495	1035700936	はじめてのＡＩ	土屋誠司	創元社	202008
44	9784274225321	1031670306	人間知能と人工知能：あるＡＩ研究者の知能論	大須賀節雄	オーム社	202004
45	9784320125070	1033756744	統計的機械学習の数理１００問　ｗｉｔｈ　Ｐｙｔｈｏｎ	鈴木譲	共立出版	202004
46	9784320125063	1033585713	統計的機械学習の数理１００問ｗｉｔｈ　Ｒ	鈴木譲	共立出版	202004
47	9784839966607	1035689013	機械学習・深層学習による自然言語処理入門：ｓｃｉｋｉｔ－ｌｅａｒｎとＴｅｎｓｏｒＦｌｏｗを使	中山光樹	マイナビ出版	202002
48	9784274224003	1032310355	ＡＰＩではじめるディープラーニング・アプリケーション開発：Ｇｏｏｇｌｅ　Ｃｌｏｕｄ　ＡＰＩ活用入門	キャッツ：渡辺政彦	オーム社	202001
49	9784798174709	1035889685	図解まるわかりＡＷＳのしくみ	西村泰洋	翔泳社	202205
50	9784422400679	1035941313	データサイエンス	生田目崇	創元社	202211
51	9784274229145	1035502780	データサイエンスの基礎	田栗正隆：汪金芳	オーム社	202209
52	9784339029284	1036104440	基礎から学ぶ推薦システム：情報技術で嗜好を予測する	奥健太	コロナ社	202207
53	9784274228797	1034871930	マスタリングＴＣＰ／ＩＰ　情報セキュリティ編	齋藤孝道	オーム社	202206
54	9784274228162	1034511279	情報セキュリティ	宮地充子：菊池浩明	オーム社	202202
55	9784274227981	1034437417	入門情報処理：データサイエンス、ＡＩを学ぶための基礎	寺沢幹雄：福田收	オーム社	202201
56	9784339029178	1034118520	入門サイバーセキュリティ理論と実験：暗号技術・ネットワークセキュリティ・ブロックチェー	面和成	コロナ社	202103
57	9784798160672	1034632309	現場で使える！ｐａｎｄａｓデータ前処理入門：機械学習・データサイエンスで役立つ前処理手法	ロンバート	翔泳社	202004
58	9784274228179	1034511280	情報システムの分析と設計	伊藤潔：明神知	オーム社	202202
59	9784295010081	1032800425	オブジェクト指向の考え方	マット・ワイスフェルド：神林靖	インプレス	202010
60	9784320125025	1036391768	ディープラーニングによる自然言語処理	山田育矢：柴田知秀	共立出版	202305
61	9784295015895	1035927298	Ｄｏｃｋｅｒ実践ガイド：コンテナ環境の構築・運用・活用	古賀政純	インプレス	202302
62	9784274229152	1035502781	オペレーティングシステム	安倍広多：石橋勇人	オーム社	202209
63	9784295015031	1034871926	エンジニアなら知っておきたいｍａｃＯＳ環境のキホンコマンド・Ｄｏｃｋｅｒ・サーバ	大津真	インプレス	202207
64	9784798170855	1035179301	動かして学ぶ！Ｇｉｔ入門：バージョン管理の基本をしっかり習得	冨永和人	翔泳社	202111
65	9784764906297	1032952877	テキスト処理の要素技術	山本和英	近代科学社	202103
66	9784295009795	1031983428	Ｋｕｂｅｒｎｅｔｅｓ完全ガイド：Ｐｒｏｄｕｃｔｉｏｎ－Ｇｒａｄｅ　Ｃｏｎｔａｉｎｅ	青山真也	インプレス	202008
67	9784764906105	1031533292	情報抽出・固有表現抽出のための基礎知識	岩倉友哉：関根聡	近代科学社	202003
68	9784798142685	1034632308	現場で使える！Ｐｙｔｈｏｎ自然言語処理入門	赤石雅典：江澤美保	翔泳社	202001
69	9784295017875	1037377990	インタプリタの作り方－言語設計／開発の基本と２つの方式による実装－	ＲｏｂｅｒｔＮｙｓｔｒｏｍ：吉川邦夫	インプレス	202310
70	9784295017691	1037377977	ｐａｎｄａｓライブラリ活用入門：データクリーニング／前処理など一連の分析プロセスを	ダニエル・Ｙ．チェン：吉川邦夫	インプレス	202309
71	9784295017653	1037099454	Ｐｙｔｈｏｎではじめるゲーム制作超入門　知識ゼロからのプログラミング＆アルゴリズ	廣瀬豪	インプレス	202309
72	9784295017745	1037377988	Ｐｙｔｈｏｎデータ分析実践ハンドブック　実務で使えるデータ加工のテクニック	寺田学：神沢雄大	インプレス	202309
73	9784295017530	1037099452	Ｇｏ言語１００Ｔｉｐｓ：ありがちなミスを把握し、実装を最適化する	テイヴァ・ハルサニー：柴田芳樹	インプレス	202308
74	9784422400846	1036942089	アルゴリズムとデータサイエンス	土屋誠司：鈴木基之	創元社	202308
75	9784839981914	1037002064	実践力をアップするＰｙｔｈｏｎによるアルゴリズムの教科書	クジラ飛行机	マイナビ出版	202306
76	9784254122831	1036391784	Ｐｙｔｈｏｎによる実務で役立つデータサイエンス練習問題２００＋．３	久保幹雄	朝倉書店	202305
77	9784839982553	1037002062	Ｃプログラミング入門以前	村山公保	マイナビ出版	202302
78	9784764906464	1035927309	Ｐｙｔｈｏｎ言語によるプログラミングイントロダクション：計算モデリングとデータサイエンスの応用とともに	ジョン・Ｖ．グッターグ：久保幹雄	近代科学社	202301
79	9784798174990	1036530958	Ｐｙｔｈｏｎ２年生デスクトップアプリ開発のしくみ：体験してわかる！会話でまなべる！	森巧尚	翔泳社	202212
80	9784274229480	1035758150	Ｊａｖａ　＆　Ｐｙｔｈｏｎ　最適化・制約充足の問題解法	森澤利浩	オーム社	202211
81	9784295015291	1035301963	Ｒｕｓｔプログラミング完全ガイド　他言語との比較で違いが分かる！	カルロ・ミラネージ：吉川邦夫	インプレス	202210
82	9784839977092	1035834365	アルゴリズムとプログラミングの図鑑	森巧尚：まつむらまきお	マイナビ出版	202210
83	9784339027921	1037099446	ＣＧ数理の基礎	柿本正憲	コロナ社	202209
84	9784764906426	1035692948	Ｐｙｔｈｏｎプログラミング ＡＢＣ：正確に・美しく・簡潔に！	寺下陽一：松尾正信	近代科学社	202209
85	9784798174655	1036207445	Ｃ言語：ゼロからはじめるプログラミング	三谷純	翔泳社	202209
86	9784295015116	1035182749	スラスラ読めるＪａｖａＳｃｒｉｐｔふりがなプログラミング	リブロワークス：及川卓也	インプレス	202208
87	9784798172941	1035889697	スラスラわかるＣ＋＋：Ｂｅｇｉｎｎｅｒ’ｓ　Ｂｅｓｔ　Ｇｕｉｄｅ　ｔｏ	矢沢久雄	翔泳社	202207
88	9784295013952	1034689695	基礎Ｃ言語	アンク	インプレス	202205
89	9784295013051	1034328790	いちばんやさしいプログラミングの教本：人気講師が教えるすべての言語に共通する基礎知識	廣瀬豪	インプレス	202112
90	9784295012634	1034743913	プロフェッショナルＰｙｔｈｏｎソフトウェアデザインの原則と実践	デーン・ヒラード：武舎広幸	インプレス	202111
91	9784295012672	1034402129	プログラマーなら知っておきたい４０のアルゴリズム：定番・最新の概念とＰｙｔｈｏｎの活用	イムラン・アフマド：クイープ	インプレス	202110
92	9784798168845	1034702204	独習Ｒｕｂｙ	山田祥寛	翔泳社	202109
93	9784295011743	1033585746	スラスラ読めるＰｙｔｈｏｎふりがなプログラミング	ビープラウド：リブロワークス	インプレス	202107
94	9784798169460	1034632304	Ｐｙｔｈｏｎゼロからはじめるプログラミング	三谷純	翔泳社	202105
95	9784295018452	1038352279	スッキリわかるＪａｖａ入門 実践編	中山清喬：フレアリンク	インプレス	202403
96	9784295010777	1032798125	Ｅｌｉｘｉｒ実践ガイド	黒田努	インプレス	202102
97	9784798167077	1034632317	Ｊａｖａ第３版実践編アプリケーション作りの基本	三谷純	翔泳社	202101
98	9784798167060	1034632316	Ｊａｖａ第３版入門編ゼロからはじめるプログラミング	三谷純	翔泳社	202101
99	9784295010562	1032583918	ＪａｖａＳｃｒｉｐｔモダンプログラミング完全ガイド：堅牢なコードを効率的に開発できる！	ケイ・Ｓ．ホーストマン：吉川邦夫	インプレス	202012
100	9784274225888	1032583930	Ｐｙｔｈｏｎによるアルゴリズム入門	酒井和哉	オーム社	202009
101	9784798163970	1034632283	データ分析者のためのＰｙｔｈｏｎデータビジュアライゼーション入門：コードと連動してわかる可視化手法	小久保奈都弥	翔泳社	202008
102	9784798163284	1034632293	図解まるわかりプログラミングのしくみ	増井敏克	翔泳社	202007
103	9784339029079	1033006474	Ｐｙｔｈｏｎによるアルゴリズムとデータ構造の基礎	永田武	コロナ社	202006
104	9784492503423	1036010334	Ｍ＆Ａ経営論：ビジネスモデル革新の成功法則	宮原博昭	東洋経済新報社	202303
105	9784320124608	1034234171	英語と日本語で学ぶ知覚情報科学	ルジェロ・ミケレット：戸坂亜希	共立出版	202005
106	9784621305966	1032952919	計算社会科学入門	鳥海不二夫：石井晃	丸善出版	202101